格闘技世界恐慌! ついにきたUFCクライシス!!

kamipro
紙のプロレス

MMA & PRO-WRE ZINE

enterbrain MOOK

2009

132

特別定価940yen



元世界最高峰の国はどこへ向かうのか?

日本ってなんだっけ?

独占対談! 神の子がベガスに降臨!!

山本"KID"徳郁×ヴァンダレイ・シウバ

60億分の1と煽りVアーティストが再会!

エメリヤーエンコ・ヒョードル×佐藤大輔

アメリカ修行の全貌を独占激白!!

石井 慧

特集 **世界の中の日本**

アメリカで一番有名な日本人格闘家は誰だ?
ダナ・ホワイト「日本はすでに死んでいる」
青木真也が観たGSPvsBJペン
東洋の神秘 足関とは何か?
徹底特集 日本はステロイド天国なのか?
マーティ・フリードマンのJ-POP的日米比較論
谷川貞治の「KIDくん、アメリカに行かないで!」
DREAMvs『戦極』フェザー級祭り2009
エド・フィッシュマンが語る日本再生の行方

kamipro

表紙写真／kamipro

特集 日本ってなんだっけ？
我々は世界の中で生き残れるのか!?

What is JAPAN?

FEATHER WEIGHT GP


kamipro Special

Columns



この中に五味隆典さんがいます。
さあ、みんなで探しましょう〜!





日本は踊れる国なのか？

“東洋の神秘”足関から、薬物天国の実態まで！
元・世界最高峰の格闘大国を考えよう!!

日本大好き超愛しているキミも！口を開けば「北米！」を連呼するガチバカなアナタも聞いてくださ〜い。今回の特集テーマは「世界の中の日本」なんです。かつて〝格闘技世界最高峰〟としての存在感を誇った日本はこの先、どこへ向かうのか？　ということなんですが、特集をお読みになる前に、まず前提としてどなた様もアタマの片隅に置いてほしいのは、日米の差というものはそのまま〝興行力〟の差につながっている、ということなんですね。

PRIDEのフジテレビショック以前に、UFCで実現したマット・ヒューズvsホイス・グレイシー戦の機会から本誌は指摘してきましたが、アメリカとの市場規模は10倍以上の開きがあります。太刀打ちできねぇんですよ、実際！

UFCはとくに世間を意識する必要のないメガインディー的な存在であって、どうしても世間を標的するか、もしくは大きなスポンサーを必要とする日本の格闘技イベントとは、当然やり方が異なってくる。ですから、アメリカの方法論をそのまま採り入れることは難しいし、現実的ではない。いやいや、それはただ即効性がないだけかもしれないなあ……。結局、そこはバランスがとわれてくるわけだが、まぁバランスを取って考えたところで、とにかく太刀打ちできねぇんですよ、UFCには!!

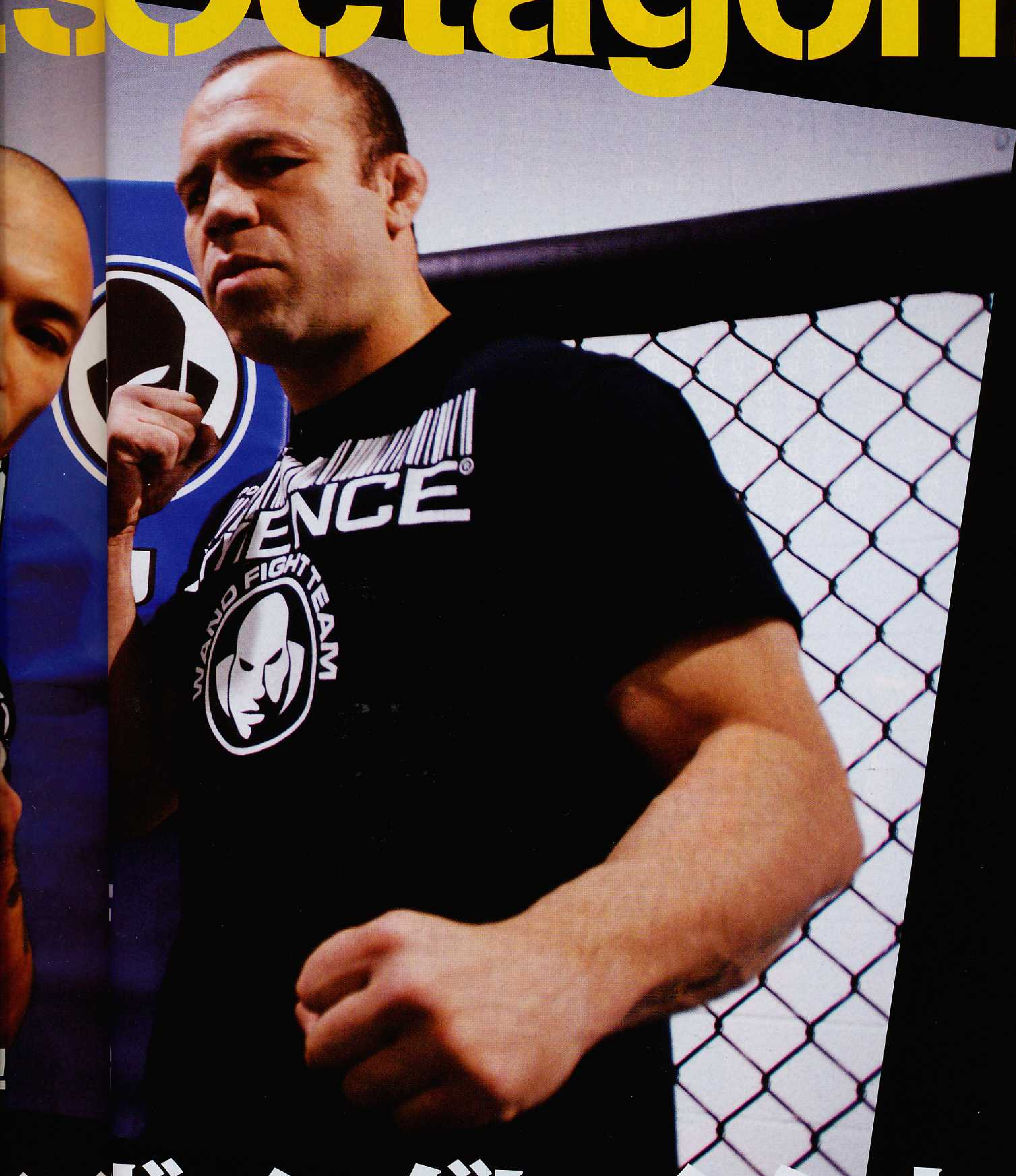
――と、投げやりになっているところに、そのUFCがとんだ落とし穴にはまってしまう緊急事態が発生！　詳しくは98ページからのレポートを読んでいただきたいのですが、サムプライムローンから始まった世界同時金融不安は、深刻にアメリカという国を蝕んでいる。フェザー級GPの爆発でも、高視聴率の獲得でもなく、絶好の場面転換の機会は〝内〟ではなく〝外〟からやってきたということです。

――アメリカ、ロシア、韓国、イギリス。ここ数年の世界的なMMAバブルによって、興行的にも文化的にも日本の格闘技界は大きな傷痕をつけられた。いろいろと翻弄されてきました。いや、それは過去形ではなく、仮にUFCの勢いが衰えたところで、それは10倍の差が9倍になるだけかもしれないし、〝第2のUFC〟が現われてもなんの不思議もない。この機に乗じてアメリカに取って変わる国の最右翼は、残念なことに、日本ではないことも肌で感じてしまっている。はたして〝世界最高峰〟と呼ばれた国はどこへ向かうのか？

というわけで、迫りくるマット界再編を前に、世界における日本の存在、格闘技文化をじっくりと考えてみよう！　というのが特集の趣旨になります。いったい日本ってなんだっけ？



sOctagon!!



×ヴァンダレイ・シウバ

KID meets

独占密着! 山本"KID"徳郁in USA



世界の中の日本を考える
日本ってなんだっけ

「リングもオクタゴンも俺たちがトップを獲る!」

KIDとシウバの夢の対談が実現! 1.24『アフリクション』、1.25WEC、1.34『UFC94』と、アメリカで3大会を観戦したKIDが、ラスベガスにあるシウバの新しいジムを訪れた! MMA界のスーパースター二人は、はたして何を語ったのか? そしてこれはKIDのアメリカ進出の布石なのか!? 夢のスペシャル対談をたっぷりとお届けします!

聞き手&撮影／堀江ガンツ　通訳／石井史彦

"神の子"がシウバの新設ジムを訪れた!

独占スペシャル対談

山本"KID"徳郁×ヴ

今回『アフリクション』、WEC、そしてUFCと3大会観戦のため、アメリカを訪れたKID。本誌は『アフリクション』取材の際、会場でKIDと会い、ラスベガスに移動後、インタビューに応じてくれるよう申請すると、快く応じてくれた。

そして1・31『UFC94』の2日前にラスベガスで落ち合うと、KIDはどこかのジムでトレーニングをしたいという。ちょうど本誌は、新しいジムを作ったばかりのヴァンダレイ・シウバにも取材を申請していたので、シウバのマネージャーに「KID選手を連れていっていいですか？シウバさんのジムでトレーニングをさせていただきたいのですが」と聞くと、こちらも快くOKの返事。こうして急きょ、山本〝KID〟徳郁とヴァンダレイ・シウバという夢の顔合わせが実現したのだ！

ラスベガスの中心街からほど近く、真新しい「WANDファイトチームジム」のドアを開けると、シウバが満面の笑みで我々を迎え入れてくれた。そして早速、KIDとシウバは英語で話し始めたのだ。

KID　ナイストゥーミチュー。突然、来ちゃってごめんなさい。

シウバ　ウェルカム、ウェルカム！　KIDが来るって連絡があってから、会えるのを楽しみにしてたんだ。今回はラスベガスにUFCを観に来たのかい？

KID　イエス！

シウバ　今回はグッドマッチだからね。みんながGSP vs BJペンの話ばかりしてるよ。KIDはどっちが勝つと思う？

KID　やっぱ、BJ！　とにかく俺、BJが好きだから。きっと勝つ。

シウバ　俺もBJは好きだよ。とてもいいヤツだ。GSPも素晴らしいファイターだから、試合を観るのが楽しみだ。

KID　俺も超楽しみ。ところで、外に停めてある車、あのアストロマーチンってヴァンダレイの？

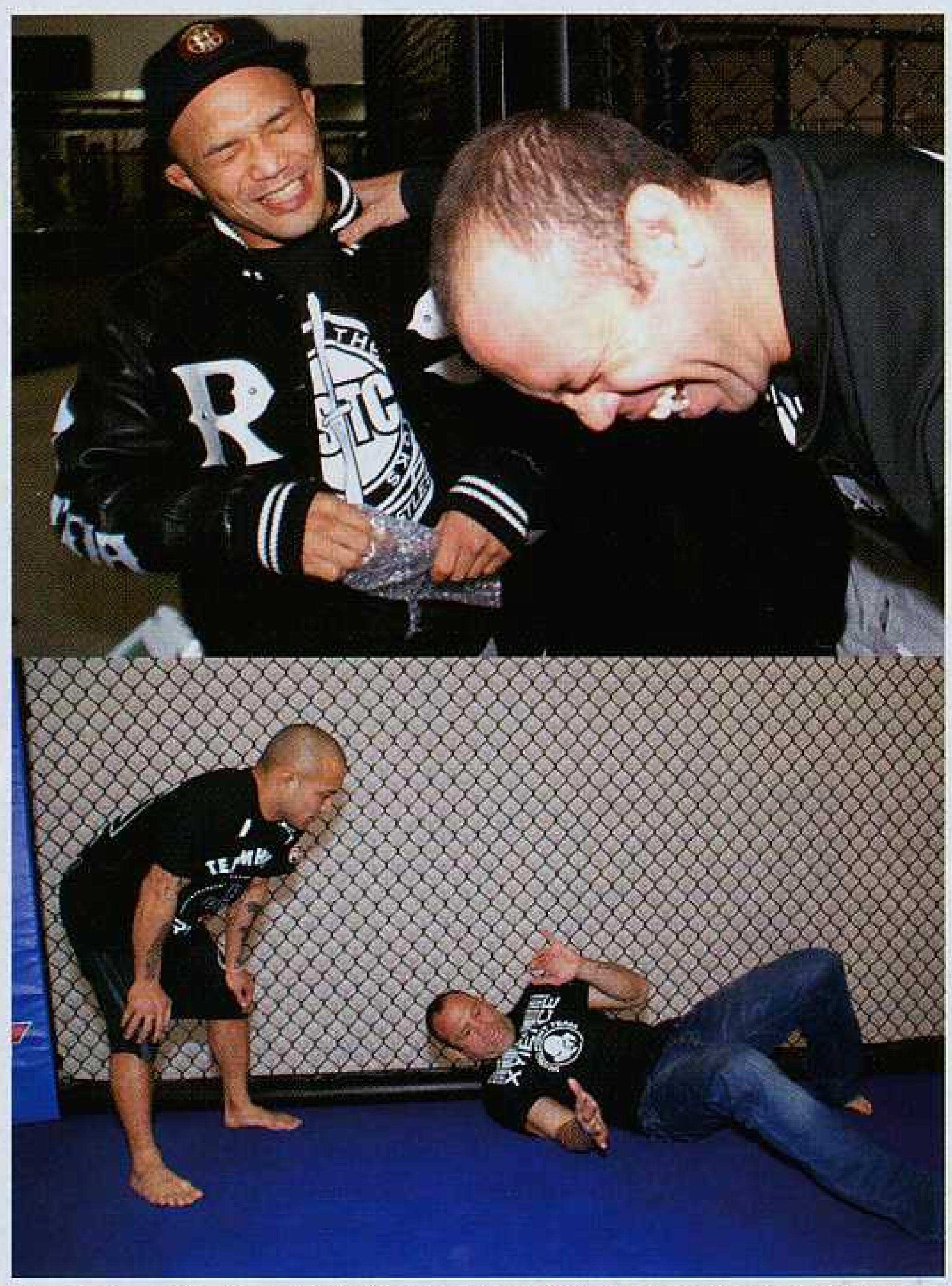
シウバ　イエス、イエス。

KID　お〜、いいね！　アイライク・ユア・カー。

シウバ　イヤァ！（笑）。

KID　ノット・ソーメニーピーポー・ハブ。なかなか、あれ乗ってるヤツいない。

シウバ　あの車はナイスだよ。ワイフからのプレゼントなんだよ。



トップファイター同士、通じ合うものがあるのか、いきなり昔からの親友同士のように打ち解けたKIDとシウバ。撮影のためにオクタゴンに上がると、シウバは即席でケージを使ってスタンドに戻る方法までKIDに伝授していた。

KID　シー・ハブ・ア・グッドテイスト。趣味いいね（笑）。

シウバ　アリガト（笑）。彼女は女医でハイクラスな人間だからね。昔、俺は貧乏だっけど、いまは俺もハイクラスになってきてるから、あの車に乗っても似合うんじゃないかな（笑）。

KID　ジムも凄くいいね。広くてデカいケージもあって、ちょっとビックリ。

シウバ　アリガト。あのケージはUFCで実際に使っているオフィシャルサイズのオクタゴンで、ラスベガスのジムでは、ここにしかないんだ。

アメリカのファンはKIDみたいなスタイルが大好きなんだよ（シウバ）

KID　ソーナイス！

シウバ　まだ、正式にオープンしてないから、少しガランとしてるけど、空いているスペースには最新のマシンが入る予定で、下に敷いてあるマットもスペシャルなんだよ。

KID　ここで練習したいね！

シウバ　ウェルカム、ウェウカム。アメリカに来たときは、いつでも使ってくれたらいい。普段は日本で練習して、ヒジやケージの練習をしたいときに来てもいいし。

KID　うん。ジャパンはノーエルボーで慣れてないから。俺もやんなきゃいけない。

シウバ　確かに日本のルールではエルボーはないから、最初は戸惑うかもしれないけど、ちゃんと練習すれば問題ないよ。

KID　ヴァンダレイはどこでヒジのトレーニングしたの？

シウバ　俺はブラジルでムエタイをやっていたときから、練習してたんだ。シュートボクセはもともとムエタイのジムだからね。だから、PRIDEでは禁止だったから使わなかったけど、知らない技術じゃないから、すぐに順応できたよ。それに、UFCではクリンチや首相撲の技術も重要だから、ムエタイのトレーニングが役に立ってるね。

KID　俺のジムにいるストライキングコーチもムエタイのコーチだから。

シウバ　それはいいね！　ムエタイは重要だよ。

KID　マイコーチも凄くいいコーチだから。俺もヒジいけちゃう、絶対。いま、ここはティーチャーは何人いるの？

シウバ　たぶん4人になると思う。柔術、レスリング、ムエタイ、MMAのコーチだね。すべてMMAに関係するコーチを揃えるんだ。いいコーチを選ぶのは難しいから、いま最終選考してるところなんだ。

KID　俺のジムにもブラジリアンのコーチいるよ。

シウバ　柔術？

KID　柔術とMMA、両方。ヒーイズブラックベルト、フロム・マナウスだから。

シウバ　名前は？

KID　ベッジーニョ。彼は24歳でファイターもやってるコーチ。

シウバ　グッドだね。MMAのコーチを探すのは凄く難しいんだ。柔術とムエタイ、それからトランジション（その移行）を知らなきゃいけないからね。KIDはいいコーチに出会えてラッキーだな。

KID　確かにグッドガイ。彼はノーギ（衣なしの柔術）も知ってるんだよ。

シウバ　ノーギとギの両方を知ってるの

シウバ　俺もBJは好きだよ。とてもいいヤツだ。GSPも素晴らしいファイタ

いケージもあって、ちょっとビックリ。

シウバ　アリガト。あのケージはUFC

らね。だから、PRIDEでは禁止だったから使わなかったけど、知らない技術じゃ

（衣なしの柔術）も知ってるんだよ。

シウバ　ノーギとギの両方を知ってるの

KID meets Octagon!!

135ポンドに落とせば、シウバみたいにガンガンいける（KID）

は大切だよ。ギを着るともっとテクニカルなことを覚えられるからね。そういえば来週、デミアン・マイアがここに来てトレーニングするんだよ。

KID　そうなんだ。彼の柔術はホントにグッドだよね。そしてビッグガイだね。

シウバ　俺と同じぐらいのサイズだよ。

KID　俺にとっては誰でもビッグだから。エブリバディ、ビッグだから（笑）。

シウバ　ワッハハッハ、そのとおりだ（笑）。俺はマイアやホナウド・ジャカレイと一緒にトレーニングしているんだけど、彼らの柔術は本当に素晴らしいよ。とにかくテクニカルで動き回って、そのムーブは信じられないほどだよ。最近は柔術のレベルがどんどん上がっているよ。

KID　ブラジルの柔術ガイはみんなアメリカに来ちゃってるよね。アロットオブマネーだからかな（笑）。

シウバ　そうだろうね（笑）。ところで、ケージの練習は始めてるのかい？

KID　イエス！　俺のジムにもケージがあるから。ジャパンで買うと高くて大きなケージは入れられないけど（笑）。

シウバ　でも、ケージを使ってスタンドに戻る練習をすればいいんだから、それで充分だよ。

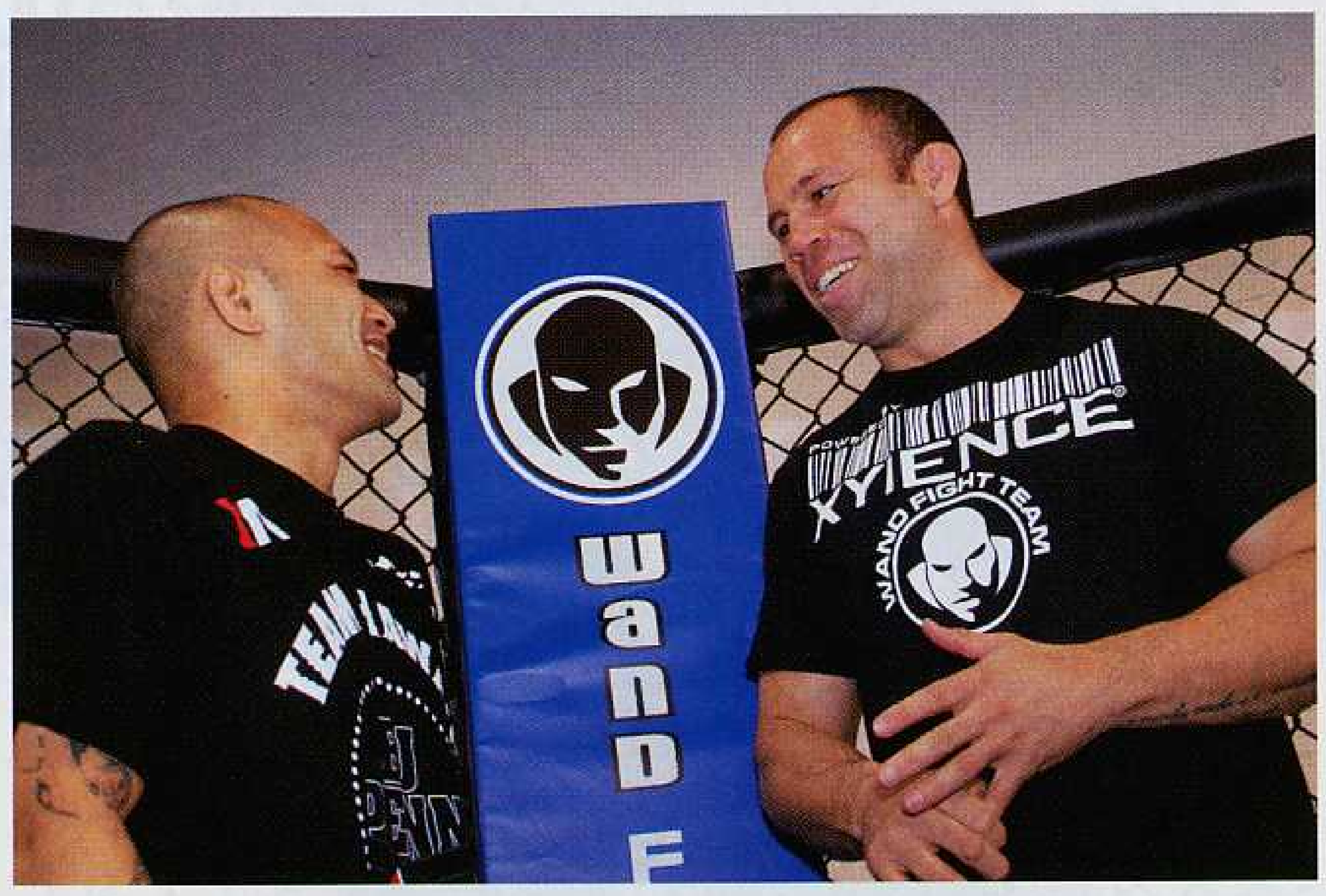
KID　いま自分のジムでやってる練習は、まだウォームアップだから。いま日本で普段はノーエルボー、ノーケージで試合してるから。

シウバ　アメリカで試合する予定は？　もしあるなら、1週間でも2週間でも好きなだけ、ここで練習すればいいよ。

KID　サンキュー。じゃあ、これからフルサイズのオクタゴンを使って、少しトレーニングしていい？

シウバ　もちろんだよ！

KID　じゃあ、ちょっと着替えてくる。



　このように、いきなりシウバと打ち解けたKID。トレーニングウェアに着替えると、同行した朴光哲とともに、グローブを着けてフルサイズのオクタゴンでスパーリング開始。その練習は30分近くにも及び、「KID復活近し」をおおいに感じさせるものだった。そしてトレーニング終了後、あらためてヴァンダレイとの対談を再開してもらった。

――KID選手、初めてUFCオフィシャルサイズのオクタゴンで練習してみてどうでした？

KID　超フレッシュ。気持ちよかった。またここに来て練習したい。

シウバ　KIDはアメリカで試合するとしたら、WECだと思うけど、WECのケージはここより少し小さいんだ。ここはUFCのサイズだからね。でも、ケージの練習をするには凄くいいよ。

KID　慣れるのには最高だよね。

シウバ　テイクダウンやテイクダウンディフェンスをトレーニングするには凄くいいよ。

KID　あとフィーリング。やっぱりリングと、ノーロープのケージでは感覚が違うから。

シウバ　確かにフィーリングは重要だね。あとムーブメント。広いオクタゴンでどう動くかが重要なんだ。KIDのジムは東京にあるのかい？

KID　イエス。大森のゴールドジムの近く。ゴールドジムわかる？

シウバ　わかるよ。いい場所だね。ただ、車が渋滞して大変じゃないかい？

KID　でも、家が近いから。ゴー、バイセコーだし。

――KID選手のジムは、日本のファイターが所有するジムの中では最大規模のものなんですよ。

KID　でも、ここと比べたら全然小さいけど（笑）。シウバも日本に来たときは、プリーズ・カム・トゥー・マイ・ジム！

シウバ　ぜひ行きたいよ。

KID　シウバが来たらエブリバディ、ビックリみたいな（笑）。ビビんだろうな、みんな。ジムに突然ヴァンダレイいたら（笑）。エブリバディ、サプライズだよ。

シウバ　しばらく日本を留守にしているから、ぜひ行きたいし。そのときは必ずKIDのジムに寄りたいね。

KID　ぜひ。ウェルカムだから。

――シウバ選手はアメリカに来てからトレーニング内容は変わりましたか？

シウバ　こっちに来てからレスリングの練習が増えたよ。ブラジルにはあまりいいレスラーがいないけど、アメリカにはたくさんいるからね。それとボクシングも練習も増えた。ボクシングもレスリング同様、アメリカでは盛んだからね。

KID　アメリカはどっちも世界トップクラスだよね。

シウバ　ブラジルは柔術やムエタイのいい選手はたくさんいるけど、レスリングとボクシングが欠けてるんだ。

KID　あとブラジルで盛んなのはケンカだよね（笑）。

シウバ　ワッハッハッハ。違いない（笑）。

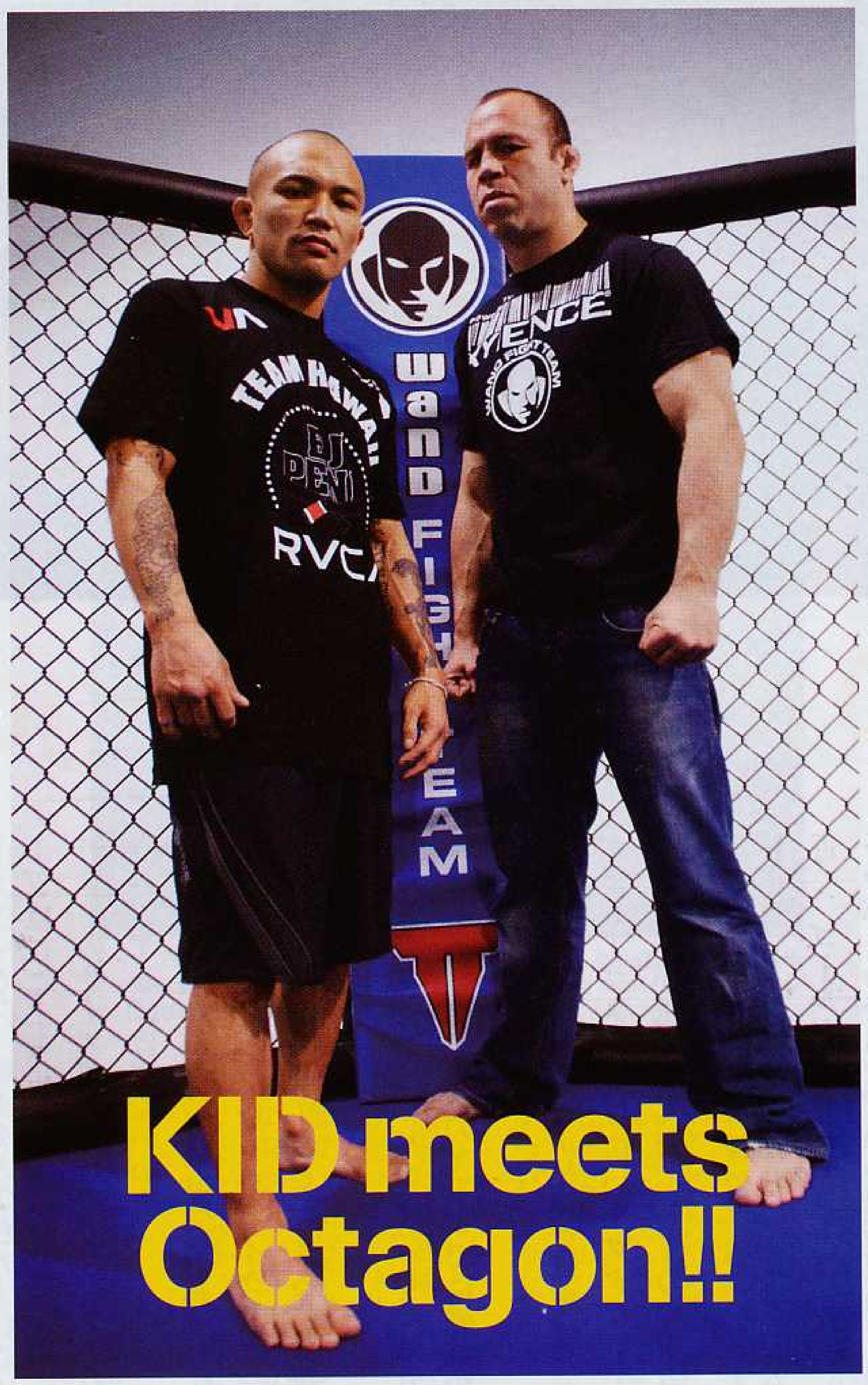
KID　ケンカはアイライク（笑）。

シウバ　ブラジルの若いファイターは金がないから、路上でのファイトが実戦練習みたいなもんなんだ。でも、アメリカはレスリングやボクシングが凄く充実してるから、その両方が強い選手が多いよ。

――では、レスリングとボクシングが強いKID選手なんかは、凄くアメリカ向きなんじゃないですか？

シウバ　それは間違いないね。KIDはアメリカで大成功するよ！　それにアメリカのファンは、俺やKIDみたいなアグレッシブに闘うスタイルが大好きなんだ。きっと、すぐに人気が出るはずさ。

ＫＩＤ　アメリカのファンは超盛り上がるよね。クレイジーだよ。
シウバ　でも、日本の会場の盛り上がりも素晴らしいよ。
ＫＩＤ　ジャパンはクワイエットから突然ブーンって盛り上がるけど、こっちはずっと「ワーワーワー！」だから。
シウバ　確かにそうだ（笑）。
ＫＩＤ　でも、俺はこっちの盛り上がり合ってるかもしれない。
シウバ　俺も盛り上がるのは大好きだよ。とくにラスベガスは最高だよ。
ＫＩＤ　歓声はギブミーパワーだから。ＧＯ！　ＧＯ！　ＧＯ！　だから。
シウバ　観客は動きが止まるのは観たくないんだ。だからＫＩＤがアグレッシブに攻めたら、大きな歓声をくれるよ。
――ＫＩＤ選手もそういうムードの中で闘ってみたいですか？
ＫＩＤ　やってみたい。超気持ちいい。鳥肌だね。トリハダわかる？
シウバ　わかるよ。チキンスキンだろ？
ＫＩＤ　そう。鳥肌立っちゃう。ヤバい。
――ＫＩＤ選手はシウバ選手のＵＦＣでの試合は観てますか？
ＫＩＤ　観てます。テレビでだけど。
――シウバ選手の試合はＵＦＣの中でもとくに盛り上がりが凄いんですよ。
ＫＩＤ　テレビで観ててもそれは感じる。やっぱり会場で観たい！
――ＫＩＤ選手はシウバさんの試合で、どの試合が印象に残ってますか？
ＫＩＤ　全部。
――全部ですか（笑）。
ＫＩＤ　だって全部強烈な試合ばっかりだから。アイライク、ヴァンダレイのヒザ蹴りだから。
シウバ　俺の得意技だよ（笑）。
ＫＩＤ　俺もやりたい。でも、俺の場合、あんま届かないかも（笑）。
――シウバさんは、ＫＩＤ選手の試合で印象に残っているものはありますか？
シウバ　ホイラー・グレイシー戦が印象に残ってるよ。凄いフックでホイラーをＫＯしたからね。じつは２週間前にインターネットで観たばかりなんだ。
ＫＩＤ　サンキュー。
シウバ　ＫＩＤはすべての動きがアグレッシブで、グラウンドでも動きを止めない。躍動感があってスタミナも凄い。どの試合を観てもエキサイティングだよ。
ＫＩＤ　でも、前はみんな俺よりビッグな相手だったから。みんな１５５ポンド（約70キロ）で、俺は１４０ポンド。ビッグガイ相手にはムーブアラウンドで動き回るしかないから。



やまもと・きっど・のりふみ■1977年3月15日、神奈川県出身。01年に修斗でプロデビュー。04年には『K-1 WORLD MAX』に出場しブレイク。05年には『HERO'S』ミドル級トーナメントに優勝した。163cm、62kg。

Wanderlei Silva■1976年7月3日、ブラジル出身。2000年からPRIDEに出場し、桜庭和志と３度にわたる激闘でブレイク。PRIDEミドル級絶対王者とも呼ばれる。07年からUFCに参戦。大人気を博している。180cm、93kg。

シウバ　大変だよな。
ＫＩＤ　どうしてもヒットアンドアウェーになる。でも、これからは１３５クラスだから、もっとアグレッシブにいける。
シウバ　俺も背が高いヤツとやるのは嫌だからな。階級上でずっと闘ってきたＫＩＤは大変だったと思うよ。
ＫＩＤ　ビッグガイと真正面からやるのはインポッシブルだから。ムーブアラウンドしかなかった。でも、１３５ならヴァンダレイみたいなスタイルでガンガン闘えるから。
シウバ　じつは俺も次から一階級落とすんだよ。
ＫＩＤ　あ、そうなんだ。
シウバ　これまで２０５ポンド（約93キロ＝ライトヘビー級）で闘ってきたけど、これからは１８５ポンド（約84キロ＝ミドル級）でやっていく。やっぱり２０５だと、通常体重で２４０あるヤツが落としてくる。でも、俺は普段から２０５ポンドしかないから、誰と闘っても俺にとってはデカい相手だったんだ。
ＫＩＤ　１８５ポンドって何キロ？
――84キロぐらいですね。以前、ＫＩＤさんのジムにいた福田力選手と同じ階級ですよ（笑）。
ＫＩＤ　リキと同じかよ。ヤバいね（笑）。あの階級にヴァンダレイが来たら、みんな殺されちゃう。
シウバ　ＫＩＤの階級でアメリカのチャンピオンは誰なんだい？
ＫＩＤ　トーレス！
シウバ　ミゲール・トーレスか！
ＫＩＤ　イエス！　でもヒー・イズ・トールだから。
シウバ　確かに背が高いし、リーチも長いね。でも、小指みたいにスキニーだよ（笑）。
ＫＩＤ　ハハハハハ！
シウバ　ＫＩＤのパンチで折れちゃうくらい細いよ（笑）。ＫＩＤなら問題なく勝てるだろう。ここをトレーニングに使ったらいい。日本で闘うにしても、トレーニングだけでもこっちでやるのは非常にいいことだと思う。ＫＩＤならいつでも歓迎するよ。
ＫＩＤ　サンキュー。去年はケガしちゃったんで、ちゃんと練習して、今年はやりたい。
シウバ　俺もＫＩＤの試合を楽しみにしてるよ。
ＫＩＤ　今日はありがとう。また絶対に来たいね！

【09年1月29日／米国ネバダ州ラスベガス、WANDファイトチームジムにて収録】

蹴りだから。

シウバ　俺の得意技だよ（笑）。

イ相手にはムーブアラウンドで動き回る
しかないから。

＝ライトヘビー級）で闘ってきたけど、こ
れからは185ポンド（約84キロ＝ミドル



KIDが行くところ、常に人だかりが絶えなかった。天性のスター性がそうさせるのだろう。写真は『アフリクション』会場で、ノゲイラ、宇野薫、朴光哲とのショット。

『UFC94』会場で渦中のKIDを直撃

山本〝KID〟徳郁

「日本に愛があるから。やっぱ日本も盛り上げたい」

アメリカで3大会を観戦。ラスベガスではUFC代表ダナ・ホワイトとも非公式に顔を合わせるなど、精力的に動いたKID。はたしてKIDはこのままアメリカに行ってしまうのか。KIDのアメリカでの試合は観たいが、DREAMフェザー級GPでもその勇姿が観たい！　というわけでUFC会場でKID本人に直撃した。

聞き手／石井史彦

――『アフリクション』、WEC、UFCと3大会を観戦したわけですけど、今回の訪米のそもそもの目的はなんだったんですか？

KID　目的はいろいろだけど。やっぱメインは試合を観に来た、UFCの。

――それはとくに親交のあるBJペンの試合ということですか？

KID　はい。そうですね。

――ロサンゼルスに来る前、ハワイに寄られたらしいですけど、ハワイでBJに会ったりもしたんですか？

KID　ハワイは一日しかいなかったから。あとはずっとカリフォルニアにいたんで（会ってないですね）。

――では、まず最初に観戦した『アフリクション』はいかがでしたか？

KID『アフリクション』すげえおもしろかったですね。やっぱ、リングでヒジありっていうのが、日本ともUFCとも違っておもしろかった。あと、やっぱヒョードル。あれはヤバい。

――その翌日に行ったWECはどんな感じでしたか？

KID　WECはやっぱ若い連中が多い。子どもが。

――子どもですか（笑）。

KID　UFCは大人が多いですね。

――〝カリフォルニアKID〟ことユライヤ・フェイバーとも会ったらしいですけど、どうでしたか？

KID　すげえ、いい子だった（笑）。

――すげえいい子（笑）。何か話しました？

KID　うん。なんか「もうずっとファンだったよ」みたいな。俺のこと。

――カリフォルニアKIDは山本KIDのファンでしたか。

KID　で、酒おごってもらった（笑）。

――カリフォルニアでは練習もされたそうですね？

KID　うん。スローダウンっていうジムで。こっちのジムはみんな大きくていいね。『kamipro』で行ったヴァンダレイのとこもハンパない。

――ラスベガスの一等地ですしね。

KID　うん。あとヴァンダレイと俺が同い年でビックリみたいな（笑）。

――同い年でしたか（笑）。ラスベガスという街の雰囲気はいかがですか？

KID　いいですね。なんかもうアトラクションみたい。

――どこか遊びに行ったりもしたんですか？

KID　いや、べつに遊びには行ってないけど。ちょこっとギャンブルしただけ。ホテルの一階が全部カジノになってるから、部屋に戻ろうとするたびにカジノにつかまっちゃうから（笑）。

――そして、いまUFCの会場であるMGMグランド・ガーデンアリーナにいるわけですけど、いかがですか？

KID　盛り上がりが凄くいい！

――こんな雰囲気の中で試合がしたいって思いますか？

KID　超やりたい！　燃える！

――やっぱりWECとも違いますか、UFCは。

KID　全然違う、もう。盛り上がりがハンパない！　異様な盛り上がりですよね。いやー、ここでやりたいですよ。

――ただ、いまDREAMのフェザー級GPでも名前が取りざたされていますが、そこはどう感じてますか？

KID　俺は日本にも凄く愛があるから。やっぱり日本も盛り上げたい。で、こっちでもやって、こっちでも有名になれば、それは日本のファンも盛り上がると思うから。とりあえず、ケガもだいぶ治ってきたんで、頑張りたいですね。

――わかりました。今年のKID選手の活躍に期待してます！

【09年1月31日／米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデンアリーナにて収録】

トの環境でのトレーニングが必要不可欠になってくるだろうね。





のジム。フル
シウバはこ
の闘いぶり

フルサイズのオクタゴン導入!
ラスベガスの一等地にオープン!!

シウバのジムに本邦初潜入!

「最高のファイターには最高の環境が必要なんだ」

ヴァンダレイ・シウバがかねてからの夢を実現させ、ラスベガスの一等地にジムをオープンした! MMAのジムとして最高の設備を揃えたというこのジムを早速シウバ本人に紹介してもらった。アメリカの練習環境の進化ぶりは驚くばかりだ!

聞き手&撮影／堀江ガンツ　通訳／石井史彦

――素晴らしいジムですね。

シウバ　アリガト（ニッコリ）。このジムにはいま世界でベストと言われている設備を導入したんだ。俺が現役で試合をできるのもあと5~7年程度だろうし、自分の生徒も育てたいしね。そのために大きな投資をしたんだよ。自分のジムを持つことは夢でもあったしね。

――まさにMMAの最先端をいくジムだ、と。では早速、このジムの特徴を簡単に教えてもらえますか?

シウバ　OK!　まず、このマットが特注なんだ。これはZEBRA社がMMAのために最新の技術を採用し開発した物で、ノーギでもギでも使えるマットなんだ。そして金網はスローダウン社製の世界でもベストのもので、実際のUFCのオクタゴンでも使われている素材なんだ。

――実際のオクタゴンと素材まで一緒にしましたか。

シウバ　素材だけじゃないよ。あそこにあるオクタゴンはラスベガスで唯一、UFCのオクタゴンとまったく同じケージ、キャンバスおよびサイズで作られてるんだ。

――完全な試合のシミュレーションができるわけですね。

シウバ　そして、あの部屋は低酸素ルームで海抜2~3000メートル級の高地でトレーニングしているのと同じ環境を作れるから、わざわざ高地に行ってトレーニングをする必要がなくなったんだ。

――へえ、ジムにいながらにして高地トレーニングとは凄いですね。

シウバ　この部屋だけで15万ドルもかかったよ（笑）。でも、それは自分に必要な投資だからね。あと、いま空いているスペースには、筋力トレーニング、およびサーキットトレーニング用の機材が入る予定だよ。これらの機材はスポンサーからの提供やサポートもあるけど、自分でも60万ドルの投資をしたんだ。

――それだけ、もっと自分のレベルを上げたいということですね。

シウバ　もちろん。俺はトレーニング自体が大好きだからね。もしバケーションを取ってどこかへ行ったとしても、朝起きて何をしたらいいかわからないんだ。ここ15年間、毎朝起きたらトレーニングをする生活をしてきたからね。引退したあとどうなるかの予想もつかない。だからこそ、現役でいるあいだは、とにかく最高のトレーニングをやっていたいんだ。

――そのための最高の「シウバ専用練習場」ができた、と。

シウバ　いや、俺専用というわけじゃないよ。ジムはオープンポリシーで誰でもウエルカムだよ。（マウリシオ・）ショーグンも4月のチャック・リデル戦に向けて練習に来る予定だし、来週からはデミアン・マイア、フォレスト・グリフィン、ホドリゴ・ノゲイラといったベストファイターたちと一緒にトレーニングする予定なんだ。ジムのコンセプトは「ベスト・フォア・ザ・ベスト」なんだよ。

――最高のために最高の環境を用意したわけですか。

シウバ　そのとおり。MMAのレベルはスポーツとして、凄いペースでハイレベルになってきているのに、トレーニング環境は充分じゃなかったんだ。これからのトップファイターは、ベス

MA全体のビジョンを持っているから、イシイが来たら彼に何が必要で

シウバ　俺は通常208ポンドしかないから、ライトヘビー級のままだ

フル
ラス
シ
本
「最
最

ヴァン
MMA
アメリ

聞き手&

シウバ　この部屋だけで15万ドルもかかったよ（笑）。でも、それは自分

ニング環境は充分じゃなかったんだ。これからのトップファイターは、ベス

トの環境でのトレーニングが必要不可欠になってくるだろうね。

――たとえばケージのサイズや、ちょっとした違いが勝敗に影響するほど、ハイレベルな競り合いになるということですか？

シウバ　もちろんだよ。たとえば、ケージのサイズを身体に覚え込ませないと、距離感がつかめない。そのためには、普段のトレーニングから、オクタゴンの広さに慣れておくことが重要なんだ。とくにリングに比べてケージは広いから、使い方次第で〝友だち〟にもなるし〝敵〟にもなる。ケージを〝友だち〟にするためには、普段から同じサイズのケージで練習することが重要だと思うよ。

――やはり、最初にケージで闘ったときは戸惑いましたか？

シウバ　もちろん戸惑ったよ。だからこそ、オフィシャルサイズのケージがほしかったんだ。あと、ラスベガスはじつは海抜が少し高い（海抜600メートル）から、空気が少し薄いんだ。だから、この空気の薄さに慣れないと、スタミナをすぐに消耗してしまうんだよ。

――そんな違いもあるんですか。だからこそ、低酸素ルームも作った、と。

シウバ　そういうことだね（笑）。

――ここなら、みんなビジター料金を支払ってでも練習したくなるんじゃないですか。

シウバ　やる気があるファイターなら、誰でもウェルカムだよ。今回、KIDが来たように、みんなここで練習したらいい。

――ここはラスベガスのホテル街からすぐという最高の立地ですけど、やはり場所にもこだわったんですか？

シウバ　ああ。街の中心だと費用も当然高くなるけど、みんなが通いやすくするために中心地にこだわったんだよ。同時にラスベガスという街自体、世界の中心に位置していて、ブラジルからでも、日本、ヨーロッパからでも、同じぐらいの時間で来れるんだ。だから、早くも世界各国からこでトレーニングしたいっていうメールが届いているよ。

――まさに世界の中心にあるジムなわけですね。

シウバ　日本のイシイ（石井慧）だって、これからUFCで闘っていくつもりなら、ぜひ来たらいい。イシイが来ることは彼にとっても、そして我々にとってもプラスになると思う。いまジムのオープンに合わせてベストのMMAコーチをセレクションしているところなんだ。それにボクシング、柔術の専門コーチもつく。そして俺自身はリアルファイターとしてMMA全体のビジョンを持っているから、イシイが来たら彼に何が必要で何が不足しているかをスタイルに合わせてアドバイスできるからね。ただ単に「これを練習しろ」ではなく、得意としている部分はさらに磨きをかけ、苦手な部分はその意識をなくすようにすることが重要なんだよ。

――石井選手はいま22歳の柔道金メダリストですけど、同じ金メダリストの吉田秀彦選手と二度の激闘を展開したシウバ選手から見て、どんな可能性を感じますか？

シウバ　もちろん、この世界の頂点に立つ可能性は充分あるよ。ただ、MMAではルーキーだから、いまの彼に必要なのは、彼に方向性を教えてあげられる良いコーチと良いチームだね。やはりイシイに合った練習をしていくということが重要だから。彼は素材として素晴らしいし、柔道テクニックとパワーも持っていると思うけど、リアルファイトはまったく違うものなんだ。ちゃんとした方向性を持ったコーチが時間をかけて育てることが大事だね。6カ月から1年はトレーニングに専念するべきだと思う。彼は有名なぶん、みんなが勝利を期待している。そのプレッシャーもあるだろうから、間違いなく勝つためにも、あせらず準備をすることが必要だよ。

――なるほど。シウバ選手自身の次の試合予定は決まってますか？

シウバ　おそらく6月か7月になると思う、まだ対戦相手は未定だけどね。ただ、次の試合から185ポンドで闘うと決めたんだ。

――ついにミドル級に転向ですか！

シウバ　俺は通常208ポンドしかないから、ライトヘビー級のままだと対戦相手が240ポンドからカットしてくるからね。これでは対格差がありすぎるので、185ポンドに落とすことにしたんだ。最近のMMAは昔と違って、ボクシングやレスリングのように試合前に体重を落とすというのがあたりまえになってきたんだ。たとえば通常体重が200ポンドのファイターが170ポンドで試合をしているようにね。驚くべき革新だよ。自分もそれに対応していかないといけないからね。

――シウバ選手ほどのベテランで実績のある選手が、最新のMMAにあらためてチャレンジするというのは素晴らしいですね。

シウバ　俺はチャレンジが好きなんだ。それにまた自分が若い世代を倒してチャンピオンになれると信じているしね。俺にはファイターの血が流れているんだよ。

――ミドル級としてデビュー戦は7月ぐらいというと、ちょうど『UFC100』の記念大会あたりになるんじゃないですか？

シウバ　そうなれば嬉しいね。俺はベストのイベントでベストのファイターと闘い、ベストのパフォーマンスが見せたいんだ。自分ばかりでなく、グリフィンやノゲイラの試合も組まれたら、間違いなく最高のイベントになるだろうね。

――では、ミドル級に転向した新生ヴァンダレイ・シウバに期待してます！

シウバ　アリガト（ニッコリ）。

【09年1月28日／米国ネバダ州ラスベガス、WANDファイトチームジムにて収録】

フルサイズのオクタゴンケージや低酸素室はここにしかないものさ



ご覧のとおり、選手が運営するジムとしては世界最大規模を誇るシウバのジム。フルサイズのオクタゴンや、低酸素ルームなど、ここにしかない設備がズラリ。シウバはこのジムでまだまだ強くなろうとしているのだ。ミドル級に転向するシウバの闘いぶりに期待だ！



enko Fedor

1.24『アフリクション』カリフォルニア大会
“最強チャレンジャー”アルロフスキーに衝撃のワンパンチ勝利!!

“煽りVアーティスト”がアメリカで皇帝を直撃!!

エメリヤーエンコ・ヒョードル×佐藤大輔

世界の中の日本を考える
日本ってなんだっけ




「神様が私に敗北が必要だと思ったとき私はそれを受け入れるだけですね」

1.24『アフリクション』で、元UFC世界ヘビー級王者アンドレイ・アルロフスキーを衝撃の“空中KO”で葬り、あらためて世界最強を証明した我らが皇帝ヒョードル。そのヒョードルの勇姿を観るために“煽りVアーティスト”佐藤大輔が渡米。試合翌日、大輔氏に聞き手となってもらいヒョードルにインタビューを行なった。“チーム・やれんのか!”の同志でもある二人は何を語ったのか?

聞き手／佐藤大輔　構成／堀江ガンツ　通訳／石井史彦

Emelianen

皇帝再びアメリカで微笑む!





PRIDEはベストのイベントでした『アフリクション』もよくなっています

　まさに衝撃的勝利だった。1月24日、カリフォルニア州アナハイムにある大会場ホンダセンターで行なわれた『アフリクション』第2回大会。このメインイベントでヒョードルは、元UFCヘビー級王者アンドレイ・アルロフスキーと対戦。

　下馬評では体格で大きく上回り、ボクシングテクニックもヒョードル以上のものを持つアルロフスキー相手に、ついにヒョードルが敗れるのではないかとも言われたこの一戦。

　実際、序盤ヒョードルは、リーチの長いアルロフスキー相手になかなか自分の距離がつかめず苦戦しているように見えたが、アルロフスキーが勝負をかけた跳びヒザ蹴りに出たそのとき、ヒョードルの豪腕右フックが炸裂！

　なんとアルロフスキーは空中で失神！たった一撃でヒョードルは逆転勝利を演じてみせた。そのあまりにも劇的な勝利にアメリカ人の観客はスタンディング・オベーション。ヒョードルは、いまやMMA大国となったアメリカでも、やはり最も尊敬を集める「60億分の1世界最強の男」であり続けたのだ。

　その劇的勝利の翌日、〝煽りVアーティスト〟佐藤大輔に、ヒョードルのいまの心境を聞いてもらった。

佐藤　ヒョードルさん、お久しぶりです。

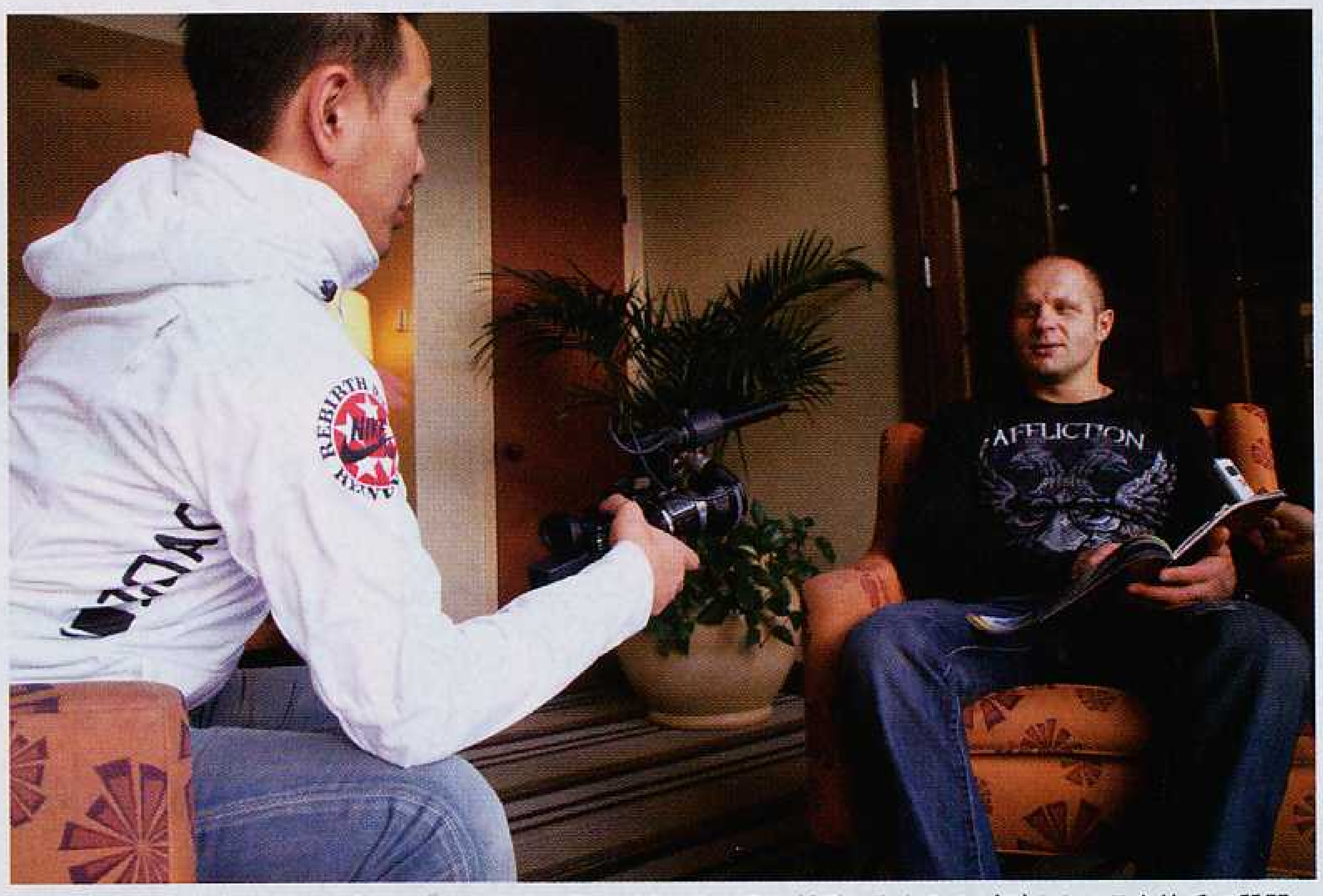
ヒョードル　お久しぶりです（微笑）。

佐藤　一昨年末の『やれんのか！』以来ですね。

ヒョードル　はい。昨年の大晦日も日本で試合をしたかったんですが、『アフリクション』での試合が先に決まってしまったので、私自身残念でした。

佐藤　その『アフリクション』の大会を昨日観させていただいて、何かPRIDEアメリカ大会に似ていたような感じがしたんですよ。

ヒョードル　まだPRIDEには及びませんが、いい大会だったと思います。PRIDEは本当にベストのオーガニゼーションでしたからね（ニッコリ）。でも、『アフリクション』も前回大会より今回のほうが良くなっていますし、現在、アメリカで行なわれている中ではベストの大会だと思っています。



ヒョードルのインタビューは『やれんのか！』の煽りV以来という大輔氏。もちろんビデオカメラを片手に質問を浴びせていった。この映像がもしかしたら、今年の大晦日に使われるかもしれない!?

anko Fedor

佐藤　それにしても、ヒョードルさんのアメリカでの絶大な人気には驚きました。以前「アメリカ人はあまり好きじゃない」という発言をしていましたけど、いまはちょっと好きになってきたんじゃないですか？

ヒョードル　「アメリカ人は好きじゃない」と言ったことはないですよ。普通のアメリカ人やアメリカのファンは大好きです。おそらく「アメリカ人ファイターが好きじゃない」と言ったことが誤解されているんだと思います。

佐藤　嫌いなのはアメリカ人じゃなくて、アメリカ人ファイターでしたか（笑）。

ヒョードル　それも一部ですけどね。試合前に大口を叩いたり、対戦相手に敬意を払わず、汚い言葉で罵るような選手はこちらも尊敬できないということです。

佐藤　あと、アメリカ人はともかく、アメリカのジェットコースターは大好きともうかがったんですが（笑）。

ヒョードル　それはもう大好きです（笑）。やはりジェットコースターに関しては、アメリカと日本が一番進んでいますから。なるべく日本かアメリカで試合がしたいですね（微笑）。

佐藤　ジェットコースターに乗るために（笑）。ここアナハイムはディズニーランドで有名ですけど、行く時間はありました？

ヒョードル　いや、明日には帰国しなければならないので、今回は行けませんでしたね。いままでディズニーランドは日本で4回、パリへは2回行ってますが、アナハイムも次回チャンスがあったら、ぜひ行きたいと思います。

佐藤　ローラーコースターで有名なマジックマウンテンには行きました？

ヒョードル　前回の『アフリクション』のときに行きました。

佐藤　やっぱり行ってるんだ（笑）。

ヒョードル　今回は時間もないので、遊園地には行かず、友だちと近くのショッピングモールへ行くつもりです（微笑）。

佐藤　では、昨日のアンドレイ・アルロフスキー戦について聞かせてください。今回の試合は前半、観ていてヒヤヒヤしたんですが「あっ、負けるかも」と感じた瞬間はありませんでしたか？

ヒョードル　まったくありませんでした（キッパリ）。アンドレイは非常に動きもパ



ダナ・ホワイトが「ジョーク」と切り捨てた『アフリクション』だが、客席にはUFCマッチメーカーのジョー・シウバと、ヘビー級暫定王者フランク・ミアを発見！



1.24『アフリクション』では、アメリカのMMAイベントとしては珍しく、選手が登場してのオープニングの演出があった。これはもちろんPRIDEの影響だろう。

『アフリクション』もよくなっています





VIPもヒョードルを祝福。左からドナルド・トランプ、トム・アテンシオ、ヒョードル、そしてオスカー・デラホーヤ。なんとも凄いメンツである。

［09.1.24　Affliction Day of Reckoning］
米国カリフォルニア州アナハイム・ホンダセンター

◯エメリヤーエンコ・ヒョードル vs アンドレイ・アルロフスキー×
（1R 3分14秒 KO）

下馬評では「ヒョードル危うし」の声もあったこの一戦。序盤、ヒョードルは自分の距離が取れず苦戦したが、アルロフスキーがフライングニーにきたところを右フックでたたき落とし衝撃のKO勝ち。世界最強をあらためて証明した。

Emelianenko

4回、パリへは2回行ってますが、アナハ

はありませんでしたか？

ヒョードル　まったくありませんでした（キッパリ）。アンドレイは非常に動きもパンチも早く、素晴らしいスキルを持った選手でしたが、彼のパンチのほとんどはガードの上やグローブに当たっただけで有効打はありませんでしたから。アンドレイのアタックに危ないと感じたことはなかったし、一瞬たりとも危険なポジションになったシーンもありませんでした。そんな中で彼がミスを犯したため、私は自動的に反応し、パンチを強打して勝つことができました。

佐藤　最後のフライングニーに右フックを合わせる動きは、やはり練習した動きというより、とっさに出たものですか？

ヒョードル　フライングニーをパンチで撃ち落とす練習はしたことはないですね（微笑）。ただ、彼の攻撃パターンに関しては充分対策を練ってきたので、試合展開の中で身体が自動的に反応して、あのようなカウンターが出せたんだと思います。

佐藤　ヒョードルさんは最近、「神様」という言葉をよく使いますが、今回は「神様」が勝たせてくれたんだと思いますか？

ヒョードル　神様がついてくれているからこそ、私は勝てたのだと思うし、私の勝利はいつも神様に捧げるためのものです。

佐藤　どのスポーツでも本当のトップに立ってる人、たとえばF1のアイルトン・セナなんかもそうでしたけど、みんな「神様」という言葉を使いますよね？

ヒョードル　私は神様を信じているし、だからこそ自分の勝利も信じている。そして、神様がこの勝利を与えてくれたのだか

1.24 Affliction-Day of Reckoming Pick Up Fight



◯ジョシュ・バーネットvs ギルバート・アイブル×
（3R 3分5秒 TKO）

下馬評ではジョシュの楽勝かと思われたこの試合だが、アイブルがグラウンドでヒジやパウンドを落とされてもタップせず、異常なかんばりを見せた。しかし最後はジョシュの勝利。



◯ビクトー・ベウフォートvs マット・リンドランド×
（1R 0分47秒 KO）

元UFC王者のベテラン、ビクトーが、レスリング五輪銀メダリストリンドランドに、いきなりカウンターの左フックをヒットさせ、衝撃の秒殺KO勝利。リンドランドはしばらく立ち上がれなかった。



◯レナート・ババルvsソクジュ×
（2R 2分36秒 スピニングチョーク）

UFCを契約解除されたソクジュが心機一転『アフリクション』に登場。しかし、試合巧者のババルに野性味を殺され、寝技で劣勢となり、最後はスピニングチョークを極められタップ。



◯アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ vsウラジミール・マティシェンコ×
（2R 4分26秒 TKO）

ホジェリオがマティシェンコに02年の「LEGEND」でのリベンジマッチに挑んだ一戦。ホジェリオは得意の寝技ではなく、カウンターのヒザ蹴りでダウンを奪い、そのままパウンドで勝利した。

ら、私自身も勝利を神に捧げたいと思っているんです。

佐藤　神様が助けてくれた、と感じる瞬間はあるんですか？

ヒョードル　神様は瞬間で感じるものではないですね。神様はいつもみんなの側にいて、神様を信じている人に救いの手を差し伸べてくれるんです。私が神様を信じているから、神様は試合にも勝たせてくれるし、私の人生もサポートしてくれている。ただ、試合は勝つときも負けるときもあるものですが、たとえ試合に負けたとしても、それが私のベストだったと信じているし、それは神様も知っていることなんです。

佐藤　いつか自分が負ける日が来ると思いますか？

ヒョードル　そういう日がいつか来るかもしれませんね。

佐藤　負ける日が来ることに対して恐怖心はありませんか？

ヒョードル　勝ち負けも含めて、私が何をしなければならないかを神様だけは知っています。私はそれを受け入れるだけですね。

佐藤　ヒョードルさんは、ほかのファイターをインタビューしたときと、考え方が違いますよね。

ヒョードル　ただ、私の場合は英語があまりうまくありませんけど（微笑）。

佐藤　いや、英語でインタビューが受けられるんだから、かなりの上達ぶりだと思いますよ。

ヒョードル　アリガトウ（微笑）。

ガンツ　ちょっといいですか？　UFCのダナ・ホワイトが普段、あなたに対していろんなことを言ってることについてどう感じてますか？

ヒョードル　私は彼が何を言っているのか、話したこともないので、よく知りませんし、気にもしてません。

ガンツ　ダナはヒョードルさんのことを凄く気にしてると思いますけどね（笑）。



Emelianenko Fedor

私は日本のファンを決して忘れていません 年内にもぜひ日本で試合をしたいと思います

ヒョードル　私自身は彼に対して、そんなに悪い印象は持っていません。優秀なビジネスマンで、素晴らしいビジネスを展開していると思います。恐らく彼がいろんなことを言うのも、よりよいビジネスを展開する上でのことなんでしょう。

ガンツ　達観してますねえ。ダナは「世界最強を名乗るなら、UFCでそれを証明しなければならない」とも言っていますが、それについてはどう思いますか？

ヒョードル　私はここ『アフリクション』で誰かに強さを証明するために闘っているわけではありません。ここには素晴らしい友だちと、偉大なるマネージャーであるワジムがいますし、『アフリクション』のトム・アテンシオとも非常によい関係にあります。ですから、とくにダナの発言に対してコメントすることもありませんね。

ガンツ　わかりました。では大輔さん、引き続きお願いします。

佐藤　次はジョシュ・バーネットとの対戦の噂も出てますけど、今後の試合に関してどのように考えてますか？

ヒョードル　まず最初に、ジョシュの勝利に対しておめでとうと言いたいですね。でも、今後のことに関してはまだ何も考えていません。

佐藤　そういえば、昨日の試合に出ていたキリル・シデルニコフはヒョードルさんが育ててる選手らしいですね？

ヒョードル　はい、一緒のチームで練習しています。ただ、キリルはまだ若すぎるし、もう少し経験を積まないといけない。彼はまだスタート時点に立ったばかりですけど、勝つために何をしなければならないかを教えていけば、いい選手になると思います。

佐藤　彼は「ベビー・ヒョードル」って呼ばれてるらしいですけど、将来、あなたのレベルになれると思いますか？

ヒョードル　たぶんなれるでしょう。キリルは練習熱心で、私も彼のそんなところが気に入っていますから。まずはもう少し小さなイベントでチャンピオンになったり、経験と自信が必要でしょうね。

佐藤　ヒョードルさん自身は、アメリカでこれだけ人気が出てしまうと、日本のファンから手が届かない存在になってしまったようにも感じるんですが、また日本に戻ってきてくれますか？

ヒョードル　もちろん、また日本で試合をしたいと思います。私は日本のファンのことを決して忘れていませんし、いま私のマネージャーと、DREAMのシノダサン（渉外担当・篠田荘太郎）が話し合っているので、年内にも日本での試合を実現させたいと思っています。

佐藤　では、ヒョードルさんが日本で観られるかどうかは、篠田の交渉次第だ、ということですね（笑）。

ヒョードル　シノダサンからはいつも「今度はいつ日本に来られますか？」という質問を受けていますが、まあ、そういうことでしょう（笑）。

佐藤　では、また大晦日に日本でお会いしましょう。約束してくれますか？

ヒョードル　ぜひ日本に行きたいと思いますので、シノダサンによろしくお伝えください（笑）。

【09年1月25日／米国カリフォルニア州アナハイム、某ホテルにて収録】

Emelianenko Fedor■1976年9月28日、ウクライナ出身のロシア人。サンボと柔道で実績を挙げ、00年リングスに初来日。初代ヘビー級、無差別級の2冠王となる。03年ノゲイラを倒しPRIDEヘビー級王者となり、04年にはPRIDEヘビー級GPも制した。現WAMMA世界ヘビー級王者。60億分の1世界最強の男。182センチ、104キロ。

こんにちは、佐藤大輔です。
今回は3泊5日でアメリカへ『アフ
観て、「あ、ヒョードルもUS・MMA
に負けるんだ」「歴史的瞬間を観てし
ちのヒョードル！」（笑）。
試合翌日、ヒョードルのインタビュ
が、PRIDEに似ていると思いまし
た。
合わせてるんで、CMの時間が妙に空
いたりするんですよね。あとは、『アフ

世界の中の日本を考える
日本ってなんだっけ？

"煽りVアーティスト"は、アメリカをどう見たか？
『アフリクション』&WEC観戦後記

佐藤大輔
「あらためて"リングの力"を感じました」

1・24『アフリクション』と1・25WECを観戦するため、ハードな日程で渡米した佐藤大輔氏。PRIDEのオーナー交代時はアメリカへの移住も考えた"煽りVアーティスト"の目に、いまのアメリカはどう映ったか？ そして日本格闘技界再興のヒントはつかめたのか？

構成／堀江ガンツ



こんにちは、佐藤大輔です。

今回は3泊5日でアメリカへ『アフリクション』とWECの大会を観に行ってきました。渡米目的はKID選手、宇野薫選手、石井慧選手のアメリカ流出を防ぐというわけではなく、敵情視察という名目で。まあ単にヒョードルの試合が観たかったということですね。

ヒョードルのマジな試合というか、コンペティブルな試合って、もう何試合観られるかわからないので、拝みに行くような気持ちに観に行きました。

試合を見た感想は「やっぱり俺たちのヒョードルは強い！」でした。じつは僕、ヒョードルが初めてノゲイラ勝ってPRIDEヘビー級王者になったとき「強いけど華のない選手がチャンピオンになっちゃった」なんて思ってたんですけど（笑）、いつの間にか思い入れが増したんでしょうね。やっぱりVTRを作り、繰り返しイメージを重ねることで、「俺たちのヒョードル」という意識が強くなったんだと思います。

しかも、今回は勝ち方がまたロマンチックでしたよね。試合中はドキドキしてたんですよ。対戦相手のアルロフスキーはボクシングがうまくて、知略的で、現代US・MMAを象徴するような選手でした。そしてヒョードルが、なかなか自分のペースを握れないのを観て、「あ、ヒョードルもUS・MMAに負けるんだ」「歴史的瞬間を観てしまうんだ」と思った瞬間、ピンチになったときに現れる「スーパー・ヒョードル」が現われて、『宇宙の根源』みたいな力で勝っちゃったというか（笑）。

もうマンガでしかありえないような勝ち方ですからね。アルロフスキーは空中で失神ですから。周りのガイジンは「（アルロフスキーが）エア・ジョーダンになりそこねた！」とか叫んでましたよ。ケージ格闘技というものが、競技競技した『ボクシング&ヒジ落としゲーム』へまっしぐらの中、最強の男があういう勝ち方をしてくれたのは、正直、嬉しかったですね。「さすが俺たちのヒョードル！」（笑）。

試合翌日、ヒョードルのインタビューをさせてもらいましたけど、「いま彼の闘いに対するモチベーションはなんだろう」ということが知りたくなりましたね。そして、それはヒョードルが語っているとおり「神」なんじゃないかな。そういう境地に至ったアスリートなんじゃないかと思います。

アイルトン・セナなんかも後期はそういう発言しかしないようになってましたけど、ヒョードルもそういうメンタリティになってるんじゃないかと思います。ヒョードルの内面というのは興味深いですね。負けることすら怖くないんじゃないか、という。

『アフリクション』という大会自体は、PRIDEアメリカ大会に似てましたね。会場の雰囲気、観客の選手への理解度、また熱気がうずまく感じや、リングがなせる業なのか、試合と観客がキャッチボールできているような感じが、PRIDEに似ていると思いました。

また、オープニングの演出があったり、このイベントの作った人たちはPRIDEが好きなんだなっていうことが随所に感じられて、僕はPRIDEアメリカ大会の続きを観た思いがします。あくまでプチPRIDEですけど。

そういった意味で、なんだか楽しかったです。

翌日はアナハイムからサンディエゴに移動し、WECを観戦しました。WECは「ワールド・エクストリーム・ケージファイティング」の名称どおり、エクストリームっぽいというか、Xスポーツのような空気を感じましたね。ファンも若い人たちばかりだし、これがスパイクTVの視聴者なんだろうなって。

ただ、イベント自体は正直眠かったです（笑）。堀江ガンツという編集者も寝てましたからね。アメリカかぶれのくせに。進行がテレビ生中継の進行に合わせてるんで、CMの時間が妙に空いたりするんですよね。あとは、『アフリクション』を観たあとだったんで、「ケージでの試合は生で観る必要はない」と感じましたね。テレビカメラマンが自前の小汚いGパンのケツを向けて4人もケージの回りにつっ立って試合が隠される様を、僕らは観にきてるわけじゃないから。選手も同じようなファイトスタイルで、同じような顔の人たちが闘ってるんで、結局、ユライヤ・フェイバーの「あらかじめビックリしたような顔」しか覚えてないんですよ。まぁ、ユライヤはカッコよかったです。

これは間違いなく言えますけど、同じ軽量級でもWECよりDREAMフェザー級GPのほうがはるかにおもしろいと思います。『アフリクション』とWECを観て、あらためてリングが成せる有効さというか、リングのスウィングを作る力、そういうものを感じましたね。

で、いま僕らはDREAMフェザー級GPの映像制作の真っ最中ですけど、今回のフェザー級は演出的にちょっと新しい空気を作ろうと思っています。新しい選手たちばかりですから、ようやくホントの意味でPRIDEを引きずらずに新しいことが始められるなって感じです。場合によっては、僕がやることもない、くらいに思ってます。

それがいいと思う人もいれば悪いと思う人もいるかと思いますけど、僕らのチームの若い世代が新たに作る、日本格闘技フェザーバージョンをお見せします。選手も素晴らしいメンバーが揃いましたからね。ぜひ、会場に来てください！

shi Ishii

世界の中の
日本を考える
日本って
なんだっけ



ラスベガスで独占インタビュー

石井 慧


人生はドラクエ 冒険の旅に出る！

名門ATTを拠点に 全世界武者修行宣言

昨年末、UFC出場を宣言し、ダナ・ホワイト代表との対面も実現させた石井慧。
年が明けてからは、1月中旬からフロリダ州マイアミにあるアメリカン・トップチームへ。
2週間の集中トレーニングを行ない、いよいよ本場アメリカMMA進出への本格的な第一歩を踏み出した。
そのフロリダでの特訓後、石井は1.31『UFC94』観戦のためラスベガスに再上陸。
本誌は大会前日、石井を独占キャッチ。アメリカ武者修行の模様をうかがってきた。

聞き手&撮影／堀江ガンツ

Satosh



ATTでの練習は特別個人指導が真夜中まであってクレイジーでしたね

——フロリダ州マイアミにあるアメリカン・トップチーム（ATT）で2週間の集中トレーニングを終えたわけですけど、その2週間でずいぶん電話代使っちゃったらしいですね（笑）。

石井 ……はい（苦笑）。制限額までいっちゃって、危なく音信不通になるところでした。

——やっぱり寂しくて使っちゃったんですか？

石井 いや、自分ではそんなに使ったつもりはなかったんですけど、気づいたらけっこう使っちゃってたんで。

——国際電話はかなりいきますからね。

石井 国際電話でも地域によって料金が違って、マイアミは高いんですよ。まあ、ベラルーシとかだったら1分300円ぐらいだから、それよりはいいですけど。

——なぜベラルーシと比較する（笑）。では、そんな2週間のフロリダATT修行はいかがでした？

石井 最高ですね。

——最高ですか！ どのへんが最高なんですか？

石井 2週間ですけど、本場のMMAのトレーニングが体感できて、強くなっていくのを自分で感じましたから。あとコーチがみんないい人でした。

——プロフェッショナルが揃ってる感じですか？

石井 そうですね。プロのコーチが、ハングリーな野獣どもを徹底的に鍛えていて、虎の穴みたいでしたね。もう野獣が蠢いていました。そこに飛び込んで、自分ももう武者震いですよね。

——石井選手が行ったときは、どんな選手がいたんですか？

石井 明日（1・31『UFC94』）、リョート・マチダ選手とやる無敗のチアゴ・シウバ選手とか、GSP vs BJペンの勝ったほうと闘うチアゴ・アウベス選手とかですね。

——じゃあ、UFCのバリバリのトップですね。向こうではどんな練習をしていたんですか？

石井 エキサイティングな練習です。

——具体的にお願いします（笑）。

石井 全体的にやりましたね。テイクダウン、寝技、ストライキング、その3つを重点的に。あとフィジカルトレーニングもやってました。



2週間の集中トレーニングが終わった開放感からか、じつににこやかにインタビューに答えてくれた石井。あいかわらず、サービス精神も旺盛だった。

Ishii

——やっぱり日本でやる練習とはちょっと違いました？

石井 まず、各分野の専門の人がいて、全部一緒の場所でできるのがいいですよね。あとは、日本の場合はプロは練習も自分の考えでやるって感じなんですけど、こっちの場合は、ひさしぶりに高校時代に戻ったような。すべてを監視された練習というか。自分としては、逆にそっちのほうがやりやすかったですね。

——なるほど。MMAでは新人ですから、どんどん課題を与えられたほうがやりやすいというか。

石井 そうですね。

——でも、そのメニューは相当キツかったんじゃないですか？

石井 そのとおりです。気が狂いそうになりました（苦笑）。練習は深夜まで続いてましたからね

——深夜まで！ 一日のスケジュールってどんな感じなんですか？

石井 まず午前中に10時か11時から合同練習が2時間ぐらい。そこからコーチの特別個人指導が始まって、それが1時間ぐらいで終わるんですけど、そのあとフィジカルの特別個人指導があるですよ。

——連チャンで特別個人指導がありますか（笑）。

石井 で、ホテルに帰るのが午後3時ぐらいなんですけど、もう4時半には出発しなきゃいけないんですよ。また5時ぐらいから特別個人指導があるんで。

——またしても（笑）。

石井 で、それが終わったかと思ったら、夕方から柔術のクラスがやってて「石井、柔術もやったほうがいい」とか言われて。

——さっきまで特別個人指導受けてたばかりなのに（笑）。

石井 そう言われても、外国人の場合はみんな自分の意見をハッキリ言うんで、「いや、今日はもうそれで終わる」って言うんですけど、自分日本人なんで、「大丈夫か？」って聞かれたら、ちょっとしんどそうな顔して「あ、大丈夫です」って。口で「大丈夫」って言いながら表情でもう限界をアピールするんですけど、「大丈夫ならやれよ」って、言われちゃうんですよ（笑）。

——「はい」しか言えない世界で生きてきた人間としては、表情でアピールしたつもりだったんだけど、アメリカでは通じなかった、と（笑）。

石井 そうなってしまいました。

——じゃあ、昼寝の時間もなかったんですか？

石井 ないですね。で、結局、夜の10時頃までジムの練習があって。そこからホテルに帰ったあとは、自分についてくれてるコーチが、今度はベッドをどけて特別個人指導が始まったりするんですよ。

——ホテルでさらに特別個人指導始まりますか（笑）。

石井 そういう毎日ですからね。もう気が狂いそうになりました。しかも、ベッドが身体に合わなくて腰痛がひどくなったんで、床の絨毯の上にシーツを敷いて寝ましたから。

——まともな寝床すらない生活でしたか。

石井 そういう生活を強いられてましたね。

——では、この2週間で一番しんどかったことはなんですか？

石井 やっぱり、みんな凄くいい人なんですけど、言葉が通じないストレスがありましたね。自分、ホントは日曜日は身体を休めたいんですけど、みんなが凄い気を使ってくれて「ビーチ行こうよ」とか、「どっか

真夜中まであってクレイジーでしたね



無敵のUFC世界ウェルター級王者GSPの次期挑戦者、チアゴ・アウベスとは、ATTで一緒にトレーニングをした仲。石井はアメリカで、トップレベルのファイターの中で揉まれているのだ。

Satosi Is

――さっきまで特別個人指導受けてたばかりなのに（笑）。

めたいんですけど、みんなが凄い気を使ってくれて「ビーチ行こうよ」とか、「どっか

ショッピング行こうか」とか、言ってくれるんですよ。でも自分は「そっとしといて！」って思ってるんですよ。

――ズバリ言って、ありがた迷惑というか（笑）。

石井 でも、自分は「疲れてるから今日は部屋でゆっくり休みたいんだ」って英語で言えないじゃないですか。だから「いいです、いいです」って短い言葉だけで断ったら、コーチが心配して「石井は大丈夫なのか？ ビーチに誘っても来ないぞ」って、ケイダッシュの人に電話しちゃったんですよ。

――「石井が精神的に塞ぎ込んじゃってるぞ」と（笑）。

石井 で、心配させちゃっても悪いから、行きたくないのにビーチとかショッピング行ったりしてたんですよ。

――疲れてるのに無理やり楽しんでるふりをして（笑）。

石井 で、自分、そのコーチは薄々、巳（へび）年じゃないかと思ってたんですよ。

――なんですか、それ（笑）。しつこいってことですか？

石井 夢中になると長いんですよ。質問すると熱が入って説明が長いし。ある日、自分が「縄跳び5分間跳べ」って言われてやってたんですけど、そのコーチが途中でほかの人の指導を始めて、それに夢中になっちゃって自分が縄跳びやってることを忘れてるんですよ。おかげで自分は1時間半ずっと跳び続けてて。

――5分のはずが（笑）。

石井 それを見た先生が「石井は夜中に『朝の6時まで走ってこい』って言ったら走る人間だ」って、さらに指導がエスカレートして。

――どんなキツい課題でも黙ってやり抜く男だと思われて。「ノー」という語彙がないだけなのに（笑）。

石井 「クレイジーだ」と言われてましたね（笑）。結果的にいい練習になったんですけど。

――課題だった打撃の練習のほうはどうですか？

石井 自分のコーチはムエタイの現役世界チャンピオンらしいんですよ。タイでムエタイの選手をやりながら、出稼ぎみたいなかたちでATTでコーチやって。その人とずっとやってましたね。

――ムエタイの世界王者がついてくれましたか。

石井 で、まずはパンチを食らわないことだっていうことで、ディフェンスの練習を血が滲むぐらいして。最後のほうはジムの中でも上の選手とスパーリングやったんですよ。終わったあと「どうですか？」って聞いたら「ディフェンスはグッドだ、パンチを入れられない。入れることもままならない」と。

――ままならない（笑）。

石井 そう言ってましたね。

――それでまたその気になっちゃって、また練習やっちゃって、みたいな。

石井 こっちは休むこともままならない、みたいな（笑）。

練習後の楽しみはひたすらドラクエ ハンパなくレベルが上がってますよ

――やっぱりままならない（笑）。そんな生活の中で、向こうでの楽しみって何かあったんですか？

石井　見てください、これ（と、携帯型ゲーム機を取り出す）。

――あ、ニンテンドーDS Liteですね（笑）。

石井　もう、ひたすら『ドラクエV』をやってましたね。モンスターがみるみるうちに仲間に入るんですよ。それで止まらなくなって。

――ドラクエ中毒みたいな（笑）。

石井　だって、はぐれメタルが仲間になるんですよ！

――はぐれメタル！　それはレアですね。

石井　もう凄いテンション上がっちゃって。仲間になった瞬間、ルーラで城に帰って即行セーブしましたから！

――ダハハハ！

石井　間違ってデータが消えたらヤバいじゃないですか。これは一刻を争う事態だと思って、即行セーブですよ。もう嬉しくて嬉しくて。いま、はぐれメタルのレベル上げをやってるんですけど、いまやエスターク（ラストの大ボス）とはぐれメタルがタイマンで闘っても、はぐれメタルが勝ちますよ！

――そこまで育てあげましたか（笑）。

石井　呪文がまったく効きませんからね。もの凄く強いですよ。

――そんだけ楽しめたんなら、DS持っていってホントに良かったですね。

石井　よかったです。必需品です。これは1月4日に『戦極』に行ったとき、「アメリカで勝負します」って、ドン・キホーテの安田会長に報告させていただいたら、あとで「これでアメリカで必要なものを買いなさい」って、手紙とともにドン・キホーテの商品券をいただいたんですよ。それで買えたんで、誌面を通じてお礼が言いたいです。

――さすが安田会長ですね。『戦極』に出なくても応援してくれて。

石井　凄い感謝してます。ついでにプレステ3も買いましたしね。

――それ、アメリカ行きと関係ないじゃないですか（笑）。

石井　ソフトもいっぱい買ったんで、次からはDSだけじゃなく、プレステ3も持ってアメリカに行こうかな、と。

――ゲームは旅の必需品だ、と。

石井　もちろん。自分の相棒ですから。

――でも、2週間でドラクエをクリアして、はぐれメタルを育てあげるとは、かなりやりこみましたね。

石井　いや、日本にいるときからずっとやってましたから。練習と練習の合間とか、移動時間はずっとやってましたし、自分が練習中は付き人に待たせてるあいだにずっとレベル上げさせて（笑）。

――ダハハハ！　練習が終わったら、ゲームの中の自分も強くなってる、と（笑）。

石井　だから、ボスと闘っても苦戦したことないですよ。スクルトとかで防御力上げたりせず、生身の身体で楽勝ですから。新しい町を訪れても、自分はゴールドがたんまり貯まってるんで、新しい武器とかも即買いですから。

――全然、ハングリーじゃないじゃないですか！

石井　いやいや、モンスターを仲間にすることに対してハングリーですから。

――そうですか（笑）。で、現実世界ではATTで仲間ができて。

石井　そうですね。でも、現実世界の仲間とは練習で闘わなきゃいけないんで、いつもヨレヨレにされてますけど。

――じゃあ、ドラクエで現実逃避してるんじゃないですか（笑）。

石井　気分転換です。あと読書ですね。自分が尊敬してる上杉謙信の本を読んでるんですよ。というと『天地人』を読んでいるとお考えでしょうが、『天地人』はベタでしょ？“通”じゃない人が読む本ですよ。だから“通”であるボクは『われ、謙信なりせば』っていう本を読んでるんですけど、どうやら『天地人』の便乗本っぽいんですけどね。

――“通”は便乗本を読んでますか（笑）。

石井　でも、けっこうおもしろくて、380ページぐらいあるんですけど、読んじゃいましたから。

――それはドラクエの合間に読んでるんですか？

石井　ドラクエやってるとアドレナリンが出て眠れなくなるんで、寝る前は本を読むんです。

――クールダウンのために（笑）。ところで先週、『アフリクション』の大会がありましたけど、テレビでご覧になりました。

石井　ATTのみんなで観ましたね。アメリカはみんなで集まって観るんですよ。

――ホームパーティみたいな感じで。

石井　ATTの選手も出てたんで、みんなで集まって観て。ヒョードルの試合は興奮しましたね。けっこうアドレルスキー選手が押してたじゃないですか。

――ええ。名前はアルロフスキーですけどね（笑）。

石井　ムエタイのコーチが観ながらアドレルスキーの打撃技術を解説してくれたんですけど、最後に調子乗ってフライングニーにいったら、おもいきりパンチ食らってやられたじゃないですか。そしてらアドレルスキーにキレだしたんですよ。

――テレビに向かってキレましたか（笑）。

石井　こんなキレたところ見たことないっていうくらいキレて、練習より怖かった



ハンバーガーにかぶりつく石井。しかし、よく見るとパンではなく、レタスで挟んである。これは『IN-N-OUT BUGER』の裏メニュー「プロテインバーガー」。当然、石井は炭水化物の摂りすぎに気をつけているのだ。

ノゲイラのとことかリョートのとことか DS片手に世界へ武者修行の旅に出ますよ

ですね。

——テレビに向かって「なんで俺の言うこと聞かないんだ！」みたいな（笑）。

石井 「なんでフライングニーなんだ、普通にラッシュするべきだ！」ってキレてました。で、自分もフライングニーには、けっこう思い出があるんですよ。

——どんな思い出ですか？

石井 某大学の柔道部監督の得意技がフライングニーなんです。

——ダハハハ！　なぜだ（笑）。

石井 練習中、怒ると投げる黄色い棒があるんですけど、その黄色い棒を投げて、ガードが下がったところにフライングニーですから。恐怖ですよね。

——坂口征二の得意技もジャンピングニーですから、もしかしたら柔道家に合ってるのかもしれないですね（笑）。

石井 あ、そうなんですか（笑）。自分も身につけないといけないですね。

——で、そんな2週間の集中トレーニングが終わって、これからのことはどう考えてるんですか？

石井 自分はATTでお世話になって、もうATTのファミリーですからね。ATTを拠点にして、そこからさすらいの旅に出ようかと思ってます。それで、世界のジムで練習して、日本に帰るのはビージネースのときだけにしようか、と。

——ビージネースですか（笑）。

石井 ノゲイラとかにも練習に誘われたんで、ブラジルにも行きたいな、と。

——これまでブラジルに行ったことはあるんですか？

石井 柔道で行ったことあるんですけど、苦痛でしたね。

——小川（直也）さんも柔道時代にブラジルに行って「最悪だった」とか言ってましたけど、何が大変なんですか？

石井 やっぱり時差が大変ですね。一日半もかかって行って、向こうに朝着いて、もう夕方から練習やってましたからね。気が狂いそうになりましたよ。

——ガハハハハ！　さすが日本柔道ですね。

石井 普通、海外の練習って短期集中型で、日本人からしたらメッチャ短いんですよ。でも、ブラジルの場合、日系人が多いからか、メチャメチャ長いんです。で、そこにサンパウロのバルボーザっていう柔術団体が来て一緒に練習したんですけど、寝技の練習では自分たちをさんざん苦しめといて、乱取りになったらうしろに引っ込んで隠れやがるんですよ！

——自分たちの得意分野だけ出てくるわけですか（笑）。

石井 汚いんですよ！　そういう苦しい思い出がありますね。

——ブラジルだったら、ブラジリアン・トップチームとかも行く予定ですか？



Satoshi Ishii

いしい・さとし■1986年12月19日、大阪府出身。中学から本格的に柔道を始め、04年に高校生ながら講道館杯全日本柔道体重別選手権大会100kg級優勝。06年には史上最年少19歳4カ月で全日本選手権優勝。08年、北京オリンピック柔道100kg超級で金メダルを獲得。個性的な放言も相まって、国民的なスターとなり、同年11月にプロ格闘家転向を正式表明。UFCでのデビューを目指している。柔道五段。181cm、108kg。

石井 自分を受け入れてくれるところだったらどこでも。風呂敷一つで乗り込みますから（笑）。そういえば昨日、あの選手に会ったんですよ。キャンセル・マチダ。

——リョート・マチダですね。「キャンセル待ち」って、どんな名前ですか（笑）。

石井 そのマチダ選手のお父さん（町田嘉三）が国士舘出身だって聞きました。で、「いつでもブラジルに来てくれ」って言われて。

——LYOTOと練習っていいですね。

石井 自分は「来てくれ」と言われたところには絶対に行くんで。行ってこようと思います。

——UFCとの交渉は、今回もされたんですか？

石井 昨日の夜、ロレンゾさん、デイナさん（ダナ・ホワイト）とお話しさせていただきました。内容については一切言えないんですけど、一つ決まったことがあるんです。

——なんですか？

石井「ヘビー級でいけ」と。

——ダナは昨年末「イシイはライトヘビー級」って言ってましたけど、変わったんですか？

石井 デイナさんは、自分がもっと軽いと思ってたらしいんですよ。体重はキログラムでしか言ってなかったんで、計算して初めて「いまは242ポンドです」って言ったら「じゃあ、ヘビー級だな」って。自分はずっとそう言ってたんですけど（笑）。

——石井選手は絞ってちょうどヒョードルぐらいの体重ですもんね。

石井 自分はもっと増やしたいんですけどね。髙阪（剛）さんは「筋肉で112キログラいまで増やしたらいい」って言ってくれて。昨年末、UFC側に「ライトヘビー」って言われたときは、正直自分でも落とすべきか迷ったんですけど、そのとき髙阪さんに相談したら「そんなふうに言われるんだったら、意地でもヘビー級でやろうよ。そのほうが自分にとってもいい」って言われたんで、よけいヘビー級でやりたくなったんですよね。「日本人がヘビー級の化け物どもを倒すのがいいんじゃん」っていう髙阪さんの言葉が心に残ってて。そういうふうに言ってくれる人がいる限り、ボクはヘビー級で意地を張り続けようと思います。

——髙阪さん自身が現役時代そうでしたからね。「ライトヘビーに落としたほうがいいんじゃないか」って言われても、頑なにヘビー級を貫いて、UFCで120キロの相手とやったり、PRIDEでは130キロのマーク・ハントとやったりしてましたから。

石井 自分も目指してるのはヘビー級の頂点なんで、意地を張ろうと思いますね。

——では、さらなる修行の旅、頑張ってください！

石井 はい。DS片手に世界へ冒険の旅に出てきます。

——ドラクエだけじゃなく、MMAの経験値もガッツリ上げてきてください（笑）。

石井 エスタークに楽勝できるように頑張ります！（笑）。

【09年1月31日／米国ネバダ州ラスベガス、ベラージオ・ホテル＆カジノにて収録】

――ラスベガスからお戻りになったばかりなのに、申し訳ありません！


んですけど。

――具体的にGSPのどこがどう凄かっ

けるというか、もう行くしかなくなるじゃないですか。だから、俺の場合は気持ちは

らきっちりこなされたら、勝つのもなかなか難しくなりますから。

――かつては欧米人ファイターも技が荒



GSPvsBJペン、そして俺のこれからを大熱弁！

世界の中の日本を考える
日本ってなんだっけ

郷野聡寛が体感したUFC.94世界最高峰

「モチベーションなんてこれっぽっちも落ちてませんよ!!」

世界最高峰の舞台UFCへ挑戦し続ける男・郷野聡寛を『UFC.94』後に直撃！
世界中の注目を集めていたGSPvsBJペン、そして郷野自身の試合について語ってもらった。
郷野が見据える"俺の今後"についての情報もキャッチ！

聞き手／松下ミワ　写真／石井史彦、Josh Hedges（UFC）、郷野聡寛

——ラスベガスからお戻りになったばかりなのに、申し訳ありません！

郷野　今日はUFCの話でしょ？

——ええ。まず〝衝撃の入場〟を含め、郷野さんの試合についてはのちほどたっぷりおうかがいしたいんですが、最初に『UFC・94』の大会直前に郷野さんから送っていただいたコラムを読んで驚いたんですよ。軽く流してるGSPの練習を見て、「GSPがパない！」というフレーズを連発されてたじゃないですか。

郷野　いやあ、GSPは凄かったですねえ（しみじみと）。ホントに軽く流してるのを見てただけなんですけどね。

——郷野さんでも圧倒されるようなパフォーマンスだったんですか。

郷野　もうね、パッと見ですけど、やってることがすべてが美しかった。技もきれいだし、投げにしてもタックルにしても、かたちがキッチリしてるうえにムダな力を一切使わずに上手にスパンスパンやってるような感じですよ。もう、マスターですよ、GSPは！

——そんなに完璧なんですか。

郷野　もろ違いますね。だって俺、見とれちゃいましたもん。

——実際の試合でもBJペンという怪物をもってしてもGSPが圧倒するような展開になりました。二人の実力や実績を知らない人間からすると、普通の一方的な試合というふうにも見えかねない試合にだったなという印象もあるんですけど。

郷野　予想外に一方的になっちゃったなというのがありますね。試合前も具体的にどういう展開になるということを予想してたわけじゃないですけど、前回がスプリットの判定だったんで、今回も競った試合で盛り上がるのかなあぐらい思ってたんですけど。

——具体的にGSPのどこがどう凄かったんでしょうか？

郷野　どこがどう凄いか……。難しいこと言いますねえ（苦笑）。でもまあ、BJペンの体調が万全かどうかもわからないですけどね。なんか、BJペンの動きも緩慢な感じに見えましたし。そこは実際にオクタゴンに上がってみないと調子はわからないですからね。



GSPの流れるような身のこなしに、試合前日のウォームアップから「見とれてしまった」という郷野。BJペンを前にしてもまったく乱れないこの動き。GSPが誰かに倒される画は、いまのところまったく想像できない。

——BJペンは何もさせてもらえなかったという印象ですよね。

郷野　俺も一方的にやられる展開になると、加速度的にどんどん疲れてきちゃうという場合もありますから、ただそれだけのことだったのかもしれないですし。

——やっぱり攻め込まれると、気持ち的にも体力的にも沈んでしまいますか。

郷野　いや、気持ちというより体力でしょうね。気持ちはね、逆によけいなものが抜

Gono Akihiro in UFC94

けるというか、もう行くしかなくなるじゃないですか。だから、俺の場合は気持ちは妙に集中できたりするのはありがちな話なんですけど。

——劣勢のときのほうがイケイケになれる、と。

郷野　逆に、勝ってるときのほうが勝利を意識し始めて、「このままミスしないで勝ちたいな」って思って攻撃にいろいろと迷いが生まれたりするんですよ。

——ある程度、優勢で残り時間が少なかったりしたら守りに入る気持ちも生まれますし。でも、逆に優勢だったGSPにはそういう雰囲気は見られませんでしたね。

郷野　そうなんですよねえ。BJペンが何か起死回生の一発を狙ってる様子もなかったし。でも、やっぱり今回の試合はレスリングの強さの差ですよね。

——普段の階級がGSPのほうが一つ上だというのも関係してますか？

郷野　まあ、あるでしょうけどね。GSPは減量してバキバキの身体になって、試合当日は体重もかなり戻ってるだろうから、それはボッチャリしてるBJペンだったら、人種的にも白人のGSPのほうが、フィジカルでは優位ですしね。

——ここまでトップの争いになると、人種のフィジカルの違いって重要になってきますか。

郷野　だと思いますよ。フィジカル的には黒人、白人、黄色人種という順番でしょ？　でも、しょうがないですよね。だから、日本人が勝負できるといったら、頭を使うというか、技術ですよ。たとえば俺がやってるセコい戦略とかもその一つなんですよ！　……って自分で言うのもおかしな話ですけど、やっぱり体力も含めて身体で上回ってる欧米人に技術から戦略からきっちりこなされたら、勝つのもなかかなか難しくなりますから。

——かつては欧米人ファイターも技が荒かったりとか、大振りな感じがしましたけど、GSPなんかを見てると、もはやそこには期待できないですよね。

郷野　たとえば、パンチ一つとってもGSPはちゃんとしてるんですよ。いま俺が教わってるボクシングのトレーナーで、野木さんという方がいらっしゃるんですけどね……。

——コラムにも書かれてましたけど、WBC世界フライ級チャンピオン・内藤大助さんのトレーナーでもある野木丈司さんですね。

郷野　その野木さんにGSP vsジョン・フィッチのビデオを観てもらって分析してもらったんですよね。そしたらやっぱり絶賛してましたから。パンチの打ち方もしっかりしているし、打つタイミングであるとか、ストレートの伸びであるとか、ボクシングを知ってる打ち方だって。

——お話を聞いていると、本当に基本的なことを教科書どおりにできるという印象なんですが。

郷野　うん、すべての基本が完璧なうえに応用も存分にできるという選手でしょうね。そういう選手だからこそ、本当に穴がないと思いますよ。だから、対戦相手にとっては「前日に大ゲリでもブッこいてくんねえかなあ」っていうね！　まさに神頼みですよ！

——もう、GSPとの試合は、GSPの体調次第ですか（笑）。

郷野　あそこまで見せられちゃうと、それしか突破口がないように見えちゃいます。しかも、俺は完璧な練習まで見てるから、よけいにそう思いますね。

――やっぱり衝撃でした？

郷野　いやぁ……、衝撃でしたね（しみじみと）。俺、自分の練習が止まりましたもん。

――ちなみに、GSP vs BJペンで、GSPのセコンドがインターバル中にワセリンを塗ったんじゃないかという〝ヌルヌル問題〟が勃発してますけど、あれはどう思われますか？

郷野　どうなるんですかねえ。俺、その件は英語慣れしようと思って海外のサイトを見て知ったぐらいだから、細かい内容までわからないんですよね。話は再戦までいってるんですか？

――お互いに、文句があるならそうしようという雰囲気にはなってるみたいです。

郷野　二人ともやる気満々なんですね。でも、それならまた盛り上がりそうでいいじゃないですか。いい煽りになりますよ。

――なるほど。で、今回はそんなGSPとフルラウンド闘ったジョン・フィッチが郷野さんの対戦相手でした。郷野さんはフィッチのことをかなり評価されてましたが、今回の試合はいかがでした？

郷野　試合をした感想としては……ああいう試合になったんですけど、やっぱり自分の中では絶望的な差じゃないなというのがありましたね。だから、頑張れば充分やれるなっていうのが率直な感想ですか。

――パッと見るかぎりでも体格差がかなりあるなと思ったんですけど、そこはあまり重要じゃなかったですか？

郷野　まあ、デカいはデカいですけどね。でも、俺はもっとデカいヤツと闘ってきてるきてるから、それと比べたらというのがあるんですけどね。だから、負けはしましたけど、このあいだの15分間の記憶というのは俺の脳ミソにも全身の細胞にも刻み込まれたわけですからね。これからそれを踏まえて練習していけるというのは大きな材料になったと思ってますよ。

――その絶対的な差じゃないと思った決定的な部分ってどこでした？

郷野　まあ、フィッチに関してですけど、立ってやり合ったら全然俺のほうがすべてにおいて上だなというのがありましたよね。最初、ちょこっとスタンドで交錯した時点で、ボクシングでやったらすべてにおいて俺のほうが上だという確信があったというか。パンチの重さにしても、技術そのものにしても。



[1.31 UFC.94]
米国 ネバダ州ラスベガス MGMグランドガーデンアリーナ
○ジョン・フィッチ vs 郷野聡寛×
(3R終了 判定3-0)

『UFC.94』で郷野はGSPとフルラウンド闘ったジョン・フィッチと対戦。郷野はフィッチにバックを取られ続けるという厳しい展開となったが、「打撃ではすべてが上だった」という手応えもアリ。次戦こそ勝利を！

kib in UFC94

あの入場で、負けたにもかかわらずファンに10分～20分囲まれました

――でもそう考えると、もったいない一戦ではありますよね。

郷野　だけど、やっぱり課題のレスリングであああいう結果になったという意味では、まだまだやらないといけないことはたくさんありますけどね。それは、これから詰めていきます。

――ただ、結果こそ残念でしたが、郷野さんといえば、観る側にとっては入場から油断できないファイターじゃないですか。今回の入場もまたブッ飛んでました！

郷野　…………しゃべっていいですか？（待ってましたとばかりに）。

――ハハハハ！　じつはあの大会で一番沸いた瞬間だったんじゃないですか？

郷野　いやいや、一番沸いたのはやっぱりメインの入場、そして試合開始前の期待感、そこからくる盛り上がりだったんですけど、まあ……二番目だったんじゃないですかね。

――二番目は奪取できましたか！（笑）。

郷野　UFCはファイトマネーとは別に毎回選手にボーナスを出してますよね。ファイト・オブ・ザ・ナイト、ノックアウト・オブ・ザ・ナイト、サブミッション・オブ・ザ・ナイトの3つですか。これね、ぜひエントランス・オブ・ザ・ナイトを作っていただきたい、と！

――郷野さん独占になっちゃうじゃないですか（笑）。

郷野　その賞さえあれば、俺も今回は6万5000ドルですからね！　……まあ絶対にない話ですけど。でも、それくらい盛り上がっていただけたと思ってます。

――聞くところによると、あのダナも笑って観てたという話ですからね。

郷野　でも、こうなるとUFCデビュー戦を思い出しますねえ。

――あ、そんな深い話になりますか。

郷野　あのときはですね、UFCもGONOという選手がそんな入場をやるとは知らなかった感じで、しかも第1試合でしたからね。まあ、観客もまばらな中で一人でタオルを振り回して入場したものの、ダダすべりですよ！

――なるほど、なるほど。

郷野　「やってもうた……」とへこみながらオクタゴンに入ると、そこから始まったんですけどね。でも前回のイギリス大会で成功したおかげで、今回はスタッフにもファンにも「楽しみにしているよ」と声をかけられたわけですよ。しかも、UFCのカメラスタッフのチーフみたいな人から「どこで何をやるか、本番のカメラワークのために事前にちょっと知っておきたいんだ」と言われてリハーサルまでさせてもらいましたからね。

――特別扱いじゃないですか！

郷野　ですからね、それはデビュー戦で一人ダダすべりだったときから比べれば、回を重ねるにつれて認められた感じがしますよ。まさに博打が吉と出たという感じですよ！

Gono Akih

フィッチ戦の感想としては……率直に、絶望的な差じゃないなって

――しかし、デビュー戦でうまくいかなかったにもかかわらず、なぜへこまずに二回目にチャレンジできたんでしょうか。

郷野 最後は開き直りです（キッパリ）。まあでも結果的には続けてよかったなあと思います。試合のあともね、負けたにもかかわらず、ファンが凄く囲んでくれたんですよ。10分～20分ぐらい足止め食らうくらいに囲まれましたから。

――そんなに人気者に（笑）。

郷野 なかなか部屋に帰れなかったんですよね。で、あまりにも足止めを食らうもんだから、菊田&山宮の御両名はさっさと部屋に帰ってしまって寂しかったですよ……。

――スターの宿命ですねえ。

郷野 でも、結果さえ出せば俺はここで日本人初のスターになれるという手応えはありましたね。その結果を出すということがめちゃくちゃ難しい舞台なんですけどね。

――ちなみに、郷野さんの今後の動きはもう決まってるんですか？

郷野 いや、まだなんにも決まってないです。今回フィニッシュはされなかったですけど、けっこうこっぴどくやられてるんで、一応コミッションから2月20日ぐらいまではスパーリング、コンタクト禁止という指令が出てるんですけどね。だから、殴り合うようなスパーリングはできないですけど、走ったり、課題の組み技をやったりとかは、もう来週からバチバチやろうとは思ってます。

――もう練習再開ですか。ちょっと早くないですか？

郷野 でも、フィッチとやって、絶望的な差までは感じなかったというのと、結果さえ出せばUFCでスターになれるという手応えがあるんで、その二つでモチベーションが上がってるんですよ。だから、これで結果を出したらどうなるんだろうという、その先を見たいと思いましたね。



郷野が「この日、二番目の盛り上がりだった」と自信を持つ見事な入場には、会場のファンもGRABAKA軍団扮する「矢島美容室」に大盛り上がり。WOWOW中継では音響の関係か盛り上がりがイマイチだったようにも見えたが、それは大きな間違いである！

――逆に目標が明確になったんですね。

郷野 そのために結果を出してみたいし、まあ本当に英会話を習い始めて2連敗なんで、英会話を披露する機会にまだ恵まれてないというのもありますし、そこはなんとか勝ってオクタゴンでしゃべりたいですけどね。そういうのを考えたらまたモチベーションはつきないどころか、上がってますよね。

――で、じつは今回の『kamipro』の特集が「世界の中で日本はどうあるべきか」がテーマなんですけど、世界トップを目の当たりにした郷野さんから見て、たとえば日本人ファイターは世界に対してどこにつけ入る隙があると思いますか？

郷野 ……知らん（キッパリ）。どーでもいい。やっぱり俺は俺のことで精一杯ですからね。それに日本人も選手によって性格も違うし、体格も違うし、できる技の種類も違うし、本当にそれぞれ見つけていくしかないですよ。

――そんなもん自分で考えろ、と。

郷野 そりゃ、そうでしょう。ただやっぱり実際に少し考えると、一番は言葉ができれば向こうでやっていくにしてもストレスがだいぶ減りますから、それは一番大きい部分なんじゃないかと思うんですけどね。アメリカでトレーニングするにしても、アメリカで試合をするにしても。

――郷野さんも英会話をやるようになって変わりました？

郷野 まあ手前味噌ですけど、日常生活だったらぜんぜん問題なくいけるなっていう手応えは英語でも感じてますよ。

――お話を聞いてると、アメリカでの生活を視野に入れた発言に聞こえるんですが、そういう意味で海外修行とかも考えてたりするんですか？

郷野 フフフ。まあ見ていてくださいよ。

――おお！　じつは、その気満々だったりするんですか。

郷野 でもまあその気持ちは昔からあるんですよ。2005年、ダン・ヘンダーソンに負けたときからアメリカン・トップチームのリボーリオというチーフに「一緒に練習させてくれないか」という話はずっとしてましたしね。

――そうなんですか！

郷野 やっぱりアメリカは一つのジムにすべての分野のスペシャリストのコーチが集まってるジムが多いですからね。日本は出稽古が主流ですし、GRABAKAも寝技の練習がメインで、打撃の練習はみんな足立区の『パワー・オブ・ドリーム』に行ってますから。ただ、毎年手術があったりとか、ケガがあったんで、なかなかタイミングが合わなかったんですよ。でも、それもようやく落ち着いたんでね。

――では、行くとしたらそろそろですか。

郷野 そうなんです。やっていけるようにはなってるんで、まあ見ててください。

――では、アメリカから『kamipro Move』のコラムが送られてくる日も遠くないということですね。

郷野 それ、かなり可能性ありますから。

【09年2月8日／電話取材にて収録】


太っ腹な郷野聡寛さんからUFCキャップを5名様にプレゼント!



郷野聡寛のコラム『Gの文豪』(http://blog.livedoor.jp/gono/)にて「今週、取材が入っている媒体のどれかで」プレゼントを出すことが予告がされていたが、なんと『kamipro』がそのプレゼントをGET！　というわけで、郷野さんのお土産のUFCキャップがほしい方は143ページの応募要項にしたがって、どんどん応募してください！　抽選で5名様にプレゼントいたします。



UFCはそんなに凄くなかったですよ。技術はボクのほうが一歩先に進んでる。ファッシ



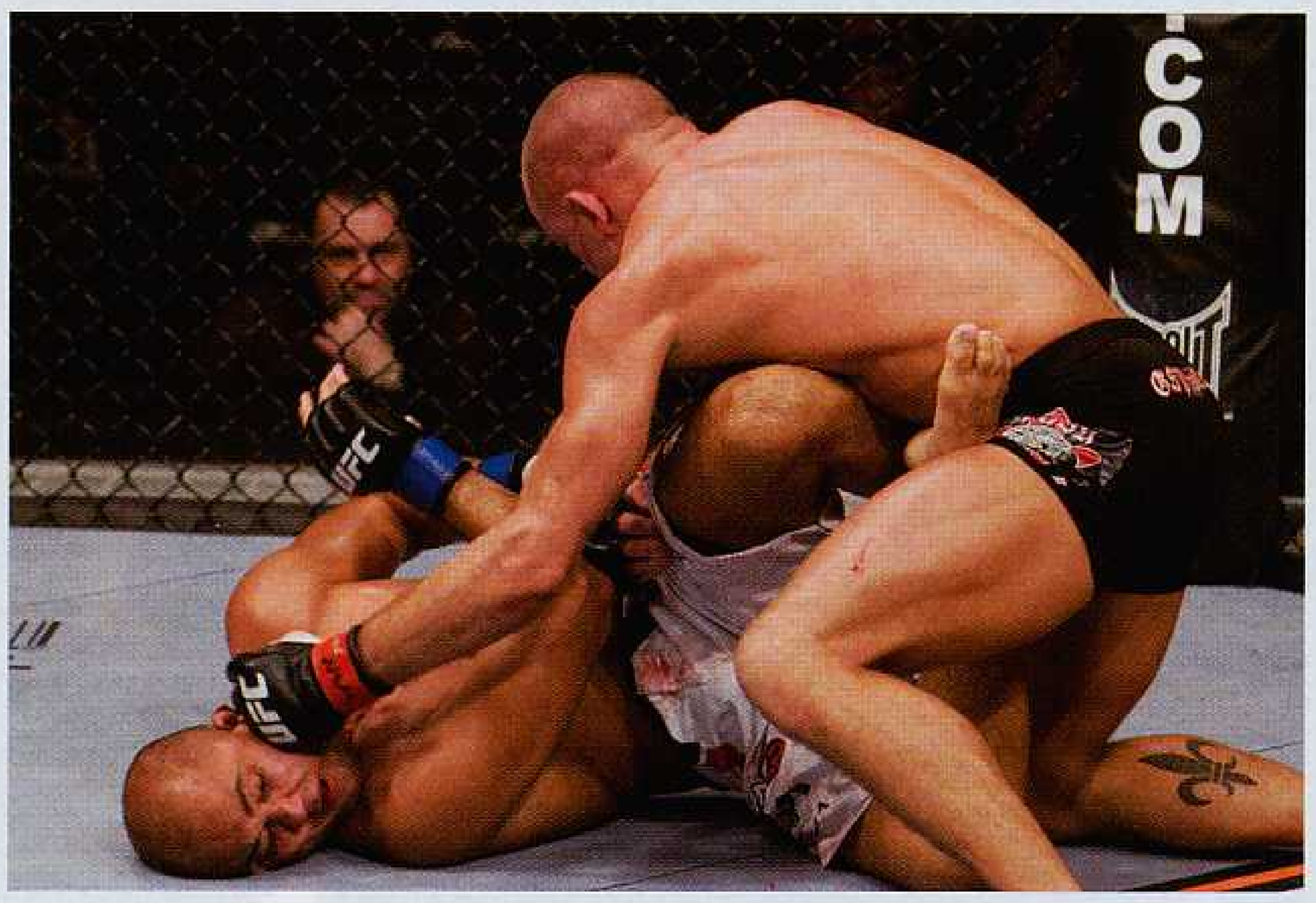
術はボクのほうが一歩先に進んでる。ファッションで騒いでるヤツは説教してやりますよ!

日本はオレが守る!!
『DREAM.7』→『DREAM.8』へ
“自称・大黒柱”が決意の連戦志願!!

青木真也

ドーピング？ そんなの関係ねえです！

――ワオ木さん、今回は〝世界の中の日本〟という特集なんですよ。
青木　はいはい。
――で、アメリカ在住の有名格闘家や関係者50人に日本で一番有名な選手は誰？　という緊急アンケートを実施したんですよね。
青木　へぇ～。誰が一番だったんですか？
――なんと！　青木さんとKIDさんが同票で首位だったんですよ。
青木　KID選手と！　……「次やっても一緒だと思うけど。フフッ!!」（青木vsカルバン戦後のKID調）。
――あ、いきなりモノマネですか（笑）。
青木　そうですか。ボクって有名なんだ！
――やっぱり世界が恐れる天才グラップラーですから。
青木　それは嬉しいなあ。いつも『kamipro』から〝三の線〟扱いされてるから、よけいに……（遠い目で）。
――きっとアメリカ人にとって青木さんは、ファイトスタイル的にも〝未知の強豪〟なんでしょうね。ダナ・ホワイトは「シンヤ・アオキなんて見たことない!!」って吐き捨てていたそうですけど（笑）。
青木　なんだよ、警察学校時代にBJペン戦でオファーしてきたくせに！
――いや、ダナにそう蔑まれたら一人前ですよ（笑）。だから、同時期に『アフリクション』やWECもあったことだし、青木さんには『UFC94』視察へ行ってほしかったんですよね。
青木　……金がねえ!!（長渕剛調）。
――は？　なぜ長渕剛!?（笑）。
青木　（無視して）お金があったら行ってますよ！　ボクはスーパースターの皆さんと違って、お金がないんです。
――じゃあ、お金があったら行きたかったんですか？
青木　いや、そうでもないけど。
――どっちなんですか。
青木　ボクはDEEPジムのパソコンで観てましたよ。日曜の朝からジムで待機して、ちゃんと接続されるかどうかドキドキしながら動画を観てたんですから。
――それ、単なる変態ファンですよ！（笑）。ボクはアメリカにぜひとも行ってほしかったんですけどね。
青木　どうして？
――このタイミングで青木さんがUFCに行ったら、それだけで話題になるし、DREAMの宣伝にもなると思ったんですけどね。それにBJペンvsGSPって生で観たくなかったですか？
青木　全然！
――青木さん、無理しなくていいですよ。



UFCウェルター級タイトルマッチとして行なわれたGSP vs BJペンのスーパーマッチ。一階級下のBJペンがGSPの圧倒的なフィジカルの前に屈する結果に。4ラウンド終了、レフェリーストップでGSPが防衛をはたした。

okShinya

青木　ホントに！　結果的にそんなに凄い試合だと思わなかったですし。
――青木さん、無理しなくていいですよ。
青木　ホントにっ!!
――みんなあの試合を「凄い、凄い!!」ってほめてますけど？
青木　う～ん……。あの二人は凄いですけど、今回の試合はそうでもなかったし、ファッションで騒いでる人がほとんどだと思うんですよ。
――ファッション？
青木　確かにBJペンとGSPは凄いよ？　LYOTOも凄い！　でも、UFCに出ている選手全員が凄いわけじゃない。たとえば、ネイト・ディアスとクレイ・グイダ。彼らはボクと同じライト級ですけど、今回の動きを観るかぎり、ボクとやったらあっという間に終わりますよ！
――へぇ～。レベルの高さは感じなかったわけですか？
青木　全然たいしたことないなって。みんなが興奮して騒ぐほど凄くはないですよ。そんなに騒いでいるヤツは説教してやりますよ！「地に足ついてんのかよ、おまえら!?」（長渕剛調）。
――だからなぜ長渕剛!?　似てるからいいけど（笑）。でも、BJとGSPのレベルは高いんですよね？　その試合の感想を聞きたいんですけど。
青木　とにかく今回はGSPの固～い作戦がハマったんじゃないですか。体力を削って、仕掛けを潰して、ダメージを積み重ねる物量作戦。太平洋戦争のアメリカ軍的攻撃というか、BJペンには真珠湾攻撃的な奇襲攻撃が必要でしたね。まあ、今回のGSPペースの試合を日本でやってもおもしろくないと思います。
――なるほど。じゃあ世界最高峰という

ぜ！　と。
――日本には日本のやり方があるし、生き

か、UFCというブランドがあるからこそ観られるんですね。
青木　それは間違いない！　これはUFC全般に言えることですけど、テクニックに関してはボクのほうができんじゃねえかなって。ボクのほうが一歩先に進んでる。だからUFCに対してちょっと残念な気持ちがあったし、「世界でもやっていける！」っていう自信がつきましたね。
――DEEPジムのパソコンから自信を深めてましたか。しかし、いまのUFCがそんなにたいしたことないって言いきっちゃうのは凄いですね。
青木　いや、たいしたことはあるんですけど、みんなが揃って「アメリカ、バンザ～イ！」してるほどたいしたことねえぞ！　って。「地に足ついてんのかよ、おまえら!?」（長渕剛調）。
――そんな青木さんのサブミッションをUFCで観たいっていうファンや関係者は多いんですけどね。だからこそのアンケート1位なんでしょうし。
青木　ホントにありがたいですね。押忍!!　ボクもやりたいですけどね。ただ、そのためにDREAMに出られなくなるんだったらダメです。まずはDREAM優先です。
――要するに、一生DREAMでしか闘いません！　と。
青木　ああ、似たようなことを言ってた時期もありましたねぇ……（遠い目で）。
――青木さんが宗旨替えした経緯は小社刊の『PRIDE機密ファイル』をお読みください（笑）。
青木　真面目な話、UFCでやるにしても、日本の活動が制限されるんだったら無理です。ワンマッチ契約でBJとやらせてくれないかな～。
――なるほど。青木さんはドーピング問題はどう思われますか？
青木　そんなの関係ねえです！　なんで

――じゃあ、お金があったら行きたかった

――青木さん、無理しなくていいですよ。

――なるほど。じゃあ世界最高峰という

てくれないかな～。

ドーピング？ そんなの関係ねえです！ 改造人間でもなんでも、かかってこい!!

――そういえば、ストライクフォースがエリートXCを買収したことで規模が大きくなるそうですけど、それに乗じてDREAMとの協力関係が強化されそうな情報も流れてますね。そうしたら契約の縛りもなくアメリカで試合ができそうですよ。

青木 それ、いいですねぇ！（目を輝かせて）。金網でヒジありでやりたいっ!! もうビッシビシいくぞ！（星野総裁調）。

――今度は星野勘太郎（笑）。

青木 でも、何度も言うように、ボクのホームはDREAMですから。それがDREAMのためになるならやりたいですね。で、年明けにいろいろ考えたんですよ。ちょっとカッコイイっすよ？

――とっととしゃべってください。

青木 「青木真也はBJペンになりたいの？ それとも桜庭和志になりたいの？」って考えたんですよ。で、ボクはBJペンじゃなくて桜庭和志になったほうがカッコイイなあと思って。

――それはどういうことですか？

青木 いや、競技志向の記者の方に「BJペンはUFCを背負っていない。だから青木真也もDREAMを背負う必要はないんじゃないか？」って言われたんですよ。それは素晴らしい考えだと思います。あなたは正しい。でも、ここはジャパンだぜ！ と。



DREAMウェルター級GPへの出場が決まったワオ木さん。いまでこそ70キロ以下を主戦場としているが、修斗時代は76キロ以下級の選手であり、じつはいまでも修斗世界ミドル級チャンピオンなのだ。写真は早稲田大学時代、"寝技大魔神"こと菊地昭から王座を奪取したときのものです。

――日本には日本のやり方があるし、生き方がある！ と。

青木 誰かがやらなきゃならない状況があったら、ボクは日本を守ります。そこでクールに気どるのはロマンがないなあと思って。

――でも、選手にとってはいまのアメリカは理想的な環境なんじゃないですか？

青木 それもファッションで言ってますよ、絶対。とくに競技だとか競技じゃないとか騒いでるアメリカかぶれの記者はわけがわからんですね。みんなが思ってるほど、マスコミが報道してるほど、アメリカは競技じゃないとボクは思います。死ぬほど黒い部分だってあるでしょ。

――今回のGSPのワセリンの問題はどう思いました？

青木 いや、あれ自体はべつに黒くはないんでしょうけど、もっと興行として日本と変わらない部分もあるなって思うんですよ。UFCが競技って言うんだったら、なんで岡見（勇信）選手がいつまで経ってもアンデウソン・シウバに挑戦できないの？ LYOTOだってそう。おかしいでしょ。なんで外国人同士のチャンピオンシップはやらないの？ ってことですよ。

――それはチケットやPPVのセールスに問題があるからでしょうね。

青木 プロモーターが存在して、ビジネスとして成り立ってる以上、最終的には競技じゃないんです。見せ方として競技っぽくしてるだけなんじゃないかなって。

――でも、UFCは日本よりは競技に近いっていうふうに言われてますよね。

青木 そりゃそうでしょうけど、ボクはMMAをやってますから。サーカスじゃなくて競技をやってますから。

――なるほど。青木さんはドーピング問題はどう思われますか？

青木 そんなの関係ねえです！ なんでもいいから、かかってこいっ!!

――ダハハハ。

青木 全然ウェルカム。どんな改造人間でも全員ぶっ壊してやります。正直な話、ステロイドを打ったからって全員がマッチョで強くなれるわけじゃないし、ステロイドを打って金メダルを獲れるんだったら、みんな打つでしょ。けど、素質だったり努力があってのことだから。

――青木さんは打たないんですか？

青木 打つお金がない!! ククク。

――また誤解を招く発言を（笑）。ステロイドってけっこう高いらしいですね。

青木 本気でやると1年で300万ぐらいかかるらしいよ。そんなお金はありません!! だからできるのは一部のトップファイターだけですよね。

――青木さんが打ったらおもしろそうですね。

青木 おもしろくない？ 上半身だけ発達してあとは以前のままなの（笑）。

――ダッハッハッハッ。じゃあ、青木さんは日本のプロモーションに不満はないんですか？

青木 不満はあります。

――たとえば？

青木 う～ん、たまに「ちょっとそれは違うんじゃないの？」っていう試合が行なわれることかな。不満というか、恥ずかしいなっていう。だから日本はナメられんだよみたいな。ボクはナメられる日本人が嫌いなんですよ。だからファッションで「アメリカ凄～い！」って騒いでほしくないんですよね。凄いものは凄いって認めるけど、日本にだって凄いものはあるんで

すよ。ジャパンドリームもあるんですよ！

――でも、日本が昔みたいに世界最高峰に戻れるかっていうと、ちょっと不安なところはあるじゃないですか。

青木　いや、簡単には戻れないでしょ。っていうか、その前にすべてのバブルが弾けるでしょ。

――アメリカも大変みたいですしね。

青木　ボクは全格闘家に言ってやりたいことがありますよ。もう、昔と同じじゃないんだから、安いファイトマネーで試合しろ!!　って。

――確かにファイトマネーはちょっと上がりすぎですね。ファイトマネーを日本でも公開すべきだと思いませんか？

青木　べつに公開しなくていいんじゃない？

――「こんなに大金もらってモチベーションやマッチメイクがどうとか不満を言ってんのか？」っていうのがファンにもわかるじゃないですか（笑）。

青木　それ、いい!!

――ファイターの評価はガラリと変わると思いますけどね。しかし、青木さんはもっと安くてもいいんですか？

青木　しょうがないんじゃない？　でもボクは、どんなことがあろうと食ってく自信があるし、DREAMをもっともっと盛り上げたいし。

――なるほど。団体を背負うっていう意味では、今年のDREAMはフェザー級GPとウェルター級GPがありますけど、青木さんはライト級のワンマッチでやっていくつもりなんですか？

青木　いや、青木真也はウェルター級GPでビッシビシいきますよ！

――ホントですか！　PRIDEに上がる前の修斗では76キロ以下級でやってましたけど……それはどういう理由からですか？

青木　一番はDREAMのためっすよね。だって盛り上がるじゃん。だったらやるべきでしょ！

――青木真也個人としてはどうなんですか？　いまの青木真也にウェルター級GP出場が必要かといえば、ぶっちゃけ必要はないですよね。

青木　でも、いまのDREAMにはボクのウェルター級GP出場は必要なんです。それにライト級チャンピオンのヨアキム・ハンセンの復帰時期がわからないんだっ



青木の『DREAM.7』から『DREAM.8』への連戦志願に「ナメている」と表情を曇らせたマッハ。二人は修斗時代に一度対戦しており、そのときはマッハがスプリットの判定で勝利している。もし再戦が実現すれば、この対戦はウェルター級GPの大きな目玉になる。層が薄いDREAMウェルター級のブランドを高めるきっかけともなるだろう。

Aoki Shinya

DREAMを盛り上げるために ウェルター級GPに出ます!

たら、そのあいだにウェルターに挑戦してもいいかなって。

――青木さんとしてはどっちでやっていきたいんですか？

青木　そりゃあ、ライト級っすよ！　ウェルターは限定挑戦です。

――でも、前にウェルターから70キロのライトに落としたとき、慣れるまで時間がかかったって言ってたじゃないですか。

青木　そうなんですけどぉ……、ま、ゴタゴタ言ったところで、結局はやるわけじゃないですか。

――ま、やりますね（笑）。

青木　結局はやるんだもん！　それにボクとマッハさんがやったら盛り上がるでしょ。青木が『バカサバイバー』で入場して、マッハさんが『エレキマン』で入場するって、ヤバくない？

――そうですね。できることなら1回戦でやってほしいです。

青木　そうなんですよ！　1回戦から盛り上げたいんですよ。DREAMもまだまだ根づいてねえですから、最初からハデにやらないと。ボクにはその使命があるんです。

――いま日本は苦しいですし。

青木　苦しい！　どこも苦しい。世界的経済不安だからね。

――UFCの親会社ステーションカジノも倒産しますしね。

青木　UFCはどうなんの？

――ダナ・ホワイトとジョー・シルバが主導権を握ってるぶんには大丈夫だと思いますけど……。UFCは黒字で絶好調だからこそ、債権として狙われてるみたいですね。

青木　経済的社会不安ですけど、そのときにどうするか。やっぱり、お金に代わる何かを見つけなきゃいけないですよね。それはライフスタイルだったり、なにかしらの価値観を見つけていかないと。

――青木さんはあまり物欲主義じゃないですよね。

青木　ボクはもう究極の資本主義を超えたから！

――凄いことを宣言しますね。青木というより猪木だ（笑）。

青木　1989年にさ、資本主義と社会主義が闘って、資本主義が勝ったわけですよ。その資本主義でさえ限界が来たわけよ。来たというか、来るとされてるんだけど。正直、ボクは試合をしてホテルに泊まって、ごはんを食べられればそれでいいんです。

――資本主義の恩恵はそこだけで充分ですか（笑）。

青木　ボクが試合をするモチベーション、勝つモチベーションは、ホテルに1泊させてもらえるモチベーションなんですよね。

――そんなもんでいいんですか？

青木　全然いい。ボクには野望がありますからね。世界で一番強くて、一番イケてるファイターになるっていう。今年もDREAMでビッシビシいきます!!

【09年2月4日／都内・DEEPジムにてビッシビシ収録】

2月12日、青木真也が4・5『DREAM・9』にて行なわれるDREAMウェルター級GPに出場することが正式に発表された。なんとなんと、その席でワオ木さんは笹原イベントプロデューサーに3・8『DREAM・7』への出場も直訴！　大丈夫か、ワオ木!?　この号が発売される頃には正式に発表されているはずだ。08年の活躍も凄かったが、今年のワオ木さんもやってくれそうだ！　生き残れ、これ！

世界の中の日本を考える
日本ってなんだっけ



KIDヤマモトも俺のもの!?

KID、宇野、石井慧、そして秋山成勲……
“日本の宝”根こそぎ強奪宣言!!

「UFCこそが“彼ら”の目指すべき場所なんだ」

ダナ・ホワイト
[UFC代表]

おまっとさんです! 毎度おなじみ“ジャイアン・リサイタル”の時間がやってまいりました!
GSPvsBJペンというビッグカードが組まれ、大注目を集めた1.31『UFC94』。
日本からも山本KIDをはじめ、石井慧、宇野薫、五味隆典、さらには谷川さんなどが集結したが、
そんな“日本の宝”をダナは根こそぎ強奪することを宣言した!(谷川さんは除く)。

聞き手/堀江ガンツ　通訳&扉写真/石井史彦

木さんはライト級のワンマッチでやって
ハンセンの復帰時期がわからないんだっ
にどうするか。やっぱり、お金に代わる何
やってくれそうだ! 生き残れ、これ!

――ダナ代表！　明日のＧＳＰvsＢＪペンは、試合前から凄い盛り上がりですね！（大会前日に収録）。

ダナ　このカードこそ、誰もが観たいカードだからな。今回はおまえらもファンみたいな気持ちで来たんだろう（笑）。

――まあ、それは否定しません（笑）。

ダナ　この試合はファンが観たいカードであり、俺自身が興奮するカードであり、メディアもそしてほかのファイターも観たいカードなんだ。こんな試合はなかなかないだろう。とにかくビッグナイトになるよ。

――今回は日本のトップファイターたちも、ここラスベガスに何人も来てますけど、そういった状況についてどう思いますか？

ダナ　彼らがここに集まるのは、あたりまえのことだよ。数年前、日本ではクレイジーなほどにグレートファイターが一堂に集まったイベントが行なわれていたが、そこに上がっていたグレートファイターは、いまやみんなＵＦＣで闘っているんだ。そりゃＫＩＤたちも来たくなるはずさ。ここＵＦＣこそが、彼らが目指すべき場所なんだよ。そして彼ら自身も、ＵＦＣこそが自分の闘う場所だと知っているんだ。ファイターの選手寿命、とくにプライムタイムは非常に短い。彼らはチャンスのウィンドウが閉ざされる前にこっちに来て、ＵＦＣの一員になりたいんだよ。

――みんなＵＦＣに出場したいから来ている、と。

ダナ　ましてや今回行なわれる試合はＧＳＰとＢＪペンの世界最高峰の一戦だ。この試合を観たら、ますますＵＦＣへの思いは強くなるだろう。超満員の観客、その観客が作り出すエネルギー、そしてオクタゴン内で展開される至高の闘い、それらを感じたら、いても立ってもいられなくなるはずだ。



――ダナ代表は今回来ているＫＩＤ、宇野、石井慧らについて、どのように評価していますか？

ダナ　まずＫＩＤヤマモトについては昔から大ファンだよ。最初に会ったのはたしか7〜8年前のハワイで、ＡＫＡのジョシュ・トムソンとの試合のときだ。そのとき素晴らしいペースで試合を展開しながら、残念ながらローブローが入ってノーコンテストになってしまったのを覚えている。俺がなぜＫＩＤのことが好きかといえば、彼がアグレッシブでミーン（意地悪）なファイターだからさ。再会できてうれしいよ。

――契約する意思はありますか？

ダナ　もちろん契約したいが、彼はいま他団体と2試合契約を残しているから、それがクリアになってから話をしようと言ってあるんだ。ただ、ＫＩＤ自身は「昔からここで試合するのが夢だ」と言ってくれている。それだけでなく「自分のキャリアをアメリカで終わらせたい」とまで言ったんだ。その思いをぜひ実現させたいね。

――ＫＩＤが契約した場合、ＷＥＣのバンタム級になりそうですか？

ダナ　ＫＩＤは俺にこう言ったんだ。「もしこっちに来るなら、ＷＥＣでミゲール・トーレス（ＷＥＣ世界バンタム級王者）と試合がしたい」とね。そして、タイトルが獲れたら、今度は階級をフェザーに上げてユライヤ・フェイバーのタイトルに挑戦したいとね。

――早くも二階級制覇をぶち上げてますか！　契約したら、すぐにミゲールと闘うチャンスはありそうですか？

ダナ　まず、最初はミゲール以外のバンタム級トップクラスとやらせる。それに勝てばミゲールとのタイトルマッチだ。

――2戦目でタイトルマッチ！

ダナ　彼ほどの実績を持つ選手なら、"査定"は一試合で充分だろう。すべては彼が他団体との契約を満了し、クリーンになってからの話だがね。

――宇野選手はどうですか？

ダナ　カオル・ウノも大好きだよ。彼はＵＦＣファミリーの一員と言ってもいい。"家"に帰ってくる気になったら、いつでも歓迎する。

――ただ、宇野選手はここ数年、トップファイターとの対戦では、あまりよい結果を残せていませんが……。

ダナ　確かにそのとおりだ。でも、俺はウノをファイターとしてだけでなく、彼の人間性を気に入ってるんだ。そしてウノは、ＵＦＣのオリジナルメンバーの一人であると俺は思っているしね。

――では、契約が問題なければ宇野選手と話をするということですか？

ダナ　契約があろうがなかろうが、どこの団体で闘っていようが、常に彼はＵＦＣファミリーの一員なんだ。極端に言えば、彼はここで試合をしなくてもいいんだ。離ればなれになっても家族は家族だ。どこにいようと、彼は永遠のＵＦＣファミリーの一人なんだよ。



KIDのほか、同行した朴光哲、宇野薫、石井慧、さらには五味隆典、サダハルンバ谷川らが訪れた1.31『UFC94』。それだけの求心力がいまのUFCにはある。

――石井慧選手との契約の話は進んでいますか？

ダナ　オファーは出したよ。ただ、彼には日本の団体からも億単位のオファーが入っている。あとは彼自身が決めることだ。宝くじを買うのか、それともこちらに来てベストファイターになるのか。俺は日本式のやり方は信じてないけどね。

――日本式のやり方というと？

ダナ　才能あるルーキーに無茶なことをやらせて、殺してしまうようなことさ。たとえばサクラバ（桜庭和志）がいい例だ。日本の団体はＭＭＡの宝に対して階級違いの無謀な闘いをやらせ続け、ボロボロにしてしまった。サクラバのようにならないためにも、イシイはまず、こっちで適正のウェートクラスで試合をして、じっくり育てなければならない。彼がアメリカに来て、ミックストマーシャルアーティストになる手順をちゃんと踏めば、間違いなくスーパースターになるよ。そのほうが絶対、彼にとっても正しい判断のはずなんだ。ただ、イシイが「宝くじ」を選ぶなら、それはそれでいい。すべて彼次第だ。

アオキ？ 聞いたことはあるな
言葉遣いに気をつけたほうがいい

すか？

ダナ　いつも言っているとおり、Ｕ



『UFC94』の二日前、リアリティショー『TUF』が収録されているUFCのジムにわざわざKIDを招待したダナ。将来的なKID獲得を本気で狙っているようだ。

他団体との2試合契約を消化したら、KIDにはぜひUFCに来てほしい

DANA WHITE

だ、イシイが「宝くじ」を選ぶなら、それはそれでいい。すべて彼次第だ。

――UFCには石井選手との独占交渉権があるんじゃないんですか？

ダナ　独占交渉権があるといっても、俺は彼の人生を縛らない。我々はUFCファイターになることを強制することはできないからね。ただ、もし彼が日本の団体を選ぶなら、それは処刑されることを望むようなものだ。おそらく彼が日本の団体と契約したら、いきなり経験豊富なファイターと2ミリオン（約2億円）の金で試合をさせられるだろう。なぜなら日本の団体は存続の危機にあるので、彼のようなネームバリューのある選手のビッグファイトがすぐにでも必要なんだ。DREAMは間違いなく彼を必要としている。でも、UFCは違うんだよ。時間をかけて必要な人材になってもらおうとしているんだ。

――逆に言えば、UFCは最初から大金を支払う気はない、と？

ダナ　我々はファイターの価値に見合う金額をちゃんと支払っている。たとえオリンピックのゴールドメダリストといえども、MMAデビュー戦の人間にミリオンの金額を払うほうがどうかしてるんだ。まあ、とにかく彼が決めることだよ。宝くじを買うのか、ベストのパートナーとベストのファイターを目指すのかね。

――もう一人、柔道出身の大物、秋山成勲選手のことは知っていますか？

ダナ　ああ知ってるよ。

――彼は韓国系の日本人で、日本と韓国両方でバリューがあります。そして昨年末、DREAMを自由契約になりましたが、彼に興味はありますか？

ダナ　いつも言っているとおり、UFCは世界各国のテレビ局とタイアップしながら、さまざまな国に進出していくんだよ。そういった意味で、アジア市場を考えれば当然、アキヤマには興味を持っているし、ほかにも興味がある日本人ファイターは何人かいる。UFCは世界中からベストのファイターを集めたいんだ。

――日本が誇るライト級のトップファイター、青木真也選手のことは知っていますか？

ダナ　聞いたことはあるな。

――どんな印象を持っていますか？

ダナ　名前を聞いたことがあるだけで、試合は観たことがないんだ。印象もクソもないな。

――彼は昨年の大晦日、エディ・アルバレスに勝ったあと「ダナ・ホワイトよく聞け！　日本がナンバーワンだ！」とマイクで叫んだんですが、それはご存知ですか？

ダナ　ふん、知らないな。世界中でいろんなヤツが、俺の名前を出して好きなことを言ってるんだ。ファック！　そんなものいちいち気にしていられないだろう。まあ、その日本人に一言だけコメントするなら、世界一のMMAプロモーションのトップに対する言葉遣いに気をつけろということぐらいだ。

――1・24『アフリクション』でのヒョードルvsアルロフスキー戦はご覧になられましたか？

ダナ　ヒョードルについてはここ数日、クソほど聞かれたさ。だが、試合は観ていない。神に誓ってもね。

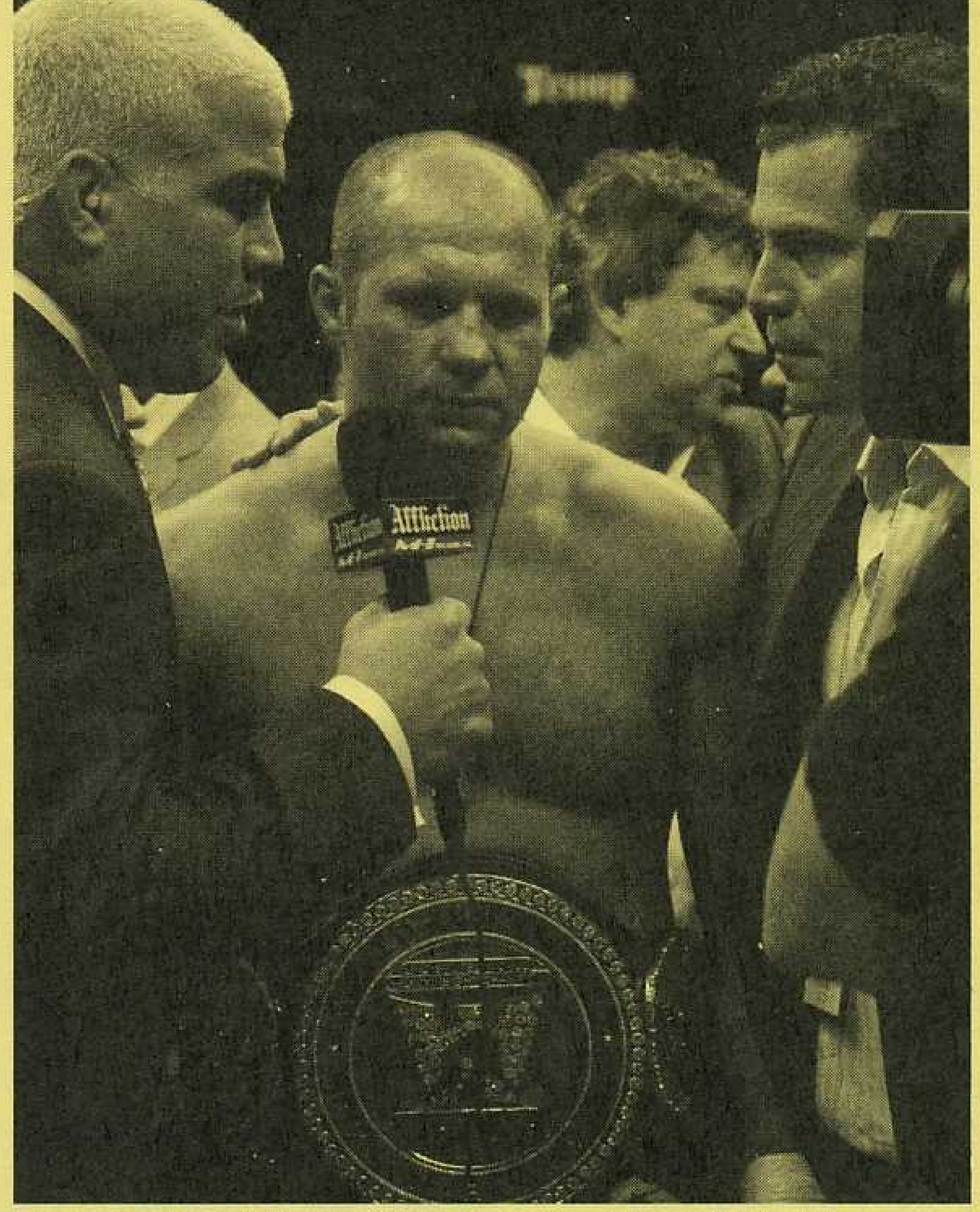
――神に誓っても（笑）。

言葉遣いに気をつけたほうがいい

ては彼が他団体との契約を満了し、

一人なんだよ。

っても正しい判断のはずなんだ。た



ティム・シルビアに続き、アルロフスキーも下し、元UFC王者を連続でKOしたヒョードル。インタビュアーが"天敵"ティト・オーティズだということも含め、ダナにとっては歯ぎしりするような画だろう。

ダナ どうせおまえらは、俺に「ヒョードルがナンバーワンです」とでも言わせたいんだろう？ そんなこと口が裂けても言うわけないだろ！ 残念だな。

――質問の意図が見透かされてましたか（笑）。では、ヒョードルのことはまだ認めてないわけですか？

ダナ いや、認めていないわけではない。もちろんヒョードルにはUFCで試合をしてもらいたいと思っている。だが、彼がUFCに興味を示してないのに、なぜ俺がそいつのことを気に留めなきゃならないんだ？ 確かに彼は強い。トップファイターの一人だとは認めよう。ただ、パウンド・フォー・パウンドのベストであるかどうかはわからない。だから、俺はそれが知りたいんだ！ ファンだってそうだろう。ヒョードルが「世界最強だ」と言うなら、UFCに来て、それを証明してくれ。それこそが誰もが納得する解決方法だ。

「ヒョードルがナンバーワンです」なんて口が裂けても言うもんか！

――実際、ヒョードル参戦についての交渉は行なっているんですか？

ダナ もちろん彼のマネージメント側とは何度も話をしている。でも、あのクレイジー・ロシアンは「弟がロックコンサートのイベンターをやっているから、まずはロシアにMMAのアリーナを共同で建てて、UFCロシア大会を共催したい」とか言いやがるんだ。なんで俺があいつらとロシアにアリーナをおっ建てなきゃならないんだ⁉ 俺がほしいのはヒョードルだ。そしてヒョードルを獲得するために充分な金を払うんだ。そして、UFCに来てくれれば、しっかりとプロモーションして、アメリカで成功させようとしているんだ。あのクレイジー・ロシアンどもと話をすると、いつの間にかヒョードルの話じゃなくなる。世界中のMMAファンの誰もが観たがるヒョードルのUFC参戦を阻んでいるのは俺じゃない。あいつらなんだよ！

――M−1グローバル首脳陣が全部悪い、と。

ダナ 俺はヒョードル本人とは会ったこともないし、悪口もファッキンワードも言っていない。俺が嫌いなのは、ヒョードルを食いものにしてるマネージメントの連中だ。ファッキン、M−1！ とにかく、あいつらは何がやりたいんだかわからない。そして、不幸にもヒョードルの契約を持っているのはあいつらだ。このままじゃ、ヒョードルが貴重な現役生活を無駄にすごしてしまう。ヒョードルがチャンピオンだと言うなら、チャンピオンらしい防衛スケジュールで、それにふさわしい相手と闘うべきだろう。ここUFCでは、GSP、BJ、アンデウソン・シウバら真のベストファイターたちが年3回、最強のチャレンジャー相手にベストファイトを行なうんだ。でも、ヒョードルはそれをやってない。チャンピオンなら、ちゃんと年3回、ベストであることを証明すべきだ！

――ヒョードル以外に、いまUFCに上げようと動いている選手はいますか？

ダナ（ミルコ・）クロコップのマネージャーとは先週話したし、（アリスター・）オーフレイムとも話している。オーフレイムは長い契約を望んでおり、いま詳細を詰めているところだ。とにかく俺たちは世界中のベストファイター全員と契約したいんだ。

――まさにジャイアンですね（笑）。エリートXCのファイターについてはどうですか？

ダナ エリートについては、バカな競合団体が潰れてるくせにファイターを束縛しているおかげで、話が進められないんだ。おかげで彼ら（エリートXCに上がっていた選手）は生活にも苦しんでいる。本当に馬鹿げたことだ。愚かな経営者に苦しめられるファイターたちが、本当にかわいそうだと思っているよ。ただ、エリートXCは倒産しており、彼らが自由になるのも間もなくだろう。

――では最後に、先日エリオ・グレイシーさんが他界しましたが、それについてコメントをいただけますか？

ダナ 哀悼の意を表したいね。いま全世界で柔術というスポーツが行なわれているが、それは彼の功績を抜きにしては、絶対に語れないものだ。彼なくしては、このMMAというスポーツも生まれなかったかもしれない。だから、今回のショーは彼の功績をたたえるショーにしたいと思っている（※実際に1・31『UFC94』のPPVオープニング映像の前に「エリオ・グレイシーに捧げる」というメッセージが流れた）。それが我々の彼に対する思いだよ。

【09年1月30日／米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデンアリーナにて収録】

こうして、またしても〝ジャイアン節〟をかましまくったダナ。今回はついにヒョードルに対し、ハッキリと

DANA WHITE

「UFCに上がってほしい」と言ったのが印象的だった。はたしてUFCは日本人トップファイターだけでなく、ヒョードルをも獲得するのか？

ここから先は、1・31『UFC94』の試合後、共同囲みインタビューの模様をお届けしよう。

――今日のイベントを終えての感想を聞かせてください。

ダナ 今日の観客の声を聞いただろう？ それが答えだよ。とんでもなくクレイジーなイベントだったよ。

――メインのGSP vs BJペンについては？

ダナ もちろん素晴らしい試合だった。試合前、GSPはBJペンをドミネート（支配）して、自分がベストファイターであることを証明すると言っていたが、今夜はまさにそれを証明したんだ。

――BJペンは今回、ライト級から一階級上げてきましたが、やはり体格差が影響を与えたと思いますか？

ダナ ノー。サイズはまったく関係ない（キッパリ）。今夜はGSPがBJペンに勝った。それだけだ！ ただ、BJに勝ったからといって、GSPはまだベストのパウンド・フォー・パウンド・ファイターじゃない。ベストはアンデウソン・シウバだ。GSPはまだそれを証明しようとしている段階だ。彼は一度、マット・セラ戦を落としているからね。GSPが素晴らしいのは試合を重ねるたびに能力が向上していっていることなんだ、と同時に恐怖さえ感じるよ。彼はいつも体調をベストにしてくるし、相手がワールドクラスのレスラーでも



完璧ともいえる圧倒的な強さでBJペンを破ったGSPだが、試合後、ワセリン塗布疑惑が持ち上がってしまった。コミッションによる罰則は現時点ではなさそうだが、BJとの再戦は避けられないか。

ストライカーでも相手を選ばないで、言ったとおりのことを実現し世界でベストのファイターをドミネートしてしまうんだからね。

――BJペンの状態はどうですか？

ダナ　BJは試合後、病院に行った。BJにはもう上のクラス（ウエルター）で試合をしないことを勧めたいね。BJがあそこまでドミネーションされるとはちょっと驚いてる。これからのことは、ハワイに戻りケガを癒し、休養をとってからになるが、ケニー・フロリアンの挑戦（UFC世界ライト級タイトルマッチ）を受けることになるだろう。

――BJサイドは、GSPが身体にワセリンを塗っていたと主張していますが？

ダナ　たぶん1ラウンドと2ラウンドのあいだに、GSPのコーナーマンの一人が塗ってしまったんだろう。

――裁定はどうなりますか？

ダナ　コミッション次第だよ。おそらく裁定は覆らないと思っている。

――GSPの次の試合はチアゴ・アウベスで決定ですか？

ダナ　時期はまだわからないが、おそらくそうなるだろう。アウベスはストロングキッドだ。レスリングのスキルも上がっているし、ストライキングも素晴らしい。GSPとの対戦は興味深いものとなるだろう。

――LYOTO vsラシャド・エバンスの世界ライトヘビー級タイトルマッチは実現しますか？

ダナ　それについては、ランペイジ・ジャクソン vsキース・ジャーディンの結果による。ここでランペイジが勝ったら、LYOTOはその次。年内には挑戦できるだろう。

――LYOTOはなぜ、なかなかタイトルに挑戦できないんですか？

ダナ　我々はLYOTOに本物のスーパースターになってほしいんだ。マット・ヒューズ、ランディ・クートゥアー、チャック・リデルたちは、時間をかけてスターになっていった。LYOTOも充分な時間をかけて、タイトルに挑戦してほしい。そして、晴れてベルトを腰に巻いたとき、グレーテストなMMAファイターとなっているだろう。LYOTOは前回、ティト（・オーティズ）との試合で初めて、大観衆にエネルギーを感じさせるファイトを展開した。そして、今回はそれを上回る試合をした。毎試合、向上した姿を見せるなんて驚くべきことだよ。焦る必要はないんだ。

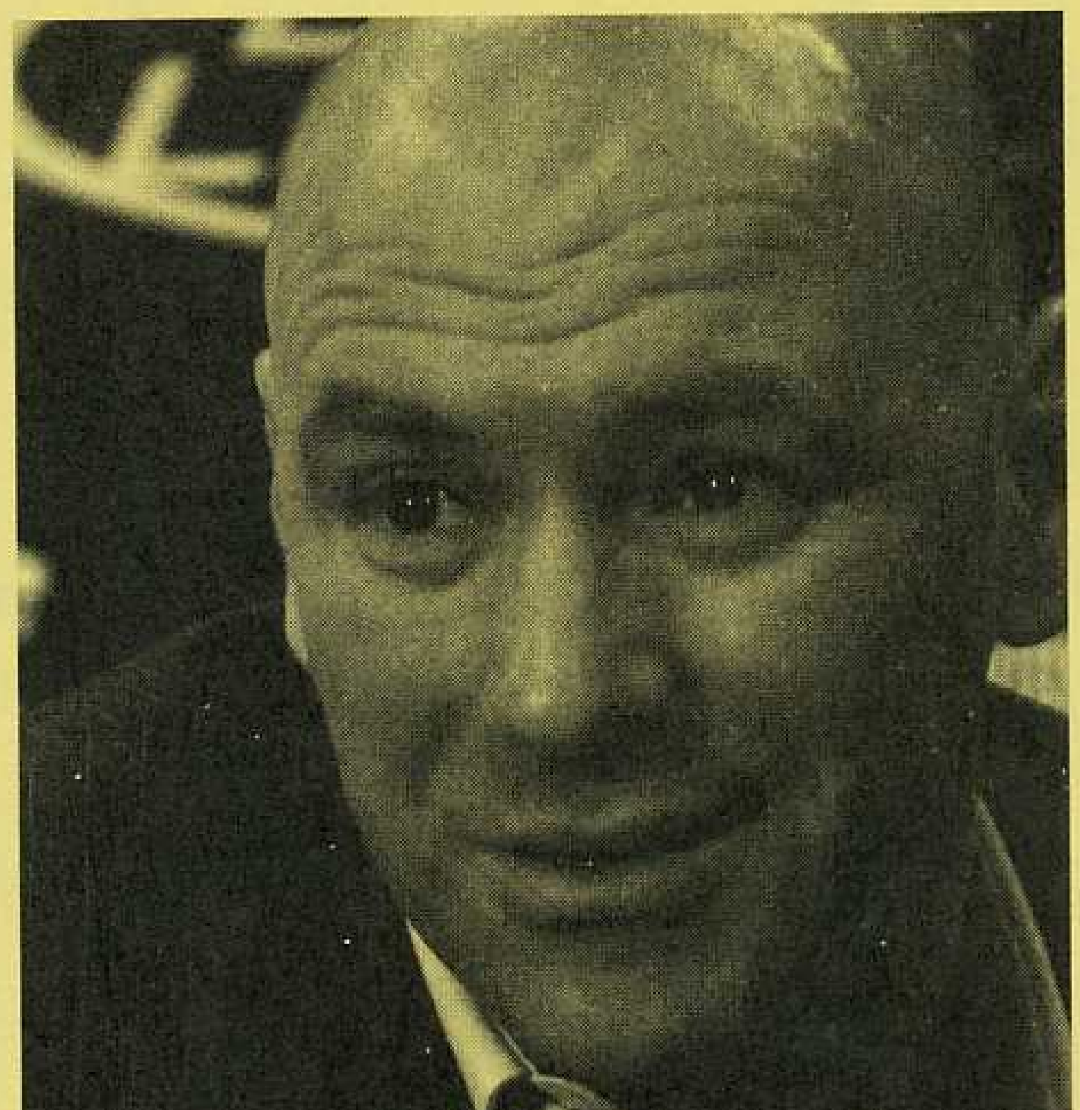
――日本の郷野聡寛の試合とパフォーマンスはどうでしたか？

ダナ　俺はゴーノが大好きだよ。試合前の入場シーンで、コーナーマンとダンスして観客を惹きつけ盛り上げる、そんなことができるファイターはなかなかいないからね。だいたい、何人のファイターがジョン・フィッチとまともに闘えると思う？　彼は堂々とフルラウンド闘い抜いたんだ。ただ、あのようなドレスを着るのであれば、勝つべきだったとは思うけどね（笑）。

――ヒョードルについては？

ダナ　その名前はここ数日、聞き飽きた。誰が世界最強なのか、みんなが話しているが、そんなものは一晩中話しても答えは出ない。唯一の方法は試合させること。そして、それができるのは俺だけなんだ！　今日はここまでだ！

【09年1月31日／米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデンアリーナにて収録】



Dana White■1969年7月28日、米国コネチカット州マンチェスター出身。チャック・リデル、ティト・オーティズらのマネージャーを経て、01年にUFC運営会社ズッファLLCの代表に就任。MMA界いちの毒舌を誇り、トップファイターを根こそぎ奪うことから"ジャイアン"とも呼ばれる。

1.31 UFC94 St-PIERR vs PENN2 PICK UP FIGHT



○ジェイク・オブライエン vs クリスチャン・ウェリッシュ×
（3R終了 判定 2-1）

伝説の『X-1』で佐々木健介と対戦したウェリッシュがUFCに登場。昨年までMMA10戦全勝だったオブライエン相手にど真ん中魂で善戦したが、僅差の判定で敗れた。正直、残念!



○クレイ・グイダ vs ネイト・ディアス×
（3R終了 判定 2-1）

07年12月にロジャー・フエルタとベストバウトを演じ大人気のグイダが、ニック・ディアスの実弟ネイトと対戦。手足の長いディアスの寝技に苦戦したが、微妙な判定で辛勝した。



○カロ・パリシャン vs キム・ドンヒョン×
（3R終了 判定 2-1）

長南を破ったウェルター級の大物カロに、DEEP常連だったドンヒョンが挑む。ドンヒョンは序盤、関節技を中心に優位に試合を進めるが、決め手に欠き、僅差の判定で逆転負け。



○ジョン・ジョーンズ vs ステファン・ボナー×
（3R終了 判定 3-0）

21歳でMMA7戦全勝という有望株ジョーンズが、ボナーに勝利! 躍動感あふれる闘いで、ジャーマン、かんぬきスープレックス、ローリングエルボーまで爆発。楽しみな存在だ!

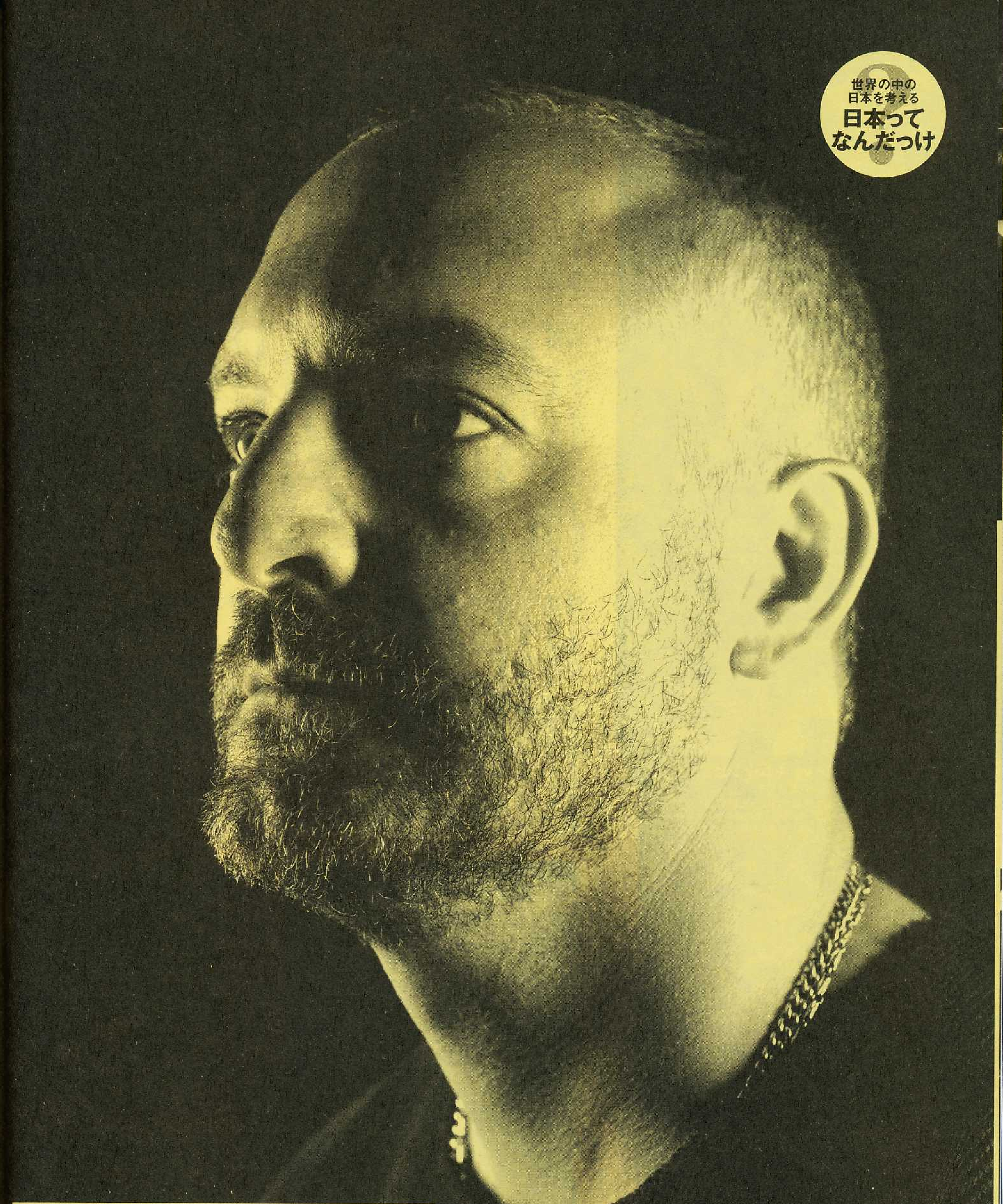


○LYOTO vs チアゴ・シウバ×
（1R 4分59秒 TKO）

我らが"猪木最後の弟子"LYOTOが、チアゴとMMA全勝対決。LYOTOは独特のステップで自分の距離を作り、外掛けからパウンドでKO! パンチを一発ももらわない完勝だった。

の
ダ
？

世界一のMMAイベントとして、その地位を確固たるものとしているUFC。1・



MMA地殻変動インサイドリポート

現在、MMA界で一人勝ち状態が続いているUFC。しかし、すべてが順風満帆というわけではない。
本誌129号でも報じたとおり、親会社であるステーションカジノ社が現在、倒産危機に瀕しているのだ。
それは年が明けてから、ついに利払いが滞りるなど、さらに状況は深刻となっている。
その一方、北カリフォルニアのMMAイベント、ストライクフォースがエリートXCの買収を発表。
これによって、有名選手だけでなくCBSの放送まで手に入れてしまった。この二つの案件が、MMA界を激変させるのか？

構成／堀江ガンツ　扉写真／吉場正和

UFCの親会社

ステーションカジノ倒産危機とストライクフォースのエリートXC買収がMMA界を激変させる!?

世界一のMMAイベントとして、その地位を確固たるものとしているUFC。1・31『UFC94』でも会場は札止めの大盛況、PPVもかなりの契約数が見込まれるなど、まさに我が世の春を謳歌しているように見える。

しかし、そんなUFCの天下に暗い影を落としている案件がある。それが親会社であるステーションカジノ社の倒産危機だ。

本誌では129号でも『UFC GAME OVER⁉』と題し、ステーションカジノ社の危機を報じたが、ここにきて状況はさらに切迫しているようだ。

その最大の要因は、言わずと知れたサブプライム・ローンの崩壊とそれに続く世界的な金融危機である。かつてステーションカジノ社は、〝土地バブル〟に乗って新たなカジノを建設するための土地を次々と購入してきた。そのための資金は、もちろん金融機関からの借り入れである。その総額は、報道によると50億ドル、約5000億円にも達していた。まだサブプライム・ローンが成立していた、つまり低所得者層に、本来なら返せるはずがないほどの額が貸しつけられていた時代である。ステーションカジノ社という優良（と見られていた）企業であれば、いまでは信じられない額の融資を受けることが可能だった。土地バブルが続けば、返済可能だと信じられていたわけだ。

ところが昨年の金融危機で、状況は一変する。あらゆる株価は暴落し、企業の売り上げは激減。ラスベガスのカジノ産業も多大な痛手を被った。ましてパレス・ステーション（ステーションカジノ社のカジノ）は、富豪たち＝ハイローラーを相手にした高級カジノではなく、一般市民が主な

客層である。サブプライム・ローン崩壊によるアメリカ市民の困窮は、そのままステーションカジノの収入減に直結した。そんな中、昨年6月にはロレンゾ・フェティータ氏がステーションカジノの社長職を辞し、ズッファ社のCEOに就任するという〝事件〟も起こっている。

オーナー自らがUFCの経営に専念するということから、ダナ・ホワイトは「世紀の発表」とコメントしているのだが、これは苦し紛れ以外の何ものでもなかった。実情はといえば、投資パートナーであるコロニアル・キャピタル社に首を切られたのである。

経営危機に際し、ステーションカジノ社は名義の書き換えを行なっている。新たな株の保有率はコロニアル・キャピタルが75・1パーセントでフェティータ家が24・9パーセント。コロニアル・キャピタルが名義上新オーナーとなり、〝時給3000ドル〟と言われるCEOのロレンゾを〝切った〟わけだ。

そして現在、アメリカで話題になっているのが、ステーションカジノ社が〝チャプター11〟の適用を申請するか否か、である。〝チャプター11〟とは、連邦倒産法第11章のこと。日本でいえば民事再生法に相当する。ステーションカジノ社の経営危機は、破産するかどうかの瀬戸際まできているということだ。

利払いが停止となり狙われるズッファの株

ステーションカジノ社は、今年1月末分の支払いができなかった。具体的にいうと、1460万ドルの借り入れ利子の支払いを延期したのだ。いわば〝焦げついた〟状態である。アメリカの新聞『ラスベガス・サン』紙の報道によると、昨年9月末の段階で、ステーションカジノ社が支払わなければならない利子は2ドルの稼ぎにつき約1ドル。規模こそ違うが、サブプライム・ローンで家の価値よりも高い住宅ローンを支払わねばならなくなった住宅購入者と同じように、資産の価値以上の負債を支払うべき状況なのである。



ラスベガスの繁華街から離れたところに位置しているパレス・ステーションカジノ。観光客や富豪ではなく、地元市民を相手にしたカジノであるため、ラスベガスの火事の業界の中でもとくに厳しい状況にあるという。

危機を脱するために、フェティータ家がとろうとした手段がローンリストラクチャリングである。金利を下げ、支払い期間を延ばすなどのローンの再構成だ。そのための条件が、フェティータ家が2億4400万ドルの現金を債権者に対して支払うこと。状況をよく知る関係者は、こう語っている。「要は借りている側のフェティータ家がケツをまくってるんですよ。244ミリオンのキャッシュを支払うから、ローンの条件を見直してくれ、と。〝僕らが破産しちゃったら、あなたたちだって困るでしょ〟というわけです」

だが、ローンリストラクチャリングのプランが提示される中で、資金繰りに窮し、利払いが停止。現在、ディフォルト状態となってしまっている。支払いが滞れば、次回からの支払い条件はより厳しくなる。負債を滞納し続ければ、待っているのは当然、破産申請だ。

YAHOO!アメリカ版によれば、ステーションカジノ社は「2009年に最も生き残る可能性が低いカジノ」であり、「早ければ夏頃、遅くとも年内には倒産が現実のものとなる」という。

そんな中で、注目を集めている、というより債権者側に目をつけられているのがフェティータ兄弟の持つ、唯一といっていい〝金になる〟資産である。そう、それがUFC＝ズッファ社の株である。244ミリオンというキャッシュを捻出するために、フェティータ兄弟がズッファの株に手をつけるのか、はたまたコロニアル・キャピタル社をはじめとした債権者たちが、ズッファの株を差し押さえるための画策をし始めるのか……。ステーションカジノ社の危機は、UFCの将来に大きな影響を与える可能性が捨てきれないのだ。

漁父の利でCBSを獲得ストライクフォース

ステーションカジノ社の危機と、それに連なるUFCの資金硬直は、格闘技界全体にも大きな影響を与える。象徴的な出来事が、ストライクフォースによるエリートXC買収である。

昨年、CBSの地上波放送というアメリカMMA史上初の快挙を成し遂げ、一躍〝打倒UFC〟の急先鋒となったエリートXC。だが主力選手であるキンボ・スライスに破格のファイトマネーを支払うなどコストがかさみ、大会を主催するプロエリ




ストライクフォースは北カリフォルニアのサンノゼをベースにしたMMAイベント。HPパビリオンという北カリフォルニア最大の会場と独占契約し、地元のIT企業の支援を受けて運営されている。右は代表のスコット・コーカー氏。かつてK－1 USAのプロモーターも務めていた、日本とも関わりの深い人物だ

ート社の負債額は50億円にも達していた。
そこで、最大の債権者であるCBSとその子会社ショータイム（ケーブルテレビ局）はエリートXCの資産を競売に出すことにした。その資産とはエリートXCの名称、CBSの放映権、映像ライブラリー、そして選手の契約である。
当初、買い手となるのはズッファだと思われていた。最低落札価格として提示された600万ドル以上の金額を提示できるのは、世界最大のMMA企業であるズッファしかないはずだったのだ。だが、ズッファは先述したように身動きがとれない状況にある。一方、対抗馬と見られていた『アフリクション』も、決して状況はよくない。
名ボクサーにして辣腕プロモーターであるオスカー・デラホーヤ率いるゴールデンボーイ・プロモーションと提携したことで大きな話題を呼んだ。だが現在、『アフリクション』とゴールデンボーイ・プロモーションには亀裂が走った状態だ。
『アフリクション』は今年1月24日、カリフォルニア州アナハイムのホンダセンターでエメリヤーエンコ・ヒョードルvsアンドレイ・アルロフスキー戦をメインイベントとする大会を開催している。その一方で、パートナーであるはずのゴールデンボーイ・プロモーションは同日、シェーン・モズリーvsアントニオ・マルガリートのWBA世界ウェルター級タイトルマッチを主催。同じ日に、同じカリフォルニアでボクシングのビッグマッチをぶつけてきたわけで、いわば身内同士（であるはずのプロモーション）による興行戦争が起こってしまったのである。



昨年9月、ストライクフォース『プレイボーイ・マンション』大会に出場した石田光洋。コーカー代表は日本との協力強化を考えており、今後はさらに日本から同団体へ出場選手が増えることだろう。

つまりUFCも『アフリクション』も安泰ではなく、とてもエリートXCを買い取れる状況ではなくなっていた。そこで漁夫の利ではないが、エリートXCの資産購入に成功したのが"大穴"ストライクフォースだったのだ。しかも、他に入札者がいない状態だったため、放映権の延長など条件面もよくなっているという。
ストライクフォースは事前にCBSが「最低落札額」としていた600万ドル以下の額で入札。しかもそれは、放映権の延長など、条件面もCBSからの提示以上のものを要求したうえでのものだった。当然、CBS側はこのストライクフォースの入札を当初は無視していたが、最終的にどこからも入札がなかったために「24時間以内に一定額の入金を済ませれば」という条件つきで、ストライクフォースの入札に応じたのだ。そしてストライクフォースはスポンサー企業などから資産を調達。CBSの要求額を24時間以内に用意し、ついにエリートXC買収に成功したのだ。
エリートXCと契約していたのは、キンボ・スライスに加え女子MMA最大の人気選手ジーナ・カラノ、それにロビー・ローラー、ニック・ディアスといった実力派選手たち。今後は年8回のビッグマッチと、4回の小・中規模イベントが開催されていくという。これまで、決して資金が潤沢とはいえない中でカリフォルニアをベースに地道な活動を続けてきたストライクフォースが、ここにきて選手層のさらなる充実とCBS（地上波）＆ショウタイム（ケーブル）というメディアを得て、一気に勢力を増していきそうな気配だ。

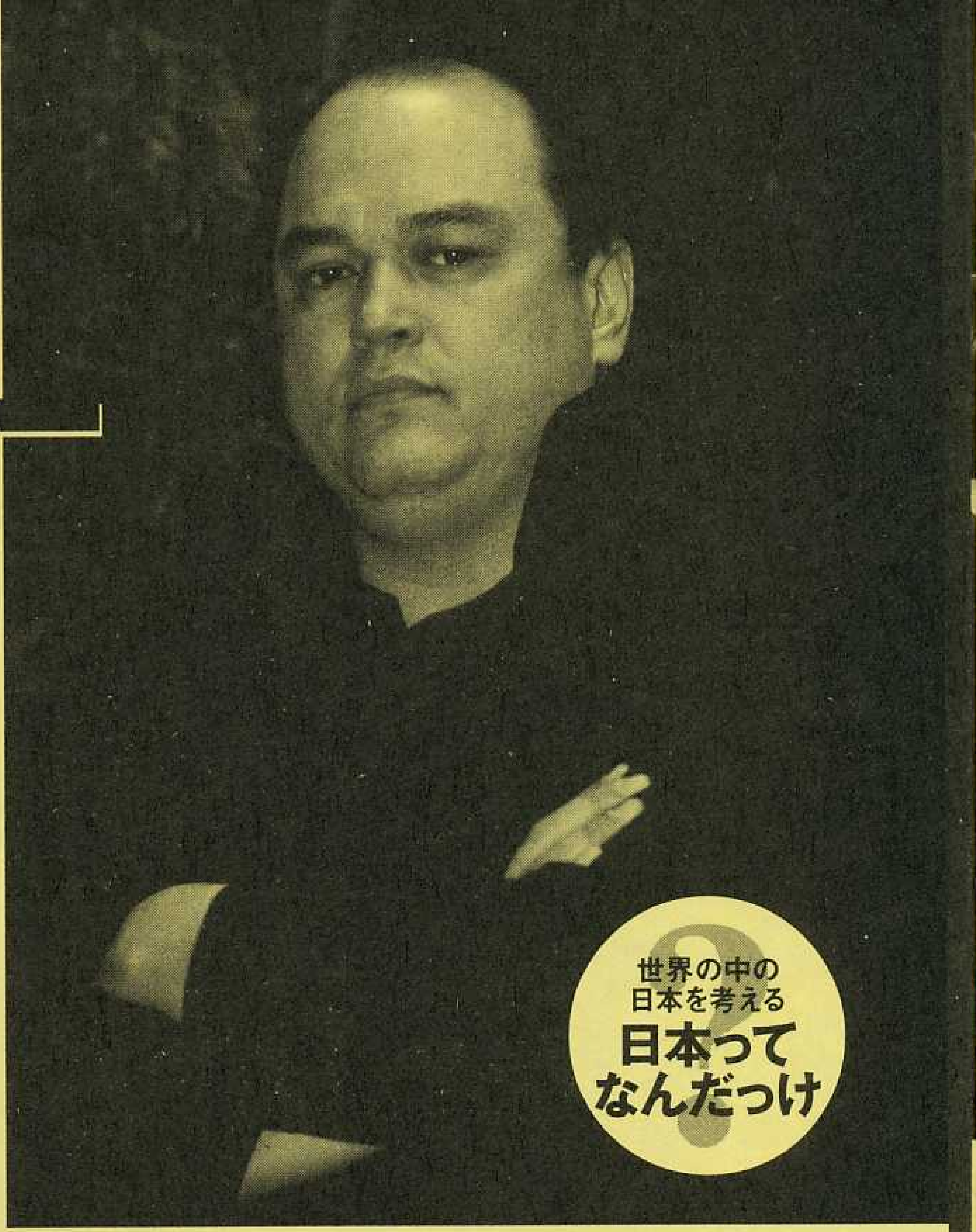
K－1USAから続く日本とストライクフォースの関係

そしてこのことは、日本の格闘技界とも密接な関わりを持つことになる。ストライクフォースの代表スコット・コーカー氏は、かつてK－1USAの社長を務めていた人物。当時のビジネスパートナーは現ミルコ・クロコップの全権代理人である今井賢一氏で、今井氏がK－1を離れてからは、その関係からストライクフォースはPRIDEとも提携。その中でケビン・ランデルマンやアリスター・オーフレイムも参戦してきた。
もちろん、現在ミルコがDREAMに参戦しているように、今井氏・旧PRIDEスタッフの関係は継続している。今井氏とストライクフォースの関係もしかり。となれば、今後はストライクフォースの選手が続々とDREAMに参戦してくるはずだ。
逆もありうる。青木真也や川尻達也といったDREAMファイターのアメリカ進出である。格闘家であれば、誰もが夢見るアメリカという舞台。金銭的な魅力以上に、そこにはハイレベルなライバルたちがひしめいているのだ。だが、従来はアメリカ進出イコール日本を捨てることでもあった。UFCは独占契約を基本としていたため、出場選手が母国のリングに上がれないという状態だったのだ。
だが、ストライクフォースとDREAMの提携関係であれば、日本とアメリカ双方で闘うことができる。選手にとってもファンにとっても、幸福な環境といえるだろう。
UFCの"一人勝ち"状態がいつまで続くのか。MMA業界は世界規模で大変革の時期を迎えようとしているのだ。

4大ネットワークCBS獲得でガ然注目団体に!
ストライクフォース代表を独占直撃!!

ストライクフォース代表

スコット・コーカー
Scott Coker



「日本の団体と良き関係を築きアオキ、カワジリ、サクライらをぜひとも参戦させたいね」

エリートXCを買収し、一躍、アメリカでUFCに次ぐMMAイベントとなったストライクフォース。これまで北カリフォルニアで堅実的な活動を行なってきたストライクフォースは、今回の買収、とくに4大ネットワークCBSの地上波放送獲得によってどう変わるのか。そして気になる日本の団体との関係は? 本誌は早速、ストライクフォース代表のスコット・コーカー氏にメールインタビューを敢行。その返答を再構成してここにお届けします。

構成／堀江ガンツ

いまストライクフォースは日本でいえばPRIDEにフジテレビがついた状態です

—今回、エリートXCを買収した経緯を教えてください。

コーカー　まず、エリートXCをプロモートしている会社であるプロエリート社がファイナンシャル的に会社存続の危機に面していることは、格闘技関係者およびファンの方々もご存知の方が多いことでしょう。また、プロエリート社が昨年の10月4日にフロリダ州で行なわれたエリートXC大会を最後にプロモーションを行なうことを断念すると10月末に正式に表明したという噂や記事も目にしていたことと思います。ストライクフォースとしてはプロエリート社とフランク・シャムロックをメインカードとした共同開催のイベントの契約も残っていたこともあり、もしプロエリート社がそのまま倒産したり他の会社に売却された場合、自分たちのプロモーションに大きな影響が出てしまうことが予想されたため、その前になんらかのアレンジができないかをプロエリート社と協議・模索していたのです。

—ストライクフォースとエリートXCは協力関係にありましたもんね。

コーカー　そして、昨年12月に正式に資産の一部買収の話を始めて今回の発表に至ったのです。誤解のないように言っておきますが、今回の買収は資産の一部でありプロエリートという会社自体は買収しておりません。

—そもそもエリートXCの何に興味を持ったんですか?

コーカー　まずエリートXCと契約しているファイターです。エリートXCには素晴らしいタレント性を持ったトップレベルのファイターがたくさんいること、またその映像ライブラリーおよび関連する知的財産に興味を持ちました。

—では今回、ストライクフォースはエリートXCのどのような権利を取得したんですか?

コーカー　選手との契約書をストライクフォースが引き継ぐこと、また映像ライブラリーやそれに関連する知的財産の所有権です、たとえば写真や音楽等のコンテンツの権利すべてです。

—金額はどのぐらいかかりましたか?　また、その金額は誰が工面したんでしょうか?　大きなスポンサーがいるのでしょうか?

コーカー　地元サンノゼを拠点とするNHLを代表するチーム、サンノゼ・シャークスのオーナーであるシリコンバレースポーツエンターテインメントがストライクフォースのパートナーであり今回の買収をサポートしてくれたのです。金額に関しては契約上開示することはできませんが、ストライクフォースはプライベートの会社であるので現金での資産の買収でした。

—では今後、キンボ・スライス、ジーナ・カラノ、ジェイク・シールズ、ロビー・ローラー、ニック・ディアスら、エリートで活躍した選手はストライクフォースに出場することになると考えていいのでしょうか?

コーカー　現時点ではそれらの選手、さらにフランク・シャムロック、ジェームス・トムソンなどの素晴らしいタレント性を持ったトップファイターを含む計49名のファイターの契約をプロエリート社より引き継ぐことになります。そのほかにもプロエリート社の契約ファイターは100名ほどおりますが、今回の買収では対象には入っておらず今後の協議次第になると思います。

—CBSでの地上波放送はどうなりますか?

コーカー　CBSとショータイムとは今回の買収とは別に契約の話を進めてた経緯があり、すでに正式な契約締結を済ませております。ショータイムは4月11日の大会より、CBSは放映が始まる時期は現時点で未定なのですが、近日中に発表できると思います。



昨年9月の「プレイボーイ・マンション」大会では、DREAMから石田光洋が参戦。今後、青木、川尻、マッハらが参戦し、その闘いがCBSの地上波を通じて流れるか。

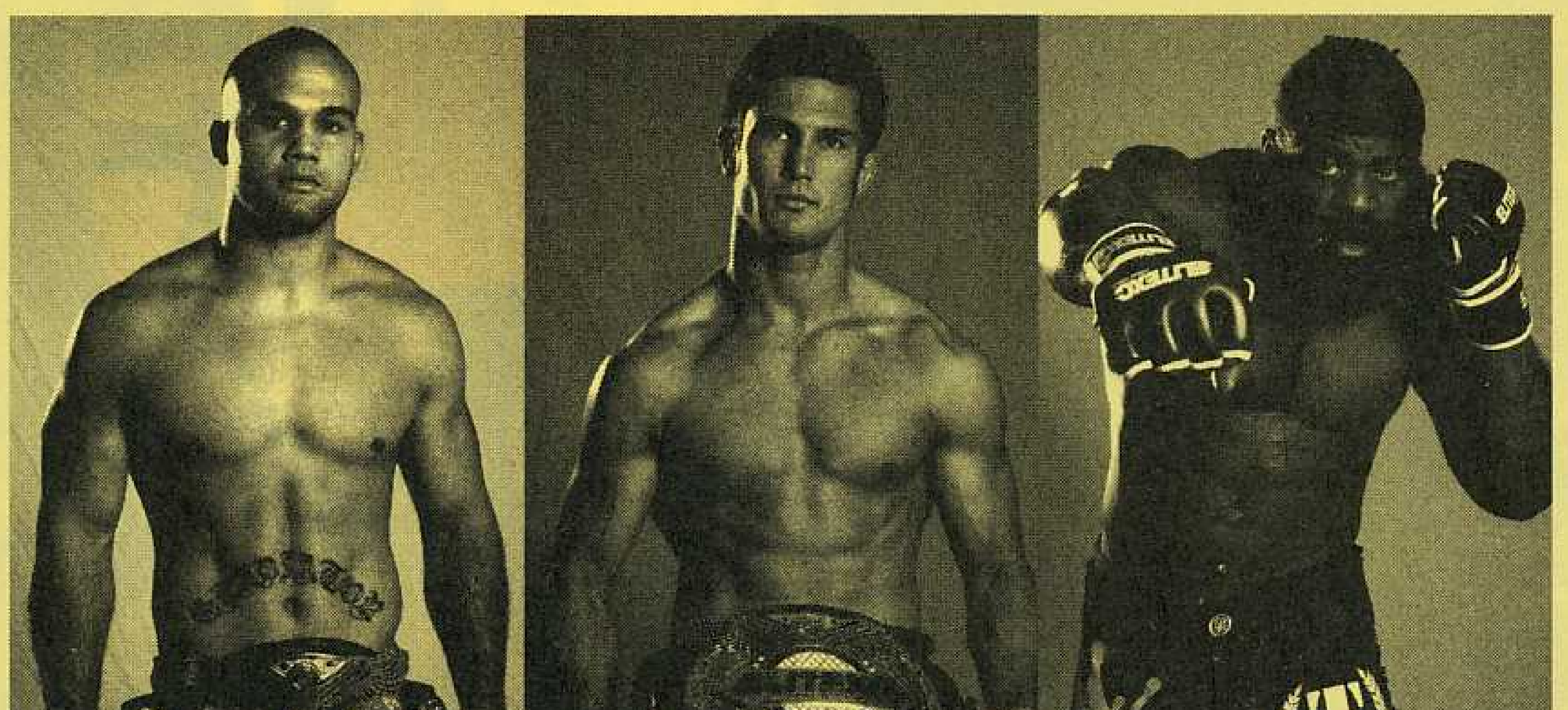
ミスター・イシイは私の良き指導者でしたから今後の活動に関しても協力していきたいですね

——現在、ストライクフォースを放映しているNBCはどうなりますか？

コーカー　NBCとの契約も残っておりますので、そのまま放映される予定です。

——今回、エリートXCの資産を買収したことで、ストライクフォースはどのようなビジネス展開を考えていますか？

コーカー　いままでは、地方のライブイベントをベースにしたプロモーションを行なってきましたが、今後はトップレベルの選手層も厚くなることにより年に数回だったビッグマッチをかなりの頻度でプロモートできるようになります。同時にCBSやショータイムなどのテレビやケーブルのネットワークというインフラをベースとしたアメリカ全土、インターナショナル市場へのビジネス展開の第一ステップを踏み出したと考えています。日本でいうとPRIDEにフジテレビがついたときを考えてくれればわかりやすいと思います。今後はそのテレビやケーブルのネットワークを最大限に利用し、選手および大会のプロモーションを行なうことにより価値を上げ、より広い市場を開拓していきます。


エリートXCの中心選手だった、右からキンボ・スライス、KJヌーン、ロビー・ローラー。彼らの契約もストライクフォースに移管されるが、KJヌーンに関しては、これを機にMMAを引退し、ボクシングへの転向も噂されている。

——エリートXCのチャンピオンベルトはどうなりますか？

コーカー　エリートXCのチャンピオンは「チャンピオン」であると尊重してますが、早急にストライクフォースのタイトルを懸けた統一戦を行ないたいと考えています。たとえばKJヌーンはエリートXCのライト級チャンピオンですが、本人がボクシングへのキャリア転向を考えているので、ストライクフォースのチャンピオンであるジョシュ・トムソンと至急統一戦を行ないたいということでマネージャーと交渉中です。

——今後の日本の団体との関係はどう考えていますか？

コーカー　DREAMとはイシダ（石田光洋）の参戦、また『戦極』とはミサキ（三崎和雄）やドゥエイン・ラドウィッグなどを通して友好関係にあります。ぜひ、今後とも良い関係を築いていきたいと思います。またK－1でお世話になったミスター・イシイは、同時に私のよき指導者でもありました。今後の活動に関しても協力できることはぜひとも行なうつもりです。とにかく日本の団体とも良い関係を築き格闘技業界の発展に貢献できればと考えております。

——4月11日の大会はビッグマッチになりそうですか？

コーカー　この記事が出る頃には発表していると思いますが、フランク・シャムロックとニック・ディアスの179ポンド契約マッチを予定しています。そのほか、オファーを出しているのは155ポンド（ライト級）のタイトル統一戦としてストライクフォースのチャンピオンのジョシュ・トムソンとエリートXCのタイトル保持者であるKJヌーンを考えていますが、現在KJヌーンのマネージャーからの回答待ちの状況です。

——今後、三崎選手や石田選手の再登場はありますか？　またほかの日本人選手の参戦は考えていますか？

コーカー　もちろんです。ミサキとロビー・ローラーの対戦、またイシダとギルバート・メレンデスの再戦というのはどうでしょうか？　個人的にも興味があるのでぜひ実現させたいカードです。そのほかの日本人選手ですと、アオキ、カワジリ、マッハ・サクライには個人的にも興味がありますし、そのほかの日本人ファイターもストライクフォースに参戦してくれたらと思います。

——三崎選手や石田選手がタイトルマッチに絡んでくる可能性は？

コーカー　充分にあると思います。まずはミサキとエリートXCのチャンピオンであるロビー・ローラーとのノンタイトル戦後、ストライクフォースのチャンピオンであるカン・リーと対戦。イシダとギルバート・メレンデスの再戦を実現させジョシュ・トムソンとKJヌーンの勝者でタイトル戦を行なうというのはどうでしょう？　またトーナメント形式にするというのもおもしろいかもしれませんね。今回の買収で選手層が厚くなったぶん、いろいろな興味深いマッチメイキングができそうです。

——今回の買収でストライクフォースはUFCのライバルになったと思いますか？

コーカー　いろんな人からその質問を受けますが、UFCはUFCのやり方でビジネスしており、またストライクフォースはストライクフォースのビジネスを行なっています。それにUFCはMMAビジネスのパイオニアとして尊敬しているので、単純に競合しているライバルと見る必要はないし、可能であれば同じ業界で昔からの知人・友人がいるのでなんらかの面で協力し合い格闘技業界が発展できればと思っています。またストライクフォースが存在し続けることは、ファイターから見れば所属する団体の選択肢が増えたということで、良い影響を与えられると思います。

最後に日本のファンおよびプロモーターは格闘技に対しての知識が深いため、日本にはK－1、PRIDEという優れたプロモーションがあったし、現在もHDNetで放映さえるDREAMの大会を個人的に楽しんでおります。近い将来、ストライクフォースを日本のファンの前で大会を開催できればと思います。


【09年2月10日／Eメールにて収録】

エリートXCから契約移管後
ストライクフォース主なファイターリスト

- キンボ・スライス
- フランク・シャムロック
- ジーナ・カラノ
- ロビー・ローラー
- ニック・ディアス
- KJヌーン
- ジェームス・トンプソン
- ジョシュ・トムソン
- ギルバート・メレンデス
- カン・リー
- トレバー・プラングレー
- ボブ・サップ
- フィル・バローニ

エンタメの帝王が語るMMAの未来

「日本も中国市場を目指すべきだ！」



元・PRIDEアメリカの父

エド・フィッシュマン

Ed Fishman

聞き手／堀江ガンツ

世界の中の日本を考える 日本ってなんだっけ

かつて"PRIDEアメリカの父"と呼ばれた男がMMAの野望を語る!!

デンボーイ（オスカー・デラホーヤのプロモーション）が運営に加わった。４つがオ

DREAMや修斗など、日本のMMAスタイルのほうが好きなんだ。テクニックのレ

たときにサカキバラがアメリカまで来て「フジテレビが契約を破棄したことがきっ

フェティータ兄弟は私にPRIDEを買われることを恐れていたと思う

かつて"PRIDEアメリカの父"と呼ばれた男がMMAの野望を語る!!

エド・フィッシュマンは、カジノビジネスなどを中心とするハラスグループの会長にして、ラスベガス・エンターテインメント界の大物である。ラスベガスになんのツテもなかったPRIDEが、あらゆる障害を突破してアメリカに進出ができた理由の一つには、彼のサポートがあったからだと言われている。

一時はPRIDE買収にも名乗りを挙げ、PRIDEの終幕をめぐってDSEとは裁判沙汰にもなっていたが、いまでもMMAシーンの動向には熱視線を送っている。さすが大富豪、アントンもビックリのビッグプロジェクトを練っていたのだ! 現金があれば、なんでもできる!? ンムフフフ!

——今日はお忙しい中、マリブの豪邸にお招きいただきありがとうございます!

エド ここに来る前に『アフリクション』とWECを大会取材してきたらしいね。どうだった?

——どちらも素晴らしいショーでした。エドさんはテレビで観戦されたんですか?

エド うん、テレビで観たよ。確かにとても良いショーだった。ただ……、『アフリクション』はとても不可解な団体だよね。

——あ、そう見えますか?

エド だって、アフリクションというアパレルメーカー、ファイターのマネージメントをしているM-1グローバル、不動産王のドナルド・トランプ、それに最近ゴールデンボーイ（オスカー・デラホーヤのプロモーション）が運営に加わった。4つがオーナーというよりパートナーと言ったほうがわかりやすいけど、誰が方向性を示して最終的な決定を下すのかわからないじゃないか。

——確かに複雑なプロモーションではありますね。

エド それでもヒョードルやジョシュ・バーネットらPRIDE時代からのスター選手たちが参戦しているし、素晴らしいマッチメイクをしている。ただしPRIDEはよりエンターテインメントを重視し、ファンを楽しませてきた。プロダクションという観点から見ると、個人的には日本のほうがいまでも素晴らしいと思ってるし、私はDREAMや修斗など、日本のMMAスタイルのほうが好きなんだ。テクニックのレベルの高さを見せ合いながら、ショーとしての要素も兼ね備えてるからね。



エドさんの自宅はカリフォルニア州マリブにある。海辺に位置してロケーションも抜群。セレブにふさわしい豪邸なのだ。インタビューは目の前のテラスで行なわれた。

——そのプロダクションの品質というのは、具体的にはどのようなことなんでしょうか?

エド ショーを通してファンをエンターテイニングしてること、そしてそれが素晴らしいプロダクションになってること。たとえばリングガールを使って観客の目を引くのではなく、MMAという試合を通してね。自分のバックグラウンドはテレビ業界であり、たとえば選手紹介に関して言えば、その選手の経歴を音楽や映像などを駆使して、その結果として観衆に感動を与えるのがプロダクションの品質だと思ってるんだ。もちろん試合そのものも大事だけど、それ以上に要求されるべきものだと考えてるよ。PRIDEはアメリカ大会をラスベガスで2回行なったが、ファンのみでなく業界関係者など皆がそのことに触れていた。おそらくそのPRIDEアメリカ大会の成功が理由で、PRIDEが売りに出されたとき、UFCのオーナーであるフェティータ兄弟は私には買収してほしくなかったんだと思う。

——エドさんがPRIDEを買えなかったことに関してもう少し詳しく話してくれますか?

エド いいだろう。私がサカキバラ（榊原信行）からPRIDEの北米に関する権利を買うことを同意したとき、PRIDEがフジテレビの放映中止のために大きなダメージを受けていることを詳しく知らなかったんだ。私は日本に住んでいないし、日本人じゃないので詳細まで理解できていなかった。そんな中、PRIDEアメリカ大会が行なわれ、3回目のプランができあがったときにサカキバラがアメリカまで来て「フジテレビが契約を破棄したことがきっかけで、同時に40億円以上の負債を抱えてしまうのでPRIDEを売るしかないんだ」と教えてくれた。フジテレビが離れた理由は、ヤクザがPRIDEのうしろについているという噂によるものだった。

——週刊誌の報道がきっかけでしたね。

エド アメリカのカジノのオーナーは、フェティータ兄弟もそうだが、マフィアとのつながりが確認されるとカジノのライセンスを剥奪されるんだよ。

——カジノビジネスも手がけているエドさんにとってはデリケートな問題ですね。

エド で、サカキバラに『PRIDEを買い取ることには興味があるが、少し時間がほしい』と伝えたんだ。会社の資産状況をもとに評価をしたかったし、噂の確認をしたかったからね。そのためには最低4~6週間の期間がほしいと伝えたんだ。ところがサカキバラはUFCから「そんなに時間はいらない」と言われたらしいんだよ。私は驚いた。フェティータ兄弟もカジノのオーナーなのだから、同じ問題があるはずなのに。UFCは『すぐに契約できる』としか言わなかったらしい。その時点で買収の金額以前の問題となってしまったんだが、買収金額も60~65億円という金額を提示され、それに見合う対価として受け取れる権利、たとえばDVDや商標登録がフジテレビとの契約もあり明確にならなかったためビジネス上でも妥当か疑問があった。

——そういう障害があるにもかかわらず、UFCはなぜそこまで駆け足で買収しようとしたんでしょうか?

エド おそらくすべてのカジノへのコンタクトを持っている私にPRIDEの権利を買われるのを恐れたんだと思う。なぜPRIDEがアメリカ大会を行なうことができ

たかといえば、私のカジノのネットワークを使うことができたためなんだ。私はPRIDEが提示した金額は持っているし、そのことはサカキバラも知っていた。でも私はビジネスマンだ。カジノのライセンスを剥奪されるリスクは持ちたくなかったからね。これらが本当の話だよ。

——その後、PRIDEとは裁判沙汰になりましたが……。

エド　PRIDEとのあいだにあった法的な問題に関しては、期待していたよりも少ない金額が払われ示談が成立した。でも、最もダメージを受けたのは、UFCじゃないのかな？　彼らはいまだPRIDEの商標を使えないし、DVDも販売できないじゃないか。それにファイターとも再契約が必要となってしまって、結局UFCはPRIDEの何を買ったんだい？

——アメリカにおける、PRIDEのあらゆる機会を奪ったということになりますね。

エド　UFCは私もMMAのビジネスから追い出すことはできたけど、おそらくPRIDEを買収するために60億円以上もの大金を使ったことを後悔していることだろう。だだし、ほかの人から見ると、もしエド・フィッシュマンが買収して毎月PRIDEのイベントを行なっていたら、UFCはいくらビジネスチャンスを逃していただろう？って思うかもしれないね。とにかく、UFCは戦略的に買収したのであって、買収金額から得られた対価がそれに見合うものではなかったと言えるのではないかな。それより、今日現在のアメリカの経済の状況は理解してるよね？

——はい。世界恐慌のため、UFCの母体であるステーションカジノが倒産危機にあるそうで……。

エド　それでもステーションカジノはラッキーだったと思うよ。株式市場がクラッシュする前に上場会社だった株式をヘッジファンド会社に売却して、プライベートの会社にしたんだからね。ただしフェティータ兄弟ら持っているステーションカジノの資産の評価額は、クラッシュ前と比べると半分程度になってしまっているのでファイナンス的に影響は出てるはずだよ。

——そのため、ロレンゾやダナは買収したPRIDEの商標をどこかに売却するんじゃないかという憶測も流れてますが……。

エド　これはまったくの私自身の想像だけど、彼らはPRIDEの名前は使っていないし、これからも使えないと理解している。だから『アフリクション』でも選手が紹介されるときに『EX-PRIDE』（元PRIDE）とは紹介されるが、PRIDEという商標を使われているのを見たことがないんだ。だから今日現在PRIDEという商標自体の価値はアメリカではそれほどないだろうし、同時に昔のPRIDEの全盛期を思い出させないためにも封印してしまいたいんだよ。じつは第2回PRIDE大会が行われる前に、ロレンゾに『PRIDEとUFCで5vs5の対抗試合をしよう』って提案したんだが、断られたよ。テレビ局は大きな関心を示して放映するという話も進めたのに。結局UFCはPRIDEというブランドをアメリカ市場で露出したくなかったんだろう。



フジテレビに中継を打ち切られたPRIDEは、アメリカ進出にすべてを懸けた。イベント直輸入という前代未聞の試みにより、内容は評判を呼んだが、時すでに遅し、UFCはモンスター化していた。

Ed Fishman

今日現在、PRIDEという商標自体の価値はアメリカではそれほどないだろう

——いまのところUFCの対抗勢力は『アフリクション』ぐらいですが……。『アフリクション』のプロモーションの品質はどうごらんになってますか？

エド　ファイター全員をステージ上で紹介するなど、PRIDEや日本の団体が行なっている選手紹介の手法を取り入れてはいたが、ライティングなどの手法も使わず選手がステージから降りることもなく、選手紹介時のエキサイトメントは感じられなかった。ただしマッチメイクは素晴らしく試合そのものは非常によかった。

——UFCやWECのプロダクションに関しては？

エド　UFCはPRIDEが行なっていたもの、たとえば選手紹介を取り入れようとしたようだがコストもかかるし、UFCでは必要ないと判断したようだ。UFCの成功は『TUF』の成功が鍵になったんだ。その『TUF』には相当のお金を投資したようだが。確かにUFCは現在巨大な団体になってきたし、トップレベルのファイターたちと契約しており、誰もが彼らに対抗するのが困難になってきた。『アフリクション』やストライクフォースも良いファイターを抱えてるけどね。

——ストライクフォースは堅実な運営を心がけてますね。

エド　オーナーのスコット（・コーカー）はニッチな市場で自分たちの立場を確立し、無理をしないでプロモーションを行なってる。いいかい、もっとも素晴らしいことは利益を上げてることだよ。

——興行である以上、そこは一番重要ですね。

エド　いままで何人もの人たちがMMA市場に新規参入しようと巨大な投資をしてきたが、そのほとんどが失敗に終わってしまった。それはつまり、MMA業界の発展を妨げるわけだ。

——エドさんはMMA業界に復帰を考えているのですか？

エド　私がここ数年考えてる方向性というのは、世界には新しいファイターが埋もれてるからね、そのファイターたちを見つけ出したいということなんだ。いまフォーカスしているのは中国だ。すでに北京に香港専属のオフィスを構えて、スタッフを雇い二つのジムを共同経営し始めたところだ。

——あ、そこまでやってるんですか。

エド　ジムの名前は『World MMA』。誰でも簡単でわかりやすくするため『MMA』って呼んでるんだ。MMAの意味を理解させるためにもね。現在中国にはMMAに関する会社はドバイから来た医者をやっている兄弟が設立した『アートオブチャイナ』一社のみ。ただし彼らは我々のようなMMA業界での経験が充分でなく、キックボクシングやムエタイなどのスタンドアップに

優れたコーチは雇えてもMMAに要求され
るグランドゲームはこれから勉強しなくて

ファイターのプロモーションができればと
考えてるんだ。マカオはカジノのスポンサ

プラン（年金）を提供しているのは聞いた
ことがないだろう？

目安にもなるんじゃないかい？　私が持っ
てるエンターテインメントの会社を通して

優れたコーチは雇えてもMMAに要求されるグランドゲームはこれから勉強しなくてはいけないんだ。

――中国市場は魅力的ですか？

エド　もちろんだとも。日本の団体も進出すべきだ。アジアの市場は巨大で、とくに中国人はギャンブルも好きだからね。ロシアにもカジノがあり、40回は訪問しているし、ロシアもMMAの市場として期待してるんだ。ぜひ私の持ってるカジノのチャンネルなどを生かしてPRIDEとは異なったショーマンシップを取り入れ、新しいファイターによるMMAをプロモーションしたいと思ってる。私にはシーザーズ、ベネチアン、ウイン、ハードロックなど、MGM以外のカジノがスポンサーになってくれてる。だからPRIDEのアメリカ大会のときもいまの『アフリクション』よりはるかに多いチケットをさばくことができたんだ。

――やっぱりいまのMMAシーンには、カジノの力は欠かせないんですね。

エド　カジノのあるアトランティックシティやラスベガスではすでにMMAのプロモーションが行なわれているけど、マカオではまだなんだ。マカオには1万5000人収容できる新しいマカオイベントセンターがあるけど、まだMMAは開催されてないんだ。そのような場所ではまだMMAビジネスには参入する余地があるんだよ。

――時期的にいつごろにはエドさんの計画が実現できそうですか？

エド　今年の後半に中国、マカオで最低でも一度はMMAの試合をプロモーションしたい。で、可能ならばラスベガスに中国人ファイターのプロモーションができればと考えてるんだ。マカオはカジノのスポンサーも受け入れるし、テレビネットワークもアジアのみでなくオーストラリアまでカバーしているからね。新しい市場だけど、20億人の人口が住んでるところだからね、可能性は大きいんだ。

――すでに中国でのファイターは発掘できたのですか？

エド　現在『World MMA』は北京と香港にジムがあり、MMA経験のあるローカルの中国人コーチを二人雇ってる。彼らが人選をしたファイターたちのビデオを観てるので、早ければ2月末にでもジョシュ・バーネットクラスのファイター数人と、中国の香港とマカオを訪問し、実際に中国人ファイターをテストする予定だよ。

――それらの中国人ファイターとの契約体系はどのようにされるのですか？

エド　ファイターがUFC、『アフリクション』、ストライクフォースと移籍を繰り返すのではなく、自分のところがホームとなるように毎月のサラリーのシステムを導入し、また同時に健康保険、生命保険、個人年金プランも提供したいと考えてるんだ。で、ファイター全員が会社の一員だと感じてほしいね。プロのファイターだと個人でいい保険に入るのが困難だし、生命保険だって試合中に何かが起こらないともかぎらないから必要になってくる。ファイターとの契約もビジネスと考え、できるだけファイターにはできるかぎりの好条件でオファーし、一緒に会社を大きくしていきたいんだ。まだどのプロモーターも保険やペンションプラン（年金）を提供しているのは聞いたことがないだろう？

――UFCのファイターが触れていたことは聞いたことがありますけども。

エド　私がオーナーになっている保険の会社では、健康保険、生命保険、ペンションプラン（年金）とすべての保険業務に関わることを行なってる。わかってくれると思うけど、私にはMMAビジネスに対する情熱があるんだ。エンターテインメント関係の人々を通してブラッド・ピットなど大スターやセレブな人々をショーに招待することも可能なんだよ。『アフリクション』のショーで大スターやセレブの人たちを見かけたかい？

――いいえ。ストライクフォースのプレイボーイマンションの大会では見かけましたが。

エド　そうだね、あの大会は特別だからね。で、それらが、何がビッグかっていうことの目安にもなるんじゃないかい？　私が持ってるエンターテインメントの会社を通してスターやセレブの人たちをイベントに招待することは可能なんだよ。保険に関しても夢ではなく、実際に私がオーナーとして経営してるんだ。だからそういったインフラをうまく活用すればいままでと違ったMMAのビジネスも展開できると信じてるんだな。ただし、焦ってもいないし実現の可能性がない場合は無理にやるつもりもないんだ。

――そういう準備をされてるうえで、MMAの動向で注目するものってありますか？

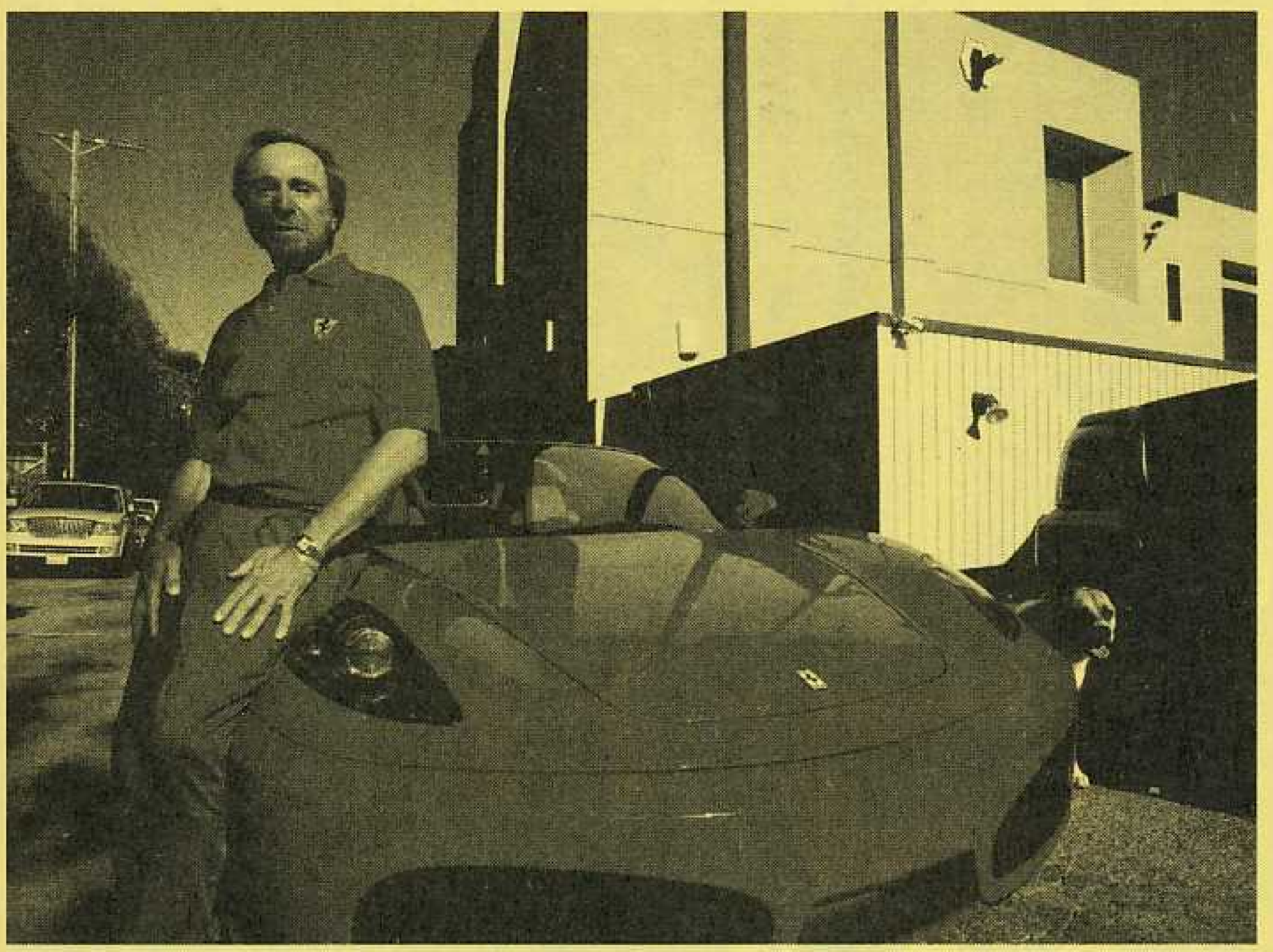
エド　ネバダ州ラスベガスではアマチュアのMMAファイトが認可されたんだ。友人の一人であるベリー・メイヤーは『Tough Enough』という会社を経営しているんだけど、プロのみでなくアマチュアのMMAプロモーションライセンスを取得した。2月14日にはそのアマチュアの試合が開催されランディ・クートゥアーの息子が参戦する予定なんだよ。現在ベリー・メイヤーとは一緒に世界各地から新しいファイターを発掘してるんだ。私の友人がオーナーの『LA Boxing』はアメリカ全土で120のジムを経営しており、その20パーセントがMMAのトレーニングをしている。我々は新しいファイターを発掘するための資産を抱えてるんだよ。

――エドさんの近い将来のビッグカムバックは現実的なんですね。

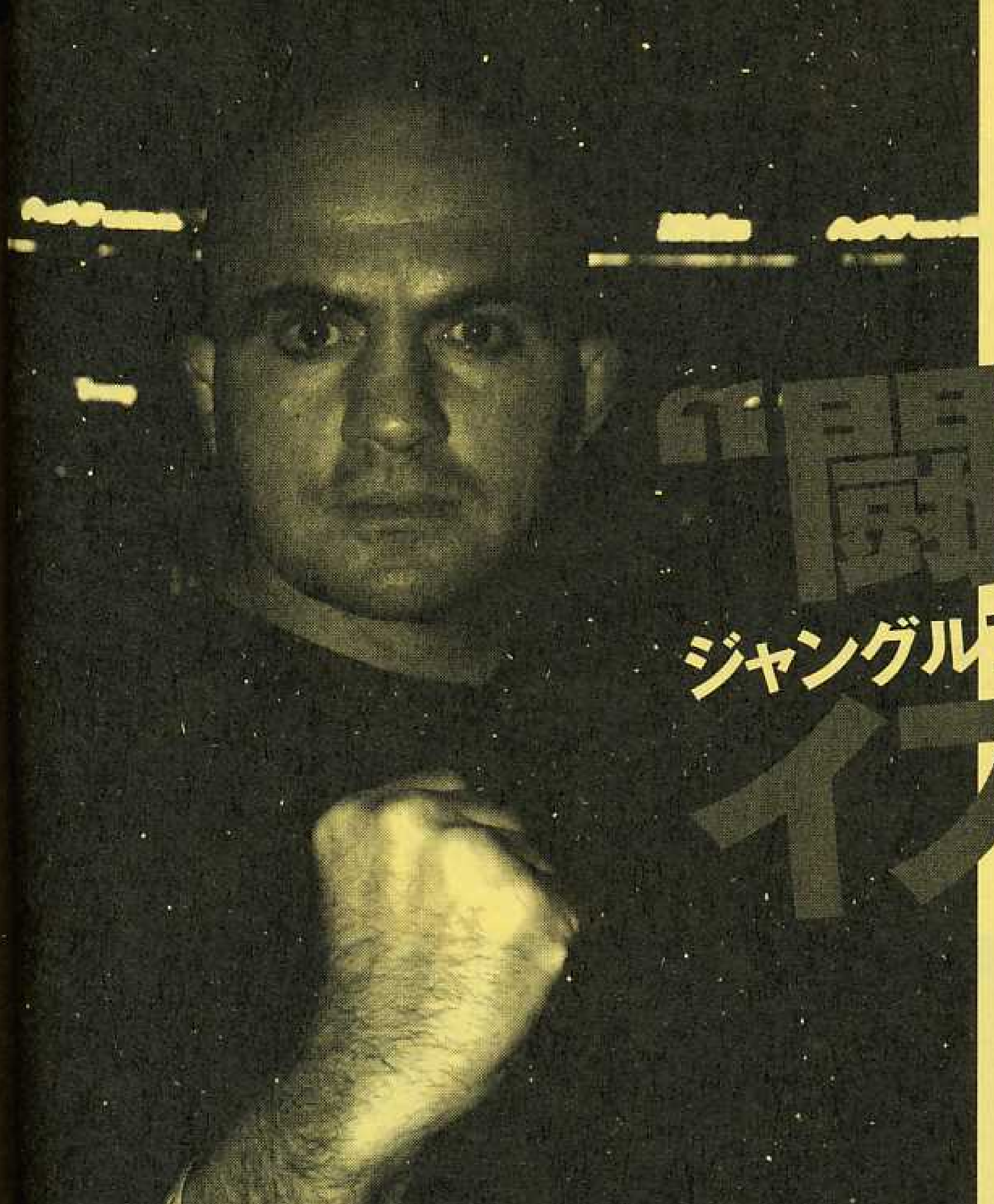
エド　とにかく私のカジノのネットワークはハイローラー（金持ち）のカジノであって、フェティータが経営してるのはローカルのカジノだからね。影響力が違うし、ぜひ日本のプロモーションをアメリカに持ってくるお手伝いもしたいし、新しいファイターを日本に送りたいと思ってる。日本の皆によろしく伝えてくれ！

【09年1月26日／米国カリフォルニア州エド邸にて収録】

フェティータが経営しているのはローカルのカジノ。私のネットワークとは違う。



かつてはパンクラス買収を持ちかけられたこともあるエドさん。恐慌の余波があるとはいえ、アメリカのMMAシーンにはまだまだビジネスチャンスが転がっている。だからこそエドさんも目をつけているのだ。春のMMA改編にどう絡んでくるのか？



Wallid Ismail■1968年2月23日、ブラジル・アマゾニア州マナウス出身。アントニオ猪木を敬愛し"闘魂ストーカー"の異名をほしいままにするが、じつはホイス、ヘンゾ、ハウフという3人のグレイシーを柔術で破り、ハイアンをケンカで絞め落とした凄い人。「俺こそが真のグレイシーハンターだ!」と目をギラつかせて叫ぶが、なぜかみんな聞いてくれない。現在は『ジャングルファイト』プロモーターとして活躍。自称「バーリ・トゥード界のロナウド」。170cm、82kg。

『アフリクション』会場で捕獲!
忘れた頃にヤツが来た!!

"闘魂ストーカー"
ジャングルファイトプロモーター
イズマイウ現わる!

「俺様は日本のファンを愛してる。相思相愛だ!」

世界の中の日本を考える
日本ってなんだっけ

カーウソン・グレイシー柔術の重鎮ながら、異常な自己顕示欲で、常にカメラにフレームインを試み、のちに猪木のピッタリくっついていることから"闘魂ストーカー"と呼ばれたイズマイウ。この神出鬼没な男を、最近すっかり見ないと思ったら『アフリクション』の会場に現われた! 早速話しかけると、必要以上にテンションを上げて歓迎してくれたので、ついでにインタビューしてみました。

聞き手／堀江ガンツ

——いや〜、〝バーリ・トゥード界のロナウド〟を自称する伝説のファイター、イズマイウさんにお会いできて光栄ですよ！

イズ　そうかそうか。俺様も日本人プレスに声をかけてもらえて嬉しいよ。俺様は日本が大好きだからな！

——でも最近、イズマイウさんが日本に突然現われたりしないんで、日本の（一部の物好きな）ファンは、もの凄く寂しがってますよ！

イズ　そうかそうか。日本のファンをそんなに寂しがらせてしまったか。俺様も日本のこと、日本のファンのことは一時も忘れたことがないよ。とにかく俺は日本を愛している。相思相愛とはこのことだ！

——ところで、今回はどうして『アフリクション』の会場に来たんですか？

イズ　今回は俺様のかわいい教え子が試合するので、その応援と、俺様がプロモートしている『ジャングルファイト』のアメリカでの放映権の交渉で来たんだ。

——『ジャングルファイト』がアメリカで放映されるんですか!?

イズ　いや、まだ決まったわけじゃないが、間違いなく多くのテレビ局が興味を示すだろう。なんといっても『ジャングルファイト』は「地球環境保護」という崇高な理念を掲げた、世界で最も素晴らしい格闘技イベントだからな。

——ちなみに今大会に出場しているイズマイウさんの「弟子」というのは誰なんですか？

イズ　ビクトー（・ベウフォート）とミノトゥーロ（ホジェリオ・ノゲイラ）だよ！　彼らは皆、俺様が手塩にかけて育てた弟子だ。

——そ、そうなんですか……。

イズ　とくにビクトーは小さい頃から面倒を見たからな。親代わり、いや〝お兄さん〟みたいなもんだな。

——イズ兄さんでしたか（笑）。

イズ　（身を乗り出して）それだけじゃないぞ！　今回参戦してる（レナート・）ババルも『ジャングルファイト』出身だし、UFCで活躍しているLYOTOやファブリシオ・ヴェウドゥム、それから（ホナウド・）ジャカレイだってそうだぞ！　とにかく『ジャングルファイト』出身ファイターはファミリーみたいなもんだ。

——みんなイズファミリーですか（笑）。

イズ　俺の〝家族〟がみんなトップファイターに成長して、こんなに幸せなことはないよ。

——でも、確かに『ジャングルファイト』は多くのトップファイターを輩出していますよね。

イズ　いま活躍している選手のほとんどが『ジャングルファイト』で育った選手なんだ。

——ほ、「ほとんど」とまで言いますか！

イズ　『ジャングルファイト』は俺様と、尊敬するイノキサン（アントニオ猪木）が立ち上げた最高の選手育成＆環境保護プロジェクトだからな。こんな素晴らしいチャンスを俺に与えてくれたイノキサンには、毎日毎日、感謝しているんだよ。俺はイベントのプロモーション方法、そして環境問題についてもすべてイノキサンから教わったんだからな。

——いまでも猪木さんとは会ったりしてるんですか？

イズ　残念ながら、2年ぐらい会えてないな……。

——あ、そんなにごぶさたなんですか。

イズ　俺はとにかくイノキサンに会いたい！　すぐにでも会いたい！　いまからでも会いに行きたいよ！（怖いくらいギラギラした目で）もし日本でイノキサンに会ったら「あなたの一番弟子であるイズマイウが会いたがっている」と伝えてくれ！

——イズマイウさんは一番弟子でしたか！

イズ　俺はイノキサンに格闘技だけでなく、プロモート業、地球環境、さらには男としての生き方も学んでいるからな！　とにかく俺様はイノキサンを尊敬しているんだ！（目をギラつかせながら）。イノキサンが俺に与えてくれた『ジャングルファイト』は、俺にとって自分の血のようなものでもあり、俺のすべてなんだよ！

——『ジャングルファイト』はイズマイウさんのすべてですか！

イズ　この素晴らしい『ジャングルファイト』が今度は4月25日に開催されるから、ぜひ日本のファンにも伝えてくれ！　この大会はホジェリオも参加する予定なんだ。ホドリゴも参戦したくてたまらないだろうが、彼はUFCと契約があるから、ゲストで来場するだろう。とにかく素晴らしいイベントになるぞ！（目をギラギラさせながら）。

——わ、わかりました。では、またどこかでお会いしましょう。

イズ　ぜひ日本で会おう！　日本のファンにもイズマイウはすぐにでもみんなに会いに行くと伝えてくれ！（痛いほど強く握手をしながら）。

【09年1月24日／米国カリフォルニア州アナハイム、ホンダセンターにて収録】



『アフリクション』大会終了後、ホジェリオのコメントを取っていると、イズが突然割り込んできた！ そしてちゃっかりチーム・ノゲイラ集合写真の中央に写り込むイズ。その異常なまでの自己顕示欲は健在だ。



日本が世界に誇る"東洋の神秘"をひも解く――

【特集】

"足関"とは何か!?

世界のMMAの中心はアメリカだって!?　あ、そうですか。
しかし、まだまだ日本が世界に誇れるものはありますよ!　そう、それは足関!
ここ最近も青木真也や北岡悟がフィニッシュで使用し、
さらには"足関十段"今成正和のDREAMフェザー級GP参戦が決まるなど、
にわかに盛り上がりを見せる"東洋の神秘"足関節を徹底特集!

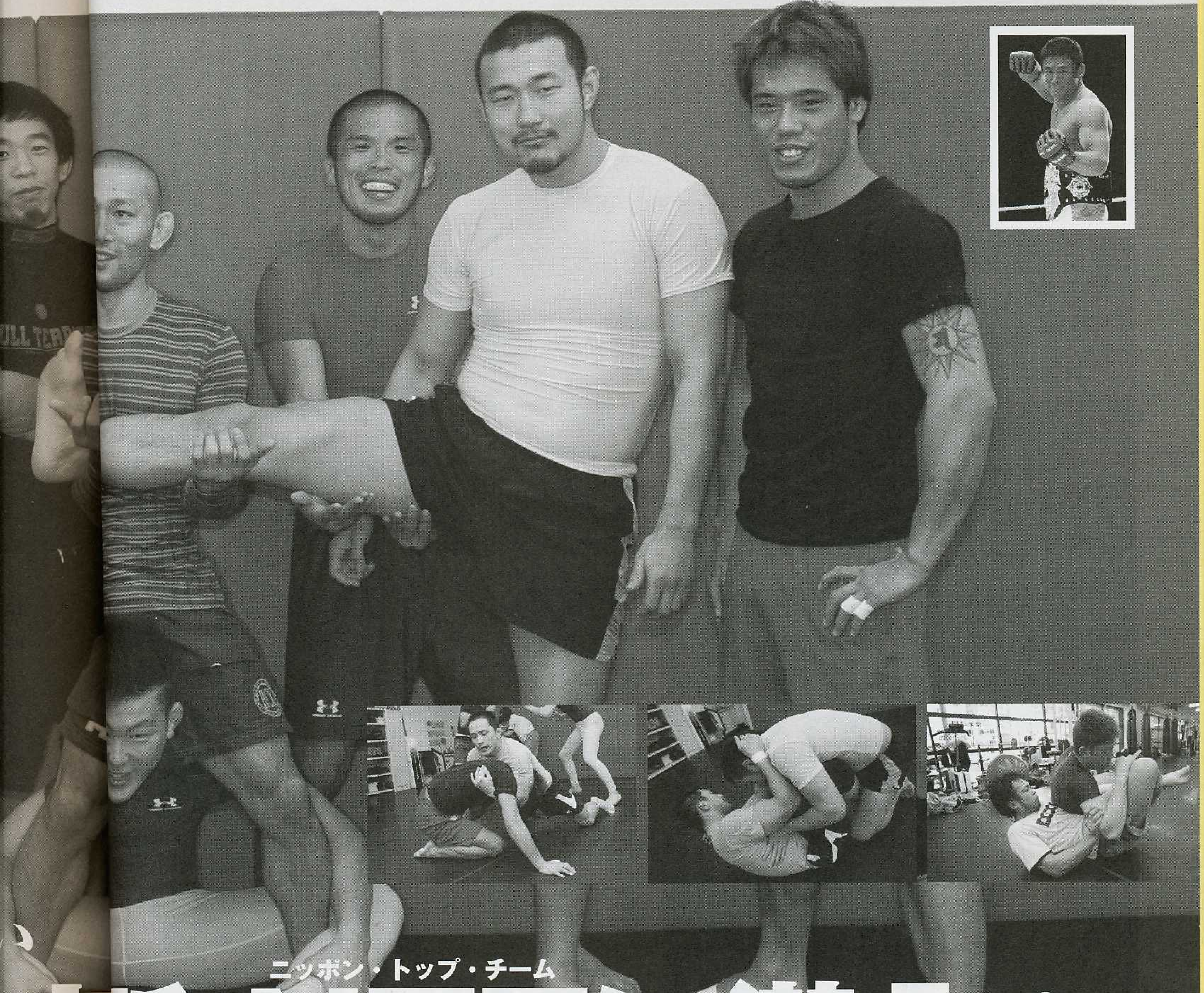
兄さん"みたいなもんだな

――イズ兄さんでしたか（笑）。

えてくれ！

――イズマイウさんは一番弟子でした

【09年1月24日／米国カリフォルニア州アナハイム、ホンダセンターにて収録】



究所・NTTに潜入！

ニッポン・トップ・チーム

文／阿修羅チョロ

今回、足関特集をやるにあたり、まず押さえておかなければいけないのは、やはり〝足関十段〟こと今成正和、そして昨年大晦日の『Dynamite!!』でエディ・アルバレスにヒールホールドで一本勝ちした青木真也、さらには『戦極の乱』で五味隆典をアキレス腱固めで下した北岡悟、この3人で間違いないはず。

あれ？　この3人と言えば何か共通点があったような……、あ、NTTだ！　というわけで、やってきたのは、ニッポン・トップ・チーム、略してNTTが合同練習を行なっている都内・DEEPジム。

念のため説明しておくとNTTはBTTやATTとは違い正式なチームではない。リーダー格の青木によると、「強くなりたい選手が集まって、ただスパーリングをやるだけの練習会です。まあ変態パーティみたいなもんスよ」とのこと。

青木、北岡、今成といった足関名人が集うこの場所でいったいどんな変態特訓が行なわれているのか？　ジムの片隅で待機していると、青木、今成、長谷川秀彦といった主要メンバーから、川尻達也や石田光洋といったDREAMファイター、『戦極』フェザー級GP参戦が決まった金原正徳など、主戦場も所属も違う選手たちが「強くなりたい」という極々シンプルな目的のもと続々とジムに集結。NTTには試合前の調整で訪れることが多い北岡は姿を見せなかったものの、このメンバーだけでもマニアはたまらないだろう。

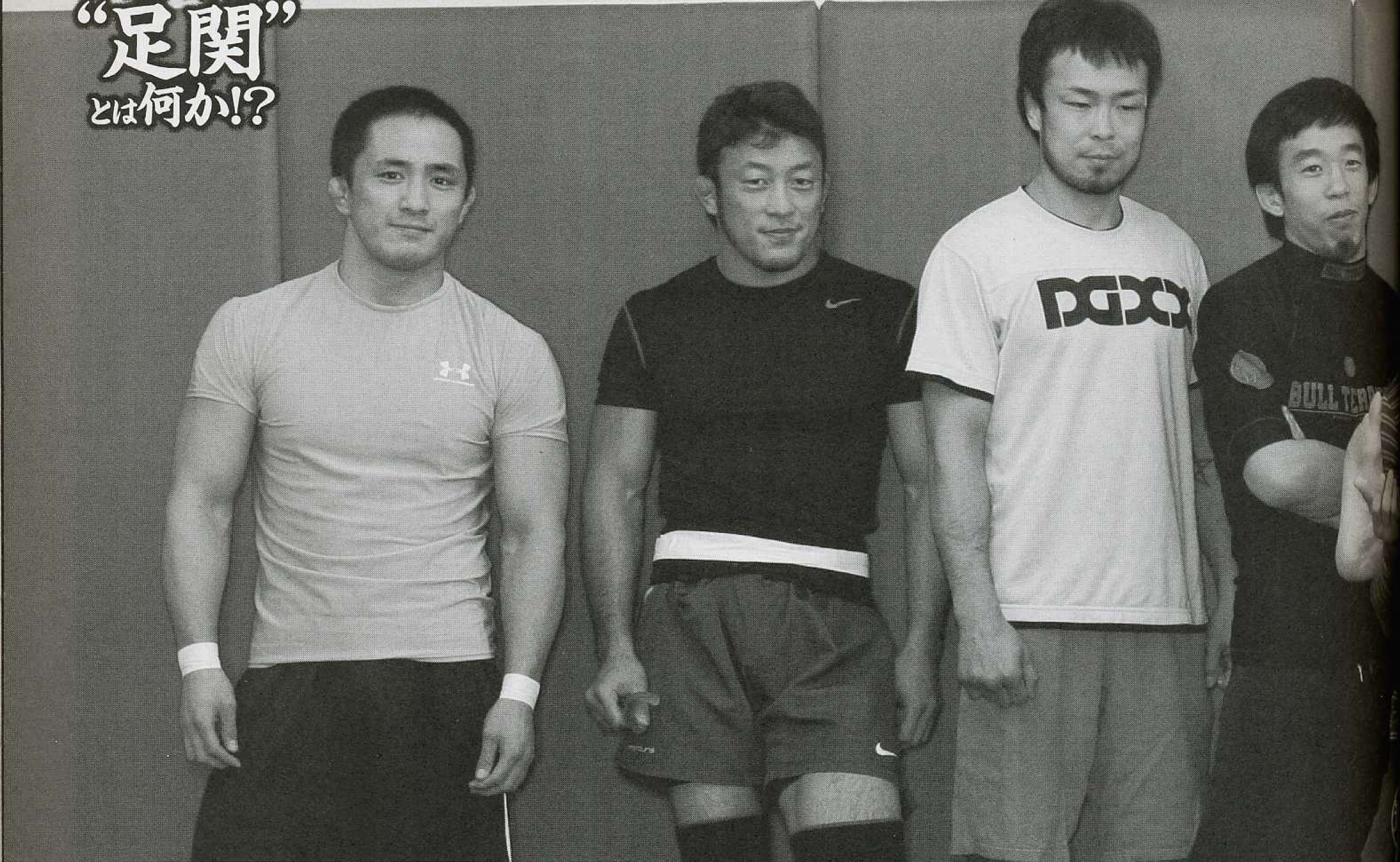
変態パーティという名の練習会は青木の号令のもと簡単なストレッチをすませると、すぐさま5分1ラウンド（約10本）の寝技スパーに突入！　気がつけば目の前では、青木vs川尻、石田vs今成といったドリーミングな組み合わせがジムの至る

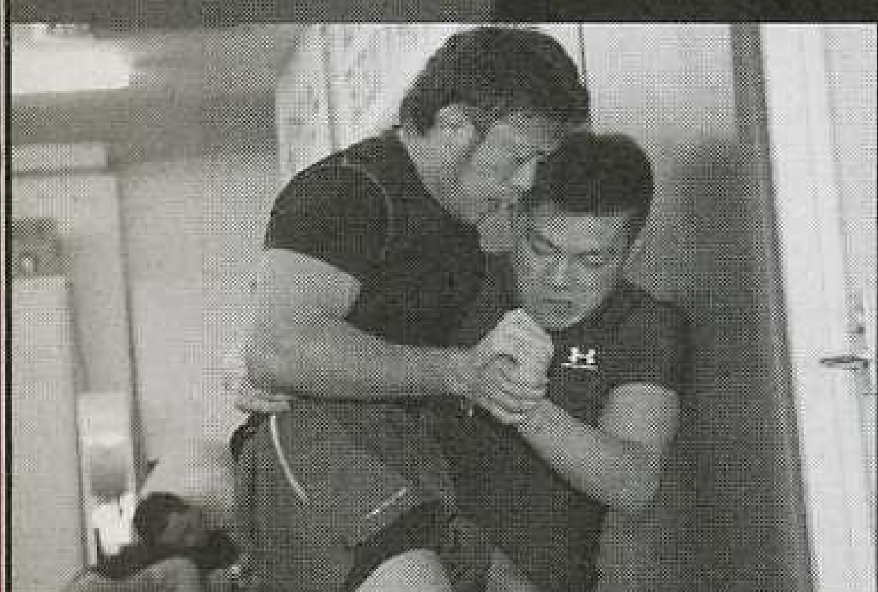
ところで実現している。ラウンド間のインターバル中も、先ほどまでスパーをしていた金原からテクニック面の疑問をぶつ

ーム・ローケン）、

ん！

東洋の神秘
“足関”とは何か!?









青木、今成、北岡ら、足関名人が勢揃い
ウワサの足関研究所

ドリーミングな組み合わせがジムの至るところで実現している。ラウンド間のインターバル中も、先ほどまでスパーをしていた金原からテクニック面の疑問をぶつけられ、理論的で的確なアドバイスを送り、ズバッと悩みを解決してみせた青木。

これまでも何度かNTTの練習を見たことはあるが、あらためてじっくり見学すると驚きの連続。打撃のマススパーと違って寝技のスパーは基本はどこもガチだとは聞くが、ただでさえケガをしやすいという足関もかたちだけではなく、素人目にもガチガチに極め合っている。その証拠に、あちこちから「あ〜っ!」だの「くそ〜っ!」といった断末魔の叫び声は当然として、「ミシミシ」といった関節が拉ぐ音まで聞こえてくる……ような気がした。

「寝技のスパーはみんなガチですね。やるほうは当然本気でやるんで、やられる側がケガをしないように早めにタップするような感じで。それでも、たまに壊れちゃう人もいますけどね」(長谷川)

今回の特集が足関だからというわけではないが、これまで見てきたどのジムや道場よりもスパーにおける足関の比率が高いように感じられた。アメリカではリスクが大きいからということで、足関の練習はほとんどやらないというジムもある中で、さすがは〝足関研究所〟と言われるNTTである。今成や青木といった足関マスターが仕掛ける足関から本気で逃げ、本気でやり返すことの繰り返しで、それぞれの足関技術も進化していくのだろう。

奥も深けりゃ極めも深い! 足関名人が集うNTTとは変態的な強さを追い求める男たちのたまり場だったのだ。

MMAの中心はアメリカなのかもしれないが、東洋の神秘〝足関〟はやっぱり日本がド真ん中! う〜ん、足・関!!

取材日のNTT練習に参加していたのは左から順に、石田光洋 (T-BLOOD)、川尻達也 (T-BLOOD)、鹿又智成 (パラエストラ八王子)、村田卓実 (和術慧舟會A-3)、今成正和 (チーム・ローケン)、青木真也 (パラエストラ東京)、梅田恒介 (R-BLOOD)、長谷川秀彦 (SKアブソリュート) の8名。このあとにもう一人登場したのですが写真を撮り忘れました。申し訳ありません!



東洋の神秘
“足関”とは何か!?

“格闘技オタク”
青木真也が語る“足関論”
「足関のルーツはプロレスです」

“DREAMの大黒柱”、“跳関十段”などのキャッチフレーズを持つ世界のワオ木さんは、自他ともに認める“格闘技オタク”としても有名だ。足関へのこだわりもかなりのものがあるワオ木さんが語る意外な足関論とは?

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／山口比佐夫　試合写真／乾普也

——今回、足関特集ということで、自他ともに認める格闘技オタクの青木さんに足関について話を聞かせてもらえればと思っています。

青木　足関なら任せてください!

——青木さんと足関と言えば、昨年の大晦日の『Dynamite!!』でのエディ・アルバレス戦のヒールホールドが記憶に新しいところですが。

青木　そうなんですけど、総合の試合で足関で極めたのって、じつはあの試合が初めてですからね。もう20試合以上してるのに。

——あ、そうか。でも、足関は得意技ではあるんですよね?

青木　いや～、まだまだ十段（今成）にはかなわないッスね。

——十段にはかないませんか。でも、今成さんに限らず、日本って足関技術がほかの国に比べて発達してるじゃないですか。練習仲間の北岡さんなんかも得意としてますし。

青木　日本は世界的に見ても足関の先進国ですからね。でも、それってなんでだと思います?

——う～ん、なんでしょうねぇ。デストロイヤーの足4の字固めは関係ないでしょうし。

青木　いや、惜しい!

——えっ、デストロイヤーで惜しいんですか?

青木　そう。日本で足関が発達してるのはプロレスからきてるんですよ。

——日本の足関のルーツはプロレスでしたか?

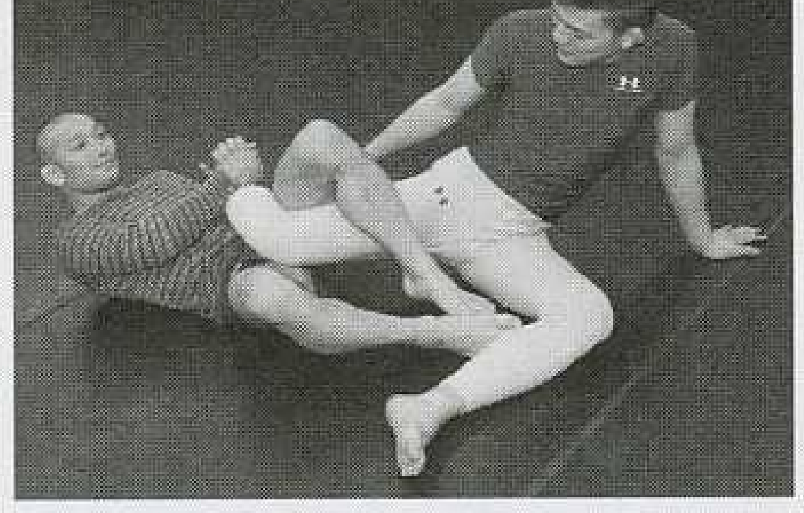
青木　そういうことです。なんでかっていうと、プロレスで関節技っていうと、やっぱりUWFじゃないですか?

——まあ、そうですけど、青木さんはプロレスもUWFも正直あまり詳しくはないですよね。

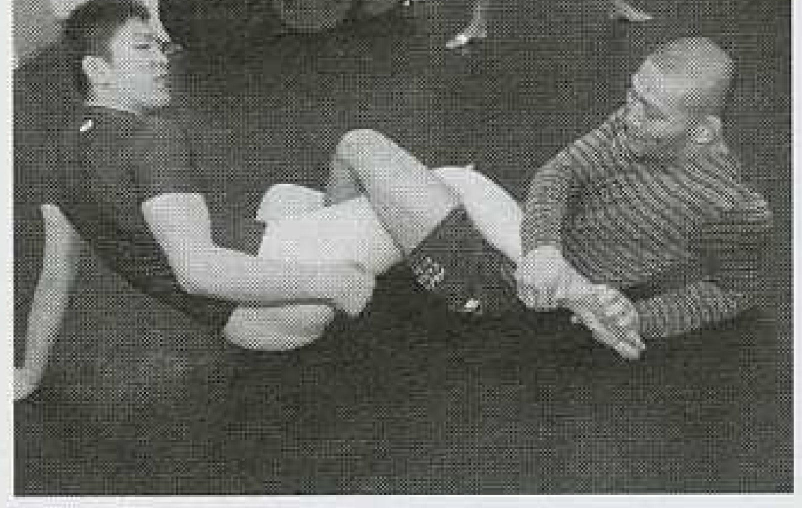
これが十段の足関だ!
今成正和、足関全リスト



足関No.003 アキレス腱固め
アキレス腱はもちろん、足の絞めつけも凄い!



足関No.002 ヒールホールド
今成のMMAで一番多い決まり手がコレです!



足関No.001 アンクルホールド
一発目はポピュラーなアンクル。ひねるぞ～!



撮影／タイコウクニヨシ

青木　（気にせずに）UWFって柔術のエッセンスはないじゃないですか。てこと

ヒールホールドはブラジルにもありましたから。ちなみに、ヒザ十字はサンボが

らみ）って言われてたんですけど、足緘も禁止技になって、「ヒザ十字ならいいだ

なぁ。

——まあでも、足関を狙うと殴られるリ

め
の痛さ!

ライト級世界2位のボクから見ても十段の足関は世界一だと思います！

青木　（気にせずに）UWFって柔術のエッセンスはないじゃないですか。てことは、パスガードのエッセンスもないわけですよ。

——UWFでは、まだパスガードという発想はなかったみたいですからね。

青木　そうそう。パスガードの概念がないから、とりあえず押さえ込んだら関節技を狙っていくわけです。

——必然的にそうなりますよね。

青木　要はゴールしか知らないというか、ゴールを追い求めるかたちになるんですよ。よく言われるところの極めっこってヤツですよね。ある意味、それがプロレスのロマンでもあり、足関が発達した原因とも言えるわけです。

——なるほど。

青木　だから、プロレスというかUWFには柔術の概念がなかったから、必然的に足関節が発展したんです。まさに東洋の神秘ですよ！

——ほぅ、そういうことでしたか。それって、どっかで発表したことありましたっけ？

青木　前に『kami-pro・com』のコラムで書きましたね。皆さんも、本誌だけじゃなく、ワオ木がコラムを連載している『kami-pro・com』も読んでください！

——宣伝ありがとうございます！（笑）。

青木　ボクはプロレスもUWFも詳しくないですけど、足関と言えばプロレスっすよ。だって、最初にヒールホールドを日本に持ち込んだのって新日本プロレスに来た……誰でしたっけ？

——イワン・ゴメスですか？

青木　そうそう。そっからですからね。ヒールホールドはブラジルにもありましたから。ちなみに、ヒザ十字はサンボが発祥って言うじゃないですか？

——ヒザ十字はサンボのイメージが強いですね。

青木　でも、サンボよりも前に日本にあったんですよ。

——あ、そうなんですか。

青木　サンボが日本に入ってくる前に高専柔道で六高の選手がヒザ十字で勝ってたりするんですね。まだ大正時代とかですよ。

——へぇ～。


意外や意外、じつは昨年大晦日の『Dynamite!!』でのエディ・アルバレス戦が青木にとってMMAでは初の足関による一本勝ちとなるのだ。ちなみにフットチョークは足関ではないですから!

青木　で、技の名前は〝足の大逆（たいぎゃく）〟って言うんですよ。

——足の大逆？

青木　その当時のルールって、どこを取ってはいけないっていうのはまだなかったんです。

——禁止技はとくに設けられていなかったと？

青木　そうです。ヒールは足絨（あしがらみ）って言われてたんですけど、足絨も禁止技になって、「ヒザ十字ならいいだろう」ってことで、ヒザ十字をやる選手が増えたんですけど、それも禁止になるんですよ。

——どんどん足関節が禁止技になっていくわけですね。

青木　そういうことです。ちなみに、アキレス腱固めは足挫（あしひしぎ・あしくじき）って言って、足関ではないですけど、三角絞めは松葉搦み（まつばがらみ）って言うんですよ（ちょっぴり得意げ）。

——さすが、格闘技オタク！

青木　いまと違って昔は柔道にも足関はあったんですよね。で、日本は足関全般が得意だと思うんですけど、やっぱり日本はヒールの国だと思うんですよ。

——日本はヒールの国！

青木　だと思いますよ。ヒールとか、アンクルとかひねるのが好きな国ですね。

——ひねるのが好きな国（笑）。

青木　アキレスの国ではないですね。

——アキレスの国はどこになるんですか？

青木　アキレスの国は、やっぱりロシアでしょう。で、なにげにヒザ十字が得意なのがブラジルですよ。

——ブラジルはヒザ十字の国ですか？

青木　そう。なぜなら、柔術の潜りがあるから。

——はぁ～、ちゃんと理由があるんですね。

青木　潜りの技術とか、潜りのカウンターにヒザ十字をあわせるわけですよ。

——最近のMMAの決まり手を見ると、UFCをはじめ足関節で決まることは少ないですよね？

青木　それはオクタゴンとリングでも違ってくるとは思うんですけど、やっぱり、みんな殴られるリスクを冒してまでトライしないわけですよ。ロマンがないんだなぁ。

——まあでも、足関を狙うと殴られるリスクはどうしても出てきますよね？

青木　そうなんですけど、ちゃんと極めたら殴られないですよ。ちなみに、前に（JZ）カルバン選手にアキレスを仕掛けて蹴り殺されそうになったのは、足の組み方をミスしてしまったからだしね。しっかりとした技術があれば打撃は食らわないですから。

——そういったテクニックもNTTでは練習したりしてるみたいですね。

青木　やってますね。でもね、足関節って、テクニックももちろん必要なんですけど、ぶっちゃけ、重要なのは感性だと思うんですよ。

——足関は感性!?

青木　ボクはそう思いますよ。まあ、十段（今成）が感性の人だからっていうのもあるんですけどね（笑）。

——確かに感性の人ですよね（笑）。青木さんの感性は足関向きなんですか？

青木　どうなんですかねぇ。まあでも、柔道時代は足関は必要なかったし、ボクが足関を覚えたのってホントに十段と練習するようになってからなんで、まだ足関歴は何年も経ってないですからね。

——やっぱり、青木さんから見ても今成さんの足関はハンパじゃないって感じですか？

青木　だって、フットロッカーって言われてる人でも十段から足関取ったことある人ってほとんどいないんですよ。

——足関十段ともなれば、取るだけではなく、取られないっていうのもあるわけですね？

青木　取られないです。ライト級世界2位のボクから見ても、十段の足関は世界一だと思いますね。足関ってロマンあるよなぁ……（遠くを見つめる）。

【09年2月5日／都内・DEEPジムにて収録】


足関No.004 ヒザ十字固め
ヒザ十字、ちょっと工夫でこの痛さ!


足関No.005 ヒザ固め
足4の字に近いですが総合では無理みたいです


足関No.006 足固め
青木が攻めているようで極めているのは十段!


足関No.007 足絡み
いろんなところが極まりまくり。これが十段!!

各ジャンルのエキスパートが語る
足関の実態

構成／阿修羅チョロ

ひとくちに〝足関〟といっても、日本とアメリカでは、その認識も違うだろうし、MMAとプロレスでは技のかたちも威力も違うはず。というわけで、ここではサンボやジョシカクなど、さまざまなジャンルのエキスパートに、それぞれ、足関の実態を語ってもらいました！

サンボ界にも今成さん級の足関の使い手はいるんです！



【サンボと足関】
長谷川秀彦
はせがわ・ひでひこ■1978年7月13日、兵庫県出身。第2代DEEPウェルター級王者。SKアブソリュート所属。175cm、82kg。

「今成さんの足関が凄いっていうのはみんな言ってると思うんで、自分はサンビストとしてサンボの世界の足関について語ります。意外と知らない人も多いと思うんですけど、サンボの足関はひねっちゃダメで、ヒールとかアンクルは禁止なんです。あと、つま先を持つのもダメなんで、今成さんの得意な足関はだいたいダメなんですね。

だからサンボの足関は基本的にアキレス腱固めとヒザ十字固めの二つなんですよ。制限されているからその二つが異常に発達しているところがあって、いまサンボで日本最強の松本秀彦先輩のアキレス腱固めはメチャクチャうまいし、痛いです。あと、木口道場の榊原啓三って人のアキレス腱固めはたぶん日本で一番痛いですね。

それとボクのアキレス腱固めの師匠でスポーツ会館のサンボのコーチでもある大久保凡さんって人がいるんですけど、大久保さんは「俺はサンビストじゃなくて日本唯一のアキレシストだ」って言うぐらいの人で（笑）、技の多彩さでは一番だと思いますね。ボクはよく「サンボには2千種類の関節技があるんだ」って言ってるんですけど、大久保さんは「俺は2千種類のアキレス腱固めがある」って言い張ってますから。大げさに聞こえるかも知れないですけど、あの男ならそれぐらいできるかもしれない（笑）。

ルールが違うんで比べられないですけど、今成さんに負けないぐらい足関の使い手もいっぱいいるんで、今回の特集で足関に興味を持ったらサンボも注目してみてください」

ジョシカクの足関レベルは男子とは全然比べられない



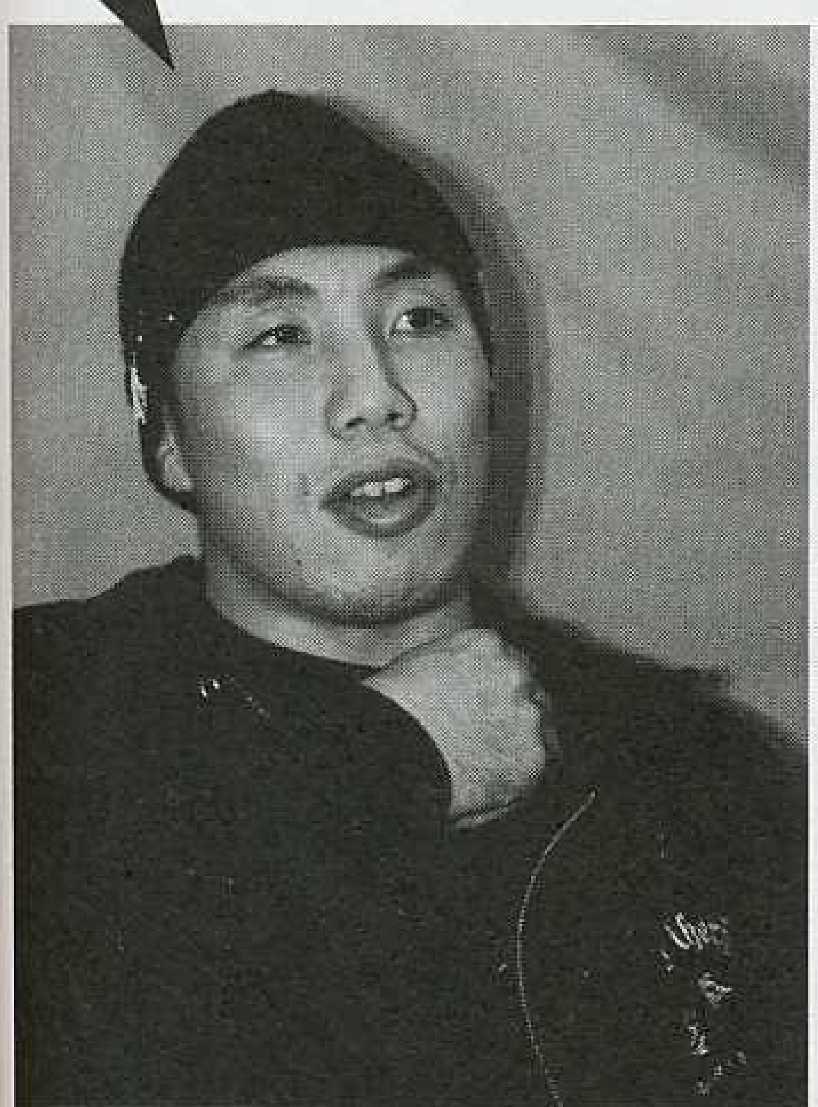
【ジョシカクと足関】
しなしさとこ
しなし・さとこ■1977年1月29日、東京都出身。今年7月に出産予定で現在は産休中のDEEP女子フライ級王者。フリー。148cm、48kg。

「いま私は産休中で格闘技はお休み中なんですけど、ちょっと前まではDEEPジムで、よくイマナー（今成）や青木くん、北岡くんなんかと一緒に練習させてもらってたんですよ。そういった男子のトップレベルの選手と練習する前は、試合でも何度かヒールで勝ったこともあったし、ちょっぴり足関は自信があったんですけど、いまはもう全然自信がなくなりました（笑）。ハッキリ言っちゃうと、いまのジョシカクの足関レベルっていうのは男子に比べると全然だと思います。まだイマナーや青木くんみたいに完成系の技術を持った人は一人もいないし、ある程度、足関の技術を理解して試合でそのテクニックを出せる選手っていうのは5人もいないと思いますね。足関のうまい女子選手？　う〜ん、何人かは思い当たるんですけど、私みたいにイマナーたちの足関を知ってると、「うまい」とは残念ながら言えないですね（笑）。

残念ながら現状はそんな感じなんで、女子でイマナーとかのレベルの選手が出てくるには何十年とかかかっちゃうと思いますよ。私の足関ですか？　女子の中ではうまいほうなのかもしれないですけど、男子のトップと比べると天と地の差というか、それ以上で。ホント、私なんてウ○コみたいなもんなんで、丸めて流してください（笑）。

まあでも、私は子どもを産んでしばらくしたら復帰するつもりなので、そのときは足関で勝てるように、妊娠中はイメージトレーニングを頑張ります！」

アメリカは足関文化がないんで、日本よりレベルは低いです

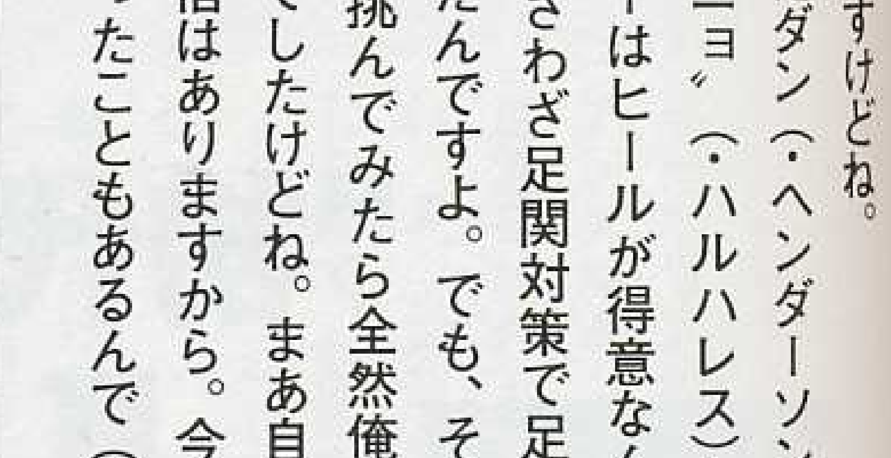


【アメリカと足関】
長南 亮
ちょうなん・りょう■1976年10月8日、山形県出身。07年11月からはUFCを主戦場に。足関四段。Team M.A.D.所属。175cm、77kg。

「基本的にアメリカのMMAの足関レベルは日本よりは低いですね。あちこち出稽古に行っても、自分の場合はアンデウソン（・シウバ）戦のヒールホールドのイメージが強いのか、足関のアクションに入るだけで、みんな警戒して逃げていきますからね。日本の足関文化っていうのはUWFとかの流れから来てると思うんですけど、そういう文化はアメリカにはないんで、足関がどういうものかよくわかってな

いんだと思いますよ。
それに、いまはUFCとかだと足関を狙いに行くのは、防がれたときに殴られたりヒジをもらったり凄くリスクがあるんで、みんなあんまり真剣に練習はしてないですね。そういう背景もあって、今成さんみたいに足関にこだわってやる選手っていないですよね。自分は今成さんとはけっこう前からスパーリングをしたりしてるんですけど、足関で挑んだりしても、俺が一回極めるのに、たぶん15回以上極められてるんじゃないかっていうぐらいの割合で返り討ちに遭いますからね（苦笑）。裏話としては、ジェイソン（"メイヘム"ミラー）が日本に練習に来たとき、デカいし強いんで、ほとんどみんなジェイソンに歯が立たないんですけど、寝技で一番いい勝負したのは今成さんでしたから。しかもジェイソンは途中から『ヒザが悪いんで足はやめてくれ』とか言い出して（笑）、今成さんからしてみたら、『どうしよう？』って話なんですけどね。

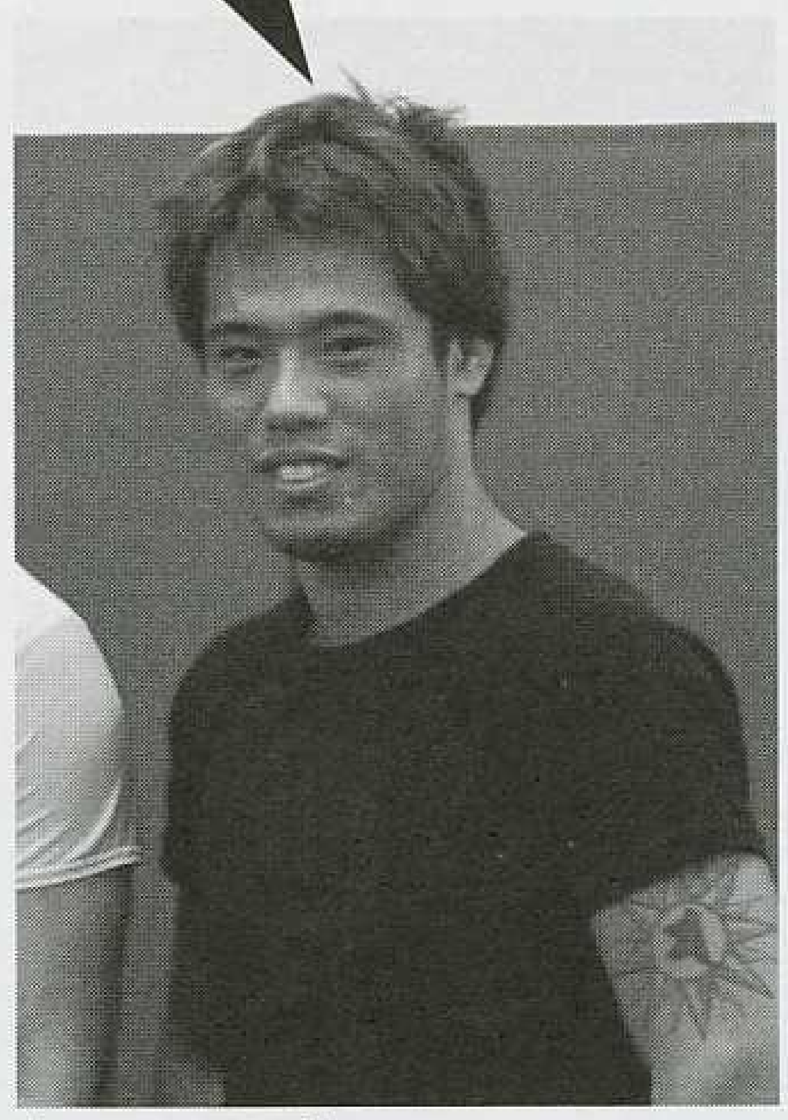
あと、このあいだダン（・ヘンダーソン）がホジマー・"トキーニョ"（・ハルハレス）とやったときもホジマーはヒールが得意なんで、ダンは試合前にわざわざ足関対策で足関の得意な選手を呼んだんですよ。でも、その選手に実際に足関で挑んでみたら全然俺と同じぐらいのレベルでしたけどね。まあ自分も足関はけっこう自信はありますから。今成さんから四段をもらったこともあるんで（笑）」



寝技テクニックはピカイチのメイヘムだが、典型的なアメリカ人だからか、足関に関してはそれほど理解していないらしい。効いてないって!?

東洋の神秘 "足関"とは何か!?

今成さんに足を狙われそうになったら逃げる準備をします（笑）



【ZSTと足関】
金原正徳
かねはら・まさのり■1982年11月19日、東京都出身。3.20開幕の戦極フェザー級GPに参戦。パラエストラ八王子所属。173cm、70kg。

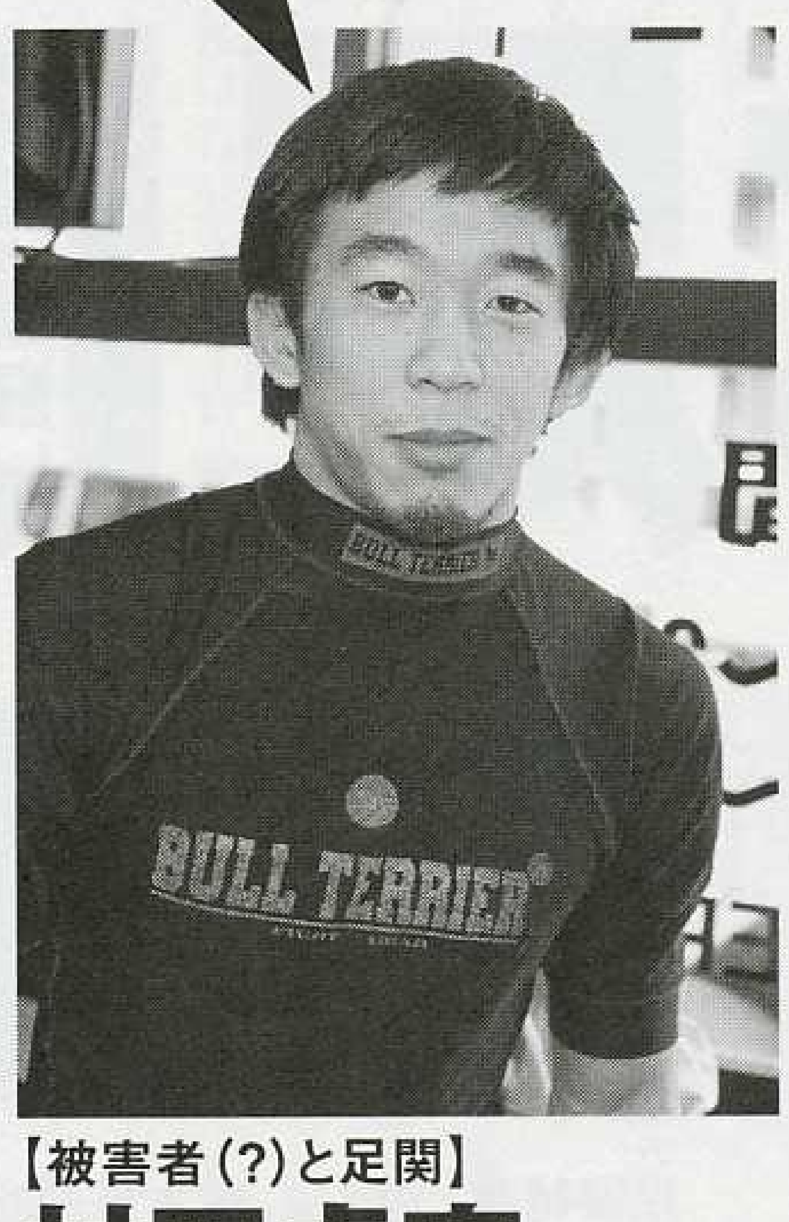
「自分はDEEPジムに週3回ぐらい練習に行かさせてもらってるんですけど、今成さんとか青木選手とか足関のメチャメチャ強い選手が多いんで行くたびに勉強になってますね。足関だけじゃないんですけど、スパーリングのインターバル中とかも、もう盗めるだけ盗んでやろうと思って、わからないことは聞きまくってますから。それに足関といってもやり方だったりポイントはみんな違いますよね。今成さんの場合は、どのポジションからでも極められる力がありますから。逆に言うと、どういう体勢にいても全然安心できないし、自分なんかは足を狙われそうになったら逃げる準備をしてますね（笑）。

あと、今成さんは組み力もそうなんですけど、引き力が尋常じゃないんですよ。30キロのハンマーを振り回す練習をDEEPのジムではよくやってるんですけど、今成さんは10回、20回と軽々とやってますからね。あのパワーも足関を極めるときに役立ってるような気がします。

青木選手の場合は手足が長いんで絡んで極めるっていうイメージがありますけど、青木選手や、あと北岡さんなんかもそうですけど二人は足関よりも絞めのほうがイメージが強いですね。やっぱり自分としては、足関イコール、今成さんって感じがします。

自分は『戦極』フェザー級GP出場が決まったので、ZST代表らしくおもしろい試合をして、最後はKOか足関とかで一本勝ちできるように頑張ります！」

青木選手のアキレスで足を壊されてから足関が恐怖に感じます



【被害者(?)と足関】
村田卓実
むらた・たくみ■1980年6月11日、東京都出身。元『kamipro』投稿者にして、実の姉は今成の奥さん。和術慧舟會A-3所属。167cm、67kg。

「僕は所属している慧舟會A-3だったり、DEEPジムや出稽古先で、いろんな人とスパーリングをしてるんですけど、足関ってしない人のほうが多いですね。

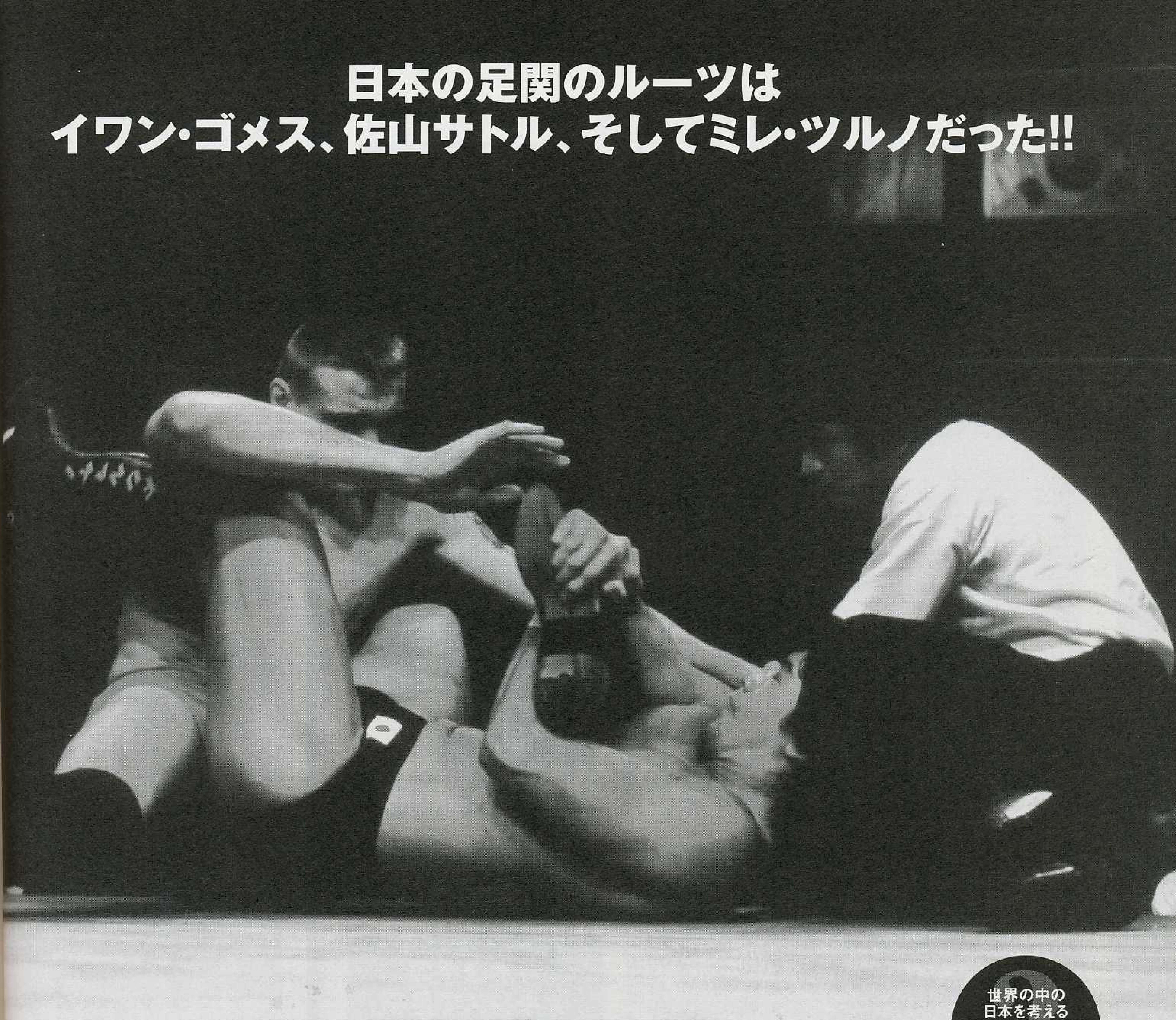
慧舟會にも徹（肌ィ郎）さんだったり足関が得意な人は何人かいるんですけど、足関ばっかり狙って仕掛けてくる今成さんみたいな人はいないですね。今成さんは普通の人がパスガードを狙ってくるのと同じように足関を仕掛けてくるんで。

僕も最近はグラップリングの試合とかでもたまに足関で勝てるようになってきたんですけど、総合ルールだとどうしても『失敗したらどうしよう？』って思って『絶対に足関で極めてやる』って気持ちにはならないんですよ。そういう意味では、今成さんは極められそうになったり殴られたりしても、ちょっとのことでは諦めない我慢強さっていう部分も十段だなって思いますね。

あと、僕にとっては青木選手の足関も凄く恐怖です。一回、練習中にアキレス（腱固め）で壊されたことがあるんで。まあ青木選手には足関だけじゃなくて全部の技でやられてるんですけど、足を壊されてからは足関っぽい雰囲気になっただけで恐怖を感じますね（苦笑）。痛さで言ったら、長谷川（秀彦）さんのヒザ固めもハンパじゃないです。もう一瞬も我慢できない感じで。あのヒザ固めをやられてからは、ほかの人に同じ技をやられてもあまり痛くは感じなくなりました。僕の足関のレベルですか？　2〜3級とかぐらいじゃないですかね（苦笑）」

船木　今日は〝足関〟の話ですよね？
ど、ここにきてまた注目を集めてい
るという。
ル「世界一」ですからね。やっぱり本
当に1分1秒でも長く、いろんなタ
人に勝つにはやっぱりあれしかなか
ったんですよ。なので、禁止にしたあ
じつは日本発じゃないんです。でも、
どっからどう渡ってきた技かはわか

日本の足関のルーツは イワン・ゴメス、佐山サトル、そしてミレ・ツルノだった!!



世界の中の日本を考える
日本ってなんだっけ

“初代”足関研究所・所長が語る

日本足関通史



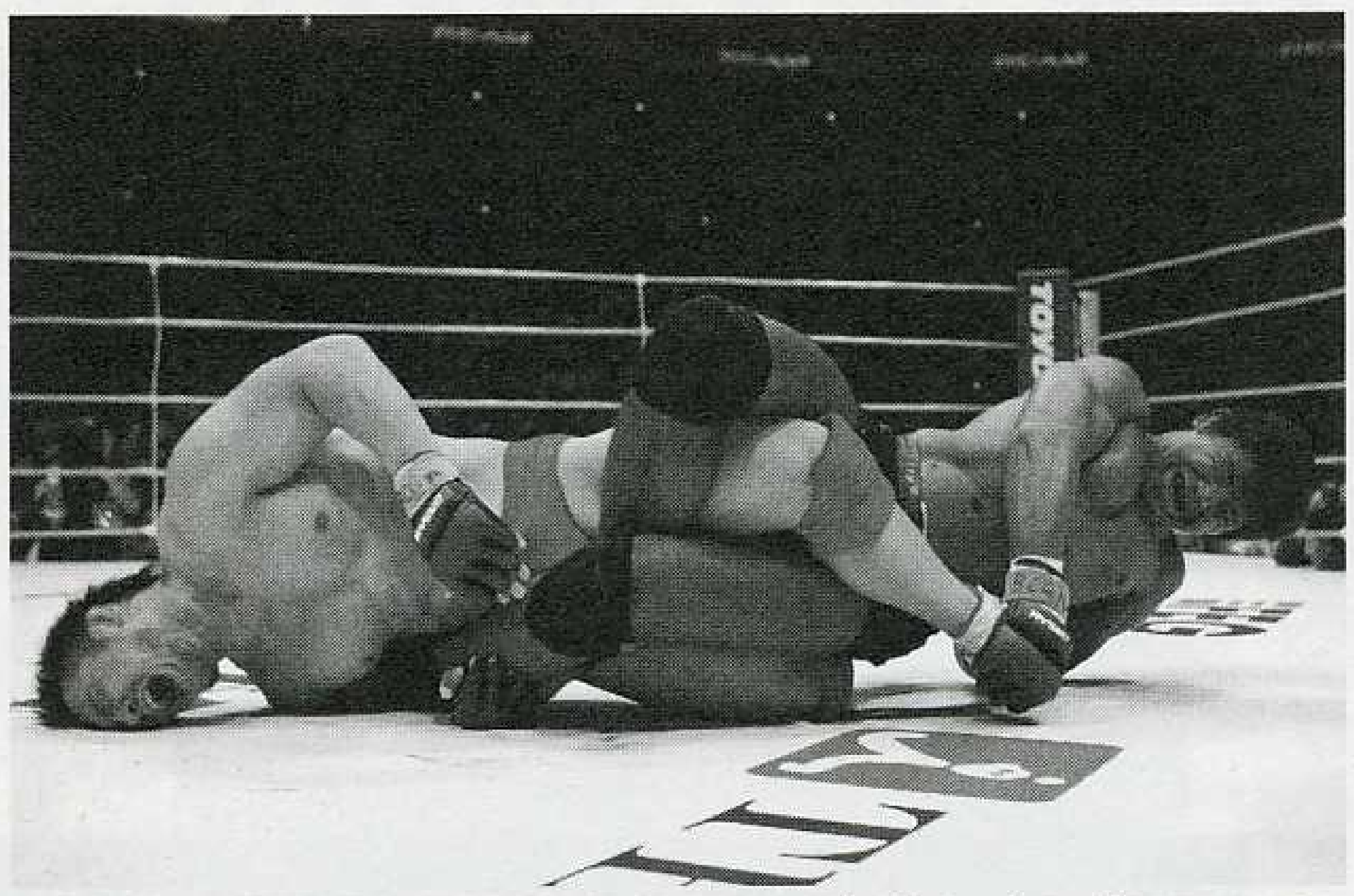
船木誠勝

足関特集といえば、船木誠勝をおいては語れない。
日本マット界において早くから足関に注目し、パンクラス時代にも
足関での一本勝利を積み上げてきた船木。そんな船木に今回は
足関のルーツを探るべく足関インタビューを敢行した。
足関はどこからやってきて、そしてこれからどこに向かうのか？

聞き手／堀江ガンツ　写真協力／パンクラス

アンクルはヨーロッパ遠征のときにミレ・ツルノから教えてもらいました

船木　今日は〝足関〟の話ですよね？
――そうなんですよ。いま青木真也選手や北岡悟選手らの活躍で、再び注目を浴びつつある技術ですけど、パンクラス旗揚げ当時から観ているファンなんかからすると、足関といえば船木さんのイメージが強いと思うんですよ。
船木　確かによく使ってましたね。
――足関は藤原組にいた頃から、もうずっと研究されてたんじゃないですか？
船木　そうですね。あの当時は、とにかく外国人を片づけるには足関しかないという感じでしたから。力の差、とくに欧米人の腕力はもの凄いですからね。それに対抗するために防御策も知らないであろう足を早めに固める方向にいってました。
――確実に外国人に勝つには、もう足しかない、と。
船木　調べてみたら、自分の試合は1年間のうち半分以上、足関で勝ってる年があるんですよ。そういう意味では、やっぱり当時は一番有効な技だったような気がします。それが一時廃れて、最近、また流行ってきてるっていうのがおもしろいですよね。
――そうなんですよ。バーリ・トゥードが出てきたときはもう足関はいったら負けるというイメージでしたけど、ここにきてまた注目を集めているという。
船木　自分が得意だったのはアンクルホールドだったんですけど、青木選手や北岡がアキレス腱固めとかヒールホールドを極めてるんで、ちょうど一周したのかなという感じがしますね。
――彼らの足関がこれだけ有効というのは、青木選手、北岡選手をはじめとする、いわゆるNTTの選手の足関の技術はそれだけ海外と比べても進んでいるということなんですかね？
船木　そうだと思います。海外に比べて進んでるということは、イコール「世界一」ですからね。やっぱり本当に1分1秒でも長く、いろんなタイプの足を触って、いろいろひねって研究してるんでしょう。


07年大晦日に現役復帰をはたした船木。その後、初の勝利となったのが『DREAM.6』でのミノワマン戦だ。その勝利もかかと固めで一本勝ちだから、まさに足関研究所・所長ここにあり！ という感じである。

――船木さんが『DREAM・6』でのミノワマン戦に足関で勝ったのも、かつてさんざん研究した成果ですか？
船木　そうですね。途中、探りながら動かして、足首とつま先が取れたって瞬間におもいっきりひねりました。あれはパンクラス時代に開発した技なんですけど、実際に初めて使えたのがあのミノワマン戦だったんですよ。
――あ、そうなんですか!?
船木　要するに、パンクラスでもヒールホールドを禁止にしてた時期があるんですけど、なぜかというと、ヒザを伸ばしてしまうと長い選手で1年ぐらい試合ができなくなりますし、それが何人か続いたんですよ。当時は選手も少なかったんで、このままだとちょっと興行自体ができなくなるということで禁止にしましたね。
――そのくらい足関は危険だということですか。
船木　ただ、日本人が力の強い外国人に勝つにはやっぱりあれしかなかったんですよ。なので、禁止にしたあとでもまだ自分は足にこだわって、アンクルホールド、つまりつま先と足首をひねる技を開発したんですよね。ま、正直それも効き目としては同じなんで、危険なんですけど。
――まあ、ルール的にはOKだろう、と(笑)。
船木　だけど当時は使ってないんですよ。で、初めて使えたのがこのあいだのミノワマン戦なんで、不思議なもんだなあと思って。
――ヒールホールドが禁止になってから、船木さんのアンクルホールドが猛威を振るいましたけど、あれはどんなきっかけで使うようになったんですか？
船木　あの技は自分がヨーロッパ遠征に行ったとき(87～88年)にミレ・ツルノという選手から教えてもらってたんですよね。
――国際プロレスや第一次UWFに来日した〝ユーゴの鷹〟ミレ・ツルノですか！
船木　彼が使ってたので、それで観て教えてもらったんですよ。だから、じつは日本発じゃないんです。でも、どっからどう渡ってきた技かはわからないですね。
――それを船木さんが、いわゆる輸入して日本に持って帰ってきたわけですか。
船木　もともと自分が日本を出発する前、新日本プロレスにあった足関は、アキレス腱固めとヒザ十字固めとヒールホールドだけだったんです。新日本にいたときには、藤原さんはヒールホールドしか使ってなかったんですから。
――もともと藤原さんですら一種類ですか！
船木　それが第一次UWFで佐山さんがサンボの技術を持ち込んで、そこで藤原さんもヒザ十字とアキレス腱固めを習得したんですよ。だからその時点でまだ3つですね。で、自分がヨーロッパ行ってアンクルを見つけたという感じですか。それを第二次UWFで使っていくうちに、ほかの選手も使うようになったんですよね。
――そこでようやく4つの足関が日本に揃った、と。でもアンクルは、いわゆるキャッチの技でもないんです

船木誠勝の恐るべき足関での勝利試合

08年
[09.23『DREAM.6』]
○ vs ミノワマン
(1R 0分52秒 かかと固め)

97年
[11.16パンクラス]
○ vs ジェイソン・ゴドシー
(1R 7分12秒 アンクルホールド)
[06.30パンクラス]
○ vs ウェスリー・ガサウェイ
(1R 1分05秒 アンクルホールド)
[02.22パンクラス]
○ vs セーム・シュルト
(1R 5分47秒 アンクルホールド)

96年
[06.25パンクラス]
○ vs ヴァーノン・“タイガー”・ホワイト
(1R 2分34秒 アンクルホールド)
[03.02パンクラス]
○ vs 稲垣克臣
(1R 1分14秒 ヒザ十字固め)

95年
[09.01パンクラス]
○ vs ガイ・メッツァー
(1R 6分46秒 アキレス腱固め)
[07.23パンクラス]
○ vs リオン・ダイク
(1R 1分01秒 アキレス腱固め)
[06.13パンクラス]
○ vs グレゴリー・スミット
(1R 7分30秒 アキレス腱固め)
[05.13パンクラス]
○ vs アレックス・クック
(1R 7分14秒 ヒールホールド)
[03.10パンクラス]
○ vs フランク・シャムロック
(1R 5分11秒 ヒールホールド)
[01.26パンクラス]
○ vs ジェイソン・デルーシア
(1R 9分08秒 ヒールホールド)

94年
[07.26パンクラス]
○ vs スコット・バムバム・ソルビン
(1R 0分56秒 ヒールホールド)
[01.19パンクラス]
○ vs バス・ルッテン
(1R 2分58秒 アンクルホールド)

93年
[10.14パンクラス]
○ vs 柳澤龍志
(1R 1分35秒 ヒザ十字固め)

船木誠勝

足にいったらダメだという固定観念は髙田vsヒクソンが原因かもしれない

か？

船木　自分も最初はキャッチの技なのかと思ったんですけど、キャッチで有名なスティーブ・ライトとかはほとんどアームロックやフロントフェースロックしか使ってないんですよ。

――カール・ゴッチさんも足関はあまり使ってなかったんですか？

船木　足関節はあんまり教えてくれなかったですね。レッグスプリットみたいにテコを使って極める技とか、バックを取られたときに股のあいだから足首を取って、ヒザのところをヒジで押して極める方法とか。あと四つん這いになった選手の足先を持って、かかとのほうにヒザを当ててひねって相手を動かす技ですか。そういう技術だけでした。だから藤原さんのヒールホールドはたぶんイワン・ゴメスから教えてもらった技でしょうから、キャッチじゃなくてルタ・リブレのものでしょうし。そのルーツはあいまいですね。

――整理すると、最初新日本プロレスにあった足関は、ゴメスが使っていたヒールホールドぐらいだった、と。

船木　足はそのくらいでしたね。その代わり、そのヒールホールドが本当に痛くて防げなかったですよ。ポジションという概念がまったくなかったんで、極められる前に逃げる、とにかく動いて逃げるということの繰り返しでした。

――では、当時の新日本プロレスで行なわれていた〝極めっこ〟の練習で使われた技っていうのは、アームロックが中心ですか？

船木　そうですね。あとは、藤原さんが腕十字固めと三角絞めをけっこう得意にしてて。でも、藤原さん以外は誰も三角絞めは使ってなくて、みんなスリーパーばっかりでしたから。まあ、スリーパーよりはフェースロックみたいなかたちのほうが多かったですけど。

――ゴッチさんが使う技もフロントチョークというより、首をねじ切るフェースロックですもんね。あれも危険すぎる技ですけど。

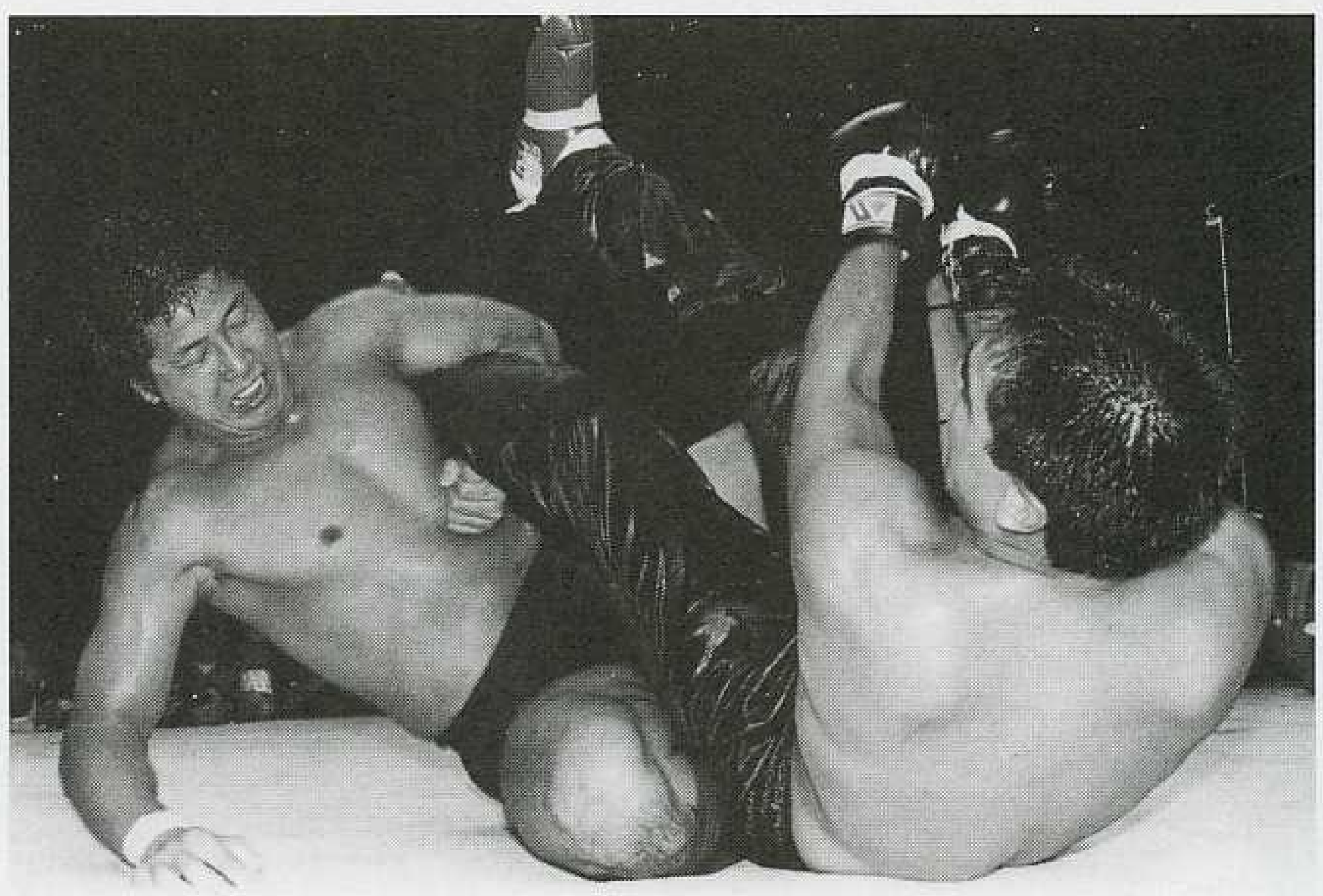
船木　だから、新日本時代はアームロックと腕十字とヒールホールド、その3つで、首はフェースロックという感じでした。それが、UWFになると、佐山さんのサンボからヒザ十字、アキレス腱固め、藤原さんが使ってた三角絞め、そして自分が仕入れたアンクルが出てきましたね。

――新生Uのときはけっこうみんな足関使ってましたよね？

船木　ただ、あんまり足関が得意な人はいなかったですよ。自分が一番こだわってやってましたね。安生（洋二）さんも鈴木（みのる）も腕十字とアームロックでしたし、あとヒザ十字はみんなが使うような感じですか。だから足首にこだわってたのは自分ぐらいですね。あとアキレス腱固めは簡単そうに見えて凄く難しい技で、ちょっとでもズレると極まらなくなっちゃうんですよ。そう考えると、このあいだの北岡なんかは凄いなと思いますよ。裸足でギブアップ取っちゃいますから。

――確かに、ここ数年はアキレスといえば極まらないものというような固定観念がありましたよね。バーリ・トゥードでは、サンビストがやってもアキレスは極まらないという印象だったんですけど、それってやっぱり総合格闘技用にまた改良されてきたんでしょうか。

船木　たぶんですね、極まるかたちを見つけたんだと思います。普通に足をつかんで足首を持って伸ばすだけだと極まらないんで、自分が知ってる範囲だと、両足か片足どちらかを相手の股間にしっかりと固定して、それで足首を持って腹を出す。伸びるといっても股関節をしっかり自分の足で固定して動けないようにしなければなかなか難しいです。で、『戦極』での北岡のフィニッシュを観てると、しっかりそういうかたちになってますからね。たぶん、いろいろやってるうちに、このかたちになれば極まるというところを発見したんじゃないですか。



86年10月9日に行なわれた新日本プロレス「INOKI闘魂LIVE」で対戦した前田日明vsドン・中矢・ニールセンの異種格闘技戦で前田はこの足関を披露。船木いわく、前田ら旧UWF勢が新日本に戻ってきたときに、足関のレパートリーが増えたのだという。

――そう聞くと、本当に研究の成果というのがわかりますね。先ほど「1年の半分以上が足関での勝利だった年がある」と言われてましたけど、パンクラス時代もやっぱり足関の研究には余念がなかったですか。

船木　パンクラス時代には二つぐらいは最終型のかたちを出してましたね。でも、バーリ・トゥードは途中で足にいったらダメだという固定観念ができました。たぶん、あれは高田（延彦）さんがヒクソン戦で足にいこうとしてやられたというのがあったからじゃないかと思うんですよね。

――アキレス狙って、逆にマウント奪われちゃったんですよね。そのインパクトが強烈すぎて、足を取りにいく動きがもう危ないんじゃないか、と。

船木　あれからちょっと危険だなという先入観ができたんでしょうね。でも、パンクラスの初期では、やっぱり日本に入ってきたグレイシー一族に対抗するものとして、アキレスとかヒールとかヒザ十字をやってたんですよ。だから、アラン・ゴエスが初のブラジリアン柔術家としてパンクラスに来たとき、フランク（・シャムロック）が相手しましたけど、（ケン・）シャムロックが足関ばっかり指示して、実際にフランクも足関で勝負してましたからね。でも、バリバリッて音が鳴ってるけど、ゴエスもギブアップしませんでしたけどね。

――当時のブラジリアンはそういうのがありましたもんね。

船木　でも控室に戻ってみたら、「痛い痛い」って言いながら麻酔を打ってるんですよ。だから、やっぱり痛いのは痛いんだなって。でも負けられないという思いがあったんでしょう。その精神力は凄いですよね。

――バーリ・トゥードが果たし合いだった時代ですね。パンクラスでは、その山田学選手が修斗からパンクラスに来ましたけど、シューティングの技術とはまた違ったんですか？

船木　山さんはちょっとサンボが入ってましたね。あとは、もちろん柔術の技術は知らなかったと思うんですけど、知らず知らずのうちにガードとか取ってて、両足から前に行かせない動きをして、下からの十字とか使ってました。だから、ちょっと独特な寝技だと思います。でも、山さんも稲垣（克臣）にヒザ十字を極めたことがあって。

――稲垣選手がギブアップをしなくて、結局レフェリーストップになった試合ですよね。

船木　あれで稲垣は足を痛めて2、3ヵ月欠場になりましたから。

――ああ、やっぱり危険なんですね。

船木　昔はシューズを履いてましたけど、レガースも履いてたんで、絞め

アキレス腱に関してはあのかたちでなぜ極まるのか、いまだに疑問です

てる最中にレガースがズレて極まらなくなるというのもありました。ただ、自分も含めて「絶対ここを押さえればいける」という確信があって極めてた技じゃないので技が雑で、やっぱり力の加減ができなかったんでしょうね。

――極まらないか、ぶっ壊すかのどちらかという。

船木　ホントそんな感じですよ。腕だったらある程度伸びれば見えるじゃないですか。でも、足はそうはいかないし、自分もリスクを背負って足を取りにいってるわけですから必死ですよね。

――そういう意味では、足関も進化してるんでしょうね。足関自体というより、足関に入るまでの動きが開発されてたりとか。

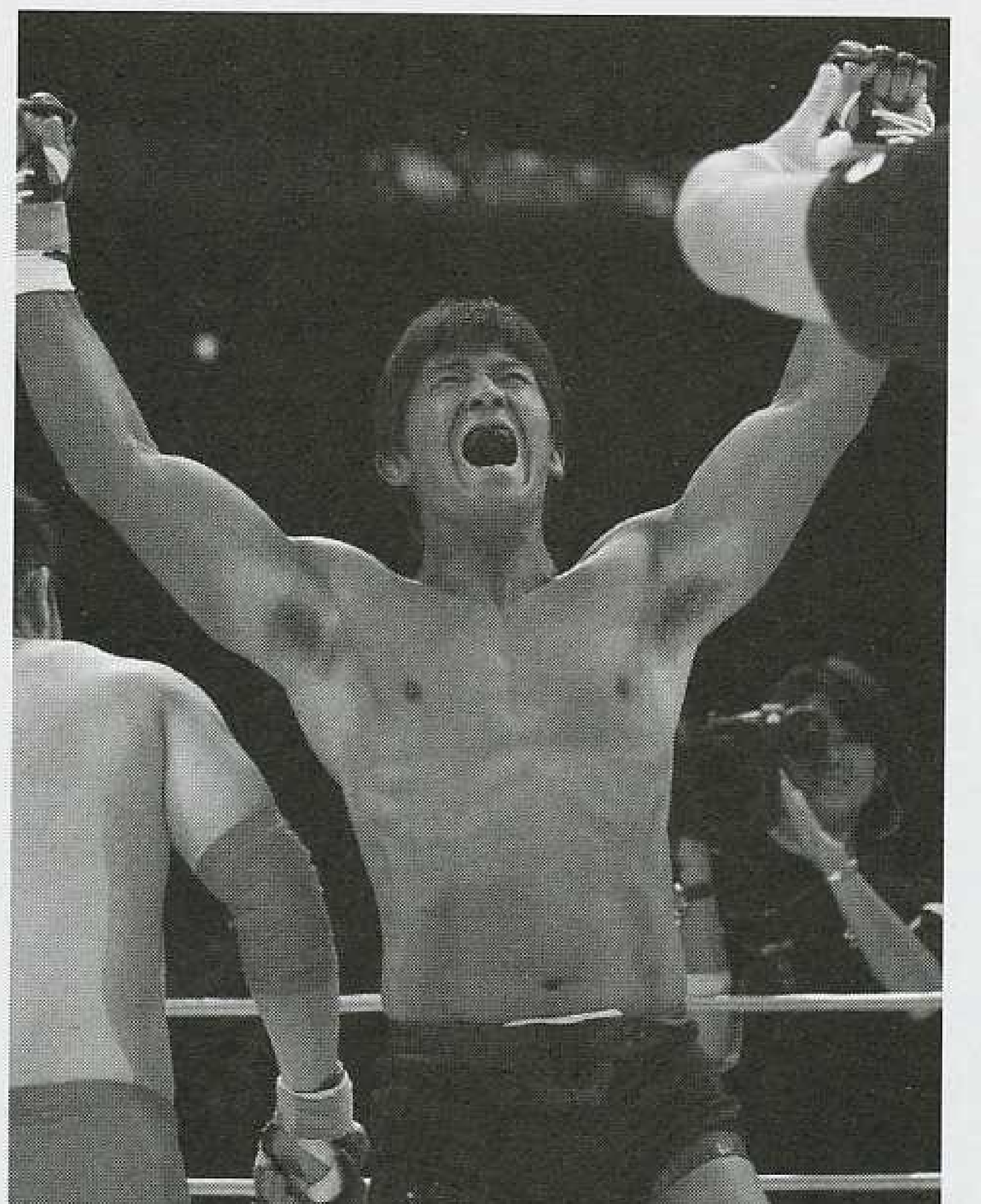
船木　ああ、そうですよ。そのやり方さえ間違わなければ、いまでも充分使える技ですよ。なんか、倉庫の中に置いておいたものが、「これも使えるみたいよ」という感じで出されたみたいですね。

――まさしくお蔵出しですか（笑）。でも、最近では日本だけじゃなく、UFCでもブロック・レスナーが極められましたよね。ガンガン突進してたのに、最後に足をギュっとやられて一本取られました。

船木　あ、そうですね！　UFCでも使ってる人は使ってますね。ただ、やっぱり細かい微妙なところの調節というのが難しい技なんで、使いこなすのは大変だと思います。大ざっぱな考えで足を取ればいいやというだけでは極まらないんですよ。やっぱり足とお友だちにならないと。

――足の気持ちがわからないとダメですか。そういう意味ではやっぱり足関はある種日本の流派みたいなところがあるんですかね。

船木　そうですね。一周回って新しいバーリ・トゥードというような感じじゃないですか。



ふなき・まさかつ■1969年3月13日、青森県出身。84年、新日本プロレスに入門。第二次UWF、藤原組を経て、93年にパンクラスを旗揚げする。第4、6代「キング・オブ・パンクラシスト」に輝くも、2000年5月、ヒクソン・グレイシーに敗れ、現役を引退。2007年『Dynamite!!』桜庭戦で現役復帰。08年『DREAM.6』ミノワマン戦でかかと固めを極め復帰後初の勝利を挙げた。182cm、85kg。

――おそらくいまでも日本に足関が残ってるのって船木さんの世代がみんな足関で勝ってて、そのイメージがあるからじゃないかと思うんですよね。

船木　あのときは本当に自分の頭の中では欧米人の上半身の身体の力が凄く捉えづらいから、相手が対処法がわからない技で早く極めたいというのがあったんですよね。で、足は極まってしまうとその破壊力で本当にみんな動けなくなるんです。だから足関が再注目されてるということは、ちょっと危ない方向に進んでるなという気もするんですけどね。まあ、それも競技が大きくなっていく試練であれば、足というのは避けて通れないものだと思いますけどね。

――いま日本人が勝負できる一つの大きな技ではありますね。

船木　最近はけっこう海外の選手も細かい動きに反応できるじゃないですか。そういう意味では知らないものをどんどんぶつけていかないと、日本は勝てないと思うんですよ。

――逆に知らないものが少なくなってる中で、唯一あまり知識がないのが足関だったりしますよね。

船木　オリエンタルマジックみたいに言われてますから。でも、どうなんでしょう。自分自身もアキレス腱固めに関しては、なんでここに足を固定すると極まるんだろうという疑問はまだありますね。

――ああ、なるほど（笑）。極め方は知ってるけど、どうして痛いんだろうということですか。

船木　どうしてあのかたちで足首がもの凄く痛くなるんだろうというのはいまだに疑問です。アキレス腱固めだけは本当に謎の多い技ですね。我慢すれば耐えられる技のように思えるんですけど、でもそれで極まってますから。実際はアキレス腱じゃなくて、足首なんですよね。

――そこは、ぜひどなたかに解明していただきたいです！

船木　ただ、あんまり使う人もいないですし、おそらく日本では青木選手や北岡がやってるところが一番なんじゃないですか？　あそこはまた新しい流派みたいな感じですよね。

――足関研究所みたいになってます。かつての研究所所長としては嬉しい現象ですよね（笑）。

船木　ハハハハハ。でもしっかりと北岡に受け継がれてるんで不思議ですよ。

――あれはいわゆる船木流というか。

船木　でも、いまの時代はアメリカでもみんなインターネットとかで観てますから、もう足関節研究が始まってるんじゃないですか？

――実際に青木選手は海外では非常に注目されてますもんね。

船木　だけど、アメリカ人とかがあのパワーで足関をしっかり覚えちゃったら、みんなぶっ壊し合いになりますよ。

――なるほど。ということは、もう一回ヒール禁止の時代が来るかもしれないですか。

船木　ええ。もしくは禁止にする場所と禁止しない場所ができたりするんじゃないですか？

――日本ではOKだけど、ネバダのコミッションは禁止とか、そういうのもあるかもしれないですね。

船木　まあ、禁止にしなくても単純に競技人口も凄く増えてきたんで、なんとかまあ入れ替わり立ち替わりで別の選手が出てくるんじゃないですか？

――た、確かにそうですね（笑）。

船木　ただ、考えてみたらなんかバカみたいですよね。昔、こんなちっちゃいパンクラスという団体で起きてたことが、世界中に波及しつつあるという状況は。だから、柔術のジャカレイとかがアンクルホールドを使ってたりするんですよ。あれどっから仕入れてきてるのかなって不思議なんですよね。まさかUWFのビデオを観てるとかだったら凄いと思いますけど（笑）。

――でも、可能性は高いんじゃないですか？

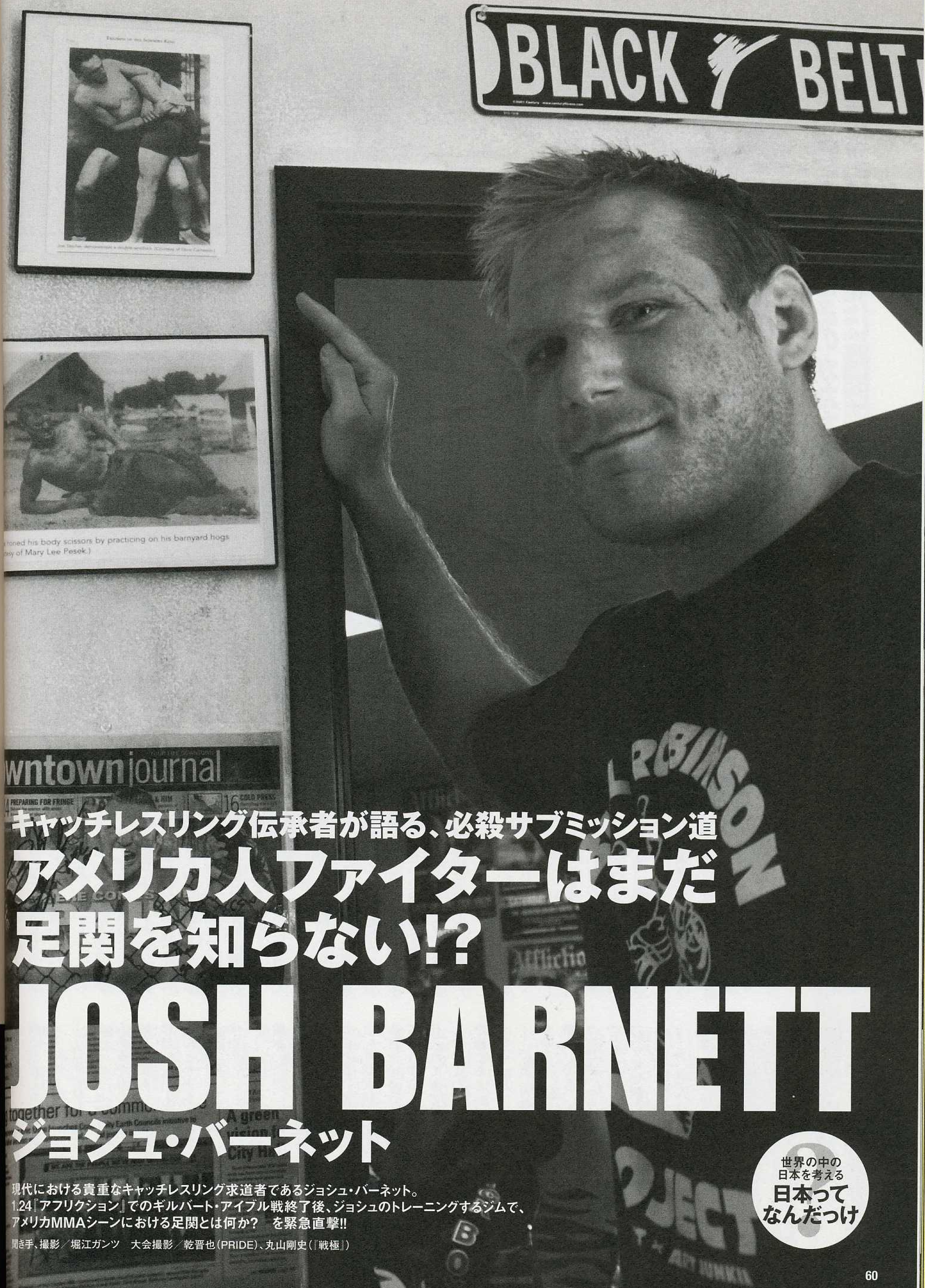
船木　でも、あの太ったシウバ……、ファビオ・シウバですか？　あいつは『HERO'S』のときに自分と会って「ビデオで観た！」って握手を求めてきたんですよ。

――あ、そんなことが。

船木　パンクラスやUWFの映像を観たって言ってて。だから、意外なところで俺たちのビデオが出回ってるのかなって。

――そういう意味でも、足関が世界の格闘技を征服する日は近いのかもしれませんね。

【09年2月5日／玉川高島屋にて収録】



キャッチレスリング伝承者が語る、必殺サブミッション道

アメリカ人ファイターはまだ足関を知らない!?

JOSH BARNETT

ジョシュ・バーネット

世界の中の日本を考える **日本ってなんだっけ**

現代における貴重なキャッチレスリング求道者であるジョシュ・バーネット。
1.24『アフリクション』でのギルバート・アイブル戦終了後、ジョシュのトレーニングするジムで、
アメリカMMAシーンにおける足関とは何か？ を緊急直撃!!

聞き手、撮影／堀江ガンツ　大会撮影／乾晋也（PRIDE）、丸山剛史（『戦極』）

ハイレベルなサブミッションの練習はアメリカではあまりやっていない

——ジョシュ選手、まずは先日の『アフリクション』のギルバート・アイブル戦の勝利おめでとうございます!

ジョシュ　サンキュー。ただ、内容には納得してないから、そう喜んでもいられないんだけど。

——その試合後に「ヒョードル戦を考える前に、ヒョードルとウォッカを一緒に飲みたい」と言ってましたけど、ホントに飲んだんですか?

ジョシュ　イエス! ヒョードルの控室に行ったら、ヒョードルやコーチがボクの勝利に祝杯をあげてくれて一緒に飲んだんだ。試合後だから、少しだけどね(笑)。

——ところで今回、初めてジョシュ選手が練習する、エリック・パーソンのジム(CSW)にお邪魔したんですけど、歴代のシュートレスラーの写真がたくさん飾られてて感激しましたよ!

ジョシュ　スゴイデショ? ここはキャッチレスリングのミュージアムみたいなものだし、ボクらがMMAの〝起源〟を伝えなくてはならないと思ってるんだ。ジョー・ステッカーやルー・テーズにエド・サンテル……。

——佐山(サトル)さんまで。

ジョシュ　イエス。彼らのような偉大な先人がいなかったら、自分たちはいなかった。それをいまの若いファイターにも教えたいんだよ。

——ただ、最近のUFCはスタンドが驚異的な発展をした反面、サブミッションの攻防が減ってるのが残念なんです。

ジョシュ　君の言うとおりだ! グッドレスラーになる練習を積むより、パンチやキックのほうが簡単に覚えられて、てっとり早く「強くなれた!」と錯覚できるから、みんなストライキングのトレーニングが中心になっているんだろう。

——アメリカでは打撃練習と比べると、サブミッションの練習時間は減ってきてるんですか?

ジョシュ　いや、レスリングの練習もやってはいるんだ。ただ、ポジショニングや相手をコントロールする練習中心で、ハイレベルなサブミッションの練習はあまりやってないね。

——そんな中、ジョシュさんがサブミッションにこだわる理由は?

ジョシュ　極まった瞬間、試合が終わる危険なホールドだからだね。ただ、フットロックなんか失敗すれば相手に有利なポジションを与えるリスクも高いよね。先日の『アフリクション』のアイブル戦は、絶対に負けられない試合だったから、リスクを避けて、ポジショニングとパウンドにこだわりすぎてしまったからベストファイトとは言えない内容になってしまったんだ。もっと動きたかったけど、1ラウンドの終わりに鼻血が出て、ノドにまで流れて呼吸困難になったことも、あんな試合になってしまった理由の一つだね(残念そうに)。



CSWジムの壁には、キャッチレスリングの足関バリエーションが主宰のエリック・パーソン自身の実演写真で図解。上は、ガードポジションからのアンクルロック。下は、インサイドガードをパスしながらのヒザ十字固め!

——でも、ほかのアメリカ人ファイターと違って、サブミッションを持ってることは〝強み〟ですか?

ジョシュ　イエス。ただ、そもそもボクがMMAファイターになるまでの過程が最近の選手とは、まるで違うんだ。ボクが駆け出しの頃はMMAのジムも、プロモーションもほとんどなかったから、自分たちで試合の機会を作るしかなかった。ストリートファイトやアンダーグラウンドマッチをやったりね。でも、それも大事な実戦練習であり、必要な試練だった。加えて、ボクはプロレスのビッグファンだった。とくにシンニホン(新日本)プロレスやUWFインターナショナルなんかの映像は夢中で観たし、マット・ヒュームとキャッチレスリングの練習をスタートしたのも、それがきっかけだしね。そうやって日本のプロレスを観ながら、ソウゴウカクトウギに活かせるテクニックを覚えたんだよ。

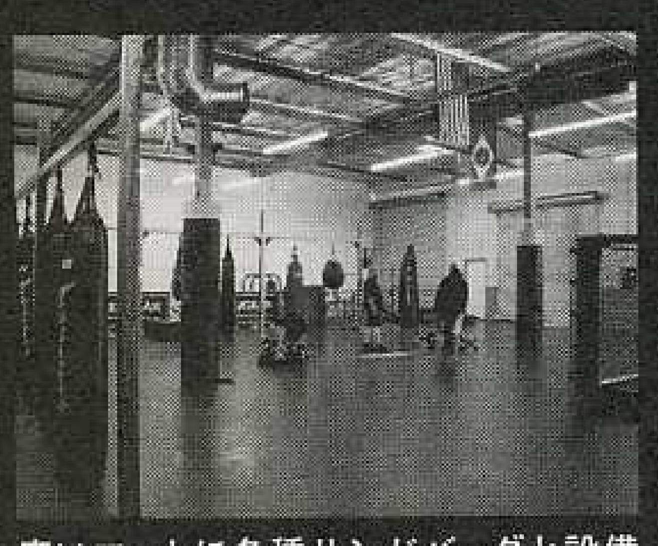
——そういう意味で、UWFや新日本の道場でやっていた練習がベースである、と。

ジョシュ　だからボクはある意味、日本のプロレスラーが格闘家になったのと似た過程でMMAファイターに成長したのさ。ところが、いまのMMAファイターは、レスリングやアメフトをやってたアスリートが、ただMMAのジムに通うだけでファイターになってる。ボクもアマレスのバックグラウンドはあるけど、一番影響を受けた日本のプロレスを「これがマイスタイルだ!」と信じて練習してきたのがベースになってる。それに、シンニホンでツアーに参加したことも、重要な経験になっているよ。

——ジョシュ選手は、03年に1・4東京ドームで永田(裕志)さんと闘ったり、地方巡業にも同行してますから。

ジョシュ　あのツアーは楽しかったなぁ……(しみじみと)。シンニホンに上がったことで、リングの中で感情をコントロールできるようになったし、試合中のさまざまな局面で冷静に判断できるようになったからね。

これが、"キャッチレスリングミュージアム"CSWだ!!


広いマットに各種サンドバッグと設備もメガジム級! 写真の左側にはケージも用意され、現代MMAに全方位対応しているからさすがだ。



そんな伝説のレスラー群に混じって、我らが佐山サトル皇帝の写真も! エリックのルーツである"修斗魂"も伝承しているのだ。


壁に飾られているのは、あの"神様"カール・ゴッチのサイン入りジャーマン写真! まさに、ここはキャッチレスリングミュージアムだ。



ジムには、かつての名レスラーの勇姿がズラリと飾られている。写真のロングスパッツの選手は、1920年代の"足技の使い手"ジョン・ピーザック。


カリフォルニア州フラトンにあるジョシュの"盟友"エリック・パーソンのジムがCSW(コンバット・サブミッション・レスリング)だ!

ボクはサブミッションゲームなら、世界中の誰にも負けない自信がある



PRIDE後期の超名勝負！ 06年の無差別級GP準決勝のノゲイラ戦で、ジョシュはフロントネックロックやヒザ十字で柔術の達人を追い込み、総合格闘技におけるキャッチレスリング技術の有効性を見事に証明した。

—いま、アメリカでキャッチレスリングの流れを汲む練習ができるのは、このジムだけですか？

ジョシュ　そう言っても過言ではないだろうね。エリックにマット・ヒュームにボク。アーカンソー州にビル・ロビンソンがいて、ミネソタ州ではグレッグ・ネルソンも教えてる。あとはシャムロック兄弟（ケン・シャムロック、フランク・シャムロック）にナカムラサン（中村頼永、USA修斗代表）くらい、ガイ・メッツアーやライオンズ・デンでも教えられるだろうけど、現役のトップファイターはボクだけじゃないかな？

—キャッチレスリングは多くのファイターにとって未知の技術だから、大きな武器になるんでしょうか？

ジョシュ　イエス。キャッチレスリングはボクの最高の武器だよ。

—それを感じたのは、（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラとの試合（PRIDE無差別級GP2006準決勝戦）なんです。寝技の達人のノゲイラをフロントネックロックやヒザ十字で極めかけたじゃないですか？

ジョシュ　ノゲイラとは昔、グラップリングの練習をしたことがあるんだ。そのときもボクがノゲイラを圧倒したから、彼はボクのサブミッションテクニックの危険度を知っていたはずだし、ボクはサブミッションゲームだったら、世界中の誰とでも負けない自信がある！（キッパリ）。あのTK（高阪剛）も試合前に「ノゲイラに寝技で勝てるのは、ジョシュだけだ」と言ってくれたしね（笑）。

—世界のTKも太鼓判を押してましたか。

ジョシュ　TKの顔を潰さないよう必死で頑張ったよ（笑）。でも、ノゲイラとの再戦（PRIDE男祭り2006）では、彼は最初から判定狙いだった。映像を見直せば、彼がサブミッションゲームをやる気がまったくなかったことがわかるよ。

—いま、日本では青木真也、北岡悟がサブミッションで連勝してます。それは彼らがほかの選手が知らない技術を持っているからですか？

ジョシュ　もちろんおおいに関係あると思うよ。ボクはパンクラスでずっとキタオカの試合を観てたんだけど、彼のルーツはキャッチレスリングで、その練習をキッチリ積んでるよね。キタオカのレッグロックはパワフルだし、スタイルもキャッチレスリングに近いしね。

—青木選手はいかがですか？

ジョシュ　アオキは柔道や柔術がバックグラウンドだけど、そこを補うため、彼がMMAに合うオリジナルのサブミッションスタイルを発明した。二人とも優れたグラップラーだけど、異なったスタイルだよね。アオキはアグレッシブだけど、柔術的で受け身的な要素も含んでる。キタオカのサブミッションは破壊的で、キャッチレスリングに近いスタイル。でも、二人ともナカイサン（中井祐樹）とトレーニングしているんでしょ？

—日本のブラジリアン柔術の先駆者である中井さんのもとで練習してますね。

ジョシュ　そのナカイサンもキャッチレスリングを含んだ修斗をやっていたし、それ以前には高専柔道もやってたんだから、興味深いよ。

—しかし、なぜ青木や北岡だけがバンバン極められるんでしょう？

ジョシュ　ほかの日本人ファイターも似たテクニックは持ってるけど、アオキとキタオカは試合で臨機応変に使い分けられる点がズバ抜けてるんだろう。リング内でどのように動くか？ 精神面をどうコントロールするか？ ゲームの進め方を含めて、彼らは突出しているんだ。

—その青木が（エディ・）アルバレスやJZ（カルバン）らのトップファイターも極められるのは、彼らが青木の技術を知らないからなんでしょうか？

ジョシュ　エディは、自分からミスを犯してしまったように見えたね。あの試合で、エディがマウントにいったところをアオキは簡単にエスケープし、レッグロックからヒールホールドにいった。でも、エディは逃げるテクニックを持ってなかったし、身体能力だけで逃げようとしたけど、そのミスが敗戦につながった。JZはアオキを軽視しすぎていたんじゃないか？ JZは素晴らしい選手だけど、アオキは彼のパワーさえ封じるテクニックを持っていたんだ。

—青木と北岡の技術は、オクタゴンでも有効だと思いますか？

ジョシュ　もちろん有効だと思う。ただ、ケージの闘い方は独特だから、研究は必要だろうし、アオキもキタオカもサブミッションの技術をより活かすためには、さらにレスリングやスタンドの技術を身につける必要がある。でも、ボクが言うまでもなく、キタオカのレスリングスキルはドンドン向上してるし、アオキもタイ

日本で普通でも、アメリカで足関はまだまだ“特別なもの”なんだよ

ストライキングの練習をしたりしてるじゃない？

——よくご存知ですね（笑）。日本人がアメリカで試合をすると、レスリングとボクシング技術で負けることが多いですが、いまのアメリカで足関は有効ですか？

ジョシュ　イエス。日本人ファイターはサブミッションへの広い知識を持っているのが強みだよ。それは、日本人が、プロレスやキャッチレスリングを通して足関になじみがあるからだろうね。でも、アメリカ人ファイターのサブミッションは、アームバーにチョークばっかりだろ？

——足関にこだわる選手は少ないですね。

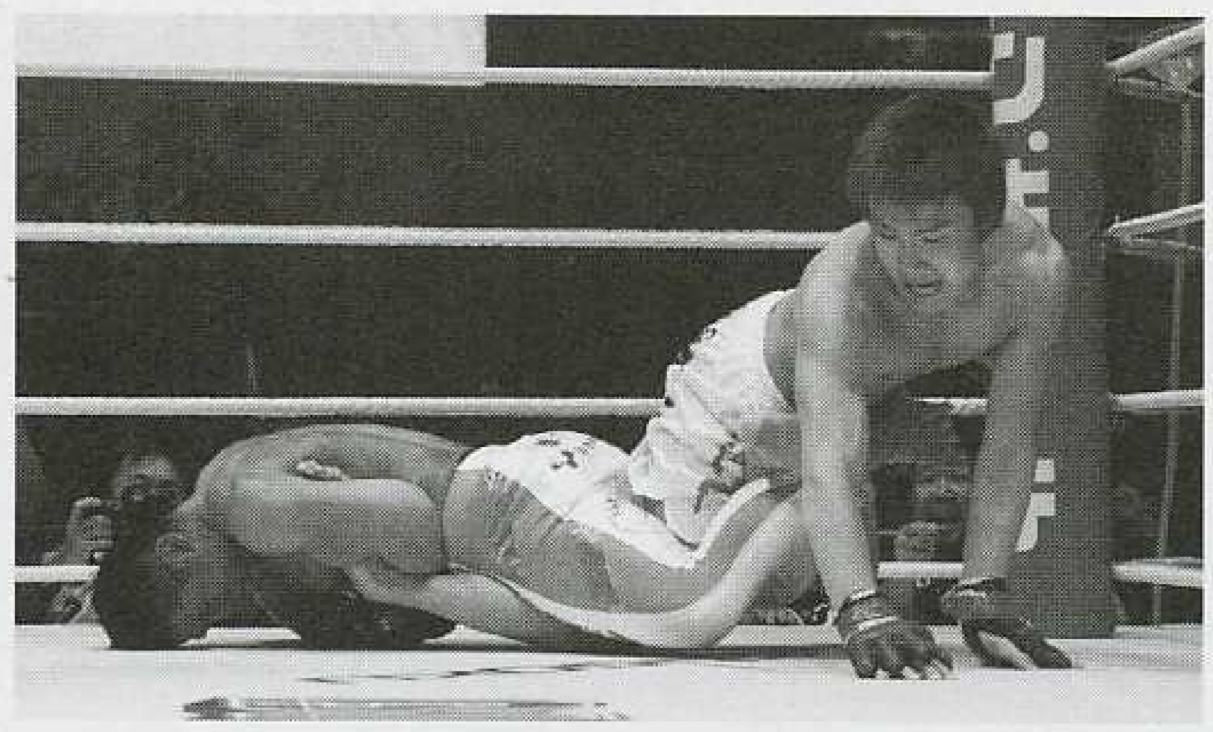
ジョシュ　ハイレベルなレッグロックができる選手なんてホントに限られている。だけど日本人ファイターで、レッグロックができるファイターなんて珍しくないし、素晴らしいコーチもたくさんいる。ボクがコーチしてるフジメグ（藤井恵）も、サンボ経由のサブミッションを6年くらいトレーニングしてるんだ。

——日本のファイターにとって、足関はベーシックなものなんですね。

ジョシュ　ところがアメリカ人ファイターのトレーニングはほとんどフィジカル中心で、強い身体を作り、速く動けるよう、身体能力を高める練習ばかりしてる。逆に、日本のジムではアスリートトレーニングはあまり重要視されていない。だから日本のファイターはスキルは優秀でも、アメリカ人ファイターにパワーでコントロールされてしまうんだよ。

——サブミッションに限れば、ジョシュ選手や日本のファイターのほうがレベルは高い？

ジョシュ　いや、世界は広いから、必ずしもそうとは言えないね（笑）。ただ、日本人ファイターは誰もが基礎知識としてサブミッションを知ってるから、セコンドに「足関に気をつけろ！」なんて言われなくても、どう危ないか熟知してるだろ？



パワフルな足関が冴え渡り、あの五味隆典まで撃破と、連勝街道を突っ走る北岡悟。パンクラス時代から北岡を知るジョシュは、その技術を「キャッチレスリングに近いスタイル」と高く評価している。

——日本人選手にとって足関は特別なものではないですから。

ジョシュ　ところが、アメリカではまだまだ“特別なもの”なんだ。キックボクサー出身の選手がMMAの試合をする場合、セコンドから「足関に気をつけろ！」と言われるだろ？ それは、キックボクサー出身の選手と闘うときに、「キックに気をつけろ！」と言われるのと同じで、足関ができるだけで対戦相手には“特別なもの”になってしまうんだ。

——足関は、相手にとってそこまで怖いものですか？

ジョシュ　イエス。アームバーなら、ファイターは極められたとき、自分がどのように極められているかがわかるし対策も考えられるけど、足関は極められた瞬間、破壊されてしまうんだから恐ろしいよ（笑）。

——ちなみにヒョードル選手は、ボクシングとレスリングができて、足関もできるジョシュ選手のような選手と試合の経験がありませんが、今後対戦したら、いままでとは違った展開になりますか？

ジョシュ　いや、ヒョードルはサブミッションゲームでも素晴らしい結果を残してるからね。それにヒョードルはパウンドを使ってゲームを支配するから、まずそれに対応しなくてはいけない。ただ、サブミッションゲームの勝負になったら、負けない自信はあるよ。

——この試合は実現しそうですか？

ジョシュ　いまは考えないようにしてるんだ。この業界、目の前に契約書が提示されるまでわからないだろ（笑）。いまは3月にヒロシマで行なわれるIGFのプロレスマッチに照準を絞ってる。もちろん、MMAの試合にもいつでも対応できるように準備してるけどね。

——ちなみにヒョードル vs アルロフスキーの感想も教えてください。

ジョシュ　アルロフスキーはリーチとスピードを使って、うまく試合を進めてたよね。ヒョードルもリズムをつかめず、アルロフスキーのほうが有効打を入れていた。ただ、ヒョードルはじつにクレバーだったよ。アルロフスキーは試合のリズムをキープできずフライングニーにいってしまった。その一瞬を逃さずパンチで打ち抜いたんだから。

——あの一瞬の判断は素晴らしかったですね。

ジョシュ　ヒョードルが王者であり続ける理由は、ああいうミスを決してしないからなんだ。それに、ヒョードルは仮にあの1ラウンドを落としても、2ラウンド目に修正できる余裕もあった。たいした男だよ！

——もう一つ、『Dynamite!!』の田村潔司vs桜庭和志の試合の感想もうかがっていいですか？

ジョシュ　オフコース。あの試合でじつに興味深かったのは、タムラだね。彼は、UWFの流れを汲んでいる選手だから本来はバーリ・トゥード自体、好きじゃないハズだし、パウンドも嫌いだよね。

——サブミッションの攻防が身上ですから。

ジョシュ　でも、今回は「パウンドを使わないとサクラバに勝てない」という戦略を立ててたんだろう。パウンドとポジショニング、フィジカルな優位性で攻めていった。一方のサクラバはサブミッションに何度かトライしたけど、あきらかにバッドコンディションだったよね。ただ、タムラのほうもUWFスタイルでなくバーリ・トゥードスタイルで勝ったから、心からは喜べない表情をしてたよね。

——田村選手がバーリ・トゥードスタイルで来ることは予想してました？

ジョシュ　予想はしてなかったけど、「勝つためにはそうしなければいけないだろう」とは思ってたよ。タムラは間違いなく勝てるスタイルをチョイスし、そして勝った、ということだろうね。

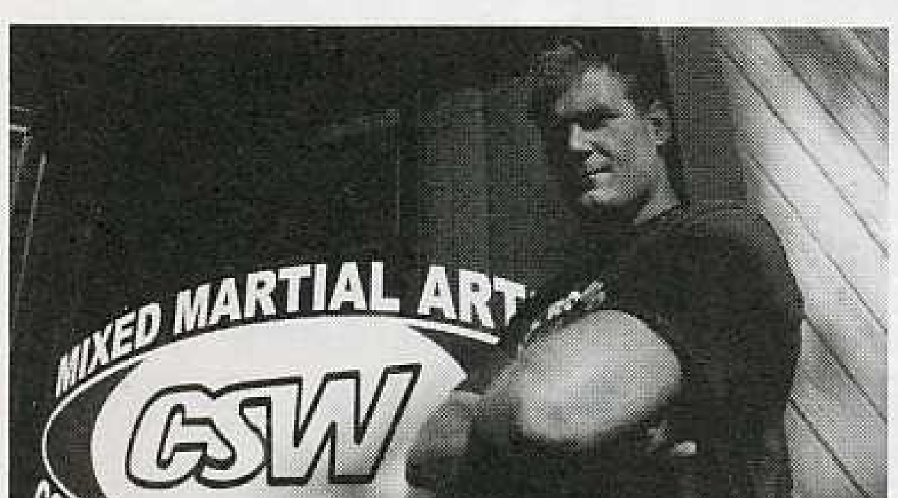
——技術や身体能力の優れたプロレスラーがシュートをやるとああいう試合になるんでしょうね。

ジョシュ　イエス。タムラはスマートなファイターだから、バーリ・トゥードで攻めたのは理解できるよ。

——ただ、誰よりもグッドプロレスラーであり、グッドシューターなのは、やっぱりジョシュ・バーネットですか？（笑）。

ジョシュ　フフフフ。よくわかってるじゃないか（笑）。そうなるように日々、努力してるからね。……ただ、タムラはボクよりはるかに素晴らしいプロレスラーであることは確かだよ。だからこそ、ボクはいまも彼の一番の“ビッグファン”なんだ！

【09年1月26日／米国カリフォルニア州フラトン、CSWジムにて収録】



Josh Barnet■1977年11月10日、米国ワシントン州出身。UFCで活躍後、パンクラス、PRIDEで闘い、06年PRIDE無差別級GPで準優勝。現在は、『アフリクション』が主戦場。02年に新日本プロレスでプロレスも経験、IGFにも参戦中。日本のオタク文化に造詣が深い、“最強のオタク”としても知られる。191cm、117kg。

kamipro SHOPPING

Back Number

『kamipro』131号は"男"特集!!

[kamipre特選劇場]

"勇気のチカラ"をひねり出せ!! いまこそ出てこい! 真の男!!



No.131 前田日明"男列伝"

131号のテーマは"男"特集! リスキーな対戦相手を拒む選手が少なくない現代の格闘技界に"男"を感じさせるエピソードを大紹介! 前田日明編では元リングスの成瀬昌由、滑川康仁、現ZSTの上原譲広報がアキラ兄さんのいい話をお蔵出し!



亀田史郎インタビュー

さらに"男特集"では、プロボクシング界のお騒がせ者"亀田三兄弟"を男手ひとつで育て上げた亀田史郎氏も登場! ヤンチャきわまりない息子たちから"男"として尊敬される一家の大黒柱が、厳しくも愛情と男気にあふれる子育て論をおおいに語る!

(注) No.92 以降の「Kamipro」は http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。



マット界には"男"が足りない!!

男の中の男、出てこいや～!!

元祖! 紙のプロレス Back Number すべて50%OFF!!

No.14 ~~780yen~~⇨390yen
特集 **神秘とは何か?**
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!/遠藤幸吉インタビュー

No.15 ~~780yen~~⇨390yen
特集 **インディペンデントの逆襲**
あんた誰? 山口昇試練のインディー・レスラー10番勝負!/K-1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

No.17 ~~780yen~~⇨390yen
特集 **実況パワフル北朝鮮**
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&長島勝司・村松友視・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」 ~~1260yen~~⇨630yen
97年当時のパンクラシストが勢ぞろい!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL Back Number No.16➡No.87

「紙のプロレスRADICAL」のバックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797 [販売元] ㈱ダブルクロス (平日13:00～19:00)

No.16 1999.03 780yen
格闘ノストラダムス!
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも……藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.32 2000.10 840yen
"新"プロレスとは何か?
[表紙:小川直也]田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ラッシャー木村

No.34 2001.01 840yen
『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
[表紙:小川直也]田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ボブ&オバチャンチン

No.35 2001.02 840yen
純プロレスを徹底検証!
[表紙:サクマシン(イラスト)]ZERO-ONE本格始動 橋本真也/プロレススーパースター列伝 ジョー樋口/杉浦貴

No.36 2001.02 840yen
燃えよ、闘魂の火種!!
[表紙:橋本真也(イラスト)]ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!/ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言

No.38 2001.05 840yen
小川直也は是か非か?
[表紙:髙田延彦(イラスト)]忘れ物の正体は。髙田延彦/ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

No.39 2001.06 840yen
前田日明は是か非か?
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも……藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.40 2001.07 880yen
地上最強のプロレスとは?
[表紙:アントニオ猪木]蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光/熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

No.41 2001.08 880yen
"最後の黒船"WWF来襲!!
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア]リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る/真樹日佐夫×三池崇史

No.42 2001.09 880yen
アントンパワー大爆発!!
[表紙:アントニオ猪木]ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談/"ヒャッホーの真実"辻よしなり/高山×宮戸×金原

No.43 2001.10 880yen
聖戦『PRIDE.17』迫る!!
[表紙:桜庭和志]ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー/金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

No.44 20001.11 880yen
サク連敗と『PRIDE』の未来
[表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ]その修羅場の数々! シーザー武志/怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

No.45 2001.12 880yen
一寸先はハプニング!!
[表紙:アントニオ猪木(ホームレス姿)]悪魔の書、現る! ミスター高橋/ジェラルド・ゴルドー人生相談

No.47 2002.02 880yen
WWE日本侵攻、5秒前!
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア]"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!/噂の馳浩がミスター高橋本を語る!

No.48 2002.03 880yen
桜庭、満開の日は近い!
[表紙:桜庭和志]奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー/和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

No.49 2002.04 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!
[表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭]和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田/菊田早苗とは何者か!?

No.50 2002.05 880yen
50号記念企画てんこ盛り号
[表紙:桜庭和志]「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁!

No.51 2002.06 880yen
揺るぎなきプロレスの確立
[表紙:橋本真也]両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子/ 武藤敬司人生相談

No.52 2002.07 880yen
戦慄の『LEGEND』前夜!!
[表紙:橋本真也、小川直也]全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/ロシアン・トップチーム

No.53 2002.08 880yen
『Dynamite!』ド直前号!
[表紙:桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×箕輪輪育久/独占肉弾スクープ! マック・ガファリ

No.54 2002.09 880yen
『Dynamite!』を大総括!
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ]"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー/ジョシュ・バーネット

No.55 2002.10 880yen
髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
[表紙:髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!/金原が『PRIDE』参戦!/メガトン級の男、ボブ・サップ!

No.57 2002.11 840yen
驚ガクの6周年記念号
[表紙:高山善廣]サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる"U"が始動!! 田村/ミスター高橋×大槻ケンヂ

No.58 2003.01 880yen
夢の対談、大連発号!
[表紙:武藤敬司&船木誠勝]夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×高阪/宮戸×安生×鈴木健

No.59 1999.03 840yen
最後の皇帝、『PRIDE』上陸
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル]いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

No.60 2003.02 880yen
『PRIDE』は変貌&再生する!
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル]ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

No.61 2003.04 880yen
ゼロワンvs新日5.2戦争!
[表紙:橋本真也&小川直也]裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也/1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

No.62 2003.05 880yen
ミルコの首をカッ斬ってみろ!
[表紙ミルコ・クロコップ]ヴァーと登場! 佐々木健介/現役復帰? 船木誠勝/ヒョードルが藤田を一刀両断!

No.63 2003.06 880yen
マット界、超絶リボーン!!
[表紙:橋本真也&小川直也(イラスト)]「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!

No.64 2003.07 900yen
PRIDEミドル級GP直前!!
[表紙:桜庭和志]"異次元格闘技戦戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

No.65 2003.08 880yen
皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
[表紙:ミルコ・クロコップ]最後の皇帝大炎上! ヒョードル/ミルコついに皇帝戦へ/闘魂ストーカー、イズマイウ

No.66 2003.09 880yen
ミルコ『武士道』電撃出陣!
[表紙:ミルコ・クロコップ]ミルコ緊急インタビュー/マッハを破った男、長南亮登場!/『東スポとは何か?』

No.67 2003.10 880yen
ミルコvsノゲイラ、迫る!!
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ]ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

No.68 2003.11 880yen
大晦日・格闘技大戦決定!!
[表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長]大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦/曙とは何者か!?/桜庭和志

No.69 2003.12 900yen
『ハッスル1』開催ド直前!
[表紙:橋本&小川]出てこい! 泣き虫! 橋本&小川/『泣き虫』著者、金子達仁登場!/田村潔司/美濃輪育久

No.70 2004.01 880yen
04年末の格闘戦争を大総括!
[表紙:ミルコ・クロコップ]シウバに近藤有己が宣戦布告!/健介&北斗WJの真実を語る!/紙プロ大賞&語録発表

No.71 2004.02 880yen
『ハッスル2』で大フィーバー!
[表紙:ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/川田利明初登場!/猪木vsアミン戦の真実

No.72 2004.03 840yen
『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
[表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ]GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/山本KID徳郁

No.73 2004.04 880yen
最も過酷な道を行く男!!
[表紙:小川直也]GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

No.74 2004.05 880yen
感じろ、ハッスル魂!!
[表紙:小川直也]PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/ミック・フォーリー

No.75 2004.06 880yen
英雄誕生の気運高まる!!
[表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦]シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統

No.76 2004.07 880yen
プロレス爆発へ最後の挑戦!
[表紙:桜庭和志]小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

No.77 2004.08 880yen
小川vsヒョードル決定!!
[表紙:小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

No.78 2004.09 840yen
PRIDE GP徹底総括号
[表紙:小川直也]衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦/谷川貞治

No.79 2004.09 840yen
髙田総統がビターンと降臨
[表紙:髙田総統]キャプテンに休息無し! 小川直也/特別付録・髙田総統ポスター/谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

No.80 2004.10 880yen
守護神ミルコが外敵狩り!
[表紙:ミルコ・クロコップ]ミルコ独占インタビュー/ハッスルお家騒動、小川直也/「袋とじ企画」グリズリー岩本

No.81 2004.10 880yen
究極のSADAME、迫る!!
[表紙:桜庭和志]ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/ 草野仁

No.83 2005.01 880yen
ミルコ激白! 打倒皇帝!
[表紙:ミルコ・クロコップ]04年『PRIDE男祭り』を大総括/05年ハッスル大進撃発表! 小川直也/橋本×船木対談

No.84 2005.02 880yen
RTTが皇帝に宣戦布告!!
[表紙:セルゲイ・ハリトーノフ]"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/田村潔司がPRIDE GPを語る

No.85 2005.04 860yen
『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
[表紙:前田日明&髙田総統]PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、髙田/パンクラス2大王者対談 髙坂剛×近藤有己

No.86 2005.04 860yen
PRIDE GP直前大解剖号
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ]大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散を語る!!

No.87 2005.05 860yen
PRIDE GP開幕&大総括!
[表紙:吉田秀彦]敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝×宇野薫/金原弘光×池田大輔

通販方法 No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。❶電話注文⇨03-5368-1797(平日13:00～20:00) ❷メール注文⇨kapra@kamipro.com
※通信方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。



こんな時代に……
前代未聞の"プロレス大特集"号が発売決定!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2009 APRIL

全国書店にて
3月3日(火)
発売!!
※地域によっては、多少発売日が異なります。

予価=860円(本体819円+税)

天山、恐妻伝説の真相を家族に直撃!!/「永田会とは何か?」永田裕志×嶋大輔/『スガッスル』とはなんだったのか? 『ガキの使い』菅プロデューサー登場!!/『1993年の女子プロレス』アジャ・コング編(聞き手/柳澤健)/町山智浩が映画『ザ・レスラー』を語りつくす!/ドラゴンゲートに学びに来ました/ほか、「いいんだね? やっちゃって」な衝撃企画がめじろ押し!!

eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表) http://www.enterbrain.co.jp/

いま、最も素晴らしい日本人ファイターは誰ですか?

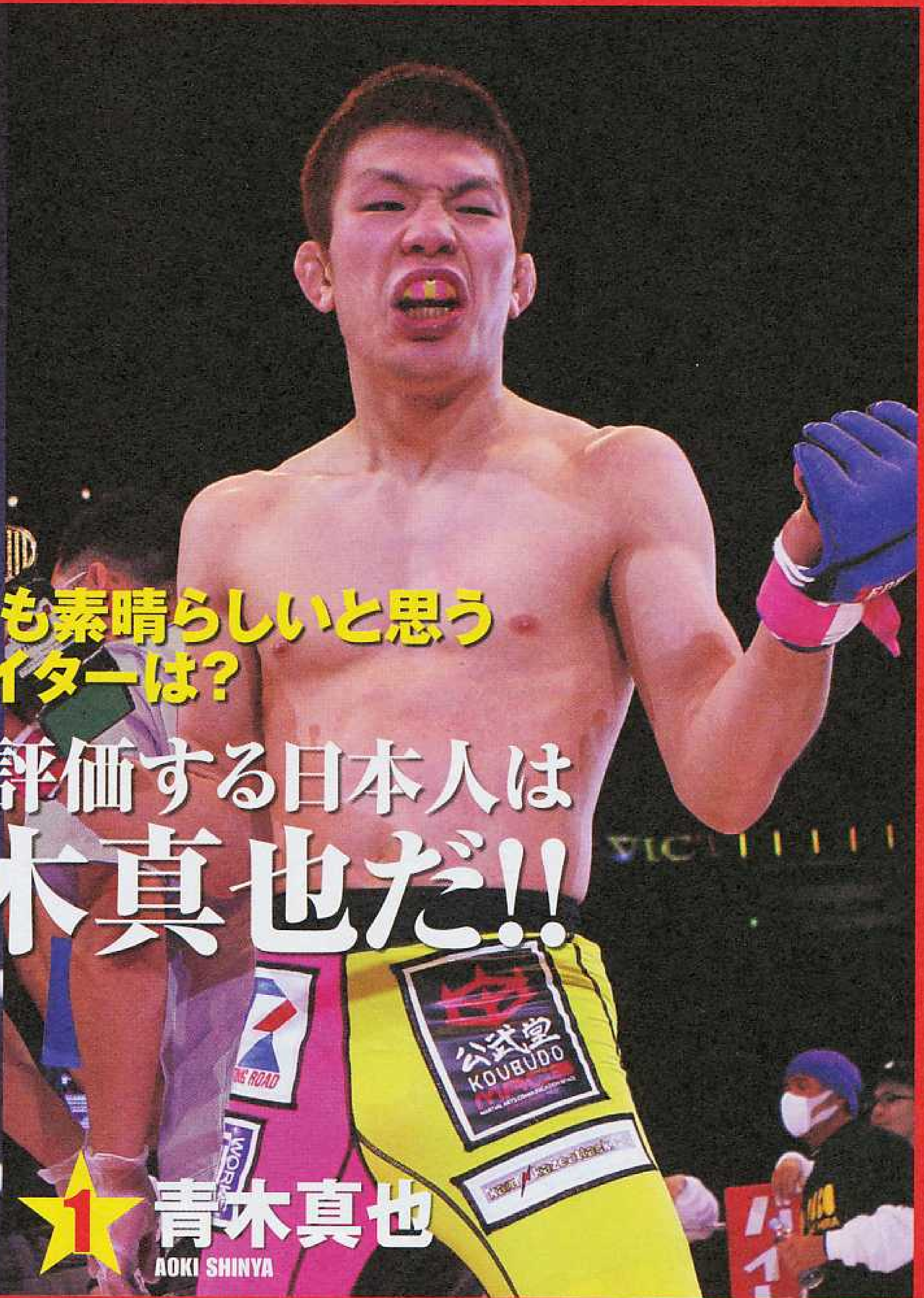
Q1. あなたが最も素晴らしいと思う日本人ファイターは?

いま、世界が最も評価する日本人はKIDと青木真也だ!!



1 山本"KID"徳郁
YAMAMOTO "KID" NORIFUMI

評価した人 レナート・ババル、トム・アテンシオ、BJペン、ジョン・フィッチ、マイク・スウィック、ダナ・ホワイト、ヴァンダレイ・シウバ、ほか



1 青木真也
AOKI SHINYA

評価した人 ジェイク・シールズ、ソクジュ、パット・ミレティッチ、バス・ルッテン、ケニー・フロリアン、リョート・マチダ、エディ・ブラボー、チアゴ・アウベス、ほか



3 桜庭和志
SAKURABA KAZUSHI

評価した人 ギルバート・アイブル、カロ・パリシャン、ファブリシオ・ヴェウドゥム、ユライヤ・フェイバー、ほか



4 五味隆典
GOMI TAKANORI

評価した人 ティト・オーティズ、ホジェリオ・ノゲイラ、ロレンゾ・フェティータ



5 秋山成勲
AKIYAMA YOSHIHIRO

評価した人 アーネスト・ホースト、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、ゲガール・ムサシ

いま、世界が最も評価する日本人ファイターは山本"KID"徳郁と青木真也だった! 青木の変幻自在のサブミッションを驚きをもって絶賛する人が多数。ミレティッチなどは、世界最高のファイターとしてもその名を挙げた。また、KIDはそのアグレッシブなファイトスタイルを多くのファイターが評価。「アメリカでも必ず成功する」という声が多かった。そして3位は桜庭和志。かつてのような試合は見せられなくなっても、まだまだリスペクトする選手がたくさん存在するのだ。意外な高評価だったのが"魔王"秋山。ホースト、ノゲイラ、そしてロレンゾといった重鎮たちがその実力を評価した。アメリカ進出も近いか?

Q2. いま最も注目すべき日本の格闘技団体はどこですか?

世界はDREAMに注目している!

アメリカで聞いた、いま日本で最も注目すべきMMAイベントは、ブッチギリでDREAM! 半数以上のファイター&関係者がDREAMの名前を挙げたが、これはじつは、アメリカではDREAMしか日本のMMAイベントはテレビ放映されていないという事情もあったりするのだ。そして、このたび『戦極』もHDNetでの放映が決定。これで『戦極』のアメリカでの知名度も飛躍的に伸びることだろう。このほかジョー・シルバが修斗への愛を熱弁したのが印象に残った。



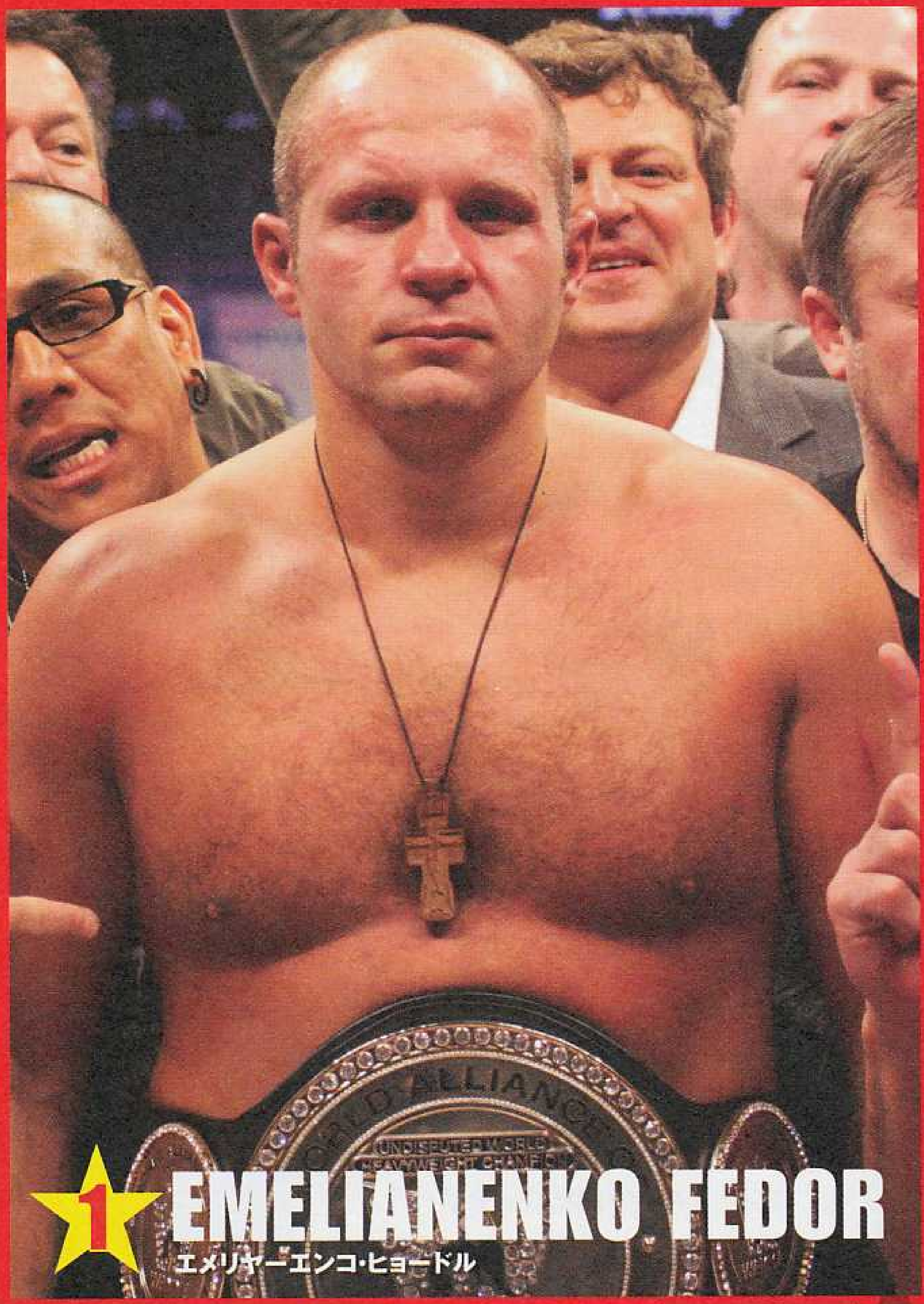
1 DREAM

評価した人 ジェイク・シールズ、ティト・オーティズ、アンドレ・アルロフスキー、ホドリゴ・ノゲイラ、ユライヤ・フェイバー、ラシャド・エバンス、ケニー・フロリアン、BJペン、ヴァンダレイ・シウバ、リョート・マチダ、ほか

Q3. いま世界で最も素晴らしいファイターは誰ですか?

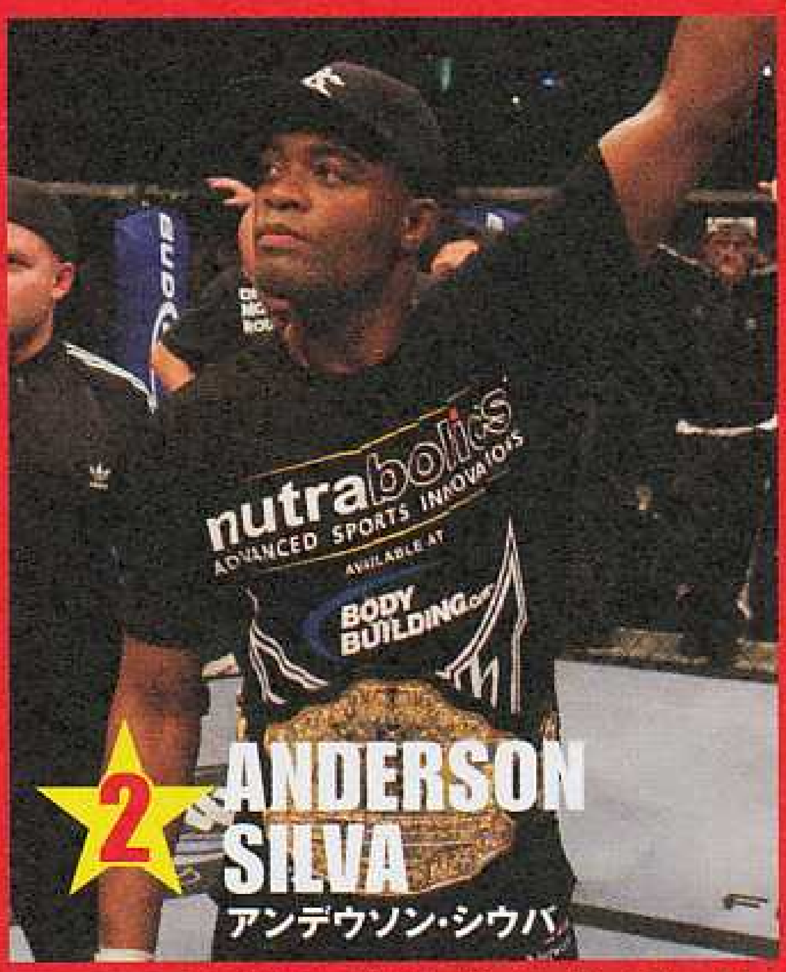
"世界ナンバーワン"はブッチギリでヒョードル!!

アメリカでベストファイターとしてブッチギリの評価を得たのは、我らが皇帝、エメリヤーエンコ・ヒョードル! ダナ・ホワイトが何を言っても、同業者であるファイターたちが、口々に絶賛するのだから、ヒョードルは強豪ひしめくアメリカMMA界にあっても完全に別格ということだろう。2位はダナが「パウンド・フォー・パウンドだ」と断言するアンデウソン。それ以外はほとんど一票なので、やはりこの二人こそが世界のベストファイターとして認識されているということだろう。



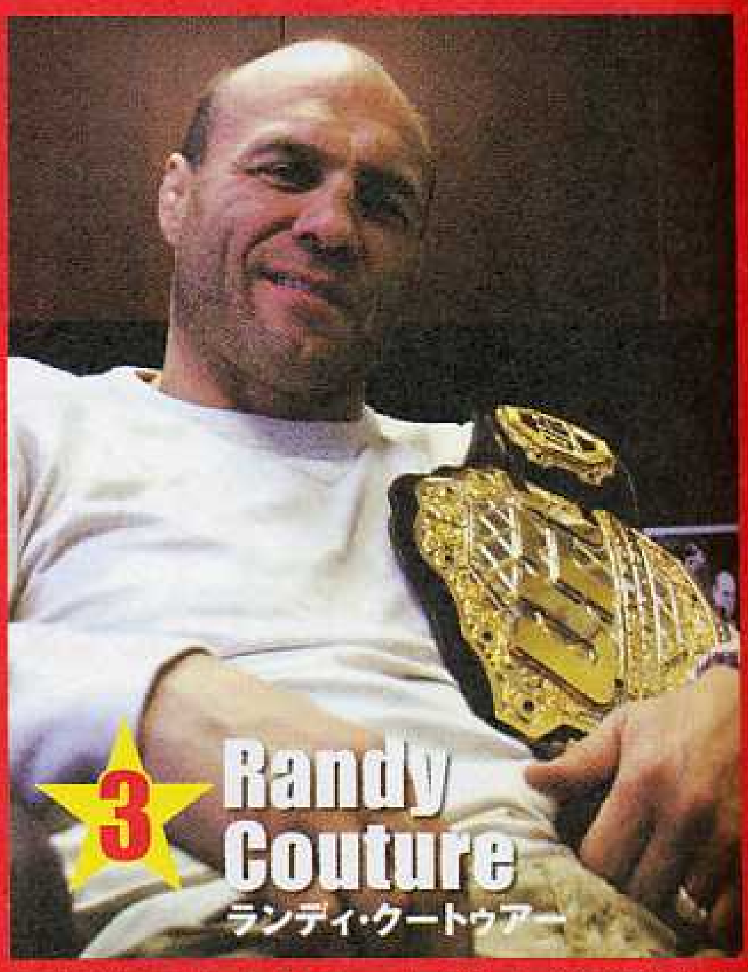
1 EMELIANENKO FEDOR
エメリヤーエンコ・ヒョードル

評価した人 アーネスト・ホースト、アンドレイ・アルロフスキー、ティム・シルビア、カロ・パリシャン、バス・ルッテン、マット・ヒューム、クレイ・グイダ、ジョン・フィッチ、リョート・マチダ、フランク・ミア、ほか



2 ANDERSON SILVA
アンデウソン・シウバ

評価した人 ホドリゴ・ノゲイラ、ヴァリッジ・イズマイウ、マイケル・ビスピン、ジョー・シルバ、レナート・ババル



3 Randy Couture
ランディ・クートゥアー

評価した人 レイ・セフォー、ロバート・ドライズデール

アメリカで ファイター&関係者 50人に聞きました

イズマイウからダナ・ホワイトまで!

世界から日本はどう見られているのか? そんな実態を探るべく、アメリカで50人にインタビューを敢行! トップファイター&関係者が、ベスト日本人ファイター、日本のベストイベント、世界のベストファイターを答えてくれた。これは必読だ!!

聞き手／堀江ガンツ、石井史彦

Sokoudjou
ソクジュ

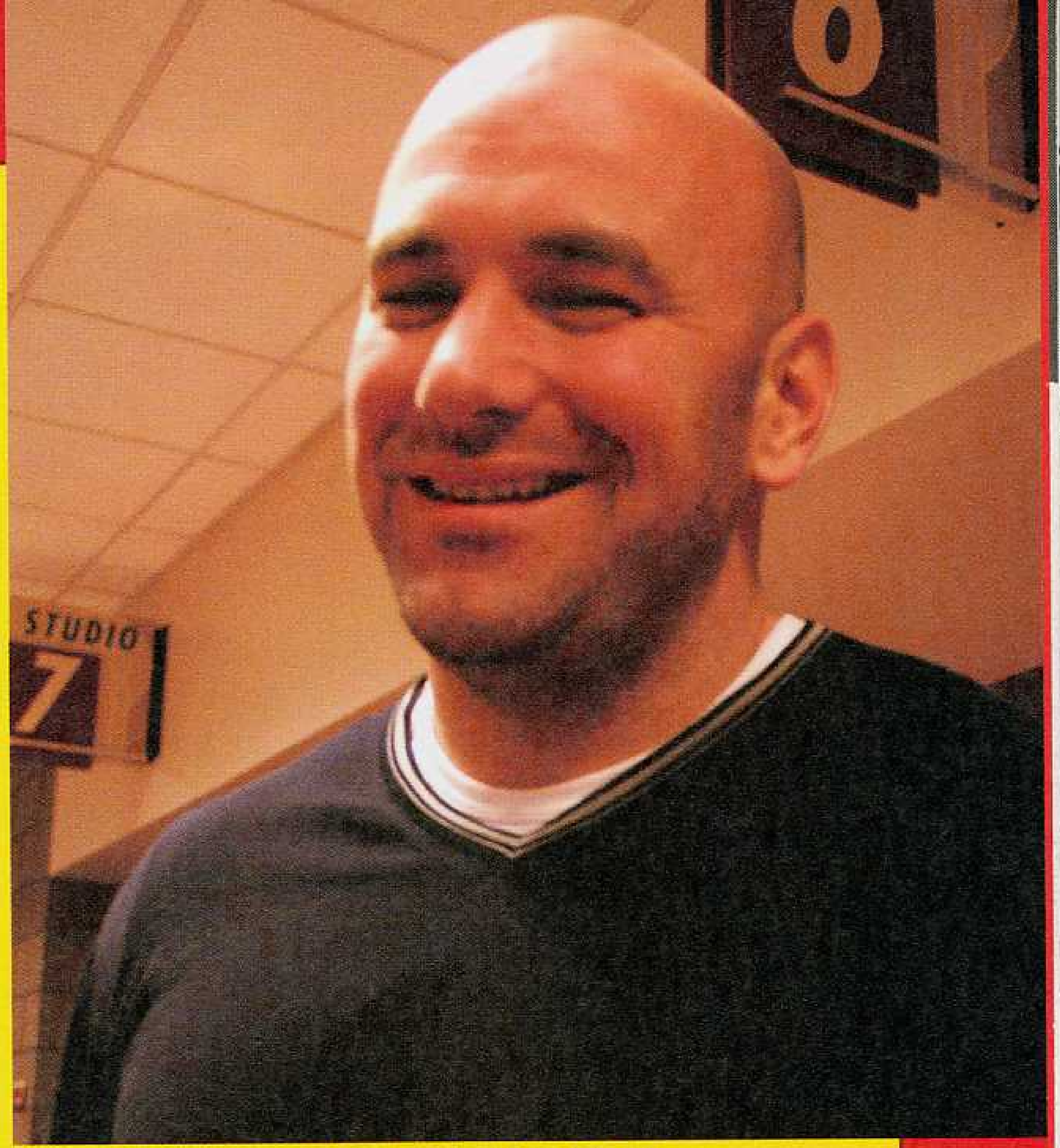


PRIDE～UFCを経て、今年から『アフリクション』に参戦。

❶アオキだな! 彼のグラウンドゲームは最高だし、タフなファイターをみんな倒してるがらな。❷すべてのプロモーションはそれぞれにスタイルがあって、どこも好きなんだ、だから『どれが?』っていうのは答えられねぇな。❸みんなデンジャラスだから、どのファイターのことでも気にしてるな。どうしてもというなら、ダン・ヘンダーソンだ、いつも練習でやられてるがらな(笑)。

Dana White
ダナ・ホワイト

❶ファック! 我々がカオル・ウノをどう思っているか知っているか? いつも気にかけてるファイターの一人なんだ! それにKID・ヤマモトだな、私は昔から彼のファンで大好きなんだ。最初に会ったのは7～8年前、ハワイでAKAのジョシュ・トムソンとの試合を観戦したときだ。試合はKIDの素晴らしいペースで展開されたが、残念ながら最後はグローインにキックが入ってしまい終わってしまったんだがな。なんでKIDが大好きかだって? 彼が『ミーン』だからだ! 自分は好きなファイターはアグレッシブでミーンなファイターなんだよ。❷PRIDEが消滅したときに日本の格闘技界は終わったんだ! ❸いま現在だとアンデウソン・シウバ、それにGSPとBJペンだな。その3人がパウンド・フォー・パウンドのベストファイターだ! けっしてヒョードルではない!



UFC代表。そのジャイアンさながらの"ダナ節"でMMA界を大股で闊歩する。

Robert Drysdale
ロバート・ドライスデール



エクストリーム・クートゥアー所属。07年のADCCではマルセロ・ガッシアを破って無差別級優勝。

❶まずはKID・ヤマモト、とてもアグレッシブだしMMAファイターとしてのスタイルがこれほど似合うヤツはいないよ。ぜひ、アメリカで同階級のトップ選手との試合を観てみたいね。日本で会ったこともあるけどとてもクールな男だった。次はゴミ。アグレッシブなファイトスタイルは魅力的だよね。前回の試合は負けてしまったけど、彼ならまた復活するよ。あとはアオキ、MMAにとても有効なガードテクニックを持ってる。下からでも極めてくるから、上を取っても安心できない。普通はみんな上になってパウンドを落とすことが有利だと考えてるけど、それがアオキには通じないんだから恐怖だよ。❷日本で、またPRIDEのようなビッグイベントができることを期待してるんだ。DREAMや『戦極』には頑張ってもらいたいよね。❸ランディ・クートゥアーだね。人間としてばかりでなく45歳になっても現役で挑戦しているんだからリスペクトするのは当然だよ。

Joseph Benavidez
ジョセフ・ベナビデス



『DREAM.5』では山本"KID"徳郁と闘う予定だった(KIDのケガによりKODOに変更)。

❶KID・ヤマモト、サクラバ、K−1だったらマサトです、みんな素晴らしいファイターたちだと思います。❷DREAMしか参戦してないしほかのところは知らないんです。もちろんDREAMは素晴らしいですね。❸自分のチームメンバーや同じウェートクラスの選手ですね、たとえばブライアン・ボウやミゲール・トーレスはいつも気にかけてます。

Renato "BABALU"
レナート・ババル



1.24『アフリクション』でソクジュにアナコンダチョークで一本勝ち。

❶自分のウェートクラスに限らなければ、タカノリ・ゴミ、KID・ヤマモトたちがいるけど、その中で一人を選べっていったら、やはりKIDだね。彼のファイティングスタイルはもちろんだけどバックグラウンドも含め、レスリングもボクシングもすべての面において素晴らしいオールラウンドのファイターだからさ。❷日本のプロモーションはすべて好きだよ、とくにDREAMや『戦極』はいいよね。スタイルは異なるけどどっちも素晴らしいよ。❸アンデウソン・シウバだね、完全なオールラウンダーだし、試合も綺麗だしね。

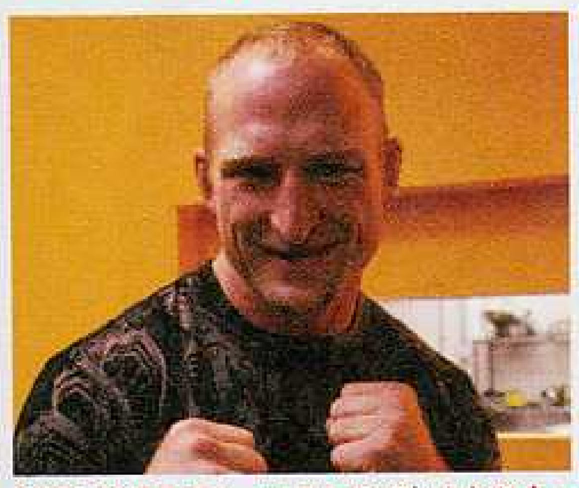
Erik Paulson
エリック・パーソン



元修斗世界ライトヘビー級王者。07年にはIGFに突如参戦、若翔洋にSTFで勝利。

❶日本にはとてもテクニカルで素晴らしいファイターがたくさんいるね。たとえばマサカズ・イマナリのレッグロックは最高だし、感動したよ。レッグロックはずいぶん前に日本で習ったテクニックなんだけど、彼のレッグロックは尊敬するよ。❷『戦極』は今後さらに大きくなることを期待させてくれるプロモーションを行なってるし、ぜひそうなってほしいと思ってる。DREAMには行ったことがないので、コメントのしようがないけど、大きなイベントっていう感じはするね。❸ジョシュ・バーネットやブロック・レスナーなど、自分がコーチしているファイターだね。

Block Lawson
ブロック・ラーソン



08年、WECでカーロス・コンデットとのウェルター級タイトルマッチに挑むも敗北。

❶マッハ・サクライ。一時期、マット・ヒュームのところで一緒に練習してたし、一緒の部屋でルームメイトとして1週間すごしていたこともある、大事なマイ・フレンドだから(笑)。❷DREAMだね。マット・ヒュームが隣にいるし、「そう言え」って、顔が言ってるので(笑)。❸"リトル・ハワイ"BJペンだね。柔術はもちろんスタンドアップも素晴らしい、それに仲間であるショーン・シャークにも勝ってるからね。

Joe Silva
ジョー・シルバ



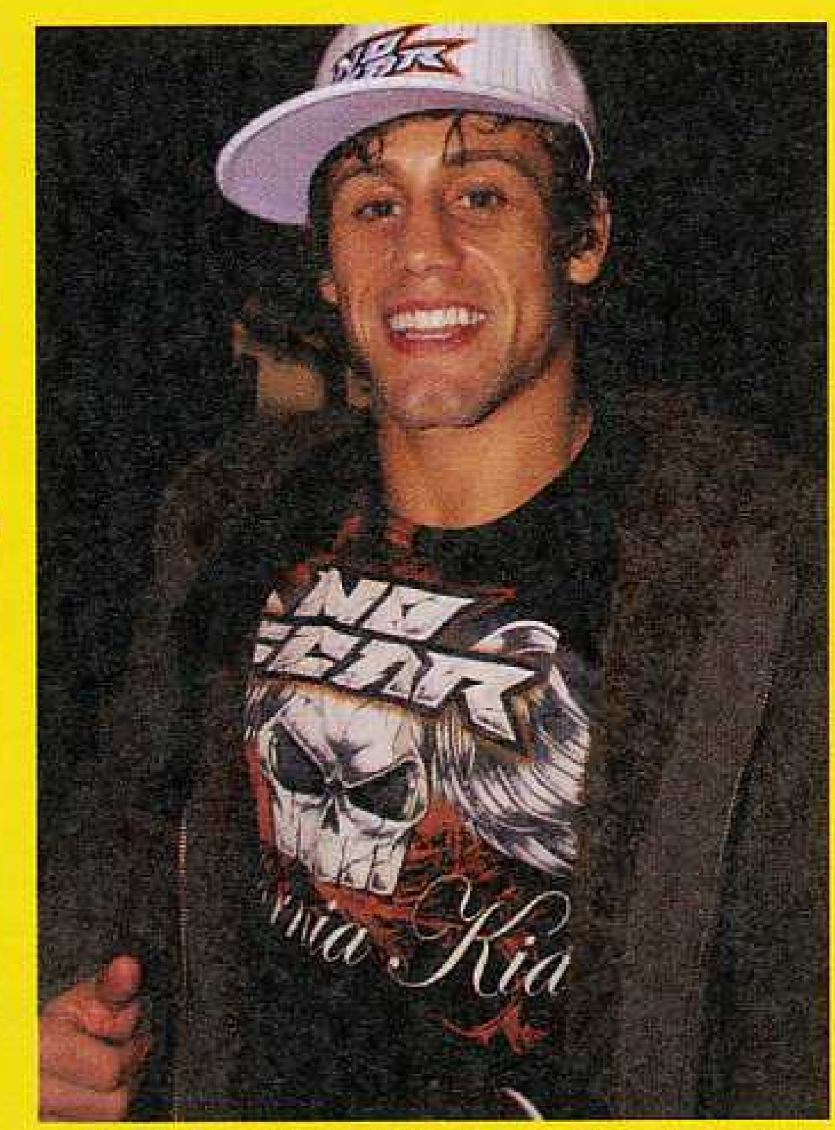
UFCのマッチメイカー。日本の格闘技シーンにも精通している。

❶ベストって言われるとタフですね、たくさん良い選手がいるから。ただ、誰が好きな選手かって聞かれたらルミナ・サトウですね。オフィスには彼のポスターやフィギュアを飾ってありますし、ペットの猫の名前は『ガット・ルミナ』っていうんです(笑)。ガットはスペイン語で猫の意味なんです。自分はルミナが全盛期の頃からのファンなんですが、彼はファイターとしてのハートばかりでなく、本質的な要素を示してくれてます。UFCのマッチメイカーとして世界のトップレベルのファイターをいつも見てますが、彼らは『人間』としか見えないんです。でも、ルミナは自分にとっては常に特別な場所にいますね。❷ルミナが全盛期の頃から観ていた修斗ですね。彼らはプロフェッショナルで、スポーツとしての取り組み方は我々UFCに似てるところを感じますね。他の団体のようにスモウレスラーを参戦させたり、フリークショーをしているのとはまったく異なる世界です。僕はタトゥーは結婚指輪の代わりに指に入れてるだけなんですけど、一時期は修斗のシンボルマークを腕に入れようかと思ったほど好きだったんです。最近は他の大きな団体に選手が参戦して、修斗自体は良いプロモーションができなくなってきてるみたいですけど、いまだに大好きですね。❸アンデウソン・シウバ。それにGSPとBJペン。GSPvsペンの試合前の盛り上がりを見たでしょう? 違う階級の現王者同士が試合をするんですから。仕事ということじゃなくて、一人のファンとしても楽しみにしてます!

質問項目 ❶あなたが最も素晴らしいと思う日本人ファイターは? ❷いま最も注目すべき日本の格闘技団体はどこですか? ❸いま世界で最も素晴らしいファイターは誰ですか?

Urijah Faber

ユライヤ・フェイバー

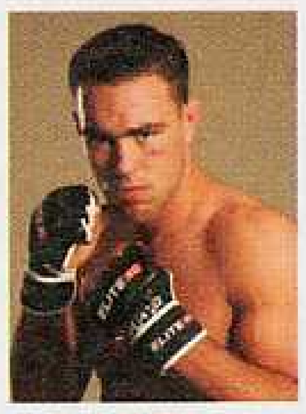


マイク・ブラウンに敗北してWECフェザー級王座から陥落するも、いまなお同階級のトップコンテンダー。

❶昔からそうなんだけど、いま現在でも俺のベストはサクラバだね。彼の試合をあきらめない姿勢やゲームプランの創造性の高さはホントにリスペクトしてるよ。❷DREAMしか観てないんで、ほかと比較することはできないけど、DREAMはホントに大好きだし、グレートプロモーションだね。❸難しい質問だね。今後ということだとチームメイトであるチャッド・メンデスやジョセフ・ベナビデスたちだよ。

Jake Shields

ジェイク・シールズ

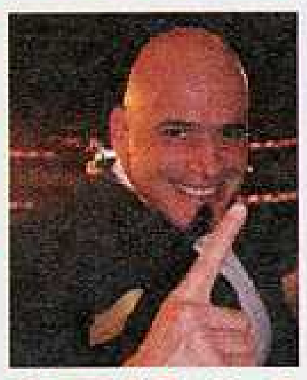


元修斗世界ミドル級王者、現EliteXCウェルター級王者。

❶それはタフな質問だね。アオキかな。俺は彼のスタイルが好きだし、試合を観ててエキサイティングだしね。あとはマッハ・サクライ。彼とは試合したこともあるけど、自分がプロで試合をする前からサクライの試合は観てたんだ。彼はこのスポーツのレジェンドだよ。❷DREAMはとても素晴らしいね。ただ試合を観たことがあるのがDREAMしかないから比べようがないんだ。『戦極』やほかのプロモーションもぜひ観たいと思ってるよ。❸もちろんGSPとBJペン。自分が試合したい相手だからね。「試合を観たい」と思わせてくれるのはヒョードル、いつも素晴らしい試合を見せてくれるし、今回も彼の試合を一番楽しみにして来たんだ(『アフリクション』前日収録)。

Bas Rutten

バス・ルッテン



元UFC世界ヘビー級王者。DREAMの海外放送で解説者を務めている。

❶アオキはスーパー、スーパーグッド! ただし、もっとストライキングのテクニックを身につけないといけないけどね。彼がストライキングを身につけたら、さらにアンビリーバブルなファイターになるよ。ほかにはこの前キックボクシングの試合をして、見事に勝利したカワジリ。とても素晴らしいMMAファイターだし大好きなファイターの一人だよ。❷おそらくはDREAMかな。コメンテーターの仕事をしてるからね(笑)。それは冗談としてDREAMはアリスター・オーフレイムやゲガール・ムサシのようなベストファイターをウェートクラスごとにそろえているからね。❸ヒョードルだね。最強の男だし、リングを降りたら偉ぶることのない本当のグッドガイ。人間としても尊敬してるんだ。

Tito Ortiz

ティト・オーティズ



元UFC世界ライトヘビー級王者。『UFC84』のLYOTO戦を最後にUFCと契約終了。

❶ゴミだな! 彼の試合は自分を観ているように感じるんだ。いつもアグレッシブなファイトスタイルを見せてくれるグレートファイターだ。この前の試合を落としたって? でも彼は絶対にトップに戻ってくるぜ。もう一人、DREAMに出てるアオキ。素晴らしい柔術のテクニックを持ってるし、試合を観てて楽しいな。二人とも今後もっといいファイターになって我々を楽しませてくれるさ。❷DREAM、素晴らしいファイトを見せてくれるし、自分たちがやろうとしていることを明確にわかってるからだろうな。今後もより素晴らしいプロモーションを行なってほしいよ。自分を招待してくれれば喜んで試合を観に行くのになぁ。日本のことは綺麗だし大好きだ、いままでに8回訪日してるんだ。みんな親切だしまた行けるチャンスを楽しみにしてるぜ。❸自分の対戦相手、フランク・シャムロックだな。どこのプロモーションになるかはわからないけど試合を組んでくれる可能性は高い。彼とは絶対に試合をしたいし、フランクもそう思ってるだろうな。

Tim Sylvia

ティム・シルビア

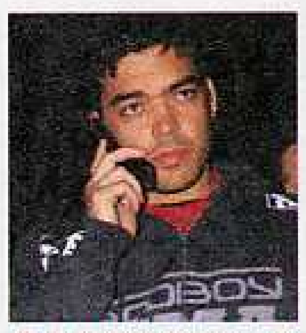


元UFC世界ヘビー級王者。08年7月の『アフリクション』ではヒョードルに1RKO負け。

❶ウノかな。初期のUFCに参戦したり、経験は豊富だし、まだ現役選手として活躍してるんだからリスペクトしてる。試合もエンジョイできるからね。❷いまはDREAMと『戦極』がメジャーだって聞くけど、両方ともいいカードを組んでるし、いいプロモーション活動をしてると思うよ。じつは昨年末に日本で試合をするっていうプランもあったんだけど流れてしまったんだ。チャンスがあったら、今度こそ日本で試合をしたいよ。❸もちろんヒョードルだよ! 彼とは再戦できたらと思ってるよ。また殴られて負けちゃうかもしれないけどな(笑)。

Lyoto Machida

リョート・マチダ

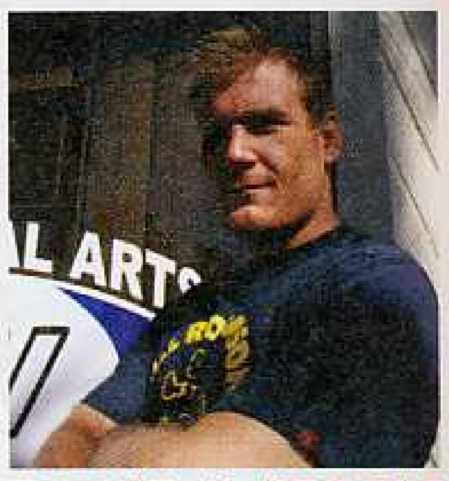


現在MMAデビューから負けなしの14連勝中。次期UFCライトヘビー級王座挑戦者と目されている。

❶アオキだね。洗練されたテクニックを持っているし、それを常に進化させてるからね。それはMMAにとって凄い武器となる。良いファイターになるためには、まず一つ一つ抜きん出たものがないといけないし、それをベースに練習することが大事なんだ。彼はそれができていると思うよ。❷DREAMはたくさん名前のある良いファイターが参戦してるので、試合を観るのが楽しみなんだ。他のプロモーションの試合を観るのも好きだよ。❸ヒョードルだね。試合でもリラックスしてるし、『心・技・体』を習得してMMAで実践してるからね。

Josh Barnett

ジョシュ・バーネット



元UFC世界ヘビー級王者。日本での主戦場は『戦極』で、『アフリクション』旗揚げ戦にも参戦。

❶フジメグ(藤井恵)! 男女を抜きにして間違いなく日本でベストの格闘家だよ。❷パンクラスはもちろんだけど、『戦極』も注目してるよ。自分もそのヒストリーを作るのに貢献できればと思ってる。❸やっぱりフジイサン! パワフルでスピードもありテクニックも最高のものを持っているよ。

Frank Mir

フランク・ミア

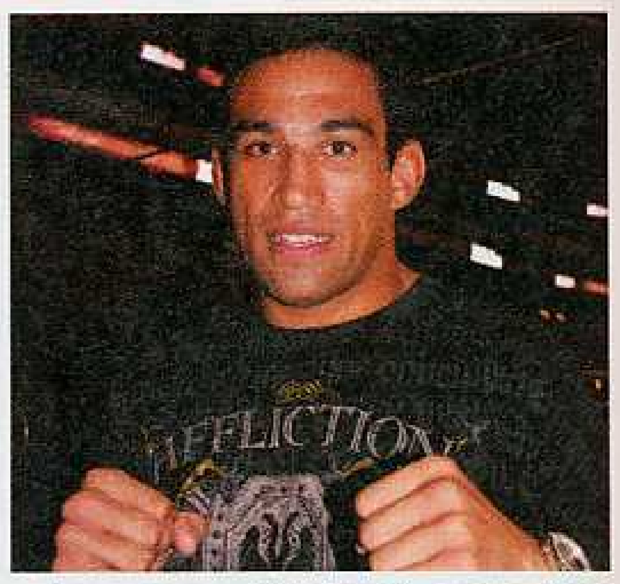


現UFC世界ヘビー級暫定王者。今年はブロック・レスナーとのヘビー級王座統一戦が予定されている。

❶ルミナ・サトウだね。自分でMMAを始めたころから試合に出てるし、その当時のグラップリングといえば、皆テイクダウンしてコントロールしてただけなんだけど、ルミナはどんな体勢からでもサブミッションを極めにいったからね。ジャンピングアタックみたいな、極めるだけじゃなく美しい技も見せてくれてたしね。自分はヘビー級だから身軽な動きはできないけど、参考にするところはあったし、させてもらったし、自分のサブミッションゲームに影響を与えてくれたファイターなんだ。❷DREAMだね。ミドル級を見ると世界のトップファイターが参戦してるからね。ゲガール・ムサシとジャカレイの試合は素晴らしかったよ。❸ヒョードルだね。ウォリアーそのものだし、精神面での冷静な強さを備えてるからね。日本のサムライ、宮本武蔵のようだよ。お面を被っているようにリングの中でも自分の感情を出さず、表情をまったく変えないんだからね。自分も感情をコントロールするようにしてるよ。僕は日本の文化が大好きなんだけど、本物のラストサムライである西郷隆盛などを読んで、精神面を鍛えてるんだ。

Fabricio Werdum

ファブリシオ・ヴェウドゥム



07年ADCC99kg以上級優勝。PRIDEを経てUFCを主戦場としていたが、現在は契約解除。

❶サクラバだね。とてもおもしろいヤツだし、試合のスタイルもユニークで好きなんだ。あとはタカノリ・ゴミ。この前の試合に負けたのも知ってるけど、あのアグレッシブなファイトスタイルがとにかく好きなんだ。❷『戦極』だね。ヘビー級のプロモーションが、まるでPRIDEのように感じるんだ。❸もちろん、ベストはヒョードルさ。彼と対戦することは俺の一番の夢なんだ。

Mike Swick
マイク・スウィック


『TUF』出身ファイター。岡見勇信に敗北するも、現在までMMA13勝2敗の好成績を残している。

❶ゲンキ・スドウとKID・ヤマモトだね。ゲンキの入場時のパフォーマンスは最高に楽しませてくれるし、ワイルドで最高のファイターだよ。キッドはとてもアグレッシブで、エキサイティングな試合を見せてくれるね。自分のファイトスタイルに似てるんだ。❷DREAMが一番かな、HDNetでも観れるからね。それに『戦極』もいいプロモーションだって聞いてる。❸難しい質問だね。GSPやBJペンのように素晴らしいファイターが多いからリストアップするのは困難だよ。皆、素晴らしい試合をしてるから、このジャンルを広げていくということにおいて、とても良いことだね。もちろん間違いなく、その中でもトップなのはGSPとBJだね。

Ray Sefo
レイ・セフォー


ベテランK-1ファイター。MMAも視野に入れ、ランディ・クートゥアーのもとでトレーニングを行なっている。

❶たくさんいるんだけど、ヒデオ・トコロかな。彼の試合はとてもテクニカルだし、常に動きがノンストップだろ？　プロモーションを行なううえで重要な選手だろうね。ゲンキ・スドー、カオル・ウノも才能のある好きなファイターだよ。❷K-1&DREAM。もちろん自分はK−1と契約してるけど、グッドなカードがたくさん組まれてるからね。❸ランディ・クートゥアーは自分のメンター（指導者）であると同時に偉大なるファイターなのに、非常につつましい男なんだ。ヒョードルも同じように世界最強であるのに全然偉ぶらない素晴らしい男さ。この二人は間違いなくヘビー級のトップだよ！

Andrei Arlovski
アンドレイ・アルロフスキー


元UFC世界ヘビー級王者。1.24『アフリクション』ではヒョードルの右フックでKO負け。

❶どのウェートクラスでもいいのか？それなら以前UFCに参戦していて、ジェンズ・パルヴァーとも試合をしたことのあるカオル・ウノだ。オールラウンダーだし、素晴らしいテクニックを持ってるからな。❷いまはDREAMがいいプロモーションをしてるって聞いてる。周りのみんなが日本のことを話すときは、「DREAM、DREAM、DREAM……」っていう感じなんだ。じつは自分では実際に観たことがないので判断はできないけどな。日本のことは好きなんで、チャンスがあったらぜひ自分も日本で試合をしたい。❸ヒョードル、彼は最強のファイターだからさ。彼と試合をすることによって自分を試したいんだ（アフリクション』前日収録）。

Karo Parisyan
カロ・パリシャン


元WECウェルター級王者。『UFC78』では長南亮から判定勝ちを収める。

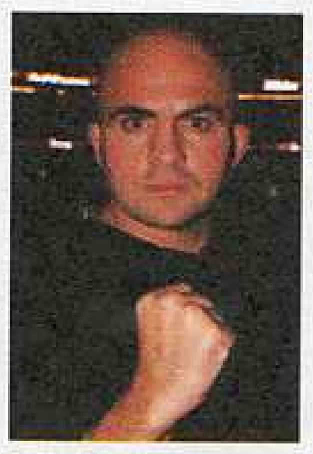
❶たくさんいるけど一人を選べっていったら、やっぱりカズシ・サクラバだね。彼はどんな強い相手でも選ばずに試合をしてるし、彼のスタイルそのものが好きなんだ。❷昔はPRIDEだったけど、いまはDREAM。なんといっても日本人最強のファイターを揃えてるからね。❸世界最強のファイター、ヒョードルだね。

Pat Miletich
パット・ミレティッチ


元UFC世界ウェルター級王者。マットヒューズなど数多くの選手を育成する名伯楽。

❶アオキ。あの試合スタイルは大好きだし、ほかに存在しないまさに信じられないファイターだね。日本でベストではなく、世界でのベストファイターだよ。チャンスがあったらぜひアオキと試合をしたいんだ。誰かマッチメイクしてくれないかな？❷日本のプロモーションはみんな好きさ、自分たちファイターをちゃんとサポートしてくれるからね。❸世界でも間違いなくアオキだね。とにかくジャパニーズ・ファイターは誰もがスマートな試合運びをするから、大好きなんだ。

Wallid Ismail
ヴァリッジ・イズマイウ


お馴染み闘魂ストーカー。じつは柔術ではホイスやヘンゾから勝利を収めている実力者。

❶オールドジェネレーションだとサクラバ、ニュージェネレーションだとゴミだろうな！　サクラバがいなかったらMMAがスポーツとしてこんなに成長できなかっただろうし、ゴミはタフなファイターとしてみんなに感動を与えただろ？　もう一人、自分のアイドルとしてマサカツ・フナキ。ビジョンをもって格闘技業界に貢献したからだ。❷アイ・ライク『戦極』。自分の教え子であるホジェリオ・ノゲイラも参戦してるからね！　❸ホドリゴ・ノゲイラとアンデウソン・シウバだな。友だちっていうこともあるけど、ノゲイラは前回の試合で負けてしまったが強いハートを見せてくれた。アンデウソンは間違いなく現在ベストのパウンド・フォー・パウンドのファイターだ。俺様の弟子たちが活躍していて、本当に嬉しいんだ！

Christian Wellisch
クリスチャン・ウェリッシュ


UFCを主戦場とする、AKA出身のファイター。かつてあの『X-1』で佐々木健介と対戦したことも。

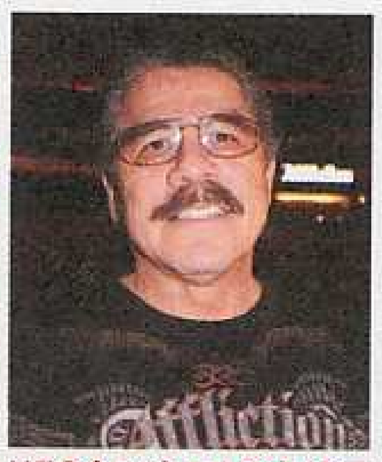
❶日本にはたくさん良いファイターがいるし、そんなこと考えたことがなかったから誰がベストかってわからないけど……昔だったら間違いなくサクラバだね。寂しいことに彼のプライムタイムは去ってしまったけど、彼のショーマンとしてのユニークなスタイルが、MMAをスポーツとしてエキサイティングなものにして業界に貢献したんだからね。❷DREAMとワールドビクトリーロード（『戦極』）のことは知ってるよ。『戦極』に関しては去年会場で試合を観戦できたんだけど素晴らしいプロモーションだって思ったよ。さすがにプロの集団が制作を行なってるって感じさせたし、今後のプロモーションを期待させるものだった。ぜひ昔のPRIDEのような存在になってもらってUFCと競合してくれることを祈ってるよ。MMA業界が成長するためにも良い関係での競合がいないといけないからね。❸GSPとBJペンだね。GSPは僕のチームメイトであるジョン・フィッチを相手に5Rフルで素晴らしいスキルを見せたし、人間的にも尊敬できる奴だしね。BJペンはウェートを上げて試合に臨むから、どのように筋肉をつけてくるのか楽しみなんだ（『UFC94』前日収録）。

Gegard Mousasi
ゲガール・ムサシ


DREAMウェルター級GP王者。『Dynamite!!』ではK-1ルールで武蔵に勝利。

❶アキヤマ（秋山成勲）がオールラウンドのベストファイターだと思ってたんだけど自分との試合を受けてくれなかったからね……、ちょっとガッカリしたよ。自分は今後、階級を205ポンド（約93キロ）に上げるのでアキヤマと対戦することはもうないだろうけどね。ほかにもたくさん素晴らしいファイターがいるけど誰がベストかはわからない。❷MMAだとDREAMだね。元PRIDEのスタッフが運営してるし、とくに演出、ライティングなんかも素晴らしいよ。今後はますますよくなっていくだろうね。❸ライトヘビー級からヘビー級へ階級を上げたアリスター・オーフレイムはとても参考になる。自分も同じようにミドル級からライトヘビー級に階級を上げるんで、彼がどのように上のクラスに対応していくのかを有効に取り入れたいんだ。

Jacob Stitch Duran
ジェイコブ・〝ステッチ〟・デュラン


UFCオフィシャルのカットマン。ニックネームのステッチは“針”を意味する。

❶ゴミは昔から好きだったし、いまもベストのファイターだけど、最近だとキタオカに一番興味を抱いてるんだ。彼のパーソナリティは独特で計量のときばかりでなく試合になってもおもしろい（笑）。でも試合ではキチッと極めてくる。試合後はとてもフレンドリーだしね。❷いままでK−1、PRIDE、『戦極』の試合に関係したけど、日本のプロモーションはそれぞれのスタイルがあって素晴らしいから、いずれが一番かっていうのは難しいね。❸アンデウソン・シウバは間違いなくコンプリートファイターとして世界でベストだと思うよ。

質問項目 ❶あなたが最も素晴らしいと思う日本人ファイターは？　❷いま最も注目すべき日本の格闘技団体はどこですか？　❸いま世界で最も素晴らしいファイターは誰ですか？

Paul Buentello

ポール・ブエンテロ



元KOTCヘビー級王者。その後UFC、ストライクフォースを経て『アフリクション』に参戦。

❶3人挙げていいのであれば、ファイティングスタイルが素晴らしいのでタカノリ・ゴミ。あとは個人的にも会ったことのあるカズユキ・フジタ。それから、ゴミに先日の試合で勝ったキタオカだね、あの試合のキタオカは見事なサブミッションだったよ。❷DREAMと『戦極』だね。DREAMはPRIDEを見事に引き継いでる感じがするし、『戦極』はまた違ったスタイルでプロモーションしてるからね。❸もちろん、ベストは"自分"だよ(笑)。

Lorenzo Fertitta

ロレンゾ・フェティータ



現在はステーションカジノの経営者の職を離れ、ダナとともに共同経営者としてズッファ社の運営に参加。

❶ベストのファイターって聞かれるとわからないですが、昔からゴミの試合を観るのが大好きでしたよ。タフでアグレッシブな試合を見せてくれるから。ウノも好きですよ。とても良い友人の一人ですから。それにKID・ヤマモト。この3人が好きな日本人ファイターなんですが、昔からのお気に入りはルミナ・サトウです。とにかく昔から彼の試合を観るのが大好きでした。サブミッションゲームの中で見せる動きは信じられないくらい素早かった。❷いま現在の日本の格闘界は厳しい状況を迎えているから、どのオーガニゼーションがほかより勝ってるかなんて言えるような状況じゃないんじゃないでしょうか？　PRIDEが存続できなかったことで、苦しんでるように感じます。世界でトップのオーガニゼーションである我々が、ベストのファイターを抱えてベストのショーを行なってることも原因かもしれませんね。❸たくさんいますし、次々に新しいタレントが生まれてくるので、どのファイターがベストだとは言えませんが、UFCから見たらチャック・リデルですね。MMAビジネスを躍進させるのに最大の協力をしてくれてますし、パートナーとしても最高なので。もちろんGSPとBJペンは素晴らしいです、この二人の試合はドリームマッチですし、それを実現できるなんて感激します。この試合はBJの申し出から組まれたものですが、GSPもやりたがってた試合なんです。もちろんファンも絶対に観たい試合でしょうしね(『UFC94』前日収録)。

Ernesto Hoost

アーネスト・ホースト



"ミスター・パーフェクト"の異名を取ったK−1フォー・タイムス・チャンピオン。

❶いまは、アキヤマ(秋山成勲)だね、グラウンドゲームは素晴らしいし、スタンドアップもスキルアップしてるコンプリートファイターだよ。❷日本に住んでいるわけじゃないので、いいコメントはできないけど、DREAMは素晴らしいと思うし、周りからもそう聞いてるよ。ほかについてはよく知らないんだ。❸間違いなくヒョードルだね。真にコンプリートファイター、グラウンドゲームでは彼に勝るファイターはいないだろうし、スタンドアップも今後もっと向上するよ。このまま無敗を続けていくことになるだろうね。自分のところの選手ではK−1に出たことがあり、現在はUFCに参戦してるアントニー・ハードリンクに、ぜひ注目しててほしいよ。

Kenny Florian

ケニー・フロリアン



『TUF』出身ファイター。現在6連勝中で、次期UFCライト級王座挑戦者の最右翼とされる。

❶間違いなくアオキ!　大ファンなんだよ。想像できないようなテクニック、毎試合異なったゲームプランでトップレベルのタフなファイターを極め続けている。また、常に現状に満足しないで新しい技を研究し、身につけようとしてる。彼がタイランドへ行ったのもその証だよ。それに、彼もサウスポーで自分のスタイルに似てるからシンパシーも感じるね。❷自分と同じ155ポンドのクラスが充実してるからなんだけど、DREAMだね。アオキ、ハンセン、アルバレス、JZ……タフな選手が集まってるし、マッチメイキングも素晴らしいからね。❸GSP、BJペン、アンデウソン・シウバ、それにヒョードルが自分にとってのトップ4ファイターなんだ。なんといってもおもしろい試合をしてくれるからね。

Michael Bisping

マイケル・ビスピン

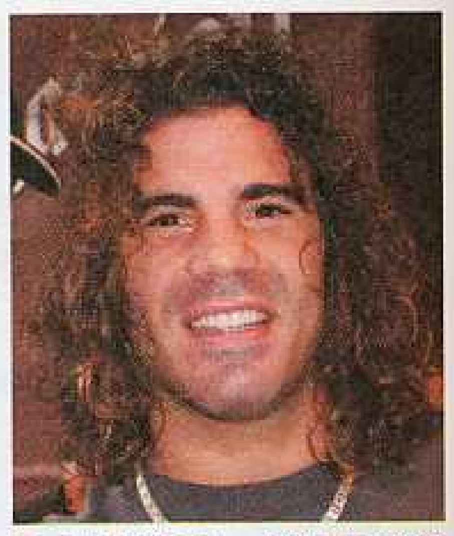


元『ケージレージ』世界ライトヘビー級王者。09年はTUF9のコーチを務めている。

❶才能を持ったファイターはたくさんいるし、選ぶのは大変だよ!　まぁ、PRIDEの頃だったらヒデヒコ・ヨシダかな。相手を選ばずに誰とでも対戦するスピリットは素晴らしいよ。❷『戦極』とDREAMというショーは知ってるよ、でも、いまはインターネットで試合を観てるだけだし、ライブで観てないからどっちがいいかはコメントできないけど……強いて言うなら『戦極』かな。吉田も参戦していることだしね。❸BJペンとアンデウソン・シウバだね。BJはファイトスタイルも好きだし、天性の才能をこれだけ持ったファイターはいないんじゃないかな？　それに階級を上げてGSPに挑戦する姿は尊敬に値するよ。アンデウソンに関しては、彼は間違いなくパウンド・フォー・パウンドのベストファイターだからさ。

Clay Guida

クレイ・グイダ

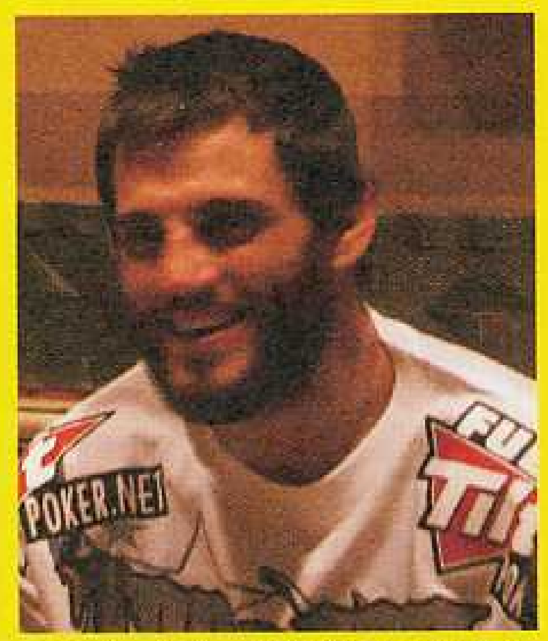


元ストライクフォース世界ライト級王者。『UFC94』ではネイサン・ディアスに判定勝利。

❶自分が大好きで、かつベストファイターと言う意味ではサクライだね。オールラウンドのファイターだし、なんでもできるからさ。❷自分も試合したことがある修斗だね。❸ヒョードルが一番好きなファイターだね。ファイターとしてだけでなく人間としても尊敬できるからさ。そのほかだとGSP、BJペン、クートゥアーだね。

Jon Fitch

ジョン・フィッチ

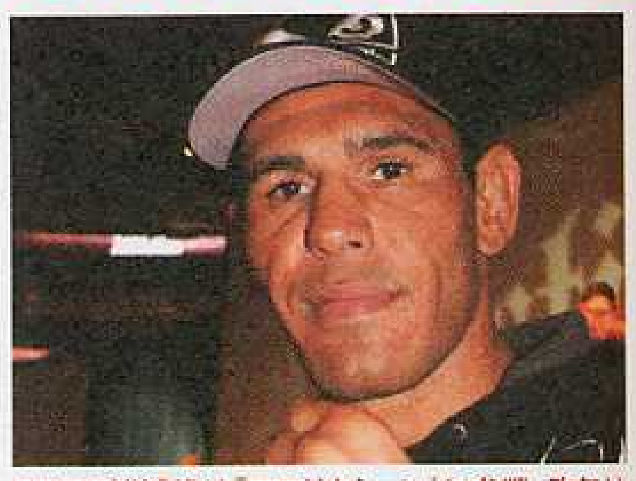


UFCウェルター級戦線の実力者で、『UFC94』では郷野聡寛に勝利。じつは『X-1』にも参戦経験あり。

❶それはタフな質問だ。KID・ヤマモトは間違いなく日本を代表するトップファイターだね。最近は試合を観てないんで、日本に限らずWECとかにも参戦して、もっと素晴らしい試合を見せてほしいな。あとはアオキ。キッドと同様に、今後日本に限らずもっとタフなファイターとの試合を観てみたい。昔、AKAで練習していたリキ・フクダの素質も抜群だと思う。ぜひチャンスをつかんでトップレベルに上がってきてほしいし、そのためにもAKAに戻って練習を一緒にしたいね。❷日本のプロモーションは素晴らしいし大好きなんだけど、インターネットの動画で観るしかないし、どのプロモーションなのかもわからずに観てることがあるんで、どこがベストかっていうのはわからないな。PRIDEは素晴らしかったし、それを引き継いでるDREAMも素晴らしいと思うけどね。❸ベストファイターというのは、ファイテイングスキルの高さはもちろんなんだけど、それよりもリングを降りたときの人間性や、どのような態度を周りに見せるかという面が重要だと思うんだ。昔はそんなことは気にしなかったんだけど、そういう考え方を意識しているヒョードルは、間違いなくベストだね。常に冷静で、自分の対応できる範囲のことしか話さないしね。莫大なファイトマネーを稼いでても、自分からお金のために試合をしてるっていう感じがまったくしないし、常に自分が世界最強であることを証明するためにタフなファイターと闘い続けてるからね。自分も見本としてるんだ。

Antônio Rogério Nogueira

アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ



PRIDE消滅後は『アフリクション』に参戦。昨年は『戦極』にも参戦をはたした。

❶タカノリ・ゴミだね、彼のゲームスタイルは好きだし、素晴らしいKOシーンを何度も見せてくれてるだろ。先日の試合には負けてしまったけど、彼こそベストファイターさ。❷"コクホ"プロモーション(『戦極』)だね。個人的にも彼のことは好きなんだ。❸ゲガール・ムサシ。ホナウド・ジャカレイにも勝ってるし、彼はオールラウンドのファイターだからね。あと自分はスタンドアップが好きなんで、メルヴィン・マヌーフやピーター・アーツなど、K−1ファイターだね。

Rashad Evans

ラシャド・エバンス



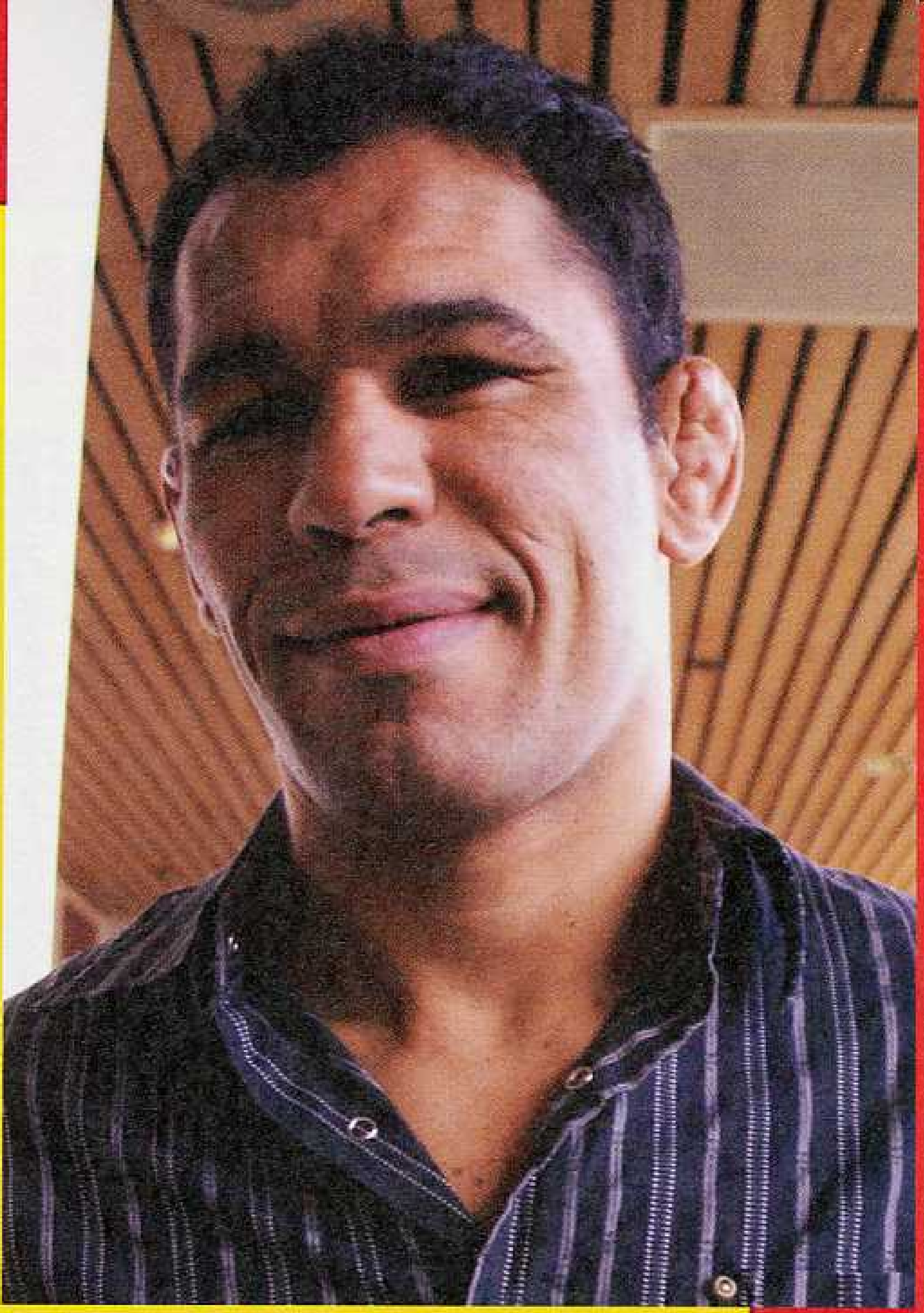
『TUF』出身ファイター。『UFC92』でフォレスト・グリフィンに勝利、UFC世界ライトヘビー級王者となる。

❶ゲンキ・スドー。彼のダンスをしたりするスタイルは大好きだったよ。あとはウノだね。UFCを含め、昔から試合に出てるし、彼の試合スタイルは素晴らしいからね。❷HDNetで観れるんでDREAMかな。でも日本が好きなんで、ほかのプロモーションも大好きだよ。❸KID・ヤマモトはベストファイターだよ。試合を観るんであればGSPかな、一緒にトレーニングもしたりするんでね。

Antônio Rodrigo Nogueira

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

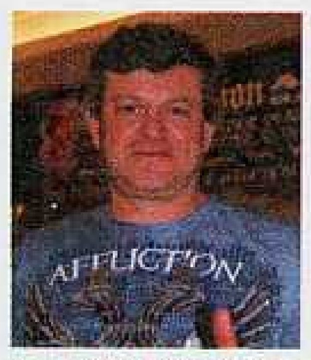
❶数人いるけど、まずはアキヤマ（秋山成勲）。あのスピニングキックは素晴らしいし、寝技もできるコンプリートファイターだね。あとKID・ヤマモト。ファイティングスタイルはもちろん、グラウンド、キックボクシング、レスリングどれをとっても素晴らしい。ファイターとしてはベストだね。それから、ゲンキ・スドーもショーマンなんで彼を観るのは楽しかったよ。ゴミもグッドファイターなんだけど、あまり試合をしていないというのが気になるんだ。自分にも言えることなんだけど試合が空きすぎるとコンデイションを保つのは難しいからね。❷カトー（加藤専務）がいるDREAMだね。PRIDEを引き継いでいる感じがするからね。あとホジェリオが参戦した『戦極』。両方とも素晴らしいプロモーションをしてるよ。❸アンデウソン・シウバだね、彼の試合運びにはいつも驚かされるし、そのスタイルが好きなんだ。



元PRIDEヘビー級王者、元UFC世界ヘビー級暫定王者。08年『UFC92』でフランク・ミアにTKO負け。

Vadim Finkelstein

ワジム・フィンケルシュタイン



ヒョードルを擁するレッドデビルの代表、さらにM-1グローバルの代表も務める。

❶日本にはたくさん選手がいますからベストファイター一人を選ぶのは困難ですが……、あえて言えば、ダイスケ・ナカムラ（中村大介）ですね。オールラウンダーですし、M−1でも彼の試合を観てるので。❷現時点ではDREAMでしょうね。まだPRIDEのレベルではないですが、一番日本で大きなプロモーションを行なってますし、トップレベルの選手が参戦してるので。❸実際に試合を観たファイターの中ではゲガール・ムサシが世界一番のファイターになるポテンシャルを持ってると思います。ほかだと今回、『アフリクション』では負けてしまいましたが、キリル・シデルニコフ。まだ若いですしヒョードルと同じスクール、同じシステムでトレーニングを積んでるので今後が楽しみです、自分がマネージャーだからではないですよ（笑）。

Matt Hume

マット・ヒューム

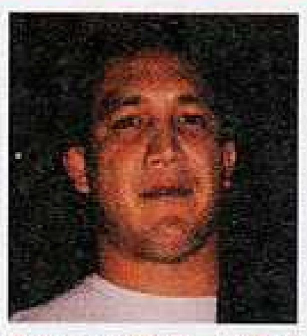


AMCパンクレイションを主宰。現在はDREAMでジャッジを務めている。

❶マッハ・サクライとアキラ・ショウジ、二人とも自分のスチューデントだからな（笑）。❷もちろんDREAMに決まってるだろ?（笑）。❸クラス別に挙げるとしたら、ヒョードル、そしてアンデウソン・シウバ、あとはGSPとBJペンの勝者ということになるだろうな（『UFC94』前日収録）。

J.D. Penn

JDペン



BJペンの実兄。ハワイを拠点とするMMAイベント『Rumble on the Rock』の代表を務める。

❶間違いなくKID・ヤマモトだね。ベストなファイターであるためには優れたファイターであることはもちろんのこと、エキサイティングなファイターであることが要求されるんだけど、キッドはそのすべてを持ってるからね。❷いま日本でメジャーなのはDREAMと『戦極』だけでしょ? どっちも素晴らしいと思うけど、正直言って自分が知ってるのはK−1〜『HERO'S』の流れでDREAMだけなんだ。『戦極』のことはわからないのでコメントできないよ。❸とても難しい質問だよ。たぶん『BJペン』っていうヤツの名前を挙げなければいけないんじゃないかな。そのほかに自分が観たいという意味ではヒョードル、GSP、アンデウソン・シウバだね。彼らが現在もっともエキサイティングな試合を見せてくれるから、間違いなくベストのファイターって言えるんじゃないかな。

Bob Cook

ボブ・クック



かつて"クレイジー"のニックネームでUFCで活躍。現在はAKAでヘッドトレーナーを務める。

❶ベストというと難しいけど、一番好きなファイターはサクラバだね。PRIDEの頃からファンを楽しませてくれたから試合を観るのが楽しみだったよ。❷最近だとDREAMと『戦極』を見てるけど、両方とも素晴らしいショーだよ。ぜひともAKAのファイターを参戦させてライブで観戦したいね。❸好きなファイターということであればヒョードルかね。見かけは普通の大柄な人っていう感じなのに、リングに入れば別人になるし、常に勝利を収めてるからね。ほかだとBJペン。素晴らしいタレントだし、生まれ持った才能を感じるよ。スタンドアップ、グラウンド、レスリングと、どれをとっても最高のテクニックを見せてくれるからね。あと、ジョン・フィッチは自分にとってのヒーローなんだ。彼はタフで、どんな相手だろうと選ばず、勝つために試合をするからさ。将来がとても楽しみだよ。

Jose Aldo

ジョゼ・アルド



ノヴァウニオン所属。07年にパンクラスで昇侍に判定勝ち。現在の主戦場はWEC。

❶俺はスタンドアップの試合が好きなんで、ベストは文句なしにマサト。パンチとキックのコンビネーションはパーフェクトだからね。❷日本のプロモーションはトラディショナルな面を守ってるのですべて好きだよ。どうしても選べ、というのであればDREAM、そしてパンクラスだね。❸たくさんいるんでキリがないけど、格闘技を始めた当初は、ペドロ・ヒーゾに影響を受けてたんで、彼のことはいまでもリスペクトしてるよ。

Jason "Mayhem" Miller

ジェイソン"メイヘム"ミラー



現在はDREAMを主戦場とするが、過去にはUFCでGSPと接戦を繰り広げた（メイヘムの判定負け）。

❶最強ファイターという意味では間違いなく、ユーシン・オカミ! とてもパワフルでオールラウンドだからな。ただ、試合を観るという点で言えば、UFCでは勝つためにリスクを犯すことをしてないから、試合を観ながら寝ちゃうこともある（笑）。俺はリスクを犯しても魅せる試合を心がけてるからな! それは、マイ・ブラザーであるチョーナンもそう。どんな状況でも勝ちにいく姿勢を見せてくれるんだ。❷ショーとしては間違いなくDREAM。マッチメイクはグレートだし、ファイターはロックスターでファンはそのロックショーを観ているような感覚だ。そんなプロモーションは日本以外、見あたらないよ! ❸ヒョードルは最強だけど……。自分の頭の中では「勝つことが困難だ」という架空の相手、"ミスター・ディフィカルト"がいるんだ!（笑）。ヤツは柔術はグレイシー、KOパンチはヒョードル、レスリングはケビン・ランデルマンといった要素をすべて持っているんだ。毎日その"ミスター・ディフィカルト"を目標に練習をしてるのさ!

質問項目 ❶あなたが最も素晴らしいと思う日本人ファイターは? ❷いま最も注目すべき日本の格闘技団体はどこですか? ❸いま世界で最も素晴らしいファイターは誰ですか?

B.J.Penn

BJペン



現UFC世界ライト級王者。『UFC94』ではGSPに敗北するも、現在ライト級では世界最強との呼び声が高い。

❶KID・ヤマモトだね。彼の攻撃を観てると、絶対に何かが起こるって感じさせてくれるからね。❷K−1も好きなんだけど、MMAだとDREAM。試合を観てて楽しいし、世界のベストのファイターが参戦してるからね。❸すべてのファイターを常に気にしてるよ。MMAは進化してるし、無名の新しい選手からでも学ぶものがたくさんあるからね。今回対戦するGSPも普段は尊敬してるよ(『UFC94』前日数録)。

Eddie Bravo

エディ・ブラボー

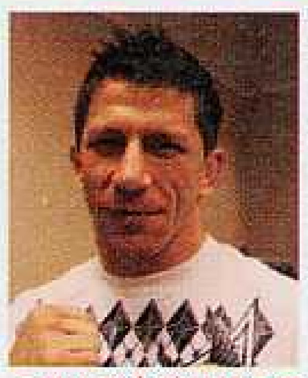


ラバー・ガードやツイスターなどの発明者。ハリウッドにて10th Planet柔術道場を主宰。

❶もっともテクニカルファイターっていう意味なら間違いなくアオキだな! ただしスタンドアップなど、MMAファイターとして総合的に向上させないといけない点もあるから、ベスト&タフェストということであればKID・ヤマモト。まあこの二人が日本を代表するファイターだろうな。アオキはグラップリングテクニックはMMAでベストだし、KID・ヤマモトは相手に恐怖感さえ覚えさせる攻撃的なスタイルで、スタンドアップやレスリング、柔術とどれをとってもトップクラス。オールラウンドで間違いなくベストのファイターだ。俺も彼のファンの一人だしな!❷間違いなくPRIDEはベストのショーだったな。K−1や『HERO'S』も良かった。最近だと、皆が認めるトップレベルのファイターが参戦してるDREAMかな。とくにライトウェートのトーナメントは素晴らしかったよな。こんどウェルターウェートでも開催されるって聞いてるんで、とても楽しみにしてるぜ。❸その前に、まずエリオ・グレイシーに敬意を示したい。彼の存在がなければ現在のMMAというスポーツは存在していなかった。エリオこそがMMAそのものだ。エリオの存在があり、その息子のホリオンがUFCを立ち上げたんだし、UFCもそのエリオのチルドレンの一人なんだ。

Mike Brown

マイク・ブラウン



ユライアを破りWECフェザー級王座を奪取。かつてDEEPのリングで今成正和と対戦(ブラウンの一本負け)。

❶いまだとKID・ヤマモト、アオキかな。キッドはとてもタフだし素晴らしいファイター。アオキはとてもテクニカルで自分のスタイルを持ってるからね。自分の大好きなファイターっていうことだとゲンキ・スドウ。ベストではないけど、彼はユニークなスタイルでファンを楽しませてくれるからね。彼のロボットダンスは大好きだし、ぜひまたリングに戻ってファンを喜ばせてほしいよ。❷K−1、『HERO'S』だね。ライブで何度か観てるけどベストだと思ってる。いまはその流れを汲むDREAMが好きだよ。❸J.Z.カルバン、自分のチームメイトだしね。彼はモンスターだよ! 厳しい練習を行なってるし、アグレッシブなスタイルも素晴らしい。あとはGSPがBJとの試合に勝った場合に、次の挑戦者となる予定のチアゴ・アウベス。それにヒョードル、あとはゲンキ・スドウだね(『UFC94』前日数録)。

Tom Atencio

トム・アテンシオ



『アフリクション』の副社長。長年MMA業界でカメラマンを務めていた異色の経歴の持ち主。

❶いつも言ってるんだけど、僕はKID・ヤマモトやマサトの大ファンなんだ! ほかにも日本にはいっぱい素晴らしいファイターがいるけど、とにかくアグレッシブで常に「ゴー、ゴー、ゴー!　プッシュ、プッシュ、プッシュ!」て感じで攻撃しているスタイルのKIDはフェイバリットなんだ。❷自分はPRIDEのビッグファンだったんで、『アフリクション』でもその要素を取り入れようとしてるんだ。K−1や『HERO'S』のファンでもあるから、その流れでDREAMも大好きだよ。とにかくボクシング、柔術、レスリングなどコンバットスポーツのファンなんで、どれも素晴らしいと思ってるよ。❸難しい質問だけどヒョードルだね。それにアルロフスキー。アスリートとしても優れている、だからこの二人のカードを組んだのさ。

Scott Coker

スコット・コーカー

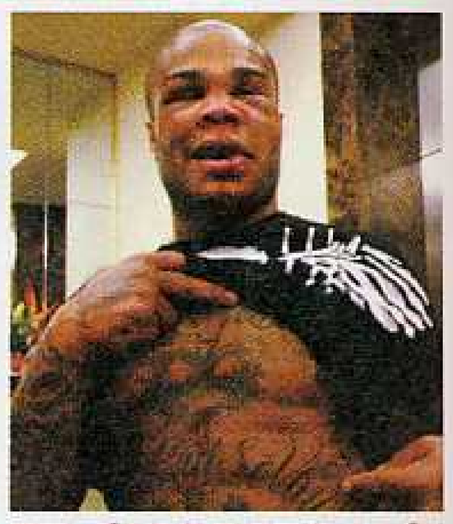


ストライクフォースのCEO。今年2月にはエリートXCの買収を発表。

❶間違いなくアオキですね。彼はMMAワールドにおいて非常にユニークな存在。ジャンプして相手に飛びついたり、観ててエキサイティング! 柔術テクニックを持ってる格闘家はたくさんいますけど、彼は別格と言っていいほど、そのテクニックを使いこなしてます。❷DREAMのプロモーションはPRIDEをスケールダウンしたものという感じはしますが、とても素晴らしいです。ただ現在、アメリカで放映されてるのはDREAMだけなんで『戦極』やパンクラス、修斗は観たことがないのでわからないんです。❸フランク・シャムロック、カン・リー、ジョシュ・トムソンにカズオ・ミサキ……。まずはストライクフォースのファイターでしょうね(笑)。もちろんランディ・クートゥアー、GSP、BJペンなどは間違いなく世界のベストファイターだと思ってます。

Gilbert Yvel

ギルバート・アイブル

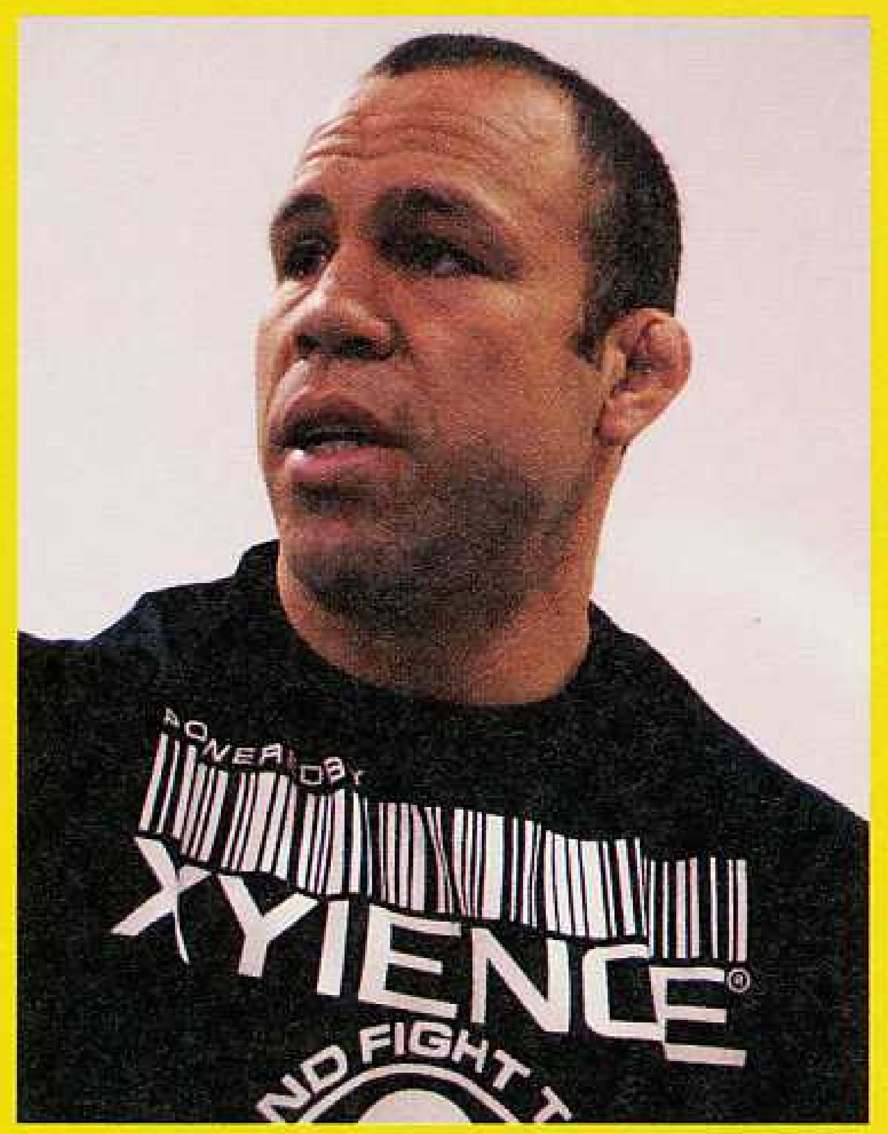


元リングス無差別級王者。1.24『アフリクション』ではジョシュにギブアップ負け。

❶難しい質問だ。最近のことは知らないんだけど、サクラバだな、PRIDEに参戦していたときに会ってるけど、素晴らしいファイターであると同時にとてもナイスガイだからな。❷ときどきテレビで観るDREAMだな。ほかのところは知らないけど素晴らしいプロモーションだぜ。❸俺だな!(笑)。俺以外なら間違いなくヒョードルだ!

Wanderlei Silva

ヴァンダレイ・シウバ

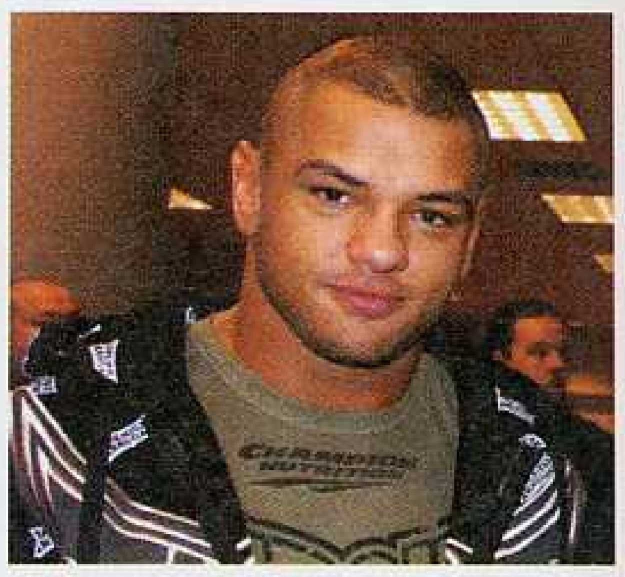


元PRIDEミドル級王者。07年よりUFCに7年半ぶりに復帰、『UFC92』ではクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンにKO負け。

❶たくさんいるけど、グラウンドだったらアオキだね。ポジショニングを含め、驚異的なテクニックを見せてくれる。KID・ヤマモトはトータル的な面で、ファイトスタイルがアメリカ向きだと思うんだ。あとヨシロウ・マエダ(前田吉朗)だね。WECでのミゲール・トーレスとの試合は素晴らしかった。キックスタイルだったらマサト、将来MMAに挑戦したらおもしろいね。❷K−1、『HERO'S』などみんな素晴らしいプロモーションだけど、PRIDEと同じスタッフで運営されて、そのイメージを引き継いでいるからDREAMかな。トップレベルのファイターが参戦して素晴らしいイベントになってるしね。❸いまはすべての階級において、最低3人はチャンピオンになる可能性があるほどファイターのレベルが拮抗してるからね、一人っていうのは難しいよ。それに、毎年新しいファイターがプロデビューしてくるから目が離せないね。これからデミアン・マイアの時代がくると思うし、ジャカレイも前回の敗戦から立ち上がってくるだろうからね。

Thiago Alves

チアゴ・アウベス



現在、UFCでマット・ヒューズ、ジョシュ・コスチェックら強豪を破り7連勝中の注目株。

❶まずはアオキだね。彼は他のファイターと、まったく異なるスタイルのファイターだからね。それにKID・ヤマモト。アグレッシブなスタイルで、小さい身体なのに存在感があるよね。カオル・ウノもオールラウンダーとして好きだよ。❷昔はPRIDEのファンだった。K-1や『HERO'S』も素晴らしいショーを行なってたね。❸それはヒョードルさ!『HE IS A MAN』だよ。すべてのチャレンジャーを倒し、最強であることを証明してるからね。



マーティ・フリードマンの J-POP的 日米比較論

ライブハウス『kamipro』へようこそ!（氷室京介調）。あの世界的バンド・メガデスの元ギタリストで、現在はその流暢な日本語と愛敬のあるキャラクター、そして"J-POPフリーク"として人気者のマーティ・フリードマンが本誌に登場!
世界各国を渡り歩いてきた親日家のロックスターが、独自の視点で日本を"メタル斬り"! 合言葉は「チョーい〜じゃん」!

聞き手／鈴木佑　撮影／菊池茂夫

（マーティが少し時間に遅れて登場）

マーティ　遅れちゃって本当にごめんなさい、今日はよろしくお願いしますね（流暢な日本語で）。

――やっぱり日本語がお上手ですね（笑）。こちらこそよろしくお願いします。僕たちは格闘技とプロレスを扱ってる雑誌の者なんですが、マーティさんは格闘技やプロレスはご覧になったことはありますか?

マーティ　観たことはあるんですけど、全然詳しくないですね。OKですか?

――まったく問題ないです！　今回は「世界の中の日本」をテーマに、親日家のマーティさんの目から見た日本のいいところを中心にお話を聞きたいんです。

マーティ　OKです、なんでも聞いてください。あ、そういえば格闘技っていえば、前に僕はK―1の武蔵選手と一緒に番組に出たことありますよ。もう終わっちゃったけどテレビ東京の『ヘビメタさん』。そこでジューダス・プリーストの『ペインキラー』を一緒にやりました、凄く楽しかった！

――武蔵選手がボーカルで絶叫してましたね（笑）。マーティさんは去年の『紅白歌合戦』に出演してましたけど、その裏で格闘技の番組が放送されてたんですよ。それに武蔵さんも出場していて。

マーティ　ワォ、偶然ですね。僕は石川さゆりさんと『天城越え』をメタル調にアレンジしてパフォーマンスしました。ちなみに武蔵さんは勝ったんですか?

――残念ながらK―1ルールでK―1ファイターじゃない選手に負けてしまいました、ロッカーのマーティさんが演歌ルールで活躍してる裏側で（笑）。


マーティ　あれま！　それは残念ですね〜。僕の中では格闘家やプロレスラーの人たちは、一般の人よりも優しいイメージがありますね。アメリカではいろんなイベントで共演したゴールドバーグさんと友だちになったんですけど、彼はもの凄い親切。試合のときは激しいけど、それ以外のところは優しいって感じ。

――意外とマーティさんもマット界とつながりがあるんですね。

マーティ　ゴールドバーグさんは、僕がメガデスにいた頃にPVに出てもらったんです。あと、僕らがWCWのテレビ番組で演奏したこともあります。爆発の演出が凄くて激しかった！　あと、ダンサーのお姉さんたちがステージに10人くらいいて、演奏してる僕たちの周りを踊ったんだけど、なんかキャバクラっぽくてやりにくかったです（笑）。プロレスはロックより派手なときがあるよね。

――とくにアメリカはそうかもしれませんね。さて、早速日本について聞いていきたいんですが、そもそも好きになったきっかけというと?

マーティ　僕が最初に日本に来たのは、カコフォニーというインディーズバンドを組んでた頃のツアーだったんですね。大阪、名古屋、川口、川崎……たしか6本くらいライブをやりました。そのとき、僕らはインディーズなのに日本のスタッフが凄いしっかりしていて、ちゃんと宣伝してくれたからライブハウスはどこも満員。音響さんも素晴らしかったから感激しました。それにファンもサインを求めてきたり、キャーキャー言ってくれて、音楽に対する熱狂が伝わってきた。ほかにもテレビに出たり取材されたり、「僕、ロックスターじゃん」って感じ（笑）。アメリカだと


世界の中の
日本を考える
日本って
なんだっけ
MARTY

日本に住むしかないと思うくらい僕はJ−POPに惚れ込んじゃった

インディーズはかなり扱いが悪いです。周りのスタッフもみんなアマチュアっぽくて、怪しい人ばっかり。僕らはそれに慣れてたんだけど、日本だとちゃんとバンドとして扱われたから嬉しかったです。

——それで日本に対して好印象を持ったんですね。

マーティ　日本だと音楽を心から楽しめるなって思いましたね。

——来日する前にも日本に対する興味はありましたか？

マーティ　ありました、それもやっぱり音楽ですね。ずっと昔、高校卒業してすぐの頃にハワイに住んでたんです。ハワイは日系人が多いから日本語のラジオ局があって、流れてくるニュースとか音楽がとてもエキゾチックだと思った。ちょうどその頃、僕はギターで何か自分の武器を身につけたかったんです。普通のギタリストは、ある程度テクニックを身につけるとジャズとかプログレとか、難しそうなクラシック音楽とかにいっちゃうんだけど、それだとロック魂が死んじゃうんですよね。長い髪の毛を切ったり、ポロシャツを着たりして見た目も変えて。

——イメチェンしちゃうわけですね。

マーティ　そうそう、全然ロックじゃない。僕は絶対その方向には行きたくなかった。それで、たまたまあるときに演歌を聞いてたら、「こぶし」が凄く感情的で、これはギターにマッチするかもって思ったんです。ジャズやプログレより演歌を学んだほうがいいと思ったから、いろいろ調べて石川さゆりさんや八代亜紀さんの「こぶし」をギターでコピーして。おかげで僕のギターは普通のギターとは違って、人間の声みたいなヴィブラートが出せるようになった。それはハワイで演歌と出会えたからなんです。

——いまやその演歌歌手と『紅白』で夢のコラボまではたして。

マーティ　とても不思議な感じ。最初は石川さゆりさんのことはよく知らなかったけど、一生懸命あの「こぶし」の効いたボーカルを細かく分析してギターで真似して……まさか同じステージに立つなんてチョー不思議だよ（笑）。

——運命的ですね（笑）。マーティさんは日本語の読み書きも得意って聞いたんですけど、どうやって上達したんですか？

マーティ　僕はJ−POPに凄い惚れ込んだんです。J−POPがやりたくてやりたくて。やりたかったら日本に住むしかないと思ったんだけど、そのためには日本語を話せないとダメだと思ったので、少しだけ勉強を頑張りました。全然、一生懸命やってないよ（笑）。たとえば、いろんな取材を通して日本語を学んだり。今日だってこの取材でまた新しい日本の言葉を覚えちゃうかもしれない。日本語は魅力的ですね。



メガデスは08年7月19日の「アフリクション」で演奏を披露! それをバックに全選手が入場するという豪華な演出が見られた。ステージの最前列ではヘビメタファンが長髪を振り回してヘッドバンギング!

FRIEDMAN

——どんなところに魅力を感じますか？

マーティ　一番のチャームポイントは漢字。漢字がなかったら、たぶん日本語に飽きてたかもしれない。漢字を読み書きができたときの達成感は凄く好きです。できてるじゃーん！　って感じ（笑）。フランス語とかドイツ語は全部アルファベットでつまらない。漢字を見ると嬉しいですね、漢字にはいろんな意味がこもってるから。

——何か四文字熟語とか好きな漢字はありますか？

マーティ　それ、よく聞かれます。じつは昨日も聞かれた（笑）。アメリカだと好きな英語はなんですか？　って誰も聞かないです。きっと日本語は美しい言葉が多いからですね。四字熟語は好きですよ、一石二鳥とか一長一短とか。チャンスがあればガツガツ使いたいです。

——あまり外国の人で四字熟語を使いこなせる人はいないでしょうからね。

マーティ　だから楽しい、もっと学びたいです。焼肉定食……あ、弱肉強食とか（笑）。楽しさが刺激ですね、だから続けたくなる。

——好奇心旺盛なんですね。マーティさんはツアーとかで日本のいろんな場所に行ったと思うんですけど、一番のお気に入りというと？

マーティ　やっぱり都会が好きです、住んでるのも新宿だし。前はロスに住んでたんだけど、ロスは意外に不便な町なんです。タクシーは捕まらないし、店は早く閉まるし。あと渋滞がひどい。日本の都会はあっという間にタクシーが捕まります、1分待つだけでも長く感じるくらい（笑）。日本の都会は何もかも便利だから好きです。あと、便利っていったらコンビニ！　僕、コンビニはチョーうるさいよ（笑）。

——何かこだわりがありそうですね（笑）。

マーティ　僕はツアーとかでいろんな国のコンビニに行くんだけど、コンビニでその国の状態を判断できます。そのコンビニがいい感じじゃなかったら、その国自体がいい感じじゃないって思う。日本のコンビニは何もかもあるから最高です。マニアックな電池もあるし、DVD−Rだけじゃなくて DVD−RWも売ってるし（笑）。お菓子も毎週新しい限定のやつが出る。普通においしいお弁当も置いてある。たとえば、デンマークのコンビニは最悪！

——え、どんな感じなんですか？

マーティ　一週間前のホットドックが置いてあったり、飼い犬が中を歩いてたり、従業員があまりいないとか。チョー微妙って感じ。

——確かに微妙ですね（笑）。そうやってマーティさんはツアーで世界中の国々を見てきたと思うんですけど、その中でどうして日本に住むことに決めたんですか？

マーティ　やっぱりJ−POPをやりたかったっていうのが一番のきっかけですね。もちろん、アメリカ人だからアメリカも大好きですよ。住むならアメリカか日

ヘタウマみたいなおいしい個性が育つのが日本の凄いところだね



本しか考えられないです、他の国はちょっと難しい。日本に住む理由の一つは、とにかく安全だから。日本だとカバンとか貴重品をスタジオに置いても取られないけど、たとえばアメリカだと身につけてないと危ないです。日本だと人を疑わなくていいのが最高に気持ちいい。

——J—POPに触れたのはツアーで来日したときですか？

マーティ　よくアメリカ人は日本でも洋楽ばっかり聴いてると思われちゃうんだけど、全然そんなことないですよ。ツアーで来たときに気づいたんだけど、その国の音楽を聴いたほうがメンバーやスタッフと盛り上がれるんです。いま流れてる音楽はなんだろうって調べるようになって、これB'zだよ、これあゆ（浜崎あゆみ）だよっていろいろわかってきて。そこからJ—POPの深さを楽しむようになりましたね。

——洋楽と比べて、J—POPの魅力ってどんなところですか？

マーティ　音楽のセンスがフレッシュでおもしろいし、なによりメロディが僕のツボにはまった（笑）。日本のボーカルはメロディをちゃんと歌います。アメリカはわざとボーカルが「私は上手」みたいな感じで、みせびらかすようにメロディから外してシャウトしたり、アレンジとかアドリブとか……フェイクが多い（笑）。日本ではいくらうまいボーカルでも、メロディはちゃんと守る。音楽を大事にするし、メリハリもちゃんと理解してる。だからJ—POPが好きです、ZARDとか平原綾香、相川七瀬さんとかね。

——女性ボーカルが好きなんですね。

マーティ　そう、それとヘタウマが大好き（笑）。アメリカだとヘタウマを説明しても理解できないです。ヘタウマと音痴ってまったく違うものですね。

——どんな違いがあるんですか？

マーティ　音痴は……クサい（笑）。たとえば音痴は、カラオケボックスでトイレ行くときにいろんな部屋の声が不協和音で聞こえてくるじゃん？　それは音痴な感じ。たとえば川嶋あい、これはヘタウマ。華原朋美やモー娘。これもヘタウマ。ヘタなんだけどキュンとくる。ヘタなんだけどじつはウマい。こういう凄い個性が育つのが日本なんです。プロデューサーが何がおいしいかを選んでアレンジしてる。僕は最近、NHKの『テレ遊びパフォー！』という番組で、高校生ギャルズバンドをプロデュースしました（企画名『マーティの女子高生バンドLA修行』）。本当はボーカルのコはうまいんだけど、ちょっと音痴に聞こえたほうがおいしいから、ヘタウマに育てました。

——ヘタウマのほうが親しみやすさがあるのかもしれないですね。

マーティ　そうそう。人それぞれ自分なりの個性を日本は凄い大事にする。もっと上手に見せようと頑張るから、その人の魅力が伝わってくる。

——たとえば日本人で、世界に通用するようなミュージシャンっています？

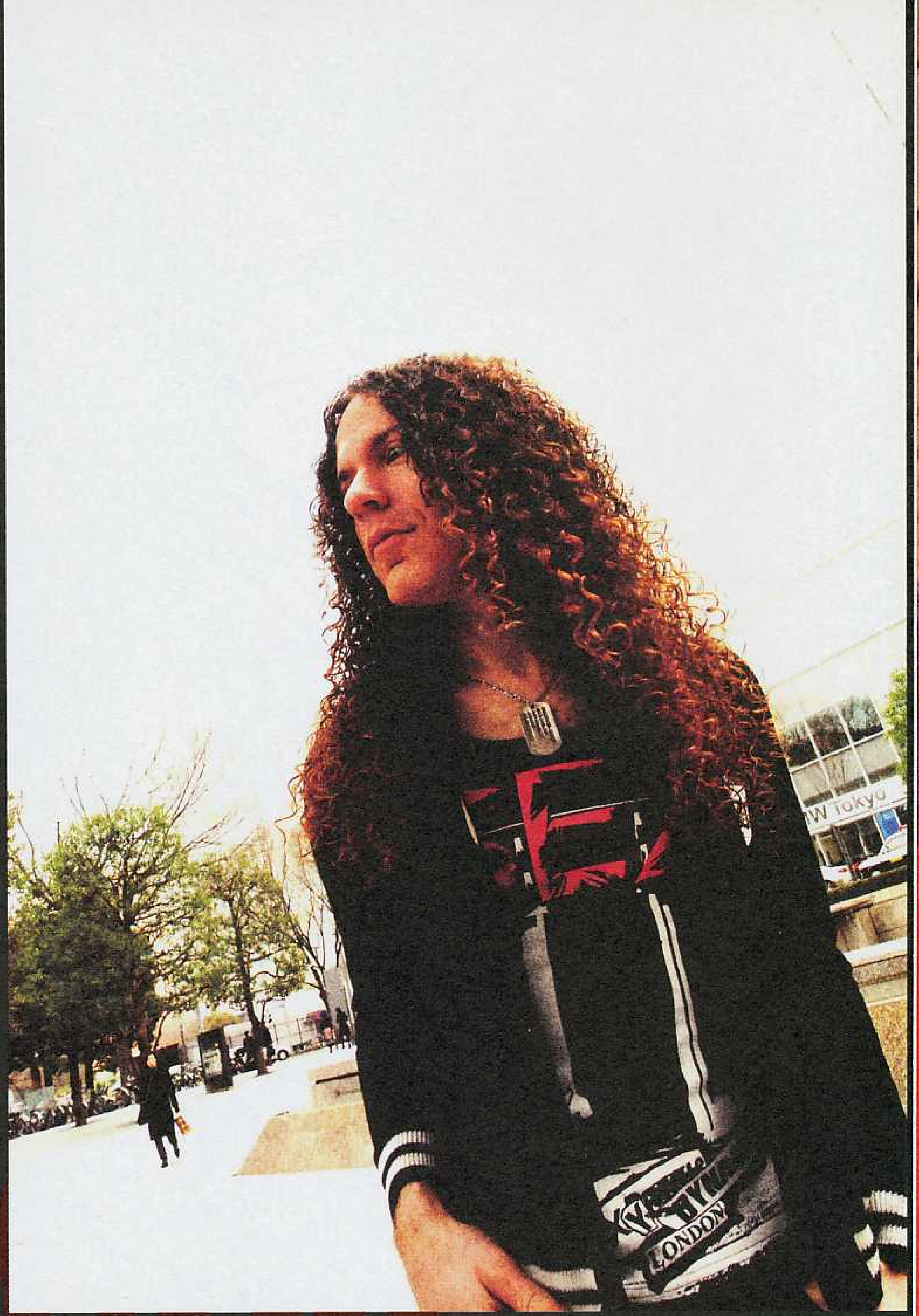
あのファイターも熱烈フリーク！メガデスと格闘技のロックな関係

メガデスはヘビメタ業界のみならず、幅広く音楽シーンに絶大な影響力を持つカリスマバンド。メタリカのオリジナルメンバー、デイブ・ムステインが誕生させたバンドである。彼らの音楽は〝インテレクチュアル・スラッシュ〟と称され、コアなメタルファンから絶大な支持を受けた。

そんなメガデスをさらに広く一般にブレイクさせたのが、90年に発売された4thアルバム『RUST IN PEACE』から加入したマーティ・フリードマンである。マーティのもたらしたメロディアスでフラッシーなサウンドは、メガデスの音楽性にキャッチーさをもたらし、全米チャートの上位の常連となるビッグバンドに成長させる。マーティは99年にメガデスを脱退したものの、バンドの黄金期を支え、メガデスの累計アルバム売上数2000万枚を超すモンスターバンドに押し上げる原動力となった。

メガデスは〝100万人の殺傷する核兵器の威力〟というバンド名とその攻撃的な音楽性からか、本文中にあるようにプロレスや格闘技と何かと縁深い関係にあるようだ。自らギターも弾き、デスメタルのボーカルまで務めてしまうほどの〝メタル狂い〟ヨアキム・ハンセンも、本誌のインタビュー時にマーティが新宿に住んでいることを知らされると、メガデス好きを熱く告白！「マーティと対談できないか？」「オマエはメガデスのどのアルバムが好きなんだ？」と、インタビュアーに怒濤の質問攻めを繰り返したのだった。ちなみに同じくメタル好きの格闘家、ジョシュ・バーネットもメガデス好きを告白。

同じ日本を主戦場としながら、日本文化やメタル好きという共通項を持つヨアキム、ジョシュとマーティの対談が実現すれば、話がはずむこと間違いなし！　ぜひいつかは実現したい対談なのである。



マーティ　僕は上手な人じゃなくて濃いキャラで話題性のありそうな、いい意味で"へん"な人がいいと思います。たとえばしょこたん（中川翔子）とか。僕がいまプロデュースしてる高校生バンドとか、前にプロデュースした北出菜奈さんとかも凄く濃い人。

――歌のうまさじゃなくて、そういうキャラの強い人のほうが可能性がある、と。

マーティ　そう、キャラ的な感じ。あとSCANDALっていう大阪の女性4人バンドは凄い完成度高いと思う。これからブレイクするかもしれないから注目してください。ワォ！　って感じだから（笑）。上手な人は日本でもアメリカでもたくさんいるから、全然話題にならないと思う。「あの人は上手だよ」「……で？」って感じ（笑）。それよりしょこたんのコスプレのほうが全然おもしろい。ああいうあとに残る味、オリジナリティが大事ですね。

――なるほど。ちょっと音楽以外のことも聞きたいんですけど、ほかに日本のカルチャーで好きなものはあります？

マーティ　漫画だと『みこすり半劇場』（笑）。

――ダハハハ！　エロギャグ漫画じゃないですか（笑）。

マーティ　たぶんこの本（本誌前号を指して）を買う人は読んでるでしょ（笑）。前に大学の講演会で生徒に聞いたら、3人しか知らなかった。若いから『東スポ』は読んでないんだと思います。でも、これ（再び本誌前号を指して）を読む人はすぐわかるでしょ（笑）。

――おそらく読者のほとんどがわかると思います（笑）。でもなんで『みこすり～』が好きなんですか？

マーティ　下ネタなんだけどわかりやすい。僕はアニメとか映画とかはそんなに興味なくて、とくにファンタジーものは理解できない場合が多い。『みこすり～』は現実的な話だからわかりやすいじゃん（笑）。

僕が好きな漫画は『みこすり半劇場』現実的でわかりやすいじゃん（笑）

――下ネタは万国共通なんですね（笑）。

マーティ　僕は単行本も全部集めてます。あとは『えの素』も好きですね。4コマ漫画みたいなショートショートがチョー好き、オチまでテンポがよくて楽しいです。

――本当に日本が大好きみたいですけど、逆に日本人のここはこうしたほうがいいというのはあります？

マーティ　何も問題ないですけど……強いて言うなら一つだけ。笑われちゃうかもしれないけど、自転車のブレーキの「キ～～～!!」って音が最悪（笑）。

――それはあまり日本は関係ないような気も（笑）。アメリカではどうなんですか？

マーティ　アメリカ人はそんなに自転車に乗らないです。でも、アメリカの自転車は普通に車道を走ってて危ないから大嫌い。自転車はエコだと思うけど、僕は自転車が世の中からなくなったら正直嬉しいかもしれない（笑）。その便利さはわかるけどね。

――それ以外は日本は理想的なんですね。

マーティ　理想的すぎます。本当に何もかも細かいところにまで気が配られてるなって思う。たとえば昨日乗った新幹線にはイスの前に小さなポケットがあって、何かと思ったらチケットホルダーでした。そういう細かいところがやるねって感じ。あと、日本はタクシーもいいです、リムジンより素晴らしい。毎日洗車するし、運転手は電話しながら走らないし、静かで丁寧で安全運転。アメリカだと、まずタクシーは汚いですから。それに運転手さんは大音量でラップミュージック聞きながら携帯で話してるし、運転も凄く乱暴。でもそれが向こうでは普通。僕は日本のタクシーが大好きだから、こっちでは運転しないくらいだよ。

――いまはもうアメリカに住むことは考えにくいですか？

マーティ　そうですね。アメリカもいいところはいっぱいありますけどね。

――日本になくてアメリカのいいところはなんですか？

マーティ　やっぱりスペースが広い。家の中を狭いとは思わないです。日本は……ね？（笑）。

――日本は小さな島国ですからね（笑）。マーティさんの中で、日本が世界に誇れるものってなんだと思いますか？

マーティ　日本は他の国の意見に耳を傾けますよね。たとえば、こうやって僕が日本についてどう思ってるか日本人は知りたいじゃん？　日本は自分の国が外国からどう思われてるか凄く知りたがる感じ。他の国だとべつに自分の国以外は知らなくてもいいって感じなんじゃないかな。とくにアメリカは他の国を意識してないです。それは凄い悲しいことだと思います。日本人は凄い勉強家で、学んで自分なりに解釈していいものを作るわけ。アメ

リカはこれで満足だしいいんじゃないって感じだから全然成長しないけど、日本は次々に新しいものが生まれる。でも、日本はいつも頑張りすぎてるから、もうちょっとリラックスしてって思うアメリカ人は多いかもしれないですね。

——日本人は働きすぎってよく言いますしね。マーティンさんは日本に住むことで、いろんなインスピレーションとか刺激を受けますか？

マーティ　僕はもともと頑張り屋タイプだけど、周りの日本人は僕より頑張ってるから、もっと頑張りたくなるね。アメリカだと僕が一番の頑張り屋。だけど、いまの僕の近くの人は僕より頑張ってる人ばかり。いい環境ですね、刺激になります。

——それは曲を作るうえで？

マーティ　もちろん。僕と一緒に音楽の仕事をする日本の人たちはチョー頑張ってるから、僕も同じレベルで頑張ろうと思います。みんな怠け者だったら、僕も怠け者になりたくなるじゃない？　なんで頑張らないといけないのって思うから。だけど、日本だとよく一晩中働いてたりするじゃん。とくに『紅白』のスタッフとか見てたら信じられないくらい働いてた。そういうのを見ると頑張りたくなる。その結果、いいものもできるわけだし、凄く達成感があります。

——マーティンさんは日本でいろんなイベントとかテレビ番組とかに出演したと思うんですが、一番印象的なものは？

マーティ　もうそれは断トツで『紅白』！

日本が世界に誇れるものといえば ジャンルレスに音楽を楽しめる『紅白』！

『紅白』は日本だけのものですね。50組以上のステージングを次から次へと、きっちりプランニングして生放送するなんて、ほかの国じゃ対応できないよ。一番近いのはアメリカの『MTVアワード』とかだけど、それは多くても7組ぐらい。しかもいつもハプニングとかばっかり（笑）。『紅白』は最後の1秒まで計算してうまくいってるでしょ。でもそれより凄いのは、音楽のパフォーマンスの幅がメチャクチャ広いこと。演歌の実力派から最近のヘタウマな人たち、それにヴィジュアル系のロックからティーンのアイドルまで何もかも入ってます。『紅白』だけですべての音楽を楽しめるっていうか、ジャンルレスって感じで個人的にチョー好きですね。

——いろんな音楽が好きなマーティさんにはうってつけの番組ですね。

マーティ　だから、『紅白』は特定の音楽ジャンルしか好きじゃない人に観てほしい番組です。ロック好きな人がヒップホップは嫌いって寂しいこと言ったりするけど、ヒップホップにもいいものは絶対あるから。食わず嫌いだとチョーもったいないから。『紅白』を観ればロックのファンでも、何かいい発見があるかもしれない。『紅白』は最高にリスペクトしてますね〜（シミジミと）。

——『紅白』は昔から知ってたんですか？

マーティ　もちろん。チョー出たいと思ってたから、2005年に初出場したときは夢みたいでした。でも、そのときは鈴木亜美ちゃんと一緒だったんだけど、完全にバックバンドだったから。去年の石川さゆりさんと出たときは、僕がアレンジした曲だったから、目立ててハッピーでした（笑）。ジャンルを越えてマッシュアップできるのも『紅白』の凄いところですね。

——とにかく豪華な感じがしますね。

マーティ　あと、今回の『紅白』に出て凄い嬉しかったのは平均視聴率が凄く高かったことです（42・1パーセント）。けっこう『紅白』はマンネリって声も聞いてたけど、僕はそれは全然感じない。何回も『紅白』白と同じスタジオでNHKの番組に出たんですけど、そのときと空気がまったく違う。毎年やってるから、みんな慣れてマンネリだと思ってるかもしれないけど、それでも新しい発見がある番組だよ。あ、日本が世界に誇れるものって『紅白』じゃん！

——日本独自の文化かもしれませんね。

マーティ　いろんな意味でそうかもしれない。小林幸子から松浦亜弥まで、若者が演歌を聴いたり、お年寄りがロックを聴いたり。ジャンルレスでなんでもありっていうのは、日本以外の国も見習ってほしいですね。アメリカでは若者は若者の音楽しか聴かない。お年寄りは絶対若者の曲聴かない。だから、お互い何もわかってないじゃん。日本では若者とカラオケ行くと、演歌の曲を必ず一回は歌います。その魂はアメリカとかにはないね。

——なんだかマーティさんの話を聞いてると、日本が凄くいい国に思えてきました（笑）。


マーティ　ホント？　外国人の話を聞いて、自分の国が好きになるなんてチョーい〜じゃん！　日本は本当にいい国だから、日本の人たちは自分の国をもっと好きになってほしいです。

——今日は楽しいお話をありがとうございました！

【09年2月5日／都内・『パークハイアット東京』にて収録】



Marty Friedman■1962年12月8日、アメリカ出身。カコフォニーなどのバンド活動を経て90年にメガデスに加入、世界中に熱狂的なファンを持つ伝説のギタリストに。メガデス脱退後は日本へ活動の拠点を移し（来日5年目）、さまざまなテレビ番組出演で、いまやお茶の間でも広くその名を知られる存在に。現在、ケータイサイトの「ポケメロ JOYSOUND」では、マーティ・フリードマンによるJ-POPギター着うたを配信中。気になるあなたは左のQRコードでアクセス！



提言特集

なぜ、ドーピングは野放しなのか

チェック機構のない日本はドーピング天国になる!!

日米のMMAで最も大きな違いは何か？　と聞かれたら、我々はなんと答えるだろうか？
ビジネス規模？　PPV件数？　イベントの演出？　ファイターの質？　それともドーピングへの取り組みだろうか？
チェック体制の有無は、試合内容に顕著に反映される。日米のドーピング文化の違いと
チェック体制の違いをもう一度見直すことで、いまこそ日本のMMAの将来を考える必要がある。

世界の中の
日本を考える
日本ってなんだっけ

世界の中の
日本を考える
日本ってなんだっけ

日米でここまで違うドーピングの現実

このままドーピングを野放しにしていいのか？

本誌で二度目のドーピング特集である。

前回はクリス・ベノワの一家心中事件がプロレス業界に暗い影を落としていた07年9月発売の『ｋａｍｉｐｒｏ』Ｎｏ・１１５だから約1年半ぶりの特集だ。

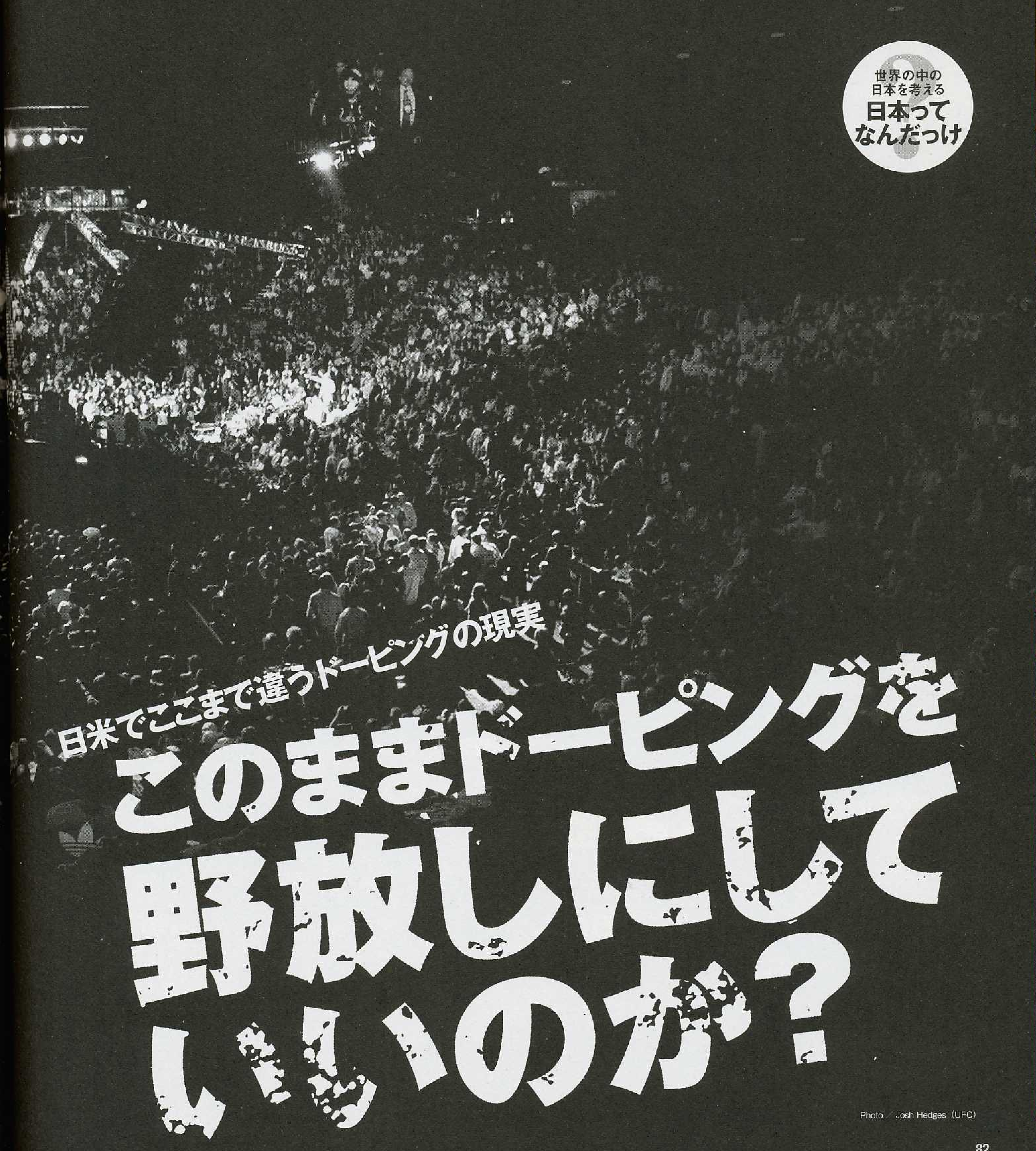
あれからアメリカでのドーピングに対する取り組みは変化があった。ＷＷＥではステロイドやドーピングの検査を強化しており、個人的な主観レベルでも08年の来日時には一部の選手を除いてかなり身体がしぼんだように感じられたものだ。

鑑賞用スポーツであるプロレスで、ステロイドを規制することにどれだけの意味があるのかと思うかもしれないが、あれだけ多くのレスラーがドーピングの副作用で死んでしまうと社会的な悪影響は限りなく大きい。多くのスポンサーを抱える巨大産業であるＷＷＥにとってレスラーのドーピング乱用は大問題。マイナスイメージを払拭するためには必要な措置だった。

ＵＦＣをはじめとするＭＭＡ業界では、従来どおり各州のアスレチックコミッションがドーピング検査を実施している。禁止薬物の使用が発覚した選手にはサスペンド（出場停止）期間が設けられ、試合に出場することができない。実際、ある選手は禁止薬物使用が発覚したもののカリフォルニア州アスレチックコミッションが設けたサスペンド期間に日本の大会に出場したため、ライセンス停止処分が検討されている。

一方、日本ではどうか？

禁止薬物の使用が発覚したという



Photo／Josh Hedges（UFC）

話は聞かない。誰かが出場停止にな

ては日本のＭＭＡ業界はおかしな方

禁止薬物の使用が発覚したとい

話は聞かない。誰かが出場停止になったという話も聞かないし、その話題自体がタブーのような扱いになっている。本文中でも再三語られているが、外国人選手からすると日本のMMA業界の検査体制はザルのようなものだという。薬物天国だそうだ。

ファンやマスコミには見えないところで、一部の選手たちは何を行なっているのか、まったく明らかになっていない。

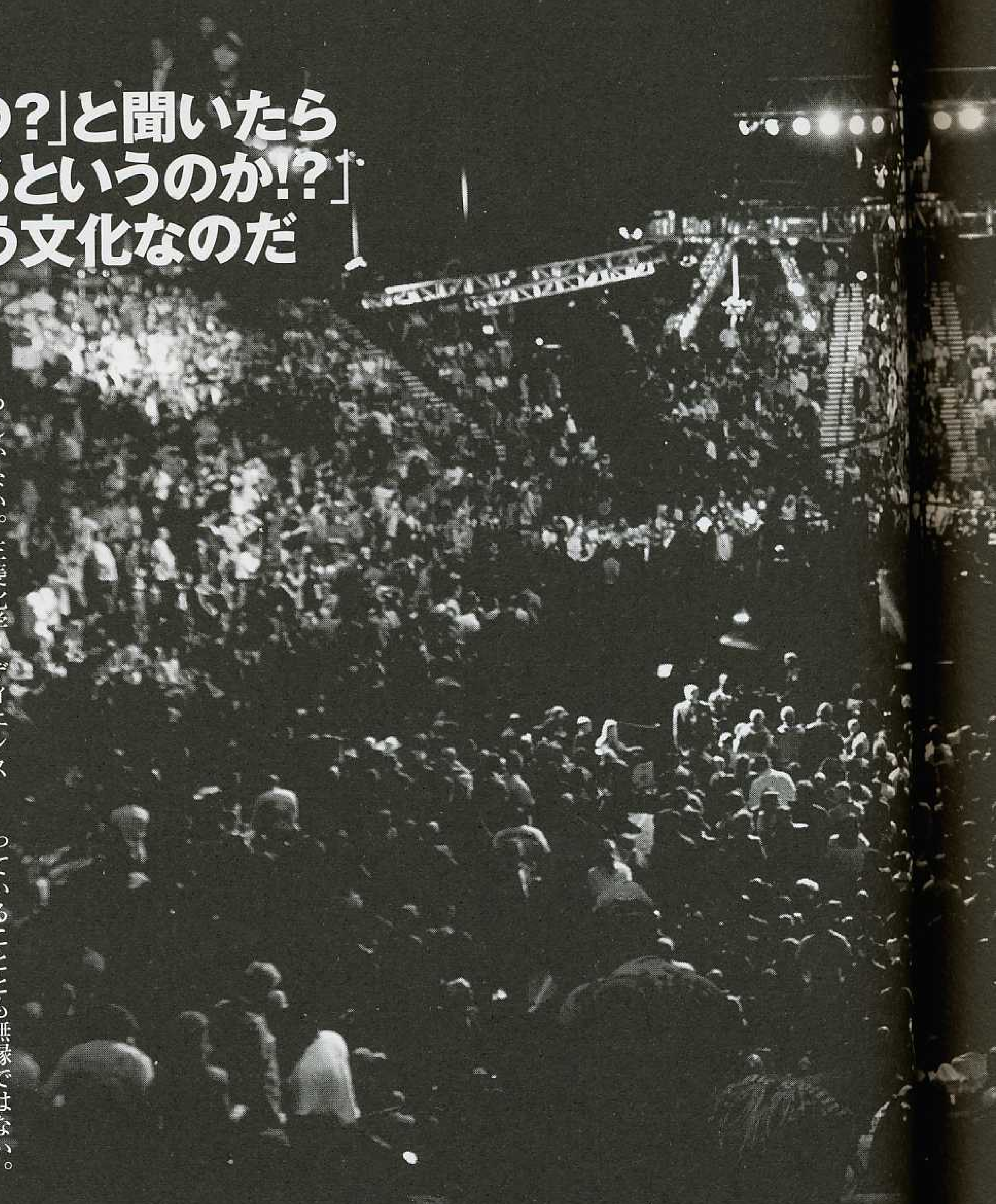
ドーピングといっても種類はさまざまだ。急激に肉体を巨大化させる筋肉増強剤、疲れや痛みを感じなくなる興奮剤、強烈な痛み止め、麻薬など。試合を有利に運ぶために選手個人だけでなく、ジムぐるみで取り組んでいるところも多いのが現実だという。

かつて日本のリングで活躍していたファイターがUFCやアメリカの団体で途端に結果が出なくなるという現実の裏には、ドーピングに対する日米のルールの違いも大きく影を落としているのではないだろうか？ 日本にいると何も情報は入ってこないが、世界の現実はどうなっているのか？ まず、我々は日米の違いを知る必要がある。

たとえルールは同じであっても、それを運用する者の違いは大きい。日本でもアメリカでも、禁止薬物は大差ないだろう。フェアで公平な条件で闘うべきだという理念も同じ。だが、何かが決定的に違う。それはチェックの違いである。

日本においてもドーピングの検査は行なわれているが、日本には筋肉増強剤を精密に検査できる機関は一

あのエディ・ブラボーに「MMAの試合はしないの?」と聞いたら「俺にマリファナをやめろというのか!?」と憤慨していた。そういう文化なのだ



つしかない。三菱化学メディエンスというWADA（世界アンチドーピング機構）が公認する機関だけ。しかも莫大な費用がかかる。

日本の格闘技団体で、そこを使用している団体はない。各団体が雇うリングドクターがチェックして、結果を団体に報告するのみだ。

アメリカの各州にあるアスレチックコミッションは完全なる第三者であり、そこに団体側が口を挟むことはない。アメリカのMMAはアスレチックコミッションの認可があって、初めて合法的に開催できる大会となるからだ。これは、アメリカではMMAがカジノで賭博の対象となっていることとも無縁ではない。

日本の団体は団体が依頼したドクターによる検査で、その後の経過報告などが公表されることはない。あくまでも団体の傘下で行なわれている検査にすぎない。

もちろん、これはドクターや団体に非があるわけではなく、日本にはアスレチックコミッションに相当する機関が存在しないことが最も大きな要因だろう。また、日本にはMMAの賭博は存在しない。

各団体とも規模縮小、経費削減の傾向にある中、莫大な費用がかかる検査には手を出せないのかもしれないが、このまま野放しの状況が続いては日本のMMA業界はおかしな方向に進んでしまう。

映画評論家の町山智宏氏が本誌126号で指摘しているように、アメリカではドーピングの使用が広く浸透している。プロスポーツ選手よりもはるかに多くの一般市民が日常的にドーピング使用しているおそるべき自由の国だ。その一方で、NYヤンキースの主砲であるA・ロッドが過去のドーピングを告白して痛烈に批判を受けたりもする。日本人では想像するのも困難なほど、凄まじい規模でアメリカという国そのものにドーピングは根を張っているのだ。

また、アメリカやヨーロッパでもマリファナなどの使用は、日本よりもハードルが低いということも理解しておく必要があるだろう。あのエディ・ブラボーにインタビューしたときも「MMAの試合はしないのか？」と聞いたら、「俺にマリファナをやめろというのか!?」と憤慨していた。そういう文化なのだ。

文化の違い、考え方の違いが、MMAでは大きな影響を及ぼす。ルールを設けたところで、それをすり抜ける方法はどんどん進化しているが、日本は蚊帳の外だ。このまま野放しにしておくと、いずれ大変な事態になってしまう可能性がある。

というわけで、今回の特集では日米のドーピングに対する取り組み方の違いを徹底的に検証してみたい。まずアメリカを通してドーピングの現実を見ることで、日本の現状を浮き彫りにするのが今回の特集の狙いだ。

（文・坂井ノブ）

Case.1

ドーピングを熟知した“トレーナーの場合”

「いくらドーピングをやっても プロの世界の トップにはなれません」



パーソナルトレーナー

和田良覚

格闘技やプロレスなど、さまざまなリングで試合を裁くかたわらで、ファイターたちのフィジカルトレーニングをサポートする指導者としての顔も持つ和田レフェリー。この肉体のエキスパートが、どんどんエスカレートしていくドーピングの最前線を徹底解説! そこには想像を絶するような実態が——?

聞き手／阿修羅チョロ

世界の中の日本を考える
日本ってなんだっけ

——今回、日本のドーピング事情をレフェリーだけではなく、トレーナーとして肉体を熟知されている和田さんにお話しいただければと思っております。

和田　正直言って非常に難しいというか、とてもナーバスな語りづらい話題ですよね（苦笑）。

——可能な範囲でかまいませんので、よろしくお願いします。

和田　了解しました。私の考えで言いますと、基本的に一番問題なのは青少年や子どもたちへの影響だと思うんですよ。昔、大リーガーである有名な選手のステロイド疑惑が持ち上がって、それを期にティーンエイジャーのステロイドの乱用が問題になったことがありましたよね。つい最近もヤンキースのアレックス・ロドリゲスが禁止薬物使用を認めたって話題になってましたけど。

——大リーグでもたびたび発覚してますよね。MVPにも輝いたことがあるホセ・カンセコ選手が引退のタイミングで「大リーガーの85パーセントはステロイド系の薬物を使用している」と語って大騒動になったこともありましたし。

和田　ですよね。そういうのを考えるとよくないわけですよ。憧れの選手がステロイド系の薬をやることによってパフォーマンスが上がるってわかれば、ティーンエイジャーって深く考えないでやるわけですよ。まだ、内臓器が未発達な状態で、成人でも副作用がバンバン出るような薬物を使ったら、子どもなんて大人以上に副作用が出ますよ。未発達な内臓器に負担をかけるわけですから。

——まあ、そうですよね。

和田　そういうのを考えるとやっぱりトレーナーとしては否定しなければいけない。ただ、反面、競技選手の気持ちとして、あるいはプロとして、そういった〝魔法の薬〟を摂取することによってパフォーマンスは確実に伸びるわけです。そして、パフォーマンスが伸びれば試合にも勝てる。そうするとお金も稼げる。そういう一面も持ってるじゃないですか？　だから選手のことを考えるとわからないでもないんですよ。

——和田さんはパーソナルトレーナーとしてたくさんの選手を指導したりしてますし、実際に選手として試合もしたことがあるだけに、ファイターの気持ちもよくわかるわけですよね。

和田　そうなんですよ。

——プロとアマチュアの違いも大きいでしょうし。

和田　アマチュアでは絶対にダメですもんね。要するにオリンピックなんかでは、僕の名前と同じの〝WADA〟っていう（笑）、そういう薬物を取り締まる厳しい機構があるんですよ。

——世界ドーピング防止機構（WADA＝World Anti-Doping Agency）ですね。

和田　そういう機関があって厳しいんですが、アマチュア最高峰の祭典であるオリンピックでさえ、実際のところいたちごっこなんですよ。毎回のようにドーピング問題でメダルを剥奪されたり、順位を落とされたりする現状があるわけじゃないですか。そういうリスクがありながらもやる人はなくならないわけですから。

——それこそ、国によってはメダルを獲ったら一生生活が保証されたりするところもあったりしますからね。

和田　そういう背景もありますよね。それが一番凄かったのが旧ソビエト連邦、東ドイツの時代ですよ。あの頃だとステ

ロイドと成長ホルモンの乱用が凄かったって聞きますから。

——具体的にはどういうことが行なわれていたんですか？

和田　20数年前にある人から聞いたのは、赤ちゃんが生まれたら、その赤ちゃんの大腿部に細い針状のものを突き刺して筋繊維を調べるわけですよ。

——それで何がわかるんですか？

和田　白筋繊維（瞬発力を発揮する筋肉）か赤筋繊維（持久力を発揮する筋肉）かで、要するに瞬発的な筋力の持ち主なのか、持久的に優れた筋力の持ち主なのかがわかるわけです。それで、生まれた時点でどういうスポーツをさせるか決めたり、あとはサラブレッドの馬と同じように優れた遺伝子を持った父親と母親に子どもを生ませたりもしてるんですよ。そこに愛があるのかどうかは僕にはわからないですけど、そこで生まれた子どもを筋繊維を見て振り分ける、と。「この子は持久的な運動。この子はパワー系、スピード系の運動」って感じで。あの時代の旧共産圏の国々はそういうこともしつつ、薬物の力も借りてよくメダルを獲ってましたよね。

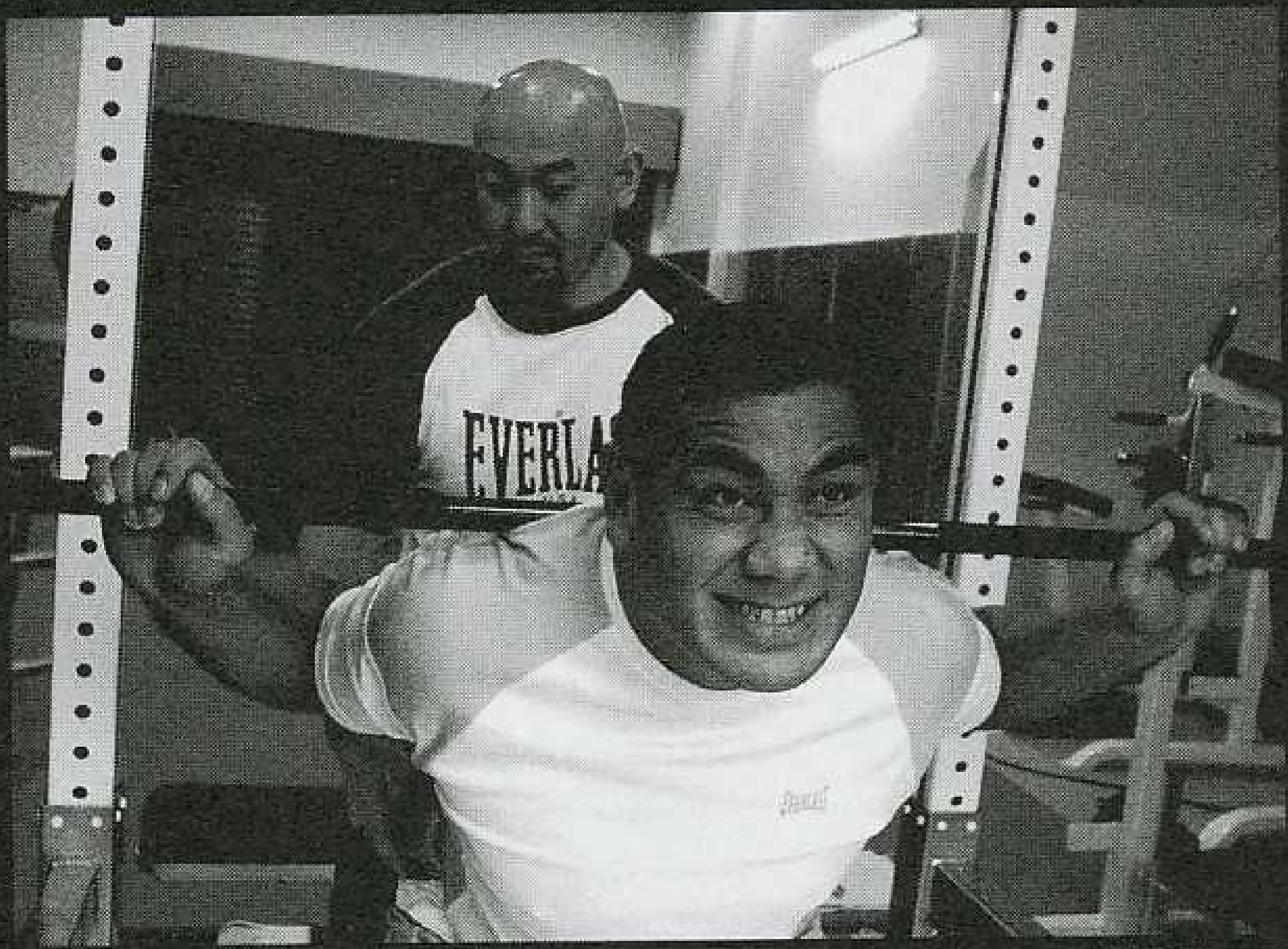
——日本は倫理観の問題もあってか、サラブレッドはもちろん、薬物を摂取してまで記録を伸ばすという発想は絶対悪のような風潮がありますよね。

和田　そうですね。よくも悪くも意識が遅れてるというか、いまはもう科学ですからね。笑っちゃうのが、何年か前にロシアでいろんな種目の金メダリストが若くしてよく死んでしまうという報道があったわけです。その死因として、ウォッカの飲みすぎで肝臓を壊してしまったからという発表がほとんどだったんですけど、そんなわけないじゃないですか！（笑）。

——確かにロシアといえばウォッカというイメージが強いですけど、金メダリストの多くがウォッカの飲みすぎで亡くなるというのは、ちょっと無理があるような（笑）。

和田　もうあきらかに筋力増強剤とかその手の影響だと思いますよ。

——ここ数年、プロレスラーでもそういった原因で早死にする選手が目立ってますし。



わだ・りょうがく■1963年2月25日、茨城県出身。1991年、UWFインター旗揚げにレフェリーとして参加。以後、キングダム、リングスで活躍。現在は多くのイベントでレフェリーとして活動すると同時に、トレーナーとして藤田和之、桜庭和志、岡見勇信をはじめさまざまな格闘家の指導経験を持つ。過去には格闘家デビューもはたした"最強レフェリー"。

和田　たくさんいますよね。そうそう、これはステロイドとは別ですけど、いまオリンピックとかで結果を出すために、国によっては女子選手だったらわざと妊娠させて堕胎して競技に挑ませたりもあるみたいですからね。

——え〜っ、そんなことまでするんですか！

和田　そのときに出る特別なホルモンがあるんですよ。パフォーマンスに有益になるような。それなんかは倫理観に反しますけど、そういう話も実際に聞いたことがありますしね。

日本はドーピングに対する知識が使用する・しない以前に乏しい人が多い

——大リーグやオリンピックだけではなく、ここ数年は格闘技界でもドーピング問題が話題になったりしてますけど、日本ではそれほどクローズアップされることはなかったような気もしますが。

和田　それはドーピング以前に、トレーニング自体も日本は凄く遅れてるんですよ。フィジカルトレーニングなんかはとくにそうだし、使用する・しないの前にドーピングに対する知識が乏しい人が多いというのは感じますよね。

——日本ではいまだに「科学よりも根性だ」なんて言う人も多いですからね（笑）。

和田　そうなんですよ。根性っていうのも大事というのはわかるんですけどね。僕らトレーナーが教えるときって、ケガをするかしないかぐらいの勝負をかけなければパフォーマンスは上がらないですから。単純なフィットネス感覚でやってただけじゃパフォーマンスなんて絶対に伸びないですしね。

——ギリギリのところを見極めて、パフォーマンスを上げるように指導するのがトレーナーの役割でもあるわけですよね。

和田　そういうことです。ただし、そこで問題になってくるのが、やっぱりステロイドなんです。それはどういうことかというと、ステロイドを摂取するとヘビーウェートを扱ってガンガン追い込まなくても軽い重量でのトレーニングで筋肉が肥大していくわけですよ。

——もちろん、摂取しただけでムキムキになるわけではないんですよね。

和田　そうなんですけど、そんなに追い込んだトレーニングをしなくても効果はあるんですよ。回復も早いし、質の高いトレーニングもできるし、それほどボリュームがあるわけでもないトレーニングでも筋肉が肥大しますから。聞いた話だと、使う人は10種類ぐらい使うらしいですからね。

——へぇ〜。でも、それこそ副作用とかなければいいことずくめというか（笑）。

和田　そこが難しいところでもあるんですけど、実際に少なからず副作用はありますからね。

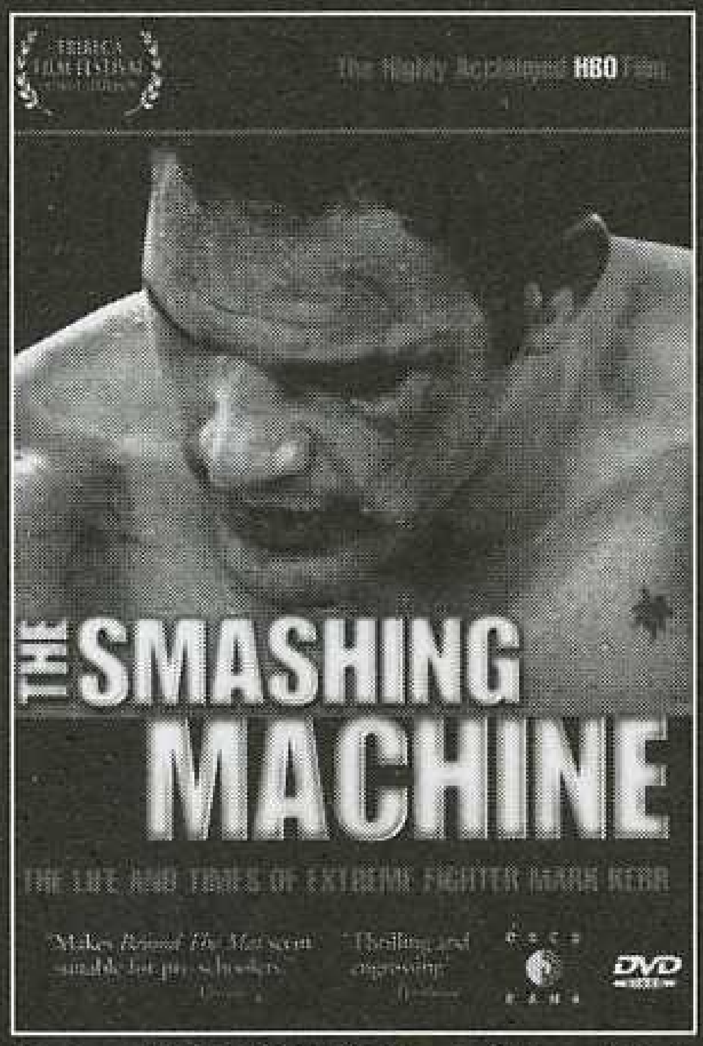
——あと、最近の格闘技界でよく耳にするのが、興奮剤を使用している選手が多いんじゃないかということなんですが。

和田　あ〜、興奮剤を使ってる人はいますよね。

——やっぱりいますか。具体的に興奮剤を使うとどのような効果があるものなんですか？

和田　格闘技的な一番の効果は痛みを感じないってことでしょう。ナチュラルな状態だったら効くようなところを興奮剤を使ってると効かないんですよ。もちろん、まったく痛みを感じないというわけではないでしょうけど、テンションが上がって間違いなく痛みは軽減されます。しかも血管を拡張するので酸素の摂取もより高くなるんです。だから持久的にも

伸びるんですよ。
—痛みにも強くなり、持久力も伸びるんだったら、格闘家だったら誰でもがやりたがるでしょうね。リスクがなければですけど（笑）。
和田　もう間違いなく効果出ますから、そりゃあ使わない手はないじゃないですか。実際に思いあたる選手っているんじゃないですか（笑）。
—○○○なんて、いかにも興奮剤を使ってそうな感じですよね（笑）。
和田　もう完璧そうじゃないですか。興奮剤に加えてステロイドを併用してやってた場合、筋肉増強してパワーアップして、興奮剤を使って痛みにも強くなるし持久力も伸びる。もう効果てきめんじゃないですか。誰とは言わないけど、チェックの厳しいアメリカの大会に出て、いままでは凄いパワーだったり、スピードやスタミナを持ってた選手が次々に負けていったりするのはそういうことも関係あるんだと思いますし。
—なんとなく想像がつきます（笑）。
和田　僕らトレーナーなんて使ってる人、使ってない人は身体かたちを見ればわかりますもん。
—やっぱりわかりますか？
和田　そりゃあ、わかりますよ！　でね、普通トレーニングをしていない人間がウエートトレーニングを始めて、いきなり体重が10キロ増えることはありますよ。そういうんじゃなくて、ある程度、身体ができあがってトレーニングも積んで練習してる人が年間、筋量でアップする体重って何キロだと思います？
—10キロとかはいかないんですか？
和田　絶対いかないですよ！　せいぜい3キロぐらいです。それが短期間に15キロや20キロだなんて、どんなもの凄い最先端のトレーニングをやったところで、筋量だけで10数キロ増えるなんてぜっったいありえないから。そんなやり方があるなら教えてほしいですよ（笑）。
—知りたいですよね（笑）。でも、格闘家でも数年のあいだに筋量だけで10キロ以上増えている選手とか実際いますよね。
和田　僕の知ってる選手で初来日のときは80キロ代だったのが、数年で110キロ以上になってる選手もいますけど、筋量だけで30キロ近く増えるなんてありえないです！　顔だって見ればわかりますからね。



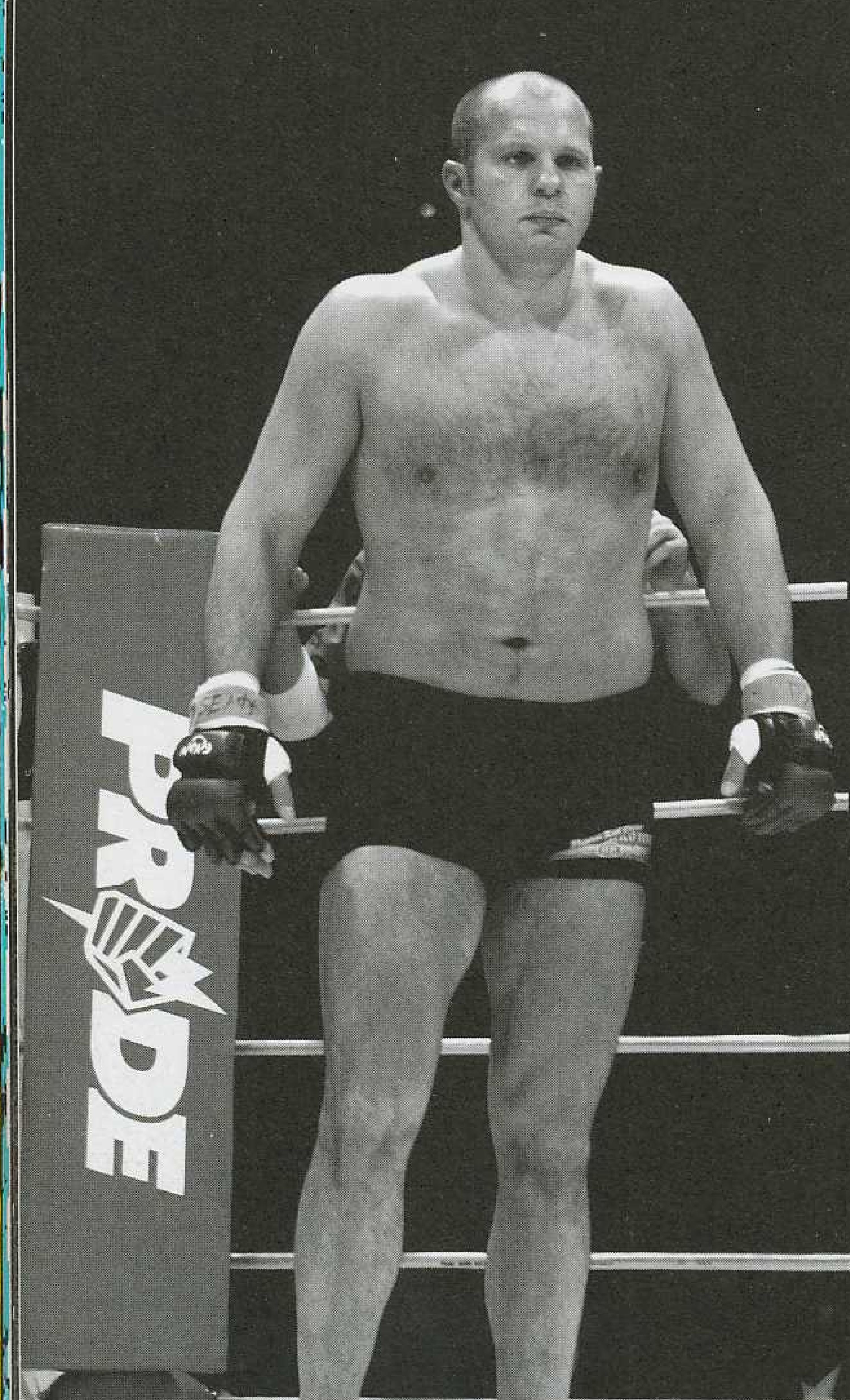
ケアーの栄光と堕落を追ったドキュメンタリー番組「The Smashing Machine」。この中ではケアーが鎮痛剤として麻薬を常用する様子、さらには薬物依存から脱するためにリハビリを行なう姿が描かれている。ちなみにナレーションはマーク・コールマン。

—ステロイドをたくさんやると顔にも出るらしいですね。
和田　そうそう。ムーンフェースって言って、のぺ～っとした顔になっちゃうんです。あとは僧坊筋（首のあたり）とか三角筋（肩）のあたりが一番見分けやすいですね。筋肉がありえないつき方しますから、すぐわかりますよ。
—またしても想像がつきました（笑）。
和田　まあでも、僕はプロとして自己責任でやるぶんにはしょうがない部分があると思ってるんですよ。だって副作用で内臓器がやられて死のうがなんだろうがすべて自己責任ですもん。僕はトレーナーとして、そこは肯定しちゃダメなんだけど、正直な気持ちで言えば、肯定も否定もできないですね。
—発覚したときには、それ相当の処分を受けるリスクもわかったうえで手を出すわけですからね。
和田　そうなんですよ。選手生命なんかホントに短いから、一瞬だけでも輝いて高収入を得るためには、なんて考えれば……、ねえ？（苦笑）。
—難しいところですよね。それこそピンキリなんでしょうけど、ステロイドの常用者はお値段的にどれぐらいかかったりするもんなんでしょうか？
和田　プロのボディビルダーなんて、ヘビーユーザーだと薬だけで年間300万～600万円、またそれ以上かけてる人もいるっていう話を聞きますね。
—うわ～、そんなにかかるんですか！
和田　それに、成長ホルモンなんかはもっと高いんですよ。もちろん、副作用ももっと強いんですけど、そのぶん、パフォーマンスも間違いなく上がりますからね。
—効果のぶんだけリスクも伴うわけですよね。
和田　でも、格闘技なんかはそれだけじゃないですけどね。ケンカと一緒で最終的には強い心が大事ですから。どんなにフィジカルや身体能力が強くても気持ちの弱い人って勝てないじゃないですか？
—ハートの部分は薬ではどうにもならない、と。
和田　ならないです！（キッパリ）。マーク・ケアーなんかはステロイドの使用を告白してましたけど、彼は一時期はステロイドと興奮剤に依存して、それがないと試合ができない状態だったっていいますからね。アメリカにある副作用専門のクリニックに通ってなんとか立ち直ったみたいですけど、一時は廃人に近いぐらいになったじゃないですか。それぐらい危険なんですよ。多量に摂取すると。
—日本なんかはトレーニング事情もそうですけど、ドーピング事情も遅れているとのことですけど、最近は日本人選手でも使っている人もけっこういるんじゃないかと言われてますよね。
和田　日本人でもいますよね。やっぱり、身体に顕著に出るんでわかるんですよ。ただ、もともと筋肉質で、「あの人使ってるんじゃない？」っていうふうに疑われる人もいるんですけどね。
—ちらりと聞いたところでは、中西学選手なんかは凄い身体をしてますけど、ナチュラルな筋肉みたいですね？
和田　そうそうそう。あと、僕がパーソナルトレーナーをやってるＤＤＴの高木三四郎選手！　彼なんかの身体を見て、みんな言うんですよ。「ステロイドやってるんじゃない？」って（笑）。
—確かに、ここ最近、凄くいい身体になったイメージはありますね。
和田　でもべつに高タンパクなモノも取ってないですし。高木さんの場合は単純に素質が凄いんです。全般的に筋繊維が凄いし、すぐに身体に出てきますもん。
—決してステロイドで作り上げた身体ではないと？（笑）。
和田　やってない、やってない。完全なナチュラル！　中にはそういう人もいるんですよ。
—あとはプロレスラーに限らず、海外で修行してた選手とかは周りの人に勧められて覚えるっていうパターンも多いみたいですね。オランダなんかはドラッグも限定的にオッケーなので、薬物に対す

Case.1 トレーナー

る罪悪感も日本に比べてないでしょうし。
和田　オランダなんかはドラッグも認められているので薬に対する抵抗は少ないんだと思いますよ。あとはブラジルとかもけっこういますね。
——プロレスラーなんかは10年以上前から海外修行帰りは身体が大きくなるっていうことも多いですけど……。
和田　ですよねぇ。でも、やっぱプロレスラーっていうのは見た目も非常に大事じゃないですか。説得力とかビジュアル的にプロの興行として「コイツは観たい！」って思わせる部分も必要だと思うし。
——身体つきだけで客が呼べるような選手って実際にいますからね。何度か来日している〇〇〇〇〇選手とか（笑）。
和田　あ〜、あれは凄いですよね。あのへんになると量も凄いと思いますよ。おそらくアメリカのトップビルダー並みに使ってるでしょうけど、肝臓はパンパンだと思いますよ。
——見るからに普通ではないですよね。
和田　それに、あそこまでムキムキになっちゃうと思うように身体も動かないし、強くはならないですから。薬を使って強くなるんならみんな使います。格闘技はさっきも言ったように、ハートの強さと格闘スキルが必要ですから。もちろん超ハードなトレーニングで培われるフィジカルの強さ、身体能力を持ってなきゃダメですけどね。ここ最近、僕らトレーナーのあいだで話すのが、昔は軽い階級は日本人がよく勝ってたけど、いまは勝てなくなってるでしょ？　WECとかでも。
——体格的にも選手層的にも軽量級は日本が強かったイメージがありましたけど、

素質のないものがいくら努力しても いくら薬を使っても王者にはなれない

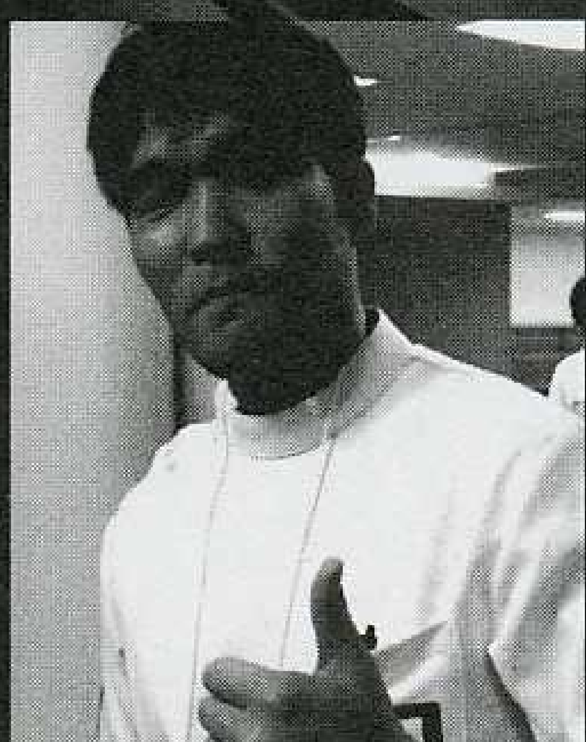

もはや地球外生物とでも言いたくなるほどの強さを誇るヒョードル。本文中にあるように、いまはドーピングをせずともヒョードル級になれるサプリメントが開発されてる!? 詳しくはこちら→http://ergogenicmax.co.jp/ppn_j/

最近は変わってきてますよね。
和田　いまは外国の軽量級の選手も凄いレベルになってきてるでしょ？　向こうでトップを張ってる選手たちが凄いなって思うのは薬を使う使わないは別としてフィジカルトレーニングを凄くやってるんです。僕が聞いた話では、BJペンなんて、ちょっと前まではスキルだけでやってたみたいですからね。
——以前はテクニックだけでも通用したけど、いまはフィジカルを鍛えないと勝てなくなってきている、と。
和田　そうなんです。でもいまはBJペンもフィジカルトレーニングの重要性を理解して凄くやってるって聞きましたもん。それに、もともと日本人と西欧人では同じ階級でもパワーは3階級違うって言いますからね。
——えっ、ナチュラルで3階級も⁉
和田　そこでまた超ハードなトレーニングをして、さらに薬なんか使われたら何階級の差が出るんだって話で（笑）。
——どうやってその差を埋めればいいんですかね。
和田　一つ言えるのは、何度も言いますけど、フィジカルっていうのはホントに大事なんです。たとえ薬を使わなくてもトレーニングのやり方次第ではなんとでもなるんですよ。その代わりもの凄くキツい思いをしないといけないけど。薬物を使わなければ強くなれないってことはないですから。そこは選手にはわかってほしいですね。あと、これも言っておきたいんですけど、ステロイドを使ったら最強になれるか？　なれないです。ステロイドを使ったら世界一足が速くなれるか？　これもなれないです。
——いくらステロイドをやったからといって、簡単にその世界のトップになれはしないってことですね。
和田　そういうことです。やっぱりアスリートのトップなんて素質がほとんどですから。素質あるヤツが努力をしてチャンピオンになるんですよ。素質のないものがいくら努力しても、いくら薬を使ってもチャンピオンにはなれないんです。それは音楽にしても芸術にしても学問にしても、みんな一緒でしょ？
——才能なんでしょうね。
和田　完璧に才能です。そう考えると、ホントにヒョードルは凄いですよ！
——ヒョードルの身体つきを見ると、ステロイドを使っているようには……。
和田　あれは絶対ナチュラルです！
——あの冷静な顔つきを見ても興奮剤を使ってるようにも思えないですし（笑）。
和田　いやいや、絶対使ってないですよ。
——でも、ヒョードルがステロイドをやったらどうなっちゃうんだっていう興味はありますけどね（笑）。
和田　もう誰もかなわなくなると思いますよ（笑）。
——ナーバスな話題にもかかわらず、いろいろと興味深い話をありがとうございました！
和田　いや〜、じつは今回のお題目のステロイドについては、トレーナー仲間であり、ドーピングせずに競技能力を極限まで高めるためのサプリメントの開発をする会社を経営している阿久津貴史にいろいろと協力してもらったんです。
——あ、そうでしたか（笑）。
和田　阿久津くん、ありがとうございました！（笑）。

【09年2月2日／都内・大森にて収録】

ドーピング規制の至近距離、“リングドクターの場合”　Case.2

「チェックをかいくぐるように新薬が発明されて“いたちごっこ”の状態です」



リングドクター

綱川慎一郎

選手を危険から守る立場にあるリングドクター。もちろん試合前にはドクターチェックを実施するが、その現場ではどのようにドーピングの検査が行なわれているのか、我々にまで届くことはほとんどない。数々のイベントや団体に携わる綱川先生が語る、至近距離からの真実とは?

世界の中の日本を考える
日本ってなんだっけ

聞き手／鈴木佑

――今日はリングドクターとして数々大会に携わっている綱川先生に、ドーピングチェックについてお話を聞きたいと思います。

綱川　よろしくお願いします。

――まず、そもそも先生がリングドクターを始めたきっかけというと?

綱川　10年以上前に中山健児先生のお付きとして、修斗に同行したのが最初になります。そのあとにZSTや『HERO'S』、プロレスだと新日本プロレスやWWEの日本公演でもリングドクターを務めました。PRIDEはエンセン井上選手が活躍してた頃から関わってましたね。そのほかにも大きな大会だと、ピンチヒッターというかたちでK-1をお手伝いすることもあります。

――そういったさまざまな国内イベントで活動されてるわけですが、ドーピングチェックというのは大会によって違いはあるんですか?

綱川　あまりマスリングという言い方は好きではないんですけど、K-1やDREAM、『Dynamite!!』あたりは、ちゃんとやっていると思います。たとえば興奮剤のような医師が通常は処方できない薬品をはじめ、試合時に使用したらあきらかに有利だろうというものを、尿検査でチェックするかたちですね。喘息のときに使う吸入薬であるベータ遮断薬のようなものに関しては、選手側が「普段こういう薬を使ってます」と事前申告していれば、基本的には使用OKになります。そうじゃないと喘息持ちの選手が出場できなくなってしまうので。

――医療目的であれば問題ない、と。

綱川　そうですね。ただ、その尿検査にしろ、チェックの際に尿のすり替えをする選手も時折いるので、必ず採尿時にはドーピング係がついて監視させるようにしています。

――そのあたりは徹底しているんですね。

綱川　やはり未然に防ぐことが重要ですから。それと、基本的に尿検査は試合直後に実施するケースが多いんですが、試合で選手が負傷して採尿できないこともあるので、一応試合前に取っておいたもので検査する場合もあります。ただ、重要なのは試合中に使ってるかどうかということなんですね。単純に試合前の尿検査のあとにドーピングする可能性もあるわけですし。

――アメリカのドーピングチェックは日本に比べて厳しいと言われてますが、具体的な違いというと?

綱川　まずアメリカ自体が、それぞれ州のアスレチックコミッションによって、チェック体制に細かい部分で違いがありますからね。逆にどこでもやっていることは、日常で服用している薬品類の事前の申告制度です。私もUFCに出場する日本人選手から、主催者側への提出書類の作成を頼まれますよ。先ほど言ったベータ遮断薬はステロイドの一種と見なされるんで、医療目的での使用だということを一筆書いてあげるんです。

――実際に現場に関わっている立場として、日本のドーピングチェックを見直す必要はあると思いますか?

綱川　私個人のドーピングチェックの捉え方としては、結局アマチュアイズムとプロフェッショナルの違いだと思うんですよ。プロなら何をやってもいいというのは少し乱暴かもしれませんが、制定されているルールの範囲内であれば、そこまで規制しなくてもいいんじゃないかと

いう思いはありますね。たとえばボディビルダーは、きれいな身体を作るためにステロイドを打つことも少なくない。これはプロレスにつながる部分だと思うんですが、要は魅せる要素もプロとして必要というか。まぁ、格闘技になると肉体美を見せることより、強さに直結させる部分のほうが重要視されると思いますが。

――実際にチェックに引っかかる選手は、日本人より外国人選手が多いような気がするんですが？

綱川　そうかもしれないですね。自分の意見としては、基礎体力の面でポテンシャルが高いのは韓国人とブラジル人なんですね。なので、やってる割合が高いのは、それ以外の国の選手になるかもしれません。ただ、ブラジルはステロイドが他国と比べると安く手に入るので、ブラジル出身で使用する選手もいるとは思いますけど。

――たとえばステロイドをやってるような選手は、単純に目で見てもわかるものなんですか？

綱川　ドーピングで使われるステロイドというのは俗に言うアナボリックステロイドになるんですが、これを使用している選手は僧帽筋が異常に発達するんですよ。僧帽筋には受容体と呼ばれるステロイドの受け皿がたくさん詰まっているので、筋肉が増強しやすいのが特徴なんです。そうすると、僧帽筋が膨れ上がってる選手はおのずとやってるんだろうなぁという目で見てしまいますね。もちろん、川尻達也選手のようにナチュラルで作り上げた選手もいますけど。

結局ドーピングはアマチュアイズムとプロフェッショナルの違いだと思います

――見た目である程度は判断できるものなんですね。そもそもステロイド自体に強さへの実用性はあるんでしょうか？

綱川　私は見せる筋肉を作るだけのものだと思いますけどね、よりプロレス向けと言いますか。パワーやスピードがUPすると思って使用する選手もいるでしょうが、結局見かけは強そうでも、耐久性などが弱くなって実用性のある筋肉にはならないし、致命的な副作用も多いです。なので、個人的には格闘技においてステロイドを使用してもいいことはないと思います。選手個人個人で判断してくださいよということですね。MMAはまだ歴史の浅い競技ですし、誕生した頃はまだドーピングのチェック体制も整備されていなかったので、その悪しき風習が残ってる部分はあるのかもしれませんね。



つなかわ・しんいちろう■1973年10月22日、福島県福山市出身。北里大学医学部卒業後、東京警察病院に入局。現在は「湘陽かしわ台病院」に勤務の傍ら、さまざまなイベントでリングドクターを務める。また、現在は引退をしているが、ZSTに出場するなど選手としても活躍した。湘陽かしわ台病院HP http://syokashi-hp.or.jp

――では、逆に強さに結びつくようなドーピングというと、具体的にはどういったものがありますか？

綱川　代表的なのは気持ちを高揚させる興奮剤ですね。身近なものでいうと、コーヒーに入ってるカフェインも興奮剤になります。その他だとモルヒネとかコデインといった麻薬には、痛みを感じさせないようにする作用がありますし。あと、ドーピングチェックで一番注意しないといけないのは、けっこう市販薬に引っかかる薬品が含まれてることが多いんですよ。結果的に陽性反応が出て、事前申告してない選手が問い詰められたりするケースもありますから。

――やはり事前申告は重要なんですね。

綱川　ちゃんとルールミーティングの際に説明して、申請用紙を渡してますからね。具体的に違反とされる薬物をこと細かに説明することはできないですが、検査する側のドクターはだいたいどこの国内イベントも顔ぶれが一緒なので、基本的に同じ検査キットを使ってます。

――検査をするうえで、外国人選手に日本のドーピングチェックはゆるいという認識はあると思いますか？

綱川　それは少しはあるかもしれません。とある選手はポカリスエットだか飲み物を尿検査の代わりに入れてきたことがありましたから（笑）。

――それはふざけすぎですね（笑）。チェックに関して一番の理想は、国内外問わずにどこも同じような条件で行なわれることだと思うんですが、そういった整備は難しいんでしょうか？

綱川　ドーピングチェックのキットって、凄く高価なんですね。なので、自分で持ち出そうにも相当な金額だから対応できませんし（笑）。もし、本当の意味でのドーピング検査をやろうと思ったら、それこそ世界アンチドーピング機構というところに提出しないといけないんですよ。検査自体も1週間くらいかかりますしね。でもドーピングというのは、北京五輪でも問題になった高圧酸素カプセル、さらには遺伝子ドーピング……突き詰めれば突き詰めるほど、チェックの抜け穴をかいくぐるような新薬が発明されますから、キリがないというか〝いたちごっこ〟になっている部分はありますね。

――禁止したら新たなドーピングが出てくるという。

綱川　新しいものもあるでしょうし、それを隠すための薬も出てくるでしょうし。現状、日本の現場で用いているチェック用のキットは救命救急型のもので、世界アンチドーピング機構で使ってるようなものは使用してないですね。

――それは、日本では主催者サイドがそこまでのチェック環境を整えていないということなんですかね。

綱川　整えていないという言い方だと悪いような印象を与えますが、ドーピングする側もプロの選手として、ここまでならいいだろうという考えのもとに個人の判断で行なっているわけですし。要するに自己責任ですよね。たとえば、貧血の人に使う

エリスポリチンという薬品があるんですね。これを打つと赤血球が増え、酸素をより多く血液中に運ぶことができてスタミナが向上する。でも、個人的にはそういったところまで検査するのは、アマチュアレベルでいいんじゃないかと思うんですよ。プロである以上、自覚を持ってそのイベントと交わした契約書に則って、使っていい薬、ダメな薬をわきまえましょうということで。選手のプロ意識に任せてるというか、契約内のことであれば問題ないんじゃないかと思います。

――たとえば外国人選手がドーピングすれすれのことをやってきたとして、そこに不平等を感じたりはしませんか?

綱川 平等ではないと思いますが、結局はそうすることで選手自身が自分の身体をむしばんでるわけですから。クリス・ベノワの事件を一つ例にとっても、あれはあきらかにステロイドの副作用のせいですし。

――ドーピングは常にリスクと隣り合わせだ、と。具体的に現場でチェックをしていて、ひと悶着あったことは?

綱川 それはありますよ。そもそも日本はステロイドの検査はしてないですが、それ以外の薬品で引っかかる選手もいますし。……具体的な名前を出せってことですか?(笑)。

――いえいえ、そこまでは(笑)。

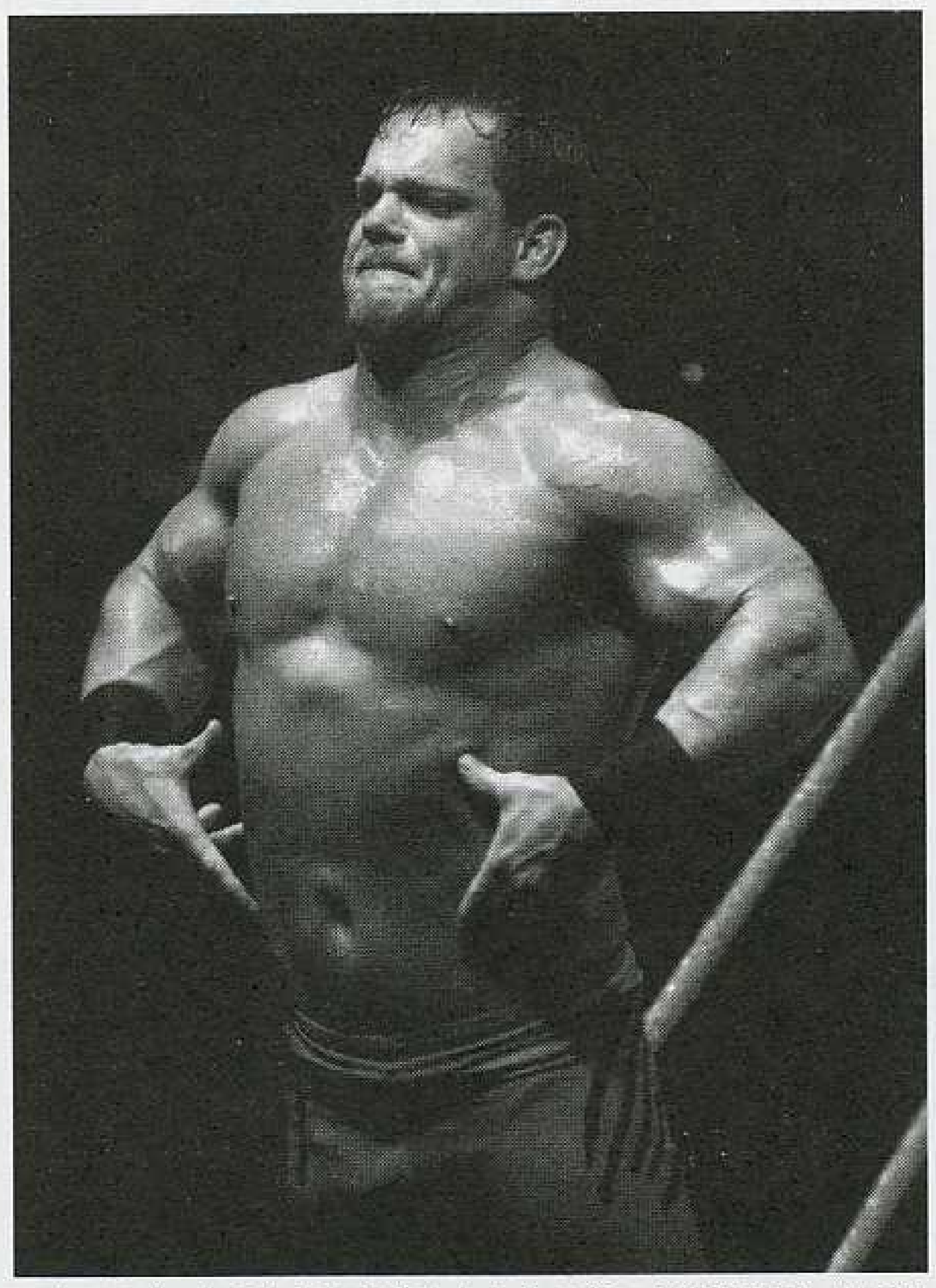
綱川 先ほども言ったように、やはり外国人選手のほうが傾向としては多いですよ。いま、日本のイベントで強かった外国人選手が他国で負けてしまうパターンが見られますが、ドーピングチェックも無関係ではないと思います。まぁ、でもやっぱり長い目で見れば、ドーピングを続けるとクリス・ベノワやエディ・ゲレロ、古い例だとエリック一家みたいになってしまいますし。こういう話をしていくと、「最強とはなんなのか?」ということにもつながりますよね。ナチュラルで最強なのか、ドーピングを用いて最強なのかという。

――確かにそうですね。

綱川 たとえば事前にすべてのドーピングチェックを終わらせて、試合をさせる。そうすればクリーンな選手同士の対決になると思いますけど、それに対してお金を払って観たい人がいるかどうかというとまた別問題なわけですし。

――たとえば、ドクター側から主催者側に、ドーピングチェックについて進言することはあるんですか?

綱川 話し合いの席ですることもあります。でもどこまで整備するかという話になると、やはり突き詰めればアマチュアイズムかプロフェッショナルかという話になりますから。プロというのは何かしらの武器を持って闘う、私はそこまでを含めて試合だと捉えてます。でも、ファンの中にはまだそういった認識じゃない人もいるかもしれませんね。



07年6月末、息子と妻を殺害したあとに首つり自殺を図ったクリス・ベノワ。検死の結果、体内から通常の10倍にあたるテストステロン(男性ホルモンの一種)が検出され、内臓だけでなく精神にも悪影響を与えたとささやかれた。

「最強とは何か?」ドーピングについて考えるとそこにもつながっていきますね

――単純に選手同士にはクリーンな状態で試合してほしいというか。

綱川 あとはやはり国柄の違いというのもあると思いますね、薬品に対する認識の差といいますか。たとえばオランダはどこでも合法で大麻が吸えるわけですしね。試合前に大麻を吸うことで気分が高揚して万能感も湧いてきて、試合で普段以上の力が出る……私はやったことないんでわかりませんが(笑)。

――僕もわかりません(笑)。少し踏み込んだ話題になりますが、現在の日本のマスイベントで、ドーピングチェックに選手が引っかかる頻度というのはどの程度なんでしょう?

綱川 ほぼないですよ。それだけドーピングに対する認識が以前に比べれば広がったということでしょうね。いい傾向だと思います。

――選手の意識レベルが上がっているんですね。先生個人としては、日本のドーピングチェックは今後どうあるべきだと思いますか?

綱川 たとえばクリス・ベノワのケースのような、そういった悲しい事件が起きないようにしてほしいですね。ステロイドでいば長期間にわたって身体に作用してしまうものですから。まぁ、とりあえず外国人が日本のイベントのドーピングチェックを甘く見ているかどうか、今度実際にUFCに行ったときに調査してきたいと思います(笑)。いま、MMAはアメリカが世界標準になってますよね、階級なんかもあっちに合わせてきてますし。

――そういう意味ではドーピングチェックの仕方もアメリカに近づく可能性もありそうですね

綱川 これはやろうと思えば不可能なことじゃないですから、お金と時間の問題なだけで。ただ、採尿以外に血液検査も入ってくるので、それを大晦日にやるとしたら……。

――試合数の多さを考えたら相当大変な作業になりそうですね(笑)。

綱川 今後はドクター側からも選手を集めて、ドーピングに関するセミナーを行なうような働きかけも必要になってくるでしょうね。いま日本でも対世界というのを見据えている選手が多いですから。そういう意味では郷野選手にしろ、ドーピングチェックに関してナーバスになってる部分はあると思います。岡見(勇信)選手もこれからUFCで王者になれる逸材だと思いますが、ナチュラルな力で勝っていってくれるでしょう。

――最後に……先生は実際に試合をやられる側でもあったわけですけど、ご自身でドーピングの類を試したいと思ったことは?(笑)。

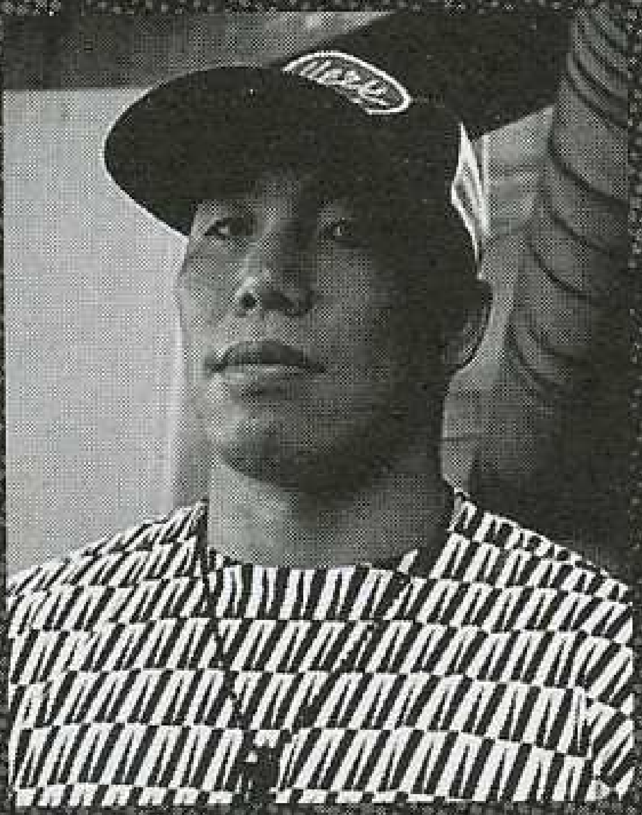
綱川 いやいや、それはないですよ。ドクターなのにステロイドで身体が大きくなったりしたら困りますんで(笑)。

【09年1月31日(土)/神奈川県・綱川先生の自宅にて収録】

Case.3

ドーピング汚染の被害を受けた“ファイターの場合”

「もっと日本も外国人を厳しくチェックしたほうがいいと思います」



ピラニアUFCファイター

長南亮

現在は海の向こう、UFCを主戦場としている長南。かつては『PRIDE武士道』で世界を相手に闘ってきたが、そこには目の前の敵以外にも“ドーピング”というもう一つの得体の知れない敵の影が—。ここでは第一線で闘うファイターの立場から日米のドーピング事情、そして“薬の力”に対する本人の見解を赤裸々に語ってもらった。

聞き手／鈴木佑　試合写真／乾晋也、Josh Hedges（UFC）

世界の中の日本を考える
日本ってなんだっけ

——長南さん、今日はドーピングについてお話を聞きたいんですよ。

長南　なんでまた俺になんですか？

——以前、日米のMMAイベントの違いについて聞いたときに「日本は外国人選手のドーピングチェックをきっちりしたほうがよかった」って言ってましたよね？

長南　あー、言ってましたね。確かにそれはいまでも思いますよ。

——そこで実際に日米両方で試合を経験している長南さんに、ドーピングをめぐる環境の違いを中心にお話ししてほしいな、と。

長南　なるほどね、わかりました。

——まず、長南さんの日本の主戦場だった『PRIDE』では、ドーピングチェックはどのように行なわれてました？

長南　いつの頃からか、試合前後の尿検査で誰かしら一緒にトイレに入ってチェックするようになりましたね。それをどこまで、どうやってチェックしてたかはわからないですけど。もしかしたらかたちだけなのかもしれないし。

——かたちだけというと？

長南　結局日本の場合、ドクターは団体が雇ってるわけですよ。ドクターはチェックの結果をイベント側に言うまでであって、それを公表するかどうかは団体の自由というか。アメリカの場合はアスレチックコミッションっていう独立した機関がチェックの結果を公表して、イベント側はそれから対応するわけですから。日本とアメリカとは根本的に仕組みが違いますよね。

——別機関が目を光らせている、と。チェックの方法自体はアメリカも日本も同じように尿検査なんですか？

長南　一緒ですよ。尿を取って、どこがチェックするかっていう違いだけで。

——長南さんは日本のドーピングチェックのどんなところに違和感を覚えたんですか？

長南　違和感というか、そもそも俺が言いたかったのは膠着状態のときの「アクション」だったり、ブレイクがどうとかルール云々騒ぐ前に、ドーピングチェックの部分もしっかりしてくれよってことなんですよね。もともと外国人とは体格差があるうえに薬まで使ってくる選手もいるのに、「結果を出せ」とか「おもしろい試合しろ」とか好き勝手言うんだったら、俺は少しでも試合条件がフェアになるようにしてほしかったです。83キロという階級で闘うにあたって、そういう面ではずっと不満がありましたよ。たとえ、なんらかのドーピングチェックがあったとしても、それはあってないようなものだったのかもしれないし。

——憤りがあったわけですね。

長南　俺が初めて『PRIDE武士道』に出たときは通常体重が82キロだったんですよ。ところが直前で契約体重86キロって。そのときは体重差を聞いてビビりましたね。真面目にステロイドやるしかないのかなとも思いましたよ。けれども、その手のことに詳しい人に「ドーピングなんか知識のないやつがやるものじゃない。やることで逆効果になる場合もあるし、わかったうえで使うのとわからないで使うのは大違いだから」って言われて。『PRIDE武士道』に出るまではドーピングせずに結果を出してきたわけだから、いまのままやっていったほうがいいのかなって思い直したんです。

——実際、UFCは日本と比べてドーピングのチェック体制はどうですか？

長南　やっぱり厳しいですよ。日本ほどやりたい放題はできないでしょうね。ただUFCでもコミッションのないエリアがあって、そういうところではやる選手もいるんじゃないですかね。

―完全にチェックされてるかたちではない、と。

長南　そうですね。でも、UFCは抜き打ち検査があるらしいんですよ。まだ自分は受けたことないですけど。だから怖くてできないという部分はあると思います。それに比べて、日本じゃ尿検査を拒否してた外国人選手もいるみたいですからね。

―そんなわがままはUFCじゃ通らないですよね（笑）。外国人選手はドーピングに対して、日本人選手と比べて抵抗ない部分はあるんですかね？

長南　そうだと思いますよ。チェックでファールにならなければOKという感覚なんでしょうね。薬の力を使って勝つことに、反則だっていう意識がないというか。けっこう有名な選手で成長ホルモンを打ってるって話を聞くこともありますし、チームぐるみでそういう薬物に取り組んでるというのを聞いたこともあります。

―チームぐるみって……凄まじい話ですね。

長南　成長ホルモンなんかは、たとえばクロールで手を2～3回かいて1回息継ぎやってた人が、7回くらい息継ぎしなくても大丈夫になるみたいですよ。実際、俺もアメリカで人から勧められたことがあるんですよ、1カ月30万円くらいかかるみたいですけど。だけど、それはドーピングチェックでは引っかからないけど、法律的には違法みたいで。

―ドーピングにもいろんな方法がありますよね。

長南　結局、どこまで規制していってもなくならないでしょうね。薬だって進化していくし、そのうち副作用がないものもできるかもしれないし。

―そうなってくると、最終的にドーピングするかどうかは選手個人の意思って感じですか？

長南　選手だけでなく、周りのトレーナーも含めてでしょう。まぁ、いまは個人的にはやりたきゃやりゃいいんじゃないの程度に思ってますけどね。俺が勝った相手の中でやってた選手がいるかもしれないですけど、それは結果的には勝ってるわけだし。要は薬というのは勝負の一つの要素であって、使用する選手にはその時点で気持ちでは勝ってると自分は思っ


ちょうなん・りょう■1976年10月8日、山形県鶴岡市出身。01年、DEEPにてプロデビュー。06年2月には桜井隆多を下しDEEPミドル級王者に(07年12月返上)。『PRIDE武士道』での活躍を経て、07年11月の『UFC78』でオクタゴンデビュー。写真は本文中に登場するアルメイダ戦（04年5月23日）。175cm、77kg。

外国ではチームぐるみで薬物に取り組んでるっていう話も聞きました

てますよ。ただ、やっぱりいま振り返ってもPRIDEはあんまりだったなって。外国人選手にしてみれば、日本で闘うならこれが使える、あれが使えるってなっちゃってたんじゃないかって思います。

―選手レベルで主催者側に意見したりということは？

長南　それはできないですよ。野球とかと違って選手会があるわけでもないし。それに規制を厳しくすると、選手側に「もう出ない、ほかのイベントに行く」って言われることを、主催者側が恐れてる部分もあるんじゃないですかね。

―なるほど。長南さんにとってはUFCのチェックシステムが理想的ですか？

長南　そうですね。でも、さっき言ったみたいに、UFCでも地方だとアスレチックコミッションがないエリアもありますけどね。

―そのときはUFC独自のチェックで？

長南　どこまでやってるかどうかはわからないですね。だからラッキーと思ってる選手もいるだろうし。イギリスとか他の国で大会やるときも、たぶんそんな感じなんじゃないですかね。俺が試合したアトランタもコミッションがないエリアでしたし。

―ドーピングをした選手と闘うとなると大きなハンディになりますよね。

長南　いまはそこまでもないのかなって思い始めてますよ。結局は薬を使っても、練習してなかったら全然効果が出ないわけですし。ただ、やっぱりステロイドや成長ホルモンとかを使いすぎると、副作用が頭にきちゃうっていうのがあるみたいですね。

―頭にくるのは怖いですね。ここだけの話、日本人選手でドーピングしてるって噂は聞いたことありますか？

長南　俺の周りではいないですね。聞いたことないです。俺も使わなくてもやっていけてるから必要性はないと思うし。そういえば、ある外国のジムに出稽古に行った選手が、いきなりケツに注射打たれて身体中にジンマシンが出たって話は聞いたことありますね。

―日本じゃありえない話ですね（笑）。ドーピングの薬品が身体に合う合わないという体質的な問題もありますよね。

長南　ドーピングが成功したときと失敗したときのことを考えると、怖い面もありますよ。エルメス・フランカみたいに失敗する選手もいますから。

―いま日本はDREAMと『戦極』という2大イベントがありますが、PRIDEと比べてチェック体制は変わったと思いますか？

長南　たぶんそんなに変わってないんじゃないですか？　俺は出たことないんでわからないですけど、まだ外国人選手がやりたい放題っていう可能性はありますよね。

―日本も今後、UFCにならってドーピングのチェック体制が改善されると思

個人的にドーピングは自分の精神をちゃんと保てなくなるからダメですね

いますか?

長南　いや　されないでしょ。そもそもちゃんとしたコミッションがないわけだし。それにドーピングチェックを厳しくするとイベントがつまらなくなるんですよ。たとえば、●●●●・●●●●とか、あきらかにドーピングやってそうなんだけどファンからは人気選手だし、それが次出れませんってなったら、興行的に痛手になりますよね。そういうのをいちいち排除していったら、大会が成り立たなくなってきますよ。

―競技と興行の話になってきますね。

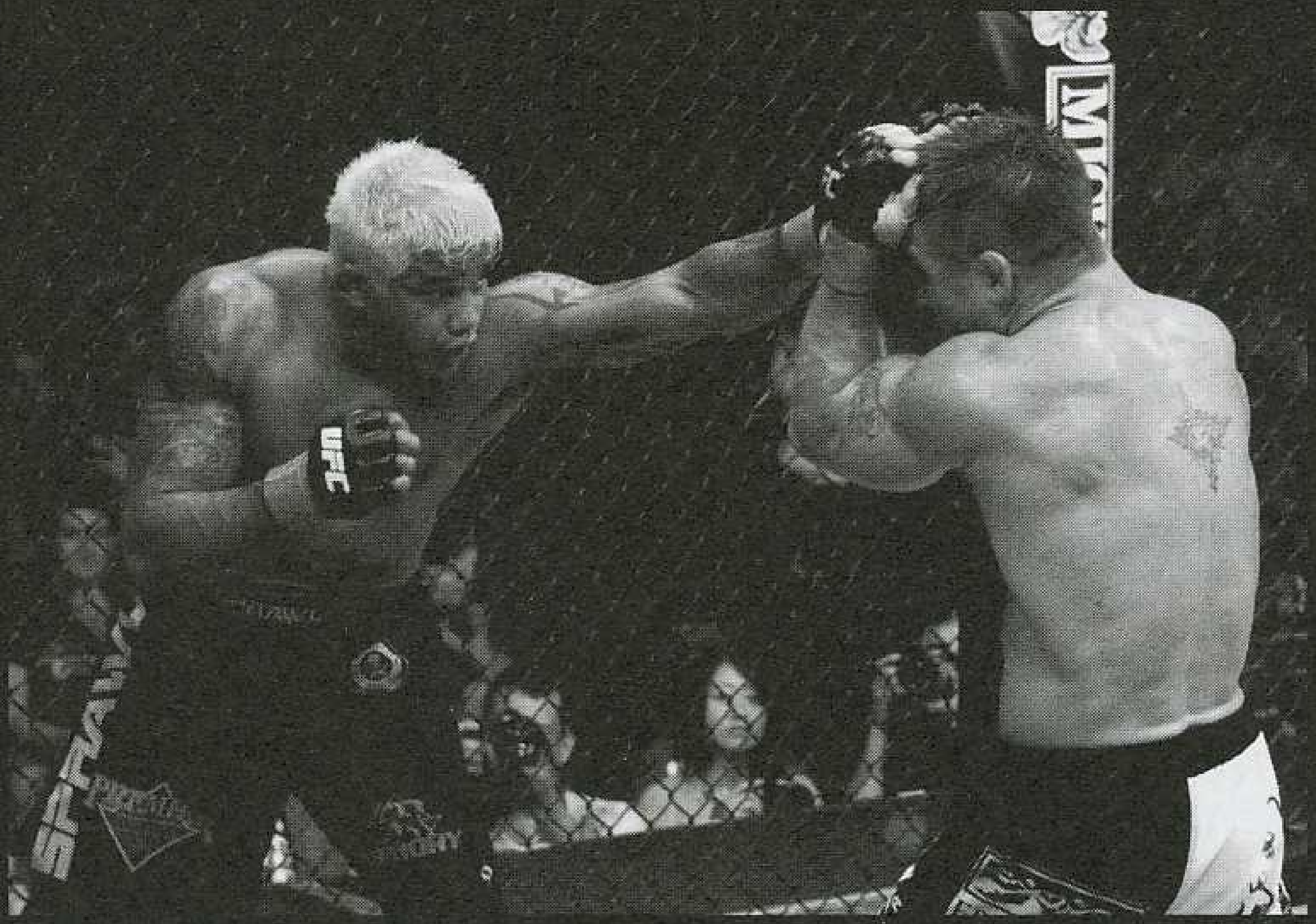
長南　だから、プロ競技っていうのはそういう成り立ちだから、ドーピングも仕方ないのかなという部分もあるんですよね。ルールで規制していくと、どんどん出れない選手も出てくるだろうし。競技に寄れば寄るほどコアなファンは喜んでも、現実的にはミーハーなファンのほうがいっぱいいるわけだから、TVで見せるにも全然盛り上がらないだろうし。ある種、しょうがないといえばしょうがないでしょうね。

―ドーピングチェックの体制は、日本を取り巻くMMAイベントの環境によるところが大きいというか。

長南　だから日本で凄い強かった選手が、アメリカに行ったら弱くなるっていうパターンもありますよね。身体つきも変わったりして。そういうのを見るとなんかむなしいですよね。所詮、薬がないと勝てないのかなって。

―長南さんもいつか日本に戻って試合することもあると思いますが、そのときに日本のドーピングチェックの環境は気になりますか?

長南　もともと俺はそういう環境で闘ってきたし、べつにいいんじゃないかって気持ちもありますけどね。ただ、やっぱり結果を求めてくるんだったら、外国人とかに対してちゃんとやってほしいっていうのはありますね。裏話でいくと、●●●・●●●●とかはステロイド以外の違法薬物反応が出たっていう話ですよ。興奮剤も多くて、●●●●・●●●●とかも●●●とか打ってるって話ですからね。



『UFC73』でのタイトルマッチでは王者ショーン・シャークと挑戦者エルメス・フランカがともにドーピングチェックに引っかかるという前代未聞の事態が発生。フランカは経済的な事情から試合を断れず、ステロイドを摂取したことを告白。

―う～ん、生々しいですね(笑)。

長南　いま、大相撲でマリファナが騒がれてるじゃないですか?　日本だと重罪ですけど、アメリカだとやってる選手も少なくはないですからね。

―ぶっちゃけ、長南さんも現地で勧められたりしましたか?

長南　マリファナはありましたね。ただ、俺は嫌いなんですよ(キッパリ)。酒よりも身体にいいぞって勧められるんですけどね。でも、酒は飲めば二日酔いとかでダメージが自分に残りますけど、マリファナって残らないからどんどん馬鹿みたいになっていくんです。中毒性はないって言われてますけど、ほんとに中毒みたいになってるやつもいるし。文化的に日本と違うから、アメリカだとマリファナはライフスタイルの一部っていう人もいますからね。

―やっぱりお国柄の違いは大きそうですね。

長南　さっきの成長ホルモンもそうだけど、自分の精神をちゃんと保てなくなるっていうのが俺はダメですね。俺も酒で酔っぱらって記憶がなくなるっていうのはありますけど、それにしたって次の日には反省するわけだし。興奮剤もそうですけど、精神に関わってくるものは自分が壊れちゃいそうで俺は抵抗がありますね。

―使ってたり使ってるとされる選手を見て、こうはなりたくないっていう?

長南　マリファナはあきらかにおかしくなってるよっていう選手もいましたからね。ただ、結局は自分の判断ですから。極端なことを言えば、ドーピングをすることが、いまだにいいことなのか悪いことなのかはよくわからないですよ。オリンピックでタイトル獲ってる選手でも、やっぱり薬を使ってる選手はいるわけじゃないですか?

―ドーピングチェックでメダル剥奪とか、ある種オリンピックの恒例みたいになってますもんね。でも、チェックで引っかからなければ栄光が勝ち取れるかもしれない。

長南　それも嘘の栄光というわけではないと思いますよ。というのは、いくら薬使ったってちゃんと練習してなければ強くなれないわけだし。ただ、日本だったら薬が使えるとかそういう認識はイヤですよね、日本人としてはなめられてる気がして。

―もし長南選手がいずれ指導する側になったときに、後輩にドーピングについてどう認識させたいですか?

長南　なくても闘えるぞっていうのを教えていきたいですね。もし必要とする選手がいたら、そんな金を使って頭ぶっ壊してまでリスクを負う必要はないって、自分の経験を踏まえたうえで伝えたいです。普通に練習してればカバーできることなんで。でもやめろとは言わないですね、自分で判断しろって言うと思います。

―よく考えればわかることだ、と。

長南　全部責任は自分にくるんだってことですよ。もしチェックで引っかかったりしたら、一緒に勝ちを喜んでた自分の仲間たち、ファンはどうするんだって話で。ドーピングはそこまでのリスクをかけるもんなのかなっていうのはありますね。

―わかりました。今日はありがとうございました。

ースもありますね。

ん、その選手がネバダ州に戻って試合を

レチックコミッションのような中立的な

う解決していくべきだと思いますか？

Case.4

ドーピング規制の最先端、“アメリカの場合”

「検査をしないプロモーターには、バッドイメージがつきます」



アメリカMMA“法の番人”ネバダ州アスレチックコミッション
エグゼクティブディレクター

キース・カイザー

世界の中の日本を考える
日本ってなんだっけ

MMAビジネスのトップランナーであり、ドーピング検査の先進国といえば、やっぱりアメリカ。本場で競技を管轄する“法の番人”ネバダ州アスレチックコミッションのキース・カイザー氏にアメリカのリアルな現状を直撃!!

聞き手　石井史彦　大会撮影　乾晋也

——カイザーさん、我々は日本の『kamipro』という雑誌なんですが、今日はよろしくお願いします。

カイザー　オーケー。遠くから、ご苦労さまです（笑）。

——さっそくですが、ネバダ州で格闘技大会を管轄される側として、ドーピング問題はどうお考えですか？

カイザー　ご存知のように、すべてのスポーツにおいてドーピングは、“やった側”にアンフェアなアドバンテージを与えてしまうものですよね。

——ええ。オリンピック競技に象徴されるように、どのスポーツでも大きな問題になってます。

カイザー　イエス。ただ、陸上の選手がドーピングした場合には、単純にその選手が早く走れたり、高く飛べたり……という個人的な効果だけですみますけど、お互いにダメージを与え合うMMAでは、ドーピングをしている選手が相手に深刻なダメージを与える危険性があります。ドーピング効果で相手の頭部を通常より強く殴ると、相手への脳のダメージだけでなく、死に至るケースもありますから。

——MMAのドーピング違反は人の生死に関わってくる問題なんですね。

カイザー　ですから、MMAは陸上競技などより、厳しく徹底した検査をしなければいけないし、「するべきだ」と思ってます。もちろんドーピングをする選手自身も、身体に悪い影響を受けますから。

——薬物で一番危険なものは？

カイザー　筆頭はステロイドでしょう。打ち続ければ、身体に深刻な問題が起きる可能性があり、死に至る場合も多いので、とくに入念な検査を行なっています。

——実際のドーピング検査はどのような手順で行なわれますか？　尿検査や血液検査も行なわれると思いますが。

カイザー　尿検査は試合開催日の前日、そして試合後にも検査を行なっています。それに、試合のない練習期間でも突発的に尿検査を行なうこともあるんですよ。

——つまり抜き打ち検査ですか？

カイザー　イエス。ただ、これはドーピングをしている選手を洗い出すためではなく、「ドーピングはしてはいけないんだ」と徹底して教育するためにやってるんです。

——選手はいつ何時も気が抜けない、と。そのドーピング検査は選手がアメリカのMMAライセンスを取得する際にも行なわれているんでしょうか？

カイザー　もちろんライセンス取得時も検査を行なう場合はあります。とくに過去にドーピングで問題を抱えた選手は、申請時に慎重に検査を行なったあとでライセンスを発行しますし、過去に問題がなかったファイターでも、ドーピング検査を要求する場合があります。

——一般的に「ドーピング検査は大きな費用がかかる」と言われていますけど、費用は誰が負担しているんですか？

カイザー　試合当日の検査に関しては、大会のプロモーターが支払います。そのほかの場合は、競技のコミッショナー側が支払うシステムになってますね。

——プロモーターは当然ですけど、コミッショナーも支払ってましたか。

カイザー　なぜなら、まだプロモーターと契約していなかったり、試合が決まってないファイターもいますよね。その際はコミッショナー側が費用を負担することになります。ただし、過去に検査で陽性が出て、罰則を受けた選手は、ファイター自身が費用を負担しなければならないケ

日本の検査にとやかく言えませんが、ステロイド検査だけは徹底してほしい

ースもありますね。

――ステロイド以外では具体的にどんな薬物が禁止されてるんでしょう。

カイザー　たとえば麻酔薬の一つであるケタミンは心臓に与える影響が大きいために禁止しています。あとは利尿剤を使って、尿検査で陽性が出ないようにするケースもありますし、減量に使う薬物も禁止されています。これらのドラッグを使った場合、試合中に脱水症状を起こしたり、死亡するケースもあるので、危険な薬物の一切を禁止してます。それ以外も我々が禁止している薬物はたくさんありますし、完全にリスト化されているので、MMAファイターはそのすべてを把握し、理解していなくてはなりません。

――検査に引っかかった選手は、どんな罰則が待ってるんでしょう？

カイザー　ファイトマネーの30パーセント前後の罰金が科せられるのが一般的です。マリファナの陽性反応が出た場合は、6カ月間のライセンス停止処分。ステロイドに関しては9カ月から1年間のライセンス停止となってます。

――ただ、ドーピング検査に引っかかった選手が、ライセンス停止期間中にネバダ州アスレチックコミッションの管轄外である地域、日本やヨーロッパで試合をすることもありますけど。

カイザー　確かにそういうケースもありますが、基本的にネバダ州以外、もしくは国外の活動に関しては、我々はなるべく関与しないようにしてるんです。もちろん、その選手がネバダ州に戻って試合をする場合は、再テストが必要ですし、それ相応の厳しい検査が待ってますよ（笑）。

――一筋縄ではいきませんか。ただ、アスレチックコミッションのような中立的な機関が存在しない日本では、すべての検査を主催者が行なわなければならず、費用もすべて負担しなければいけないので、ドーピング検査が徹底されにくい状況があるんです。

カイザー　我々がとやかく言うことはできないですが、ドーピングは〝やった側〟にアンフェアなアドバンテージが与えられますから。最低限、ステロイドの検査は徹底してほしいですね。

――確かに日本では突如、身体が大きくなる選手も見受けられますからね。アスレチックコミッションのような中立的な検査機関が存在しない他国のMMA文化をどう思いますか？

カイザー　現在、オリンピック競技は、世界中どこでもドーピング検査は行なわれていますよね。MMAも成長過程にあるスポーツなので、今後は世界に検査の重要性が広まっていくでしょう。ドーピングはイコール勝敗に関わることであり、勝敗に関わることはイコール選手のファイトマネーや選手生命に関わることです。

だから、今後はドーピング検査がキチンと実地されていない地域に対して、クリーンな選手は慎重になるでしょうし、試合を行なわない場合もあるでしょう。

――ドーピング検査の有無や、検査の質によって、優秀なファイターが出場を敬遠するケースも出てくる、と。まさに悪循環ですね。

カイザー　だからこそドーピング検査は徹底してほしいと思います。残念ながら、アメリカ国内ではいまでも薬物を使用している選手はいます。でも、検査の回数が飛躍的に増えているので、使用する選手はずいぶん減少してきているんですよ。07年は7人の陽性反応者が出ましたけど、08年は倍以上の検査を行なっているにもかかわらず、該当者は3～4人にまで減りましたから。

――今後、ドーピング問題は世界的にどう解決していくべきだと思いますか？

カイザー　我々は「ドーピングがどれだけ身体に悪影響を与えるか？」「どういった薬物が禁止となってるか」をファイターにキッチリ教育し、広めていくことに尽力してます。ただ、本当ならば、ドーピング検査はプロモーターがやるべきことなんですよ。

――本来は、プロモーターが率先して行なうべきことでしょうね。

カイザー　だから、検査を行なわない大会には、プロモーター自身にバッドイメージがついてしまいます。たとえば、世界的な自転車競技であるツール・ド・フランスではいち選手でも薬物を使用した場合、そのチームの全選手が失格という厳罰になります。そういう徹底した教育を競技者にしていくのも、本来はプロモーターの責任なんです。

――過去、アントニオ・シウバやジョシュ・バーネットのように、ドーピングの陽性が出ても「使用していない」と、無実をアピールする選手がいますよね。実際に検査のミス、間違いはありえるんでしょうか？

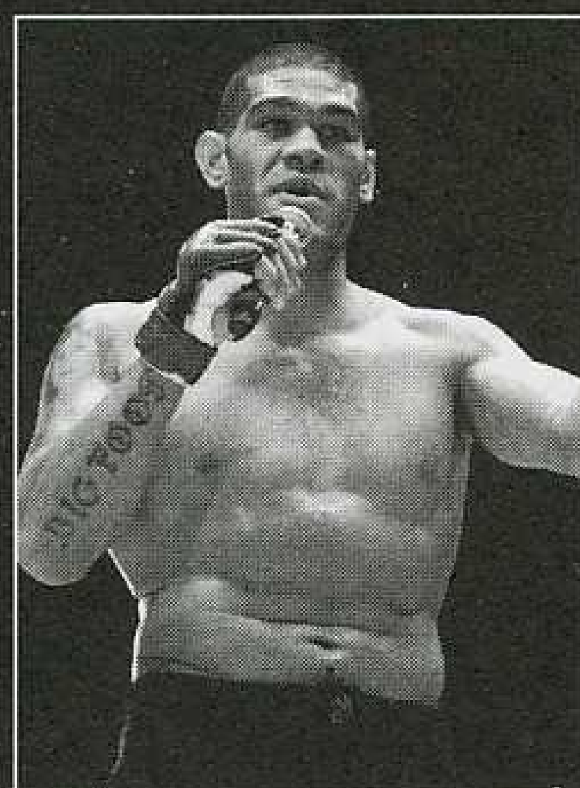
カイザー　申し訳ありませんが、その選手たちに対してはノーコメントですね。ただ、確かに選手がうっかり風邪薬のつもりで飲んでも、反応が出てしまう場合はあります。しかし、そういった陽性反応が出た場合はしっかり再検査を行なっています。現在のシステムにおいて、再検査でも再び同じ結果が場合、「違反は間違いない」と言っていいでしょう。

――念には念を入れている、と。貴重なお話、ありがとうございました！

【09年1月28日／ネバダ州アスレチックコミッション事務所にて収録】

ドーピング検査、陽性反応の罰則例

アントニオ・シウバの場合



08年7月26日、エリートXCのジャスティン・エイラーズと対戦。試合後にカリフォルニア州アスレチックコミッションの検査でステロイド陽性反応を検出。1年間出場停止と2,500ドルの罰金処分に。だが今年1月4日には、カリフォルニア州管轄外の日本で『戦極の乱』に参戦。これに対し、同コミッションは「ライセンス失効の可能性がある」と警告するも、シウバは出場を強行。今後の動向が注目される。

ティム・シルビアの場合

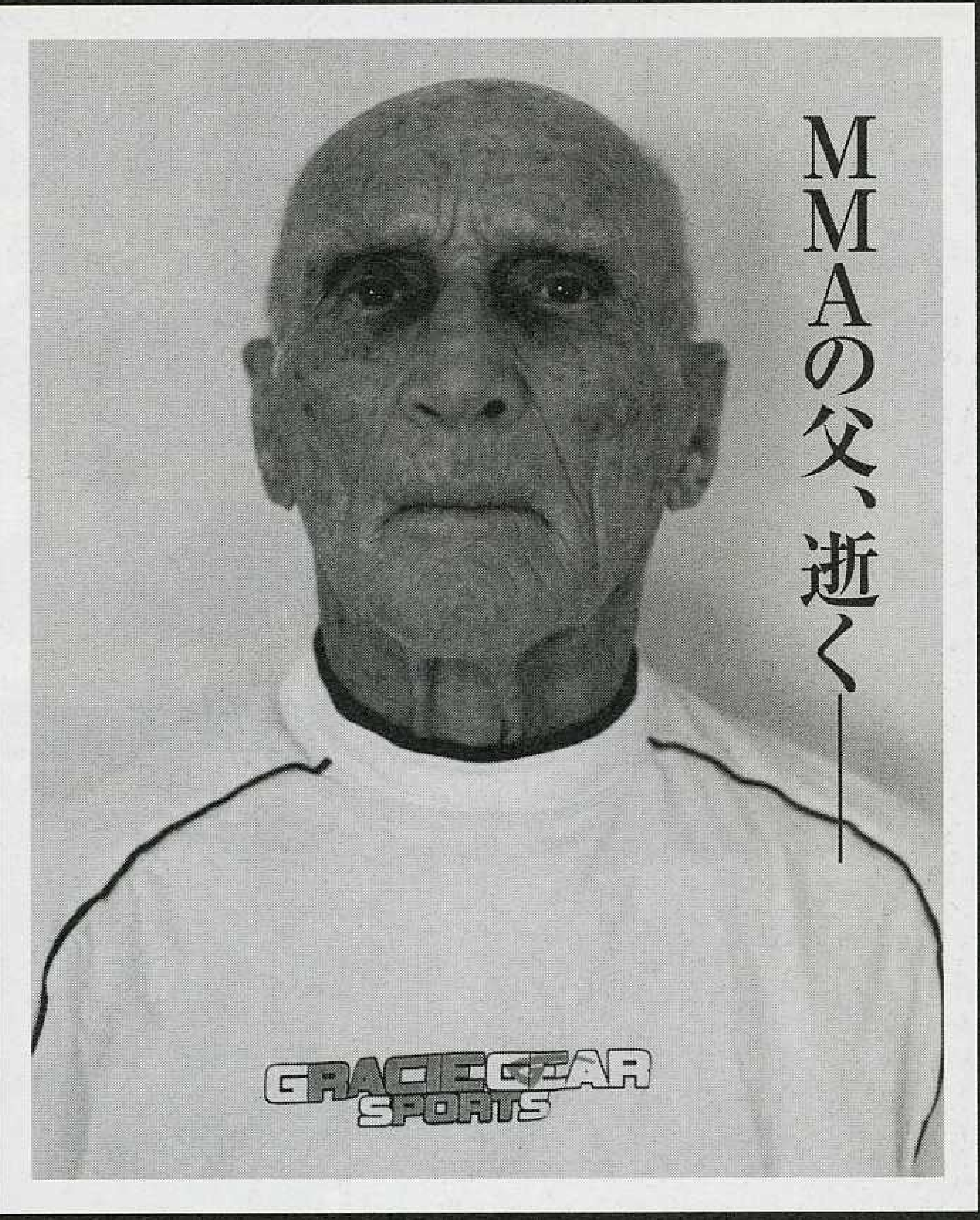
03年9月26日、『UFC44』でガン・マッギーにKO勝利。試合後の検査でステロイドの陽性反応を検出。4ヶ月間の出場停止と7,500ドルの罰金処分に。UFCヘビー級王座も返上した。

ニック・ディアスの場合

07年2月24日、『PRIDE.33』で五味隆典に勝利も、試合後の検査でマリファナの陽性反応を検出。6か月間の出場停止と3,000ドルの罰金処分となり、試合は無効試合に。

ホイス・グレイシーの場合

07年6月2日、『Dynamite!! USA』で桜庭和志に判定勝利後の検査で、筋肉増強剤のナンドロロンを検出。1年間の出場停止処分と2,500ドルの罰金処分に。ホイスは使用を否定している。



MMAの父、逝く――

追悼 エリオ・グレイシー

「エネルギッシュな頑固爺さんが教えてくれた本当の勇気」

文／松林貴（本誌編集次長）

さる1月30日、翌日の『UFC94』取材へ向かう前に会社で出張前の片づけごとをしていたらネット上で「グレイシー柔術の創始者、エリオ・グレイシー氏死去」のニュースが報じられた。

あまりに突然の報だったことと、夕方の成田発便に乗る前のあわただしさもあって、そのときは「95歳かぁ……、大往生だな」としか思わなかった。

そして31日（米国現地時間）、ラスベガスのMGMグランドガーデンアリーナ――。

GSP vs BJペンという夢のカードが行なわれる『UFC94』のPPVオープニング映像で、唐突にエリオ氏追悼のメッセージが出てきた。会場ビジョンでそれを目にして、ようやく「ああ、エリオ爺さんは亡くなっちゃったんだ……」と実感したのである。

あれは1997年の暮れだから、いまから11年とちょい前のことだ。ある雑誌の取材で、急きょ単身で地球の裏側にあるエリオ爺さんの自宅まで行くことになった。

髙田延彦がヒクソンに敗れ、結果的には幻のカードとなってしまったが、『PRIDE・2』で予定されていたホイス・グレイシーvsマーク・ケアー戦を目前に控えて、「グレイシー一族の全貌を探り出せ！」といった企画の取材だった。

機上の人となり、約一日半かかって現地の早朝にリオデジャネイロの空港へ到着すると、迎えに来てくれていた長男のホリオンから、「父の家はここから車で2時間弱」と聞かされ、とてつもない疲労感と脱力感に襲われた。

山道を走ること約2時間、リオの山岳地帯イタイパバにある自宅に到着すると、肝心のエリオ爺さんは、な、なんと不在！ ヴェラ夫人によると「『草刈機が壊れた』って、修理の部品を買いに出かけたの」とのことだった。それから約1時間後にピックアップトラックを駆った当家の主人がご帰館。

やっとインタビュー開始だ、と思ったら「待て！ 草刈機を直してからじゃ」と言われ、ホリオンは「申し訳ない。父はこうと思ったら、それを終わらせないと気が済まないんだ」と言う。こっちは睡魔でもう昇天寸前。

修理が終わるのを待って、昼前にようやく、ホントにようやくインタビューが始まった。ところが話し始めて20分ほど経過したころ、突然「アルモッソ！」と叫んで席を立ってしまった。

こちらの質問に気分を害し怒らせてしまったのかと思い、おそるおそるホリオンに尋ねると「ランチの時間だから一時中断」ということだった。時計を見ると確かに時刻はピッタリ正午。

草刈機の修理といい、昼食といい、自分の生活を崩さないこの姿勢に小生は徐々に心地よさを感じ始めていた。

昼食の席ではエリオ爺さんが、「肉と魚は鶏肉や白身魚などの白いものしか食べない」とか「食べ合わせには決まりがある」とか、そのほかにもいろいろと、当時「門外不出」みたいに言われていたいわゆる〝グレイシー食〟に関する話を事細かにしてくれた。

取材中、ずっと気になっていたことがあった。170センチそこそこで痩身であるのに、腕がとんでもなく太くて手がやたらとデカい。ヒジから指先までは、まるでヘビー級ファイター並みなのだ。

「手は昔からそんなに大きかったのですか？」と聞くと、「いや、いつの間にかこんなに大きくなっていた」と笑いながら答えていた。長年にわたる修行の表われなのだろう。そういえば大山倍達総裁の拳も、とんでもなくデカかった。

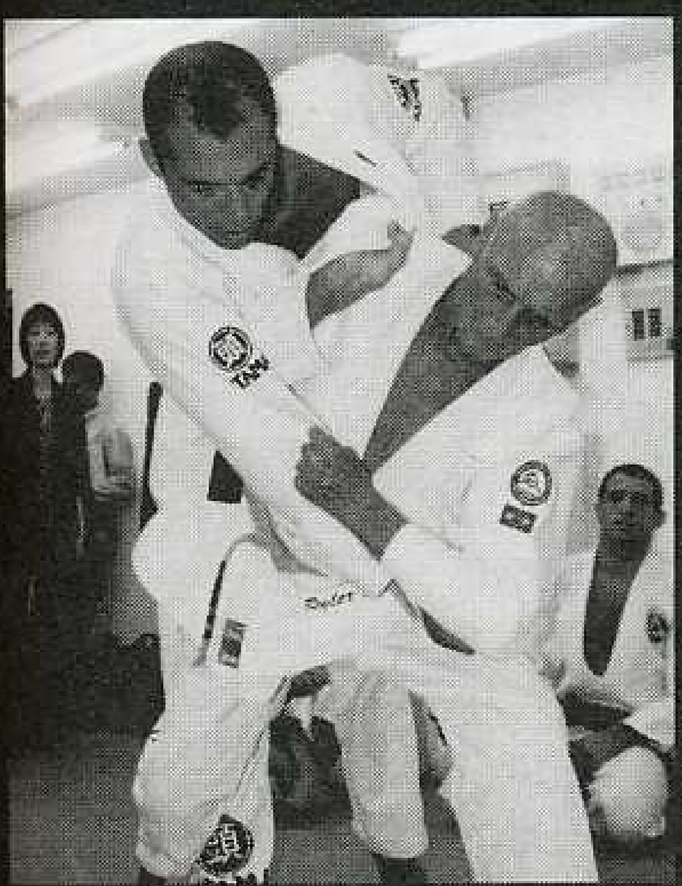
昼食後にインタビュー再開となり、取材がひと通り終わると「じゃあ、ワシは仕事をしてくる」と言い、自宅の敷地内にある牧場へ牛の世話をしに向かった。このころには小生も、80歳代半ばにしての超エネルギッシュ＆頑固さに感動し、長旅からの直行による疲労と睡魔もすっかり消え去っていた。

最も印象に残ったのが「勇気」に関して答えてくれた言葉だ。

「『勇気』という言葉の中にはいろいろなものがあるだろう。だが、本当の勇気とは嘘をつかずに真実を述べる勇気。それがあれば怖いものは何もない」

かぁ～っ！ 真理だ。『UFC94』の会場でこの言葉を思い出し、「ごめんなさい。小生はいまだ自分に嘘をつきまくって生きています」と深～く反省しながら合掌。

「そういえば、嘘をつきまくって真実をまったく述べない格闘家もいるよなあ」とラスベガスの地で、ついでに思った次第。その格闘家にも合掌……。



息子であるホイスらの試合のセコンドとしてたびたび来日、日本とは縁の深かったエリオ。ブラジリアン柔術の象徴的存在として敬われ、08年2月からはヒクソンを会長とする全日本柔術連盟（JJFJ）の相談役も務めていた。



世界の中の日本を考える
日本ってなんだっけ

「格闘王国・日本」再興へ 出でよ〝一所懸命〟の侍！

〝志士〟待望論

日本武道傳骨法創始師範
堀辺正史

PRIDE消滅以降、格闘王国の座をアメリカに奪われてひさしい日本格闘技界。もう一度、日本をよみがえらせるためには、幕末の志士のような気概が必要ではないのか？ そんな思いから、おなじみ骨法の堀辺師範に、かつての侍たちの姿を通して、いま日本の格闘家に必要な気概について語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ

——先生！　いま総合格闘技界はアメリカにほぼ制圧されそうな勢いなんですよ。

堀辺　そうみたいですね。

——そんな中で格闘王国・日本を復興させるためには、どんな気概が必要なのかということを探るために、今日は幕末、黒船襲来によって日本に危機が訪れたときの侍の気概というものをうかがいたいと思うんです。

堀辺　なるほど。「気概」ということで言うとね、まず、どの侍にも共通する言葉があるんですよ。それが「一所懸命」。

——ほう。頑張るときに使う「一生懸命」の元になった言葉ですよね。

堀辺　そうです。これのもともとの意味は、侍が「たった一つの所領であっても命を懸けて守る」ということなんですよ。たとえ猫の額ほどの土地であっても、侍というものは徹底的に闘って命を懸けてこれを守り抜く。所領を守るためだったらなんでもするということが侍のエネルギー、気概ってものになってたんですね。

——命懸けで領土を守るということが気概になっていた、と。

堀辺　そして幕末では、アメリカの黒船に代表される、欧米の蒸気船がやってきたわけですね。そのとき、侍たちは日本列島が彼らに奪われてしまうんじゃないか、植民地化されてしまうんじゃないかという危機感を持ったわけです。それが幕末の世相というか、政治情勢の根本的な問題だったんです。

——国が存亡の危機にさらされたような

「一つの所領であっても命懸けで守る」それが「一所懸命」のそもそもの意味



黒船来航により、日本は危機を迎えたが、侍たちに「一所懸命」の気概がよみがえったことで、今日まで独立を保つことができた。いま日本の格闘家に必要なのも、この気概か。（『米船渡来旧諸藩士固之図』東州勝月・1889）

感じなんでしょうね。

堀辺　ただ、侍たちはそうした欧米の実態というのを知ってはいたんですよ。というのは、1840年にアヘン戦争が起こり、日本が尊敬していた中国、当時の清国がイギリスに敗れましたよね。それも、あっけなく敗れた。これはやっぱり、産業革命以後の近代的な軍備の前には、さしもの歴史を誇った国もひとたまりもなかったということなんです。こういった状況を、侍たちは鎖国した中でも、中国やオランダを通じて知っていた。また、アヘン戦争の前は、インドというお釈迦様が生まれた国がイギリスの植民地になってるんです。で、いよいよその清国に勝ったイギリス軍が日本に向けて来るぞ、とアメリカのハリスから脅されたんですよ。

——「次は日本が攻め込まれる番だぞ」と。

堀辺　そう。そして「これを避けるためにはアメリカと条約を結びなさい。通商条約を結んだら我々が守ってあげる」と。

——なるほど。

堀辺　そういった交渉があって、開国路線というのが敷かれたわけです。

——なんか末期のPRIDEとUFCみたいですね。「潰れちゃうんだったらウチに売ったほうがいいよ。ウチに売ればPRIDEを続けてあげる」（笑）。

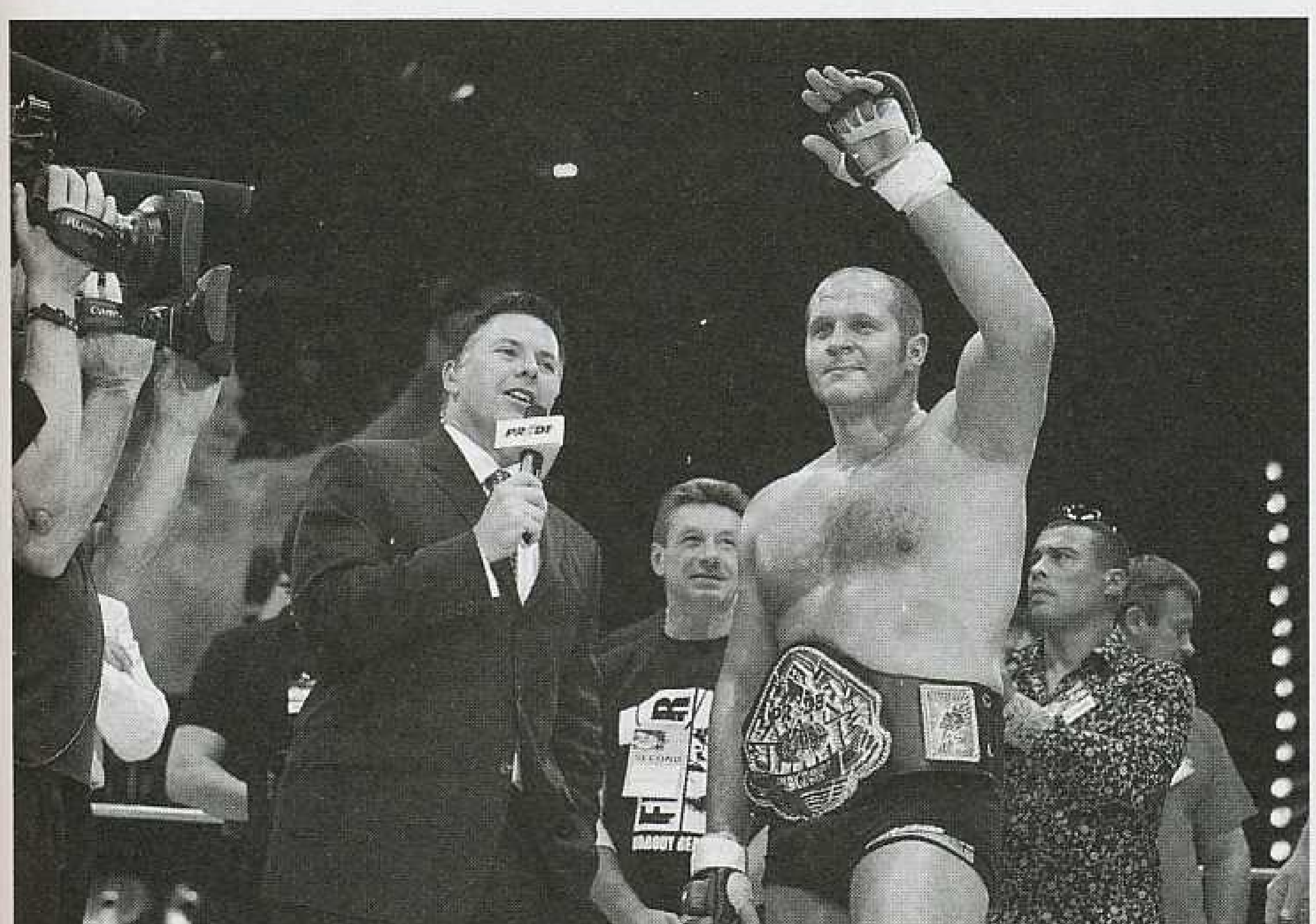
堀辺　そうかもしれないですね（笑）。で、国が存亡の危機にさらされたとき、平和が200何十年続いていた江戸時代の侍の中に、かつての戦国時代の侍が持っていた「一所懸命」の精神がよみがえったわけです。

——命懸けで領土を守る、と。

堀辺　そう。たとえ一反であっても自らが開拓し農地に変えた土地は、親が討たれようが子が討たれようが、その屍を乗り越えて、血を流してでも守るというものが侍の基本として形成されてるわけですね。で、戦国時代までの「一所」というのは、各藩の大名の土地のことだったわけですけど、黒船が来たことによって、封建的な〝おらが藩〟だけじゃなくて、その〝一所〟というものが日本列島に拡大されて、〝日本〟という土地を守るんだということに目覚めたわけです。そして、そのとき先祖の「命を捨ててでも土地を守る」という一所懸命の気概もよみがえったわけですね。

——いまこそ命懸けで祖国を守るときだ、と。

堀辺　そして「一所懸命」の気概だけでなく、戦国時代の荒々しい侍の道というもの



日本格闘技界を守るため、ラスベガス大会を開催し、アメリカへ〝攻めて〟いったPRIDE。その気概は、DREAMのスタッフにも受け継がれているか。

も回顧されたんですよ。たとえば切腹。こ

とによって、一所懸命を実行しようとする

と、やはり切腹ができるぐらいじゃない

黒船襲来により「命懸けで土地を守る」

も回顧されたんですよ。たとえば切腹。この切腹というのは、自分で腹を切ってもの凄く苦しみながらも、なかなか死ねないという、大変な苦痛を伴なうものなんですよ。だから平和な時代である江戸時代の切腹というのは、扇子や木刀で腹を切るふりだけして、実際は介錯人がうしろからバッサリ首を斬り落として、苦しみを与えないで死ぬようにしていたんです。

——へぇ、そうだったんですか。

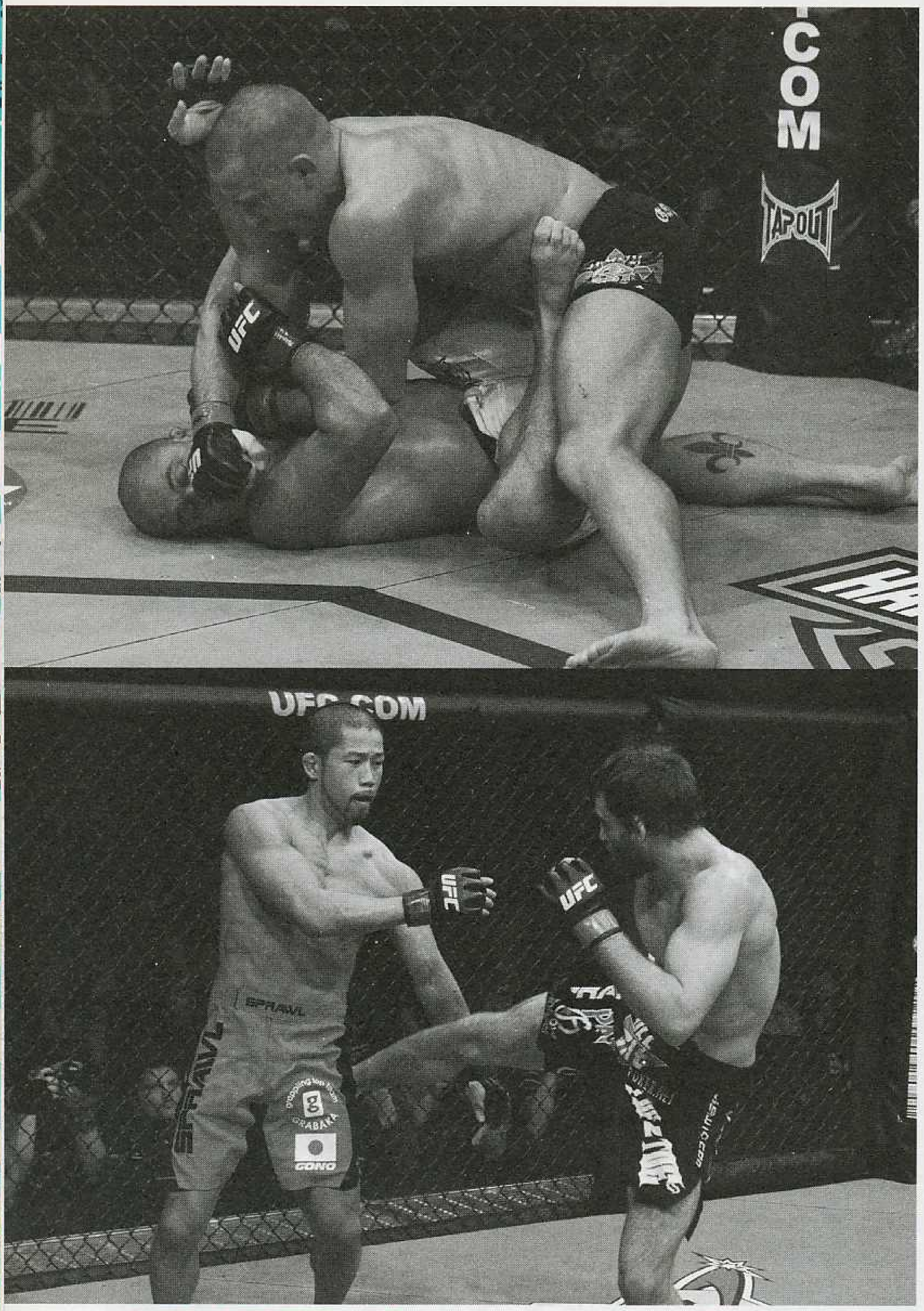
堀辺　だから、たとえば赤穂浪士の殿様が切腹したって話になってますけど、実際は扇子腹なんですよ。

——イミテーションの切腹でしたか（笑）。

堀辺　そういうふうに江戸時代の武士たちの気風とか武士道というものが軟弱化してたんですね。ところが黒船が来たことによって、一所懸命を実行しようとすると、やはり切腹ができるぐらいじゃないと、到底外国に太刀打ちできないことに気づいたわけですね。だから、本当の切腹が幕末になると復活したわけです。これは侍の危機意識ってものによって、戦闘能力が高まってきた証拠なんですね。

——黒船襲来という有事によって、侍の魂がよみがえったわけですね。

堀辺　たとえば幕末に活躍した新撰組というのは、侍らしく生きることをもの凄く重視した集団なんですよ。なぜかというと、新撰組にはもともと、あまり上級の侍がいなかった。農民上がりや侍の株を買って侍身分を獲得した人たちが多いために、ほかの人たちから「あいつらはどうせイモ侍だ」とか「農民上がりだ」とか言われたんです。それに反発して、新撰組はもともとの侍以上に、侍らしい生き方をするという反抗心が生まれた。だから新撰組って闘って死んだ人も多いんだけど、それ以上に切腹で死んだ人が多いんですよ。



いまやビジネスの規模、選手層とも世界ナンバーワンのUFC。ここで勝負する選手と日本に残りに日本格闘技界を盛り上げる選手、両方が必要だろう。

黒船襲来により「命懸けで土地を守る」という気概が侍によみがえった

——そうなんですか。

堀辺　しかも厳格に切腹をやった。それはなんのためかというと、闘える気概というものを再構築しようとしたんです。具体的に言うと、侍らしい行動をとらなかった場合は切腹を命ぜられる。だから、もし見回っていて敵と出会いますよね。それで不利になったからって逃げたら、それは帰ってきても「お前は侍らしい行動をとらなかった」って切腹をおせつけられちゃう。

——逃げることは死を意味する、と。

堀辺　そういうものに支えられていたから、新撰組はいわゆる倒幕の志士たちよりも圧倒的に強いという現象が起きたんですよ。それは切腹を復活させたことによって、己に勝つ、死ぬ覚悟で闘う気概が生まれたんです。だから、その新撰組の精神っていうのはなんだったかっていうと、古来の武士というものを自分の肉体の中に再構築したということなんですね。そこから武芸のあり方も変わり、日常生活の規律も戦闘者としてのものに変わっていったんです。

——自分の中のルールが変わったわけですね。

堀辺　そうです。自分の中のルールが変わることによって、まだ変わってない人たちに勝つことができたわけです。それを「気概」という言葉で言ってしまうと、抽象概念を論じてるように見えるんだけども、それは現代人の考え方であって、気概というのは実行力のある、かたちに見えないエネルギーだっていうことを忘れちゃいけないんですよ。

——「気概」とはそれ自体がエネルギーとなるわけですか。

堀辺　たとえば、いまは新撰組のお話をしましたけど、新撰組とは対極の立場にあった吉田松陰という有名な松下村塾の師が

いますよね。彼が剣客・千葉周作の弟の千葉定吉に「自分は剣術を鍛錬しているが、いまいち強くなったという実感が得られない。どうしたらいいでしょうか」という相談を受けたんです。そしたら吉田松陰は「君のは芸だけだ」と。つまり「君はテクニックだけを学んでいる。それでは実戦では勝てない。実戦で必要なのは気迫なんだ」と言ったんです。

――技術より気迫ですか。

堀辺　ただ、命懸けの闘いで気迫が必要だということは、誰でも言えるんですよ。しかし、吉田松陰の凄いところは「一時の気迫は出すことができる。でも常に24時間、あるいは長期にわたって気迫を保つことはできない。どうすれば、常に気迫を保つことができるのか」という問いにも答えたんです。「それは志（こころざし）を持つことだ」と。

――「志」ですか。

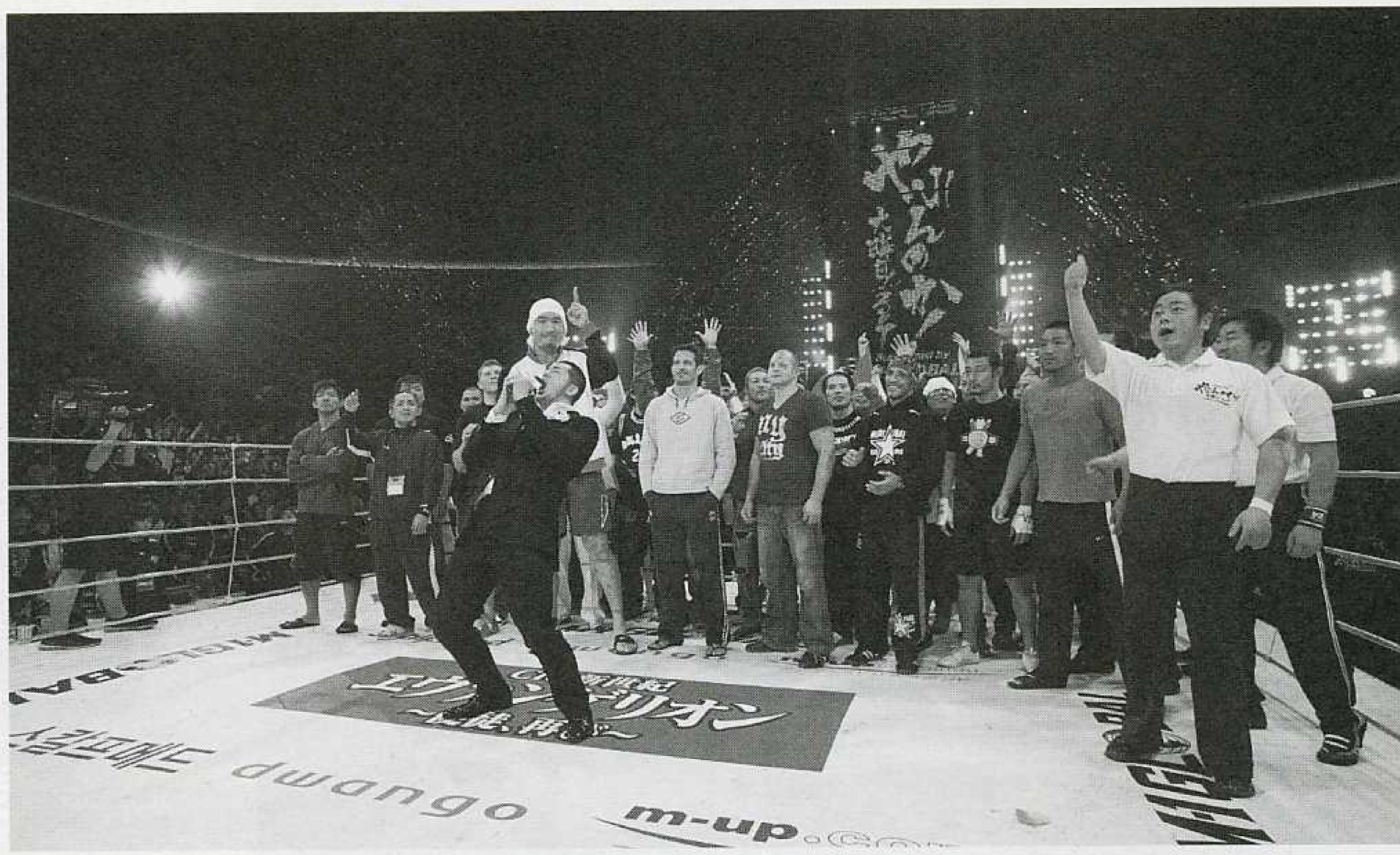
堀辺　志っていうものがない限り、気迫は常に保つことはできない、と。そして志とは、自分の全生命を懸けて成し遂げる目的がハッキリと決まっている人、それが志を持った人だ、と。だから「剣士である前に"志士"でなければ気迫というのは常に保つことはできない。だからまず君がやることは、芸を活かすためには気迫がなきゃいけない。気迫を常に保つためには志というものを持ってないとダメなんだ」ということを教えたわけです。

――なるほど。それが有名な「志定まれば気盛んなり」という言葉なんですね。

堀辺　そうです。その教えを受けてから、千葉定吉は「自分はなんのためだったら我が命を捨てても悔いがないのか」ということを考えて、志を確立したわけです。そしたら彼の剣風が変わったと言われるようになったんですね。これなんかは、やっぱり人間というものは、何か明確な目的意識にどれだけ衝き動かされるものなのか。志によって気迫や武芸はすべて決まってしまうということを如実に表わすものなんですね。だから幕末というのは、志士たちが活躍した時代と呼ばれているんです。

――「幕末の志士」と言いますもんね。

堀辺　言うでしょ？　でも、戦国時代の志士とは言わないでしょ？　幕末とは志士の時代なんです。そして、志士というのは何かと言えば、先ほど言った「一所懸命」の気概を持った人たち。この日本国の独立を命懸けで守るという志を選んだ人たちなんです。



思えば07年大晦日の『やれんのか！』こそ、存亡の危機にあった日本格闘技界が反撃ののろしを上げたイベントだった。あのときの熱をさらに大きくできるかが、これからのマット界の課題か。

幕末の志士は「志」を持つことで荒々しい古武士の姿に原点回帰した

――なるほど。命を超えた「志」を持った人たちなわけですね。

堀辺　だから儒教の孟子の教えに「志士仁人は生を求めて仁を害するなし」って言葉があるわけです。これはどういうことかっていうと、志を遂げるためだったら命を失なってもいい、と。そういう気概を述べた言葉なんですね。志のためだったら自分の身を失なってもいいんだよ、と。自分の死体が田んぼのあぜ道に転がっていてもいいんだ、と。でも志士と呼ばれる人たちはそんなことおかまいなしにその目的にまい進していく、という教えですね。

――志のほうが命より遥かに上だという。

堀辺　そういう考え。これが志士なんです。そして志士というのは、同時に戦国時代の荒々しい武士たち、あるいはそれ以前の古武士の姿に原点回帰してったわけですね。だからこそ志士たちに対抗する新撰組みたいなものも武士の原点に帰っていった。これが独立の気概となって、命を懸けてでも国を守るって人たちが幕末に誕生した。この気概があったために日本は独立を達成することができたわけです。

――それが明治維新につながり、そういう人間たちによって日本の独立は守られたわけですね。

堀辺　そして近代国家というものの中に入っていき、日清戦争、日露戦争、そのあといろんな戦争にも勝つことによって、五大強国の一つに数え上げられるようになった。19世紀というのは、アジア、アフリカ、また黄色人種の中で、独立国家というのは日本以外に存在しなかったんですよ。ましてや憲法や議会を作った国はなかったんです。そのことを戦後の人たちはあまり高く評価していませんけど、その考えは間違ってるんですよ。富国強兵というものも悪く言われますけど、富国強兵を実現したからこそ、欧米の言いなりにならないアジアの中の一角っていうのが誕生したんですね。このことによって、日露戦争の勝利のあとなんかは、多くのアジアの人たちに対して、白人が永久にこの地球を支配してるんじゃなくて、我々でもやり方によってはそれを転覆させることが可能なんだっていう希望を与えたんですよ。それはもう幕末の志士の気概から始まっていると言えるし、それが日本人だったんです。

――一所懸命の気概が日本を支えていたわけですね。

堀辺　そして、まさにその一所懸命っていう精神は19世紀末から20世紀初頭にかけて、小さな藩を守る、あるいは自分の私有地を守るっていう小さな部分から、日本国へ拡大はされたけれども、昔は領土を侵すヤツがいたり、領海を侵すヤツがいたら絶対許さんよっていう、この独立の気概っていうのはそういう歴史の過程の中から生まれてきたんですね。

――なるほど。

堀辺　だから、いまの日本人に必要なのも

んだ！」と

至っても動じないってい
うね、その心意気ってい
いを見せて、日本格闘技界自体を復興させ
るような気概を見せてほしい。そして、そ

世界の中の日本を考える
日本ってなんだっけ

"志士"待望論

いま日本に必要なのは吉田松陰の言う「志、気迫、芸」を持った選手です

その気概じゃないでしょうか。自分の考えられる最悪の状態からもう一度出直す気概があれば、いまの不況が１００年に一度のものだとしても、まだたいしたことはないですよ。だって敗戦後は、国会議事堂の前が畑だったんですよ。畑にしないと食うものがなかったんですよ。食うものもなければ、工場なんかも全部焼き討ちされて何もない、そこから出発したんです。それを考えたら、いまの不況なんて、その当時を知ってる人から見たらちゃんちゃらおかしいっていうことになるんじゃないですかね。

――そういうふうに最悪の状態にまで自分を一回戻してみて、そこから再構築するってことが本当の気概だ、と。

堀辺　だから切腹する気概ってことは、つまり人間の命を自ら失なうような事態に至っても動じないっていうね、その心意気っていうものが逆に生きるという方向で作用したときに凄い戦闘力になるわけですよね。それは格闘技界にも同じことが言えます。いまこそ日本格闘技界に〝志士〟が必要なんですよ。

――この国の格闘技を守るという志を持った人間が必要だ、と。

堀辺　自分がチャンピオンになる、ベルトを防衛する、それ自体は素晴らしいことですよ。しかし志士という観点から見たら、吉田松陰が述べたように、それは本当のエネルギーを引き出すような志っていうものはまだ持ってないわけです。

――「チャンピオンになりたい」「有名になりたい」だけじゃ、本当の志とはならない、と。

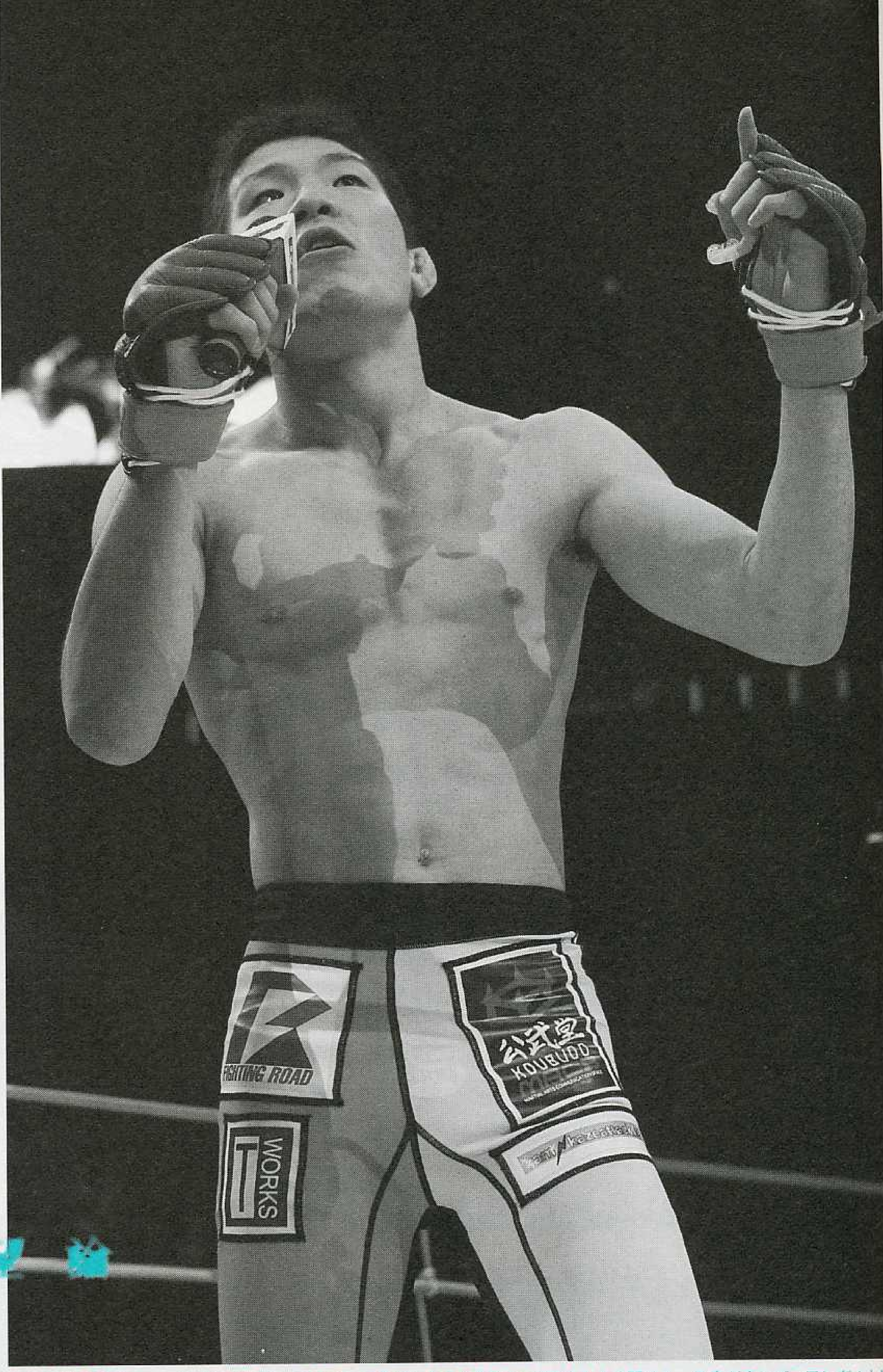
堀辺　そう。「俺はチャンピオンになる」その意気やよし。でも、日本の総合格闘技を考えた場合、いま格闘技界自体が落ちてしまってるわけですよ。それなら、ただ自分が勝つだけでなく、「これが日本人だ」「侍の末裔たる男の闘いを見たか！」と言えるような闘いを見せて、日本格闘技界自体を復興させるような気概を見せてほしい。そして、そういう「志」を持ったとき、その選手は闘い方が変わる。幕末の志士たちが脱藩したように、自分の記録なんかを超えて、総合格闘技界を俺が担ってやる、と。そういう志を持つ人たちが出てきたら、それこそ志、気迫、芸という、この三位一体が選手の中で実現されて、とんでもない怪物が誕生すると思いますよ。

――いまこそ、そういう〝志士〟が求められるわけですね。

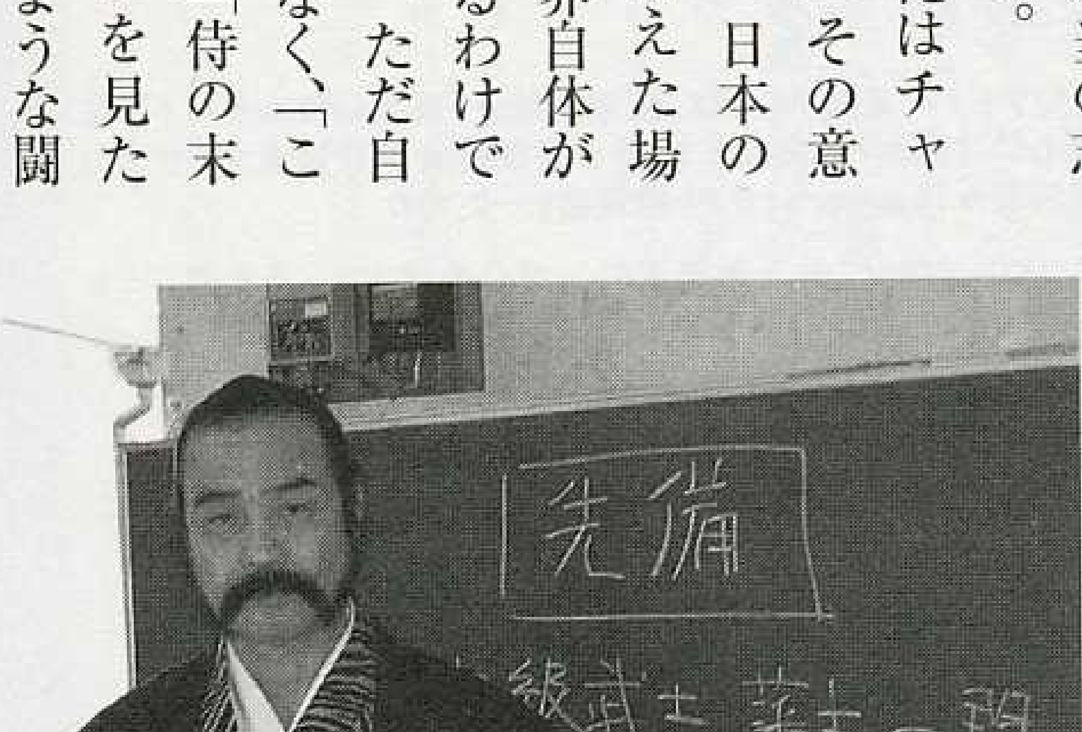
堀辺　究極の生き方ってものが定まったときの人間は強いんですよ。エネルギーを誰からももらわなくても、自分で汲み出せるんです。それが松陰が言った「志、気迫、芸」という順序なんですよ。日本の総合格闘技界に言えるのは、志士になる格闘家が生まれること。そうすれば志、気迫、芸というものが三位一体になって強固な選手が誕生するんです。これは日本の伝統に学べっていうことです！

――わかりました。今回もまたありがとうございました！

【09年2月8日／都内・骨法武術館にて収録】



昨年大晦日の『Dynamite!!』でエディ・アルバレスを破ったあと「ダナ・ホワイトよく聞け！　日本がナンバーワンだ！」と叫んだ青木。日本格闘技界復興のためにこの男にかかる期待は大きい。


ほりべ・せいし■1941年茨城県水戸市出身。50年にわたる命懸けの求道の末、喧嘩芸骨法、さらに全局面打撃制koppoを創始。格闘技・武道評論の第一人者として本誌や『わしズム』などでも活躍している。

kamipro books 驚ガク! 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ! 死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

PRIDE機密ファイル　封印された30の計画



ついにその秘密のベールを解禁!!
PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!

★髙田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★"皇帝"ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早1年あまり——世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘! さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録!

B6変型判　292ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

新日本プロレス学習帳



"業界の盟主"の魅力を
凝縮したインタビュー12連発!

★鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー★小林邦昭★平田淳嗣★金本浩二★山本小鉄★新倉史祐★田中秀和★中西学★天山広吉&金原弘光★マサ斎藤★永田裕志★中邑真輔

『kamipro』誌上に掲載された新日育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に! これを読めば老舗団体の過去・現在・未来がまるわかり!

B6変型判 320ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

八百長★野郎



ミスター高橋本から7年……
"呪いなき"時代のプロレス再入門書!!

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊池孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初"台本"全文掲載!

カミングアウト当事者から元ファンの知識人まで総動員してプロレスを再考! "プロレスの向こう側、『マッスル』"の世界に迫る!

B6変型判　296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

生前追悼 ターザン山本!



え、ターザンが死んだ!?
90年代プロレスを徹底検証!

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る!

B6変型判　304ページ
定価=1,470円(本体1,400円+税)

プロレス狂の詩　夕焼地獄流離篇



プロレス狂がシビれる
凄玉たちのインタビュー集!

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ★韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武士★ダニー・ホッジ★高山善廣★金原弘光★真樹日佐夫★三池崇史

メインストリームからはみ出さずにはいられなかったファイターや、リング内外の裏表を凝視してきた関係者へのインタビューがテンコ盛り!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

U.W.F.変態新書



ダメな大人たちへ捧げる
"変態"とUWFの晩餐!

★UWF★前田日明★船木誠勝★髙田延彦★桜庭和志★ターザン山本!★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か?(菊地成孔スペシャルインタビュー)★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本隊1,600円+税)

吉田豪のセメント!! スーパースター列伝　パート1



吉田豪インタビュー11連発!!
インタビュー本の最濃傑作!

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判　344ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

底なし沼　活字プロレスの哲人 井上義啓 一周忌追善本



井上義啓とは底が丸見えの
底なし沼である——!!

★『週刊ファイト』&『SRS・DX』激筆再録★『猪木は死ぬか』、『不在証明あるいは猪木へのレクイエム』★新間寿★夢枕獏★ターザン山本&吉田豪★『kamipro』ラスト喫茶店トーク ほか

"活字プロレスの父"井上義啓氏の一周忌追悼本!! 氏を偲ぶインタビューや、人生最後の旅模様を振り返るエピソードも収録!

B6変型判　312ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

紙の破壊王　ぼくらが愛した橋本真也 爆勝証言集



破壊王の三回忌追善本!!
泣けて笑えるエピソード満載!!

★破壊王ファミリー★天山広吉★西村修★山田千景(獣神サンダー・ライガー夫人)★馳浩★藤波辰爾★田中秀和★ケビン・ランデルマン★三浦大輔(横浜ベイスターズ投手)★折鶴兄弟　ほか

破壊王の原点である新日関係者が語ったエピソードが盛りだくさん! みのもけんじ書き下ろし『紙のプロレス・スターウォーズ』も収録!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

殺し　活字プロレスの哲人 井上義啓 追悼本



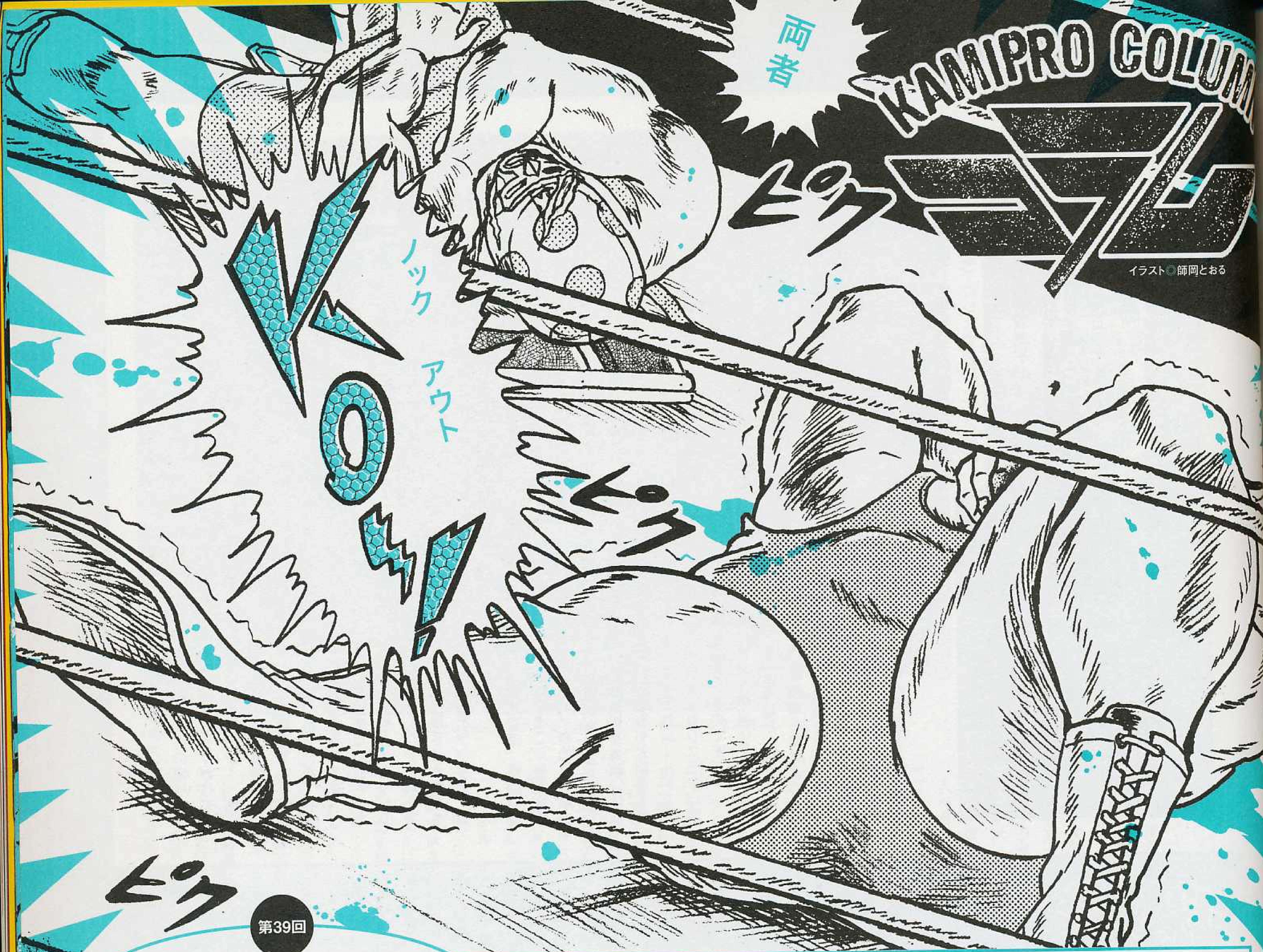
"殺し"文句が心を打つ!
井上義啓 追悼本!!

★喫茶店トーク傑作選★井上小説傑作選★I語録★井上義啓とは何か?／アントニオ猪木／水道橋博士／金沢克彦／松島弥生(井上義啓・姪)★『kamipro』未公開"喫茶店トーク"ほか

多くの"プロレス者"に影響を与えた"I編集長"の追悼本!! プロレスという"底が丸見えの底なし沼"に浸かり続けた男の凄みを感じろ!!

B6変型判　304ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)[通信販売のお問い合わせ先]http://www.enterbrain.co.jp/

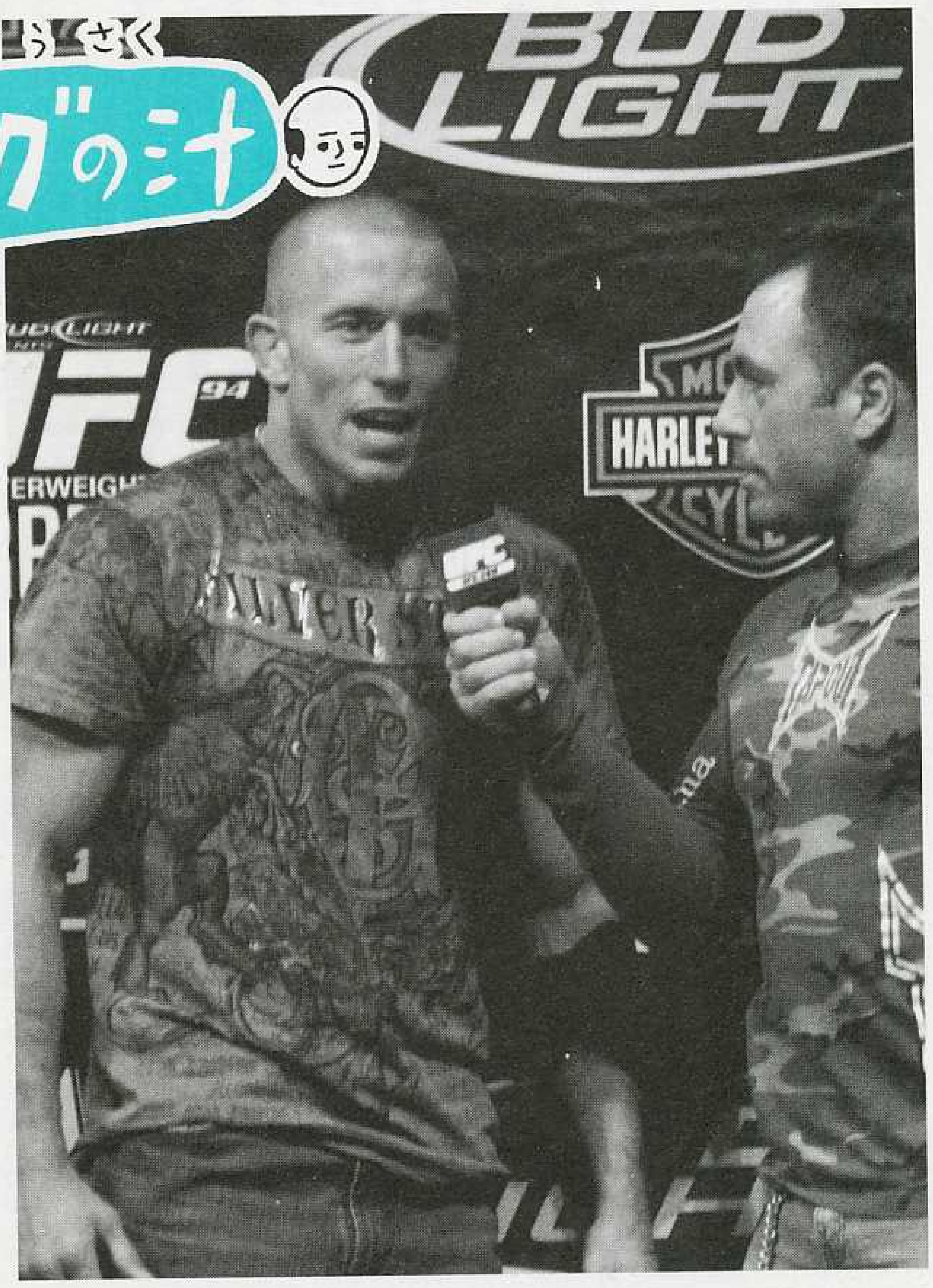


第39回

アリはエキシビションだとだまされて来たの?

花くまゆうさく

豆リングの汁



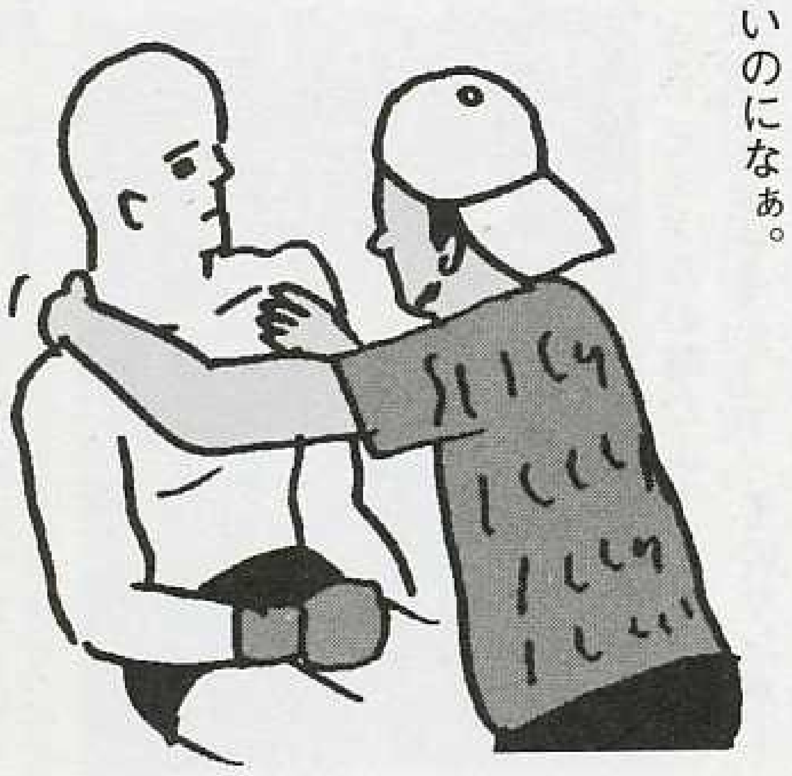
エリオ・グレイシーありがとう。グレイシー柔術がUFCとともに出現しなかったら、いまの総合はないと思う。U系はブレンド止まりだったし。

『UFC94』は、WOWOWで観た。郷野残念、キム・ドンヒョンそんなバックキープでは足関くらうんじゃないかと心配、ラウンドガール最高だなぁ〜（とくにショートスパッツが）、など思って観ていたけど、GSPのヌル疑惑は気づかなかった（インターバル中は、ラウンドガールとイズマイウ探しにしか目がいってないため）。

後日、あらためてチェックしたら、1ラウンド後に顔に塗ってるセコンドがその手でそのまま肩や背中にこすりつけているようにも見えるね。

日本でもインターバル中にセコンドが首や背中にビチャビチャ水つけて、そのまま闘うの何度か観たことがあるけど、あれはちゃんとレフェリーに拭いてほしい、とつくづく思う。

KIDに合わせて、なかなか体重決まらないDREAMフェザー級GPだけど、どうせKID出ないんだろうから、今成vsKIDのスーパーマッチにすればいいのになぁ。



Hanakuma Yusaku
◎町山智宏さんの新刊『アメリカは今日もステロイドを打つ』（集英社）の表紙、イラストやりました。

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第35回

私だけが知っている スーパースター谷津さん

今年09年は、私も運営に関わっている寝技の祭典アブダビ・コンバットの開催年です。開催場所や時期についてはまだ明らかにできませんが、日本予選が2月22日に行なわれる予定です。皆さん、楽しみにしていてください!

さて、アブダビの思い出でいまでも印象深いのは、先月号の『kamipro』で菊田選手と対談していた谷津嘉章さんのことです。谷津さんは01年のアブダビ・コンバットに日本レスリング協会選抜選手団長兼、選手として参戦してるんです。

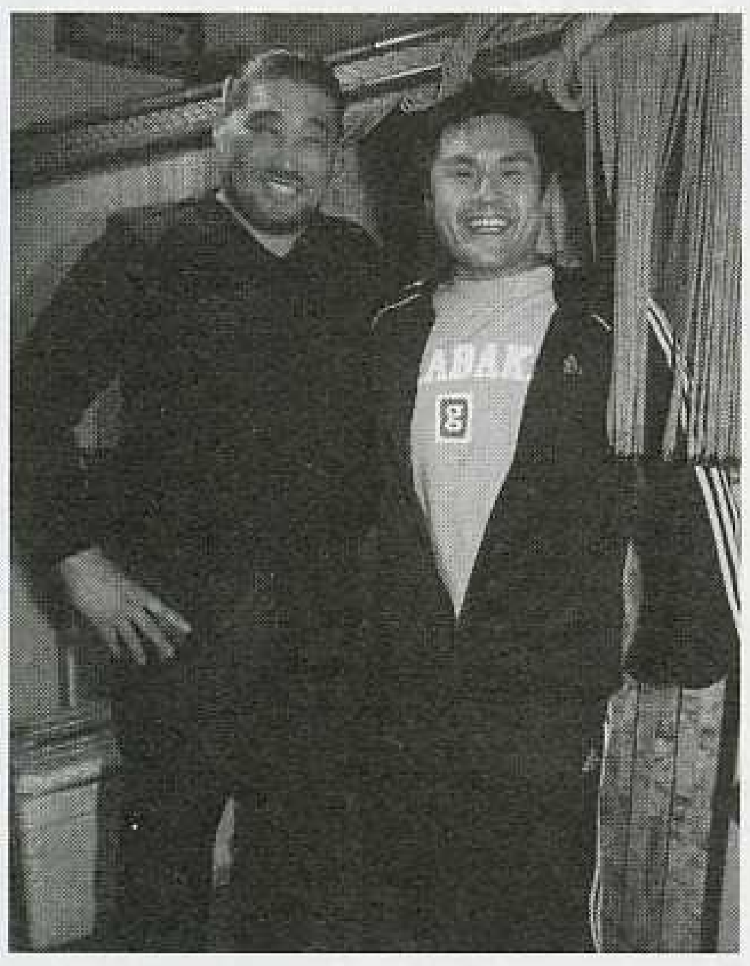
そもそも私との谷津さんが親しくなったのはPRIDE出場するときに窓口をさせていただいた縁からです。

そのため谷津さんが試合に備えて山梨学院大学レスリング部へ出稽古したときも同伴。山梨学院大には、いまでは全日本プロレスで活躍している諏訪魔選手や、DREAMに参戦している宮田和幸選手、キューバの五輪代表チームも練習に来ており、興味津々で谷津さんと学生のスパーリングに注目してましたが……なんとなんと! さすがにスタミナという点では練習を始めたばかりだったので、遅れを取ってましたが、レスリングに関してはまったく谷津さんは見劣りしてなかったのです。う〜ん、この学生さんではもの足りないなあと思ったくらいです。さすがは幻の金メダリストと呼ばれた実力者! 何年かしてから あのスパーリング相手がいま、全日本プロレスで活躍している諏訪魔選手だと知りました。あらためて谷津さんの凄さを思い起こしたものです。

そうしてPRIDE出場以降も谷津さんとたびたびお話しする機会があったのですが、その際にレスリングチームをアブダビ・コンバットに出場させる相談も受けました。それが01年のアブダビ・コンバットです。

アブダビへ向かう成田空港。格闘家軍団、レスリングチーム、そこに谷津さんがいるという異色の空間。初めは谷津さんと格闘家軍団に距離がありましたが、誰かが谷津さんと記念撮影をお願いした瞬間、格闘家軍団は我も我もと撮影をせがんだのでした。さすがはゴールデンタイムで放送されていたプロレスラーは違うんだなあと感心したものです。

それからしばらく接点はなかったのですが、あるとき「違う場所に行くから、あとは任せたよ」と連絡を受けました。谷津さんいわく「中国に鍼の勉強に行く」とのこと。中国? 鍼の勉強? 突然の話にビックリしましたが、どうやら中国には行ってなかったみたいです。谷津さんは不思議な人です。



Booker K ◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

---

kamiproMoveで好評連載中! ニュース特選!★kamiの1週間

傑作編

日本人ファイターも多数観戦! 1.31『UFC94』を斬る!!

(2.3更新分より)

松 いや〜、凄かったね。1・31『UFC94』ラスベガス大会!

竹内 このチケットはずいぶん前からソールドアウト。あいかわらずUFCだけは不況知らずだね。

松 日本からも山本〝KID〟徳郁、宇野薫、石井慧、五味隆典、谷川貞治FEG代表らも観戦。

竹内 そしてもちろん、我らが斉藤清六の姿もあった。

松 ないよ! それは日本のプロレス会場だろ!

竹内 それにしても、これだけの日本の大物がアメリカの大会に集結するのも珍しいな。

松 それだけ、いまのUFCの勢いは凄いということだろう。

竹内 とくに今回はウェルター級とライト級の王者対決があったからな。

松 もちろん試合内容もハイレベル。まさか、あのBJペンが何もできずに完敗を喫するとは思わなかった。

竹内 強かったな〜、GPS。

松 GPSじゃカーナビになっちゃうだろ! GSPだよ!

竹内 えっ!? GHC?

松 それはプロレスリング・ノアのベルトだろ!

竹内 SPWF?

松 それは谷津嘉章の社会人プロレスだろ! しかも4文字に増えてるよ!

竹内 CCB?

松 全然関係ないだろ! GSPだよ!!

竹内 あ〜、GSPだったか。ちなみにGSPは「パンパン、来い来い、オ◯ンチョ野郎」の略です。

松 それは「アントニオ猪木のPKO」だろ! おまえは新間寿か!

竹内 女性の方は耳をふさいでください。

松 やかましい! GSPはジョルジュ・サンピエールの略だよ!

竹内 そうかそうか。で、そのサンポールがどうしたんだっけ?

松 サンピエールだって言ってんだろ! よりによって便所洗剤と間違えるな! ジョルジュ・サンピエールが圧倒的強さでBJペンを破ったんだよ!

竹内 強いな〜。

松 GSPはこの日、郷野聡寛に完勝したジョン・フィッチにも勝ってるからね。

竹内 はいはい、あの伝説のWJプロレスが主催した、これまた伝説の金網格闘技イベント『X−1』に初来日したジョン・フィッチね。

松 確かにそうだけど、そういう過去を掘り返すな! ちなみにこの日は、その『X−1』で佐々木健介と対戦したクリスチャン・ウェリッシュも第2試合に出場した。

竹内 『X−1』戦士が二人も参戦したことで、『X−1』のときみたいに金網が壊れちゃうんじゃないかと心配されていたらしいな。

松 そんなヤワな金網をUFCが使うか!

竹内 いずれにせよ、今回の大会は『X−1』戦士を含めた超強豪ぞろいで、まさにいまUFCが格闘技界の〝ド真ん中〟ってことだろうな。

松 だから『X−1』と一緒にするな! いいかげんにしろ!

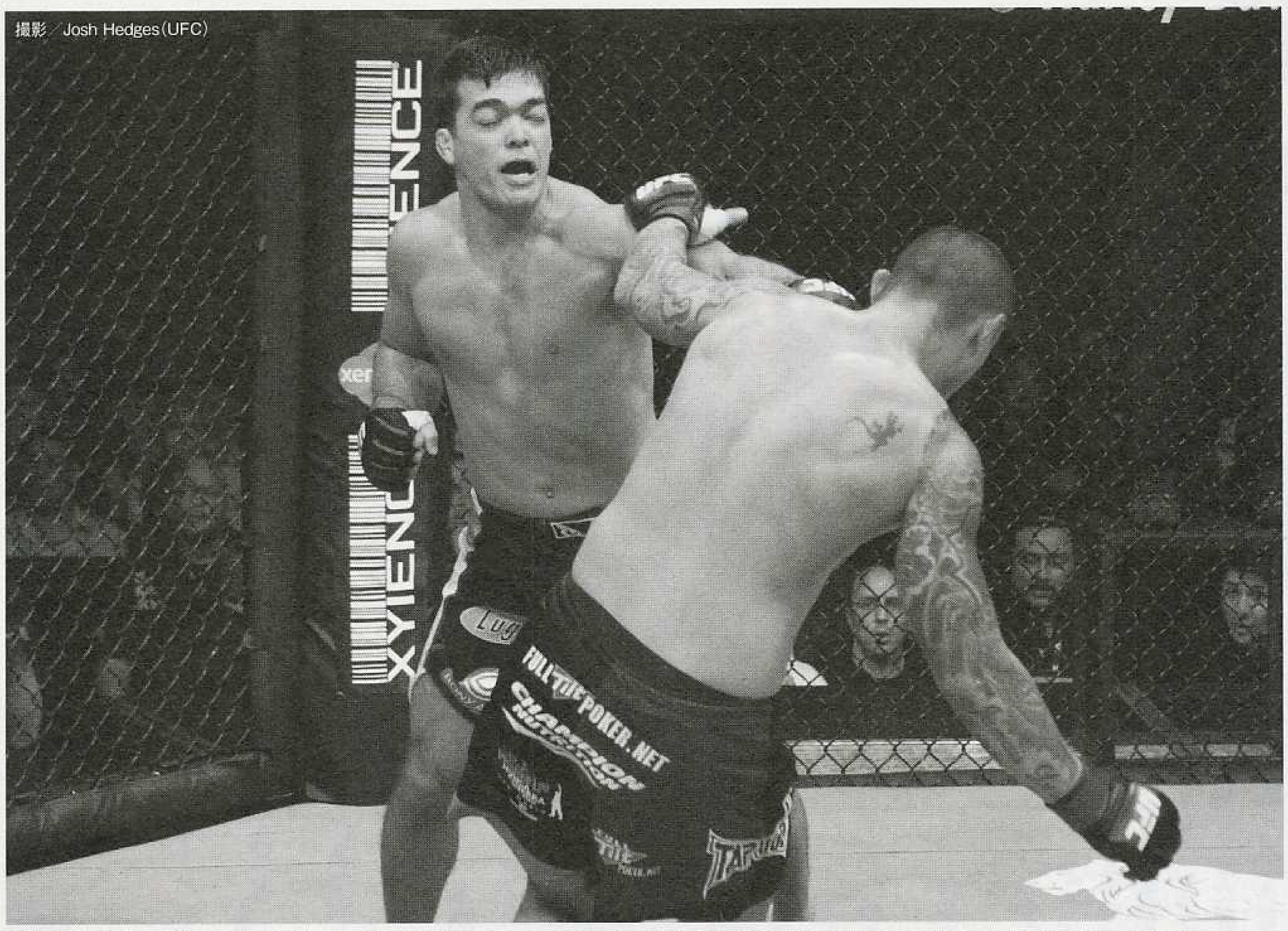
◎『kamipro Move』で毎週火曜日更新の人気連載「ニュース特選! Kamiの1週間」。このコーナーではプロレス&格闘技好きなカントリーロックバンド「アニーラッズ」のボーカルの松さんとギターの竹内さんが、1週間のマット界で起こった気になる出来事を語りまくり! 興味を持った方は『kamipro Move』にレッツ・加入!!

椎名基樹のサムライ三昧

第34回

『UFCとダイナマイト・キッド』

撮影／Josh Hedges(UFC)



1.31『UFC94』で13戦無敗同士のチアゴ・シウバと対戦したリョートは1ラウンド終了間際、飛び込んでのパウンドで完勝。いよいよ、タイトル挑戦か？

ダイナマイト・キッド自伝『ピュア・ダイナマイト』をまた読破してしまった。何度も同じ本を読むことなどほとんどないのだが、この本は3回は読破したと思う。ベッドの脇に置いて、ペラペラと好きな所をめくって読んだのを含めると4回くらいは読んだかもしれない。

この本の中でハーリー・レイスがマヌケに、しかし恐ろしく、じつに愛すべきキャラに描かれているので、興味を覚えてAmazonでレイスの自伝も取り寄せてみた。NWAの世界王者は組織上層部の会議で決められていたことなど、目からウロコなおもしろい部分もたくさんあったのだが、やはり自分で自分のことを書いているので、どーもカッコつけていて期待通りではなかった。あたりまえといえばあたりまえか。

病気やケガなど波乱に満ちたレイスのレスラー人生であったが、現在はB・Jという名の素晴らしい奥さんとともに幸せに暮らしているとのことで、壮絶という他ないあまりにも多くのアメリカンレスラーの非業の死を思うと、よかったなと胸をなで下ろす。

と、多少強引ではあるが、レイスの奥様と同じ名のUFCライト級王者BJペンとウェルター級王者のジョルジュ・サンピエール（GSP）が激突した『UFC94』。ズッファ最高のカードと煽られた現在のMMAの完成型と誰もが認める二人の対決だけに、俄然注目していた。

が、蓋を開けてみればGSPの圧勝。拍子抜けすらした。しかも、試合後GSPのヌルヌルぶりが告発される尾ひれがついた。さらに過去の試合でもGSPにヌルヌル疑惑が……。

郷野選手やWOWOWの解説の方も、GSPの公開練習を見てその強さに舌を巻いていただけに、なぜヌルヌルしてしまったのか、非常に残念に思う。ちょっとナルシズムが強い人ってヌルヌルしやすい？

この『UFC94』で最も強烈なインパクトを与えたのは、我らがアントニオ猪木の息が掛かるリョート・マチダ。チアゴ・シウバとのMMA13戦無敗同士の闘いを、パウンド1発でKO。その強さばかりが目立った。

リョートといえば、よく言えばオクタゴンの広さを利用したヒット&アウェー&アウェー&アウェーな負けない闘い方をする印象で、デビュー以来無敗とはいえ、その強さに「？」が付いていたのだが、今回の試合で見違えてしまった。

身体も大きくなり、筋骨隆々といった感じではないのだが、ガッチリとして体幹がいかにも強そうに見える。それを表わすように、フィニッシュに至るコンビネーションは、一瞬の隙を突いて、小外刈りで倒し、シウバがガードの体勢に戻すのを仁王立ちで眺めながら、そのまま立ったまま右ストレートのパウンド。思いっきりのよさが、一撃KOとなった。

ライトヘビー級王者のラシャド・エバンスや、クイントン・″ランペイジ″・ジャクソンと比べても遜色なく、対戦が待たれる。リョートの何がよいかって、セオリー通りの他の選手と違って、前記した小外刈りや、空手仕込みの蹴り、その蹴りを活かす距離の取り方など、戦術が個性的で、それでいてそれが自身の中で練られ完成されていることだ。この先MMAの可能性を広げる選手になるかもしれない。

それにしても、初来日のまだ海のものとも山のものともつかぬリョートが、試合後、猪木になぜだかわからぬが（おそらく猪木が目立ちたかったため）顔面に鉄拳を浴びた後、もの凄くニッコリと笑ったのを見て、ただ者じゃないなと感じたものの、ここまで大物になるとは夢にも思わなかった。是非ライトヘビー級王者になってもらいたい。次戦はジャクソン戦希望。

またこの大会は宇野薫選手や山本KID選手など多くの日本人選手が観戦。宇野選手はUFC復帰を直談判して「おまえはUFCのファミリーだ」と好感触を得たとか。UFCに日本人選手が上がるのは大歓迎であるが、正直現在、岡見勇信選手以外勝てる気がしないのが残念。

この日、ジョン・フィッチと対戦した郷野選手も、相手が強いとはいえ、正直どこに勝機を見いだしているのかわからなかった。ノサれるほど力の開きはないが、勝ちきれないというのが日本人選手の現状だ。

勝手な言い方だが、UFCで一番上まで行くんだという気概は正直感じられない。だって郷野選手も長南選手も、そろそろUFCでの立場も危ないでしょ？　せっかく世界最高峰で闘っているのだから。もっとその姿を見ていたいのだけど……。

ところでKID選手だが、UFCに行く前に、是非是非、DREAMのフェザー級GPには出場してほしい。発表されたメンバーを見ると、日本人はこの階級が一番層が厚いんじゃないかと思わせる素晴らしいメンバー。

今成選手を筆頭に、高谷選手、天才的なウィッキー聡生選手、もちろん、ほかの出場選手の誰をとっても興味深いカードになりそうだ。ここにKID選手が加われば、メジャー度もアップ。きっといい大会になるに違いない。



現在もエンターブレインから好評発売中の自伝『ピュア・ダイナマイト』では今号で特集しているステロイドの常用を告白していたキッド。現在はステロイドの影響で下半身不随となり車椅子生活を送っているというキッドだが、はたして再来日はあるのだろうか？

DDT外伝 by高木三四郎社長
リングを捨て町へ出よう!?
契約更改公開 第9回

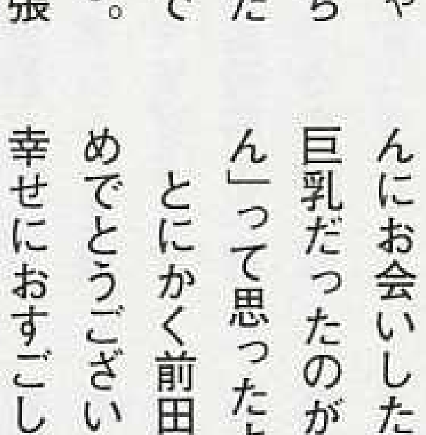
今年も契約更改の季節がやってまいりました！　俺様が社長を務める有限会社DDTプロレスリングでは選手の契約更改を毎年1月に行なっています。これはたしか自分の経営体制になってからのことで、その前の経営体制のときは5月後半だったと思います。
なんで1月にしたかというと、新日本プロレスさんが1月に行なっているから、それにならったんだと思います。実際この時期ってウチも年末のビッグマッチ明けで、わりとリニューアルする時期だったりするので、ちょうどタイミングがよかったりします。
でも毎年この時期になるとけっこうドキドキするんですよ。自分が始めてから一年目に佐々木貴が離脱、二年目に「昭和」子（現バンビ）が離脱、三年目で橋本友彦が離脱とけっこう笑えなかったですね。
そして一昨年ぐらいからそういった離脱劇も落ち着いてきたので契約更改を公表するようになりました。これもなんで公表し始めたのかな……。ん～、たしかこれも新日本プロレスさんにならったんだと思います（笑）。でも今回コラムを書くにあたって『kamipro』さんに聞いた話だとアレは団体サイドから公表しているわけではなくて現場で取材したマスコミさんが単に取材した内容を掲載していただけだったんですね。初めて知りましたよ。それを知らないで契約更改の内容をリリースして公表してたウチはいったい（笑）。
まあ、おもいっきり勘違いから入ったわけですが、ファンの方からはアレはネタなんでしょう？　と毎年聞かれるのですが、ほとんど真実です。ネタなんかじゃありません。とくに飯伏幸太。2007年は「学生プロレス、アマチュアプロレスへの参戦」、2008年は「公園、海でのプロレス」、そして今年は「怪獣プロレス、香港の学プロへの参戦」と全部本人の言葉です。一切イジってません。まあウチは〝自由〟がモットーだからね。飯伏だけじゃなくて、みんなの言い分を聞いて、なるべくそれに沿うようにしてますよ。大変ですけどね。決して満足できるギャラを支払ってるわけでもないから、それぐらいは会社がやらないと。
そんなわけで毎年気が重い契約更改ですが今年も無事終了しました。えっ？　中澤マイケルがまだだって？　ちなみにマイケルは昨年、押忍闘夢に移籍したのですが、戻ってくる際にDDTと正式な契約はしてなかったのです。つまりマイケルは昨年からずっとフリーでした（爆）。
というわけで、2009年度も中澤マイケルのいないDDTをよろしくお願いします！


今年の契約公開後には「怪獣ビッグバトルに出たいです。http://www.kbbu.net/home/」というシンプルかつ、らしいコメントを発表した飯伏。怪獣ビッグバトルがどんなものかはアドレス先をチェック！

Sanshiro Takagi ◎DDTプロレスリングの社長兼レスラー。1970年1月13日、大阪府出身。趣味は高級時計収集。更新頻度もかなり多めで好評の高木三四郎の「新宿御苑ではたらく社長レスラーのブログ」アドレスは→http://blog.livedoor.jp/t346/

金ちゃんのどこまでやるの？
第32回 前田さんの結婚式の巻

先月は前田（日明）さんの結婚式に行ってきたよ。
前田さんの結婚式は、まず披露宴会場のデカさと、集まった人たち多さにビックリしたよ。300人ぐらい集まったからね。それはそれは盛大だったよ。あまりにも人が多くて、誰が誰だかわからなくなるくらいだったけどね。
でも今回、前田さんの結婚式で何が驚いたって、俺の席なのよ。俺の席があるテーブルっていうのが、まさに〝男の中の男たち〟が集合しちゃってさ。まず俺の左隣に真樹日佐夫先生がいてさ、その隣が藤原敏男先生で、あとはシーザー武志会長でしょ。このあいだの『kamipro』で「男」特集として出てきた人たちが勢揃いだったんだよ（笑）。
あとは俺の逆隣にサクがいて、小林聡さんがいて、小比類巻選手がいてって感じなんだけど、ここは『kamipro』出演者を集めたテーブルなんじゃないかって思ったよ（笑）。
だけど、これだけの濃いメンバーだからまいっちゃったよ。だって、やっぱり真樹先生とかが座ってると、いろんな人が挨拶に来るわけじゃん。緊張するよね。だって石井（元）館長まで挨拶に来てたからね。
俺は梶原一騎さんの弟さんとしての認識しかなかったんだけど、あらためて凄い人なんだなって思ったよね。結婚式にピンクのスーツで来てたのが、またカッコよかったよね。
そういえば昔、前田さんに「真樹先生と一緒にクルーザーで釣りに行くから、金原おまえも一緒に行くか」って言われたことあるんだよ。でも、真樹先生と何をしゃべったらいいかわからないし、緊張しちゃうから、そのときは丁寧にお断りしたんだよね。そしたら前田さんの結婚式で同じテーブルになるとは思わなかったよ。ホント、男の中の男たちに囲まれて、緊張したけど、幸せな気分だったね。
で、U系の結婚式といえば、やっぱりみんな酔っぱらってハメを外してメチャクチャになるのが恒例じゃん。俺の結婚式なんて、ホントにメチャクチャだったから（苦笑）。前田さんも昔、角田（信朗）さんの結婚式で、一番いい場面で「オ○コ――ッ！」とか叫んでメチャクチャにしたことがあって、なぜかそのときの映像も流れてね（笑）。角田さん自身も挨拶で「今日はやり返したいと思います（笑）」みたいなことを言ってたんだけど、さすがに前田さんは自身は泥酔することはなかったね。
他人の結婚式では、よく乱れるのに、自分の結婚式ではちゃんとしてるんだよ（笑）。俺なんて自分の結婚式のときは、Uインターとかリングスの選手みんなに飲まされて、最後の挨拶のとき、ゲェ～っておもいきり吐いちゃって。みんなから「シンガポールのマーライオン」って言われたからね（笑）。
やっぱり、ほかのU系の選手の結婚式のときは、勝手知ったる仲間たちばかりだから、みんなでドンチャンやる感じだけど、前田さんの結婚式はいろんな人たちが来てたからね。そこでU系の宴会のノリでやるわけにはいかなかったんじゃないかな。
でも、吉川晃司さんが歌ったり、永ちゃん（矢沢永吉）からお祝いのメッセージが届いたり、有名な人がたくさん来てて、あらためて前田さんの顔の広さを感じたよ。
あと、初めて前田さんの奥さんにお会いしたけど、やっぱり巨乳だったのが「さすが前田さん」って思ったよね（笑）。
とにかく前田さん、ご結婚おめでとうございます。末永くお幸せにおすごしください！



Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

GO FOR BROKE! 獄門記

No.1 Commentator MASA RU-CHA 第9回



マサさんが観たブロック・レスナー

MMA4戦目にして、UFCの頂点であるヘビー級王座を獲得した怪物ブロック・レスナー。そのレスナーと家族ぐるみの付き合いがあるマサさんにビデオで初めてブロック・レスナーのMMAマッチ(ランディ・クートゥアー戦)を観てもらった。はたして感想はいかに?

――マサさん、いまブロック・レスナーのタイトルマッチをご覧いただいたわけですけど、いかがでしたか?

マサ　ブロックは強いね! 驚いたよ。やっぱりレスリングやってるから、うまいよな。足の取り方、タックル、それからグラウンドコントロール。あと意外とボクシングもうまいんだなって思ったよ。前に本人から聞いたんだけど、5人ぐらいスパーリングパートナーがいるらしいからね。

――マサさんは昨年、レスナーの自宅まで行ってるんですよね。

マサ　うん。ブロックの自宅はね、敷地面積が凄く広いから、森の中にあるような感じなんだよ。敷地の中に湖まであるからね。その湖畔に家を建てて、家の向かいに自分専用のジムがあるんだよ。

――どんなジムなんですか?

マサ　一軒家でリングはないけど、レスリングマットとマシンがあるんだよ。金網はないけど、サウナなんかもあってね。サンドバッグとか、一通り揃ってるんだよ。

――プライベートでそんなジムがあって凄いですね。

マサ　ドン・フライともまた違ったな。

――フライの練習場はどんな感じなんですか?

マサ　フライのジムは馬屋なんだよ。

――馬屋!?

マサ　そう。馬がいる馬屋の中にサンドバッグがあるんだよ(笑)。

――そんなワイルドすぎるプライベートジムですか!(笑)。

マサ　レスリングはちゃんとしたクラブでやって、ボクシングジムにも行ってるみたいだけど、自宅で練習するときは、馬屋でサンドバッグ叩いてるんだよ。

――さすが男塾塾長ですね(笑)。

マサ(佐々木)健介もそこでトレーニングしてたんだよ。

――あ、そうなんですか。

マサ　一時期、シュートの練習してたとき、6カ月行ってたんだよ。よくやったよな、ドンは厳しいから。

――そうなんですか。

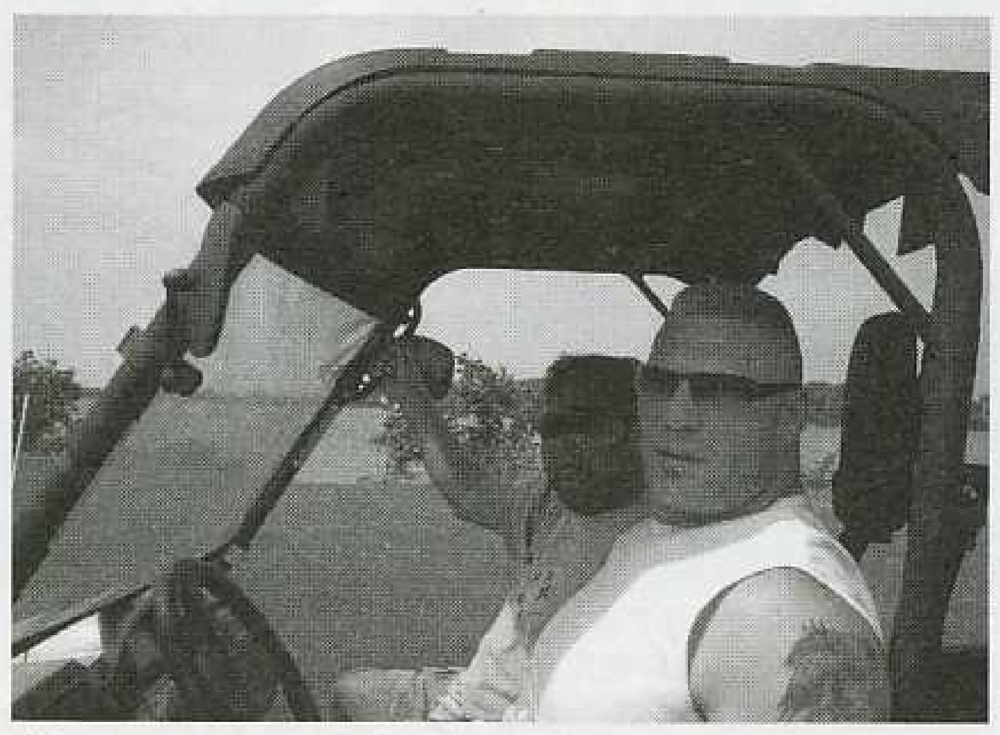
マサ　ブライアン(・ジョンストン)は優しいんだけど、ドンは厳しくて突き放すからね。我慢強い健介だから耐えられたんだよ。亡くなった橋本だったら、一日で逃げ出すんじゃない? あんな娯楽もなんにもないところ、橋本は耐えられないよ(笑)。

――ストイックとは無縁な人ですからね(笑)。UFCっていうイベントはいかがですか?

マサ　ビックリしたよ。ラスベガスであれだけでかいショーをやってるんだからな。リングサイドいくらだっけ?

――たしか1000ドルぐらいですね。

マサ　それぐらい払う価値はあるよな。



昨年6月、レスナーの自宅を訪れた際、レスナーが運転するジープに同乗するマサさん。まさに強者は強者を知る。カッコいいぜ!

それでお客も満員でしょ? 会場のムードもいいね。

――観てて燃えてきました?

マサ　興奮するね。俺が昔、ニューヨークでやってたとき、あんな感じだったよ。やっぱりMSGとかボストンのボストンガーデンとかね、2万人近い会場が満員で、お客がエキサイトしてね。それで向こうの会場はすり鉢状になってるから、ヒールが入場してくると、ビール瓶は飛んでくるし、ウィスキーの瓶は飛んでくるし、いろんなもんが飛んでくるんだよ。それをいちいち避けてると、おもしろがってもっと投げてくるから、ビール瓶投げられても平然としてなきゃいけないんだよな。

――いやぁ、凄い時代ですね。あの盛り上がりを見て、ちょっとショックでもあったんじゃないですか?

マサ　ショックだね。WCWだって、もっと頑張っていれば、プロレスもここまで落ちなかったと思うんだけどな。WCWがあってWWEがあって、お互い興行戦争やって、その競争で盛り上がってたのに、いまはそれがないじゃん。

――WWEの独占市場ですからね。そのWWEのスーパースターだったレスナーと出会ったのはいつ頃ですか?

マサ　一番最初に会ったのは、たしかホーク(・ウォリアー)の葬式かなんかだよ。その当時、ブラッド(・レイガンズ)がプロレス教えてたから、そんな関係で仲良くなって、ミネアポリスで一緒にメシ食いに行ったりしたんだよな。

――その頃はもうWWEに行ってる頃ですか?

マサ　もう辞めてたんじゃないかな。WWEや新日本で試合やってるの観たけど、ブロックはプロレスもうまいよ。

――プロレスがうまくてシュートも強くて理想的ですよね。

マサ　でも、本人はもうプロレスやる気ないみたいだけどね。

――対戦相手のランディ・クートゥアーはどうでした?

マサ　彼も凄いね。45歳でしょ? 俺も40歳すぎたら、試合の翌日、身体の疲れが抜けてなかったりしたからね。45でよくやるよな。

――マサさんが45歳ってちょうど巌流島の決闘をやってた頃じゃないですか?

マサ　そうだね。

――じゃあ、マサさんは45歳で2時間以上闘ってるじゃないですか(笑)。

マサ　あ、そうか(笑)。

――マサさんも化け物的ですよ(笑)。

マサ　UFCはマッチメイクもいいね。ブロックはプロレス出身であれだけ身体が大きくて、相手は生粋のアルティメット・ファイターだから。お客もわかりやすくておもしろいんじゃない。そういうマッチメイクもうまいし、やっぱりプロだよな、UFCも。

――そういうプロレス的な要素も入れて興行やってるなって感じですか。

マサ　そうだよな。あと金網っていうのも、お客からすると危険なイメージが湧くから、ああいうギミックもいいね。でも、やるほうは大変だよ。あれはハートが強くなきゃできないよな。倒れた相手を何発も殴るんだから。あれ、ヘタしたら死んじゃうよ。レフェリーがうまく止めてるんだろうけど、当たるところ一つ間違えたら危険だよな。命を懸けて闘ってると思うよ。

――また次の試合も観たいですか?

マサ　できたら現地で観たいね(笑)。

――ブロック・レスナーのタイトルマッチで、オクタゴンサイドにマサさんがいたら最高ですね!

Masa Saito◎60年代末～80年代前半、アメリカンプロレス黄金期を腕一本で渡り歩いたプロレスラーの中のプロレスラーにして、男の中の男。カルピスが大好きだが、いまは甘いものを控えている。



イラスト◎ゴロー・ちゃん

（森の木陰でチェーンソーを振り回して）森林伐採！ アンチスギ花粉代表・掟ポルシェの『萌え萌え女々苑』。今回のゲストは禅道会所属の石岡沙織選手！ かつてスマック三銃士と言われたビジュアルファイターの強さの秘密に迫る！

掟 先日、『週刊プレイボーイ』でグラビアに登場してましたね！ 「水着グラビアもウェルカム」ってことですけど。

石岡 いやいや、そこはちょっと（苦笑）。

掟 「あと3ヵ月待ってください。それまでに見せられる身体を作ります」って書いてましたけど……もう3ヵ月ぐらい経ってるんじゃないですか？

石岡 いや、経ってないです！ 全然無理です！ 見せる予定もないですよ！

掟 でも2月4日の試合から、コスチュームがヘソ出しセパレートになったんですよね？ それは男性ファンの目を意識して？

石岡 （小声で）佐伯（繁）社長に言われて。

掟 ヘソありとなしでは人気が違う、と。正直、『プレイボーイ』から話が来たとき、Hな取材じゃないかと思ったとか？

石岡 どんなふうに載るのかなとは思いましたよね。ちゃんとアスリートとして載せてもらえるとは思ってなかったんで。

掟 スケスケの濡れたTシャツ着せられるかと？

石岡 いや、そこまではないですけど（笑）。でも、キレイに撮ってもらえて嬉しいです。実際の私はこんなんじゃないし。

掟 別人？ みたいな？

石岡 うん、そんな感じです（笑）。

掟 ずっと学生時代は柔道に打ち込んでたとか。高校時代には広島県大会準優勝もしたり。もう毎日練習練習って感じで遊ぶ暇もなかったですか？

石岡 中学はそんな感じでしたね。でも、高校に入ってからは、ちょっと悪いこともしつつ……。

掟 悪いこと？

石岡 いや、悪いことはしてないか（笑）。

掟 なんで言い直すんですか（笑）。昔のブログを見ると、「バイクと車の運転が趣味」だとか。おかげで元暴走族だったとも噂されてますけど（笑）。

石岡 昔はちょっとそんな話はあったんですけど、最近は消えてるんで、あんまり掘り返さないでもらえませんか（笑）。

掟 蒸し返すなと（笑）。え～、ケンカ系、走り屋系、どっちですか？

石岡 いやいや、全然そんな！

掟 趣味で30人ぐらいで峠を攻めたりとか？ 100キロオーバーで運転したり？



いしおか・さおり■1987年9月13日、広島県出身。高校時代まで柔道部で活躍。その後、上京し、空手道禅道会小金井道場に所属し、07年3月のスマックガールでの高林恭子戦でプロデビュー。昨年11月に旗揚げしたジュエルス新宿大会のメインで長野美香との美女対決を制すると、2.4ジュエルス新宿大会でもメインに登場し、プロレスラーの小林華子に勝利。今後の活躍が期待されるビジュアル戦士。156cm、51kg。ブログアドレス→http://blog.livedoor.jp/saori_i/

石岡 ……まぁ、100キロはよく超えてましたねぇ（笑）。

掟 え～、高速道路での話だということにしておきます！ ちなみに車は何に乗ってたんですか？

石岡 普通の。

掟 普通の竹槍がついた車とか？

石岡 いやいやいや！ でもミッションだったんで。凄い、これ（左手でカチャカチャやりながら）が楽しくて。18歳で免許取ってすぐに車を買って。ギアに夢中で前を見てなかったんですよ（笑）。

掟 エ～ッ!? それ、死にますよ！

石岡 そのままガードレールに激突して、横転してしまって。中古で30万の車だったんですけど、1ヵ月経たないうちにダメにしちゃいましたね。

掟 軽く臨死体験じゃないですか！

石岡 そうです、そうです。逆さになって、窓を開けて脱出しました。凄い経験を30万でさせてもらいました（笑）。

掟 横転した瞬間、「あ、ヤバイ。死んだ」とか思いました？

石岡 「ヤバイ、ヤバイ」とは思いましたけどね。でも、それ以来ちゃんとシートベルトするようになりました。

掟 あの、それ、あたりまえです！

石岡 昔はそういうのはなかったんで！

掟 まあ、3年前はシートベルトもしなくて大丈夫……じゃないですよ！ でも、ヤンキーカルチャーがまだまだ盛んな広島ですからね。基本バイクもノーヘルでオッケーですよね？

石岡 そうそうそう（笑）。

掟 え～、冗談はこのくらいにしまして（笑）、柔道は高校卒業とともに一区切りして、ちょっと違うこともやってみようかと空手の道に入られたと？ 禅道会を選んだのは？

石岡 家から近かったんですよ。それぐらいの理由で（笑）。

掟 いまは少年部の指導もされてるみたいですけど、けっこう子どもたちにナメられるようで（笑）。

石岡 そうなんですよ（笑）。昔は凄く子どもが好きで、早く赤ちゃん産みたいなぁって思ってたんですけど、少年部を指導するようになって、「子どもはいらない」みたいな（笑）。もう、生意気ですよ！

掟 シメましょう！ 力で！

石岡 でも、お母さんとか見てるんですよ？

掟 大丈夫です！ お母さんにも「ウチは顔面パンチありですから」って説明しておけば！

石岡 しばきたいのにしばけないもどかしさが（笑）……まあ、そのへんは話半分で聞いてください！

掟 この連載で必ず聞いてるのが好みのタイプのことなんですけど、どういった人が好きですか？

石岡 あ～。私、ちょっと変わったことやってるじゃないですか？ それを理解してくれる人がいいです。

掟 理解があれば誰でもいい？ 『kamipro』読者なんて理解力だけなら異常にありますよ！ ヘタすりゃ読者全員にチャンスがあります！

石岡 アハハハハハ！

掟 もうちょっとハードル上げましょう！ 彼氏に求める条件とかあります？

石岡 誠実で。

掟 誠実さですか……いままでいろいろあったんでしょうねぇ。

石岡 ブッ！（突然吹き出す）。そこは伏せておいてください（笑）。

掟 これ以上は聞かないでおきます！ ルックスで話題になることが多い石岡さんですけど、「顔だけじゃないって思わせたい。むしろ試合で惚れてほしい」と。まずは試合を観てもらいたいという気持ちが強いんですね。

石岡 顔で評価してほしくないけど、興味を持ってもらうためには顔を出していかないといけないなって思うんですよ。

掟 まあ、取っかかりはそこですよね。……って言いながらも、いますっぴんですよね？

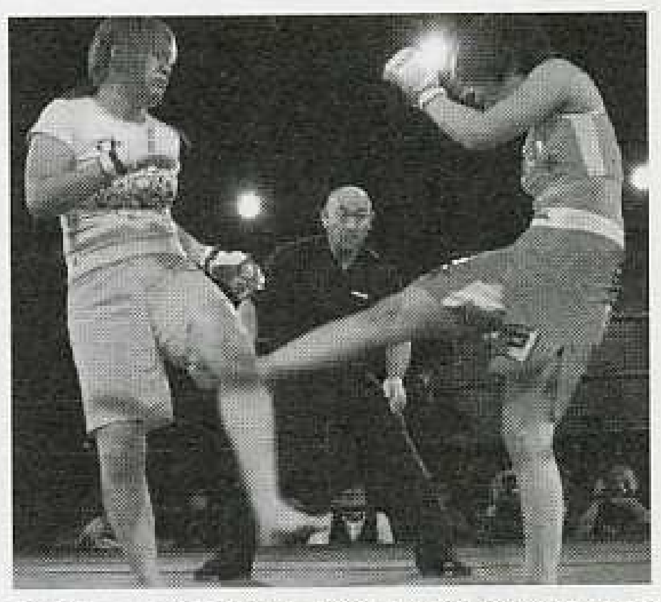
石岡 は、はい（笑）。すいません！

掟 いやいや、全然いけますよ！

石岡 これから練習があるので、化粧できなくて。でも、もともとメイクはしないんですよ。（小声で）お金も時間もかかるんで（笑）。

掟 単に面倒くさがりなだけっぽいです！

Okite Porsche ©掟ポルシェ■3・7（土）渋谷HMVで、スウェディッシュポップアイドルのバニラビーンズCD発売記念イベントでトーク司会をやる予定です。その他の情報は掟ポルシェブログを死ぬ気でチェック！【http://porsche.exblog.jp/】


2.4ジュエルス新宿大会では伊藤道場所属の女子プロレスラー、小林華子と対戦した石岡。強烈なローキックに戸惑いながらも怒濤のラッシュで1ラウンドTKO勝利を飾った石岡は試合後には客席にチョコをプレゼント！

佐藤譲
入場曲五十三次

イラスト◎エロコエロオ

第12回
迷走するずっこけキャラ、ナットーマンの入場曲を考える

Yuzuru Sato ◎1976年、静岡県生まれ、千葉県育ち。クラブミュージックなど音楽の解説を書いたり放送作家をやったりしています。最近の中嶋くんとKENTAさんのやりとりを腐女子はどう思ってるのか気になってます。

1月29日の『ハッスル』後楽園大会では、レイ大原がフィーチャーされていたり、＼(ﾟoﾟ)／チエさんとKGさんが喧嘩したり、ボノくんの入場曲が『はじめてのおつかい』の『ドレミファだいじょーぶ』に変わっていたりして、随所でテーマである「CHANGE」が展開され、それぞれのキャラと物語が強化されていました。

で、問題はナットーマンです。これまでせっかくズッコケキャラを貫いてきたのに、今回は普通に活躍。「CHANGE」どころか完全に先行き不透明です。

ナットーマンは昨年の茨城大会で初登場した坂田亘さんの新キャラ。「大豆（大事）な場面でやってくる」「腹筋、背筋、納豆菌」という微妙なVTR、初試合時にバク転失敗で頭から突っ込み、動けなくなるなど、ハッスル随一のがっかりキャラに認定されたズッコケヒーローです。

その後、誰もが茨城大会限定キャラと思う中、空気を読まずに継続が確定。以降、救出に間に合わない、RGにまでバカにされるなど、常に会場の空気を「寒い以上、笑える未満」という非常にアンニュイな真空状態へと陥れてきました。

とはいえ、最近はズッコケ路線も浸透し、ようやく楽しむ人が出始めてきていたところ。それだけに今回の普通の活躍には困惑してしまった次第です。

そこであらためて今後の方向性を予測すべくナットーマンの入場曲を調べると、なんと著作権フリーの名なし音源という驚愕の事実が発覚。入場曲も方向性がゼロでした。おそらく自分で選んだ曲ではないのでしょう。主張がまったく見えません。

ちなみに過去の入場曲は、ガンズ『PARADICE CITY』、2アンリミテッド『DO WHAT'S GOOD FOR ME』、トリップホップな『DEPENSON』、ZERO-ONE時代のカール・オルフのカンタータ『CARMINA BURANA』、ハッスル時代のサンタ・エスメラルダのディスコ『DON'T LET ME BE MISUNDERSTOOD』とこれも見事にバラバラ。長州さんでなくとも「ぬぁ～にがしたいんだタココラ！」と言いたくなります。

思えばハッスルにおける坂田さんは、主張があるようでない人でした。崔さんやマーク・コールマンさんたちと軍団を結成したり、GMに就任しても目的がないため長続きしません。常に「天下を獲る」と言ってはいるのですが、その先の具体的なビジョンがなく、いつも高田総統にネタにされる始末です。

エースとしてやる気はあったものの、輝くことができたのは07年『ハッスル・マニア』で小池栄子さんの協力によりザ・エスペランサーに勝利し、涙のフィナーレで感動を誘ったのが最後。

以後チャンスはもらっても、観客の共感は得られず、ボノちゃんや川田さんに主役を奪われてしまいます。その結果がナットーマンへとつながっているわけです。

主人公として物語を牽引できない以上、覚悟を決めて会場を盛り上げるバイ・プレイヤーを目指すべきでしょう。先日の後楽園ではコーナーポストに隠れてカメラ目線でかわいさをアピールする小技を見せるなど、笑いへの意外な順応性を見せていました。たぶんズッコケ路線、可能性あると思うんですよね。

まずは決意の証として、入場曲を中田ヤスタカさんの昔のユニットSYNC⇕SYNCの幻の未発表曲「冷蔵庫に納豆」に「CHANGE」してはどうでしょう。恋と納豆がテーマの小粋なアイドルポップ。きっとナットーマンの入場をシュールに盛り上げてくれるはずです。

鉄火場 ゴングショー
賭博とは極上のプロレスである

田中太陽の十二本場
地下プロレスと梶原一騎

Taiyou Tanaka ◎日本プロ麻雀協会所属のフリープロ。“観戦記の鬼”として一部の麻雀ファンのあいだで根強い人気を誇る。

「へんにセンチになることはねぇ！　おれにとって強さだけが真理、正義！　おれの真理、正義をまもっただけのこと！」

今回は梶原一騎の代表作として知られる『空手バカ一代』より。極真空手の創始者である大山倍達を主人公とし、その生涯を描いた名作である。作中において倍達は敵の罠にはめられてしまうのだが、彼を窮地から救ったのはかつてのライバル、イワノフ・ロゴスキーであった。冒頭のセリフはその際にロゴスキーが発したものというわけなのだが、こうしたライバル同士の邂逅的なエピソードは、今日の少年マンガなどにも受け継がれている代表的な梶原イズムといえる。

さて、そのロゴスキーだが、作中では「地下プロレスの帝王」という、古き良きプロレスファンにはおなじみな役割を与えられている。かつてこの〝地下プロレス〟という単語が、計りしれないロマンによって支えられていた時代があったのだ。

そのイメージを支えた背景といえば、一つはもちろん〝真剣勝負〟だ。地下の薄暗い会場で、限られた観客だけを相手に繰り広げられるデスマッチである。

そしてもう一つの重要な要素が〝ギャンブル〟なのだ。あらゆるフィクションに登場する地下プロレスにおいては、その勝敗に大金を賭けられることがほぼ前提となっている。これは〝危険な世界〟という演出のみにとどまらず、大金が動くことによって利益が発生し、運営が成り立つという、一つのリアリズム描写にもつながってる必要不可欠な要素なのだ。

ということはプロレスとギャンブルの共通項を探し求める当コラムにおいて、地下プロレスのもつイメージはきわめて重要度が高いということになる。ならば深く考えてみる必要があるだろう。いったいなぜ、〝地下プロレス〟はあんなにもオールドファンの心を躍らせたのか？

もともと誰が言い出したのか、あるいは本当にそうだったのかは誰も知らないが、地下プロレスといえば18世紀のヨーロッパ。非合法組織の仕切るもと、暗黒街にて定期的に開催されていたというのがおなじみの設定となっている。これはドイツ出身のプロレスラー、ローラン・ボックが〝地下プロレスの帝王〟を名乗っていたことにもつながるだろう。

もちろん当時MMAのようなものは存在せず、人々は真剣勝負に対して憧れじみたものを抱いていた。そこにプロレスファンが求めるようないかがわしさ、つまりは〝命懸けの殺し合い〟や〝大金が動くギャンブル場〟といった非合法なイメージが伴うことにより、人々は地下プロレスの存在を「信じたい」と思うようになったのかもしれない。

そこに目をつけて、虚実ないまぜのエンターテインメントとして成立させたのが梶原一騎だった。冒頭の『空手バカ一代』のようなヒット作の中に地下プロレスを登場させることにより、ファンのイメージはますますもって確立されてゆく。

つまりはフィクションとノンフィクションの境目を愛するようなプロレスファンにとって、地下プロレスのイメージは〝真剣勝負の舞台〟として受け入れやすかったのだろう。その橋渡しを行なった者として、やはり梶原一騎の功績は大きい。

いまでもそんな地下プロレス的イメージをコンセプトとした『EXIT』という団体があるのだが、そこにもまた紅闘志也やロゴフスキーといった、梶原作品から引用したと思われる選手名がちらほら見られたりもする。やはり梶原一騎は偉大すぎたという結論なのだが、よくよく考えたらギャンブルと梶原節はあまり関係ないのであった。

FEBRUARY号へのお便り紹介

川尻選手の記事がよかったです！　武田戦に臨む心境やMMA（DREAM）を背負って闘う、負けられない気持ち、武田選手に対する尊敬の気持ちがよく伝わるたいへん興味ある記事でした。
【静岡県・小田川真さん・公務員・35歳】

D タツヤの大晦日の活躍はグレイトだったぜ！　今回、おもしろかった記事のハガキ票数はタツヤが一番多かったって聞いたしな。タツヤに勧められて『20世紀少年』を読破した日々が懐かしいぜ（遠くを見つめて）。おっと、タツヤはもしかして映画版も観に行くつもりかい？

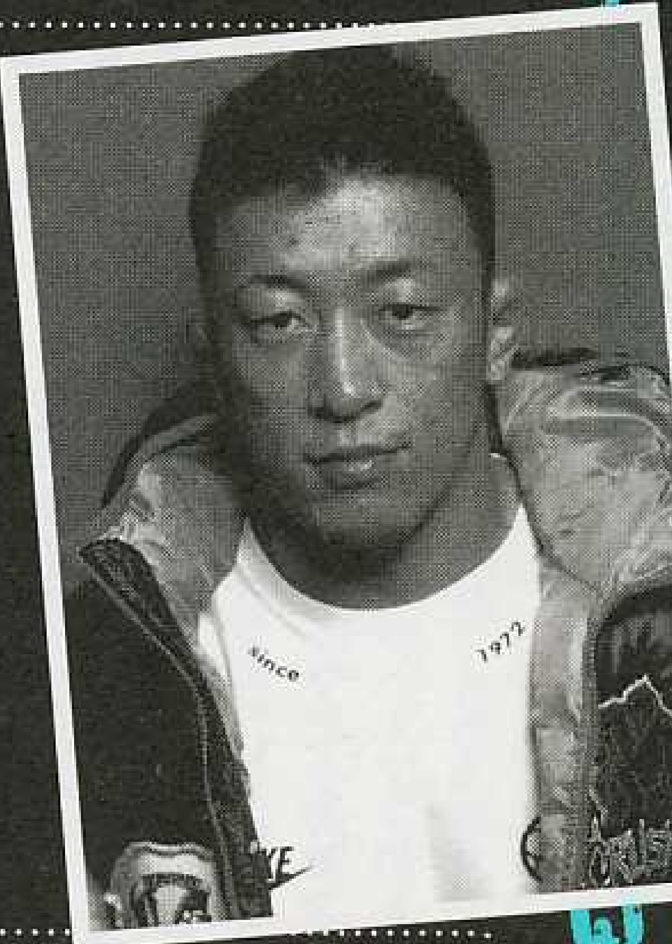
「五味隆典はこれからだ!!」の記事が響いた。五味選手の負けはPRIDEから見てる私にしてみればショックが大きいものでした。そして『戦極』看板選手の三崎、吉田選手が負けて、時代が変わりつつある格闘技界の現実をまだ受け入れられません。
【福島県・吉内慎さん・会社員・33歳】

D そんな悲しいことを言うもんじゃないぜ。たとえそうだとしても、新しい時代がやってくることを喜んだほうが、ずっと楽しめるってもんだ。ん？　たまにはいいことを言うじゃないか、って思ったのかい？　クックック。もちろん受け売りだ！（充血）。

ったい全体どーなっているんだい？　それはこっちのセリフだぜ！　こんなやりとりを一度やってみたいと思っているオレは、ユーたちのフレンズ、読者ペイジ・ジャクソンさ！　今号もよろしくな。しかし、最近はフェザー級が慌ただしいみたいじゃないか。ちなみにオレも体重65キロだから、『戦極』さん、ヨロシク頼むぜ！　おっと、阿修羅チョロもフェザー級への出場を狙ってるって？……どっちをとるかはわかってるよな、『戦極』さんよお!!







ひさしぶりのダナ・ホワイトUFC代表インタビューがおもしろかったです。石井慧選手をリアリティショーに参加させる案はインパクトがありますね。もしかすると石井選手はマシ・オカを超えるかも？
【兵庫県・春名義行さん・会社員・42歳】

D サトシをTUFに参加させるのかい？　そりゃ、いいな！　TUFといえば、昔『kami-pro』にいたヒデト・ウエスギを参加させようってプランがあったらしいじゃないか。オレはそっちのプランのほうがよかったなあ。

青木選手もよかったけど、やっぱり我らがキモ強・北岡悟インタビュー！　パンクラス時代から苦労しているのを見ていたので、本当に最高の笑顔を見られて嬉しい！
【石川県・浅井清治さん・会社員・36歳】

D 最近、サトルがイヤに人気じゃないか。世の中、どうかしてるぜ。ところで、サトルといえば、日サロ疑惑があるのは本当か？　もし、そうなら、オレにも教えろ！　オレは色白なんだ。そして、もち肌だ。

マッスル坂井が語る「『柔道部物語』とは何か？」がおもしろかった。マッスル坂井の高校時代の彼女が、巨乳で原田ひろみ似というのが本気でうらやましいと思いました。
【北海道・安倍正典さん・フリーター・36歳】

D ガールといえば、最近オレは『kami-pro.com』のフォトニュースに大注目している。ジョシカクファイターのフォトがどんどんアップされているんだ。ちなみに、オレのおすすめは石岡さんだ（ポッ）。ユーは誰が好みなんだい？　恥ずかしがらずに言ってみろよお〜。

FEBRUARY号 おもしろかった記事 RANKING

NO.1 川尻達也
NO.2 青木真也
NO.3 マッスル坂井の『柔道部物語』
NO.4 北岡悟
NO.5 ヴァンダレイ・シウバ

ついにタツヤがやってくれたな！　09年一発目の『kamipro』でトップを飾るなんてヤルじゃないか！　オレなんて『kamipro』No.131の「おもしろくなかった記事」のベスト5に入ってるのに……。まったく水を開けられたもんだな。スターになったからって、オレとの友情が終わりだなんて言わないでくれよ！　え？　もともとフレンズじゃないだって？

堀辺さんの柔道の話がおもしろかった。柔道の歴史を読んだことで、柔道に対しての印象が変わった。要は心意気ではないか。そういう視点から石井選手を、柔道を見ていこうと思った。
【東京都・森宏之さん・会社員・30歳】

D 「ココロイキ」か。ジャパニーズはなんでも精神論で話をまとめようとするからオレはキライだ！　しかし、オレもジャパニーズ流の便利な言葉を知っている。困ったときはジャパニーズでは「不甲斐ない」という言葉を連発しろと教わったぜ。「おまえ、またミスしてるじゃないか！」「不甲斐ないデス」、「もう別れましょう……」「不甲斐ないデス」。以上だ！

「NEWSで振り返るマット界2008」がよかった。やはりこういう総まとめ的特集があるとあとあと便利ですよね。時系列でものを調べたいとき役立ちます！　中でも「表紙の裏話」はおもしろかった！　いまになってから、ここでしか読めない話でした！
【埼玉県・坂上わかこさん・会社員・33歳】

D オレなんかは振り返り企画を読むと、やっと新年を迎えられたような気持ちになるんだ。ちなみに、ユーたちは年賀状をもらえたのかい？　もう2月も後半になるが、オレはまだ1枚も来ていない！　喪中じゃないぞ。

DEEP佐伯さんの記事がよかった。内容を読む前に青木選手の表題だけで笑えました。でも読んでみたら本

神奈川県・亜衣さん／タツヤはここでも人気だな！　最初は応援してたけど……、ここまでくると若干ジェラシーが入ってくるぜ。チッキショー！

大阪府・剣洋人さん／「これは、DREAMフェザー級GPに出場するマサカズ・イマナリかい？　これじゃ、とんだ仙人だな。アッハッハッハ！

2月は「逃げる」？
そんなこと言ってる
場合じゃないぞ。





東京都・サカモトカズヤさん／最近、サダハルンバのイラストがよく届くじゃないか。彼はいじられるのがフェイバリットなようだから、どんどん送ってくれよ！



埼玉県・超人とおるさん／『Dynamite!!』で大ブレイクしたダイスケだな！　M-1グローバルのMr.ワジムはダイスケのことを最も注目しているファイターと言ったそうじゃないか。ちょっと政治を感じるぜ。

目撃情報が止まらない！

★渋谷でベルトを持っていた北岡さん(笑)を目撃した人のビックリな報告がmixiに載ってました。
【千葉県・高橋朋子さん】

★大晦日の朝方、メルヴィン・マヌーフが白人の女の人と六本木の街を歩いていたという目撃情報を得ました。トレーニングウェアを着て散歩しているとか、そんな感じで遊んだ帰りだったのではないかということです。
【東京都・能登さん】

★先日、世田谷のとあるスーパーでアンディ・オロゴンを発見しました。夜だったので、本人かどうか確かではないかもしれませんが、直感的にそうだと思います。友人と一緒に『サミット』の袋を手に提げて出てきました。友人も外国人でしたが、日本語でしゃべってるようで、素晴らしいなと思いました。
【kamipro.com投稿】

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!

"読者ペイジ"ジャクソン

131号へのお便り紹介

青木真也×北岡悟「世界で一番図に乗ってる対談」がおもしろかった。青木サンと話をしている北岡サンは、普通っぽく感じて凄く新鮮でした!! 試合のときの「どうかと思う」状態（←こわいよぉ）と別人!! まぁ、いつもあれでは本当にどうかと思いますが。
【埼玉県・笠井のり子さん・会社員・36歳】

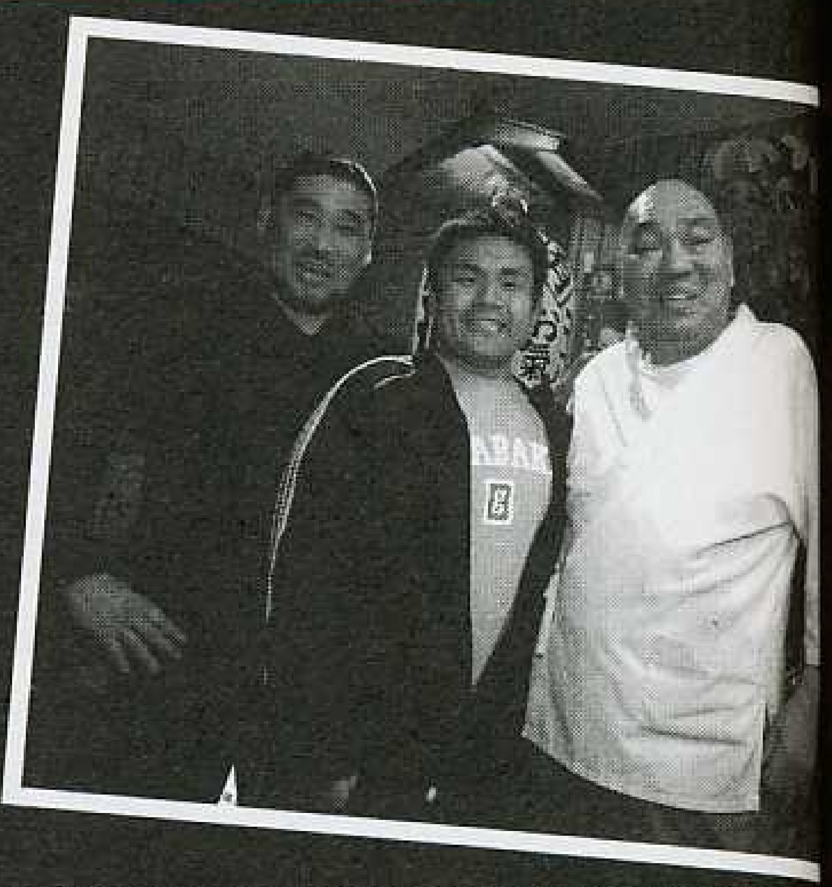
D ここでもサトルのことが話題になってるじゃないか。仕方がない。オレもそろそろ本格的にサトルに注目してみるか。しかし、サトルに関して言えば以前からクマTシャツだけは気になってしょうがない。どういう意図で作ってるのか、今度教えてくれ！

菊田早苗×谷津嘉章のスペシャル対談がよかった。谷津の登場が純粋にうれしかったです。
【神奈川県・佐々木学さん・会社員・43歳】

D この対談はサナエ・キクタの熱烈なラブコールを受けて実現したらしいな。このハガキの投稿といい、谷津というボーイはどれだけ凄いんだい。一気に幻想が高まるぜ！ 編集部さんよお。ぜひオレとの対談もよろしくな！

"みんなの大将" 天龍源一郎の男気伝説がよかった。髙田、前田の男話もよかったが、いまなお輝き続ける天龍の男っぷりにゾッコンです。男気証言も最高だ！
【石川県・浅井清治さん・会社員・36歳】

D テンリュウというヤツは、なんでそんなにカッコいいんだい？ 知り合いがシマダに行くと、寿司を食わしてくれるという話も聞いたことがあるが、オレが行っても食わせてくれるかな……。ま、ムリだろな！



「榊原信行になぜ憧れるのか？」がよかった。PRIDEの功績には榊原氏の選手に手紙を書いたりするという熱い思いがあったからだと思いました。そして"一緒に夢を見たくなる"という一言は男の中の男でないと言われない言葉だと思います。
【福島県・紺野春樹さん・会社員・29歳】

D 「一緒に夢を見たい」か……。昔はオレもバンドの仲間にそう言われてたが、いまはもう焼け野原だ。いったいどうすればいいのか、このノブユキというミスターに聞いてみたいぜ。え？ レターで攻めろって？ それもいいけど、住所がわからないぜ！

DEEP佐伯さんの記事がよかった。内容を読む前に青木選手の表題だけで笑えました。でも読んでみたら本当の男だなぁって思いました。人は見た目じゃないんですね（笑）。
【愛知県・久保田太さん・会社員・37歳】

D 人は見た目じゃないなんて、そんなことはないぜ。なぜかって？ ミスター・サエキを見て、「この人は食が細い人だ」なんて思わないだろ？ やっぱり人は見た目だ！

131号のおもしろかった記事は帰ってきた男・石井教義（元・和義）インタビューです。2009年格闘技界の鍵を握るのは、この男に間違いないでしょう。ただ、Hey!Say!JUMPを格闘技に関わらせると『ギブアップまで待てない！』みたいになるので気をつけてください。
【兵庫県・春名義行さん・会社員・42歳】

D 元館長の登場には多くのボーイズ&ガールズが注目してるらしいな。ところで、元館長は改名したって聞いたぜ。じつは、オレもそろそろ改名を考えてたんだ。読者ペイジ・ジャクソンじゃ、しょうがないと思わないかい……？（苦笑）。

今回の「おまえ、男だ！」特集。男気あふれるエピソードの数々、大変堪能いたしました。その中でも藤原敏男先生。還暦を迎えてもヒョードルの勝つシミュレートをしているなんて。こんな人いません。また藤原祭りでも超人ぶりを見せていただきたいと思います。
【神奈川県・廣木和宜さん・会社員・43歳】

D ヒョードル戦のシミュレーションか。オレは、川村ゆきえや浅尾美和とデートするシミュレーションをしたことがあるぞ。ん？ それは単なる妄想じゃないかって？ ……ダメか？

● 131号
おもしろかった記事
RANKING

- No.1 青木真也×北岡悟
- No.2 石井教義
- No.3 石井慧
- No.4 藤原敏男
- No.5 天龍源一郎

おっと！ こっちは注目のWイシイがランクインしているじゃないか。『kamipro』は特集主義に路線を変えたって聞いたが、やっぱり「イシイ特集」は一回やるべきなんじゃないのかい？ いっぱいいるぜ。ラサール石井、石井琢朗、カールスモーキー石井、石井ふく子……。おい、ユーたちもほかに「石井」がいたら教えてくれよな！



埼玉県・超人とおるさん／レスナーとノゲイラとの対戦はマストで観たいと思ってるのはオレだけかい？ ダナ、ユーだってそう思ってるんだろ？ ククック。



神奈川県・亜衣さん／タツヤはここでも人気だな！ 最初は応援してたけど……、ここまでくると若干ジェラシーが入ってくるぜ。チッキショー！



長野県・市井学さん／ダンディは最近ますます活躍してるじゃないか。なぜかわからないが、オレは昔からコイツにシンパシーを感じている。



大阪府・剣洋人さん／「これは、DREAMフェザー級GPに出場するマサカズ・イマナリかい？ これじゃ、とんだ仙人だな。アッハッハッハ！

質問があります!

Q 『kamipro』を読み始めてまだ日が浅いと思いますが、毎回楽しく読んでます。質問なのですが、『kamipro』のバックナンバーなどは売っていないのでしょうか？【青森県・塚原景子さん・栄養士・25歳】

A OH! ケイコ! ユーはいったい何を言ってるんだい？『kamipro』のバックナンバーはエンターブレインのHPからいくらでも買えるぜ。もしくは『kamipro.com』からでもアクセスはイージーだ。しかし、ユーはまだ『kamipro』のことをあんまり知らないみたいだな。わからないことがあれば『kamipro』だけじゃなく、『kamipro.com』もチェックしてくれよ! ちなみにオレなんて『kamipro.com』の読プレコーナーに毎回応募しているからな。もちろん、当たったことはないぜ!

おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ!
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、
お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって! 待ってるぜ!

こんな情報も24時間どんとこい!
ってヤツだ。
- 譲ってほしいもの
- タレコミ情報
- 選手に対するコメント、試合の感想
- その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・
イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「老衰」係まで。

携帯サイト『kamipro Move』からの投稿もできるぜ。

団体INDEX

※50音順及びアルファベット順

マット界の周辺情報をお届け!!

kamipro Info

DVD

田村vs桜庭、K-1vsDREAM対抗戦、青木vsアルバレス!!

早くも『Dynamite!!』がDVDとなって発売!!



"UWF最終章" 田村潔司 vs 桜庭和志、"DREAMライト級GP幻の決勝戦" 青木真也 vs エディ・アルバレス、波乱続出のK-1 vs DREAMの対抗戦、キン肉万太郎の総合格闘技デビューなど、話題テンコ盛りの08年大晦日『Dynamite!!～勇気のチカラ2008～』が早くもDVDで登場! サクvsタム決戦は、なぜあの結末になったのか? K-1戦士はなぜMMAファイターに敗れたのか? このDVDでじっくり再検証せよ!

★『Dynamite!! ～勇気のチカラ 2008～』(TCエンタテインメント)
★定価/6,090円(税込) 3月25日発売

DVD

新日本プロレス時代から現在までのレア映像を収録!

グレート・ムタの完全保存版DVDボックスセットが登場!



08年には三冠ヘビー級王者にもなったグレート・ムタのDVDボックスセットが発売される。ムタが新日本プロレスマットに初登場してから現在までの18年間で、日本で行なった全93試合中、地上派未放送を含む66試合を収録! さらにはムタの化身・武藤敬司がムタ誕生秘話を激白! 海外にも熱狂的なファンを持つ伝説のレスラー、グレート・ムタを完全保存すべし!

★『GREAT MUTA大全集』(ビデオ・パック・ニッポン)
★定価/20,160円(税込) 3月18日発売 ★収録時間700分

DVD

柴田 vs 滑川、今成らの激闘を収録!

DEEPが08年のベストバウトをDVDで一挙リリース!



『戦極』やDREAMというメジャーイベントと深くかかわりながら、バラエティ豊かなアイデアを盛り込み、年間30回を超える大会を開催する総合格闘技イベント・DEEPが08年のベストバウト集をリリース! ついに今年DREAMのフェザー級GPに登場する今成正和の激闘、柴田勝頼と滑川康仁による男の意地のぶつかり合いなど、名勝負を厳選して収録! 格闘技ファンは必見!!

★『DEEP THE BEST 2008』(クエスト)
★定価/5,880円(税込) 3月19日発売 ★収録時間200分

COMIC

現代の格闘技版『ブラックエンジェルス』!?

関節技使いが悪を極める格闘技漫画『極王』が掲載中!!


©少年画報社

プロレス&格闘技と漫画は『四角いジャングル』、『空手バカ一代』のように深い関係にあったが、最近では総合格闘技の人気定着とともにMMAをテーマにした漫画も急増中!! 発売中の『月刊ヤングキング』(2月19日発売)では、盲目の関節技使いが法で裁けぬ悪党を極めていく「極王(きめおう)」が掲載されている。来月号に掲載予定の後編と併せて要チェック!

★「極王」原作・やざま雄作、画・富田安紀子(『月刊ヤングキング』)少年画報社
★定価/390円(税込) 発売中

DVD

IWGPのタイトル戦線をはじめ、名勝負を完全再現!!

08年、新日本プロレスの下半期の激闘を厳選収録!!



新日本プロレスが08年下半期の名勝負をDVDに収録してリリース!! 全日本プロレスの武藤敬司に大暴れされたIWGPヘビー級タイトルマッチはもちろん、ジュニアヘビー級戦線や08年の名場面を収録!! DVDの中ではベストバウトのランキングが発表されるほか、各クラスの激闘や若手の活躍、他団体との抗争など、多角的に下半期を総括!!

★『新日本プロレス激闘録II～2008年下半期総集編～』(エイベックス・マーケティング)
★定価/7,140円(税込) 3月27日発売 ★収録時間200分

OTHRES

マット界のスポンサーでおなじみの京楽プレゼンツ!

あの「キン肉マン」が今度はパチンコ業界に登場!!


©ゆでたまご/集英社・東映アニメーション

昨年、連載開始29(にく)周年を迎えた人気漫画「キン肉マン」は、さまざまな業界とコラボレーションを展開し、08年の大晦日『Dynamite!!～勇気のチカラ～』では「キン肉マンII世」の主人公・キン肉万太郎をデビューさせた。漫画のヒーローをボブ・サップと対戦させる企画は話題を呼んだが、今度は「キン肉マン」がマット界のスポンサーとしておなじみの京楽とタッグを組んでパチンコ業界に殴り込み! 万太郎のリベンジはパチンコで?

★「ぱちんこキン肉マン」(京楽) 導入中

PPV

3月開幕のフェザー級GP大戦争をPPVで!!

今年もDREAM&『戦極』をスカパー! がPPV中継!!



さまざまなイベントのPPV放送することでおなじみのスカパー!は今年もプロレス&格闘技のビッグイベントを生中継!! いよいよ3.8『DREAM.7』さいたまスーパーアリーナ大会、3.20『戦極～第七陣～』国立代々木第二体育館大会で開幕するフェザー級GP大戦争もスカパー!がPPVで完全生中継!! 忙しくて会場に見に行けない人、地方の人もスカパー! HD&スカパー! e2で観戦しよう!

★3.8『DREAM.7』16:00～ ★視聴料金/3,150円(税込)
★3.20『戦極～第七陣～』17:00～ ★視聴料金/2,625円(税込)

サダハルンバが“世界最高峰”にダメ出し!?



GSP vs BJペンはつまらなかったなあ〜



疑惑の格闘技評論家
谷川貞治

“日本が誇る”格闘技プロデューサー&評論家・サダハルンバがついにUFC上陸! これまで本誌のインタビューではUFCに対して冷めた視線を送っていたサダハルンバだが、目前で試合を観た感想とは? そして気になるKIDのことも聞いてみた。

聞き手／ジャン斉藤　撮影／石井史彦、Josh Hedges（UFC）

谷川 （いきなり）いやあ、JSP vs BJペンって、ホントにつまらなかったねぇ～!!（吐き捨てるように）。

—……今月もまた物議を醸しそうなインタビューになりそうですね。

谷川 ホントにつまらなかった。格闘技評論家のボクからすれば、JSPなんて見るべきは〝極真〟の体力の凄さだけで、論外ですよ!!

—格闘技評論家の谷川さん、JSPじゃなくGSPです。

谷川 ……あ、GSPなの？ じー、えす、ぴー……（文字を書きながら）。あ、ホントだ。

—ちなみに、なんの略かわかります？

谷川 じょるじゅ・さんぴえーるでしょ？

—さすが格闘技評論家だ。

谷川 ふふん。JSPでもGSPでもJSAでもいいけど、ホントにおもしろくなかった。『kami・pro』からはガンツくんとか松林パパがちょくちょくUFCを観に行ってるけど、いったい彼らは何をおもしろがってるの？

—いやあ、本人たちはとんでもなくおもしろいらしいですよ。

谷川 ふ～ん。ボクはさ、今回はKIDくんの件で観に行ったけど、やっぱりPRIDEのフィルターがないと観れない。二日前までまったく行くつもりはなかったんだよ。

—いいですねぇ、箱根の温泉にでもフラッと浸かりに行くようなその感覚。

谷川 でも、聞いてみたらチケットはソールドアウトだって言うし、ダナ・ホワイトにもまったく連絡がとれなかったからね。でも、みんなが「このままだとKIDくんをダナ・ホワイトに取られますよ！」って脅かすから、TBSの石井プロデューサーと一緒に「じゃあ行こうか」って。

—そういえば、谷川さんはハワイまでKID選手をストーカーしたって聞いてますよ。

谷川 ストーカーじゃないってば。もともとハワイで今後のことを話そうという約束だったの。たった2泊で、飛行機だってエコノミーだから身体が痛いしさあ、さんざんな出張だったなあ。

—最終的にUFCがチケットを用意してくれたんですよね？



他人のプレスパスを拝借し、堂々と首から下げるサダハルンバ。眉間にしわを寄せながら一生懸命KIDに話しかけているが、これはUFC妨害対策中なのか。それにしても何を話しているのか、フキダシにセリフを入れたくなる写真だ。

谷川 うん。オクタゴンサイドの4列目でけっこういい席でしたね。でもさあ、UFCって会場内の移動がもの凄く厳しいんだよね。ボクは南側のVIP席のチケットをいただいたんですけど、選手や記者たちがいるオクタゴンサイドには入れないんですよ。そこにKIDくんや宇野くんがいたから挨拶ぐらいはしたかったんだけど、ぜんぜん行かせてくれないんだもん。しょうがないから警備をかいくぐってKIDくんのところに行こうとしたら、アイツら怒りながら追いかけてくるんだよね！

—まあ、それが彼らの仕事ですから。

谷川 「KIDとはマイフレンドだから挨拶がしたいだけなんだ！」って言ったら「そんなのダメだ!!」ってめちゃくちゃ怒られたもん。

—夢香をみんなに紹介するためにDREAM取材に来たターザン山本！ばりに怪しいですよ！ しょうがないから、『ゴング格闘技』の記者からプレスパスを借りて侵入したんですね？

谷川 そうそう。編集長の松山くんに「ちょっとパス貸して」って頼んで。結局3回ぐらいは借りたなあ。

—つまり、日本のマスコミ、プロモーターが一致団結して山本KID防衛作戦に動いたわけですね。

谷川 うん。美しい協力関係だよねぇ。

—ボクがその場にいたらズッファの関係者に「ミスター・サダハルンバが他人のパスを使って無断で徘徊してる」って通報してましたけどね（笑）。

谷川 んあ～！ しかしさ、今回ダナ・ホワイトさんからチケットを用意してもらってもの凄く感謝してるんですけど、ハッキリ言って、UFCっておもしろくない!!（キッパリ）。

—そろそろ詳しくお話を聞きましょう（笑）。

谷川 だってホントにおもしろくないんだもん。おもしろい試合は一つもなかった。闘い方も顔もみんな同じに見えるしさ。

—谷川さん、最初から興味がなかったでしょ？（笑）

谷川 んなことないよ！ なんか驚くようなパンチの打ち合いとか、寝技の攻防とかが生まれそうな雰囲気がまったくないんだよ。みんな金網に押しつけ合って、グラウンドで上になる。ホント、驚くほど同じ闘い方をしてるというかさあ。だから、ただ客のノリが凄いという感じだよね。UFCって、お客さんのノリにもの凄く助けられてると思うよ。

—まあ、向こうの人はフォークが転がっただけでも大騒ぎしますから。

谷川 でもアメリカ人は純粋だよね。斜めから観ずに一生懸命拍手をしたりしてるじゃない。だから、ボクはUFCがアメリカ以外の場所でやると苦戦するだろうなと思いましたね。

UFCがアメリカ以外の場所でやると苦戦すると思います

—要するに、UFCファイターのドラマ性を理解してないと楽しめないってことですか？

谷川 そうそう。UFCを初めて観る人はまったく楽しめないと思う。それに、素人みたいなことを言うけど、UFCの試合って金網だから前から4列目の席でも場内のモニターじゃないと試合が見えないんだよね。

—そういえば、PRIDEがアメリカに進出したときにUFCが恐れたのは、じつはリングのほうが見やすいというのがバレるからじゃないかという話が挙がってましたね。

谷川 寝技になったらますます見えない。会場には6つか7つぐらいモニターがあるんですけど、みんなずーっとそれを観ちゃってる感じだったもん。だから、感想としてはレベルが高いけど、つまらないという感じですね。以上です。

—なんて感想だ。まあ、青木真也も「UFCは世界最高峰でレベルが高い」というイメージで観てるから、おもしろがれてるんじゃないかと言ってましたけど。

谷川 そうそうそう！ そういう幻想が

ってましたよ。

じたけど、今回はますます寂しかった。同

今大会だけでアフリクションは7～8億近くも損してるでしょ？

あるかどうかでしょう。ボクが観て思ったのは、競技人口とかアスリートとしての肉体のレベルが高いということだったもん。で、実力が拮抗しているから、判定も多い。ボクも格闘技雑誌の編集長として修斗やキックボクシングを取材してきたから、UFCみたいな世界が素晴らしいというのはわかるんですよ。でも、一般世間は伝わらないと思うなあ。だから、まさに世界最高峰の幻想があるからおもしろそうに見えるんだろうね。

――一つもいい試合はなかったですか？ 気になる選手も含めて。

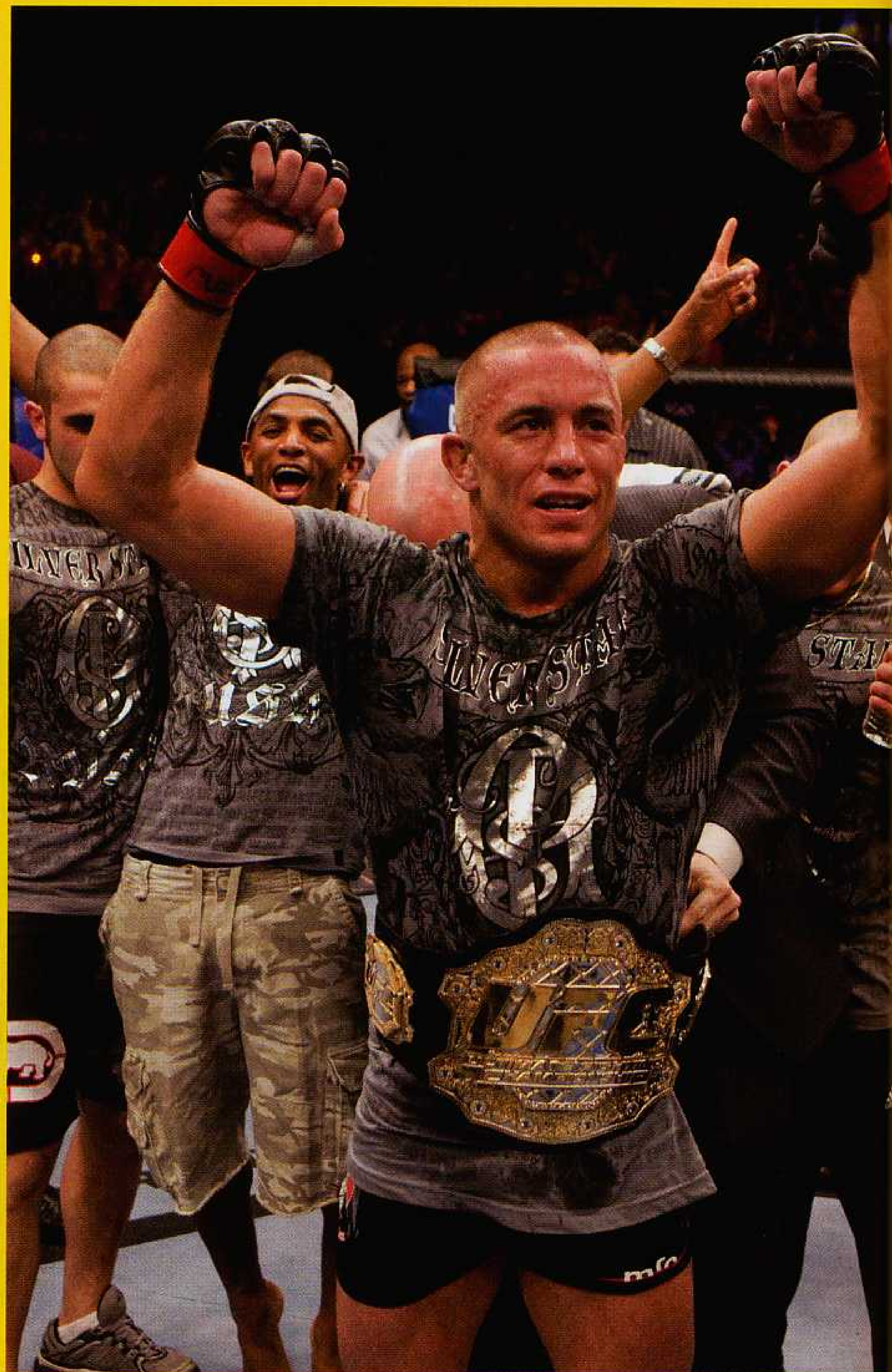
谷川 うーん。気になったのはLYOTOぐらいだったなあ。ほら、『HERO'S』の旗揚げ戦でLYOTO vs BJペンのカードを組んだんですよ。

――いまとなってみれば凄いカードですね（笑）。

谷川 いまのUFCからすると凄いカードなのかもしれないけど、あの試合は本当に本当に本当におもしろくなかった!!

――確かにおもしろくなかったですけど、そこまで言いますか（笑）。

谷川 あの試合は地上波では1秒たりともオンエアもされなかったもんね。TBSの石井さんも今回のUFCで、ゴールデンで放送できる試合は一つもないって言ってましたよ。



Sadaharu Tanikawa

格闘家としての完成度は認めるところだが、試合はまったくそそられないというのがGSPに対するサダハルンバの感想。「強い」と「おもしろい」を両立させるのは、やはりファイターの永遠の課題なのか。

――でも、UFCの戦略からすれば、それで問題ないんですよね。

谷川 そうなんだよねぇ。だから、UFCに何か感じることがあったとすれば、競技というよりマーケットの規模の違いかな。アメリカの人口っていま3億人ぐらいでしょ？ その3億人のうちの1パーセントを相手にすればビジネスになる仕組みがアメリカにはあるなってことでしたね。

――それこそ1パーセントだとしても300万人ですもんね。

谷川 うん。まあ300万人がみんなPPVを買うことはありえないんだけど、そのうちの3分の1とか6分の1で大金持ちとか、もっと言うと10分の1でもけっこういい商売になっちゃうんですよ。

――日本だとそれでビジネスはできないですよね。

谷川 視聴率だけで言えば、10分の1だと失格ですよ。だから、ボクらは格闘技をマスに向けようと思って、それこそ『kamipro』みたいに「テレビとは何か？」を考えたり、いろいろ試行錯誤をしてるんだけど、UFCはそこを割り切ることができるんだよね。ただ、いまのアメリカの格闘技界も、いまの世界恐慌でどうなるかわからないでしょ。今回ラスベガスに行って思ったけど、本当に観光客がいなかったもんなあ。

――UFCがあった日は凄く賑わっていたらしいですけど、その日以外はホントに悲惨な状況だったらしいですね。お店も22時に閉まっちゃうって、ぜんぜん"眠らない街"じゃないって。

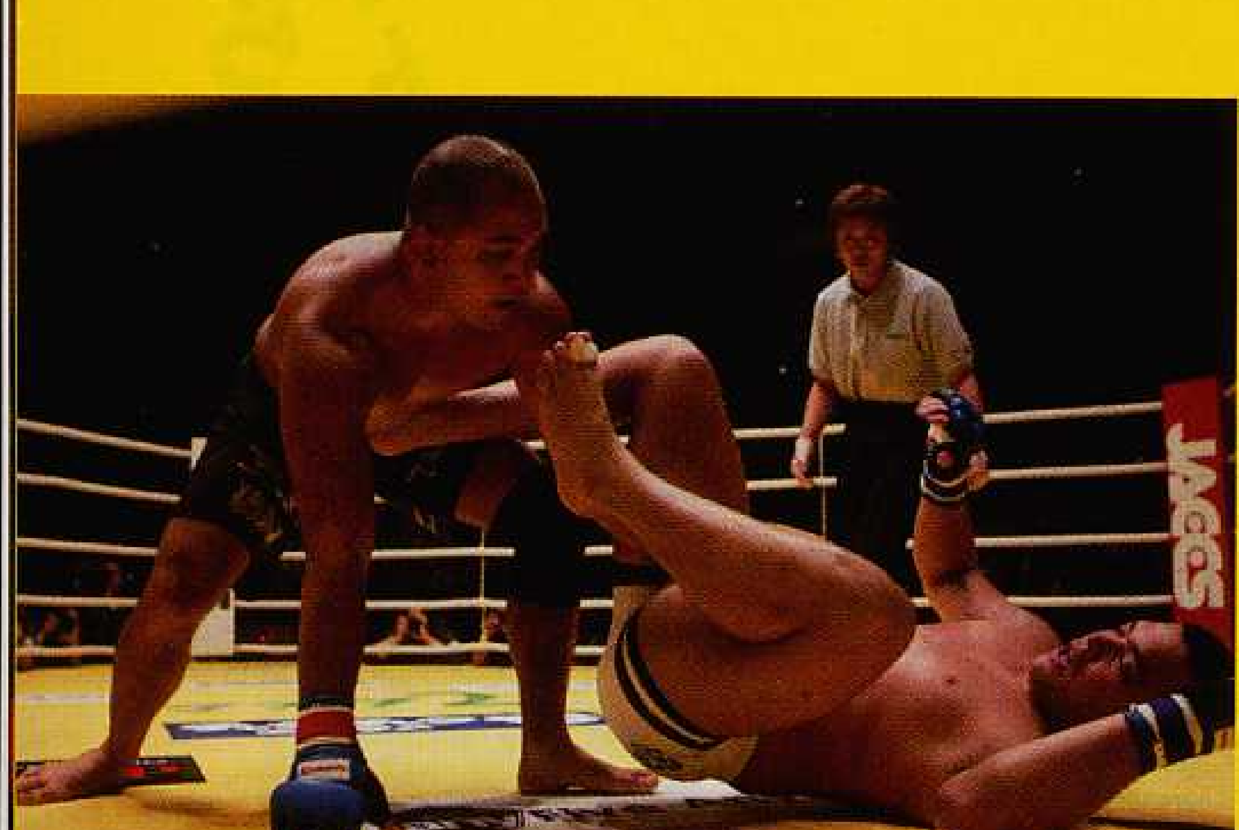
谷川 ラスベガス全盛の2000年初頭まではもの凄くたくさん観光客がいて、07年のときは「お客さんが減ったなあ」と感じたけど、今回はますます寂しかった。同じカジノでも、アジア人なんかはみんなマカオに行っちゃってるんだろうね。

――そういう状況のせいか、UFCの親会社ステーションカジノが倒産するみたいですし。

谷川 だからこそ先が不透明ですよ。UFCはアフリクションと一緒になるっていう話もあるし、ストライクフォースだってエリートXCを買ったりしたじゃない。だからとくに外部資本で興行を打ってるところはわからないよね。それと比べると、FEGなんて自前で興行を打ってるような会社じゃない。それはメリットもデメリットもあるんだろうけど、たとえばアフリクションみたいなお金の注ぎ込み方をしてたら、ウチなんか一発で潰れますよ。だって、今回の大会だけでアフリクションは7～8億近くも損してるでしょ？ わけがわからないよ!!

――アフリクションは次がないと言われてますし、ファイトマネーも異常ですよね。

谷川 あんな突っ込み方されるとウチは様子を見るしかないよね～。素人は、業界を荒らすというけど、（アンドレイ・）アル



『HERO'S』旗揚げ戦で、じつはこっそり対戦していたLYOTO vs BJペン。しかし、あまりのつまらなさに、1秒たりとも地上波では放送されなかった。当時からこの手のカードはサダハルンバのシュミじゃなかったのだろうか。

ロフスキーのファイトマネーも公表されてるだけで150万ドルでしょ?

――払いすぎですよね(笑)。公表されてないだけで、ヒョードルなんてそれ以上はもらってる可能性もありますし。ファイトマネーで考えると、アフリクションと比べるとUFCのほうがまだ適正ですか?

谷川　いや、それでも払いすぎだと思いますよ。あんなに払ったら選手が試合をしなくなる。だから各階級のチャンピオンに合わせて値段を決めたほうがいいなとは思いますよ。いままでは人気があるから多く払うとかじゃないですか。昔はそれでよかったんですけど、いまは実力に合わせてやっていったほうがいいなって。というか、そういう時代になっていく気がしますね。

――そのほうがブランド力も高まりますし、選手のやりがいも出てきますよね。で、今回、フェザー級GPが行なわれるのは、世界的に見ても未開拓の軽量級だから、キャラを低く押さえられるという側面もあります?

谷川　それももちろんあるんだけど、ただゴールデンが今年2回あるじゃないですか。そこは重い階級でも勝負しようと思ってますよ。テレビ的に階級云々は関係ないですね。

――そのテレビ的にはKID選手の出場はマストだと思うんですけど。

谷川　KIDくんとはハワイでも話をしたんだけど、まあ海外に行きたい気持ちももちろん持ってるけど、今年はフェザー級GPもあるし、日本の総合格闘技を支えてほしいという話をしたら「そうします」ということでしたね。自分の夢ばっかり追いかけてても、帰ってきたときに日本に総合格闘技がなくなってたらKIDくんにとっても大きなマイナスですから。いまは日本の総合格闘技を一致団結して守らなきゃというのはKIDくんはわかってる。

――ファンからすると2回戦からシードとか、フェザー級の体重がなかなか決まらないのは、KID選手が都合を優先してるんじゃないかと思いがちな部分もあるようですが。

谷川　いや、それはないですね。2回戦からシードというのは、まだ最終的に決まったわけじゃないけど、やっぱり足が全然治ってないんですよ。だから主催者がいま悩んでるのは、治ってない選手を出場させるのか、それでも1回戦からKIDくんを入れて盛り上げるかということだよね。

――いずれにしても、いまのDREAMの会場規模やテレビ放送、スポンサー方面を考慮するなら、KID選手がいないとフェザー級GPは成立しないですよね。



「みんな同じ選手に見える」UFCに対して、やはり青木真也やメイヘムといったキャラの強い選手は貴重。ただ、対世間というとまたハードルが高くなるから、どこまでいっても難しい。

日本の格闘技を守らなきゃというのは、KIDくんはわかってます

谷川　そうしないと盛り上がらない。やっぱりね、新しい階級を作るにしてもまずは選手ありきなんですよ。たとえば魔裟斗くんがいたからK-1MAXをやったわけであって、魔裟斗くんみたいな選手がいたらK-1の85キロでもやりたいんだけど、いまのところいない。選手不在のまま階級を作ることは難しいんですよ。

――修斗ですら競技とはいえ、まったく稼働してない階級もありますもんね。

谷川　それはしょうがないと思うよ。ボクシングだってそうだもん。ボクシングだって、なんでヘビー級のチャンピオンを決めないのか?　っていう話だもんね。だから去年ライト級GPをやったのは、青木くんや川尻くんや宇野くんもいるし、海外にはJZ・カルバンとかもいた。で、84キロにはサクちゃんやタムちゃんがいたし、秋山くんや三崎くんも出てくれるはずだったからやったんだよ。で、フェザー級は新しい選手がたくさんいるし、そこにKIDくんが加われば世間も認める階級になると思うんだよね。

――そう考えると、4月のウェルター級GPは不安ですよね。レギュラーの選手がマッハさんしかいませんし。

谷川　ウェルター級は青木くんが出てくれると思うんだけど……。そこがポイントですね。ライト級は川尻くんが頑張ってくれると思います。

――宇野選手はどうなりそうなんですか?　UFC出場を宣言されてましたけど。

谷川　いやー、どうするんだろうねぇ。宇野くんとはアメリカで話しましたよ。なんかレベルの高さにショックを受けてたけど。だから宇野くんがどうするのかはわからないね。ただ正直言って、宇野くんに関しては去年DREAMで頑張ってくれたんで、もし本当にアメリカに行きたいんだったらそれはそれで応援したいと思いますよ。でも、KIDくんは今年のDREAMでの役割がある人だから、なんとしてもDREAMを支えてもらいたいというのがあるんですよね。ただ気になるのはUFCのガチガチの契約がイヤなんだよなあ。いったん契約したら身動きがとれないでしょ?

――日本で試合できなくなりますもんね。そういう意味では、石井慧のUFCとの契約は、日本市場的には痛手になりますね。

谷川　石井くんも個人的には最初は日本でやったほうがいいと思ってるんですけどね。

――そういえば、谷川さんは石井選手に食事を断られたことが騒がれてますね。

谷川　そうそう!　なんかめちゃくちゃネタになってるんだけど……く、屈辱的だなあ!(鼻をヒクヒクさせながら)。

――ワハハハハ!　べつに谷川さんがイヤだって言われたわけじゃないですよね。単純に時間がないからというか。

谷川　いや……、イヤなんじゃない?

――そうなんですか(笑)。

谷川　石井くんとはたまたま会場では同じサイドの席だったんですよ。まあ石井

いまはUFCの幻想だけが高い 逆に日本は幻想が足りないのが課題

くんの気持ちはもうわかってるからボクがいまさら何を言う気もないんだけど、「メシ食いに行かない？」って声かけたら一緒に来てる人があとから「もう食事はしました」って。

――黒魔術には気をつけよう！　ってことなんでしょう（笑）。

谷川　ヒドいなあ。こんなに素直に応援してるのに。でもさあ、石井くんはどうかわからないけど、やっぱりみんなアメリカのことを過大評価しすぎだよ。ボク、今回観戦して「やっぱり退屈だなあ、ここからは何も生まれないなあ」って思ったもん。UFCの本質は何も変わってないですよ。まだ〝アルティメット大会〟と呼ばれていた頃のUFCは個人的に好きなんだけど。

――でも、時代がUFCをあと押ししてる感はありますよね。ファンにしても競技志向に向かっている現状はどう思われますか？

谷川　競技志向は絶対に正しいし、いいことなんだけど、それを謳うんだったら、オリンピックとかワールドカップ化しないとマニアックな競技にしか見えないよね。でも、オリンピックでさえやっぱり競技じゃない部分での楽しみ方があるわけだし、いまの格闘技が競技志向だけでジャンルとして成立するかといえば、絶対に無理だと思う。だから今回のUFCで日本のリングで闘わせたらめちゃめちゃ輝く選手もきっといるはずなんだよ。それはつまり、競技面だけをカバーしていると、何かしらの可能性を封じ込めることになりかねないってことですよね。もちろん、逆のパターンもあるわけですけど。

――たとえばヴァンダレイ・シウバやミルコ・クロコップは、日本式のやり方で徐々に磨かれていきましたね。

谷川　UFCでヴァンダレイとティト（・オーティズ）がやった試合なんて、めちゃめちゃつまんなかったでしょ？　当時、ヴァンダレイもそのままUFCに上がってたら埋もれてたかもしれないですよ。

――ボクはMMAって基本的にはつまらないものだと思ってるんですよね。そこをどう競技的にも興行的にも加工をしていくかっていうことが問われると思ってるんですけど。たとえば、PRIDEの人気が出たのは、プロレスラーvsグレイシーというアングルがあったからで、UFCだって『TUF』があって再浮上したわけですし。

谷川　だからダナとかロレンゾがサクちゃんやKIDのファンだとか言ってくれるときがあるけど、あれは本心だと思うし、その世界を作ってるのがやっぱり日本のリングであり、日本のファンじゃないかなって。そこはボクらにも歴史もあるし優れてる部分だと思いますよ。でも、やっぱりいまはUFCの幻想だけが高いんだと思うなあ。そう考えると、本当に石井くんなんか心配ですね。

――逆に日本の格闘技界に足りないのは、圧倒的な幻想ですね。

谷川　そうだね。幻想というかブランド力がないのは課題だなあ、とくに総合は。K-1はWGPもMAXもブランドで観てる人も多いと思うんですよ。だからWGPにバンナとアーツしか有名どころが出てなくても、16パーセントという数字を獲るじゃない。ほかはエロジマンもグーカン・サキも、バダ（・ハリ）でさえ知らないと思うんだけど。

――そうすると、今年のDREAMがゴールデン放送2回というのは少ない気がしますね。芸能人だって1ヵ月もテレビに出なかったら「消えた」扱いされるわけですから。

谷川　でも逆にその2回で数字を獲って来年につなげないといけないですよ。あとは、やっぱりいまはアメリカの事情がどう変わっていくかだと思いますよ。アメリカの動きによってもそうだし、今後の日本は問われてきますね。

――UFCはどうなるのか？　アフリクションの次回大会はあるのか？　ストライクフォースは躍進するのか？

谷川　うん。ほかのイベントで興味があるのはそういう勢力図の動きだけかなあ。誰が出るとか、誰と誰がやるとか、ホントに興味がない。

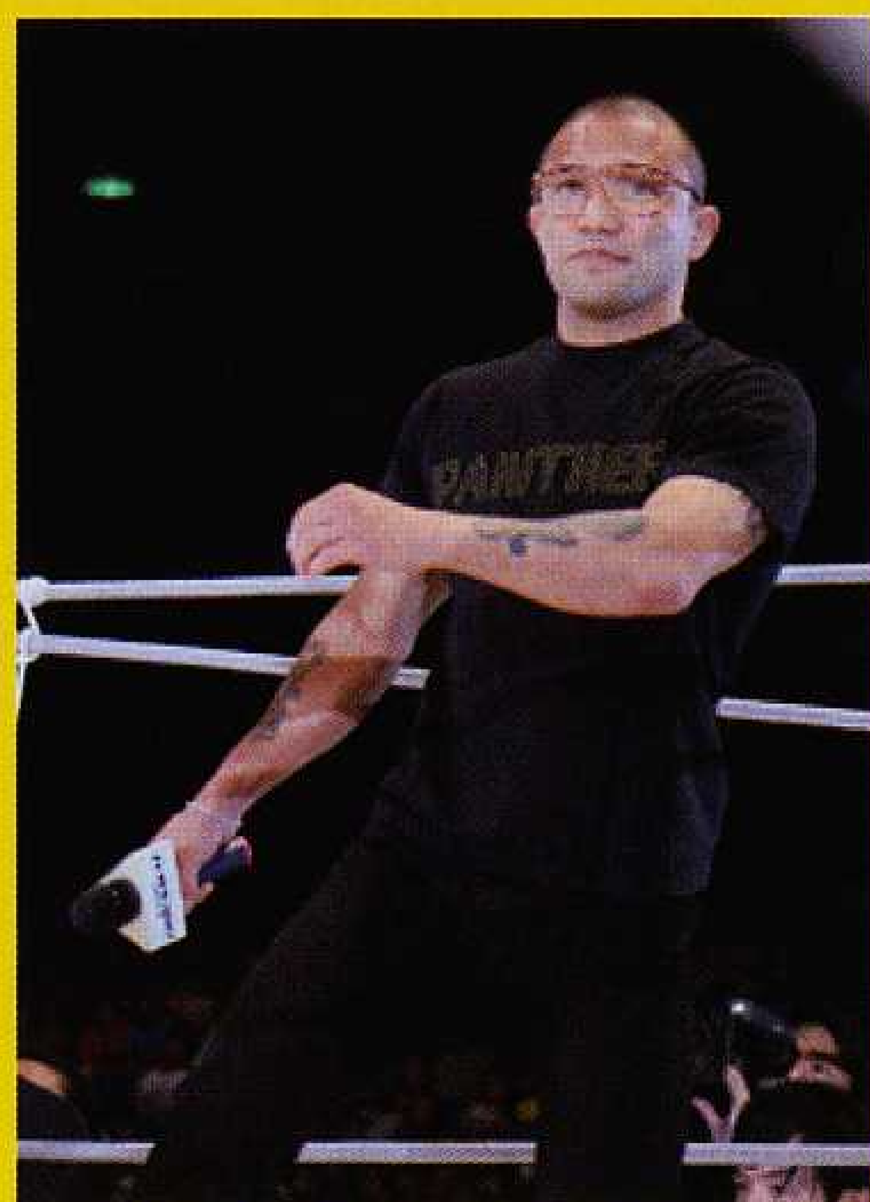
――まあ、谷川さんは自分が主催するGPの出場選手を知らないくらいですからね。

谷川　し、失礼だなあ。ええと、フェザー級GPに出るのは、KIDくんとか……。

――KIDくんとか？

谷川　所くんとか、KIDくんとかKIDくんとかKIDくんでしょ。…………これ、冗談だよ？　ホントは知ってるよ！　ねえ、なんで何もしゃべらないんだよぉ！

【09年2月9日／都内・FEG赤坂分室にて収録】



DREAMフェザー級GPを意味づけする重要なアイコンである山本KID。2回戦からのシード出場だとしても出場は必須だ。しかし、1年以上のブランクというのは、たとえKIDといえども大きなハンディである。

Sadaharu Tanikawa

DREAM年間スケジュール

▶『DREAM.7』フェザー級GP開幕戦
日時／3月8日（日）　場所／さいたまスーパーアリーナ

▶『DREAM.8』ウェルター級GP開幕戦
日時／4月5日（日）　場所／日本ガイシホール（旧・名古屋レインボーホール）

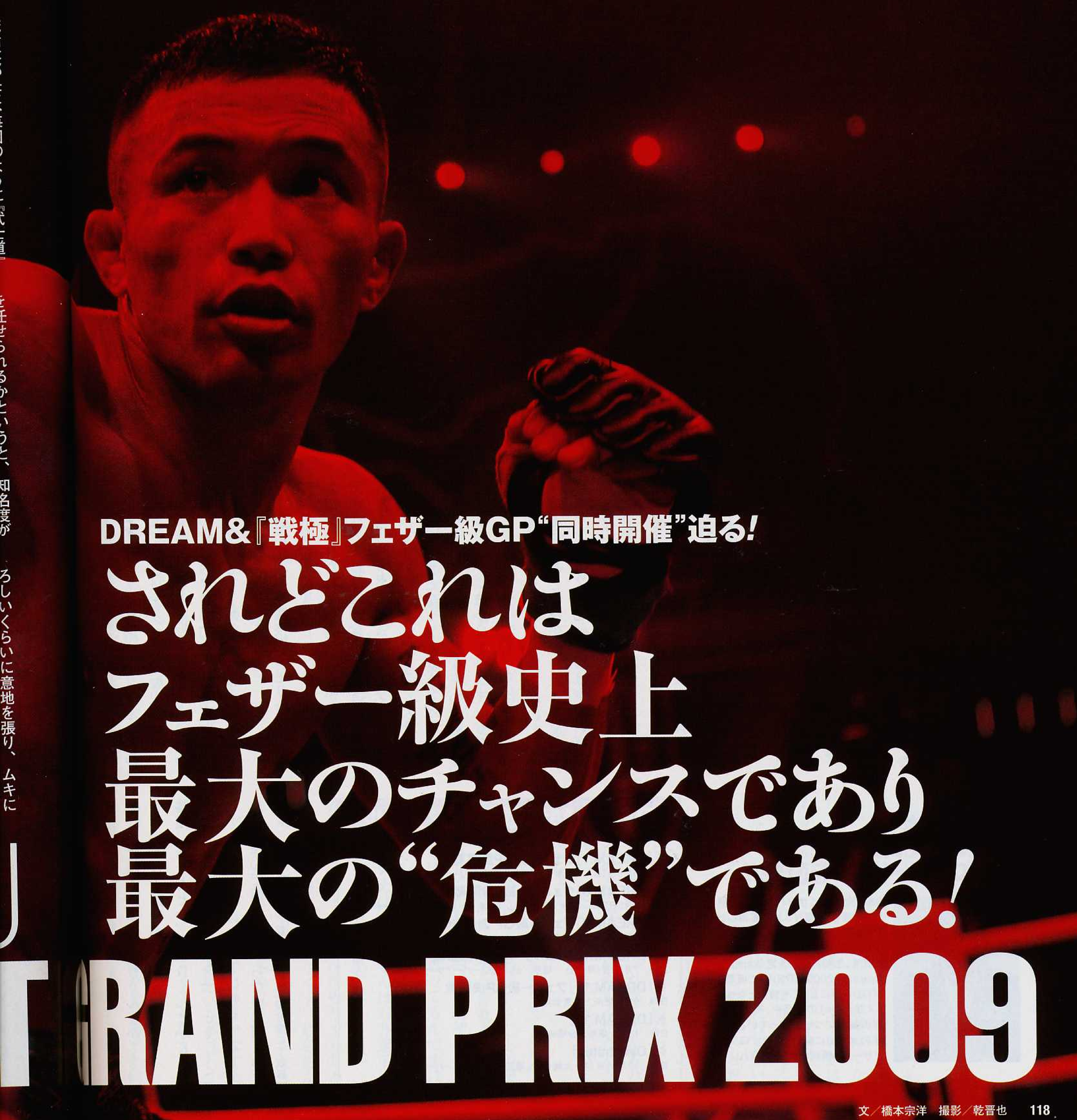
▶『DREAM.9』フェザー級GP 2nd ROUND
日時／5月　場所／関東会場

▶『DREAM.10』ウェルター級GP決勝戦
日時／7月20日（月・祝）　場所／さいたまスーパーアリーナ

▶『DREAM.11』フェザー級GP決勝戦
日時／9月　場所／関東会場

▶『DREAM.12』
日時／10月　場所／会場未定

▶『Dynamite!!』
日時／12月31日（木・大晦日）　場所／さいたまスーパーアリーナ



DREAM&『戦極』フェザー級GP"同時開催"迫る!

されどこれはフェザー級史上最大のチャンスであり最大の"危機"である!

GRAND PRIX 2009

DREAM、『戦極』という日本の総合格闘技2大イベントが、今年はともにフェザー級GPを開催することになった。強さもおもしろさも兼ね備えているのに、身体が小さいというだけでチャンスをもらえなかった選手はいっぱいいる。無理して上の階級で闘ってきた選手だっている。そういう選手たちにスポットが当たるのは、本当に素晴らしいことだ。

もちろん、DREAMではこれまでもフェザー級の試合は行なわれてきたのだが、ライト級GPという主軸があったから、どうしても興行のサブ要素にならざるをえなかった。しかし今年は、フェザー級こそが主軸なのである。これまで"点"だった闘いが"線"のドラマになっていく。

両イベントとも、出場選手が続々と発表されている。とくにDREAMのメンバーは充実しまくっていると言っていいだろう。"足関十段"今成正和、DJ.taiki、西浦"ウィッキー"聡生らがDREAMという大舞台でどんな輝き方をするのか、楽しみでしかたない。山本"KID"徳郁も2回戦からの出場が濃厚、WECで激闘を展開してきた前田吉朗の成長ぶりを日本で観られるのも嬉しい。

ただ間違えちゃいけないのは、フェザー級という新たなステージにとってGP開催はあくまでもスタートにすぎないということだ。GPが開催されることよりも、そこでどんな闘いが繰り広げられるのかが大事なのである。あたりまえの話だが。

DREAMや『戦極』のようなビッグイベントが新階級を制定し、GPを行なうというのは、相当な冒険だ

と思う。競技として考えれば、軽量級から重量級まで細分化された階級が存在するのは当然のことではある。DEEPは何年も前にフェザー級トーナメントを開催しているし、修斗にいたってはそれよりも前にバンタム級まで制定され、チャンピオンが決まっている。だが、ビッグイベントを競技としてだけ考えるわけにはいかないのだ。

DREAMや『戦極』は、格闘技の大会であると同時にテレビコンテンツでもある。そしてテレビコンテンツとして考えた場合、階級が細分化されたりルールが整備されていく〝競技化〟は〝難しさ〟〝とっつきにくさ〟につながってしまいがちなのだ。

今回のフェザー級GPも、だから目的は〝たくさんの階級を作って競技としての成立を進める〟ことじゃないはずだ。階級という〝枠〟ありきではなく〝中身〟、つまり選手ありき。KIDや所英男というスター選手がいる。DEEPや修斗、ケージフォースも65キロ以下が盛り上がっている。だったらGPをやろうじゃないか。そういう順番のはずだ。

つまり、だ。極論かもしれないが、〝中身〟が伴なわなかったら〝枠〟なんて取っ払われてしまうかもしれないのである。ビッグイベントはそれくらいシビアなものだと思ったほうがいい。というより、そういうシビアさがなければビッグイベントを継続していくことはできないだろう。

思い出してみてほしい。軽・中量級の新たな舞台として2003年にスタートした『PRIDE武士道』の初期、榊原信行DSE代表や髙田延彦統括本部長は、毎回のように『武士道』存続の危機を訴えていた。当時、大会の主役になっていたのはヴァンダレイ・シウバやミルコ・クロコップという重量級のスター選手たち。本来はゲストでしかない彼らを中心に据えなければいけなかったのは、主役であるべき中量級のファイターたちが期待されていたほどには輝けなかったからだ。『武士道』が軌道に乗ったのは、五味隆典がエースとしての存在感を示し始めてからのことだった。

新階級といえば、その最大の成功例はK-1 MAXだろう。そして成功の要因は、魔裟斗という絶対的な中心選手がいたからだった（というより、魔裟斗という絶対的な中心選手がいたから、MAXが始まったという面もあるのだが）。

「俺がフェザー級を引っぱらなければこの舞台はなくなってしまう」この危機感をどれだけ選手が持てるかがカギ

その意味で、DREAMフェザー級GPにKIDが出場することになったのは大きい。話題性はもちろんのこと、他の選手が彼を意識し、〝打倒KID〟に燃えることで、トーナメントは熱を帯びることになるはずだ。

一方『戦極』には、残念ながらKIDのような中心選手はいないと言っていい。実績でいうと日沖発になるんだろうが、ビッグイベントの主役を任せられるかというと、知名度がまだまだ足りないというのが正直なところ。ただ、『戦極』はDREAMほどにはテレビの放送形態や会場規模が大きくないから、ある程度は時間的な余裕があるというのが強みかもしれない。開催前の期待感は最高とまでいかなくても、続けていくうちに選手たちの実力やキャラが浸透して〝終わってみれば大成功〟となればいいのだ。ライト級GPの北岡悟だってそうだった。最初からメチャクチャ期待されてたわけじゃない。

繰り返すが、今回のGPはあくまでもスタートである。GPが開催されることと、フェザー級の定着はイコールじゃないのだ。むしろGPは、フェザー級を定着させるための闘いという意味合いが強いと思う。

そこで求められるのは〝危機感〟じゃないか。「このGPが失敗したら、俺たちに二度と出番はないかもしれない」という危機感が、闘いをさらに熱くさせると思う。ここでまたしても、成功例としてMAXを挙げさせてもらおう。現在までのMAXにおけるベスト興行は、第一回の日本代表決定トーナメントだと僕は思っている。この大会、出場選手全員がおそろしいくらいに意地を張り、ムキになって打ち合いを展開していた。ほとんどすべての試合で、選手たちは100パーセント以上の力を出していたと思う。その姿から感じたのは、彼らが抱える危機感だ。


彼らがそれまで闘ってきた舞台は、後楽園ホールである。地上波中継のない、失礼な言い方をさせてもらうなら日の当たらない世界だ。「もしMAXが失敗したら、また日の当たらない世界に戻らなきゃいけない」。そんな思いで、選手たちは闘ってたんじゃないかと思うのである。いまのMAX、とくに若い日本人選手に不足してるのが、この危機感のような気もする。

彼らはよく「K-1という大舞台に出られてうれしい」と言う。「K-1に出るのが目標」と語る選手も多い。でも、本当に大事なのは大舞台に上がることじゃなく、大舞台でどんな闘いをするかだろう。

今回のフェザー級GPでも、カギになるのは危機感だ。「大舞台に出られてうれしい」というレベルの選手が多ければ、（こんなこと言いたくはないが）GPは失敗に終わってしまうだろう。「俺がフェザー級を引っぱる。そうしなければこの舞台はなくなってしまうかもしれない」という危機感をどれだけの選手が持てるかによって、GPの盛り上がりは左右されるはずだ。

GP出場選手は、当然ながら優勝を競い合うライバルであり敵同士である。だが同時に、フェザー級を定着させ、ブレイクさせるための共犯者でもあるのだ。

DREAM & SENGOKU
FEATHER WEIGHT



青木真也、北岡悟に続くのはこの男だ!

足関の侠客

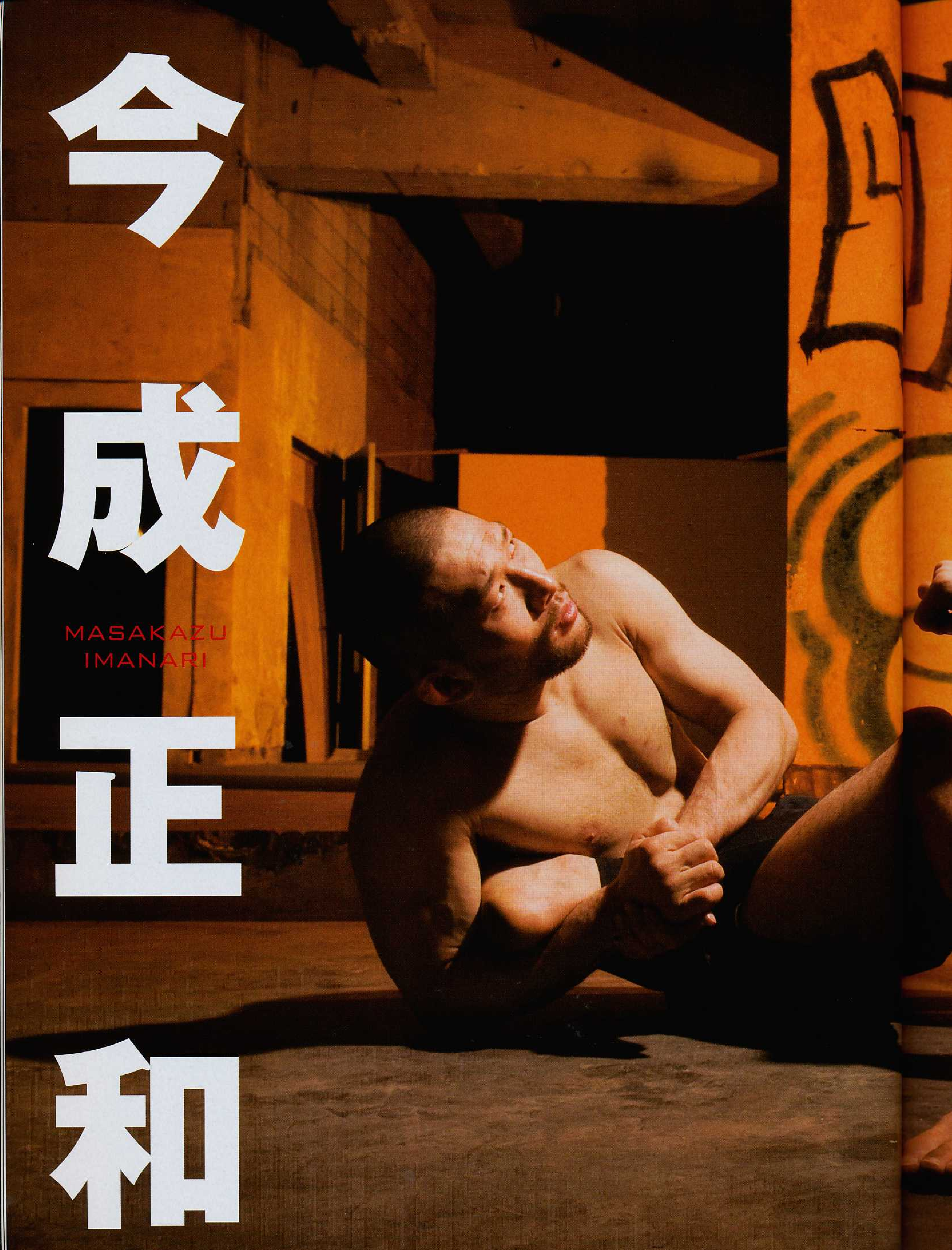
DREAMフェザー級GP いざ、斬り込み――

昨年、ライト級で大活躍した青木真也と北岡悟。
彼らが一目を置き、足関節技の師匠的存在なのが、"足関十段"今成正和だ。
その今成のDREAMフェザー級GPへの出場が決定。
独特の雰囲気を醸し出すこの男こそ、青木&北岡の上を行く"キモ強"の真打ちだ!

聞き手/堀江ガンツ　撮影/タイコウクニヨシ

今成正和

MASAKAZU IMANARI



足関の侠客

青木、北岡にジェラシーはない 強いから勝って当然だなって

いよいよ、今成正和の出番がやってきた。今成はその実力とは裏腹に、これまで〝裏街道〟を歩んできた感が強い。格闘技をスタートしたのは、あのユセフ・トルコの紹介でアントニオ猪木率いるUFOに練習生として入門。しかし、預けられたのはキックボクシングのジムである藤原道場だった。

その後、入江秀忠のキングダム・エルガイツという〝カルト〟的な団体でプロデビュー。ZSTでは所英男らと〝ZST4兄弟〟と呼ばれたが、途中で離脱してしまった。

『PRIDE武士道』や『HERO'S』がスタートし、日本格闘技界に軽量級の時代が訪れ、次々と表舞台に羽ばたく選手が次々と現われたが、体重65キロとライト級でも軽い今成の出番はなかなか訪れなかった。

昨年もDREAMと『戦極』のライト級GPで、練習仲間の青木真也、北岡悟が華々しく脚光を浴びる中、今成はDEEPとイギリスのケージレージで黙々と闘った。

練習仲間の誰もが一目を置き、通をうならせ続けながら、決して日の当たる場所には出てくることがなかった足関十段。今成正和は〝テロリスト〟、〝関節技の鬼〟として世に出る前の藤原喜明のようだ。

その今成が、ついにDREAMフェザー級GPという檜舞台に立つ。磨きに磨いた足関が、大観衆の前でギラリと光るときがついに来たのだ。

時は来た！　それだけだ！

DREAMフェザー級GP記者会見後、十段に今大会に懸ける思いを聞いた。

——非常に素晴らしいファッションですけど、それは普段着ですか？

今成　いや、いまコスチュームで撮影してたんですけど、このあとも撮影があるってことで。

——一応ジャケットは羽織っておこうかな、と。

今成　そうですね。正装に近い感じで（笑）。

——素晴らしい正装です（笑）。でも、スーツで記者会見出るのにベルト持ってくるの忘れたらしいですね？

今成　忘れたんで、黒帯巻いて出ようと思ったんですけどね。

——スーツに黒帯！（笑）。

今成　いいかなと思ったんですけど、ベルト借りれちゃったんですけどね。

——で、いまDREAMフェザー級GPの記者会見が終わったわけですけど、ついに念願のDREAM出場ですね。

今成　ああ、出たかったですからね。

——昨年、何度も出場が噂されながら、機会がなくて。

今成　出れなかったですね。出たかったんですけどね。

——ようやく俺の出番って感じですか？

今成　そうかもしれないですね。これまで軽い人にそういう舞台はなかったですもんね。

——PRIDE武士道ができたとき、ようやく軽量級に光が当たるって感じでしたけど、あれは73キロでしたからね。



記者会見後、試合コスチュームでのオフィシャル写真撮影があった合間にインタビューを受けてくれた十段。ご覧のように下はトランクスと革靴にハイソックス。上は素肌にジャケットを羽織り、腹巻きも装着。これを変態と言わずして、なんと言う。



今成　まだ10キロ重たかったですよね（笑）。まあ、そのときは73キロでも気にしなかったですけど。

——今度こそ適正体重で出番が来て。

今成　まあ、どれが適正かよくわかんないですけど（笑）。

——やっぱり前の73キロのときっていうのは、ヨアキム・ハンセンやルイス・ブスカペとやりましたけど、身体の違いって感じました？

今成　あんまり感じなかったような気はするんですけどね。まあ、実力差は感じましたけどね（笑）。

——でも、ヨアキムを極めかけたりとかしてましたよね。

今成　いけるかと思ったんですけどね。逆にやられちゃって。あそこで勝ってたら、そのあともっと凄いヤツとやらされて、ひどい目に遭ってたかもしれないけど（笑）。

——ヨアキム戦で、ヒザ蹴りでKOされたシーンは、ヨアキムの試合のたびに使われるほど衝撃的なフィニッシュでしたけどね（笑）。

今成　いいやられ方ですよね（笑）。でも、ああいうやるかやられるかのほうがおもしろいからいいですけど。自分は判定で勝てる気はしないんで。

——去年はDEEPのバンタム級チャンピオンになって。そのあいだに一緒に練習してる青木選手、北岡選手が大活躍しましたけど、ジェラシーみたいなものはありました？

今成　ジェラシーはないですね。

——嬉しいって感じですか？

今成　そうですね。まあ、強いですからね。自分より弱いなと思ってる人が勝ってたらジェラシーですけど、強いからあたりまえだなって感じでしたね。

——次は自分の番だ、みたいな感じで。

今成　まあ、自分の番とまでは思わないですけど、いいものが出せればいいですね。

——この二人が圧倒的にバーッと上がったことで一緒にやってる今成さんの自信にもなったんじゃないですか？

今成　そうですね。そういう部分もありますね。あの二人より強いのはなかなかいないだろうし。

——そして今成さんはあの二人の足関の師匠なわけですしね。

今成　べつに師匠じゃないですけどね（笑）。でも、勝たないとまずいなって気はしますけど。

——青木、北岡に遅れをとってられないというか。

今成　周りがどうのこうのというか、自分



DEEPバンタム級王座獲得後、ご覧のような放送禁止なポーズと、放送禁止な表情で記念撮影に収まる十段。はたして地上波でこの男を流すことはできるのか!?

たぶん（フェザー級GP）にいないと思う

今成　そうだと思うんですけどね。

自分の集大成だと思ってるんで勝たなきゃまずいなとは思ってます

にとって集大成的な感じがするんで。

――なるほど。これまで培ってきたものを発揮する日が来たわけですね。

今成　そうですね。試合前はいつも気合い入ってますけど、プレッシャー的なものが違いますね。

――そして、このフェザー級GPでは、まだ現時点で出場が決まってないものの、山本KID選手との対戦が期待されてますね。

今成　そうみたいですね。

――今成さんは、まだDREAMに出たことないのに、みんなKID vs今成を期待してるんですよ。

今成　なんでですかね？　自分、注目されると弱いんですよ（笑）。

――ガハハハ！　できれば、こっそりやりたい。

今成　ええ、こっそりと（笑）。

――でも、去年『Dynamite!!』の会見を赤坂サカスでやったじゃないですか。あのとき今成さんへの声援が凄く多くて、ビックリしたいですよ。

今成　そうですよね。なんかマニアックな人が集まってたんですかね（笑）。

――だから、潜在的なイマナーが相当いるんじゃないか、と。

今成　どうなんですかね。期待に応えられたらいいんですけど。

――あと、今成さんといえば、放送禁止な勝利のポーズもトレードマークですけど、あのへんは地上波進出でどうなるんですか？

今成　まあ、それは意識しろって言われてますけどね。

――もうすでに注意されますか（笑）。では、DREAM初のモザイク処理という危険は回避できそうだ、と。

今成　まあ、録画放送なら編集してもらえばいいんですけど、生でやっちゃうとまずいみたいですからね（笑）。

――今成さんの登場で、DREAMのテレビ中継を終わらせるわけにはいかないですからね（笑）。

今成　そうなるのは恐ろしいんで（笑）。

――練習のほうはどうですか？

今成　まあ、ふつうに。

――でも、去年の年末から青木選手や北岡選手とガンガンスパーリングやってたんじゃないですか？

今成　そうですね。あれ以上のメンツはたぶん（フェザー級GP）にいないと思うんで。



いまなり・まさかず■1976年2月10日、神奈川県出身。99年にキングダム・エルガイツでプロデビュー。その後、ZST、DEEP、PRIDE武士道などで活躍。驚異的な足関節技の極めの強さから「足関十段」の異名を持つ。現DEEPバンタム級、ケージレージ世界フェザー級王者。165cm、63kg。

MASAKAZU IMANARI

――そこは自信がある、と。

今成　そうですね。

――先ほど集大成という言葉が出ましたけど、お子さんもできて、そのへんの責任感も出てきたんじゃないですか？

今成　そうですね。家計的にも頑張らなきゃいけないなって（笑）。

――「今成には負けられない理由がある」って感じですかね（笑）。

今成　あれと同じですよね（笑）。

――男としても父としても、やらなきゃいけないという。

今成　そうですね。

――奥さんからプレッシャーとかあるんですか？

今成　プレッシャーはとくにないですけど。そこらへんは期待してないんで。

――お子さんはパパがこういうことやってるっていうのはまだ全然？

今成　まだですね。いま1歳6ヶ月で言葉もしゃべってないんで。

――では、子どもがわかる頃にはベルトを巻いていたいんじゃないですか？

今成　そうなったらいいですけどね。

――まあ、テレビ的にはあまりパパの面はクローズアップされないでしょうけど。キャラが違いすぎて（笑）。

今成　（子どもがいるように）見えないっていわれますからね。普段は子どもの世話してるんですけど。

――想像できないですね（笑）。じつは相当な子煩悩だとも聞いてますけど。

今成　人並みだと思いますけど。そう見えないから言われるんじゃないですか？

――足関十段のイメージとのギャップで、超子煩悩に見える、と（笑）。

今成　そうだと思うんですけどね。

――家族がいると、これまでとは違う意識になりますか？

今成　違う意識でやろうとしてるんですけどね。練習やってると格闘技以外のこと全部忘れちゃうんですよ。

――それぐらい没頭してるっていう。

今成　そうですね。それでいいんじゃないですかね。

――では、あと一カ月ですけど、これから最後の追い込みって感じですか？

今成　そうですね。しっかり準備して、最後まで残りたいですね。

――盟友の青木選手はなんか言ってます？

今成　「ビビアーノ（・フェルナンデス）」がヤバいって言ってましたけどね。

――格闘技マニアの作戦参謀からすると、注意すべきはビビアーノだ、と。

今成　らしいです。

――でも「十段なら楽勝でしょ」とも言ってましたけどね。

今成　まあ、楽じゃないけど、頑張らないといけないですね。

――では、満を持して一発大仕事を期待してます！

今成　はい。勝てるように頑張ります。

【09年2月5日／都内港区白金台『八芳苑』にて収録】

　待望のDREAM初出場が決定しても、やはりいつものように言葉少なだった今成正和。しかし、多くを語らず、決して大口も叩かない十段の口から「集大成」という言葉が出るとは、それほどまでに、このDREAMフェザー級GPに懸けている証拠と言って間違いないだろう。

　足関十段がその秘めたる思いを爆発させるときまで、もうすぐだ！

ZSTのスーパー高校生が戦極フェザー級GP出陣決定!!



「戦極に出られて嬉しいです」

戦極王子、いざ! 山田哲也

『戦極』フェザー級GPに18歳ファイターが出陣! かつて『kamipro』本誌でも「注目のスーパー高校生」として取材した山田哲也がついに大舞台に登場する。総合ルールでいまだ負けなしという山田が『戦極』にかける意気込みとは!?

聞き手/松下ミワ 撮影/タイコウクニヨシ

——今日は〝ZSTのスーパー高校生〟で『戦極』フェザー級GP出場が決定した山田選手にお話をうかがいたいと思います。よろしくお願いします！

山田　よろしくお願いします（緊張して）。

——私ども『kamipro』という雑誌なんですが、じつは一度、山田選手のことを取材したことがあるんですよ。

山田　あ、知ってます。たぶんゴールドジムで横山（大輔）くんと一緒に……。

——そうです、そうです。いまや伝説の企画となっているGKスペシャル・プロレス探検隊が出動した取材ですが、もう1年以上前のことなんですけど、覚えててくれましたか！

山田　はい……（笑）。あのへんなオジサンたちが来て、いろいろ挑戦してきたヤツっていうか（ボソッと）。

——へんなオジサン！（笑）。

山田　えっと……、なんか凄いおもしろい人たちだなあって思いました。ボク、あれが初めての雑誌の取材だったんですけど、凄い笑わせてくれたんで緊張がほぐれました。なんか、よかったなって。

——初めての取材が探検隊でしたか。それはずいぶんと縁起がいいですね。

山田　そうなんですか？　それで、たぶん凄いプロレスの話とかされたんですけど、自分、プロレスとか全然観ないんで、わからなかったんですよね。だから、ちょっと悪いっていうか、うまくいかなかったのかなって感じがしたんですけど。

——えー、ズバリ言って、まったく気にしなくていいと思います！　で、今日は晴れて『戦極』に参戦することが発表されたわけですが、今春高校を卒業する山田選手は総合格闘技を始めてからどのくらいなんですか？

山田　総合を始めてからは、丸3年ぐらいです。もともと中学校のときに柔道をやってて、その柔道のコーチに誘われて始めたのがきっかけです。ちょうどヒマしてたときだったんで、ちょっと行ってみようかなって感じで。

——じゃあ、それまでは自分がやる競技としてはあまり意識もしてなかったんですね。

山田　まあ、大晦日の試合を観てるぐらいでした。最初は「残酷な競技だな」って思ってたんですけど、自分もやることを想像したら「やったら楽しそうだな」っていうのはありました。

——残酷なのに、楽しそうだったんですか？

山田　なんか、あれだけ観客の熱気が凄いところなんで、ああいう舞台で闘ってみたいなという感じがしたんで。

——総合を始めたときはもう最初からそういう大舞台に出ることを思い描いてたんですね。



3月20日に開幕する『戦極』フェザー級GPに出場が決まった山田。周囲からの"嫉妬"をよそに、記者会見では「派手な技を見せて、未来を感じさせる試合をしたい」と堂々のコメントをした。単なるイロモノ扱いで終わるのか、それとも……!?

もともと柔道をやってて、総合を始めてからは丸3年です

山田　そうですね。ボク、柔道は凄く弱かったんですけど、最初からそういう自信っていうか、自分もテレビで観てる選手みたいになるだろうなっていうのは始めたときから思ってました。やっぱりテレビで観てた所（英男）選手とかは、年末の試合で印象が凄かったんで、ああいうふうになりたいなって。あとはやっぱり自分は小谷（直之）選手に憧れてますね。

——それって偶然にも山田選手のホームリングであるZSTの両エースですけど、最初からZSTの選手には引っかかるものがあったんですか？

山田　やっぱり、自分を指導してくれてる人がZSTに関わってる選手が多くて、自然とZSTを観る機会が多かったのがあると思います。同じジムの人がZSTで試合することも多かったんで、よく会場に応援に行ったりとかもしてたんで。

——同じジムというと、いまも所属している「しんわジム・トータルコンバット」ですよね。

山田　なので、その流れで自分もZSTに上がれることになったんだと思います。

——なるほど。で、デビューしていまだ負けなしで、山田選手自身も先ほどの会見で「未来に期待してほしい」ということを言われてましたけど、4月から就職するにあたって、これまた恵まれた環境でトレーニングできるという話を聞きました。

山田　あ、そうです。ジムを経営している会社が福祉関係の会社で、4月からそこに就職することになって。で、普段はそこで働くんですけど、試合があるときは試合を優先していいってことだったんで、かなりいい感じじゃないかなって。

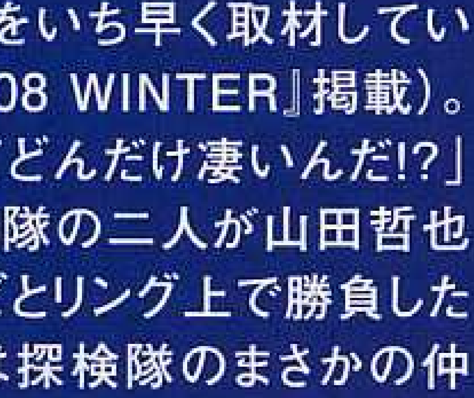
——それこそ、アルバイトをしながら格闘技をやってる選手が大勢いる中で、格闘技を最優先にしながら働けるというのは、うらやましいかぎりですね。

山田　そうなんですかね。一応、就職すること自体は夏ぐらいから決まってたんで、よかったなとは思ってるんですけど。でも、たまたまっていうか、最初は自分のジ

山田哲也の強さには探検隊も注目していた!



『kamipro』誌上で一世を風靡した企画「GKスペシャル・プロレス探検隊」では、なんと今回『戦極』に参戦をはたした山田クンをいち早く取材していた!(『kamipro Special 2008 WINTER』掲載)。「話題の"最強高校生"ってどんだけ凄いんだ!?」という謎を解明すべく、探検隊の二人が山田哲也クン&横山大輔クンのコンビとリング上で勝負したのだ。しかし、勝負の結果は探検隊のまさかの仲間割れ……というかGK隊長のご乱心が原因で(?)、無念の敗戦。探検隊の二人は成人男性を軽々と倒す高校生コンビに圧倒され、マット界の謎を一つ解明したのであった。



ムがそんなことをやってる会社というのは知らなかったんですよ。けど、だんだん福祉関係の事業をしてるっていう話を聞いて、「じゃあ、お世話になります」ということで就職できることになりました。

―ハッキリ言って、運が良すぎますねえ。じゃあ、普段は福祉の仕事をやるわけですね。

山田 そうですね。なんで、ヘルパー2級の資格を取らないといけないんですけど。でも、身体を使う仕事なんで、ボク的にはそっちのほうが都合がいいかなって。

―それは、どのくらいで取れる資格なんですか？

山田 普通だったら3ヵ月ぐらいで取れる資格らしいです。でも、試験というより、実技のほうが多いんで、そこはまあ、大丈夫かなって思ってるんですけど。

―ただ、資格の勉強も含めて生活面で環境がガラリと変わるわけじゃないですか。そんな中で3月からいきなり大舞台でのトーナメントが始まるわけですけど、そこは不安じゃないですか？

山田 まあ、勉強しながら試合のために調整しないといけないんで、やることはいっぱいありますね。あと、いま運転免許も取りに行ってるんで、忙しいなって（笑）。

―高校を卒業するにあたって自由になることが増えるから楽しくてしょうがないですか。

山田 いや～……（ニヤニヤ）。もう学校に行かなくていいんで、そこは嬉しいですね。会社のほうが待遇がいいので。

―へぇ～。ずいぶんアッサリしてますねえ。そういえば、卒業式の日には『戦G!』のテレビカメラも入る予定らしいですね。

上原（ZST広報） いや～、学校中大騒ぎになりますよ。有名になるし、モテるだろうなー、山田クンは。

山田 ……（ニヤニヤ）。テレビとか出たいですね。

―まんざらでもなさそうですね。

山田 でもボク、あんまモテないんで、そういうのはいいなって。

―モテないんですか？

山田 ZSTの会場とかでも、同級生の女子が応援に来たりするんですけど、やっぱり金原（正徳）さんとか内村（洋次郎）さんとかが人気があるんで。

上原 あ、そう。山田クンはダメかあ。

―ファンレターもまだ来てないですか？

山田 えっと……、未来に期待したいです。

―そうですか（笑）。そういう意味では、同世代でK-1甲子園に出場しているHIROYA選手なんかはテレビに出まくってますけど、意識します？

山田 意識は同じ年代としてしないわけはないです。「一緒に頑張りましょう」という感じです（淡々と）。

―なんか、ずいぶんと冷めてますね。単純にHIROYA選手とかはどう評価してますか？

山田 いや、凄いと思います。もう大人とやっても通用する実力があるんじゃないかと思います。

―今回、『戦極』に出ることが決まったことで山田選手もテレビに映る機会が多くなると思いますが、片やHIROYA選手は地上波でバンバン放送されてるじゃないですか。そこは嫉妬だったりとか、もしくは「俺のほうが！」という思いはあったりするんですか？

山田 そこは、自分のレベルから言って、まだ無理だなと思いますけど。逆にHIROYA選手とかは、よくあんな大きい舞台で試合できるなって思います。

―とはいえ、もう同じレベルの舞台に上がることになるわけですよね。むしろ、闘うのは高校生じゃないですから、ある意味HIROYA選手より大変な部分もあるとは思いませんか？

山田 そうですね。でも、ボクはそういう大変っていうことよりも、大舞台に上がれることのほうが嬉しいですけどね。

―以前、取材したときに、「（KID選手と闘ったら）殺されます！」って言われてましたけど、イベントは違うとはいえ、もはや同じ土俵に上がったとも言えますよね。

山田 でも、そこはまだ同じようなことを思ってます。いまでもKID選手とやったら殺されると思ってます。

―じゃあ、逆にどのくらいなら倒せそうだという手応えがありますか？

山田 うーん……。まあ、3年はかかると思います。一番短くて、ですけど。

―でも、逆に3年あれば倒せるかもしれない、ということですよね。

山田 そうですね（キッパリ）。

―ほう！ しかし、考えてみたら3年経ってもまだ21歳ですからねえ。ちなみに、山田選手は身長も高いですし、今回は65キロの階級ですけど、正直もうちょっと上の階級でやりたいという思いもあるんじゃないですか？

山田 普通に生活してるときで74キロとかなんで、10キロぐらいは減量しないといけないのでけっこうキツいですね。でも、だいたいみんなそのくらいは体重落としてくる選手ばっかりだと思うんで、そうしないと通用しないんじゃないかなって。でも将来的には、70キロで闘うのが一番いいかなっていう感じだと思うんですけど。

これがスーパー高校生・山田哲也の実力だ!

©ZST



08.5.18『ZST.17』ではベテランで所英男の兄貴分でもある太田裕之と総合ルールでの対戦。快進の飛びヒザ蹴りでベースをつかむと、最後はパンチラッシュでKO勝利。グラップラーらしからぬ勝利を挙げたのだった。



初の総合ルールに挑戦したのは07.11.23『ZST.15』宮川武明戦。ゴングが鳴ると、ローキック、ハイキック、さらにはタックルと流れるような攻撃を見せ、最後はストレートで44秒KO! 初総合ルールでの初勝利にこのはしゃぎようだ。



『ZST.14』で行なわれたグラップリングタッグマッチでは、同じく当時高校生だった横山大輔と組んでヤノタク&代官山剣Zと対戦。先発で代官山と手を合わせるが、なんとわずか34秒で一本。出番のなかった横山を泣かせる活躍となった。

HIROYA選手は同じ年代として意識しないわけないです

——70キロというと、北岡悟選手や青木真也選手と同じ階級ですね。

山田　その階級だと思います。

——将来的にはそのトップどころと闘うことにもなりますよね。同じグラップラーでもありますけど、彼らに対してはどう思いますか？

山田　次元が違う人間っていうか。……（考え込んで）でも、5年ぐらいほしいなと思います。

——5年あればいけそうですか！

山田　はい（キッパリ）。

——KID選手といい北岡選手、青木選手といい、そのあたりと闘うことも想定してるんですねえ。彼らにあって山田選手にない部分ってどういうことだと思います？

山田　全部です。

——あえて一つだけ挙げるとしたら？

山田　一つだったら……経験ですかね。

——経験がないのは不安ですか？

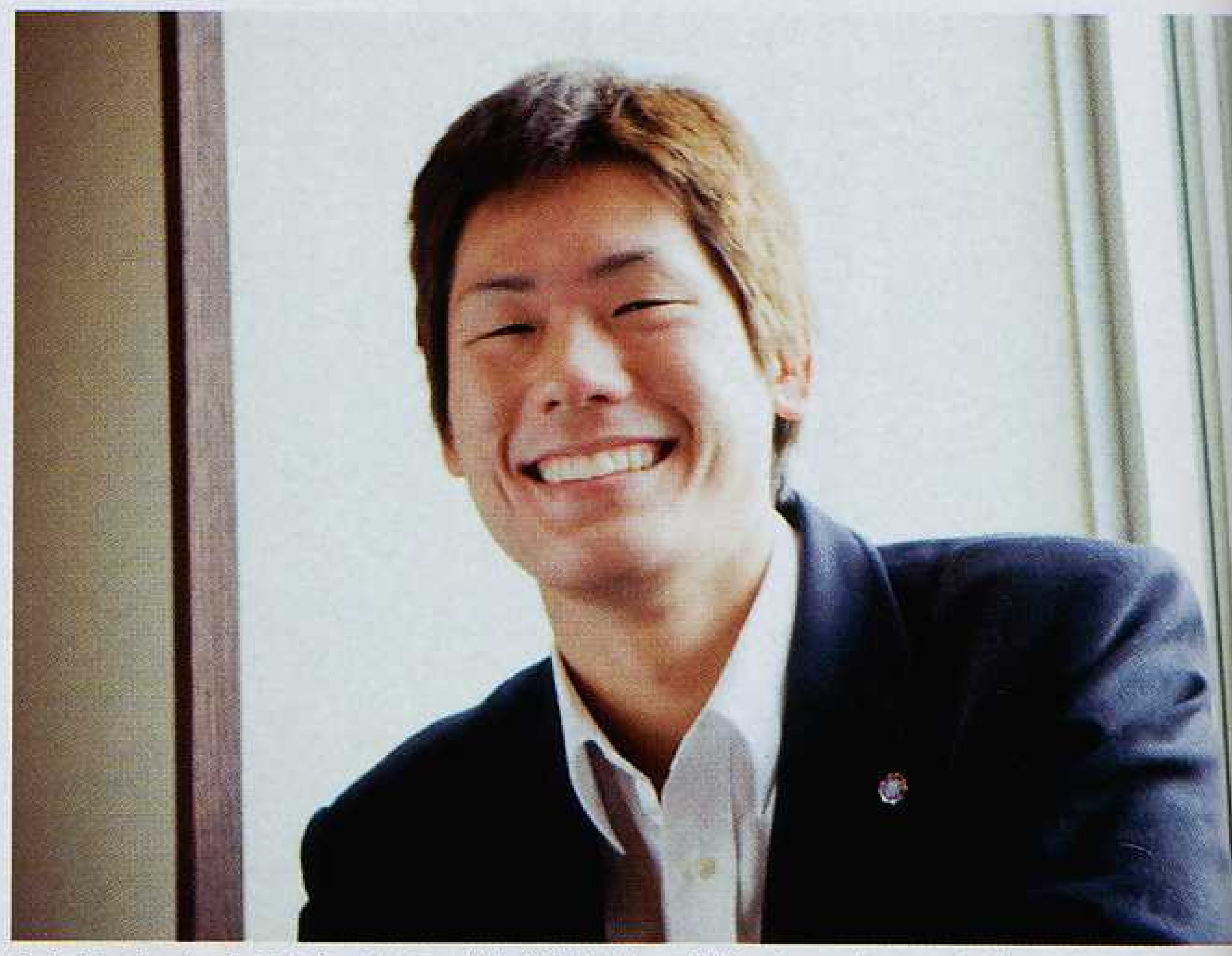
山田　そうですね。でも、そこは積み重ねっていうか、ボクに経験がないのはあたりまえなんで、いっぱい試合していくしかないとは思ってますけど。

——いま、具体的に3年後や5年後の話になりましたけど、けっこう格闘家としての人生は具体的にプランがあったりするんですか？

山田　プランっていうか、まだ就職もしてないんですけど、将来的には格闘技だけで食べていけるようになりたいです。

——格闘技自体はずっと続けていくのが理想なんですね。

北岡選手や青木選手に対しては、5年ぐらいほしいなと思います



やまだ・てつや■1990年4月2日、神奈川県出身。柔道をバックボーンに高校から総合格闘技の世界へ。高校2年のときにZSTの闘龍門である『SWAT!』でデビューはたし、寝技での快進撃が注目を集めた。グラップリングマッチはもとより、ZSTルールでも現在負けなし。『戦極』フェザー級GPでは台風の目として注目が集まる。これを機にブログをスタート（http://blog.livedoor.jp/zst_yamada/）。180cm、70kg。

山田　うーん、まああと10年ぐらいだと思ってます。10年経ったらとりあえずは総合はやめて、グラップリングだけの試合にしようかなって。

——スタイル的にはグラップリングのほうがやりたいんですか？

山田　いや、いまは総合のほうがやりたいです。10年経ったら身体のほうも心配なんで。総合を10年もやったらたぶんボロボロになると思うんで、そこで切り替えようかなって。

——いまはわりと総合をやりたい気持ちなんですね。

山田　そうですね。『戦極』さんはパウンドもあるし、ZSTとはまたルールが違ってきますけど、今回からはそれをあたりまえだと思って練習しないとダメだなって思ってます。

——今回、『戦極』だけじゃなくてDREAMでもフェザー級GPが行なわれますが、それは意識したりしますか？

山田　まだ誰が出るかもわからないんで、なんとも言えないです（DREAMフェザー級参戦選手発表前の2月4日に収録）。

——『戦極』とDREAMという二つの大きな舞台に対しては、それぞれどんな印象がありますか？

山田　二つとも並んでる感じですね。でも、その一つに出られたんで嬉しいです。

——二つのリングに何か違いは感じますか？

山田　うーん、レベル的には一緒じゃないですか？

——DREAMでは所選手が活躍してますし、山田選手の憧れる地上波中継がありますよ。

山田　ああ、テレビは出たいです（笑）

——そういう意味では『戦極』は知名度的に弱いんじゃないかという声もあるようなんですが、そう言われている点についてはどう思いますか？

山田　ま、自分自身もみんなにとっては知らない選手の一人だと思うんでなんとも言えないですし、ほかの選手は『戦極』さんに出るレベルの選手なんで、少なくとも自分よりは完全に上の選手ばかりだと思ってます。そんな中で、ボク自身は結果を残して名前を残せればなっていう感じだと思います。

——はー。山田選手はしっかりしてますね。真面目なんですか？

山田　いや、ぜんぜん真面目じゃないです！（照）。たぶん、緊張してるんだと思うんですけど。

——そうなんですか。ところで、これから社会人になることで、不自由になることって何かありそうですか？

山田　……いや、まだあんまり思いつかないですね。周りの人もみんな協力してくれてるんで、凄いやりやすいなって思いますけど。

——なるほど。じつは、山田選手のいまのZSTでのキャッチフレーズが「スーパー高校生」じゃないですか。でも、卒業するにあたってニックネームが変わるらしいんですよ。

山田　あ、なんになるんですか!?

——噂レベルですけど、聞いた話によると「戦極王子」になるんじゃないかということでした。

山田　………誰が考えたんですか？

——詳しくは知りませんが、広報の國保さんや『戦極』スタッフの方々がひねり出したんじゃないでしょうか。

山田　……じゃあ、文句言えないですね（ボソッと）。

——ハハハハハ！　では、山田選手の『戦極』での華々しい活躍を期待しております！

山田　が、頑張ります！

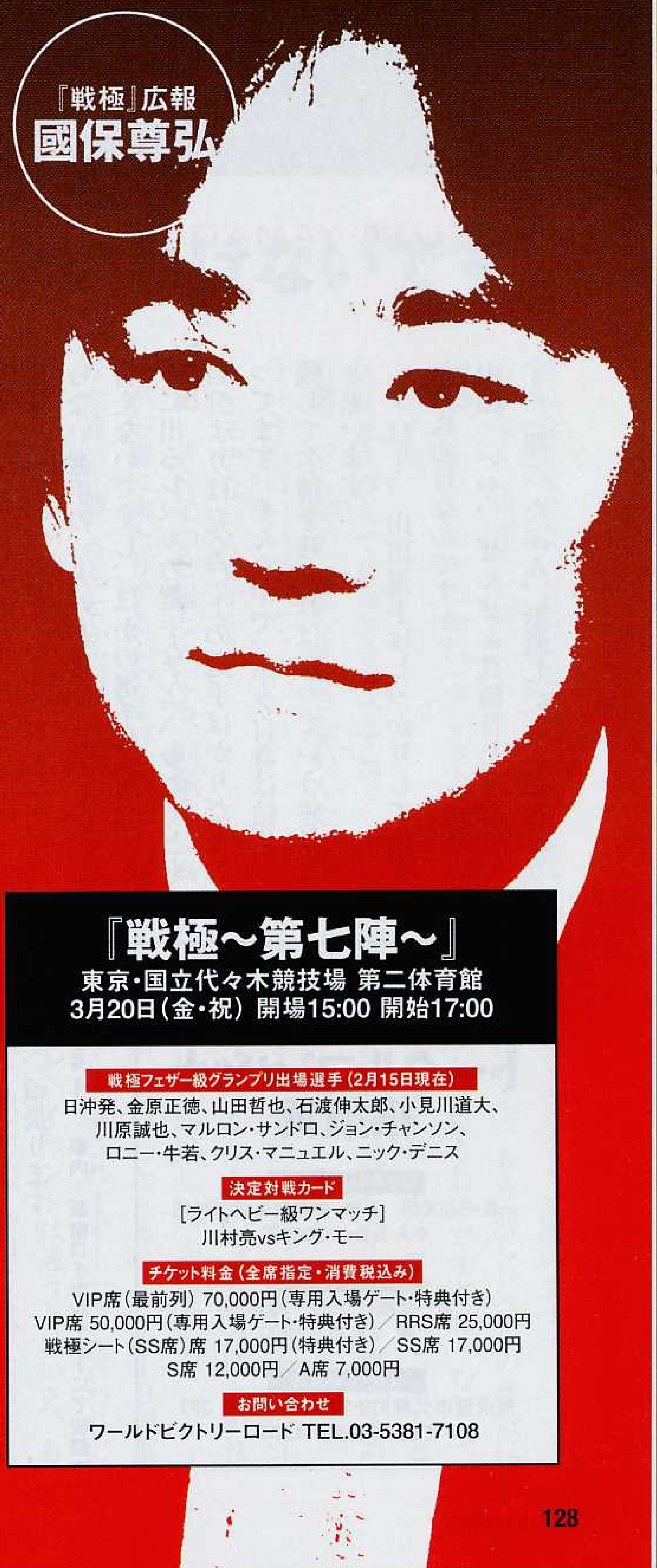
【09年2月4日／都内・新宿ロイヤルホストにて収録】

TETSUYA YAMADA

い！3月はフェザー級に注目！

極』の名物広報が語る GP見どころガイド

構成／阿修羅チョロ



『戦極』広報
國保尊弘

リアルという部分で純粋に強い選手を揃えられたと思っています

―3月20日の『戦極～第七陣～』ではフェザー級GPが開催されるわけですが、16選手のトーナメントということで、選手の選考も難航してるみたいですが。

國保 まあ、そうですね。我々としてどうしても出場してもらいたい数選手がいて、まだ、その選手に関して最終的な結論に至っていないという部分もあるので。

―この号の発売は2月21日になるんですが、それまでには決まってますよね？

國保 その頃にはカードも含めて発表できているはずです（笑）。

―3月にはDREAMでもフェザー級GPがあるわけですけど、水面下では出場選手の争奪戦も熾烈だったんじゃないでしょうか？

國保 いや、そんなにないですよ。2～3人じゃないですか。それに出たいっていうガイジン選手はたくさんいますからね。

―そうですか。同じ月に行なわれるということで、どうしてもDREAMと比べられるところもあると思うんですが、そのへんはいかがですか？

國保 べつに意識はしてないです。何人かダブった選手の動向は気になったっていうのは本音ですけど、求めるところが違いますから。

―それはフェザー級GPに限らずってことですよね。

國保 まあ、とくに今回のフェザー級に関しては。DREAMさんはどうしても地上波ありきの部分があると思うので。

―どうしても、数字を獲れる選手の参戦が必須になってくるわけですからね。

國保 僕らは『戦極G！』は別として、地上波中継はないですから、逆に『戦極』が追い求めているリアルという部分で純粋に強い選手を揃えられるという自信はあります。

―今回のフェザー級GPの一番のウリはどのへんになるでしょうか？

國保 今回は初来日の選手も多いですし、ネームバリュー的にはそれほどないかもしれませんが、間違いなく実力は世界のトップクラスが集まっていると自負してますから。試合の内容に関してはレベルの高いものを見せられると思います。

―確かに、12戦無敗のパンクラスフェザー級王者のマルロン・サンドロ、アメリカのクリス・マニュエルやカナダのニック・デニスも無敗なんですよね。

國保 韓国のジョン・チャンソン選手も、いまだMMAは8戦無敗ですからね。昨年12月のDEEPでは孫煌進選手にKO勝ちしたり、ここにきて戦績も伸びてきてますし、アグレッシブさでも今大会で一番といってもいいぐらいの選手なので、かなり楽しみですね。

―日本人の注目はやはり日沖選手になりますかね。大会ポスターにもデカデカと載っていますし、会見で國保さんも「フェザー級GPの柱になってもらいたい」と言ってましたし。

國保 もちろん、期待してますよ。日沖選手は修斗では佐藤ルミナ選手を倒したり、海外でも活躍していたり、素晴らしい戦績を持った選手ですから。この階級では世界で3本の指に入っている選手だと思うし、今回、『戦極』に参戦してくれたことで間違いなく世界が注目するトーナメントになったと思いますね。

―話題性でいえば〝スーパー高校生〟山田くんの参戦が注目されています。

國保 山田選手も今大会の一つの目玉として期待してます。いま高校生っていうのは、各スポーツ界の中でも活躍してるじゃないですか。

―ゴルフの石川遼選手のようになってくれれば言うことはない、と？

國保 そうなってもらいたいですね。マスクもいいですし、笑顔も見たらまだあどけないところもあって「ホントに高校生なんだな」って感じもしますし（笑）。

―それこそ〝ハニカミ王子〟的なキャッチフレーズも考えたりしてます？

國保 ZSTさんでは〝スーパー高校生〟と言われてましたけど、何か〝戦極王子〟のようなキャッチフレーズを考えようとは思ってますね（笑）。まあでも、話題性だけではなく実力的にいっても勝ち残っていく可能性も充分あると思いますし、僕は格闘技界のニューヒーローになりうる逸材だと思ってますね。

―〝戦極王子〟は期待できそうですね。あと、フェザー級GPとは関係ないですが、『戦極』を主催するワールドビクトリーロードと日本修斗協会の協力関係が発表されましたが、今後、修斗とはどういった関係になっていくんでしょうか？

國保 具体的な部分に関しては、これから修斗協会の理事の方々と詰めていくということになると思うんですけど、選手を育てる機関として協力できることはしていきたいと思ってますね。

―『戦極』に上がっている選手が修斗に上がる可能性もある、と？

國保 全然あると思いますよ。現に廣田（瑞人）選手なんかもケージフォースで活躍しながら『戦極』に出てもらったりしてますし、修斗さんに限らず、パンクラスさん、DEEPさん、ZSTさんもそうですけど、すべてにおいて出たり入ったりというか（笑）、タイミングと条件に応じて可能性はあると思います。

―ちなみに、DREAMに上がっている選手が『戦極』に出る可能性もあるんでしょうか？

國保 そこもタイミングとチャンスがあれば我々は受け入れたいと思っています。今回のフェザー級GPにしても、DREAMさんの契約体重はわからないですが、そこまでは落とせないという選手や契約的に問題がなければ可能性はあると思いますし。もちろん誰でも受け入れるというわけではないですけどね（笑）。

―まあ、そうでしょうね（笑）。では、フェザー級GPの盛り上がりを期待してます！

『戦極～第七陣～』

東京・国立代々木競技場 第二体育館
3月20日（金・祝） 開場15:00 開始17:00

戦極フェザー級グランプリ出場選手（2月15日現在）

日沖発、金原正徳、山田哲也、石渡伸太郎、小見川道大、川原誠也、マルロン・サンドロ、ジョン・チャンソン、ロニー・牛若、クリス・マニュエル、ニック・デニス

決定対戦カード

［ライトヘビー級ワンマッチ］
川村亮vsキング・モー

チケット料金（全席指定・消費税込み）

VIP席（最前列） 70,000円（専用入場ゲート・特典付き）
VIP席 50,000円（専用入場ゲート・特典付き）／RRS席 25,000円
戦極シート（SS席）席 17,000円（特典付き）／SS席 17,000円
S席 12,000円／A席 7,000円

お問い合わせ

ワールドビクトリーロード TEL.03-5381-7108

ぶっちゃけ、みんなレベルが高いんで、

―それこそDEEPフェザー級王者

名前の知らない選手も多いかもしれないけど、一回観たらハマる！

——3月はDREAMも『戦極』もどちらもフェザー級GPを開催するわけですが、なんで同じ時期にやるんですかね？

佐伯　「なんで」って言われてもわかんないけどさ。……まあ、ホントは答えを知ってるけど、言えないよな（笑）。

——複雑な理由でもあるんでしょうか？

佐伯　答えは簡単でしょ。やる側のことを考えればわかるんじゃない？（笑）。

——頑張って考えます（笑）。これは『戦極』にも言えると思うんですけど、正直、出場選手の知名度っていう部分では弱いところがありますよね？

佐伯　そのとおり。フェザー級はまだ大きな会場でやってないからしょうがない部分もあるんだけど、専門誌の人はともかく、新聞さんとかわかんないでしょ。

——そうかもしれませんね。

佐伯　でもね、極端な話、マスコミとかファンとかには伝わらないと思うけど、僕らみたいな選手を出してる側からすると、この階級っていうのはもの凄くリスクの大きな大会なんだわ。

——それはあるでしょうね。

佐伯　だって、この階級って各団体で日本人が強いと思ってるわけじゃん。実際、強いし。でも、その選手がもし負けたらいろんなリスクが出てくるわけだよ。

——DEEPからはフェザー級王者の今成さんが出場するわけですが。

佐伯　負けたら当然リスクは大きい。でもそれはDREAMに限らず『戦極』も一緒。去年、横田（一則）たちが出たライト級GPの4人も各団体のチャンピオンクラスだから、やっぱり最後は団体戦になっちゃうからリスクは大きいんだわ。

——佐伯さん的にはDEEPの選手が、天敵の久保社長率いる慧舟會の選手に負けるわけにはいかないでしょうし（笑）。

佐伯　まあ、そうだよな（笑）。そういう意味では、今回はファンからしてみれば名前の知らない選手も多いかもしれないけど、間違いなくおもしろくなるから！　それに、いまはDREAMでも『戦極』でも70キロのライト級が凄く盛り上がってるけど、時代は70キロより下のフェザーになってきてるんだわ。

——日本人選手の層が厚い階級ではありますからね。

佐伯　そうでしょ。今回は（山本）KID選手が出る出ないっていうのはあるけど、やっぱり一般の人からしてみると、知らない選手ばっかりというのはあたりまえの話。だから、ぶっちゃけ、興行的には冒険だと思うよ。ただ、どの階級も最初はそういった冒険をしながら育ってきたわけじゃん。

——『武士道』なんかもそうですよね。

佐伯　最初は誰も名前も知らないでしょ。俺だって知らないもん。今回のDREAMのフェザー級GPに出るガイジンも一人二人しか知らないからな！

——そんな自信たっぷりに言わないでください（笑）。

佐伯　でも、プロフィールとか見ると、みんなヤバそうなんだよな。でも、会見で出場選手が並んだのを見たらイケメンも増えてると思うし、一回騙されたと思って、まずは試合を観てほしいね。……騙すって言ったらおかしいけど（笑）。

——試合内容には自信がある、と？

佐伯　あるね！　去年の『Dynamite!!』でやった所英男vs中村大介とか、ああいう試合ばっかりになると思うよ。ぶっちゃけ、みんなレベルが高いんで、軽量級っていっても一発で倒すパンチを充分持ってるからね。ヘタしたらパンチも見えないかもしれない。

——何が起こったかわからないうちに試合が終わる可能性もある、と（笑）。

佐伯　そう（笑）。だって、この階級は日本で一番選手層も厚いし、レベルはハンパじゃないから。いま日本で格闘技やってる8割が65キロ以下と言ってもいいぐらいだからな。ライト級では青木とか北岡が活躍してるけど、フェザーのほうがより日本人が活躍できる階級だからね。

——佐伯さんもDEEPの代表としての顔もあって答えにくいとは思うんですけど、優勝候補は誰だと思います？

佐伯　う～ん、まだ全部発表されてないからわかんないんだけど、ハッキリ言って俺が優勝予想すると、ビビアーノ（・フェルナンデス）じゃないかと思うんだわ。

——以前、山本KID選手が倒した選手ではありますけど、強い選手ですよね。

佐伯　ただ単に数少ない知ってるガイジンっていうのもあるんだけど（笑）、ビビアーノは強い。まあでも、日本人も全然いけると思うよ。なんだかんだ言って、トップクラスの人間が集まってるんで。

——それこそDEEPフェザー級王者の今成さんとかはどうですかね？

佐伯　日本人の中では抜けてると思う。だって、総合で三冠王っていないでしょ。

——ケージレージとDEEPと、あとZSTのタッグ王者なんですよね。

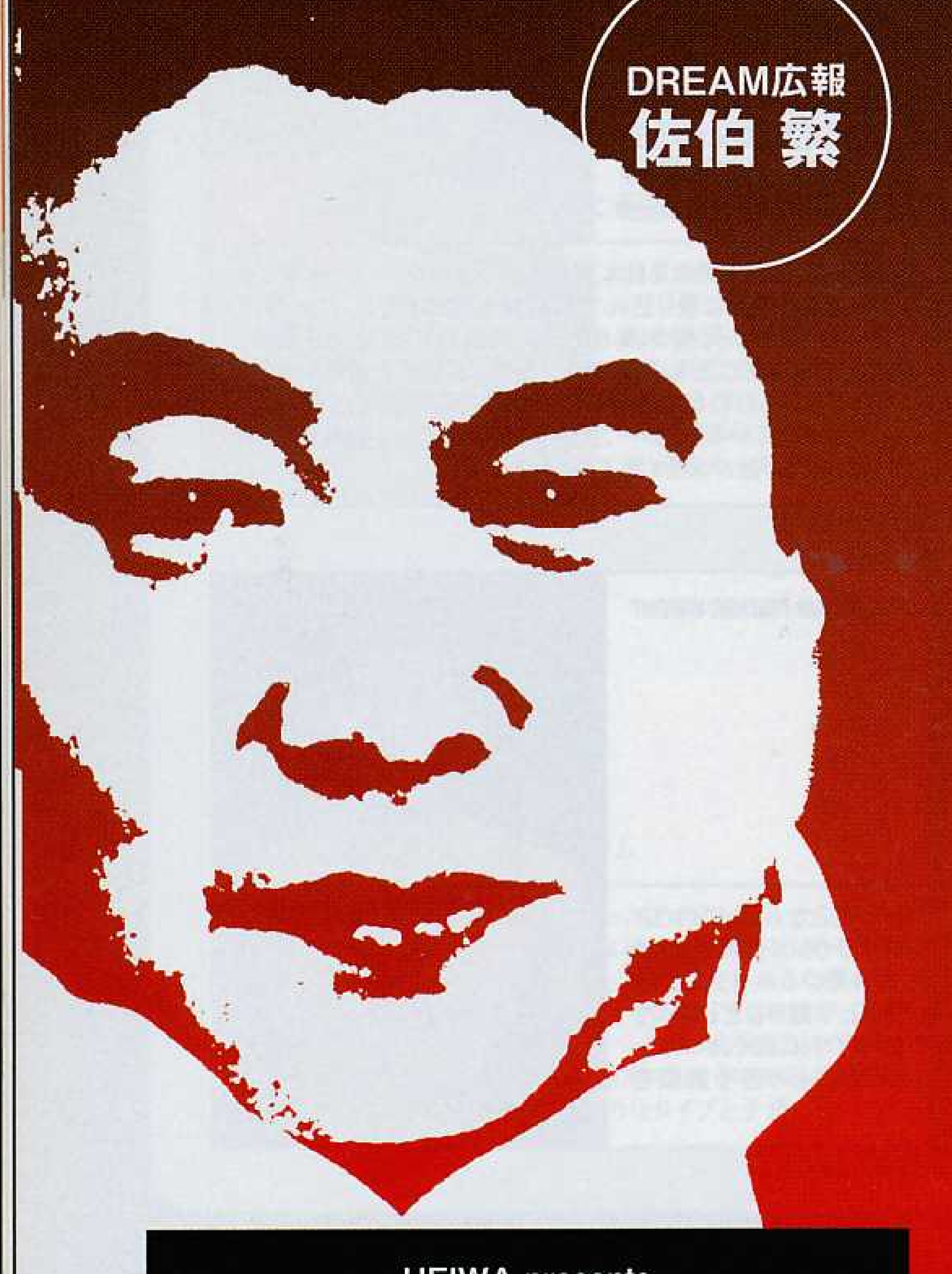
佐伯　そう。ただ、大きな舞台で結果が出せてないっていうのもあるし、あと今成の場合は苦手なタイプがわかってるだけに、そこをどう克服できるかにかかってるだろうな。まあ、今成に関しては青木だったり北岡だったり、練習仲間がブレイクしていい流れができてるじゃん。

——それこそ〝キモ強〟のボスがついに登場みたいな雰囲気もありますし（笑）。

佐伯　あとは、高谷（裕之）が出るってことの大きさをみんなわかってないんじゃないの？　……いろんな意味で（笑）。

——いろんな意味があるわけですね（笑）。

佐伯　あると思うよ（笑）。俺からしたら高谷が出るのは無理だと思ってあきらめてた部分もあったんだけど、それが現実に出ることになったっていうのはじつは凄いこと。実際、試合的にも盛り上がると思うし。そういった部分も含めて『kamipro』読者もフェザー級に注目してください。絶対にハマるから！



DREAM広報
佐伯繁

HEIWA presents
『DREAM.7
フェザー級グランプリ2009 開幕戦』
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
3月8日（日）開場15:00 開始16:00（予定）

DREAMフェザー級グランプリ出場選手（2月15日現在）
今成正和、所英男、山本篤、高谷裕之、前田吉朗、西浦“ウィッキー”聡生、大塚隆史、ビビアーノ・フェルナンデス、ミカ・ミラー、チェイス・ビービ、キム・ジョンウォン、ジョー・ウォーレン、エイブル・カラム

チケット料金（全席指定・消費税込み）
VIP席 100,000円（専用入場ゲート・グッズ付き）
RS席 30,000円／スタンドS席 17,000円／スタンドA席 7,000円

お問い合わせ
DREAM事務局 TEL.03-5775-5065

軽くて、速くて、うまい3月

DREAM、『戦極』の

フェザー級G見



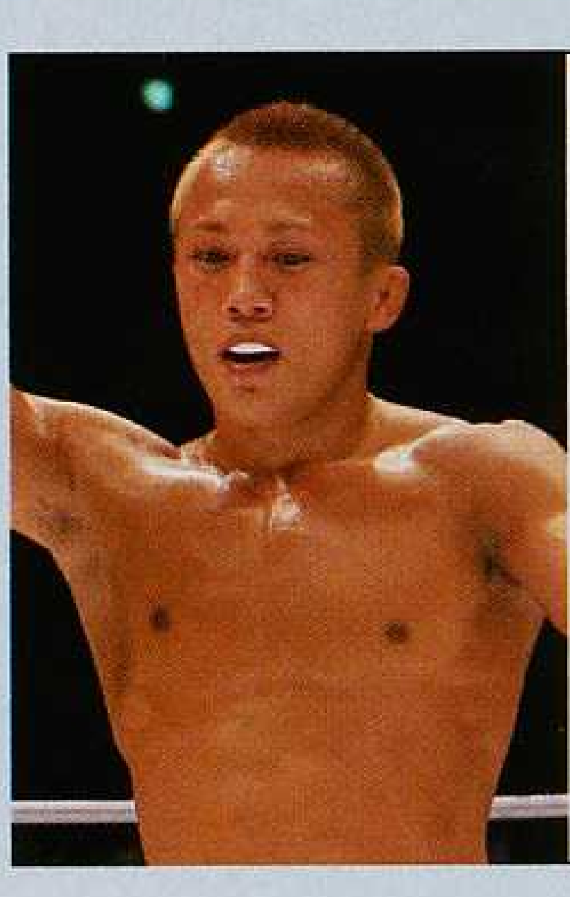
kamipro
読者にも
やさしい

フェザー級選手分析 DREAM

**3月からスタートするDREAM&『戦極』フェザー級戦線。
今年の日本格闘技界はフェザー級な1年になりそうな予感だが、
出場選手への知識がほとんどないであろう本誌読者に、
超! 格闘技マニアのライター・中村拓巳氏に解説していただいた。
フェザー級がどんだけ凄いことになるのか、
中村氏の渾身の原稿を噛み締めろ!**

文／中村拓巳(GBR)

なかむら・たくみ■格闘技ウェブマガジンGBRのライター。格闘技にあくなき情熱を持ち、自らもZSTなどの格闘技イベントに参戦しているスーパー格闘技マニア。読者には伝わらないかもしれないが、記者会見では必ず一番に質問をすることで有名。



DREAM FEATHER WEIGHT

ATSUSHI YAMAMOTO

山本篤

生年月日	1980年10月2日
身長/体重	168cm/62.8kg
出身地	滋賀県
所属チーム	KRAZY BEE

KID率いるKRAZY BEEの軽量級エース。KID同様にレスリングをベースに持ち、打撃、グラップリングもそつなくこなすオールラウンドプレイヤー。これまで一本負けはなく、弱点とされていた打撃も克服。ここ数年で闘い方に安定感が出てきており、大負けはしないタイプ。身体能力はGPに参戦する日本人選手の中でもトップクラスだが、vs外国人戦績が少なく、外国人相手にどれだけ持ち味を発揮できるか?

DREAM FEATHER WEIGHT

YOSHIRO MAEDA

前田吉朗

生年月日	1981年10月31日
身長/体重	170cm/61.0kg
出身地	香川県
所属チーム	パンクラス稲垣組

初代パンクラスフェザー級王者で、日本を代表する軽量級ファイター。類稀な身体能力と格闘技センスを持ち主で、打撃、寝技、レスリングとあらゆる技術のレベルが高い。ここ近年はWECに主戦場を移し、現王者のミゲール・トーレスと名勝負を繰り広げ、その名を世界に知らしめた。この階級で日本最強と評価する関係者も多い。KIDとの対戦が熱望されていた一人であり、前田絡みのカードはどれも夢の組み合わせになりそう。





DREAM FEATHER WEIGHT

HIROYUKI TAKAYA

高谷裕之

生年月日	1977年6月10日
身長/体重	167cm/65.0kg
出身地	千葉県
所属チーム	WK高谷軍団

"喧嘩番長"として活躍するハードパンチャー。『HERO'S』では70キロで試合をしていたが、フェザー級が適正体重。昨年はWECで2試合闘い、北米MMAを肌で実感している。基本的なファイトスタイルは"倒されずに殴る"典型的なストライカーで、誰が相手でも真っ向から打ち合う好戦的なタイプ。フィジカルで上回る相手と対戦した場合、どれだけそのスタイルを貫けるかどうか。そこが試合のポイントになりそう。



DREAM FEATHER WEIGHT

MASAKAZU IMANARI

今成正和

生年月日	1976年2月10日
身長/体重	165cm/66.0kg
出身地	神奈川県
所属チーム	チーム・ローケン

足関十段として知られる日本屈指のグラップラー。ガードをしない、いきなり足元に滑り込んで関節技を極めるなど、ファイトスタイルはトリッキー。青木真也もその関節技の破壊力を認め、過去には現WEC王者のマイク・ブラウン、UFCで活躍するジョージ・グージェウの足を破壊しており、「この階級で世界のトップ」と評価している。その一方、対戦相手によって噛み合う、噛み合わないの差が大きく出てしまう一面も。

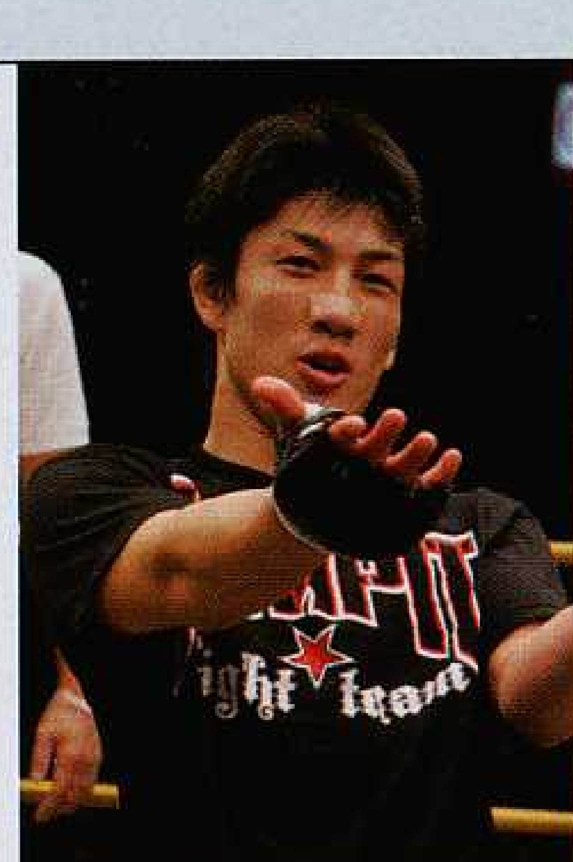
DREAM FEATHER WEIGHT

DJ.TAIKI

DJ.taiki

生年月日	1982年8月24日
身長/体重	172cm/65.0kg
出身地	千葉県
所属チーム	K.I.B.A.所属

キックの超名門OGUNIジム出身の典型的なストライカー。元祖コスプレファイター(本人は否定)で、滑舌の悪いマイクアピールとネガティブ発言が特徴的。しかしその実力は周囲の評価以上のものがあり、前田吉朗、大沢ケンジ、植松直哉、昇侍という日本のトップ選手を軒並み撃破している。その打撃テクニックは日本でもトップレベルだ。レスリング&寝技に難があり穴も多いが、逆に誰が相手でも勝つ可能性を秘めている選手。



DREAM FEATHER WEIGHT

HIDEO TOKORO

所英男

生年月日	1977年8月22日
身長/体重	170cm/66.0kg
出身地	岐阜県
所属チーム	チームZST

言わずとしれた元・闘うフリーター。KID不在となれば、このGPの主軸となるであろう存在。技術的にはグラウンドテクニックばかりに注目が集まるが、ここ数年力を入れているボクシング技術はかなり伸びており、ミドルキック、飛びヒザ蹴りなど、蹴り技にも非凡なものを感じさせる。ややテイクダウンに弱く、レスリングベースの選手との相性が悪い。このGPでその苦手意識を克服できるかがポイントになる。



「KIDが出なかったらおもしろくない」

「所くらいしか名前を知らないよ」

今年からスタートするDREAMフェザー級GPの出場メンバーを見て、『kamipro』読者の多くはそんなことを感じるかもしれないが、それははっきり言って甘い!! 日本国内の格闘技イベントだけでなく、海外の格闘技イベントを逐一チェックし、試合結果のテキストだけを見て興奮してしまうような全身格闘技人間の僕からすれば、このGPは昨年のライト級GPやミドル級GPよりも盛り上がるんじゃないかと思っているくらい熱くなれるGPなのだ。

フェザー級はKIDの適正体重と言われ、いわゆるKID階級として認識されているが、相対的に見て、日本の総合格闘技界において最も層が厚く、人材の宝庫とも言えるのがこのフェザー級なのだ。総合格闘技の競技化が進み、アメリカではMMAとして急速に発展を遂げている近年、重量級での日本人の活躍は難しくなっている。その波は徐々に中量級にも押し寄せており、これまで日本人が世界の中心にいたウェルター級(77キロ)やライト級(70キロ)でさえ、もはや日本と世界のあいだには高い壁が生まれつつある。ボクシングやレスリングといった裸体の格闘技を見てもわかるとおり、階級として世界と闘い日本が結果を残しているのは軽量級がほとんど。つまりフェザー級は多くの日本人総合格闘家が世界と互角に対抗できる"残された聖域"なのである。

そしてDREAMには日本のフェザー級トップ選手がずらりと並んだ。過去にいくつもGPと呼ばれるトーナメントが開催されてきたが、これだけ日本

DREAM FEATHER WEIGHT

TAKAFUMI OTSUKA

大塚隆史



生年月日	1986年8月22日
身長/体重	168cm/69.0kg
出身地	千葉県
所属チーム	AACC

レスリングをベースに持ち、豊富な運動量とスタミナで相手を圧倒するノンストップファイター。プロデビュー後、日本では結果の出ない時期もあったが、ブラジルで開催されているFury FCでブレイク。"ブラジルの桜庭和志"というよくわからないニックネームで活躍した。外国人選手との試合経験も多く、山本篤同様にこの階級の日本人ではトップの身体能力を誇る。知名度や注目度は他の選手に劣るが、GPを勝ち上がる可能性は大。

DREAM FEATHER WEIGHT

NISHIURA WICKY AKIYO

西浦"ウィッキー"聡生



生年月日	1983年8月8日
身長/体重	174cm/65.0kg
出身地	長崎県
所属チーム	STGY

格闘技以外の趣味は絵画で、絵の勉強のために世界各国を放浪する格闘技界随一の奇才。両手をだらりと下げて、上半身を震わせて前に出るという小島よしおスタイルで相手に近づき、パンチ一発で相手をKOする超独創的なストライカー。ビッグイベントには今回が初参戦だが、見る者に強烈なインパクトを残すことは間違いないだろう。偏ったファイトスタイルのため、負けるときは完封されるが、型にハマッたときは無類の強さを発揮する。

DREAM FEATHER WEIGHT

KIM JONG WON

キム・ジョンウォン



©MFIGHT

生年月日	1976年11月20日
身長/体重	170cm/69.0kg
出身地	韓国
所属チーム	Team Yoon

ウォーレンがアメリカレスリング界からの刺客なら、ジョンウォンは韓国柔道界からの刺客。90年代中盤から韓国を代表する柔道家として活躍し、アジア大会を筆頭にさまざまな国際大会で優勝をはたす。柔道時代の先輩ユン・ドンシクの元で総合格闘技のトレーニングを積み、今回が満を持しての総合格闘技デビュー戦。関係者から高い評価を得ているジョンウォンだが、こちらも蓋を開けてみなければ、総合格闘技への適応は未知数。

DREAM FEATHER WEIGHT

CHASE BEEBE

チェイス・ビービ



©Josh Hedges (UFC)

生年月日	1985年3月29日
身長/体重	170cm/61.0kg
出身地	アメリカ
所属チーム	HITスクワッド

元WECバンタム級王者。チャンピオン時にはKIDとの対戦の話も持ち上がり、2007年の大晦日には谷川EPが招聘に動いたこともある選手。現王者ミゲール・トレースには敗れるものの、ハニ・ヤヒーラには勝利しており、北米の軽量級トップと言える存在。ファイトスタイルもキックボクシング、レスリング、グラップリングをバランスよくこなす、これぞ北米MMAというタイプで、今回のGPの中で世界基準にいる選手である。

DREAM FEATHER WEIGHT

BIBIANO FERNANDES

ビビアーノ・フェルナンデス



生年月日	1980年3月30日
身長/体重	167cm/61.0kg
出身地	ブラジル
所属チーム	レボリューション・ファイトチーム

元柔術世界王者で、一瞬のうちに関節技を極めてしまうことから"フラッシュ(閃光)"という異名を持つ。数々の強豪柔術家、総合格闘家を輩出したマナウス出身で、総合への適応力も高い。WECではユライヤ・フェイバーを追い込み、『HERO'S』でKIDと対戦した際にはKIDをテイクダウンし、パスガードから腕十字を極めかけるなど、最もKIDを苦戦させた。今大会でも優勝候補の一角に挙げられる。

DREAM FEATHER WEIGHT

JOE WARREN

ジョー・ウォーレン



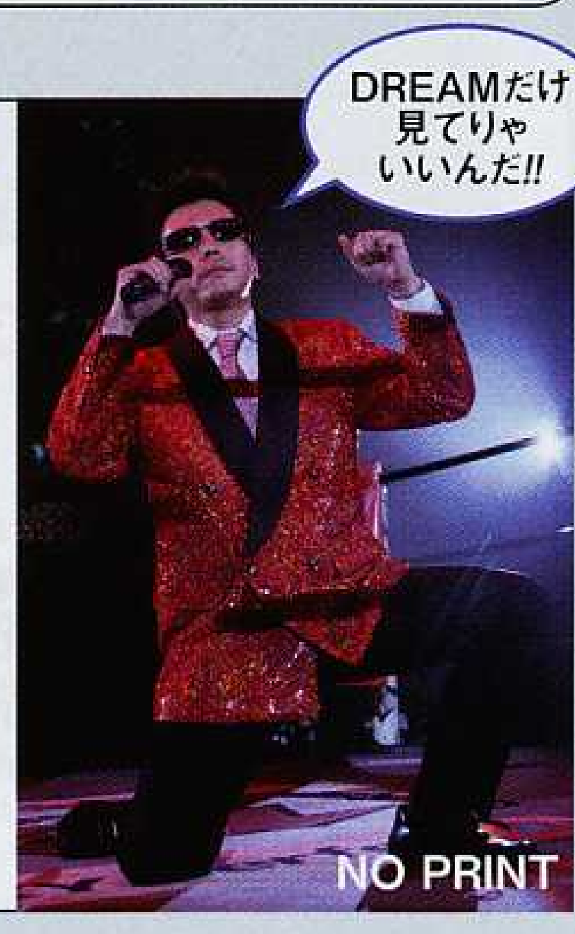
生年月日	1976年10月31日
身長/体重	168cm/60.0kg
出身地	アメリカ
所属チーム	チーム・クエスト

アメリカ出身のグレコローマンレスラーで全米レスリング選手権とパン・アメリカン大会で優勝。オリンピック出場こそなかったものの、世界選手権&ワールドカップの2大会も制覇したワールドクラスの実力の持ち主。昨年から総合格闘技への転向をはたし、今回がデビュー戦となる。レスリングの実績を見る限り、アスリートとしての実力は未知数。そのポテンシャルを発揮できるかどうかは、試合になるまではわからないところだ。

DREAM FEATHER WEIGHT

MICAH MILLER

ミカ・ミラー



生年月日	1987年2月14日
身長/体重	183cm/66.0kg
出身地	アメリカ
所属チーム	アメリカン・トップチーム

いまや世界最強チームの一つとなったアメリカン・トップチームが送り込む新鋭。フェザー級にしては異例とも言える183センチという長身を誇り、圧倒的なリーチを活かしたクレバーな闘い方をする。何かズバ抜けた技術を持っているわけではないが、ごちゃごちゃした展開から相手を自分のペースに相手の引きずり込み、いつの間にかサブミッションを極めてしまうつかみどころのない選手だ。日本人選手は苦戦しそうなタイプと予想。

DREAM FEATHER WEIGHT

ABEL CULLUM

エイブル・カラム



生年月日	1987年4月21日
身長/体重	170cm/61.0kg
出身地	アメリカ
所属チーム	Cullum Ground Fighting

KOTCフライ級王者。13勝2敗という高い勝率を誇りながら、判定勝ちはわずか一つという超アグレッシブファイター。ケージファイターらしい勢いのあるキックボクシング技術はもちろん、ギロチンチョーク、ガードポジションからのスイープ、三角絞めや腕十字といったサブミッションも得意としている。グラウンドのポジショニングよりもガードからのサブミッションを重視する日本ではよりその持ち味が発揮されるはず。

ントが開催されてきたが、これだけ日本のトップ選手が勢ぞろいした大会はほかにないと断言してもよい。

さらに人材の宝庫らしく、多種多様な選手が集まったのもマニア心をくすぐるポイントだ。日本人選手だけを見ても、いまの総合格闘技におけるありとあらゆるファイトスタイルの持ち主が集まったと言える。そしてそれは外国人選手にも言えること。柔術の世界王者から北米MMAのトップファイター、そしてレスリング&柔道エリートまで、本当に個性豊かな選手が揃ったと思う。たとえば元WEC王者のチェイスはもちろん、ビビアーノなんてKIDに普通に腕十字を極めかけるレベル。

それにミラーのどこが強いのかわからないんだけど、いつの間にか一本を取ってしまう解読不能な強さなんて、技術的な研究のしがいが満載だ。はっきり言ってこういう選手に目を向けないようでは、現在進行形のMMAや総合格闘技を楽しんでいるとは言えないよ!

現時点ではまだすべての出場選手、そして組み合わせは決まっていないが、どんなカードでも勝負論、技術論、そして独自の試合テーマが生まれるに違いない。またどのタイミングで誰と誰が闘うかで優勝の行方が大きく変わってくるし、組み合わせやマッチメイクを考えるだけでも純粋にお腹いっぱい。もしここにKIDが加わろうものなら……2009年はこのGPで充分なくらいだ。

こんな具合に出場選手が発表されただけで勝手にテンション上がりまくっている僕。このGPが格闘技ファンを僕のような格闘技マニアへの扉を開くんじゃないかと思っている。



kamipro
読者にも
やさしい

フェザー級選手分析

戦極 SENGOKU

DREAMフェザー級GPが開幕する約10日後にスタートする『戦極』フェザー級GP。DREAMをはるかに凌ぐ勢いでマニア度が高まるのが『戦極』で、写真の手配にも四苦八苦するほどの未知の強豪が勢揃い。そんなディープすぎるフェザー級を、我々はどう追えばいいのか。マニア度MAXの中村氏に続けてレクチャーしていただいた!

文／中村拓已(GBR)



SENGOKU FEATHER WEIGHT

TETSUYA YAMADA
山田哲也

生年月日	1990年4月2日
身長/体重	180cm/70.0kg
出身地	神奈川県
所属チーム	しんわトータルコンバット

一昨年、ZSTに現われた超新星。柔道仕込みの関節技が武器で、ZST本戦デビュー戦では飛びつき腕十字で秒殺勝利。見よう見まねでやったブラジリアンキックで相手を吹っ飛ばすなど、打撃にも非凡な才能を発揮。おとなしい性格ながら「誰にも負ける気がしない」と書かれたTシャツを着て会場をうろつくなど大物の風格も漂う。バウンドありは今回が初挑戦だが、実力以上に何かをやってくれそうな予感が満載。

SENGOKU FEATHER WEIGHT

MICHIHIRO OMIGAWA
小見川道大

生年月日	1975年12月19日
身長/体重	168cm/70.0kg
出身地	茨城県
所属チーム	吉田道場

吉田道場の軽量級を代表する選手。PRIDE武士道でプロデビュー。その後はUFC、DEEP、修斗などさまざまな団体でキャリアを積んできた。元柔道家とは思えない肉食獣を彷彿とさせる打撃を中心としたファイトスタイルが特徴的。これまでベストウェートよりも重い70キロ級では結果が出ない時期も続いたが、『戦極』フェザー級ではより一層、実力を発揮するに違いない。ちなみに吉田道場には珍しい狂犬キャラだったりもする。





SENGOKU FEATHER WEIGHT

SEIYA KAWAHARA
川原誠也

生年月日	1988年1月18日
身長/体重	165cm/65.0kg
出身地	神奈川県
所属チーム	パンクラスP's LAB横浜

パンクラス期待の新星。極真空手をベースに、強烈なパンチと蹴りでKO勝ちを量産。試合を観た宇野薫に「直感的にいい選手になると思った」と言わしめたこともある。またパンクラス所属でありながら強面のバッドボーイで、どちらかと言えば（出稽古先でもある）KRAZY BEEにいそうなタイプ。非常にキャラも立っており、大舞台で一気にブレイクする可能性もある。技術的には日本人離れした打撃が外国人相手にどこまで通用するかが注目。



SENGOKU FEATHER WEIGHT

HATSU HIOKI
日沖発

生年月日	1983年7月18日
身長/体重	177cm/69.0kg
出身地	愛知県
所属チーム	ALIVE

『戦極』フェザー級のエース的存在。格闘技のベースが15歳から始めた修斗という生粋の総合格闘家で、ニックネームは"修斗の子"。その名のとおり、打・投・極のすべてでバランスのとれたトータルファイターで、打撃でも寝技でも一本を取れることが最大の武器。マーク・ホーミニックに二度勝利し、TKO世界フェザー級のベルトを巻いているが、国内ではまだ無冠。このチャンスをものにしてブレイクなるか？

SENGOKU FEATHER WEIGHT

MARLON SANDRO
マルロン・サンドロ

生年月日	1977年3月8日
身長/体重	172cm/66.0kg
出身地	ブラジル
所属チーム	ノヴァウニオン

軽量級の強豪が集うブラジルの名門ノヴァウニオンの所属選手。ブラジルでは総合格闘技9連勝を飾り、パンクラスで日本初上陸。そのデビュー戦で日本屈指のストライカーDJ.taikiを打撃でも圧倒、昨年10月にパンクラス第2代フェザー級王者となる。常に前に出続けるアグレッシブファイトはかつてのシュートボクセ勢を彷彿とさせる。勢いに乗らせると厄介なタイプで、開幕戦の結果・内容によってはそのまま優勝まで突っ走りそうな選手。



SENGOKU FEATHER WEIGHT

MASANORI KANEHARA
金原正徳

生年月日	1982年11月19日
身長/体重	173cm/70.0kg
出身地	東京都
所属チーム	パラエストラ八王子

小谷直之、所英男に続くZSTの新エース、通称"ZSTの金ちゃん"。関節技を主体とした寝技、アグレッシブな打撃など、ZST育ちらしいファイトスタイルを持つ。所属ジム以外にも積極的に出稽古を行ない、DEEPジム（NTT）で寝技を、初代タイガーマスク率いる掣圏道で打撃を学んでいる。その強さは誰もが認めるところだが、大一番でたまにポカしてしまうなど、そういう部分で小谷・所譲りな一面も。



「KIDが出なかったらおもしろくない」

「所くらいしか名前を知らないよ」

DREAM以上にそんな声が出てくるであろう『戦極』フェザー級GP。日本人選手のほとんどがビッグイベントには初参戦、外国人選手もほぼ同じで、DREAMでテンションが上がるような格闘技ファンでも試合を観たことがないという選手が大勢いるに違いない。そんな初物づくしのイメージが強い『戦極』フェザー級GPなのだが、そこには"リアル"を追求する『戦極』イズムがたっぷり含まれている。

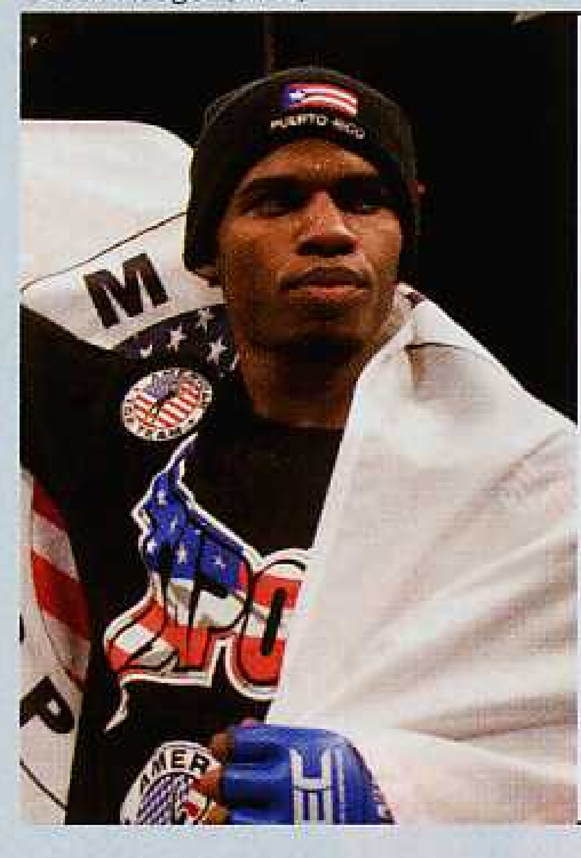
とくにそれが顕著に現われているのが、外国人選手たち。バラエティ豊かな選手が集まったDREAMに対し、こちらは純粋に実力というものさしで測ったかのような人選になっている。どの選手も打・投・極のバランスがよく、穴がない選手ばかり。誰が対戦相手でも接戦に持ち込むようなタイプの選手が多いと言えるだろう。マニアにとっては「よくぞこのメンバーが集結してくれた!」と言いたくなるような面子だ。

しかも試合がつまらないかと言われれば、そうではない。実力者ながらも、日本のファンの変態心を刺激する、日本人が好きになりそうな選手たちなのだ。

たとえばパンクラス王者のサンドロは柔術の名門として知られるノヴァウニオンの所属選手ながら、試合スタイルはPRIDEで絶大な人気を博したシュートボクセそのものだし、クリス・マニュエルの蹴りを主体にした打撃+柔術ベースの寝技はまさに日本人好み。

さらにチーム・トロージャンからやってくるロニー・牛若は、早く生で試合を観たいと思わせる選手! イギリスを

©Josh Hedges (UFC)



SENGOKU FEATHER WEIGHT

CHRIS MANUEL

クリス・マニュエル

生年月日	1987年7月21日
身長/体重	169cm/65.0kg
出身地	プエルトリコ
所属チーム	アメリカン・トップチーム

ブラジリアン柔術では黒帯を巻き、アメリカン・トップチームでトレーニングを積む若きプエルトリカン。もともとは柔術がベースでデビュー後はサブミッションによる一本勝ちが多かったが、最近は打撃テクニックも向上。とくにハイキック、首相撲からのヒザ蹴りといったムエタイ技術には目を見張るものがある。ボクシング+レスリングが主体の選手が多い中、蹴りをうまく使うスタイルはロニー同様に日本のファンには大ウケしそう。

©Booker K



SENGOKU FEATHER WEIGHT

RONNIE USHIWAKA

ロニー・牛若

生年月日	1986年10月12日
身長/体重	169cm/66kg
出身地	イギリス
所属チーム	チーム・トロージャン

イギリスに本拠地を置くチーム・トロージャンの軽量級トップファイター。16勝1敗1分という圧倒的な戦績もさることながら、決して堅く試合を進めるタイプではなく、試合は超アグレッシブ。コンパクトな打撃、鋭いタックル、ポジションにこだわらないサブミッションを主体とした寝技。強さだけでなく試合のおもしろさも兼ね備えた選手。誰と闘っても攻勝負を展開しそうで、日本人好みのタイプだと言える。

©WVR

SENGOKU FEATHER WEIGHT

JUNG CHAN SUNG

ジャン・チャンソン

生年月日	1987年3月17日
身長/体重	175cm/70.0kg
出身地	韓国
所属チーム	CMA KOREA KTT

韓国合気道と言われるハップキドーをベースに、キックボクシングを学んだあと、総合格闘家としてデビューをはたす。総合ではパンクラスKOREAのトーナメント優勝を皮切りに、さまざまな大会で優勝。日本で闘ったグラジエーターの小見川道大戦、DEEPでの孫煌進戦では長いリーチを活かした打撃と回転力あるパンチで2連勝を収めている。組み技にはやや難があるが、得意の打撃で試合を進められればチャンスも増える?



SENGOKU FEATHER WEIGHT

NICK DENIS

ニック・デニス

生年月日	1983年10月11日
身長/体重	170cm/65kg
出身地	カナダ
所属チーム	Ronin MMA

現KOTC王者で格闘技のバックボーンは幼少期に学んだテコンドーや空手で、大学入学後にRonin MMAに入門。ここから総合格闘家としてのキャリアをスタートさせる。柔術・総合格闘技の師匠であるファビオ・ホランダは元ブラジリアン・トップチームで、あのUFC世界ウェルター級王者ジョルジュ・サンピエール、パトリック・コーテらにも指導した名伯楽である。戦績はまだ6戦ながら、キャリア以上の実力の持ち主だ。





NEW戦極GIRLがついに決定! 新メンバーはこの5名だ!!

『戦極』のラウンドガール、通称「戦極GIRL」の新メンバーが決定した。総数387名の中から厳正なる審査の結果、選ばれたのがこの5名。右から荒井菜々緒(あらいななお)、佐久間ゆい(さくまゆい)、有稀サナ(ゆうきさな)、相川友希(あいかわゆうき)、西垣梓(にしがきあずさ)。ちなみに、西垣梓さんはなんとミス・ユニバース・ジャパン2008のファイナリストだ。フェザー級GPももちろんだけど、戦極GIRLも見逃すな!



SENGOKU FEATHER WEIGHT

SHINTARO ISHIWATARI

石渡伸太郎

生年月日	1985年2月21日
身長/体重	169cm/65.0kg
出身地	大阪府
所属チーム	GUTSMAN・修斗道場

廣田瑞人を擁するGUTSMAN・修斗道場の所属。柔道をバックボーンに持ちながら、試合ではスタンドでの打撃が武器。とくにサウスポーでどっしりとした構えから繰り出す左ストレート、左ハイキックは威力抜群。お互いフラフラになりながら打ち合った末のKO勝利や腕十字を仕掛けた相手をバスター一発で失神させるなど、試合のインパクトは大だ。スリリングではあるものの、乱打戦に持ち込んだ方が強さを発揮する。

SENGOKU FEATHER WEIGHT

NAM PHAN

ナム・ファン

生年月日	1983年3月13日
身長/体重	167cm/70.5kg
出身地	アメリカ
所属チーム	Apex jiujitsu/Ma Du

アメリカ在住のベトナム系移民。『Dynamite!!USA』でJ.Z.カルバンに敗れたイメージが強いが、14勝5敗の戦績を誇る実力者。ベトナムの伝統空手とレスリングをベースに持ち、さまざまなグラップリングの大会で活躍。桜庭和志、佐藤ルミナ、宇野薫といった日本人ファイターを好んでおり、実際の試合でもアグレッシブな動きでサブミッションを狙っていく。アジア系、そして一本勝ちを狙うファイトスタイルはオススメ!



観たいと思わせる選手! イギリスをはじめとするヨーロッパ諸国のケージファイトを主戦場にしているロニーだが、ケージファイターにしては珍しく、打・投・極の回転力で勝負するタイプで、イギリスの所英男といった感じ。「日本ではマイナーだけど、よくここまで日本受けしそうな選手を見つけてきたよ!」と唸ってしまう。『kamipro』読者はこの興奮がわかります??

そんな外国人選手たちに立ち向かう日本人選手は現在のトップ選手というよりも、これからを担う選手たち。これまでPRIDEやUFCで闘ってきた小見川、そしてフェザー級のエース格とみなされている日沖こそTKO世界フェザー級のベルトを保持し、海外での実績を残している選手だが、アライケンジを下して参戦を決めた金原はリトアニアで外国人選手と二度対戦経験があるのみ。〝スーパー高校生〟山田は今回がパウンドありでの総合格闘技はデビュー戦で〝パンクラスの超新星〟川原もvs外国人は初。この大会が本格的なvs世界を見据えた闘いとなる選手が多い。

DREAMが現行のトップがどれだけ世界に通用するかだとすれば、『戦極』はこれからも日本が世界を相手に闘っていけるのかどうか。それぞれの試合に見どころはあれど、「日本人がどれだけ生き残れるのか?」というのが絶対的なテーマとなるシビアな試合が並ぶことになるだろう。

開幕戦からいきなりオール・オア・ナッシング。外国人選手の強さとおもしろさが目立つのか。それとも日本人選手に希望の光が見えるのか。『戦極』を楽しむにはそれを見届ける覚悟が必要だ。

今日は、かなり異次元の初顔合
すい」とかあるじゃないですか（笑）。
も、成立しなかった気がします。



系”対談‼
須藤元気×マッスル坂井

なぜだ!? 異端の同い年二人が、まさかの初遭遇!!

マット界異次元“文

「“文系スポ根”の傑作です！」とマッスル坂井が絶賛した須藤元気の初小説作品『キャッチャー・イン・ザ・オクタゴン』。これをきっかけに、同い年ながら、マット界でも独特の立ち位置かつ両極端なベクトルの二人がまさかの初遭遇！　いったい何が飛び出すのか？

聞き手／真下義之　撮影／タイコウクニヨシ　大会撮影／平工幸雄（『マッスル』）、乾晋也（『Dynamite!!』）

——今日は、かなり異次元の初顔合わせが実現しました。

元気&坂井　よろしくお願いします。

——この不思議な対談のきっかけは、坂井さんが元気さんの格闘技小説（『キャッチャー・イン・ザ・オクタゴン』幻冬舎）を読まれて、「文系スポ根の傑作！」と絶賛されたことなんですね。

元気　ありがとうございます。

坂井　いままでの本も読ませていただいてたんですけど、小説は初めてなのに、「こんなにおもしろく書けるのか！」と衝撃を受けまして。

元気　いやいや（照れながら）。

坂井　しかも、全編に須藤さんの考えや信条も入ってますよね。

——「一流の人の側にいると、自分もだんだん一流になる」とか。

坂井　あと、試合のプレッシャー克服法とかもリアルに書かれてて。主人公がアメリカの格闘技団体で試合するとき、大会数日前に何をするわけでもなく、会場の前をぐるぐる回ったり。「こんなことするんだ？」って。ホントにやられたんですか？

元気　やりましたね。全然知らない会場ってアウェーですよね。ホテルにいると試合のことばかり考えてしまいますから、周りをぐるぐる回ったり、会場のどこにトイレがあるか確かめたり、客席に座って会場を知ることで、リラックスするというか。ビジネスの交渉も「よく知ってる場所にしろ」とか。デートも「なじみの店に行ったほうが、くどきやすい」とかあるじゃないですか（笑）。

坂井　確かにありますね（笑）。

元気　物事をうまく進めなければいけないときは極力、自分のなじんだ場所でやるのを心がけてます。

坂井　こんなこと言ったら失礼ですけど……。ホント、友だちの話を聞いてるような感じがします（笑）。

——ワハハハハ！　元気さんは、坂井さんの活動はあまりご存知ないと思うんですけど、以前から坂井さんはシンパシーを感じられてたみたいなんで。

坂井　しかも、同学年なんですよ！

元気　じつは、同い年なんですね。

坂井　でも、僕なんかやっと雑誌に載れるようになってきたのに、須藤さんは、すでにリングを下りてるじゃないですか？　それが凄いし、引退のタイミングも絶妙でしたし。純粋に「格闘技でやりたいことが終わっちゃった」感じだし、あと格闘技界の環境も関係あるのかな、と。

元気　少なからずありましたね。僕は格闘技ブームの時勢に乗れたから、僕みたいな身体のサイズでも注目されたけど、5年早くても遅くても、成立しなかった気がします。

——ジャストタイミングでしたか。

元気　物事はどんなものも導入期、成長期、成熟期、衰退期というサイクルがあるんです。つまり〝春夏秋冬〟ですね。日本は、導入期がヒクソン（・グレイシー）の登場で、僕は修斗やパンクラスが盛り上がった〝成長期〟にデビューできた。当時は、上りエスカレーターに乗ってるようなもんですから自分で昇らなくても、勝手に上がってくれましたし。

坂井　それはラクそうですね（笑）。

元気　いまは「格闘技に元気がない」とか言われて、下りのエスカレーターを昇ってるような状況で、全力で走らないと上に行けないので、これから出てくる選手にはより頑張ってもらいたいです。

——そのへんを最初に感じたのは？

元気　失礼な話ですけど、03年の大晦日に日テレ、TBS、フジテレビで格闘技を同時にやったときに、「ここが全盛期かな？」と思ってしまったんです。Jリーグも人気が出たときは凄かったけど、あそこまで一気に持ち上げると、下るときはガクッと下がってしまう。それを反面教師にして格闘技は徐々に上げていけばよかったんですが、3局同時にやった時点でトゥー・マッチかな、と。

——なるほど。坂井さんは、そんな元気さんを「トンデモっぽく言われるけど、おかしな環境にニュートラルな人がいるから、そう見える。誰よりもニュートラルなんじゃないか」と分析されてました。

坂井　だから「どういう人なんだろう？」ってホントに不思議でしょう

マッスル坂井絶賛！　須藤元気の初小説『キャッチャー・イン・ザ・オクタゴン』とは？



08年11月。須藤元気、初の小説作品として幻冬舎から出版。普通の高校生がレスリング部に入部。プロ格闘家としてアメリカでデビューするまでを軽妙なタッチで描いた作品。マッスル坂井の言う“文系スポ根”的青春小説だ。



僕は、普通ではないと思いますが、自然だとは思いますよ

系"対談!!

がなかったんですよ。

元気 ま、普通ではないと思いますけど、自然だとは思いますよ(笑)。

坂井 あのう……、友だちともそんな丁寧な感じでしゃべってるんですか？

元気 基本、敬語ですよね。友だち同士でも敬語で話したりします。

坂井 ああ、わかります。僕も友だちに敬語を使いますから(笑)。

元気 最初は冗談っぽく、「そうですよね」とか言ってたら、あっちも「やはりそうですか」とか言いだしちゃって(笑)。

——ワハハハハハ！

坂井 それって、東京の私立高校のノリなんですか？

元気 高校じゃなく、小さい頃からの地元の友だちですね。「キャバクラ、1(時間)だけ行きますか？」「そうですね。1だけですよ」とか(笑)。俗っぽいことを敬語で話すという振り幅をつけると、会話がくだらなくても引き立つんです。人間の魅力は、そういう振り幅だと思いますから。

坂井 そういうのも普通は企業秘密じゃないですか。そこをサラリと言っちゃうところが凄いし、素直な方なんだなと思いますね。

——あと、元気さんの本は言葉の使い方がおもしろいですね。突然、謎のギャグが入ったり。

坂井 いい意味で、「読者のことをバカにしてるんじゃないかな」って。それに、絶対に性格はそんなによくないハズなんですよ！

——何を言いだすんですか(笑)。

元気 フォローするわけじゃないけど、性格はいいと思います(笑)。でも、「バカにしてる」って表現は意外に近いかもしれない。小説では、いい意味で遊んでる部分もありますし。坂井さんに見抜かれているのは、僕は自分を凄くマトモだと思ってるんです。ただ、マトモだけどマトモじゃないアプローチもできる。そこが強みだと思ってるんです。でも、もともとマトモじゃない人って、おもしろいじゃないですか。

——ミノワマンさんのような、最初から突き抜けている人ですね。

元気 ただ、突き抜けすぎると「成立しない」こともあるんです。振り幅もつけにくいし、好きな人と嫌いな人に分かれてしまう。でも、自分は普通にもできますし、本を書くときは「コイツ、少し頭おかしいな」と思わせることをあえて入れたりしたりしてるんです。

坂井 で、結果的にプロレスラーの本みたいなムチャな魅力のある本になってるんですよ。この小説の主人公の幼なじみで、示唆的な話をする理論家のリョウくんというキャラは、モデルがいるんですか？

元気 あ、それは自分です。じつは、小説の主要人物である主人公のボク、親友のリョウ、オトボケキャラのゴボウの3人とも自分が持ってる要素なんです。ゴボウみたいなバカもすれば、哲学的なリョウ的な部分もあるし、主人公の弱さも自分です。ただ、書いてると、主人公にどうしても自己愛が出てきて、主人公がドンドン格好よくなってしまうんです。でも、主人公が格好よすぎると、読者が引くんですね。主人公が格好悪いほうが好感が持てますから。

坂井 『柔道部物語』(小林まこと著)も主人公がすぐ強くなって、感情移入しにくくなっちゃいますから。

元気 参考にしてるのはそういったマンガなんです。マンガのようにキャラをハッキリ立たせると、わかりやすいし、読みやすいですから。

坂井 最初に買ったマンガは？

元気 最初は『MASTERキートン』(勝鹿北星原作、浦沢直樹作画、冷戦時代の社会情勢や考古学の世界を描いた作品)だったかな？

坂井 ま、『MASTERキートン』ッ？ 小さいときにそんなの読めたら、"神童"じゃないですか！

すな！」みたいなことを耳もとでさ

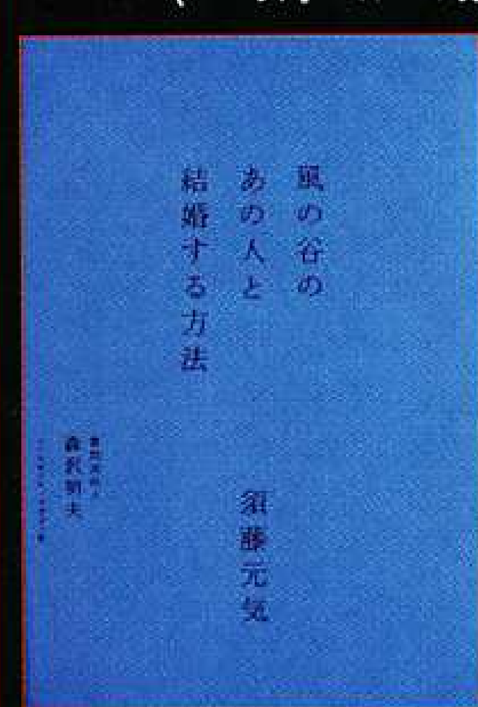
こんなに出てます!! 作家・須藤元気、全作品レビュー

『幸福論』(ネコ・パブリッシング)



05年10月出版。須藤元気の処女作にして、空海の通った四国88ヵ所を巡礼。その経験談を軽妙な筆致で回想し、"幸福"に想いをはせた初エッセイ。道中の写真は本誌でおなじみ"刺青カメラマン"菊池茂夫氏。

『風の谷のあの人と結婚する方法』(ベースボール・マガジン社)



06年7月出版。2作目にして15万部以上のベストセラーに。エッセイストの森沢明夫氏とのメール書簡を再編集。ライトな内容に突然ギャグが挿入、人生哲学がサラリと披露される小気味いい読後感の代表作。帯の言葉は宮本亜門。

『神はテーブルクロス』(幻冬舎)



07年4月出版。前年末に格闘家引退表明後の初作品。『風の谷の～』の続編的内容だが、3作目だけに文体はより巧みになり、軽妙なギャグも満載。スピリチュアルから、大食漢の友人ミコガイくんまで振り幅ある元気劇場が展開する。

『レボリューション』(講談社)



07年9月出版。四国88ヵ所を巡った『幸福論』のように、革命家チェ・ゲバラの行程を元気が友人イトウくんとたどる中南米旅行記。南米の政治状況から環境問題などにも言及。元気流に精神の"革命"を描いた通算4作目。

07年11月出版。ついにスピリチュアルワールドが全開！ 知的生命体「バシャール」と交信した驚愕の対話集。完全に"あ



いい意味で「読者をバカにしてる」というか、性格はよくないハズです！

マット界異次元"文

元気　『少年ジャンプ』とか『コロコロコミック』も読んでましたけど。確かに『MASTERキートン』は最初、よくわかんなかった。あと『パイナップルARMY』（工藤かずや原作、浦沢直樹作画）とか。

坂井　どれも浦沢直樹じゃないですか！　しかもなぜかよく床屋にあるマンガばかりじゃないですか!!

——何を言ってるんですか（笑）。あと有名な話ですけど、元気さんは初恋の人が『風の谷のナウシカ』のナウシカだとか。

坂井　でも、オタクグループじゃなかったんですか？

元気　端から見たら、そうかもしれないですね。高校1年に『美少女戦士セーラームーン』が凄く好きで、ビデオを毎週録画して、水野亜美ちゃんのグッズを集めてましたし。

——なかなか強者ですね（笑）。

元気　そのほかも、ナウシカとか、『魔女の宅急便』のキキなんか観ると、胸がときめいて「こういう娘がホントにいるんじゃないか？」と、探して旅に行ったり。

坂井　そこで旅に？

元気　ええ。自転車とかヒッチハイクで地方に行ったりしました。よく憶えてるのが、僕は高校教育になじめなくて、高校2年生の中間テストの前日に友だちから『タッチ』（あだち充著）全巻を借りて読んだとき、テストを休んで「南ちゃんを探しに行こう！」と思い立ちまして。

坂井　リアル『南ちゃんを捜せ！』じゃないですか！

元気　東京から種子島まで行って帰ってきて、ヒッチハイクで西東京を一周しましたね。

坂井　それを聞いて、自分は元気さんと大仁田厚さんの共通点を見つけますね。

元気　……僕、あんなに暑苦しいキャラですか？（笑）。

——ワハハハハ！　でも、大仁田さんも高校を3日で辞めて、日本一周徒歩旅行をしてましたね。

坂井　途中で実家が全焼して中止になっちゃうんですけど（笑）。大仁田さんもやりたい放題なイメージなのに、控室ではクールで「いいか、プロレスラーなんて信じちゃダメだ。自分で全部やらなきゃダメだ。人に任すな！」みたいなことを耳もとでささやいたりするんですよ。

——確かに大仁田さんも自分でイメージをコントロールしてるフシがありますし。

坂井　大仁田さんがリングを離れてるタイミングも須藤さんと一緒のものを感じますし。あと、政治への興味ですよね。須藤さんもこの前、拓殖大学大学院の地方政治行政研究科に入られてますけど……。よりによって地方行政ですよ！

——よりによってって（笑）。

坂井　凄く嗅覚が鋭いというか、いま地方は一番アリだと思います！　北海道なんて市議会で定員割れしてるとこもあるらしいので、気合いででたぶん議員になれるかもしれません。それでたぶん○○万円くらいもらえるんですもん！

——よく知ってますね（笑）。

元気　昨年、拓殖大学でレスリングの監督になりまして、どのみち政治の勉強をしていこうと思ってた矢先に、拓殖大学でその科が今期から始まると聞いたので、タイミングもバッチリだったんです。ただ。地方に限らず、世界レベルの政治も興味はあるんです。フラクタル構造は地方も世界も一緒だと思うんで。

坂井　大仁田さんも、政治に興味があるみたいですし。地方も視界に入ってるハズなんですよ！

元気　政治は、高校生から興味はありましたし、ホントは30歳くらいには政治家になっているハズだったんです（笑）。ただ、思った以上に格闘技が楽しかったんで長引いてしまって。

——ちなみに坂井さん、政治は？

坂井　一切、考えたことないですね……。やったらヤバイでしょ！　自分の考えてることって、一般的には正しくない考えだと思うんで、「人に広めたら、ホントはよくないだろう」と。いまの世の中の人たちからは求められてない考え方というか。

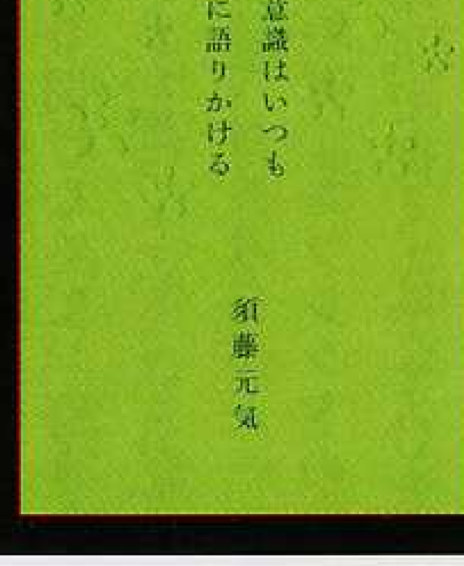
——説明すると、坂井さんが主宰し、

"ウワサの本"をプレゼント！



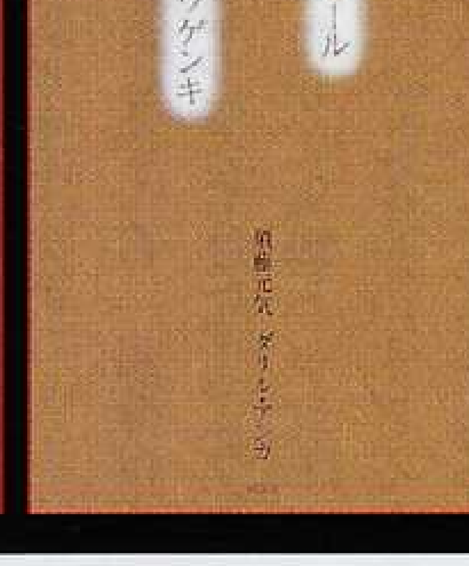
今回の対談のきっかけとなった、須藤元気の初小説作品であり、"文系スポ根"の傑作、『キャッチャー・イン・ザ・オクタゴン』（幻冬舎）を2名様にプレゼント！　詳しくは143ページのプレゼント応募要項を参照ッ!!

『無意識はいつも君に語りかける』
（マガジンハウス）



08年4月出版。これまでの須藤元気作品に散りばめられた人生哲学や元気語録を再編集。いつもの元気ギャグがそぎ落とされたシンプルな本作だが、だからこそ言葉の本質や芯が剥き出しになった集大成的なメッセージ集。

『バシャール スドウゲンキ』
（ヴォイス）



07年11月出版。ついにスピリチュアルワールドが全開！　知的生命体「バシャール」と交信した驚愕の対話集。完全に"あっち側"と思われがちな内容だが、宇宙存在のバシャールを元気ギャグで押し黙らせるなど、あくまで元気ペースは崩さず！

自分は、元気さんは大仁田さんと共通点があると思いますね

脚本を書いてプロレスラーとしても出演してるプロレス団体の『マッスル』は、大会ごとにファンの賛否両論が多いんです。その極端な反応によく落ち込まれたりしていて。

元気 でも、うらやましいですよ。芸術に賛否両論があるのは、非常に大事ですから。賛否両論あるものは凄く価値があるし、感情を揺さぶっているから意見が分かれるわけで、感情が揺さぶられないものは、賛否両論にならないですからね。

坂井 ……人の言葉にこんなに力があるとは思いませんでした（心酔した表情で）。

元気 坂井さんはアーティストですよね。でも僕は、あまり賛否両論にならないよう「こうしたら、みんな好きだろうな」ってアプローチをして、客観的に読者を喜ばせようという気持ちが強いですから。その反面、ぶっとんでる感は少ないんです。でも、だからこそ作家として成立できたんでしょうし。その中で、「これは、マニアックな人も喜ぶだろう」というスパイスも入れるようにしてますね。入れすぎるとわけわかんなくなりますけど（笑）。

坂井 僕はだいたい入れすぎてわかんなくなりますね（笑）。

元気 芸術家は、多少なりとも壊れてないとおもしろくないですよ。

坂井 大丈夫ですかね？ 相当、壊れてきてる感じがするんですが……。

――坂井さんはいつも悩まれている人なんで、元気さんに悩みを聞いてもらうのがいいんじゃないかな、と。

元気 でも……、その髪型で悩んでるんですか？（笑）。

――ワハハハハ！

坂井 髪型はべつにいいじゃないですか!!（笑）。

元気 悩んでる人は、そこまで髪型で攻めないと思いますけど（笑）。

坂井 いや、一応自分もレスラーとして前に出なくちゃいけないんで。ただ、ホントに最近、凄く人の意見が気になってしまうんです。とくにお客さんの評価と自分の意図してるところのズレが気になってしまって。

――古くからのマッスルファンに批判された大会でも、周囲や知識人の方は評価されたり、意見のギャップが激しいですよね。

元気 「意見は個人的に受け取らない」というクセをつけると生きるのがラクですよ。僕も格闘技でデビューしたときは、インターネットが普及してましたから、凄く悪口を書かれたんですよ。「アイツは格好ばかりで強くない」とか。で、頭にきて自分で書き返したりして。

坂井 えぇっ!! 須藤元気が掲示板に書き込みを!?

元気 やりましたね。「おまえは何を言ってるんだ！ 須藤さんはこの前、巣鴨の交差点でおばあちゃんを二人背負って歩いていたぞ！ 心も身体も相当強い！」とか（笑）。

――ワハハハハ！

元気 ほんの一時期ですけど。「アイツはドライなヤツだ」と書かれると、「須藤さんはベトナム戦争の夢を見て、朝起きたとき涙が出てた、と言っていたぞ！ そのぐらい慈悲ある心の持ち主だ」とか（笑）。意味不明なギャグも入れて、文章力を鍛えようかな、と思って。

――いったい何をしてるんですか（笑）。

元気 でも、そんなことしてもムダですし、意味がないんです。そこから意見を個人的に受け取らないようにしたんです。反面、こういう仕事をやってると、好きな人からは「好き」と言われるんです。で、今度はその言葉に〝溺れちゃう〟んですね。

坂井 ああ〜。凄くわかります！

元気 一人に「好き」と言われると、世界中が「自分のことを好き」って勘違いしちゃうけど、錯覚なんです。逆に「嫌いだ」と言われると、「全人類が自分を嫌いなんじゃないか」と錯覚してしまう。でも意見って、その人の主観でしかないし、個人的に受け取ると傷ついたり、溺れたりして平常心を保てなくなる。でも、チャンネルが合わない人は何をやったって嫌いですから。

坂井 そうですよねぇ（感心して）。

元気 それに、言われたことを受け入れると、そういう自己定義ができあがってしまう。「おまえは、ホントに時間にルーズだな」と人に言われたことをマトモに受け入れると、「俺は常に時間に遅れてもいいキャラなんだ」って思い込みますよね。それは他者の定義で、自分を定義しているだけですから。人に何を言われようと、自分の理想を思い描いて行動すれば、自然と理想の自分ができあがるんです。

坂井 ただですね。意外と人の言うこととかあまり聞けなくて。好きな人の言うことしか聞けないというか。

――どっちなんですか！（笑）。

坂井 友だちやガールフレンドのアドバイスは本気で聞くんですけど。でも、そう考えると、「僕はお客さんのことが本当に好きなんだな」って（しみじみと）。

――なるほど。元気さんも人気に溺れた時期ってありますか?

元気 凄いありますよ。「自分は人気者だ」って思ってましたから（笑）。K−1のときとか、入場パフォーマンスで受けて、そこを狙いすぎるとハズすのもわかってたんですけど、心の中では溺れてましたね。「みんな、絶対にコレを望んでいるハズだ！」とか。表現者は思い込みも大事ですけ

系"対談!!





まっする・さかい■本名、坂井良宏。1977年11月5日生まれ。新潟県新潟市出身。有限会社DDTテック代表、早稲田大学第二文学部在学時にDDTに参加。04年10月に『マッスル』を旗揚げ。お笑いへの進出、短編映画監督など、多彩な才能ぶりが注目を浴びる。対談では、最近対戦した大仁田厚と須藤元気を比較する独自の論説を展開。186cm、120kg。





すどう・げんき■1978年3月8日生まれ。東京都江東区出身。98年に渡米し、総合格闘家としてアメリカでデビュー。パンクラス、UFC、K-1 MAX、『HERO'S』などで活躍。対談でも「自分は人気者だ」と思っていたというド派手な入場とトリッキーな試合スタイルで話題に。06年末に突如引退。引退後は、タレントや作家としてマルチな才能を発揮する。

ど、自分の世界観は崩さないようバランスをとってましたね。

坂井　ただ、こうして須藤さんが格闘技を見つけたのも凄いし、「いま須藤さんが見てるものや、気にしてることって大事なんだろうな」と思いますね。最初にメディアに出たときから、「スピリチュアルや思想に興味がある」と発言をされてましたし。その影響で、僕もマヤ文明とかマヤ占いを気にしてますけど……ちなみに僕はマヤ占いで、〝白い太陽の世界の橋渡し〟という運勢らしいです。

元気　僕は〝赤い月の月〟です。

坂井　えっ！　ホントですか！

元気　……コレ、読者は何言ってるかまったくわからないですよ（笑）。

――確かにまったくわかりません（笑）。

坂井　でも、景気がドンドン悪くなって、スピリチュアルなものが必要とされてますから。本屋でも江原（啓之）さんや細木（数子）さんの本がバンバン売れてますし。で、地方政治も凄く大事な気がしますから。

――いちいち先見の明がある、と。

坂井　凄く「見えてる」感じがします。ただ、須藤さんがどこまで登り詰めるかはわかりませんけど、こういう話をされる方は、たいてい相当ヤバイ人ですよ!!（キッパリ）。

元気　アブナイ人でなくてよかったです！

ネットで悪口を書かれ、頭にきて、書き返したこともありました

坂井　相当、高いところから俯瞰してますね！　凄いところまで駆け上がっていくんだろうな、と。

元気　でも、今後は全世界的に価値観は変わっていくと思いますし、近代合理主義は崩壊しつつありますから。それに、価値観がスプリットしていくでしょうね。

――価値観が分かれていく、と。

元気　ポジティブな人とネガティブな人に分かれていくと思うんです。深く考えたり悩むより、好きなことやワクワクすることに全力を注いで、前向きな気持ちを持ってれば、前向きな現実しかやってこないと思います。そういうポジティブな人とネガティブな人はドンドン接点がなくなっていくと思います。同じ地球上に生きてても、まったく違う人生になってしまう。

マット界異次元〝文

坂井　小説の後半にも似たことが書いてありましたね。この本は超怖いことも書いてあって。「誰もが言いたいことを言い、それを受け取っては傷つくんだ。これを生きていると言えるか。生きているならば、生き地獄だ」とか。さっきのネットの話とも通じますよね。

――主人公が哲学的なカエルに出会う幻想的な場面ですね。

元気　小説として、こういう部分がないと、返しのない釣り針みたいに、読者の心を抜けちゃうんで。

坂井　あと主人公の彼女のセリフで「片面しかないコインは存在しないわ。どちらにフォーカスするかで次の展開は大きく変わるの」。「片面しかないコインは存在しない」とか……。これは、映画『ダークナイト』に出てくる〝トゥーフェイス〟（『ダークナイト』の悪役キャラ。正義感ある地方検事だったが、顔の左半面にやけどを負ったことで、悪の道に進む）と一緒ですよ！

元気　トゥーフェイスですか（笑）。

坂井　「人間は善人にも悪人にもなれる」と、トゥーフェイスを洗脳した悪役・ジョーカーが言ってることと同じです。何が怖いって、元気さんの言葉は、ジョーカーが言ってることとまったく同じなんですよ！

元気　ジョーカーからはネタを引っぱってきてないんですけどね（笑）。

――最後に、元気さんから坂井さんにアドバイスをいただけますか？

元気　いや～。ぜひ一緒に飲みに行きたいな、と（笑）。同い年ですし、いまは敬語ですけど。もっとフレンドリーになれそうだなって。

坂井　僕ももっともっと仲よくなれそうな気がします（笑）。

元気　同い年で、壊れかけの人って興味ありますし。目力もやたら強いし、髪型のアンバランスさも気になります（笑）。

――ワハハハ！　じゃあ、次回は、タメ語の対談をお願いします。

坂井　ええ。一緒に登山なんかしてもいいですし（笑）。

元気　「ちょっと、マッスル！」みたいに呼び捨てにしたりね（笑）。

【09年2月5日／『kamipro』編集部にて収録】



初対面にもかかわらず、意外にもスイングした同い年異次元対談。対談後も、元気が坂井の腕を鷲づかみにするなどノリノリで撮影。はたしてプライベートでも親交は深まるのか？

kamiproの携帯サイト

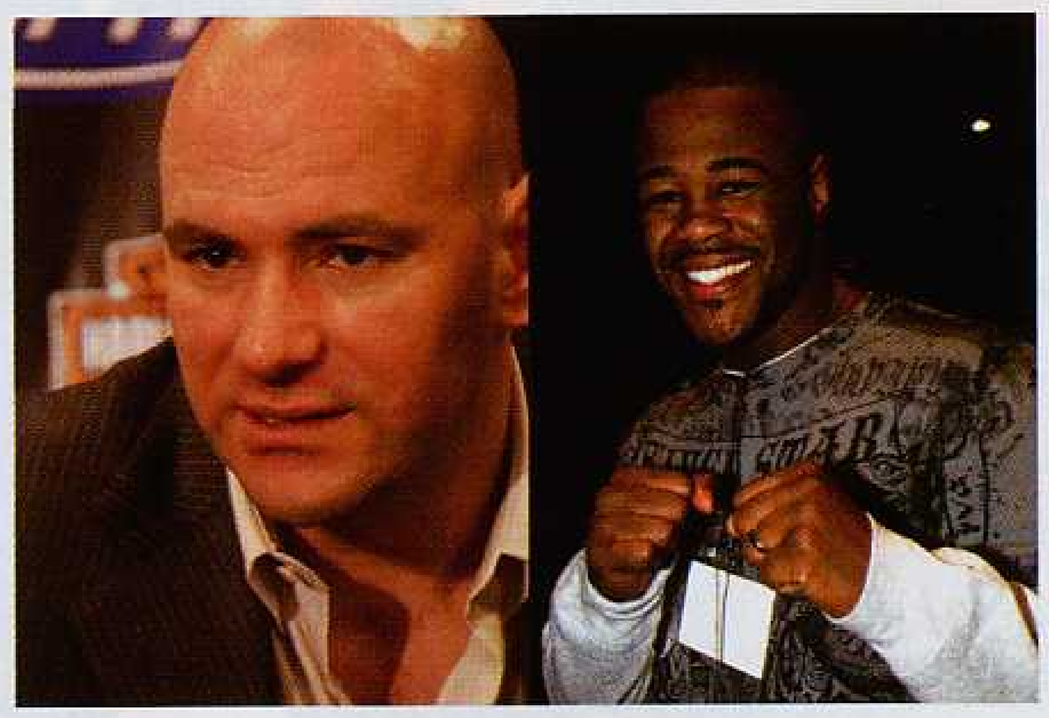
kamiproMove
カミプロムーブ

注目の動画配信中!!

絶賛公開中

UFC代表
ダナ・ホワイト
UFCライトヘビー級王者
ラシャド・エバンス

▶ダナの毒舌を動画でお届け!!



2月23日公開

エメリヤーエンコ・ヒョードル

▶日本のファンに珍しく英語でメッセージ!!





kamipro本誌と連動して"萌え"を動画で配信中

掟ポルシェの萌え萌え女々苑Move

〜女子格闘技『ジュエルス』の石岡沙織が登場〜



毎日ブログも更新中!!

川尻達也 筋肉日記

▶「ラジオに飛び入り参加」



土曜日はなんと! FM熱海湯河原のラジオに参加してきた!! しかも、完全な悪のりの飛び入り(笑)。ホテルを出て熱海駅前のドトールでコーヒーを飲んでると、目の前にラジオブースがあり放送中。小泉先生が明らかな悪のりでスタッフの人に格闘技雑誌を見せアピールしながら交渉。そしたら、あっさりOK(笑)。DREAMをしっかりアピールしてきたよ。聴いててくれた人いたかなぁ(笑)。
(09年1月25日更新分より抜粋)

MIKU 格闘ブロガール

▶「やつ当たり」



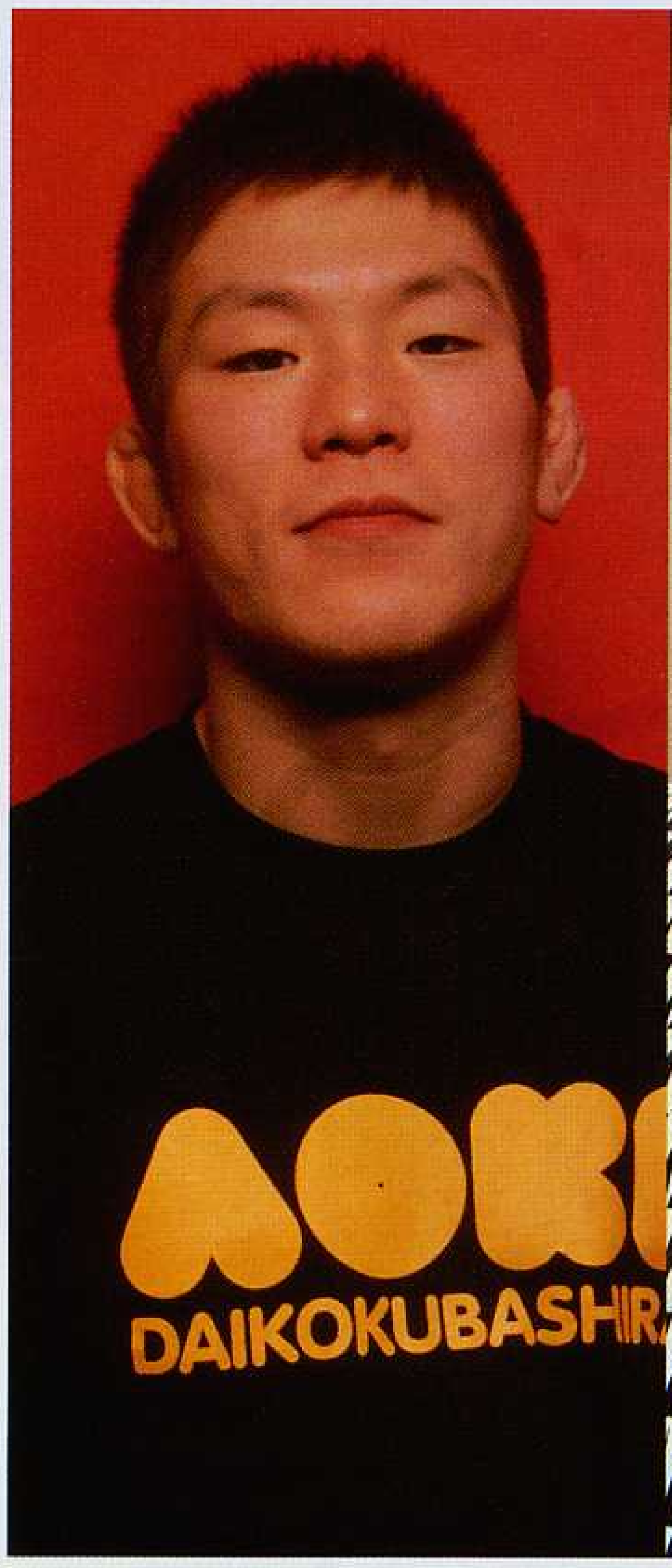
追い込み中は……朝起きた瞬間から地獄です。身体がだるくて痛くて、起きてるだけでしんどい状態。。。だから……といっては言い訳になるんですが。あまり機嫌がよろしくなく、怒りっぽくなってしまいます。そんなときは、家族もあまり私に近寄らず構わず……という感じで。私も極力おとなしく静かにはしてるんですが(-_-+ それでもこのあいだ、やつ当たりをしてしまいました。相手は甘えが出てしまうお母さん。(09年2月3日更新分より抜粋)

アクセス方法				
iモード	iメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技/大相撲
EZweb	EZトップメニュー	スポーツ・レジャー	格闘技	
Yahoo!ケータイ	メニューリスト	スポーツ	格闘技	

サービス利用料 月額315円(税込)

eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 [お問い合わせ] TEL.0570-060-555(代表)

超強力なコラム陣が連載中!!



青木真也
『週刊ワオ木真也』



長南亮
『ピラニアUSA日記』

韓国格闘技最新情報
『韓流MMAニュース』

「昨年11月16日に、ロシアのサンクトペテルブルクで開催されたコマンドサンボ世界選手権で"最強皇帝"エメリヤーエンコ・ヒョードルに勝利したブルガリア最強のサンビスト、イワノフ・ブラゴイ(Ivanov Blagoy、23歳)が1月29日に韓国を訪問。2月2日に大韓サンボ連盟主催の記者会見に出席し、MMAへの転向を公式に宣言した。イワノフは、10歳からサンボを始め、ブルガリア選手権では過去7年間の大会ですべて優勝し、世界大会にも5度出場し、優勝1度、準優勝と3位を経験した世界トップクラスのサンビストだ。今回は韓国のサンビストらにサンボの技術を指導するために訪問した(2月末まで滞在予定)」(09年2月7日更新分より抜粋)



金沢GK克彦
『こちらプロレス村役場ドットコム』



新日本プロレス
『週刊新日本プロレスNOW通信』

原タコヤキ君presents 『mimipro』



カリスマ司会者の原タコヤキ君が毎週多彩なゲストを迎えてお届けするポッドキャスティング番組。ドッキリもあるよ!?

試合結果



注目の試合、重要な大会は細かくお届けしています。写真はもちろん短評も充実! 試合後のコメントもここで読もう!

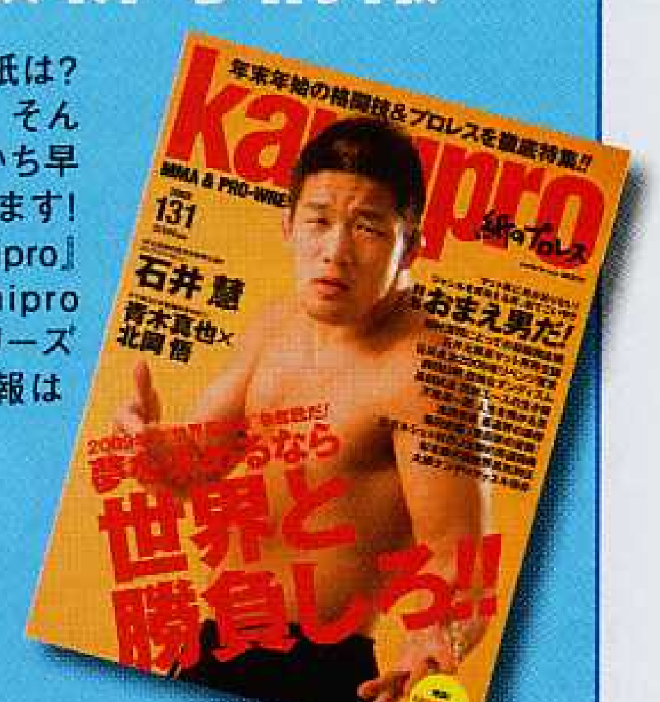
ニュース



カード発表の記者会見や衝撃的な発表など記者会見の内容をいち早くお届けします。また、会見内容もできるだけ詳しくお伝えします!

最新号情報

次号の表紙は? 内容は? そんな疑問にいち早くお答えします! 雑誌『kamipro』およびkamipro booksシリーズの発売情報はこちらで!



このほかにもインタビューや読者プレゼントなど企画満載!



無料です!

プロレス&MMAのニュースサイト

kamipro.com

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

カミプロドットコム

レッツ毎日アクセス http://www.kamipro.com/

kamipro SHOPPING

通販カタログ



マッスル スターウォーズ Tシャツ[☆]
[S・M・L・XL イエロー]¥3,150（税込）



青木フンドシ Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,990（税込）



一、十、百、戦極!! 戦極!! Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,990（税込）



マサ斎藤Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,150（税込）



I編集長“殺し”Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブルー]¥3,990（税込）



“殺し”キャップ
[フリー ネイビー×ホワイト]¥3,150（税込）



ザ・モンスター℃コインケース
[ブラック]¥2,100（税込）



ハッスル軍ニットキャップ
[フリー レッド×グレー]¥3,150（税込）



モンスター軍ニットキャップ
[フリー ホワイト×ラベンダー]¥3,150（税込）



100号記念特製
巨大バスタオル
[タテ132cmヨコ68cm
ブルー×オレンジ]
¥3,150（税込）



ハッスル応援ニットマフラー
[フリー リバーシブル]¥3,670（税込）

『kamipro』通販方法

- 通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
- 全国どこでも送料一律500円です。
  （何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合わせください）
- 代引き手数料は315円です。
  （代引き金額によって異なります）

[問い合わせ]
（株）ダブルクロス TEL.03-5368-1795
（平日13:00〜20:00）

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]
☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです

（単位はcmです）

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24



※価格はすべて税込みです

電話一本でカンタン注文!!

通販専用ダイヤル（平日13:00〜20:00）

TEL.03-5368-1795

お申し込みは（株）ダブルクロスまで!!

[販売元]（株）ダブルクロス

予定は未定な読者プレゼントコーナー

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2009年3月25日(水)以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦誰のグッズが欲しいですか?⑧そもそもプロレス・格闘技のグッズは買いますか?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部
「予定は未定」係まで

※応募締切は2009年3月16(月)当日消印有効

PRESENT*01



サイン入り

1名様

“バカサバイバー”青木真也 使用済みサイン入りグローブ

DREAMの大黒柱・青木真也の血と汗と涙が染み込んだ、打撃練習用のグローブ(刺繍入り)にサインを入れてプレゼント。ほかじゃ絶対入手不可能!

DREAM ■ http://www.dreamofficial.com/

PRESENT*02

1名様



エメリヤーエンコ・ヒョードル サイン色紙

1.24『アフリクション』でアンドレイ・アルロフスキーをKOした皇帝の直筆サイン色紙をプレゼント! 世界最強の色紙をキミの部屋に飾ってみないか?

M-1 ■ http://www.m1mixfight.com

PRESENT*03

1名様



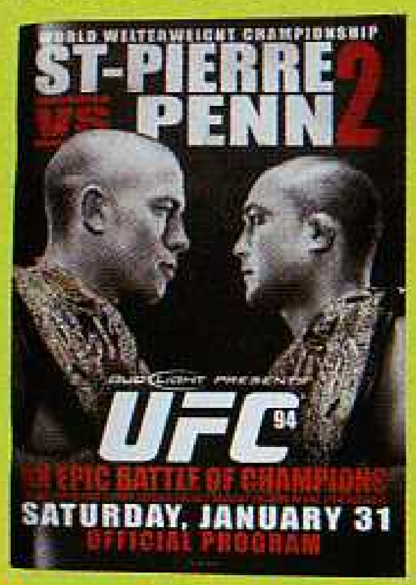
山本"KID"徳郁&W・シウバ ダブルサイン色紙

奇跡的な顔合わせのサイン色紙がこの世に誕生しました。ヴァンダレイ・シウバと山本“KID”徳郁のダブルサインが入ってます。ぜひ応募を!

KRAZY BEE ■ http://krazybee.jp/

PRESENT*04

1名様



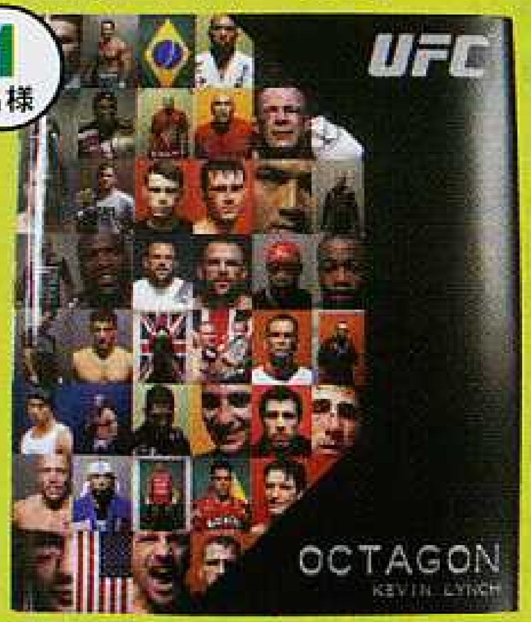
『UFC94 ST-PIERRE vs PENN』大会パンフレット

[ズッファ]

1.31米国ネバダ州ラスベガスで行なわれた『UFC94』この世紀のビッグマッチの興奮をあなたに!! かなりしっかり作られている大会のパンフレットを放出!

PRESENT*05

1名様



UFC写真集『OCTAGON』

[BRADY GAMES／40ドル]

UFCで活躍するトップファイターの素顔に迫るハードカバーの豪華な写真集。試合前と試合後の顔が並べてレイアウトされたりしていてかなりおもしろいですよ。

UFC ■ http://www.ufc.com/

PRESENT*06

1名様



ヴァンダレイ・シウバ WAND Tシャツ

[WAND／20.43ドル]

ヴァンダレイ・シウバが展開するアパレルブランドWANDから出た黒いロゴTシャツ。サイズはL。これを着て、両手を組んでグルグルと回そう!

W・シウバオフィシャルサイト ■ http://www.wanderleisilva.com.br/

PRESENT*07

1名様



WECロゴTシャツ

[ズッファ／非売品]

こちらはUFCと同じズッファ社の軽量級に特化したイベントWECのロゴ入りTシャツ。胸には配置されたロゴが力強く主張する。サイズはL。

WEC ■ http://www.wec.tv/

PRESENT*08

1名様



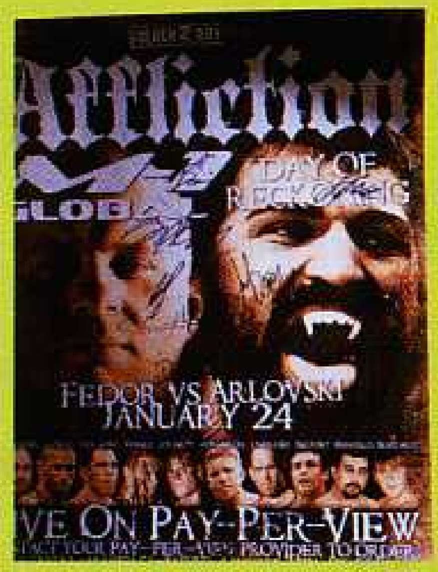
アフリクションM-1 Tシャツ

[アフリクション／非売品]

あの石井慧が2月3日、節分の豆まきのときに着ていたアフリクションTシャツはこれだ!! M-1とアフリクションのロゴが入ったTシャツ。サイズはM。

PRESENT*09

1名様



サイン入り

1.24『アフリクション』サイン入りポスター

[非売品]

アフリクションの出場選手に大会ポスターにサインを入れてもらいました。主要選手のサインが入ってますので、当選したら確認してみてください!

アフリクション ■ http://www.afflictionclothing.com/

PRESENT*10

1名様



ハッスルお守り

[ハッスル／価格未定]

ハッスルのロゴと高田総統が入った素晴らしいお守りをプレゼント! 現在はどこで入手できるかハッスルスタッフに聞いても不明なので、こちらでゲット!

PRESENT*11

1名様



サイン入り

ボノくんサイン入り 5XL特大Tシャツ

[ハッスル／非売品]

ボノくんが着用するために作成された『ハッスル・マニア2008』大会記念Tシャツ。なかなか着られる人もいないかとは思いますが、縁起物ということでぜひ!

ハッスル ■ http://www.hustlehustle.com/

PRESENT*12

1名様



ライガーデビュー20周年 記念Tシャツ(歴代マスクver.)

[新日本プロレス／3,000円(税込)]

獣神サンダー・ライガーのデビュー20周年を記念したTシャツ。歴代のマスクがイラスト化されたぜひとも手に入れたい逸品です。サイズはL。

PRESENT*13

1名様



テンコジTシャツ

[新日本プロレス／3,500円(税込)]

友情の絆で固く結ばれた天山広吉と小島聡のタッグチーム・テンコジがTシャツに。世界一泣かせるタッグチームの世界一泣かせるTシャツ! サイズはL。

新日本プロレス ■ http://www.njpw.co.jp/

kamipro132応募券
「未定」

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

kamipro 紙のプロレス
No.132
2009年3月7日 発行

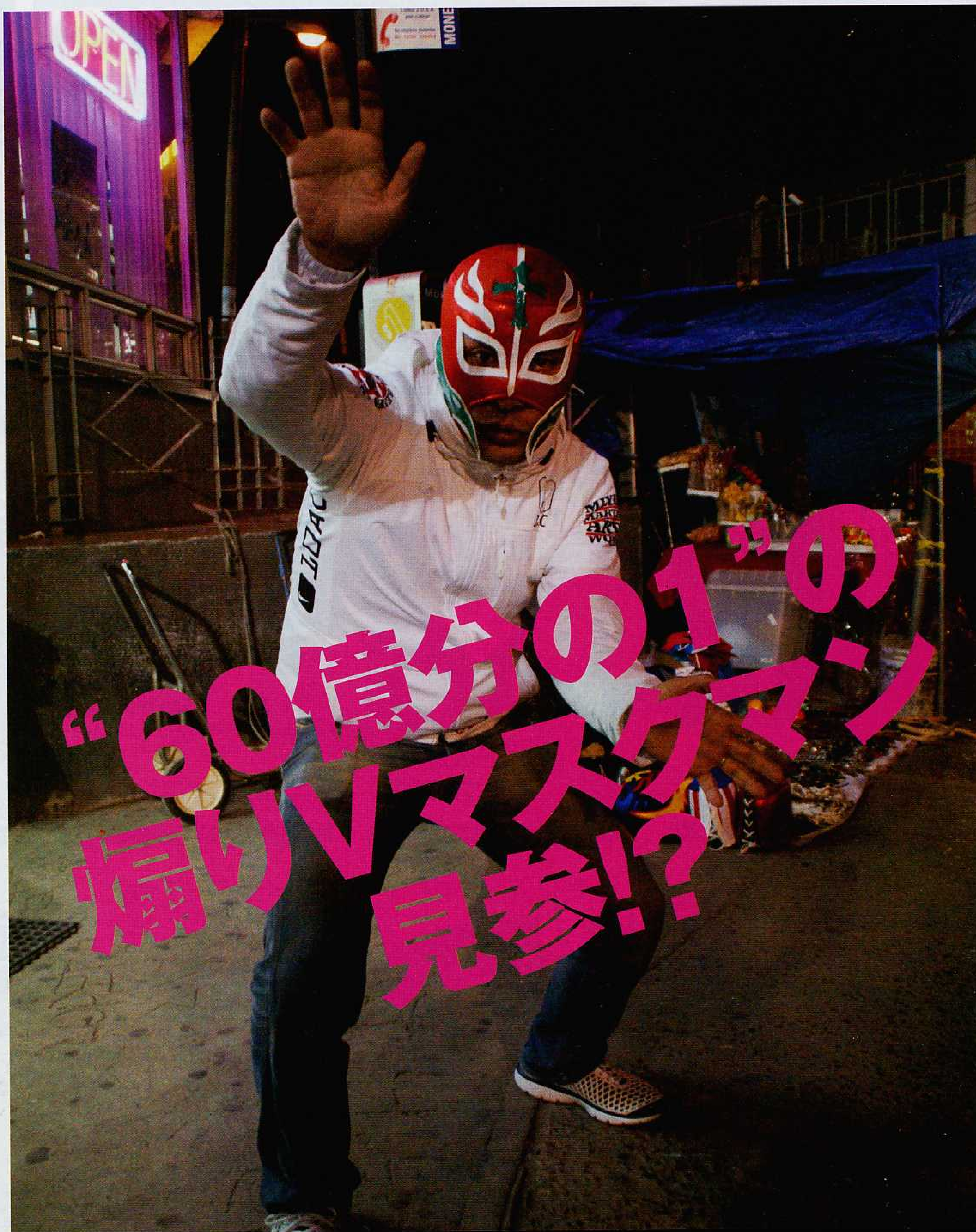
発行人
浜村弘一
編集人
斉藤慎一
編集統括本部長
ジャン斉藤
編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎（資金調達のため非番）
終身名誉バイザー
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
能登“読者ペイジ”ジャクソン
疾走する高橋くん
編集次長（暗黒面堕ち?）
松林 貴
デザイン大将
出田さん（TwoThree）
デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）
デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木みのる（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）
カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
丸山剛史
お勘定
工藤ちゃん
もうすぐ出ます
入江ふきのとう（TwoThree）
雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠
助っ人営業
上野宏樹
業務部
榎本“試し刷り”義之
編集庶務
原 正典
山内ユリコ
終身名誉編集庶務
高木由美子
編集チアガール
金川“潰し屋”奈津子
宮沢美奈
編集チアマダム
廣橋“スーチョワン”久美子
発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）
印刷
図書印刷株式会社
協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン
スポーツ企画編集部 ☎03-3265-7166

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00～17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

■個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL: http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。



NEXT ISSUE

2.15新日本両国大会レポートをはじめ、
丸ごと一冊プロレス大特集!

kamipro Special 2009 APRILは3月3日（火）発売予定!

3.8『DREAM.7』徹底詳報!!
3.20『戦極～第七陣～』直前特集!!

No.133は3月23日（月）発売予定!

※地域によっては多少発売が遅れるぜ、ベイベー!

業協会加盟

kamipro 2009 132
元世界最高峰の国はどこへ向かうのか?
日本ってなんだっけ?
2009年3月7日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤慎一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本／図書印刷株式会社



9784757747241
特別定価：本体895円＋税
雑誌 61956-99 Ⓗ2009.6
Printed in Japan 図書印刷株式会社

ISBN978-4-7577-4724-1
C9476 ¥895E
1929476008954
eb! enterbrain

kamipro

2009 132

元世界最高峰の国はどこへ向かうのか?

日本ってなんだっけ?

2009年3月7日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤信一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain

kamipro

2009 132

日本ってなんだっけ?

enterbrain